MITSUBISHI ELECTRIC

グラフィックオペレーションターミナル

GOT2000シリーズ

本体取扱説明書(ユーティリティ編)

● 安全上のご注意 ●

（ご使用前に必ずお読みください）

本製品のご使用に際しては，本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に，安全に対して十分に注意を払って，正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。
本マニュアルで示す注意事項は，本製品に関するもののみについて記載したものです。
この●安全上のご注意●では，安全注意事項のランクを「警告」,「注意」として区分してあります。

⚠警告	**取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。**
⚠注意	**取扱いを誤った場合に，危険な状況が起こりえて，中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。**

なお，⚠注意に記載した事項でも，状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。
いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に，必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

【設計上の注意事項】

⚠警告

● GOT，通信ユニット，ケーブルの故障によっては出力が ON し続けたり，OFF し続けたりすることがあります。
タッチパネルの故障によっては，タッチスイッチなどの入力オブジェクトが誤動作することがあります。
重大な事故につながるような出力信号については，外部で監視する回路を設けてください。誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。

● GOT は，重大な事故の原因となるような警告装置として使用しないでください。
重要な警告を表示したり，警報を出力するような装置は，独立して冗長性があるハードウェアまたは，機械的なインタロックにより構成してください。誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。

● GOT のバックライトが故障した場合，下記の状態となります。誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。
・GT27，GT25：
GOT のバックライトが故障すると，POWER LED が点滅（橙色，青色）し，表示部が暗くなり，タッチスイッチの入力は無効となります。
・GT21　　：
GOT のバックライトが故障すると，表示部が暗くなり，タッチスイッチの入力は無効となります。
GOT の液晶部で表示部が暗くなっていても，タッチスイッチの入力が有効なままになっている場合がありますので，タッチスイッチの誤操作につながる恐れがあります。
たとえば，操作者がスクリーンセーブ状態と間違えて，スクリーンセーブを解除しようと表示部をタッチすると，タッチスイッチが動作する恐れがあります。
GOT がバックライトの故障を検知した場合は，GOT のシステム信号で確認することができます。

● GOT の表示部はアナログ抵抗膜方式です。
表示部を同時に押した場合，誤出力，誤動作により，事故の可能性が有ります。
・GT27　　：
表示部を同時に 3 点以上押さないでください。同時に 3 点以上押した場合，誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。
・GT25，GT21：
表示部を同時に 2 点以上押さないでください。同時に 2 点以上押した場合，押した点の中心付近にスイッチがあると，そのスイッチが動作することがあります。
同時に 2 点以上押した場合，誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。

● GOT でモニタしている接続機器（シーケンサなど）のプログラムやパラメータなどを変更したときは，すみやかに GOT のリセット，または電源断後，再投入してください。誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。

【設計上の注意事項】

⚠警告

● GOT でモニタ実行時，通信異常 (ケーブル抜けも含む) が発生すると GOT とシーケンサ CPU の通信が中断され，GOT は動作不能となります。
・バス接続時　　：シーケンサ CPU がダウンし，GOT 操作不能
・バス接続以外時：GOT 動作不能
GOT を使用するシステム構成は GOT の通信異常時を想定して，システムに対する重大な動作を行うスイッチについては GOT 以外の装置により行うシステムを構成としてください。
誤出力，誤動作により事故の恐れがあります。

【設計上の注意事項】

⚠注意

● 制御線や通信ケーブルは，主回路や動力線などと束線したり，近接したりしないでください。100mm 以上を目安として離してください。
ノイズにより，誤動作の原因になります。

● GOT の表示部をペンやドライバなど，先の尖ったもので押さないでください。破損，故障の原因になります。

● GOT を Ethernet に接続して使用する場合，システム構成によって使用できる IP アドレスに制約があります。
・Ethernet ネットワークに複数台の GOT を接続する場合：
　GOT および接続機器に対して，IP アドレス (192.168.3.18) を設定しないでください。
・Ethernet ネットワークに GOT を 1 台接続する場合：
　GOT 以外の接続機器に対して，IP アドレス (192.168.3.18) を指定しないでください。
上記のシステム構成で IP アドレス (192.168.3.18) を設定すると，GOT 起動時に IP アドレスの重複が発生し，IP アドレス (192.168.3.18) を設定している機器の通信に悪影響を与える場合があります。
IP アドレス重複時の動作は機器，システムに依存します。

● 接続機器およびネットワーク機器は，GOT と接続する前に電源を ON して通信可能な状態にしてください。
接続機器，通信経路が通信可能な状態になっていない場合，GOT で通信エラーが発生する場合があります。

● GOT が振動や衝撃を受けた場合，または，GOT に特定の色を表示させた場合，GOT の画面にちらつきが発生するときがあります。

【取付け上の注意事項】

⚠警告

● GOT 本体を盤に取付け，取外す場合は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。
全相遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。

● 通信ユニット，オプションユニットを GOT に着脱する場合は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。
全相遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。

【取付け上の注意事項】

⚠注意

● GOT は，本書に記載の一般仕様の環境で使用してください。
一般仕様の範囲以外の環境で使用すると，感電，火災，誤動作，製品の損傷あるいは劣化の原因になります。

● GOT を盤に取付け時，取付けネジの締付けは，プラスドライバ No.2 にて以下の規定トルク範囲で行ってください。
・GT27，GT25：
規定トルク範囲 (0.36N・m ～ 0.48N ・m)
・GT21　　：
規定トルク範囲 (0.20N・m ～ 0.25N・m)
取付けネジの締付けがゆるいと，落下，短絡，誤動作の原因になります。
取付けネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による落下，短絡，誤動作の原因になります。

● GOT にユニットを装着するときは，以下の規定トルク範囲で締付けてください。
・GT27，GT25：
GOT に，無線 LAN 通信ユニット以外の通信ユニットまたはオプションユニットを装着するときは，GOT の拡張インタフェースに装着し，取付けネジをプラスドライバ No.2 にて規定トルク範囲 (0.36N・m ～ 0.48N・m) で締付けてください。
GOT に無線 LAN 通信ユニットを装着するときは，GOT の側面インタフェースに装着し，取付けネジをプラスドライバ No.1 にて規定トルク範囲 (0.10N・m ～ 0.14N・m) で締付けてください。
縦置きに設置した場合，側面インタフェースは下部に配置されます。
側面インタフェースから無線 LAN 通信ユニットが落下しないように，無線 LAN 通信ユニットを手で支えて着脱してください。
・GT21　　：
GOT に SD カードユニットを装着するときは，GOT の側面に装着し，タッピングネジをプラスドライバ No.2 にて規定トルク範囲 (0.3N・m ～ 0.6N・m) で締付けてください。
取付けネジの締付けがゆるいと，落下，故障，誤動作の原因になります。
取付けネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による落下，故障，誤動作の原因になります。
● USB 耐環境カバーを閉じる場合は，保護構造を確保のため，[PUSH] の箇所をしっかり押し込んで GOT に固定してください。

● 保護フィルムをはがしてお使いください。
貼り付けたままご使用になりますと，はがれなくなる恐れがあります。
また，人感センサ機能が装備されている機種は，保護フィルムをはがさずに使用すると，人感センサが正しく動作しない可能性があります。

● 直射日光の当たる場所や，高温，粉塵，湿気もしくは振動の多いところで使用および保管しないでください。

● GOT を，油，薬品のある環境で使用する場合は，耐油カバーを使用ください。
耐油カバーを使用しないと，油，薬品の浸入による，故障，誤動作の原因になります。

【配線上の注意事項】

⚠警告

● 配線作業は，必ずシステムで使用している外部供給電源を全相遮断してから行ってください。
全相遮断しないと，感電，製品の損傷，誤動作の恐れがあります。

【配線上の注意事項】

⚠注意

● GOT 電源部の FG 端子および LG 端子は，GOT 専用の D 種接地 (第三種接地) 以上で必ず接地を行ってください。
感電，誤動作の恐れがあります。(LG 端子は GT21 にはありません。)

● 端子ネジ締めはプラスドライバ No.2 を使用してください。

● GOT 電源部の空き端子ネジは必ず，以下の規定トルク範囲で締付けてご使用ください。
・GT27，GT25：
規定トルク範囲 (0.5N・m ～ 0.8N・m)

● GOT 電源部への電線の端子処理は，以下の端子を使用してください。
・GT27，GT25：
電線の端末処理は，適合圧着端子を使用し，規定のトルクで締付けてください。
先開形圧着端子を使用すると，端子ネジがゆるんだ場合に脱落し，故障の原因になります。
・GT21　　：
電線の端末処理は、より線や単線をそのまま処理するか、絶縁スリーブ付棒端子を使用してください。

● GOT 電源部への配線は，製品の定格電圧および端子配列を確認した上で正しく行ってください。
定格と異なった電源を接続したり，誤配線をすると，火災，故障の原因になります。

● GOT 電源部の端子ネジの締付けは，以下の規定トルク範囲で行ってください。
・GT27，GT25：
規定トルク範囲 (0.5N・m ～ 0.8N・m)
・GT21　　：
規定トルク範囲 (0.22N・m ～ 0.25N・m)
端子ネジの締付けがゆるいと短絡，誤動作の原因になります。
端子ネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による短絡，誤動作の原因になります。

● ユニット内に，切粉や配線クズなどの異物が入らないように注意してください。火災，故障，誤動作の原因になります。

● ユニットは，配線時にユニット内へ配線クズなどの異物が混入するのを防止するため，ユニット上部に混入防止ラベルを貼り付けています。
配線作業中は，本ラベルをはがさないでください。
システム運転時は，放熱のために本ラベルを必ずはがしてください。

● 通信ケーブルは，GOT のインタフェースまたは GOT に接続するユニットのコネクタに装着し，取付けネジおよび端子ネジを規定トルク範囲で締付けてください。
取付けネジおよび端子ネジの締付けがゆるい，と短絡，誤動作の原因になります。
取付けネジおよび端子ネジを締めすぎると，ネジやユニットの破損による短絡，誤動作の原因になります。

● QnA/ACPU/ モーションコントローラ (A モード用) バス接続ケーブルは，接続するユニットのコネクタに " カチッ " と音がするまで挿入し，装着してください。装着後に，浮き上がりがないかチェックしてください。
浮き上がりがある場合，接触不良により，誤動作の原因になります。

【テスト操作時の注意事項】

⚠警告

● ユーザ作成モニタ画面のテスト操作 (ビットデバイスの ON/OFF ，ワードデバイスの現在値変更，タイマ，カウンタの設定値・現在値変更，バッファメモリの現在値変更) の操作はマニュアルを熟読し，操作方法を十分理解した上で行ってください。
また，システムに対する重大な動作を行うデバイスに対しては絶対にテスト操作でデータ変更を行わないでください。
誤出力，誤動作により事故の原因になります。

【立上げ・保守時の注意事項】

⚠警告

● 通電中に端子に触れないでください。
感電の原因になります。

● バッテリコネクタは正しく接続してください。
バッテリに対し，下記の行為を行わないでください。
・充電，分解，加熱，火中投入，短絡，ハンダ付けなど
バッテリの取扱いを誤ると，発熱，破裂，発火などにより，ケガ，火災の恐れがあります。

● 清掃や端子ネジの増し締めは，必ず電源を外部にて全相遮断してから行ってください。
全相遮断しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。
ネジの締付けがゆるいと短絡，誤動作の原因になります。
ネジを締め過ぎると，ネジやユニットの破損による短絡，誤動作の原因になります。

⚠注意

● ユニットの分解，改造はしないでください。
故障，誤動作，ケガ，火災の原因になります。

● ユニットの導電部分や電子部品には直接触らないでください。
ユニットの誤動作，故障の原因になります。

● ユニットに接続するケーブルは，必ずダクトに納めるまたはクランプによる固定処理を行ってください。
ケーブルをダクトに納めなかったり，クランプによる固定処理をしていないと，ケーブルのブラツキや移動，不注意の引っ張りなどによるユニットやケーブルの破損，ケーブルの接触不良による誤動作の原因となります。

● ユニットに接続されたケーブルを取りはずすときは，ケーブル部分を手に持って引っ張らないでください。
ユニットに接続された状態でケーブルを引っ張ると，ユニットやケーブルの破損，ケーブルの接触不良による誤動作の原因となります。

● ユニットは落下させたり，強い衝撃を与えないでください。
ユニット破損の原因になります。

● ユニットに装着するバッテリには，落下・衝撃を加えないでください。
落下・衝撃によりバッテリが破損し，バッテリ液の液漏れがバッテリ内部で発生する恐れがあります。
落下・衝撃を加えたバッテリは使用せずに廃棄してください。

● ユニットに触れる前には，必ず接地された金属などに触れて，人体などに帯電している静電気を放電してください。
静電気を放電しないと，ユニットの故障や誤動作の原因になります。

● バッテリは，当社製バッテリをご使用ください。当社製以外のバッテリを使用すると火災や破裂の可能性があります。

● 使用済みバッテリはすぐに廃棄してください。子供には近づけないでください。分解，及び火中への投入はしないでください。

● バッテリの交換，終端抵抗のデップスイッチを設定するときは，外部供給電源を全相遮断して行ってください。
全相遮断しないと静電気により，故障や誤動作の原因となります。

【タッチパネルの注意事項】

⚠注意

● アナログ抵抗膜方式のタッチパネルは，通常調整する必要はありませんが，使用期間の経過とともに，オブジェクト位置とタッチした位置がずれる場合があります。
オブジェクト位置とタッチした位置がずれた場合は，タッチパネル調整を実施してください。

● オブジェクト位置とタッチした位置がずれた場合，他のオブジェクトが動作し，誤出力，誤動作により想定外の動作をする恐れがあります。

【データストレージ使用時の注意事項】

⚠警告

● GOT の A ドライブに装着した SD カードを，GOT がアクセス中に取外すと，20 秒程度 GOT の処理が停止することがあります。
この間，GOT を操作できず，画面の更新や，アラーム，ロギング，スクリプトなどのバックグラウンドで動作する機能も停止します。
システムの動作に影響を与えることにより，事故の原因になります。
SD カードの取外しは，下記を確認してから行ってください。
・GT27，GT25：
SD カードの取外しは，SD カードアクセス LED が消灯していることを確認してから行ってください。
・GT21　　：
SD カードの取外しは，GOT ユーティリティ画面操作で SD カードアクセス禁止状態にした後，SD カードアクセス LED が消灯していることを確認してから行ってください。

⚠注意

● GOT に装着したデータストレージを，GOT がアクセス中に取外すと，データストレージやファイルが破損する原因になります。
GOT からデータストレージを取外す場合，SD カードアクセス LED やシステム信号などで，データストレージへのアクセスが行われていないことを確認してから行ってください。

● GOT が SD カードアクセス中に，GOT の電源を OFF にすると，SD カードやファイルが破損する原因になります。

● SD カードを装着して使用する場合は，下記を確認してから行ってください。
・GT27，GT25：
SD カードを GOT に装着して使用する場合は，SD カードのカバーを確実に閉じてください。
カバーを閉じないとデータを読出し，書込みをすることができません
・GT21　　：
SD カードを SD カードユニットに装着して使用する場合は，GOT ユーティリティ画面操作で SD カードアクセス許可状態にした後，使用してください。
SD カードアクセス許可状態にしないと，データを読出し，書込みをすることができません。

● SD カードを取出す場合は，SD カードが飛び出す場合がありますので，手で支えて取出してください。
手で支えて取出さないと，落下による SD カードの破損，故障の原因になります。

● GOT の USB インタフェースに USB 機器を装着する場合は，USB インタフェースに確実に差込んでください。
正しく挿入されていないと接触不良により，誤動作の原因になります。(GT27，GT25)

● データストレージを取外す場合は，GOT のユーティリティ画面でデータストレージの取外しを行い，正常終了通知ダイアログボックスが表示された後，手で支えて取外してください。
手で支えて取外さないと，落下によるデータストレージの破損，故障の原因になります。

【廃棄時の注意事項】

⚠注意
● 製品を廃棄するときは，産業廃棄物として扱ってください。 バッテリを廃棄する際には各地域にて定められている法令に従い分別を行ってください。 (EU 加盟国内でのバッテリ規制についての詳細は，GOT2000 シリーズ本体取扱説明書 (ハードウェア編) を参照してください。)

【輸送時の注意事項】

⚠注意
● リチウムを含有しているバッテリの輸送時には，輸送規制に従った取扱いが必要となります。 (規制対象機種についての詳細は，GOT2000 シリーズ本体取扱説明書 (ハードウェア編) を参照してください。)
● ユニットは精密機器のため，輸送の間，本体取扱説明書に記載の一般仕様の値を超える衝撃を避けてください。 ユニットの故障の原因になることがあります。 輸送後，ユニットの動作確認を行ってください。
● 木製梱包材の消毒・除虫対策のくん蒸剤に含まれるハロゲン系物質 (フッ素，塩素，臭素，ヨウ素など) が弊社製品に侵入すると故障の原因となります。 残留したくん蒸成分が弊社製品に侵入しないようにご注意いただくか，くん蒸以外の方法 (熱処理など) で処理してください。 なお，消毒・除虫対策は梱包前の木材の段階で実施してください。

はじめに

このたびは，三菱グラフィックオペレーションターミナルをお買い上げいただきまことにありがとうございました。

ご使用前に本書をよくお読みいただき，グラフィックオペレーションターミナルの機能・性能を十分ご理解のうえ，正しくご使用くださるようお願い致します。

目次

安全上のご注意 ····· A - 1
はじめに ····· A - 8
目次 ····· A - 8
GT Works3 のマニュアル一覧 ····· A - 16
略称，総称，アイコンの意味 ····· A - 17

1 部　GT27，GT25 ユーティリティ

1.　ユーティリティ機能

1.1　ユーティリティの実行について ····· 1 - 1
1.2　ユーティリティ機能一覧 ····· 1 - 2
1.3　ユーティリティの表示 ····· 1 - 5
1.3.1　メインメニューの表示操作 ····· 1 - 7
1.3.2　ユーティリティの基本構成 ····· 1 - 10
1.3.3　設定変更の基本操作 ····· 1 - 11

2.　GOT 基本設定

2.1　表示 ····· 2 - 2
2.1.1　表示の設定機能 ····· 2 - 2
2.1.2　表示の表示操作 ····· 2 - 4
2.1.3　表示の設定操作 ····· 2 - 5
2.2　言語 ····· 2 - 8
2.2.1　言語の設定機能 ····· 2 - 8
2.2.2　言語の表示操作 ····· 2 - 8
2.2.3　言語の設定操作 ····· 2 - 9
2.3　固有情報 ····· 2 - 10
2.3.1　固有情報の設定機能 ····· 2 - 10
2.3.2　固有情報の表示操作 ····· 2 - 10
2.3.3　固有情報の設定操作 ····· 2 - 11
2.4　IPアドレス ····· 2 - 12
2.4.1　IPアドレスの設定機能 ····· 2 - 12
2.4.2　IPアドレスの表示操作 ····· 2 - 13
2.4.3　IPアドレスの設定操作 ····· 2 - 14
2.5　操作 ····· 2 - 17
2.5.1　操作の設定機能 ····· 2 - 17
2.5.2　操作の表示操作 ····· 2 - 18
2.5.3　操作の設定操作 ····· 2 - 19

2.6 ユーティリティ呼び出しキー ····· 2 - 20
2.6.1 ユーティリティ呼び出しキーの設定機能 ····· 2 - 20
2.6.2 ユーティリティ呼び出しキーの表示操作 ····· 2 - 20
2.6.3 ユーティリティ呼び出しキーの設定操作 ····· 2 - 21
2.7 USBホスト ····· 2 - 23
2.7.1 USBホストの設定機能 ····· 2 - 23
2.7.2 USBホストの表示操作 ····· 2 - 23
2.7.3 USBホストの設定操作 ····· 2 - 24
2.8 時間 ····· 2 - 26
2.8.1 時間の設定機能 ····· 2 - 26
2.8.2 時間の表示操作 ····· 2 - 27
2.8.3 時間の設定操作 ····· 2 - 28
2.9 接続機器 ····· 2 - 31
2.9.1 接続機器の設定機能 ····· 2 - 31
2.9.2 接続機器の表示操作 ····· 2 - 32
2.9.3 接続機器の内容 ····· 2 - 33
2.9.4 接続機器設定の操作 ····· 2 - 36
2.9.5 接続機器詳細設定 ····· 2 - 40
2.10 Ethernet通信 ····· 2 - 46
2.10.1 Ethernet通信の設定機能 ····· 2 - 46
2.10.2 Ethernet通信の表示操作 ····· 2 - 46
2.10.3 Ethernet設定の表示内容 ····· 2 - 47
2.11 トランスペアレントモード ····· 2 - 50
2.11.1 トランスペアレントモードの設定機能 ····· 2 - 50
2.11.2 トランスペアレントモードの表示操作 ····· 2 - 50
2.11.3 トランスペアレントモードの設定操作 ····· 2 - 51
2.12 セキュリティ ····· 2 - 52
2.12.1 セキュリティレベル認証 ····· 2 - 52
2.13 オペレータ認証 ····· 2 - 54
2.13.1 オペレータ管理 ····· 2 - 54
2.13.2 パスワード変更 ····· 2 - 66
2.13.3 機能設定 ····· 2 - 68

3. 拡張機能設定

3.1 SoftGOT-GOTリンク機能 ····· 3 - 2
3.1.1 SoftGOT-GOTリンク機能の設定機能 ····· 3 - 2
3.1.2 SoftGOT-GOTリンク機能の表示操作 ····· 3 - 2
3.1.3 SoftGOT-GOTリンク機能の設定操作 ····· 3 - 3
3.2 VNCサーバ機能 ····· 3 - 5
3.2.1 VNCサーバ機能設定の設定機能 ····· 3 - 5
3.2.2 VNCサーバ機能設定の表示操作 ····· 3 - 5
3.2.3 VNCサーバ機能の設定操作 ····· 3 - 6
3.3 シーケンスプログラムモニタ ····· 3 - 7
3.3.1 シーケンスプログラムモニタの設定機能 ····· 3 - 7
3.3.2 シーケンスプログラムモニタの表示操作 ····· 3 - 8
3.3.3 シーケンスプログラムモニタの設定操作 ····· 3 - 8
3.4 バックアップリストア ····· 3 - 9
3.4.1 バックアップリストアの設定機能 ····· 3 - 9
3.4.2 バックアップリストア設定の表示操作 ····· 3 - 10

3.4.3　バックアップリストア設定の設定操作 ····· 3 - 10
3.5　トリガバックアップ設定 ····· 3 - 12
3.5.1　トリガバックアップ設定の設定機能 ····· 3 - 12
3.5.2　トリガバックアップ設定の表示操作 ····· 3 - 12
3.5.3　トリガバックアップ設定の設定操作 ····· 3 - 13
3.5.4　トリガ時刻設定の設定操作 ····· 3 - 14
3.6　ライセンス管理 ····· 3 - 15
3.6.1　ライセンス管理の設定機能 ····· 3 - 15
3.6.2　ライセンス管理の表示操作 ····· 3 - 15
3.6.3　ライセンス管理の設定操作 ····· 3 - 16
3.7　ビデオ・RGB ····· 3 - 17
3.7.1　ビデオ接続機器設定 ····· 3 - 17
3.7.2　ビデオ表示設定 ····· 3 - 20
3.7.3　RGB表示設定 ····· 3 - 23
3.8　マルチメディア ····· 3 - 25
3.8.1　ビデオ接続機器設定 ····· 3 - 25
3.8.2　映像設定 ····· 3 - 28
3.8.3　長時間録画保存設定 ····· 3 - 31
3.8.4　バージョン管理 ····· 3 - 33
3.8.5　ネットワーク設定 ····· 3 - 36
3.8.6　マルチメディア画面 ····· 3 - 38
3.9　無線接続機能 ····· 3 - 42
3.9.1　無線接続機能の設定機能 ····· 3 - 42
3.9.2　無線接続機能の表示操作 ····· 3 - 42
3.9.3　無線接続機能設定の表示内容 ····· 3 - 43

4.　メンテナンス

4.1　一括自己診断 ····· 4 - 2
4.1.1　一括自己診断の機能 ····· 4 - 2
4.1.2　一括自己診断機能の表示操作 ····· 4 - 3
4.1.3　一括自己診断機能の操作 ····· 4 - 4
4.2　USBデバイス管理 ····· 4 - 6
4.2.1　USBデバイス管理の機能 ····· 4 - 6
4.2.2　USBデバイス管理の表示操作 ····· 4 - 6
4.2.3　USBデバイス状態表示の操作 ····· 4 - 7
4.3　画面掃除 ····· 4 - 8
4.3.1　画面掃除の機能 ····· 4 - 8
4.3.2　画面掃除の表示操作 ····· 4 - 8
4.3.3　画面掃除の操作 ····· 4 - 9
4.4　タッチパネル調整 ····· 4 - 10
4.4.1　タッチパネル調整の設定機能 ····· 4 - 10
4.4.2　タッチパネル調整の設定の表示操作 ····· 4 - 10
4.4.3　タッチパネル調整操作 ····· 4 - 11
4.5　システムアラーム ····· 4 - 13
4.5.1　システムアラームの機能 ····· 4 - 13
4.5.2　システムアラームの表示操作 ····· 4 - 13
4.5.3　システムアラームの表示の操作 ····· 4 - 14
4.6　描画チェック ····· 4 - 15
4.6.1　描画チェックの機能 ····· 4 - 15

4.6.2 描画チェックの表示操作 ····· 4 - 15
4.6.3 描画チェック操作 ····· 4 - 16
4.7 フォントチェック ····· 4 - 19
4.7.1 フォントチェックの機能 ····· 4 - 19
4.7.2 フォントチェックの表示操作 ····· 4 - 19
4.7.3 フォントチェック操作 ····· 4 - 20
4.8 タッチパネルチェック ····· 4 - 21
4.8.1 タッチパネルチェックの機能 ····· 4 - 21
4.8.2 タッチパネルチェックの表示操作 ····· 4 - 21
4.8.3 タッチパネルチェック操作 ····· 4 - 22
4.9 I/Oチェック ····· 4 - 23
4.9.1 I/Oチェックの機能 ····· 4 - 23
4.9.2 I/Oチェックの表示操作 ····· 4 - 24
4.9.3 I/Oチェック操作 ····· 4 - 24
4.10 Ethernet状態チェック ····· 4 - 27
4.10.1 Ethernet状態チェックの機能 ····· 4 - 27
4.10.2 Ethernet状態チェックの表示操作 ····· 4 - 27
4.10.3 Ethernet状態チェック操作 ····· 4 - 27
4.11 GOT情報 ····· 4 - 28
4.11.1 GOT情報の機能 ····· 4 - 28
4.11.2 GOT情報の表示操作 ····· 4 - 28
4.11.3 GOT情報の表示 ····· 4 - 29

5. モニタ

5.1 各種モニタ ····· 5 - 1
5.1.1 各種モニタの機能 ····· 5 - 1
5.1.2 各種モニタ機能の表示操作 ····· 5 - 2

6. データ管理

6.1 データの種類と格納先 ····· 6 - 1
6.2 アラーム情報 ····· 6 - 4
6.2.1 アラーム情報の機能 ····· 6 - 4
6.2.2 アラーム情報の表示操作 ····· 6 - 5
6.2.3 アラーム情報の表示例 ····· 6 - 6
6.2.4 アラーム情報の操作 ····· 6 - 7
6.3 画像ファイル管理 ····· 6 - 10
6.3.1 画像ファイル管理の機能 ····· 6 - 10
6.3.2 画像ファイル管理の表示操作 ····· 6 - 10
6.3.3 画像ファイル管理の表示例 ····· 6 - 11
6.3.4 画像ファイル管理の操作 ····· 6 - 12
6.4 レシピ情報 ····· 6 - 16
6.4.1 レシピ情報の機能 ····· 6 - 16
6.4.2 レシピ情報の表示操作 ····· 6 - 18
6.4.3 レシピ情報の表示例 ····· 6 - 19
6.4.4 レシピ情報の操作 ····· 6 - 20
6.4.5 注意事項 ····· 6 - 43
6.5 ロギング情報 ····· 6 - 45
6.5.1 ロギング情報の機能 ····· 6 - 45
6.5.2 ロギング情報の表示操作 ····· 6 - 46

6.5.3 ロギング情報の表示例 ····· 6 - 47
6.5.4 ロギング情報の操作 ····· 6 - 48
6.5.5 注意事項 ····· 6 - 57
6.6 操作ログ情報 ····· 6 - 59
6.6.1 操作ログ情報の機能 ····· 6 - 59
6.6.2 操作ログ情報の表示操作 ····· 6 - 60
6.6.3 操作ログ情報の表示例 ····· 6 - 61
6.6.4 操作ログ情報の操作 ····· 6 - 62
6.6.5 注意事項 ····· 6 - 76
6.7 パッケージ管理 ····· 6 - 77
6.7.1 パッケージ管理の機能 ····· 6 - 77
6.7.2 パッケージ管理の表示操作 ····· 6 - 77
6.7.3 パッケージ管理の表示例 ····· 6 - 78
6.7.4 パッケージ管理の操作 ····· 6 - 79
6.8 バックアップリストア機能 ····· 6 - 84
6.8.1 バックアップリストア機能 ····· 6 - 84
6.8.2 バックアップリストア機能の表示操作 ····· 6 - 84
6.8.3 バックアップリストア機能の設定操作 ····· 6 - 84
6.9 SRAM管理 ····· 6 - 85
6.9.1 SRAM管理の機能 ····· 6 - 85
6.9.2 SRAM管理の表示操作 ····· 6 - 85
6.9.3 SRAM管理の表示例 ····· 6 - 86
6.9.4 SRAM管理の操作 ····· 6 - 87
6.10 メモリカードフォーマット ····· 6 - 90
6.10.1 メモリカードフォーマットの表示操作 ····· 6 - 90
6.10.2 メモリカードフォーマットの操作 ····· 6 - 91
6.11 メモリチェック ····· 6 - 93
6.11.1 メモリチェックの機能 ····· 6 - 93
6.11.2 メモリチェックの表示操作 ····· 6 - 93
6.11.3 メモリチェックの操作 ····· 6 - 94
6.12 GOTデータ一括取得 ····· 6 - 96
6.12.1 GOTデータ一括取得の機能 ····· 6 - 96
6.12.2 GOTデータ一括取得の表示操作 ····· 6 - 96
6.12.3 GOTデータ一括取得の表示例 ····· 6 - 97
6.12.4 GOTデータ一括取得の操作 ····· 6 - 97

7. BootOS，基本システムアプリケーションのインストール

7.1 インストールが必要なBootOS，基本システムアプリケーション ····· 7 - 2
7.2 BootOS，システムアプリケーションのインストール前準備 ····· 7 - 3
7.3 データストレージを使用したBootOS，システムアプリケーションのインストール ····· 7 - 4
7.3.1 GOT電源投入時にインストールする方法 ····· 7 - 5
7.3.2 データ管理機能(ユーティリティ)を使用してインストールする方法 ····· 7 - 7
7.4 BootOS，基本システムアプリケーションのバージョンが異なる場合 ····· 7 - 9

8. システムアラームの表示方法と一覧

8.1 GOTでの表示 ····· 8 - 1
8.2 エラーコード，システムアラーム一覧 ····· 8 - 2

2部　GT21 ユーティリティ

9.　ユーティリティ機能

9.1　ユーティリティの実行について ····· 9 - 1
9.2　ユーティリティ機能一覧 ····· 9 - 2
9.3　ユーティリティの表示 ····· 9 - 4
9.3.1　メインメニューの表示操作 ····· 9 - 6
9.3.2　ユーティリティの基本構成 ····· 9 - 8
9.3.3　設定変更の基本操作 ····· 9 - 9

10.　言語の設定（Language）

10.1　表示言語の設定 ····· 10 - 1
10.1.1　表示言語の設定機能 ····· 10 - 1
10.1.2　Languageの設定操作 ····· 10 - 1

11.　通信インタフェースの設定（接続機器設定）

11.1　標準I/Fの設定 ····· 11 - 1
11.1.1　標準I/Fの設定機能 ····· 11 - 1
11.1.2　標準I/Fの設定の表示操作 ····· 11 - 1
11.1.3　標準I/Fの設定の表示内容 ····· 11 - 2
11.1.4　詳細情報の設定操作 ····· 11 - 6
11.1.5　チャンネル設定の操作 ····· 11 - 9
11.1.6　ドライバ設定の操作 ····· 11 - 10
11.2　GOT IPアドレス設定 ····· 11 - 11
11.2.1　規格 ····· 11 - 11
11.2.2　GOT IPアドレスの表示操作 ····· 11 - 11
11.2.3　設定操作 ····· 11 - 12
11.3　通信モニタ ····· 11 - 13
11.3.1　通信モニタ機能 ····· 11 - 13
11.3.2　通信モニタの表示操作 ····· 11 - 13
11.3.3　画面表示内容 ····· 11 - 14
11.4　Ethernetチェック ····· 11 - 16
11.5　トランスペアレントモードの設定 ····· 11 - 18
11.6　キーワード ····· 11 - 19
11.6.1　キーワード機能 ····· 11 - 19
11.6.2　キーワードの表示操作 ····· 11 - 19
11.6.3　登録 ····· 11 - 20
11.6.4　削除 ····· 11 - 23
11.6.5　保護解除 ····· 11 - 25
11.6.6　プロテクト ····· 11 - 27

12.　表示と操作の設定 (GOT セットアップ)

12.1　表示の設定 ····· 12 - 1
12.1.1　表示の設定機能 ····· 12 - 1
12.1.2　表示の設定の表示操作 ····· 12 - 2
12.1.3　表示の設定操作 ····· 12 - 3
12.2　操作の設定(操作に関する設定) ····· 12 - 5
12.2.1　操作の設定機能 ····· 12 - 5
12.2.2　操作の設定の表示操作 ····· 12 - 6

12.2.3　操作の設定操作 ····· 12 - 7
12.2.4　タッチパネルの位置補正(タッチパネル調整の設定) ····· 12 - 9
12.2.5　ユーティリティ呼出キーの設定 ····· 12 - 11
12.3　固有情報 ····· 12 - 13
12.3.1　固有情報の設定機能 ····· 12 - 13
12.3.2　固有情報の表示操作 ····· 12 - 13
12.3.3　固有情報の設定操作 ····· 12 - 13

13.　セキュリティレベルとオペレータの設定 (セキュリティの設定)

13.1　セキュリティレベル認証 ····· 13 - 1
13.2　オペレータ認証 ····· 13 - 3
13.2.1　オペレータ情報管理 ····· 13 - 3
13.2.2　パスワード変更 ····· 13 - 13
13.2.3　機能設定 ····· 13 - 15
13.3　ログイン/ログアウト ····· 13 - 17

14.　時計の設定とバッテリの状態表示（時計の表示 / 設定画面）

14.1　時計の表示と設定画面 ····· 14 - 1
14.1.1　時計の表示と設定機能 ····· 14 - 1
14.1.2　時計の表示と設定の表示操作 ····· 14 - 1
14.1.3　時計の設定操作 ····· 14 - 2

15.　各種データ管理 (データ管理)

15.1　データの保存先 ····· 15 - 1
15.1.1　データの種類と格納先 ····· 15 - 1
15.1.2　BootOS，基本システムアプリケーションのバージョン確認 ····· 15 - 3
15.2　システムアプリケーション情報 ····· 15 - 4
15.3　リソースデータ情報 ····· 15 - 6
15.3.1　アラーム情報 ····· 15 - 6
15.3.2　レシピ情報 ····· 15 - 12
15.3.3　ロギング情報 ····· 15 - 21
15.3.4　画像ファイル管理 ····· 15 - 27
15.4　SDカードアクセス ····· 15 - 32
15.4.1　SDカードアクセスの機能 ····· 15 - 32
15.4.2　SDカードアクセスの表示操作 ····· 15 - 32
15.4.3　SDカードアクセスの操作 ····· 15 - 32
15.5　メモリカードフォーマット ····· 15 - 33
15.6　メモリクリア ····· 15 - 35
15.6.1　メモリクリア機能 ····· 15 - 35
15.6.2　メモリクリアの表示操作 ····· 15 - 35
15.6.3　メモリクリアの操作 ····· 15 - 36
15.7　データコピー ····· 15 - 37
15.7.1　データコピーの表示操作 ····· 15 - 37
15.7.2　データコピーの操作 ····· 15 - 38
15.8　バックアップ/リストア ····· 15 - 40
15.8.1　バックアップ/リストア ····· 15 - 40
15.8.2　システム構成 ····· 15 - 41
15.8.3　アクセス範囲 ····· 15 - 45

15.8.4 注意事項 ····· 15 - 45
15.8.5 セキュリティとパスワード ····· 15 - 48
15.8.6 バックアップ/リストアの表示操作 ····· 15 - 54
15.8.7 バックアップの操作 ····· 15 - 55
15.8.8 リストアの操作 ····· 15 - 57
15.8.9 キーワードの操作 ····· 15 - 59
15.8.10 エラーと対処法 ····· 15 - 60

16. GOT の自己診断 (保全機能)

16.1 デバイスモニタ機能 ····· 16 - 1
16.1.1 システム構成 ····· 16 - 1
16.1.2 モニタできるデバイス ····· 16 - 2
16.1.3 注意事項 ····· 16 - 2
16.1.4 デバイスモニタの表示操作 ····· 16 - 3
16.1.5 デバイスモニタ画面の表示内容とキー機能 ····· 16 - 4
16.1.6 デバイスモニタの基本操作 ····· 16 - 6
16.1.7 デバイスの登録 ····· 16 - 7
16.1.8 クイックテスト ····· 16 - 10
16.2 FX3U-ENET-ADP通信設定機能 ····· 16 - 13
16.2.1 仕様 ····· 16 - 13
16.2.2 FX3U-ENET-ADP通信設定機能の表示操作 ····· 16 - 14
16.2.3 設定操作 ····· 16 - 15

17. メンテナンス

17.1 タッチパネル調整 ····· 17 - 1
17.2 タッチパネルチェック ····· 17 - 3
17.3 画面掃除 ····· 17 - 5

18. SD カードを使用したパッケージデータのインストール

18.1 GOTの電源投入時にインストールする方法 ····· 18 - 1

19. BootOS，基本システムアプリケーションのインストール

19.1 インストールが必要なBootOS，基本システムアプリケーション ····· 19 - 1
19.2 BootOS，システムアプリケーションのインストール前準備 ····· 19 - 2

改訂履歴

保証について

サービスネットワーク (三菱電機システムサービス (株))

GT Works3のマニュアル一覧

本製品に関連するマニュアルは，作画ソフトウェアとともにインストールしてください。
印刷物が必要な場合，最寄りの代理店または支社にご相談ください。

■1. GT Designer3(GOT2000)のマニュアル一覧

(1) 画面作成ソフトウェア関連マニュアル

マニュアル名	マニュアル番号 (形名コード)
GT Works3 Version1 インストール手順書	-
GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ	-
GT Converter2 Version3 操作マニュアル GT Works3対応	SH-080848
GOT2000シリーズMESインタフェース機能マニュアル GT Works3 Version1対応	SH-081227

(2) 接続関連マニュアル

マニュアル名	マニュアル番号 (形名コード)
GOT2000シリーズ接続マニュアル(三菱電機機器接続編) GT Works3 Version1対応	SH-081189 (1D7MI9)
GOT2000シリーズ接続マニュアル(他社機器接続編1) GT Works3 Version1対応	SH-081190
GOT2000シリーズ接続マニュアル(他社機器接続編2) GT Works3 Version1対応	SH-081191
GOT2000シリーズ接続マニュアル(マイコン・MODBUS・周辺機器接続編) GT Works3 Version1対応	SH-081192

(3) GT SoftGOT2000用マニュアル

マニュアル名	マニュアル番号 (形名コード)
GT SoftGOT2000 Version1 操作マニュアル	SH-081193

(4) GOT2000シリーズ用本体マニュアル

マニュアル名	マニュアル番号 (形名コード)
GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ハードウェア編)	SH-081186 (1D7MI6)
GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ユーティリティ編)	SH-081187 (1D7MI7)
GOT2000シリーズ本体取扱説明書(モニタ編)	SH-081188 (1D7MI8)

略称，総称，アイコンの意味

ヘルプ内で使用している略称，総称，アイコンの意味を下記に示します。

■1. GOT

略称，総称				内容	アイコンの意味	
					対応	非対応
GOT2000シリーズ	GT27	GT27-X	GT2715-X	GT2715-XTBA，GT2715-XTBD	GT27	GT27
		GT27-S	GT2712-S	GT2712-STBA，GT2712-STWA，GT2712-STBD，GT2712-STWD		
			GT2710-S	GT2710-STBA，GT2710-STBD		
		GT27-V	GT2710-V	GT2710-VTBA，GT2710-VTWA，GT2710-VTBD，GT2710-VTWD		
		GT27-S	GT2708-S	GT2708-STBA，GT2708-STBD		
		GT27-V	GT2708-V	GT2708-VTBA，GT2708-VTBD		
	GT25	GT25-V	GT2510-V	GT2510-VTBA，GT2510-VTWA，GT2510-VTBD，GT2510-VTWD	GT25	GT25
			GT2508-V	GT2508-VTBA，GT2508-VTWA，GT2508-VTBD，GT2508-VTWD		
	GT21			GT21全機種	GT21	GT21
		GT21-P	GT2103-P	GT2103-PMBD	GT21 03P ET/R4	GT21 03P ET/R4
				GT2103-PMBDS	GT21 03P R4	GT21 03P R4
	GT SoftGOT2000			GT SoftGOT2000 Version1	Soft GOT 2000	Soft GOT 2000
GOT1000シリーズ				GOT1000シリーズ	－	
GOT900シリーズ				GOT-A900シリーズ，GOT-F900シリーズ	－	
GOT800シリーズ				GOT-800シリーズ	－	

■2. 通信ユニット

略称，総称	内容
バス接続ユニット	GT15-QBUS，GT15-QBUS2，GT15-ABUS，GT15-ABUS2，GT15-75QBUSL，GT15-75QBUS2L，GT15-75ABUSL，GT15-75ABUS2L
シリアル通信ユニット	GT15-RS2-9P，GT15-RS4-9S，GT15-RS4-TE
MELSECNET/H通信ユニット	GT15-J71LP23-25，GT15-J71BR13
CC-Link IE コントローラネットワーク通信ユニット	GT15-J71GP23-SX
CC-Link IE フィールドネットワーク通信ユニット	GT15-J71GF13-T2
CC-Link通信ユニット	GT15-J61BT13
無線LAN通信ユニット	GT25-WLAN
シリアルマルチドロップ接続ユニット	GT01-RS4-M

■3. オプションユニット

略称，総称		内容
プリンタユニット		GT15-PRN
ビデオ･RGBユニット	ビデオ入力ユニット	GT27-V4-Z(GT16M-V4-ZとGT27-IF1000のセット品)
	RGB入力ユニット	GT27-R2-Z(GT16M-R2-ZとGT27-IF1000のセット品)
	ビデオ･RGB入力ユニット	GT27-V4R1-Z(GT16M-V4R1-ZとGT27-IF1000のセット品)
	RGB出力ユニット	GT27-ROUT-Z(GT16M-ROUT-ZとGT27-IF1000のセット品)
マルチメディアユニット		GT27-MMR-Z(GT16M-MMR-ZとGT27-IF1000のセット品)
ビデオ信号変換ユニット		GT27-IF1000
外部入出力ユニット		GT15-DIO，GT15-DIOR
音声出力ユニット		GT15-SOUT
SDカードユニット		GT21-03SDCD

■4. オプション

略称，総称	内容
SDカード	L1MEM-2GBSD，L1MEM-4GBSD
バッテリ	GT11-50BAT
保護シート	GT27-15PSGC，GT25-12PSGC，GT25-10PSGC，GT25-08PSGC，GT21-03PSGC-UC，GT27-15PSCC，GT25-12PSCC，GT25-10PSCC，GT25-08PSCC，GT25-12PSCC-UC，GT25-10PSCC-UC，GT25-08PSCC-UC，GT21-03PSCC-UC
耐油カバー	GT20-15PCO，GT20-12PCO，GT20-10PCO，GT20-08PCO，GT10-20PCO
USB耐環境カバー	GT25-UCOV
スタンド	GT15-90STAND，GT15-80STAND，GT15-70STAND，GT15-60STAND
アタッチメント	GT15-70ATT-98，GT15-70ATT-87，GT15-60ATT-97，GT15-60ATT-96，GT15-60ATT-87，GT15-60ATT-77

■5. ソフトウェア

(1) GOT関連のソフトウェア

略称，総称	内容
GT Works3	SW1DND-GTWK3-J，SW1DND-GTWK3-E，SW1DND-GTW3K-C
GT Designer3 Version1	GOT2000シリーズ，GOT1000シリーズ用画面作成ソフトGT Designer3
GT Designer3	GT Works3に含まれるGOT2000シリーズ用画面作成ソフト
GT Designer3(GOT2000)	
GT Designer3(GOT1000)	GT Works3に含まれるGOT1000シリーズ用画面作成ソフト
GT Simulator3	GOT2000シリーズ，GOT1000シリーズ，GOT900シリーズ用スクリーンシミュレータGT Simulator3
GT SoftGOT2000	モニタリングソフトGT SoftGOT2000
GT Converter2	GOT1000シリーズ，GOT900シリーズ用データ変換ソフトGT Converter2
GT Designer2 Classic	GOT900シリーズ用画面作成ソフトGT Designer2 Classic
GT Designer2	GOT1000シリーズ，GOT900シリーズ用画面作成ソフトGT Designer2
DU/WIN	GOT-F900シリーズ用画面作成ソフトFX-PCS-DU/WIN

(2) iQ Works関連のソフトウェア

略称，総称	内容
iQ Works	iQ Platform対応エンジニアリング環境MELSOFT iQ Works
MELSOFT Navigator	SW□DND-IQWK，SW□DNC-IQWK(iQ Platform対応エンジニアリング環境MELSOFT iQ Works)の中の統合開発環境 (□はバージョンを意味する)

(3) その他のソフトウェア

略称，総称	内容
GX Works3	SW□DND-GXW3-J(-JAZ)形シーケンサエンジニアリングソフトウェア (□はバージョンを意味する)
GX Works2	SW□DNC-GXW2-J(-JA，-JAZ)形シーケンサエンジニアリングソフトウェア (□はバージョンを意味する)
GX Simulator2	GX Works2のシミュレーション機能
GX Simulator	SW□D5C-LLT-J(-JV)形ラダーロジックテストツール機能ソフトウェアパッケージ(SW5D5C-LLT(-V)以降) (□はバージョンを意味する)
GX Developer	SW□D5C-GPPW-J(-JV)/SW□D5F-GPPW(-V)形ソフトウェアパッケージ (□はバージョンを意味する)
GX LogViewer	SW□DNN-VIEWER-J形ソフトウェアパッケージ (□はバージョンを意味する)
PX Developer	SW□D5C-FBDQ-J形計装制御用FBDソフトウェアパッケージ (□はバージョンを意味する)
MT Works2	モーションコントローラエンジニアリング環境MELSOFT MT Works2(SW□DND-MTW2-J) (□はバージョンを意味する)
MT Developer	SW□RNC-GSV形モーションコントローラQシリーズ用総合立上げ支援ソフトウェア (□はバージョンを意味する)
MR Configurator2	SW□DNC-MRC2-J形サーボセットアップソフトウェア (□はバージョンを意味する)
MR Configurator	MRZJW□-SETUP形サーボセットアップソフトウェア (□はバージョンを意味する)
FR Configurator2	インバータセットアップソフトウェア(SW□DND-FRC2-J) (□はバージョンを意味する)
FR Configurator	インバータセットアップソフトウェア(FR-SW□-SETUP-WJ) (□はバージョンを意味する)
NC Configurator	CNCパラメータ設定支援ツールNC Configurator
FX Configurator-FP	FX3U-20SSC-Hパラメータ設定･モニタ，テスト用ソフトウェアパッケージ(SW□D5CFXSSCJ) (□はバージョンを意味する)
FX3U-ENET-L設定ツール	FX3U-ENET-L形Ethernetユニット設定用ソフトウェア(SW1D5-FXENETL-J)
RT ToolBox2	ロボットプログラム作成用ソフトウェア(3D-11C-WINJ)
MX Component	MX Component Version□(SW□D5C-ACT-J，SW□D5C-ACT-JA) (□はバージョンを意味する)
MX Sheet	MX Sheet Version□(SW□D5C-SHEET-J，SW□D5C-SHEET-JA) (□はバージョンを意味する)
CPUユニットロギング設定ツール	CPUユニットロギング設定ツール(SW1DNN-LLUTL-J)

■6. ライセンスキー (GT SoftGOT2000用)

略称，総称	内容
ライセンスキー	GT27-SGTKEY-U

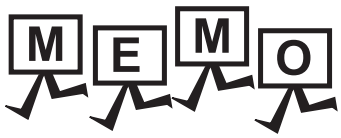
■7. その他

略称，総称	内容
アイエイアイ社	株式会社アイエイアイ
アズビル社	アズビル株式会社
オムロン社	オムロン株式会社
キーエンス社	株式会社キーエンス
光洋電子工業社	光洋電子工業株式会社
ジェイテクト社	株式会社ジェイテクト
シャープマニファクチャリングシステム社	シャープマニファクチャリングシステム株式会社
神港テクノス社	神港テクノス株式会社
チノー社	株式会社チノー
東芝社	株式会社東芝
東芝機械社	東芝機械株式会社
パナソニック社	パナソニック株式会社
パナソニックデバイスSUNX社	パナソニックデバイスSUNX株式会社
日立産機システム社	株式会社日立産機システム
日立製作所社	株式会社日立製作所
富士電機社	富士電機株式会社
安川電機社	株式会社安川電機
横河電機社	横河電機株式会社
理化工業社	理化工業株式会社
ALLEN-BRADLEY	Allen-Bradley(Rockwell Automation, Inc)
GE社	GE Intelligent Platforms
LS産電社	LS産電株式会社
SCHNEIDER ELECTRIC社	Schneider Electric SA
SICK社	SICK AG
SIEMENS社	Siemens AG
シーケンサ	各社シーケンサ
制御機器	各社制御機器
温度調節器	各社温度調節器
指示調節計	各社指示調節計
調節計	各社調節計

1部

GT27，GT25 ユーティリティ

1. ユーティリティ機能 . . . . . 1 - 1
2. GOT 基本設定. . . . . 2 - 1
3. 拡張機能設定 . . . . . 3 - 1
4. メンテナンス . . . . . 4 - 1
5. モニタ . . . . . 5 - 1
6. データ管理 . . . . . 6 - 1
7. BootOS，基本システムアプリケーションのインストール . 7 - 1
8. システムアラームの表示方法と一覧. . . . . 8 - 1


MEMO

1. ユーティリティ機能

ユーティリティは，GOT と接続機器との接続，画面表示の設定，操作方法の設定，プログラム/データ管理，自己診断などを行うための機能です。

ユーティリティ機能一覧に関しては，下記を参照してください。

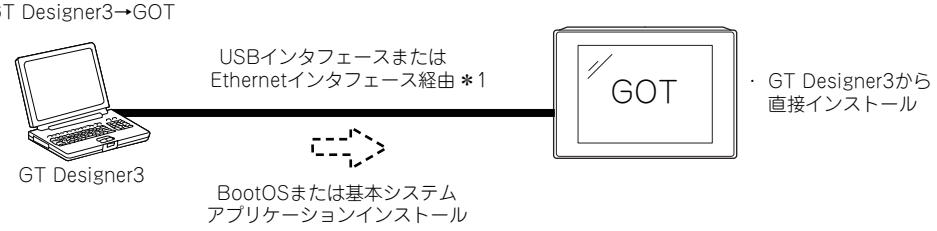
➡ ☞ 1.2 ユーティリティ機能一覧

1.1 ユーティリティの実行について

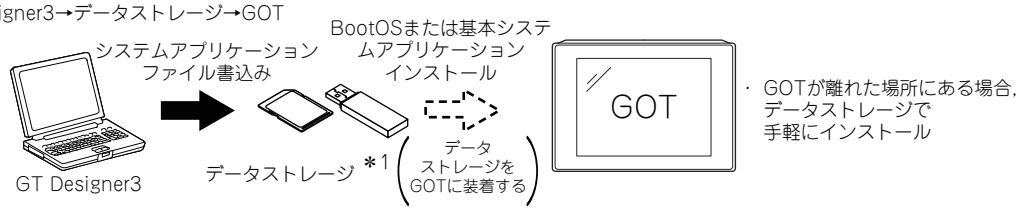
ユーティリティを実行するためには，BootOS，基本システムアプリケーションをCドライブ(内蔵フラッシュメモリ)にインストールしてユーティリティを表示させる必要があります。

BootOS，基本システムアプリケーションのインストール方法には，以下の3通りがあります。

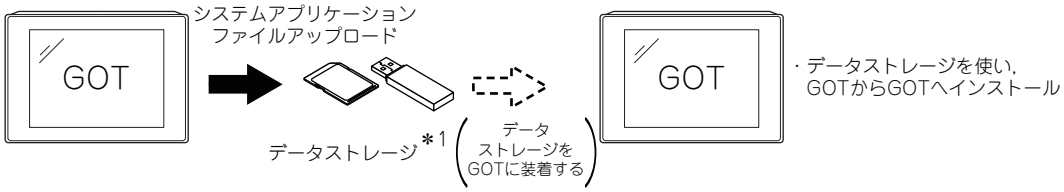
① GT Designer3→GOT



② GT Designer3→データストレージ→GOT



③ GOT→データストレージ→GOT



*1 BootOS，基本システムアプリケーションをインストールする場合は，あらかじめGOTに基本システムアプリケーションがインストールされている必要があります。

GT Designer3を使用したインストールに関しては，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 Version1ヘルプ

GOTを使用したインストールに関しては，下記を参照してください。

➡ ☞ 7. BootOS，基本システムアプリケーションのインストール

1.2 ユーティリティ機能一覧

ユーティリティの各画面で設定・操作できる内容は下記のとおりです。
なお，古いバージョンのGT Designer3を使用した場合，表示される画面や設定項目などが本マニュアルと異なる場合があります。

項目			機能概要	対応 GOT		参照先
				GT27	GT25	
GOT 基本設定	表示		タイトル表示時間 / スクリーンセーブ時間の設定	○	○	2.1
			スクリーンセーブ時バックライト ON/OFF の設定	○	○	
			バッテリ低下アラーム出力 ON/OFF の設定	○	○	
			人感センサの検出感度 / 監視時間の設定	○	×	
			輝度の調整	○	○	
	言語		メッセージ言語切換え	○	○	2.2
	固有情報		GOT の ID 番号の設定	○	○	2.3
	IP アドレス		GOT の IP アドレス，サブネットマスク，デフォルトゲートウェイを設定 GOT と同じ IP アドレスの機器が，後からネットワークに参加してきた場合の，GOT の動作を設定	○	○	2.4
	操作		ブザー音 / ウィンドウ移動時のブザー音の設定 ブザー音の音程を設定 キー感度 / 反応速度の設定 キーの押下圧を設定 A ドライブのアクセススイッチを設定	○	○	2.5
	ユーティリティ呼び出しキー		ユーティリティ呼び出しキーの設定	○	○	2.6
	USB ホスト		USB マウス / キーボードの設定	○	○	2.7
	時間		時計の現在時刻を表示 / 設定	○	○	2.8
	接続機器	Ethernet I/F 割当	Ethernet I/F の割当を設定	○	○	2.9
		チャンネル - ドライバ割当	各チャンネルに割当てられてた通信ドライバを表示	○	○	
		割当変更	割当てられてた通信ドライバを変更	○	○	
		5V 電源供給	Ch No.1 の 5V 電源供給を設定	○	○	
		接続機器詳細設定	通信パラメータの設定，シーケンスプログラム保護用キーワード設定 / 削除 / 保護状態解除 (FXCPU 接続時)	○	○	
	Ethernet 通信		Ethernet 設定の設定内容の表示，自局の変更	○	○	2.10
	トランスペアレントモード		FA トランスペアレント機能使用時の，通信対象のチャンネル No. の設定	○	○	2.11
	セキュリティ	セキュリティレベル認証	セキュリティレベルの認証	○	○	2.12
	オペレータ認証	オペレータ管理	オペレータの管理	○	○	2.13
		パスワード変更	パスワードの変更	○	○	
		機能設定	オペレータ認証機能の設定	○	○	

(次のページへつづく)

項目			機能概要	対応 GOT		参照先
				GT27	GT25	
拡張機能設定	SoftGOT-GOT リンク機能		SoftGOT-GOT リンク機能の設定	○	○	3.1
	VNC サーバ機能		VNC® サーバ機能の設定	○	○	3.2
	シーケンスプログラムモニタ		シーケンスプログラムモニタの起動	○	○	3.3
	バックアップリストア設定		バックアップリストアの設定	○	○	3.4
		トリガバックアップ設定	トリガバックアップの設定	○	○	3.5
		トリガ時刻設定	トリガ時刻の設定	○	○	
	ライセンス管理		ライセンス登録，解除を行う画面を表示	○	○	3.6
	ビデオ・RGB		ビデオ・RGB 入出力ユニットの設定を行う画面を表示	○	×	3.7
	マルチメディア		マルチメディアの設定を行う画面を表示	○	×	3.8
	無線接続機能		無線接続機能の設定	○	○	3.9
メンテナンス	一括自己診断		各種診断を一括診断，診断結果をデータストレージへコピー	○	○	4.1
	USB デバイス管理		USB デバイスの状態表示	○	○	4.2
	画面掃除		表示部を掃除するための画面を表示	○	○	4.3
	タッチパネル調整		タッチパネルの調整	○	○	4.4
	システムアラーム		システムアラームの表示	○	○	4.5
	描画チェック		描画のチェック	○	○	4.6
	フォントチェック		フォントのチェック	○	○	4.7
	タッチパネルチェック		タッチパネルのチェック	○	○	4.8
	I/O チェック		RS-232 インタフェースの入出力チェック	○	○	4.9
	Ethernet 状態チェック		Ethernet の接続状態チェック	○	○	4.10
	GOT 情報		GOT の情報の表示	○	○	4.11

（次のページへつづく）

項目		機能概要	対応 GOT		参照先
			GT27	GT25	
モニタ	デバイスモニタ	デバイスモニタの起動	○	○	5.1
	シーケンスプログラムモニタ (回路)	シーケンスプログラムモニタの起動	○	○	
	FX 回路モニタ	FX 回路モニタの起動	○	○	
	ネットワークモニタ	ネットワークモニタの起動	○	○	
	インテリジェントユニットモニタ	インテリジェントユニットモニタの起動	○	○	
	サーボアンプモニタ	サーボアンプモニタの起動	○	○	
	Q モーションモニタ	Q モーションモニタの起動	○	○	
	R モーションモニタ	R モーションモニタの起動	○	○	
	CNC モニタ	CNC モニタの起動	○	×	
	シーケンスプログラムモニタ (SFC)	SFC モニタの起動	○	○	
	モーション SFC モニタ	モーション SFC モニタの起動	○	○	
	ログビューア	ログビューアの起動	○	○	
	FX リスト編集	FX リスト編集の起動	○	○	
	CNC 加工プログラム編集	CNC 加工プログラム編集の起動	○	×	
	CNC データ入出力	CNC データ入出力の起動	○	×	
	MELSEC-L トラブルシュート	MELSEC-L トラブルシュートの起動	○	○	
データ管理	アラーム情報	アラームログファイルの削除 / コピー	○	○	6.2
		アラームログファイルの G2A → CSV/TXT 変換	○	○	
		アラームログファイルのグラフ表示	○	○	
	画像ファイル管理	画像ファイルの削除 / コピー / 名称変更	○	○	6.3
	レシピ情報	レシピファイルの G2P → CSV/TXT 変換，レシピファイルの削除 / コピー / 移動 / 新規作成，レシピフォルダの削除 / 移動 / 名称変更 / 新規作成，レシピレコード一覧によるレコード値の書込み / 読出し / 照合，デバイス値の削除	○	○	6.4
	ロギング情報	ロギングファイルの G2L → CSV/TXT 変換	○	○	6.5
		ロギングファイルの削除 / コピー / 移動 / 名称変更，ロギングフォルダの削除 / 新規作成	○	○	
	操作ログ情報	操作ログファイルの G20 → CSV/TXT 変換	○	○	6.6
		操作ログファイルの削除 / コピー / 移動 / 名称変更，操作ログフォルダの削除 / 新規作成	○	○	
	パッケージ管理	パッケージデータのインストール / アップロード / データチェック	○	○	6.7
	バックアップリストア機能	バックアップリストア機能の起動	○	○	6.8
	SRAM 管理	SRAM ユーザ領域の使用状況の確認，バックアップ，リストア，初期化	○	○	6.9
	メモリカードフォーマット	データストレージのフォーマット	○	○	6.10
	メモリチェック	データストレージ，内蔵フラッシュメモリのライト / リードチェック	○	○	6.11
	GOT 一括取得	GOT 内のデータを一括して SD カードにコピー	○	○	6.12

1.3 ユーティリティの表示

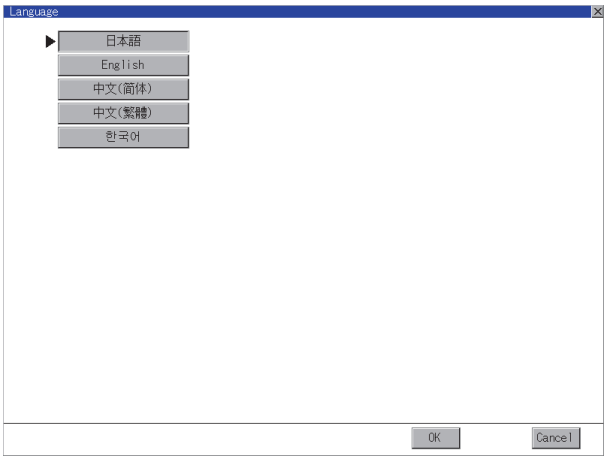
各種ユーティリティの設定画面を表示するためには，まずメインメニューを表示させる必要があります。
縦置き表示の設定をした場合，ユーティリティの表示は横置き表示のままで表示されます。
ユーティリティメインメニューのメッセージダイアログは，縦置き表示に対応します。

(1) メインメニュー

ユーティリティで設定できるメニュー項目が表示されます。
各メニュー項目部をタッチすると，それぞれの設定画面，または次の項目選択画面を表示します。

(2) システムメッセージ切換えボタン

ユーティリティ上の言語やシステムアラームの言語を切り換えるボタンです。
[Language]ボタンをタッチするとSelect Language画面が表示されます。



Step 1. 表示する言語のボタンをタッチしてください。

Step 2. [OK]ボタンをタッチするとGOTは再起動し，ユーティリティ上の言語が，選択した言語に切り換わります。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

POINT

GOT起動時に言語が選択されていない場合，または選択されている言語とGOTにインストールされているフォントに不整合が生じた場合

下記画面が表示されます。
表示させたい言語のボタンをタッチすると，GOTが再起動し，選択した言語に切り換わります。

(1) 選択できる言語

システムメッセージ切換えボタンは，選択できる言語のみ表示されます。
選択できる言語は，GOTにインストールされているフォントにより異なります。
選択できる言語とフォントの関係については，下記を参照してください。

➠ ☞ GT Designer3 Version1ヘルプ

(2) デバイスを使用したシステム言語切り換え

GT Designer3で設定したシステム言語切り換えデバイスを使用して，システム言語を切換えできます。
システム言語切り換えデバイスの設定方法は，下記を参照してください。

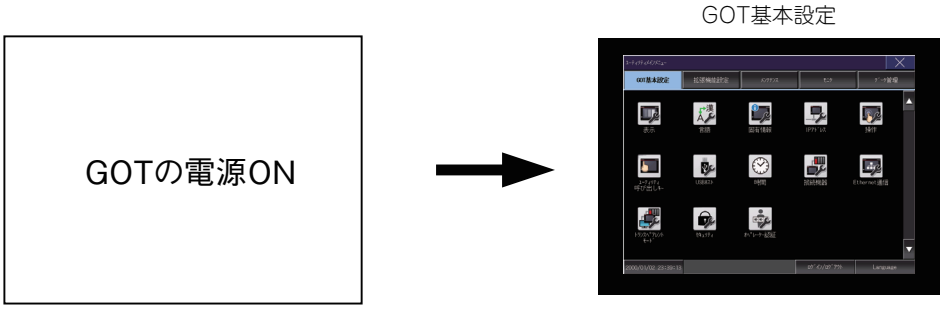
➠ ☞ GT Designer3 Version1ヘルプ

1.3.1 メインメニューの表示操作

メインメニューは，下記３通りの操作で表示できます。
(いずれもGT Designer3から基本システムアプリケーションをGOTの内蔵フラッシュメモリへインストール後に行ってください。)

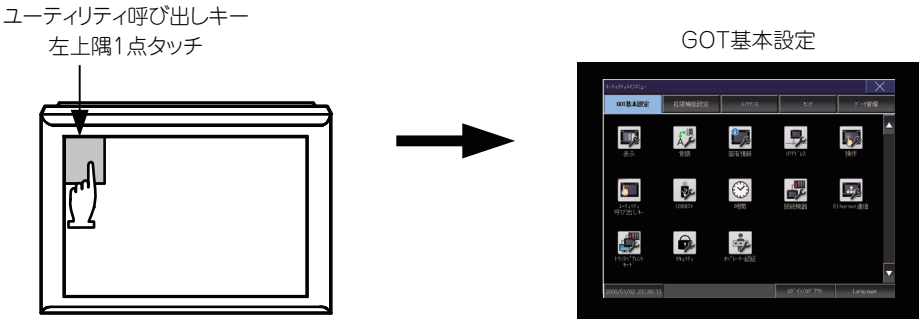
(1) プロジェクトデータ未ダウンロード時

GOTの電源をONすると，タイトル表示後，自動的にメインメニューが表示されます。



(2) ユーティリティ呼び出しキータッチ時

ユーザ作成画面を表示中，ユーティリティ呼び出しキーをタッチするとメインメニューが表示されます。
工場出荷時のユーティリティ呼び出しキーの位置はGOTの画面左上隅です。



ユーティリティ呼び出しキーは，GOTのユーティリティ，GT Designer3により設定できます。
ユーティリティ呼び出しキーの設定方法は，下記を参照してください。

➡ ☞ 2.6.3 ユーティリティ呼び出しキーの設定操作
➡ GT Designer3 Version1ヘルプ

POINT

(1) 2点以上の同時押し禁止

GOTの画面を2点以上同時にタッチしないでください。同時にタッチすると，タッチした部分以外が反応する場合があります。

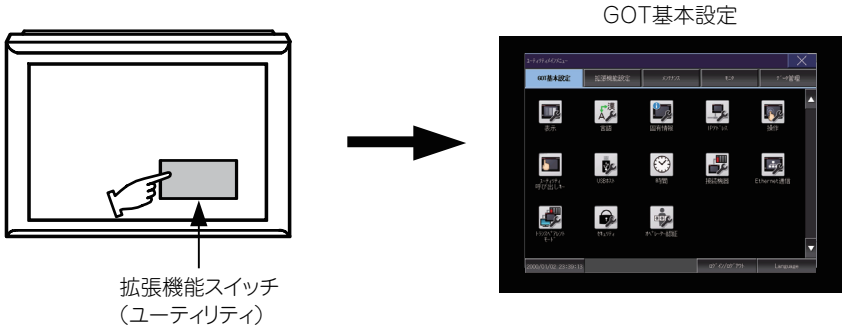
(2) ユーティリティ呼び出しキーを1点に設定した場合

ユーティリティ呼び出しキーの設定画面で[押下時間]を0秒以外に設定した場合，[押下時間]以上タッチパネルを押し続けたあとに，タッチパネルから指を離してください。
ユーティリティ呼び出しキーの設定については，下記を参照してください。

➡ ☞ 2.6.3 ユーティリティ呼び出しキーの設定操作

(3) 拡張機能スイッチ(ユーティリティ)タッチ時

ユーザ作成画面を表示中，拡張機能スイッチ(ユーティリティ)をタッチすると，メインメニューが表示されます。
拡張機能スイッチ(ユーティリティ)は，GT Designer3によりユーザ作成画面中に表示するタッチスイッチとして設定できます。



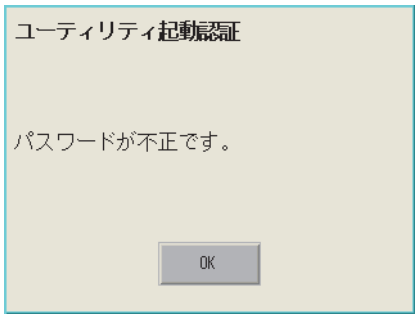
拡張機能スイッチの設定に関する詳細は，下記を参照してください。

➠ ☞ GT Designer3 Version1ヘルプ

ユーティリティの表示をパスワードでロックする

GT Designer3でGOTにパスワード設定した場合，ユーティリティのメインメニューを表示しようとすると，パスワード入力が表示されます。
(GT Designer3のパスワード設定は，共通の設定メニューの中にあります。)

パスワードが不一致の場合は，エラーメッセージを表示します。



[OK]ボタンをタッチするとモニタ画面に戻ります。

(1) パスワードの入力操作

Step 1. [0]～[9]，[A]～[F]キーをタッチして，パスワードを入力してください。

Step 2. パスワード入力後，[Enter]キーをタッチして，パスワードを確定してください。

Step 3. 入力した文字を修正するときは，[Del]キーをタッチして修正する文字を削除して，新しい文字を再入力してください。

(2) パスワード入力を中断する操作

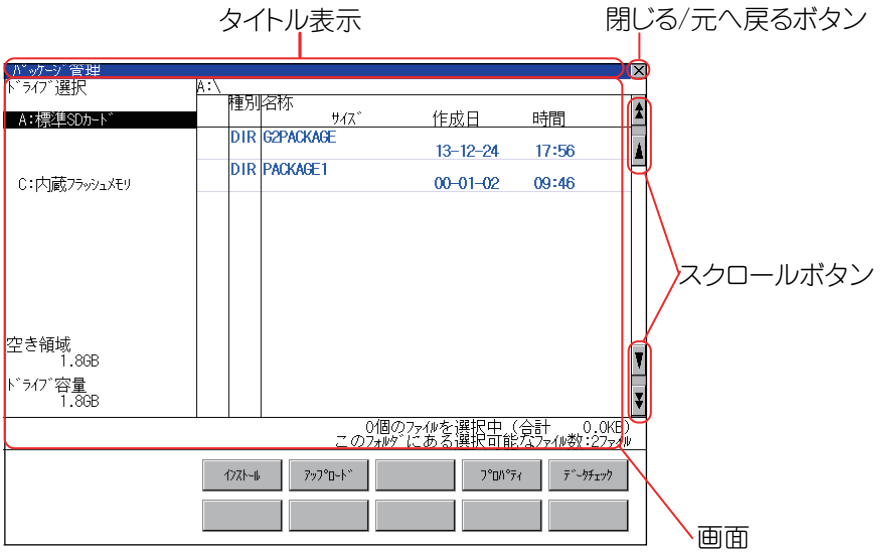
[×]ボタンをタッチすると，モニタ画面に戻ります。

パスワード設定に関する詳細は，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 Version1ヘルプ

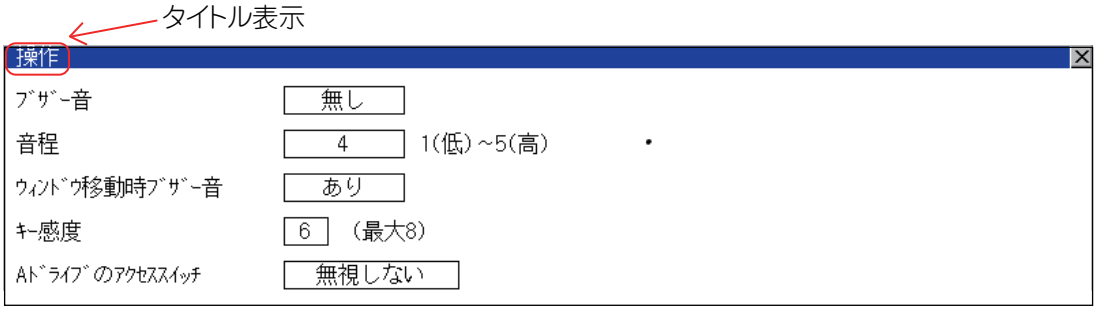
1.3.2　ユーティリティの基本構成

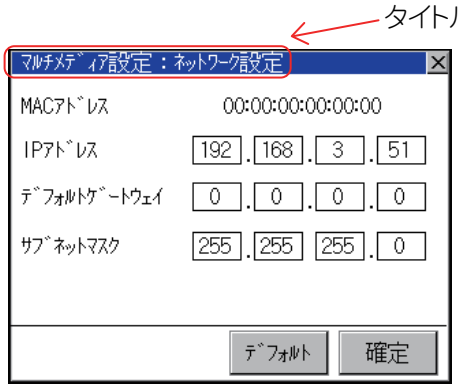
ユーティリティの基本構成は以下のとおりです。



(1)　タイトル表示

タイトル表示部にはその画面のタイトル名が表示されます。
画面は複数階層で構成されているため，その階層も含めたタイトル表示を行います。





(2)　閉じる/元へ戻るボタン

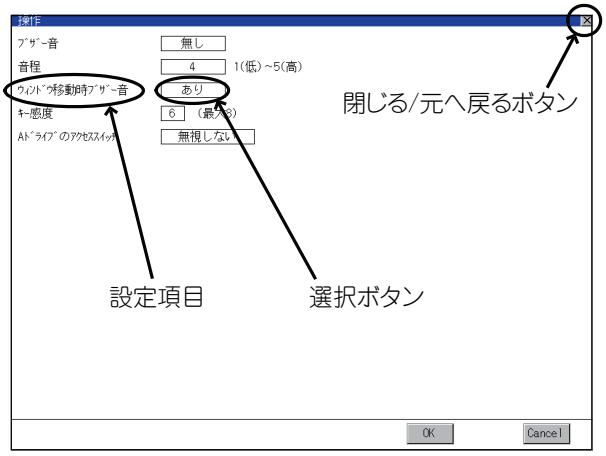
階層の途中の画面が表示されているときに，画面右上隅にある[×](閉じる/元へ戻る)ボタンをタッチすると，１つ前の階層の画面へ戻ります。
モニタ画面から直接表示されたときに，このボタンをタッチすると画面を閉じ，モニタ画面へ戻ります。

(3)　スクロールボタン

画面1枚に収まりきらない内容をもつ画面には右，または下にスクロールボタンがあります。
▲/▼/◀/▶キーで1行あるいは1列分スクロールします。
⏫/⏬/⏪/⏩キーで1画面分スクロールします。

1.3.3 設定変更の基本操作

■ 設定値の変更



例 :[操作に関する設定]画面

(1) 設定項目，選択ボタン

選択ボタンをタッチすることで，設定を変更できます。
設定項目により，設定方法は異なります。
設定方法には，下記のような種類があります。

(a) 設定値を切り換える

タッチすると，あり なし のように，設定値を切換えできます。

(b) キーボードで設定値を入力する

タッチすると，GOTの画面上にキーボードが表示されます。

(c) 別の設定画面に移行する

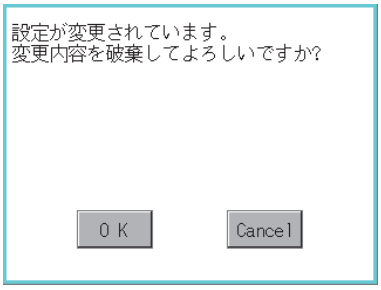
タッチすると，別の設定画面に移行します。

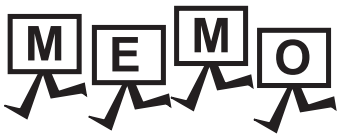
各設定項目の設定方法は，各設定画面の設定操作を参照してください。

(2) [OK]ボタン，[Cancel]ボタン，[×](閉じる/元へ戻る)ボタン

変更した設定の反映や，破棄を行います。

- [OK] ボタン
  タッチすると，変更した設定が反映され，前の画面に戻ります。
  設定項目によっては，GOT が再起動します。
- [Cancel] ボタン
  タッチすると，設定内容が破棄され，前の画面に戻ります。
- [×](閉じる / 元へ戻る) ボタン
  タッチすると，下記のダイアログが表示されます。(変更した設定がない場合は表示されません)
  ダイアログのメッセージに従って操作してください。




MEMO

2. GOT基本設定

GOTユーティリティ画面から表示に関する設定画面や操作に関する設定画面を表示できます。
表示に関する設定画面や操作に関する設定画面では下記の設定ができます。

項目	内容	参照先
表示	タイトル表示時間，スクリーンセーブ時間，バッテリ低下アラーム出力，スクリーンセーブ人感センサ，人感センサ検出感度，人感センサ監視時間，人感センサ OFF ディレイ，輝度調整モード，輝度調整，POWER LED	2.1
言語	言語設定	2.2
固有情報	番号設定，GOT 名称表示，GOT 説明表示	2.3
IP アドレス	IP アドレス設定，サブネットマスク設定，デフォルトゲートウェイ設定，IP 重複時の動作設定	2.4
操作	ブザー音，音程，ウィンドウ移動時ブザー音，キー感度，A ドライブのアクセススイッチ	2.5
ユーティリティ呼び出キー	呼び出しキー設定，押下時間設定	2.6
USB ホスト	USB マウス使用設定，マウスカーソルタッチ連動設定，USB キーボード使用設定，USB キーボード種別設定	2.7
時間	時計管理，時計表示，本体内蔵バッテリ電圧状態	2.8
接続機器	通信インタフェースの設定内容の確認，設定の変更ができます。	2.9
Ethernet 通信	Ethernet 設定の設定内容の確認，自局の変更ができます。	2.10
トランスペアレントモード	ChNo. 設定	2.11
セキュリティ	セキュリティレベル認証	2.12
オペレータ認証	オペレータ管理，パスワード変更，機能設定	2.13

2.1 表示

2.1.1 表示の設定機能

表示の設定ができます。
設定できる項目には下記のものがあり，各項目部をタッチすると，それぞれの設定が可能な状態になります。

項目	内容	設定範囲
タイトル表示時間	本体起動時のタイトル表示時間を設定できます。	0 ～ 60 秒 *1 ＜工場出荷時 : 0 秒＞
スクリーンセーブ時間	ユーザがタッチパネルを操作しなくなってからスクリーンセーブ機能起動までの時間を設定できます。	0 ～ 60 分 ＜工場出荷時 : 0 分＞
バッテリ低下アラーム出力	GOT 内蔵バッテリの電圧低下時に，システムアラームを表示する / しないを指定できます。	ON/OFF ＜工場出荷時 : OFF＞
スクリーンセーブ 人感センサ	人感センサによるスクリーンセーブ状態解除の有効 / 無効を設定できます。	有効 / 無効 ＜工場出荷時 : 無効＞
人感センサ検出感度 *2	人感センサ検出感度のレベルを設定できます。	0 ～ 10 ＜工場出荷時 : 10 ＞
人感センサ監視時間 *2	[人感センサ検出感度] のレベルに対応した時間を表示します。(設定はできません) [人感センサ検出感度] を変更した場合は，[OK] ボタンをタッチ後，対応した時間に変更します。	0 ～ 4 ＜工場出荷時 : 0 秒＞
人感センサ OFF ディレイ	人の動きを検出しなくなってから，人感センサ検出信号 (システム信号 2-1.b5) が OFF するまでの時間を設定できます。	0 分 10 秒～ 60 分 0 秒 ＜工場出荷時 : 0 分 10 秒＞
輝度調整モード *3	輝度の調整を標準 / 低輝度のモード設定ができます。	標準 / 低輝度 ＜デフォルト : 標準＞
輝度調整	輝度の調整ができます。	1 ～ 32 ＜工場出荷時 : 32 ＞
POWER LED	POWER LED の点灯 / 消灯を設定できます。	点灯 / 消灯 ＜工場出荷時 : 点灯＞

*1 0秒を設定してもタイトル画面非表示にはなりません。
タイトル画面は必ず4秒以上(プロジェクトデータの内容により変化します)表示されます。

*2 人感センサ検出感度のレベル(0～10)に対応する監視時間は以下のようになります。
検出感度レベルの数値が大きいほど，人感センサの感度は敏感になります。

人感センサ検出感度レベル	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
人感センサ監視時間[秒]	0	0.1	0.2	0.4	0.8	1	1.5	2	2.5	3	4

*3 BootOSのバージョンがD以前の場合は，[標準]のモードとなります。

POINT

(1) GT Designer3による表示の設定

タイトル表示時間，スクリーンセーブ時間の設定は，GT Designer3のGOT環境設定のGOTセットアップで行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOTの表示の設定にて設定を変更してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

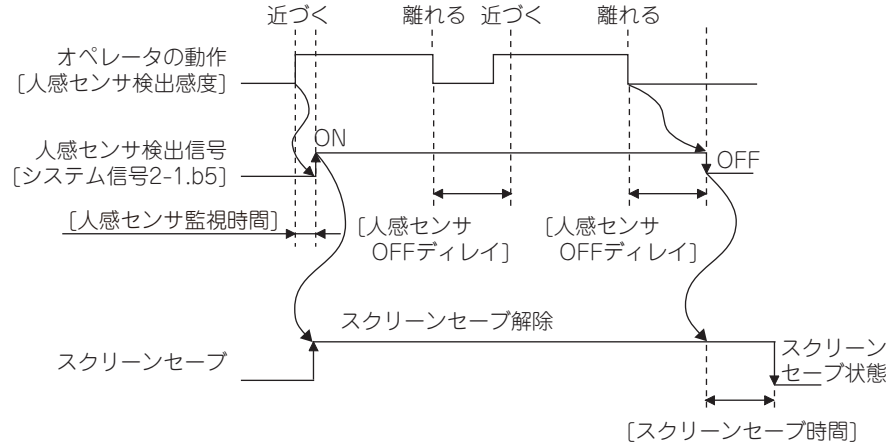
(2) スクリーンセーブ時間

システム情報機能を使用することで，接続機器から強制的にスクリーンセーブ状態(強制スクリーンセーブ無効信号)にしたり，ユーティリティで設定したスクリーンセーブ時間を無効(自動スクリーンセーブ無効信号)にしたりできます。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(3) 人感センサによる表示の制御

人感センサは，GOTにタッチしないで，スクリーンセーブを解除する機能です。
オペレータがGOTに近づくことで，スクリーンセーブを解除します。



[人感センサOFFディレイ]で設定した時間，オペレータの動作がない場合，[人感センサ検出信号]をOFFします。
[人感センサ検出信号]OFF後，[スクリーンセーブ時間]で設定した時間経過すると，GOTはスクリーンセーブ状態になります。

人感センサ検出信号(システム信号2-1.b5)については，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(4) スクリーンセーブ人感センサを無効に設定する場合について

ユーティリティでスクリーンセーブ人感センサを無効に設定しても，人の動きを検出すると，人感センサ検出信号(システム信号2-1.b5)はONします。
そのため，強制スクリーンセーブ信号(システム信号1-1.b1)と人感センサ検出信号をシーケンスプログラム等で関連づけて制御している場合，意図しない動作になることがあります。
スクリーンセーブ人感センサを無効にする場合，関連するシーケンスプログラムなどを見直してください。

(5) [低輝度]モードの制約

(a) バックライト切れ検出の制約

[低輝度]モードでは，バックライト切れの検出ができません。
バックライト切れの検出が必要な場合は，輝度調整モードを[標準]に設定してください。

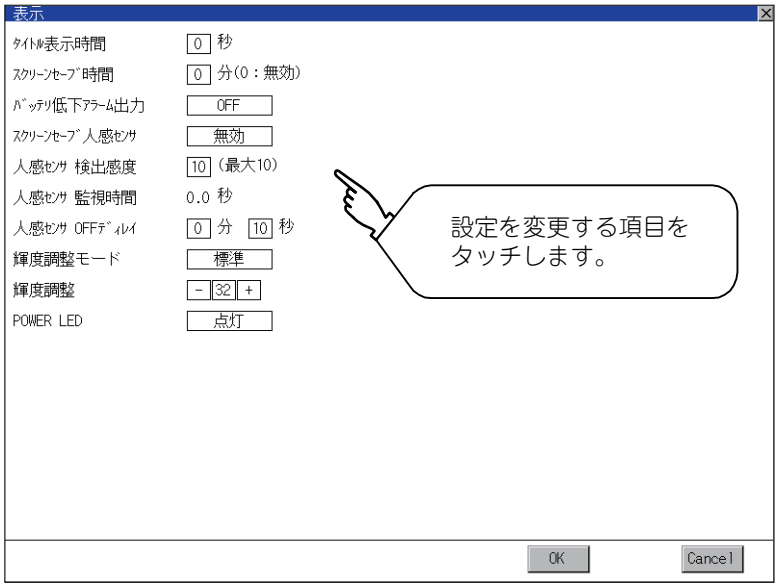
(b) 画面表示の制約

[低輝度]モードでは，画面のちらつきが発生したり，表示が消えたりする場合があります。
暗所での使用を必要としない場合は，輝度調整モードを[標準]に設定してください。

2.1.2　表示の表示操作

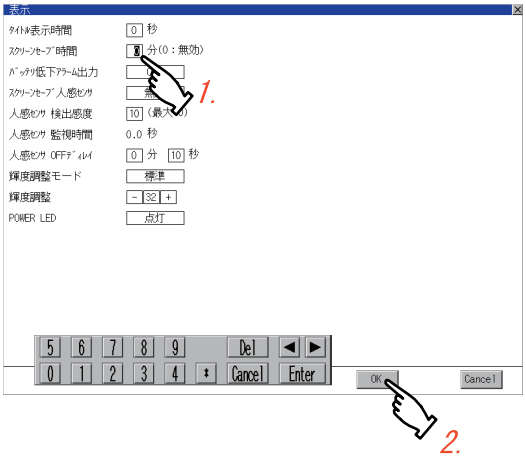
GOT基本設定

表示



2.1.3 表示の設定操作

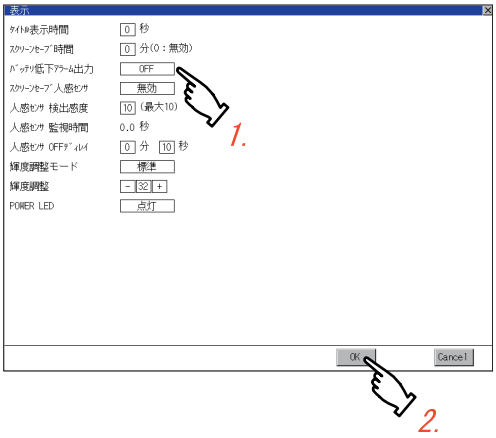
■ タイトル表示，スクリーンセーブ時間



Step 1. 設定(数字)をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

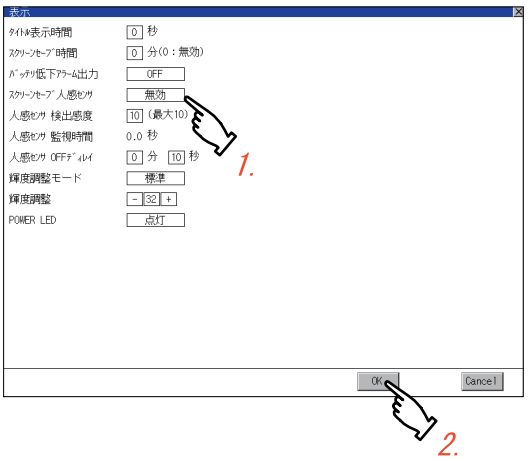
■ バッテリ低下アラーム出力



Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。(ON⇄OFF)

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

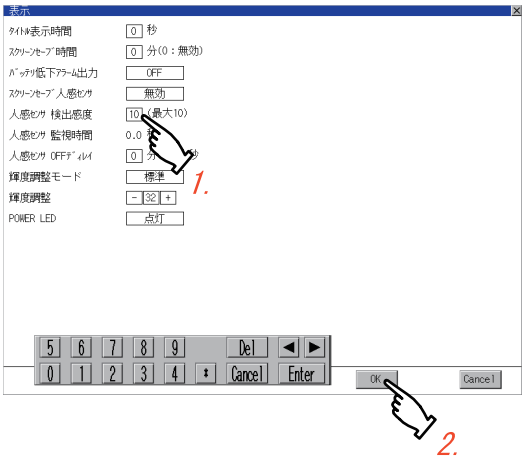
■ スクリーンセーブ人感センサ



Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。(有効⇄無効)

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

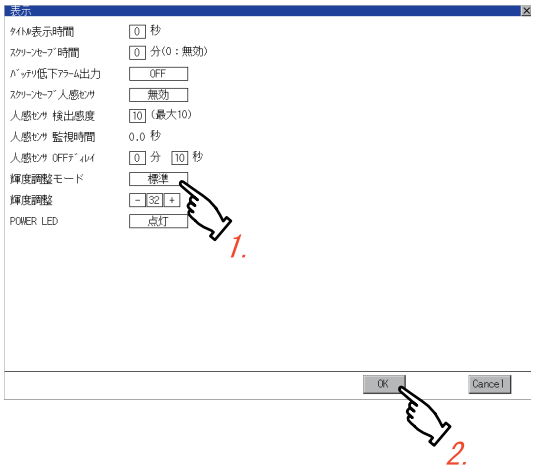
■ 人感センサ検出感度，人感センサ OFF ディレイ



Step 1. 設定(数字)をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。
カーソルを移動させる場合は，◀ または ▶ ボタンをタッチします。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

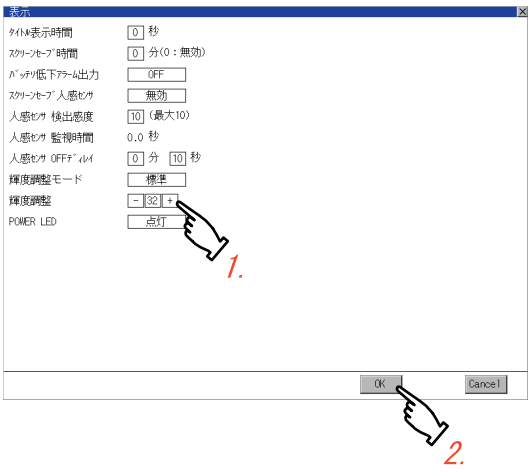
■ 輝度調整モード



Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。(標準 ⇄ 低輝度)

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

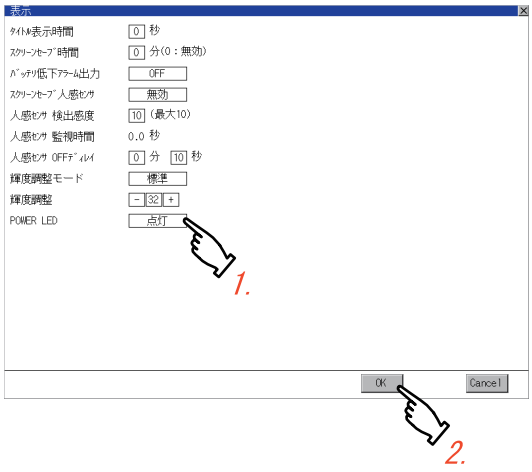
■ 輝度調整



Step 1. 輝度調整の[+]，[-]キーをタッチすることで輝度を調整できます。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

■ POWER LED



Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。(点灯 ⇄ 消灯)

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

2.2 言語

2.2.1 言語の設定機能

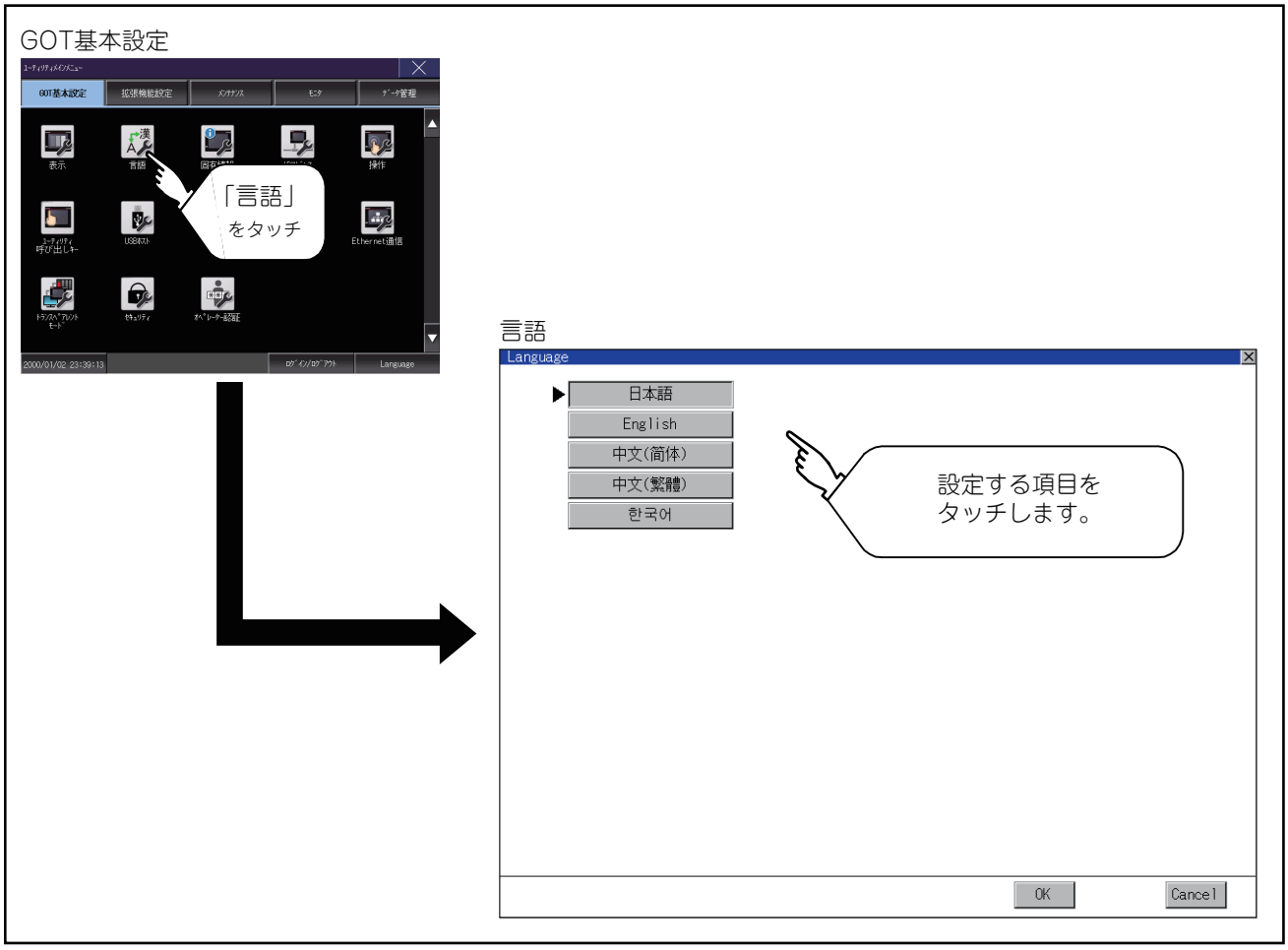
言語の設定ができます。

項目	内容	設定範囲
言語 *1	ユーティリティとダイアログで表示される言語について，現在の言語の確認と言語の切換えができます。	日本語（日本語）
		English（英語）
		中文(簡体)（中国語（簡体字））
		中文(繁體)（中国語（繁体字））
		한국어（韓国語）
		＜工場出荷時：ユーザ選択による＞

*1　*1　選択できる言語のみ表示されます。
選択できる言語は，GOTにインストールされているフォントにより異なります。
フォントの詳細については，下記を参照してください。

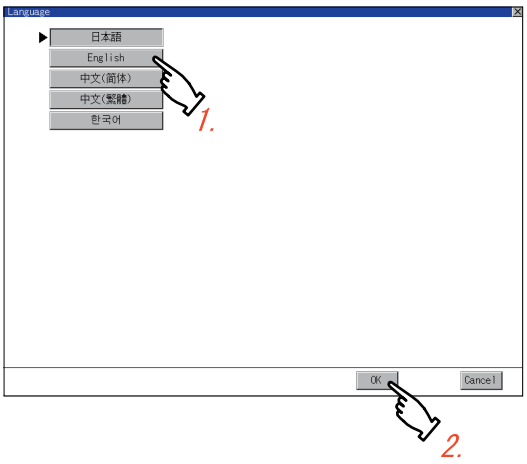
GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

2.2.2 言語の表示操作



2.2.3 言語の設定操作

■ 言語



Step 1. 表示する言語のボタンをタッチすると，言語が選択されます。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

(1) 選択できる言語

システムメッセージ切換えボタンは，選択できる言語のみ表示されます。
選択できる言語は，GOTにインストールされているフォントにより異なります。
選択できる言語とフォントの関係については，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) デバイスを使用したシステム言語切り換え

GT Designer3で設定したシステム言語切り換えデバイスを使用して，システム言語を切換えできます。
システム言語切り換えデバイスの設定方法は，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

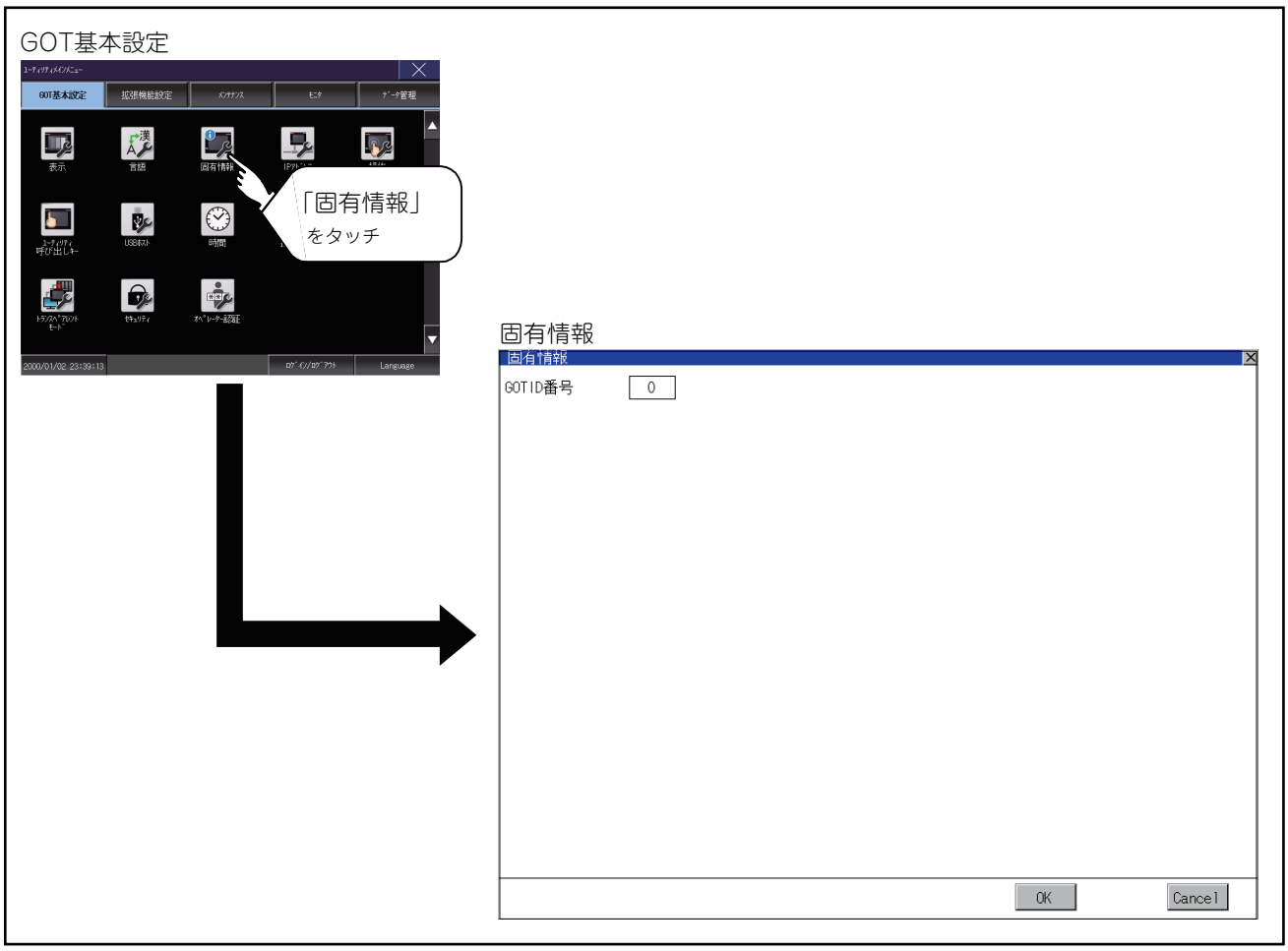
2.3 固有情報

2.3.1 固有情報の設定機能

固有情報の設定ができます。

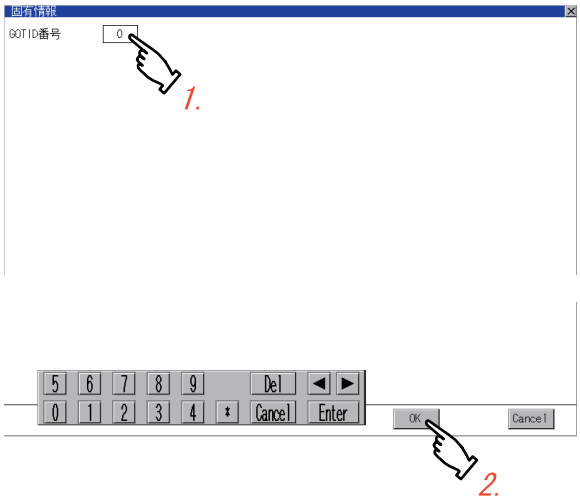
項目	内容	設定範囲
GOTID 番号	GOT に固有の情報として ID 番号を設定できます。	0 ～ 32767 ＜デフォルト：0＞

2.3.2 固有情報の表示操作



2.3.3 固有情報の設定操作

■ GOTID 番号



Step 1. 設定項目をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

2.4 IPアドレス

2.4.1 IPアドレスの設定機能

IPアドレスの設定ができます。

項目	内容	設定範囲
IP アドレス設定	IP アドレスの表示，設定ができます。	0 ～ 255 <デフォルト : 192.168.3.18>
サブネットマスク設定	サブネットマスクの表示，設定ができます。	0 ～ 255 <デフォルト : 255.255.255.0>
デフォルトゲートウェイ設定	デフォルトゲートウェイのルータアドレスを表示，設定ができます。	0 ～ 255 <デフォルト : 0.0.0.0>
ダウンロード用ポート番号設定	GOT がダウンロードで使用するポート No. を設定します。	1024 ～ 5010，5014 ～ 49152，49171 ～ 65534 <デフォルト : 5014>
トランスペアレント用ポート番号設定	GOT がトランスペアレントで使用するポート No. を設定します。	1024 ～ 5010，5014 ～ 49152，49171 ～ 65534 <デフォルト : 5015>
IP 重複時の動作設定	GOT と同じ IP アドレスを持つ機器が，後からネットワークに参加してきた場合の，GOT の動作を設定できます。	ネットワーク接続を維持する (推奨)/ ネットワーク接続を維持しない <デフォルト : ネットワーク接続を維持する (推奨)>

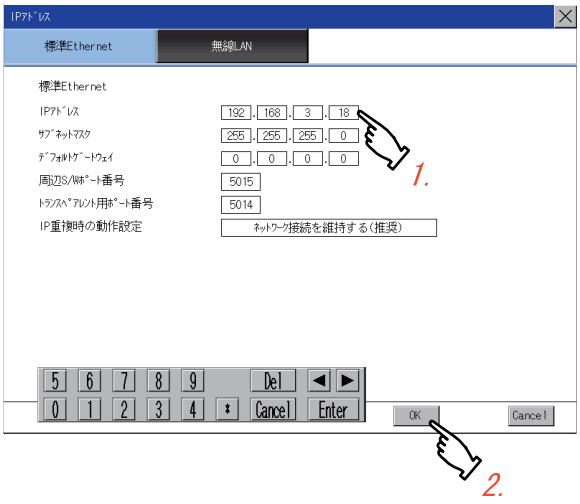
2.4.2 IPアドレスの表示操作

GOT基本設定

IPアドレス

2.4.3 IPアドレスの設定操作

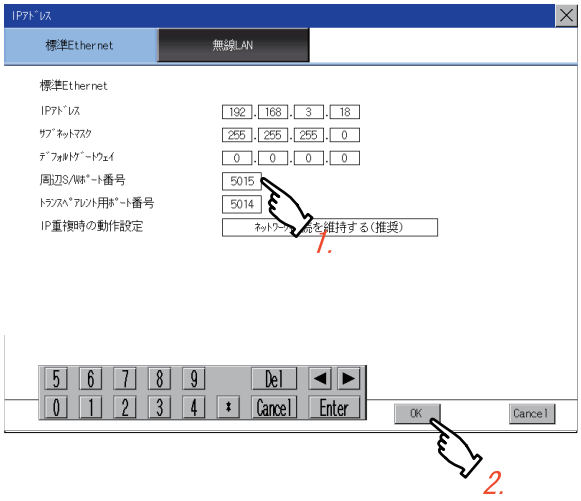
■ IP アドレス設定，サブネットマスク設定，デフォルトゲートウェイ設定



Step 1. 設定項目をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

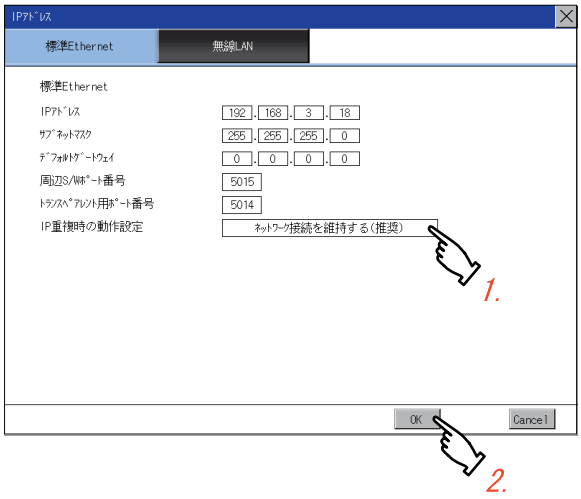
■ 周辺 S/W ポート番号，トランスペアレント用ポート番号



Step 1. 設定項目をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

■ IP 重複時の動作設定の設定操作



Step 1. 設定項目をタッチすると，設定内容が変わります。

•ネットワーク接続を維持する(推奨):
GOTと同じIPアドレスを持つ機器が，後からネットワークに参加してきた場合，GOTはネットワーク接続を維持します。システムアラームが発生します。

•ネットワーク接続を維持しない:
GOTと同じIPアドレスを持つ機器が，後からネットワークに参加してきた場合，GOTはネットワークから外れます。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

POINT

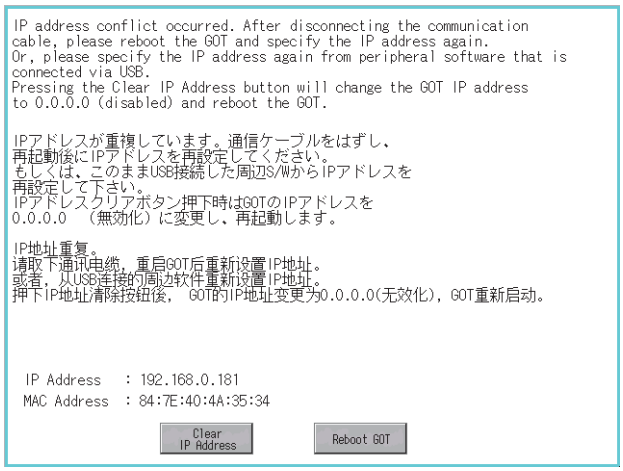
(1) IPアドレス重複時のチェックが行われない場合

(a) GOTのIPアドレスを，192.168.0.18に設定した場合，IPアドレス重複時のチェックは行われません。

(b) GOTと接続する機器によっては，IPアドレス重複時のチェックが行われない場合があります。

(2) GOTと同一IPアドレスの機器が存在するネットワークに，GOTが後から参加した場合

GOTはオフライン状態となり，下記のダイアログが表示されます。



IPアドレスが重複している場合，FAトランスペアレント機能は，通信経路を問わず使用できません。

•GOTと同じIPアドレスを持つ他の機器のIPアドレスを修正する場合

GOTと同じIPアドレスを持つ他の機器のIPアドレスを修正後，[Reboot GOT]ボタンをタッチしてGOTを再起動してください。

•GOTのIPアドレスを変更する場合

[Clear IP Address]ボタンをタッチしてGOTのIPアドレスをクリアしてください。
[Reboot GOT]ボタンをタッチしてGOTを再起動した後，ユーティリティにてGOTのIPアドレスを変更してください。

(3) [ネットワーク接続を維持しない]を選択時の注意事項

[ネットワーク接続を維持しない]を選択した場合，GOTと同じIPアドレスを持つ機器がネットワークに参加すると，IPアドレスが重複されたGOTが，ネットワークから外れます。
このため，IPアドレスの設定ミスや，悪意あるユーザの意図的な行動により，稼働中のGOTが通信できなくなり，システムの制御に影響を与える場合があります。
[IP重複時の動作設定]の変更は，必要性を十分検討した上で行ってください。

(4) Spanning tree protocolに対応したスイッチングハブを使用する場合の注意事項

GOTを接続するスイッチングハブのポートには，接続した機器をすぐに通信可能な状態(フォワーディング状態)にする設定(PortFastなど)を行い，Spanning tree protocolによる接続直後の待ちが発生しないようにしてください。
設定を行わない場合，EthernetのIPアドレス重複の検出が正しく行われません。
また，GOTのEthernet接続も正しく行えない場合があります。
接続した機器をすぐに通信可能な状態(フォワーディング状態)にする設定は，使用するスイッチングハブの取扱説明書を参照してください。

2.5 操作

2.5.1 操作の設定機能

GOTの操作に関する設定ができます。
設定できる項目には以下のものがあり，各項目部をタッチすると，それぞれの設定が可能な状態になります。

機能	内容	設定範囲
ブザー音設定	ブザー音の設定を変更できます。	無 / 短 / 長 ＜工場出荷時：短＞
音程設定	ブザー音の音程の設定を変更できます。	1 ～ 5 ＜デフォルト：4＞
ウィンドウ移動時ブザー音設定	ウィンドウを移動させる時にブザー音を鳴らすか鳴らさないかを選択できます。	あり / なし ＜工場出荷時：なし＞
キー感度の設定	GOT の画面をタッチしたときのタッチパネルの感度を設定できます。 例えば，GOT の画面を 1 回タッチしたときに，2 回タッチになってしまう場合に設定を変更します。（チャタリング防止）	1 ～ 8*1 ＜デフォルト：6＞
A ドライブのアクセススイッチ	SD カードインタフェースのカバーが開いた状態で A ドライブにアクセスするかしないかを設定します。	無視しない / 無視する ＜デフォルト：無視しない＞

***1 [キー感度] の設定と反応速度の関係**

[キー感度] の設定値が大きいほど，タッチパネルをタッチしてから GOT が反応するまでの時間が短くなります。例えば，GOT の画面を 1 回タッチしたときに，2 回タッチになってしまう場合は [キー感度] の設定値を小さくします。（反応速度を遅くします。）

POINT

GT Designer3による操作の設定

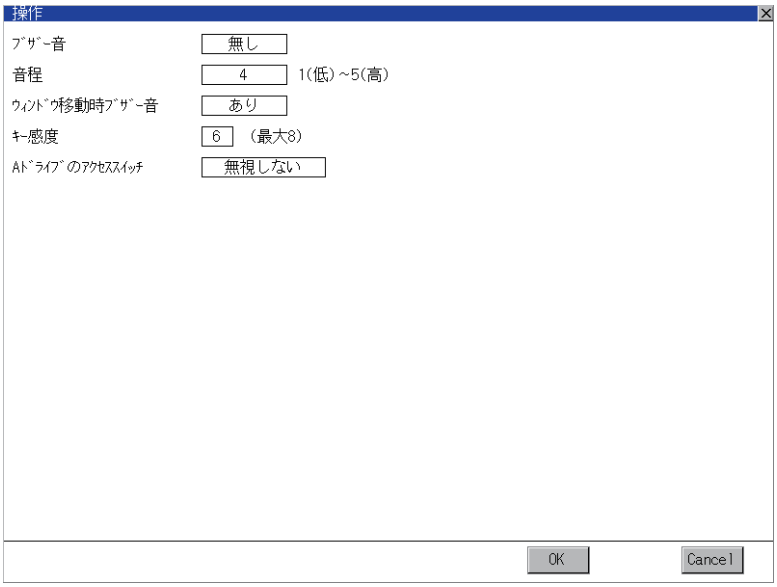
ブザー音およびウィンドウ移動時ブザー音の設定は，GT Designer3のGOT環境設定のGOTセットアップで行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOTの表示の設定にて設定を変更してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

2.5.2 操作の表示操作

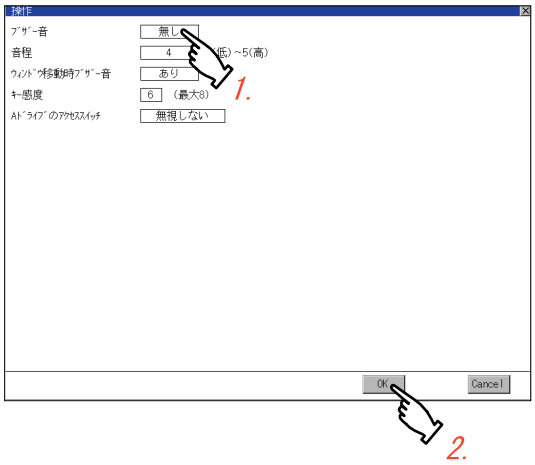
GOT基本設定

操作



2.5.3 操作の設定操作

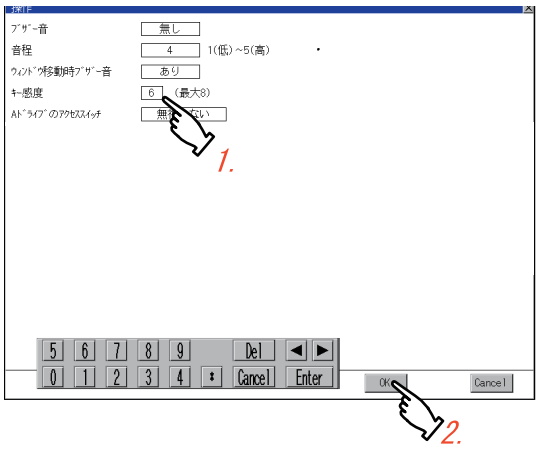
■ ブザー音，音程，ウィンドウ移動時ブザー音，A ドライブのアクセススイッチ



Step 1. 設定項目をタッチすると，設定内容が変わります。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

■ キー感度の設定



Step 1. 設定項目をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

2.6　ユーティリティ呼び出しキー

2.6.1　ユーティリティ呼び出しキーの設定機能

ユーティリティのメインメニューを呼び出すための，キー位置を指定できます。
キー位置は，画面の 4 隅のうちから 1 点，または指定なしの設定ができます。
（指定なしは，GT Designer3 を使用した場合に設定できます。）
また，画面を押しつづけるとユーティリティに切り換わるように設定することもできます。
これにより，意図しないユーティリティへの切換えを防止できます。

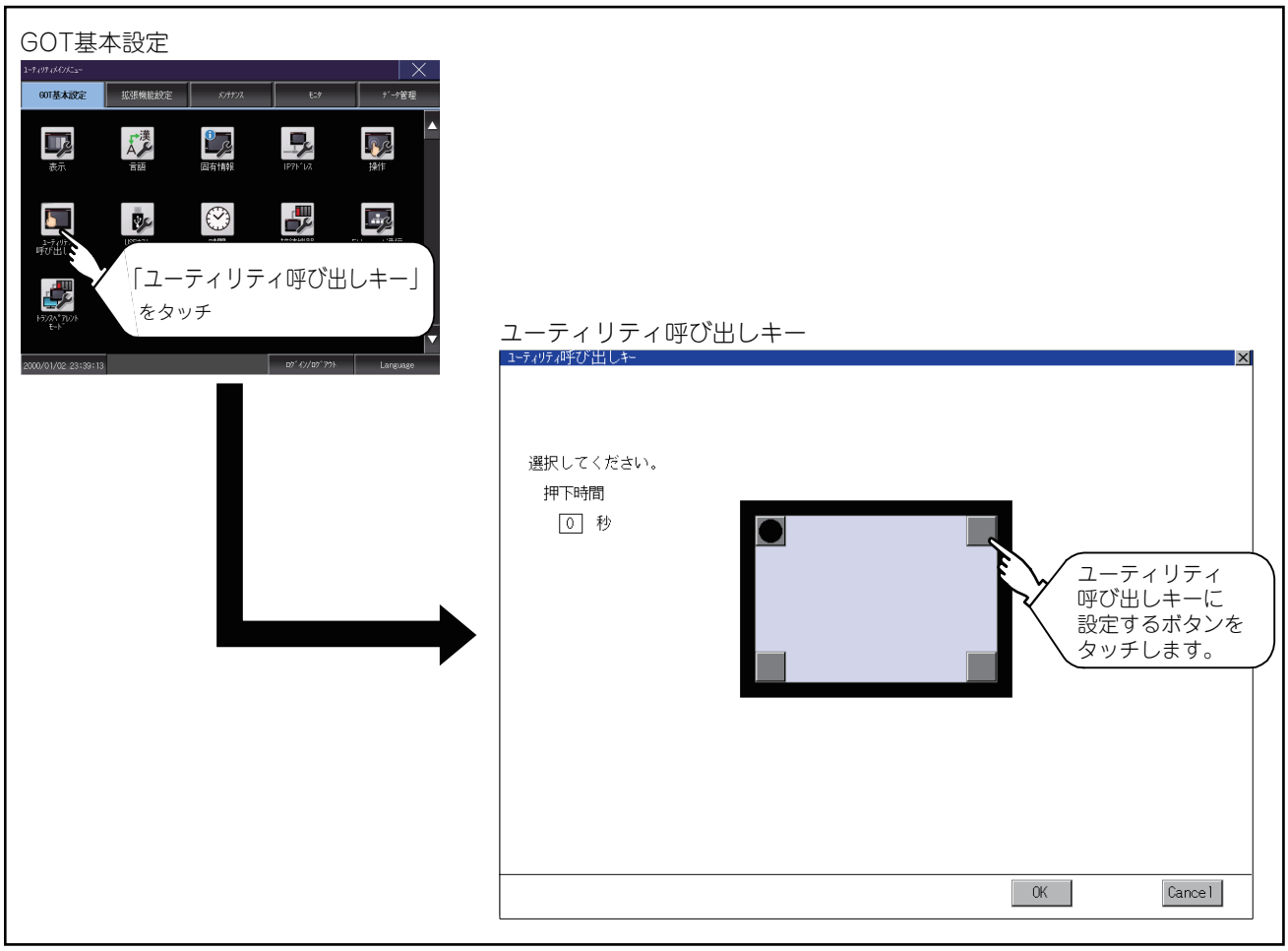
POINT

GT Designer3による操作の設定

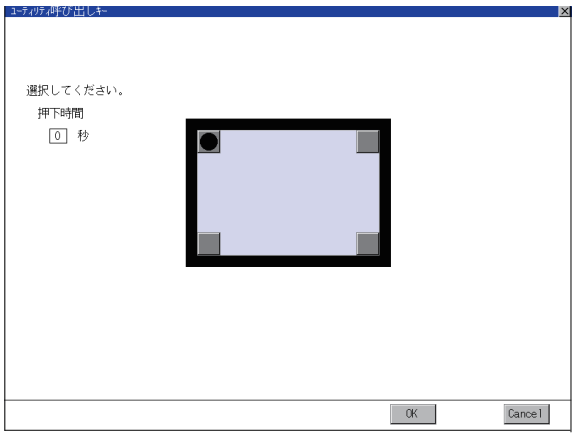
ユーティリティ呼び出しキーの設定は，GT Designer3のGOT環境設定のGOTセットアップで行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOTの表示の設定にて設定を変更してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

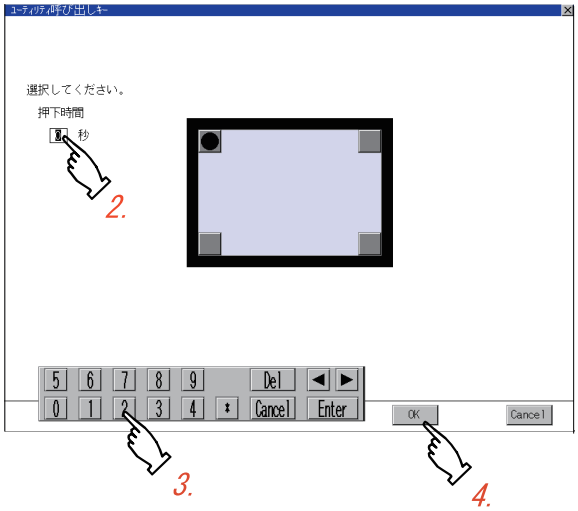
2.6.2　ユーティリティ呼び出しキーの表示操作



2.6.3 ユーティリティ呼び出しキーの設定操作



Step 1. 設定画面の4隅に表示される ● または □ をタッチします。ボタンはタッチするごとに ● ⇄ □ を繰り返します。キー位置に指定する部分を，● にします。
キー位置は，1点まで指定できます。
キー位置を1点も指定しない場合，ユーティリティ呼び出しキーによるユーティリティの表示はできません。



Step 2. キー位置を押しつづけたときにユーティリティへ切り換える時間を設定します。
時間の入力エリアをタッチします。

Step 3. 入力エリアをタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。

Step 4. [OK]ボタンをタッチすると，変更した設定が反映され，[操作に関する設定]画面に戻ります。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[操作に関する設定]画面に戻ります。

Step 5. [操作に関する設定]画面で，[OK]，[Cancel]，[×]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。

POINT

(1) ユーティリティ呼び出しキーが指定なしの場合

ユーティリティ呼び出しキーを使用しないでユーティリティを表示するには，下記の方法があります。

(a) GT Designer3でプロジェクトデータを変更する

Step 1. GT Designer3で，プロジェクトデータを読み出してください。

Step 2. GT Designer3で，下記のいずれかの設定を行ってください。
- [環境設定]ダイアログの[表示/操作]タブで，ユーティリティ呼び出しキーを設定
- ユーザ作成画面に，ユーティリティを表示する拡張機能スイッチを設定

Step 3. 設定を変更したプロジェクトデータを，GOTに書き込んでください。

(b) GOTでユーティリティの強制起動操作を行う

GOTの電源投入後，画面左上に[Booting]が表示されている間にS.MODEスイッチを押すと，ユーティリティが表示されます。
ユーティリティの表示を制限する場合，GT Designer3でパスワードを設定してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) アラームポップアップ表示使用時の注意事項

アラームポップアップ表示の[表示位置切り換え]を[する]に設定した場合，ユーティリティ呼び出しキーに下記のいずれかの設定をしてください。

•ユーティリティ呼び出しキーの位置を右上または右下に設定

•ユーティリティ呼び出しキーの[押下時間]を1秒以上に設定

ユーティリティ呼び出しキーの[押下時間]を0秒，位置を左上または左下に設定すると，ユーティリティ呼び出しキーとアラームポップアップ表示の位置が重なった場合，アラームポップアップ表示の表示位置切換え操作をすると，ユーティリティが表示されます。

アラームポップアップ表示については，下記を参照してください。

➠ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

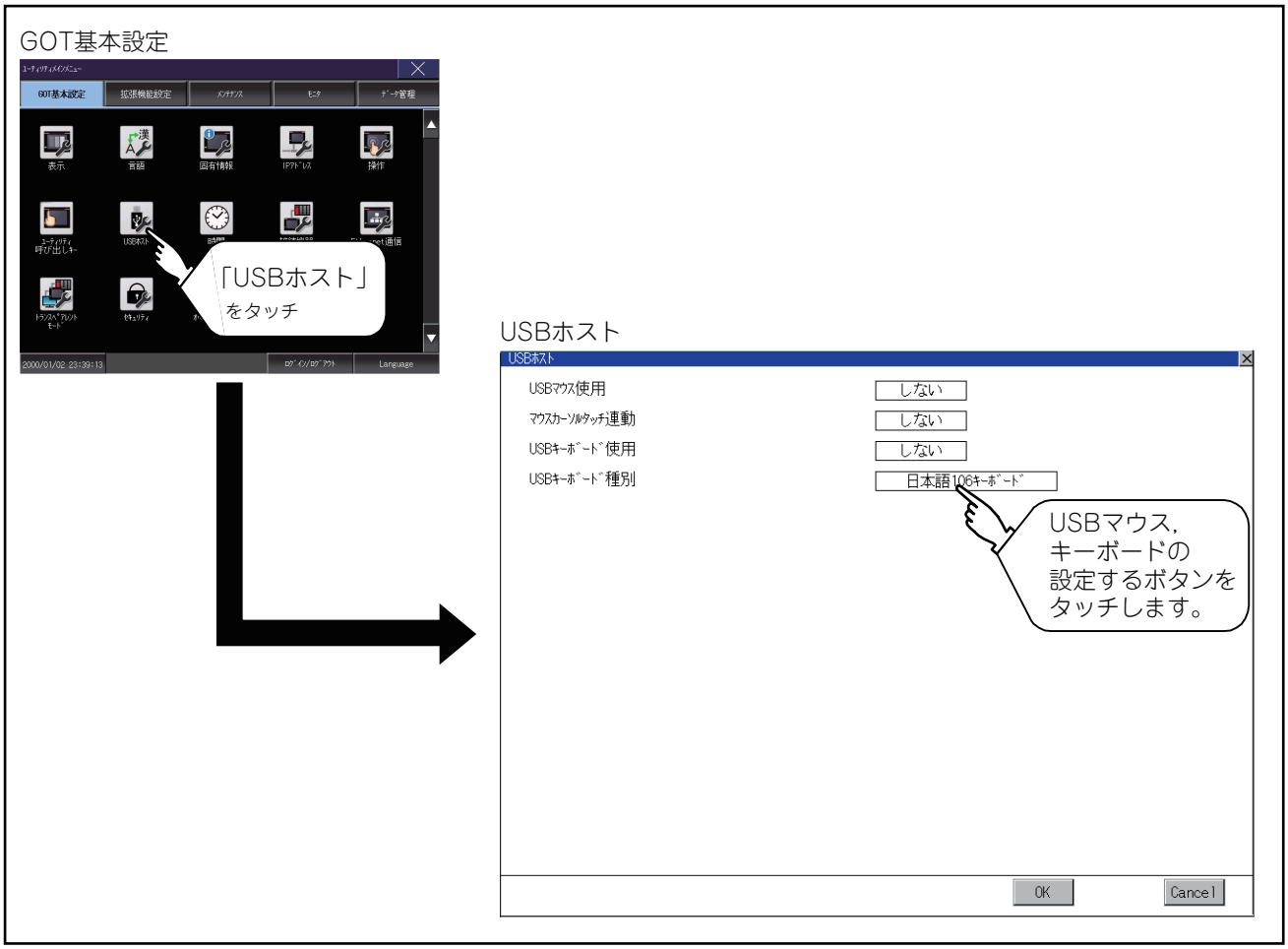
2.7 USBホスト

2.7.1 USBホストの設定機能

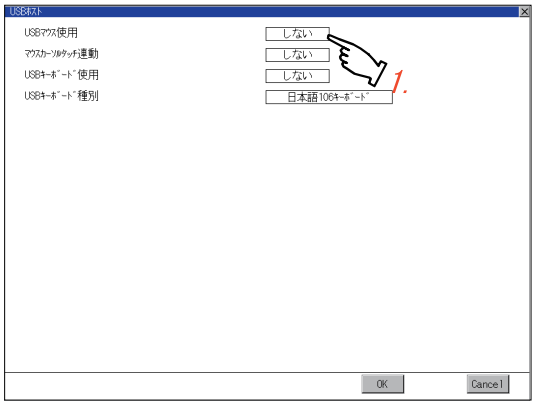
GOT に USB マウス，キーボードを装着して使用する場合，USB マウス，キーボードの設定を行います。

項目	内容	設定範囲
USB マウス使用	USB マウスを使用するかしないかを設定できます。	する / しない ＜デフォルト：しない＞
マウスカーソルタッチ連動	タッチした場所にマウスカーソルを移動させることができます。	する / しない ＜デフォルト：しない＞
USB キーボード使用	USB キーボードを使用するかしないかを設定できます。	する / しない ＜デフォルト：しない＞
USB キーボード種別	USB キーボードの種別を設定できます。	日本語 106 キーボード / 英語 101 キーボード ＜デフォルト：日本語 106 キーボード＞

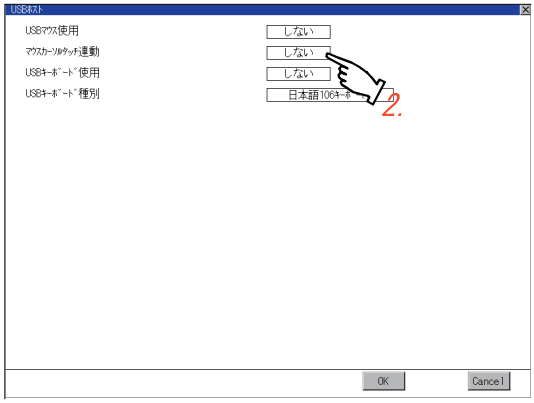
2.7.2 USBホストの表示操作



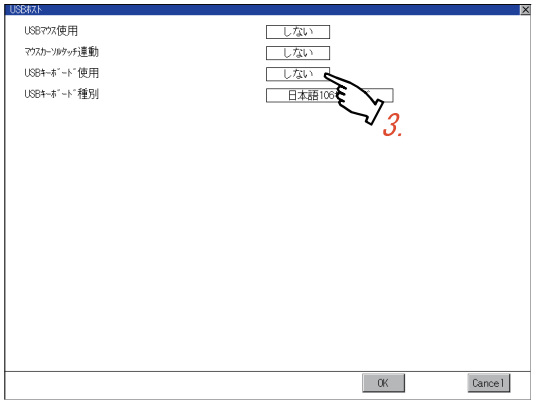
2.7.3 USBホストの設定操作



Step 1. USBマウスを使用する場合は，[USBマウス使用]の設定項目をタッチします。
タッチすると設定内容が変わります。
（する⇄しない）

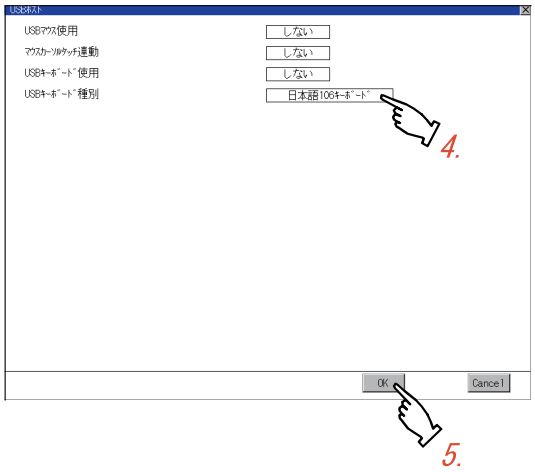


Step 2. タッチした場所にマウスカーソルを移動させる場合は，[マウスカーソルタッチ連動]の設定項目をタッチします。
タッチすると設定内容が変わります。
（する⇄しない）



Step 3. USBキーボードを使用する場合は，[USBキーボード使用]の設定項目をタッチします。
タッチすると設定内容が変わります。
（する⇄しない）

（次のページへつづく）



Step 4. USB キーボードを使用する場合は，[USB キーボード種別]の設定項目をタッチします。タッチすると設定内容が変わります。(日本語106 キーボード⇄英語101キーボード)

Step 5. [OK]ボタンをタッチすると，変更した設定が反映され，[USBホスト]画面に戻ります。[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[USBホスト]画面に戻ります。

Step 6. [操作]画面で，[OK]，[Cancel][×]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。

2.8 時間

2.8.1 時間の設定機能

時間に関する設定ができます。

機能	内容	参照先
時計管理	GOT の時計データと GOT と接続した接続機器の時計データとで，時刻を合わせる方法を設定します。	(1) 時計管理
時計表示	GOT の時計データの表示および設定を行います。	(2) 時計表示
本体内蔵バッテリ電圧状態	本体内蔵バッテリの電圧状態が表示されます。	(3) 本体内蔵バッテリ電圧状態

POINT

時刻の変更について

時間の表示と設定で時刻を変更した場合，時刻合わせ，時刻通知に関係なく，変更した時刻をシーケンサに書き込みます。
そのため，時刻合わせ使用時でも，GOTでシーケンサの時刻の変更ができます。
(この場合，GT Designer3の[GOTセットアップ](時計設定)で，[GOT の時計データを外部機器の時計データに合わせる(時刻合わせ)]の[基準CH No.]に設定したCH No. の接続機器に対して時計データを変更します。)
時刻合わせ，時刻通知の詳細については，下記を参照してください。

➠ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

2.8.2 時間の表示操作

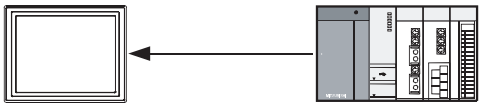
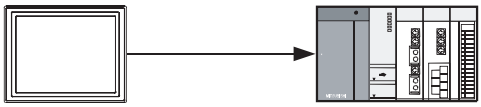
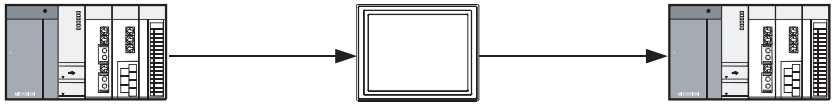
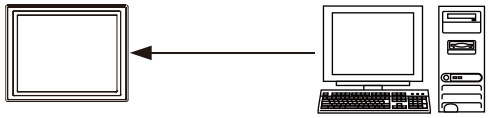
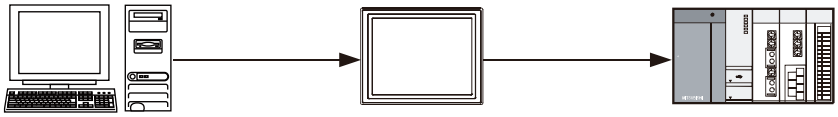
GOT基本設定

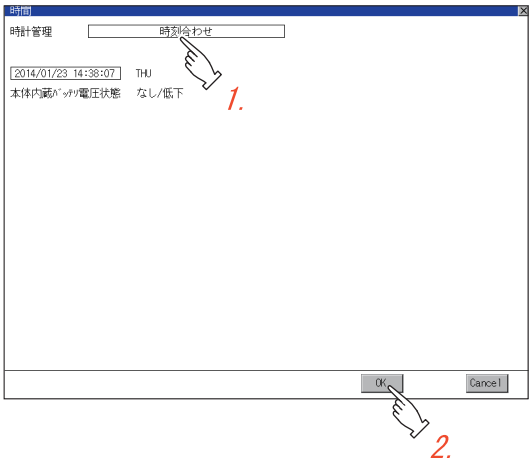
時間

2.8.3 時間の設定操作

(1) 時計管理

GOTの時計データとGOTと接続した接続機器の時間データとで，時刻を合わせる方法を設定します。

設定	内容
時刻合わせ	GOTの時計データを接続機器の時計データに合わせます。  GT Designer3のGOT環境設定のGOTセットアップで設定した場合と同じです。 ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ
時刻通知	接続機器の時計データをGOTの時計データに合わせます。  GT Designer3のGOT環境設定のGOTセットアップで設定した場合と同じです。 ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ
時刻合わせ/時刻通知	接続機器の時計データに，GOTと他の接続機器の時計データを合わせます。  GT Designer3のGOT環境設定のGOTセットアップで設定した場合と同じです。 ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ
時刻合わせ(SNTP有効)	GOTの時計データをSNTPサーバの時計データに合わせます。  GT Designer3のGOT環境設定のGOTセットアップで設定した場合と同じです。 ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ
時刻合わせ/時刻通知 (SNTP有効)	SNTPサーバの時計データに，GOTと他の接続機器の時計データを合わせます。  GT Designer3のGOT環境設定のGOTセットアップで設定した場合と同じです。 ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ
未使用	時計データの時刻を合わせません。



Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります

時刻合わせ ←
↓
時刻通知
↓
時刻合わせ／時刻通知
↓
時刻合わせ(SNTP有効)
↓
時刻合わせ／時刻通知(SNTP有効)
↓
未使用

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

POINT

(1) 時計機能を持たない外部機器と接続時

時計機能を持たない外部機器(シーケンサやマイコン)と接続時，時計管理で“時刻合わせ”，または“時刻通知”の設定を行った場合，時計データの時刻を合わせません。
時計機能を持っているシーケンサの一覧は，下記を参照してください。

➡ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) マルチチャンネル機能使用時の時計管理

時刻通知，時刻合わせの対象とする機器のチャンネルNo.は，ユーティリティでは設定できません。
時刻通知，時刻合わせを対象とする機器は，GT Designer3で設定できます。
チャンネル設定に関しては，下記を参照してください。

➡ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(3) 時計管理の設定とバッテリ

GOTを購入時，GOTのコネクタとバッテリのコネクタは接続していません。
時計管理で“時刻通知”や“未使用”を選択した場合，GOTとバッテリの接続時に一度時計の設定を行ってください。

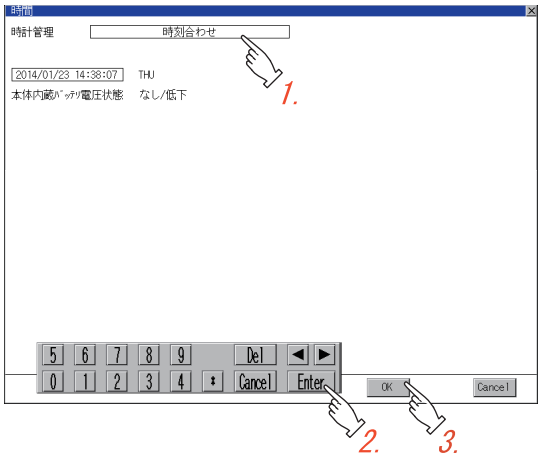
(4) GT Designer3による操作の設定

時計管理の設定は，GT Designer3のGOT環境設定のGOTセットアップで行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOTの表示の設定にて設定を変更してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) 時計表示

GOTの時計データの表示と設定を行います。
時計データの設定方法を下記に示します。



Step 1. 時計表示をタッチすると，入力用のキーボードが表示され，時計の更新が止まります。

Step 2. 下表を参照してキーボードを操作し，時刻を入力します。
入力した時刻は手順3の操作で時計データに反映されるので，手順3の操作を行う予定時刻を入力してください。
曜日の表示は，入力された時刻に対応し，自動的に表示されます。
時計の設定有効範囲を下記に示します。
2000年1月1日～2037年12月31日

キー	内容
[0] ～ [9]	カーソルの位置に数値を入力します。
◀, ▶	カーソルを移動します。
[Del]	年，月，日，時，分，秒の各項目を入力中に [Del] キーをタッチした場合は，カーソルを一文字分左に移動します。 入力中以外に [Del] キーをタッチした場合は，何もしません。
[Enter]	入力された時刻を時計表示に表示したまま，キーボードを閉じます。 キーボードを閉じても時計表示の更新は再開しません。 手順 3 の操作を行うと再開します。
[Cancel]	入力された時刻を破棄し，時計表示の時刻をキーボードが表示されたときの時刻に戻して，キーボードを閉じます。 キーボードを閉じても時計表示の更新は再開しません。 手順 3 の操作を行うと再開します。

Step 3. [OK]ボタンをタッチすると，変更した設定が反映され，メインメニューに戻ります。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

(3) 本体内蔵バッテリ電圧状態

バッテリの電圧状態が表示されます。

表示	状態
正常	正常時
低下，なし	電圧低下発生時

バッテリ電圧低下時は速やかにバッテリを交換してください。
バッテリの交換手順は下記を参照してください。

➠ ☞ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ハードウェア編)

2.9 接続機器

2.9.1 接続機器の設定機能

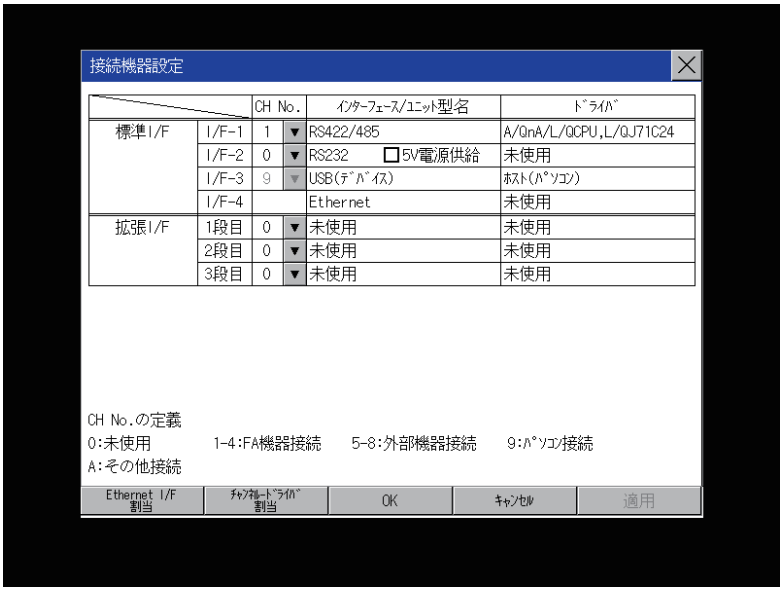
接続機器の設定ができます。
設定できる項目には下記のものがあり，各項目部をタッチすると，それぞれの設定が可能な状態になります。

機能	内容
Ethernet I/F 割当	Ethernet インタフェースで接続した機器のチャンネル番号と通信ドライバ名称の割付を変更します。
チャンネルードライバ割当	チャンネル番号と通信ドライバ名称の割付けを変更します。
チャンネル番号 (Ch No.) 設定	通信インタフェース (標準インタフェース，拡張インタフェース) のチャンネル番号を設定します。
5V 電源供給	RS-232 インタフェースに接続機器を接続する場合，9 ピン経由で接続機器に DC5V 電源を供給する，しないを選択することができます。
接続機器詳細設定	接続機器の通信パラメータを設定します。

2.9.2 接続機器の表示操作

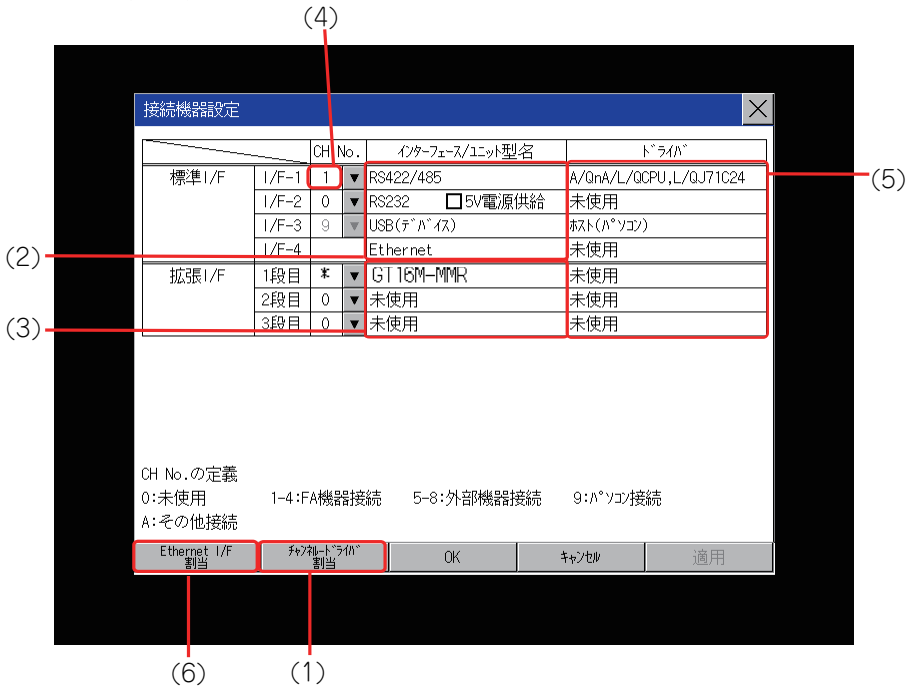
GOT基本設定

接続機器



2.9.3 接続機器の内容

接続機器の設定項目や，表示内容について説明します。



(1) チャンネルードライバ割当

(a) チャンネルに対する通信ドライバの割り当て

GOTへインストールした通信ドライバに対して，チャンネル番号を割り当てることができます。
GT Designer3の[接続機器の設定]を設定していない場合でも，本機能でチャンネル番号を割り当てることにより接続機器と通信できます。

➡ ☞ 2.9.4 ■チャンネルードライバ割当操作

(b) チャンネルに対する通信ドライバの割り当てを変更

GT Designer3を使用しないで，チャンネルに対する通信ドライバの割り当てを変更できます。
通信ドライバを変更する場合は，あらかじめ通信ドライバがGOTにインストールされている必要があります。

(2) 標準インタフェース表示ボックス

GT16に標準装備されている通信インタフェースを表示します。
以下の4種類があります。

RS-232.....	パソコン(GT Designer3)または接続機器との通信用
RS-422/485..	接続機器との通信用
USB.....	パソコン(GT Designer3)との通信用
Ethernet.....	パソコン(GT Designer3)または接続機器との通信用

(3) 拡張インタフェース表示ボックス

拡張インタフェースに装着されているユニットの形名を表示します。
(ユニットが装着されていない場合，[未使用]と表示します。)
各ユニットの詳細は，下記を参照してください。

➡ ☞ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ハードウェア編)

(4) チャンネル番号指定メニューボックス

標準インタフェースや拡張インタフェースで使用するチャンネル番号を設定します。
各チャンネルに割付け可能なドライバについては，(5)を参照してください。

0:	通信インタフェース未使用時に設定します。
1～4:	接続機器との接続時に設定します。 (指紋認証ユニット，バーコードリーダ，RFIDコントローラ，パソコンを除く)
5～7: *1 *2	バーコードリーダ，RFIDコントローラ，パソコンとの接続時に設定します。 拡張I/Fのみ設定が可能です。
8: *1 *2	指紋認証ユニット，バーコードリーダ，RFIDコントローラ，パソコンとの接続時に設定します。 標準I/Fのみ設定が可能です。
9: *1	パソコン(GT Designer3)との接続時に設定します。(USB，RS-232インタフェースに対しては，どちらへも同時設定可。ただし一方が交信中の場合，他方は交信不可)
*:	ゲートウェイ機能(接続機器との接続がEthernet接続時以外)，MESインタフェース機能，Ethernetダウンロード機能時，レポート機能，ハードコピー(プリンタ出力時)，ビデオ表示，RGB表示，RGB出力，外部入出力，操作パネル機能，音声出力，マルチメディアを使用する機能を使用時に設定します。

- USBインタフェースに対しては，自動的に[9]に設定されます。

*1 *1 Ethernet I/F 割当では，割当てることはできません。
*2 *2 ChNo.5～ChNo.8で同じ機器を同時に使用できません。
外部機器の制約については，下記を参照してください。

➡ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル
➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(5) ドライバ表示ボックス

チャンネルに割り付けられている通信ドライバの名称やGT Designer3の接続機器の設定で設定したドライバが表示されます。
表示されるドライバの詳細については，下記を参照してください。

➡ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル
➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

以下に示すいずれかの場合，ドライバ表示ボックスには[未使用]と表示されます。
- 通信ドライバがインストールされていない場合。
- チャンネル番号指定メニューボックスに[0]を設定している場合。
- 拡張インタフェース側において，装着している通信ユニットの種類と通信ドライバが互いに一致していない場合。

標準I/F-1にチャンネル番号を[9]に設定した場合，通信ドライバ[ホスト(パソコン)]，[ホスト(モデム)]が選択できます。
また，標準I/F-2にチャンネル番号を[9]に設定した場合は，通信ドライバ[ホスト(パソコン)]に自動的に割付されます。
通信ドライバの設定方法については，下記を参照してください。

➡ ☞ 2.9.4 ■ホスト(パソコン)の設定

(6) Ethernet I/F 割当

Ethernet接続時の接続機器設定が設定できます。
Ethernet I/F 割当では1つのインタフェースに対し，最大4つのチャンネルが割当てることができます。

➡ ☞ 2.9.4 ■Ethernet I/F割当操作

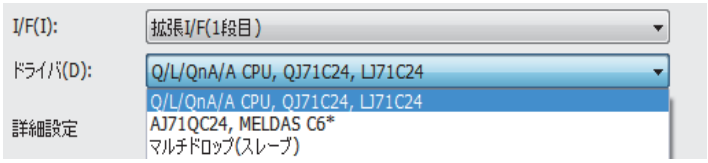
POINT

GOTと接続機器との通信を行うためのご注意

(1) 通信ドライバのインストールと接続機器設定のダウンロード

接続機器との通信を行うために，通信インタフェースに対して，下記を行う必要があります。

① 通信ドライバのインストール(最大４つ)
② 通信インタフェースに対するチャンネル番号，通信ドライバの割付け
③ ②で割付けした内容(プロジェクトデータ)のダウンロード
上記①，②，③はGT Designer3により，行ってください。

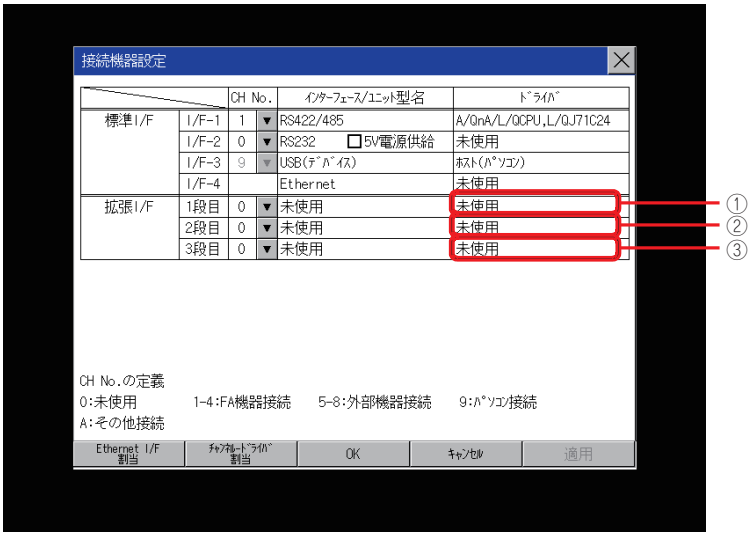


詳細は，下記を参照してください。

➡ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル
GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) 接続機器設定がダウンロードされていない場合

GOTは，インストールされている通信ドライバを，下記①～④の順で自動に割り付けます。
(自動で割り付けるのは拡張インタフェースのみです。)



①: ChNo.1，1番目にインストールされた通信ドライバ
②: ChNo.2，2番目にインストールされた通信ドライバ
③: ChNo.3，3番目にインストールされた通信ドライバ

(a) 自動で割付け後について

自動で割付け後に，[OK]ボタンを押して設定をGOTに保存した場合，次回起動時からは自動割付けは行われません。

(b) GT Designer3の[接続機器の設定]との優先度

自動で割付け後に，GT Designer3で接続機器の設定をGOTにダウンロードすると，GOTはGT Designer3の接続機器の設定で動作します。(最後に設定した接続機器の設定で動作します。)

(3) 通信ドライバとGOTに装着しているユニットの組合わせが一致しない場合

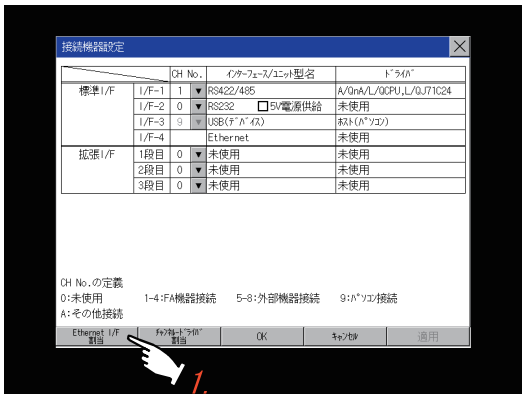
[接続機器設定]を表示時，GOTにエラーが表示されます。
エラーが表示された場合は，通信ドライバと通信ユニットの組合わせを確認してください。
組合わせについては，下記マニュアルを参照してください。

➡ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル

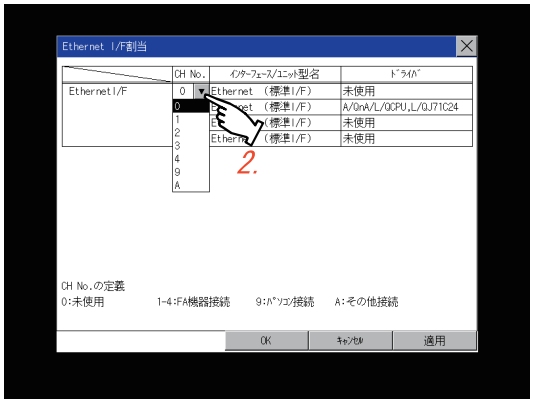
2.9.4 接続機器設定の操作

■ Ethernet I/F 割当操作

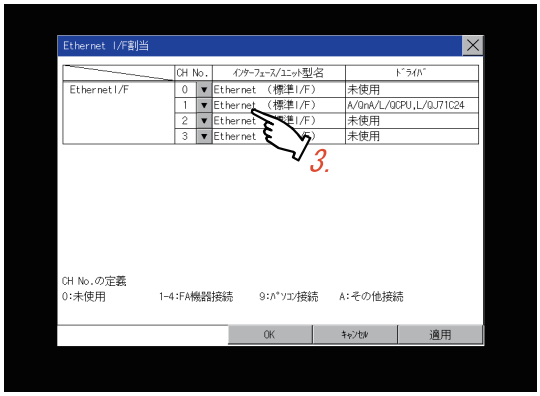
Ethernet I/F 割当の操作方法を説明します。
接続機器設定画面の設定操作方法と同じです。



Step 1. [接続機器設定]で[Ethernet I/F割当]ボタンをタッチします。



Step 2. 左記の画面が表示されるので，チャンネル番号の変更を行う場合はチャンネル番号を選択します。
☞ ■チャンネル番号設定操作



Step 3. パラメータの設定変更を行う場合はドライバ表示ボックスをタッチします。
☞ 2.9.5 接続機器詳細設定

Step 4. 設定完了後，[OK]ボタンをタッチすると，変更した設定が反映され，[接続機器設定]画面に戻ります。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[接続機器設定]画面に戻ります。

Step 5. [接続機器設定]画面で[OK]，[Cancel]，[×]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。

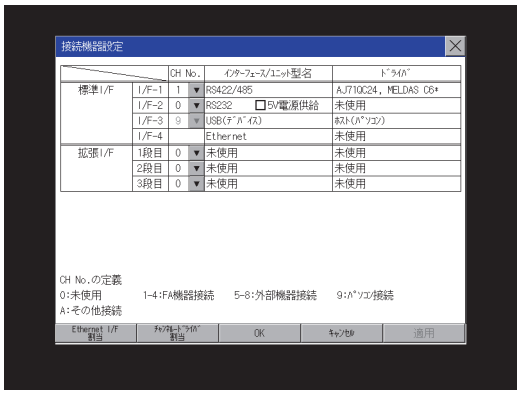
■ チャンネルードライバ割当操作

チャンネルードライバ割当の操作方法を説明します。
本項では，計算機リンク接続の GOT(通信ドライバ：[AJ71QC24, MELDAS C6*]) に対して，CPU 直接接続 (通信ドライバ：[Q/L/QnA/A CPU, QJ71C24, LJ71C24]) に変更する場合の例を説明します。

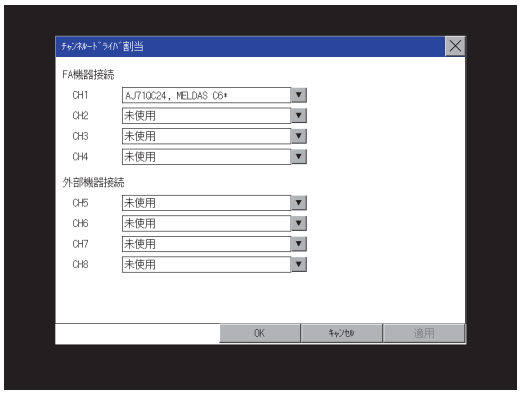
POINT

操作を行う前に

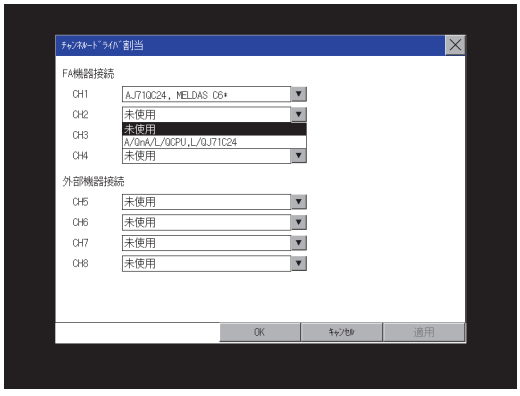
本設定を実行すると，GOTは自動的に再起動します。
また，プロジェクトデータがダウンロードされていると，再起動後に接続機器のモニタを開始します。
安全を十分確認した上で，本設定を実行してください。



Step 1. GOTに通信ドライバ[Q/L/QnA/A CPU, QJ71C24, LJ71C24]をインストールします。
(GT Designer3からの[接続機器の設定]のダウンロードは不要です。)
通信ドライバインストール後，[接続機器設定]で[チャンネル-ドライバ割当]ボタンをタッチします。

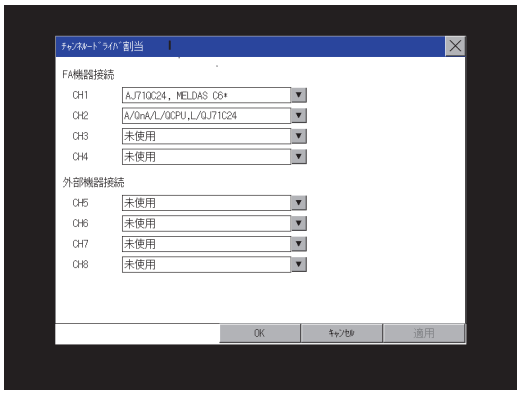


Step 2. 左記の画面が表示されるので，チャンネルごとに割り当てるドライバを選択します。

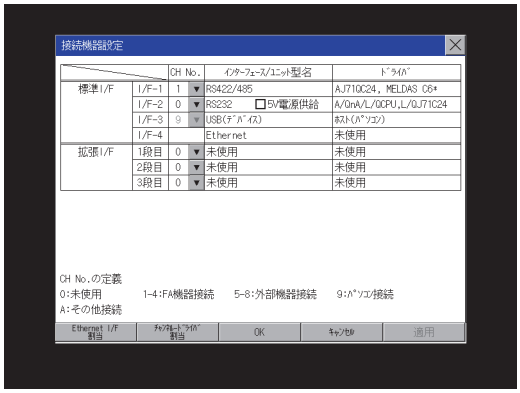


Step 3. GOTにインストールされている通信ドライバ([Q/L/QnA/A CPU, QJ71C24, LJ71C24])が表示されるので，タッチします。

(次のページへつづく)



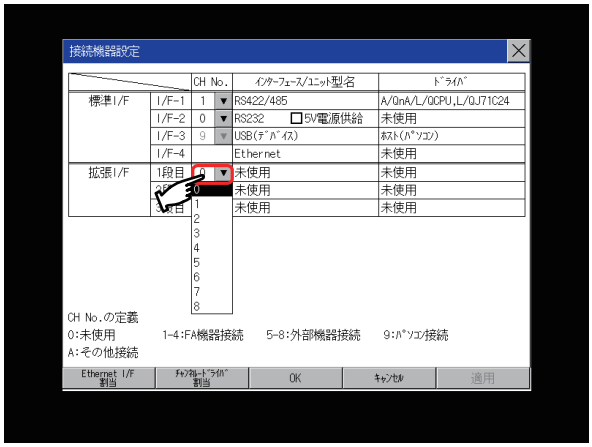
Step 4. [チャンネル-ドライバ割当]画面に戻るので，[OK]ボタンをタッチすると，変更した設定が反映され，[接続機器設定]画面に戻ります。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[接続機器設定]画面に戻ります。



Step 5. 選択した通信ドライバ([Q/L/QnA/A CPU, QJ71C24, LJ71C24])が割り当てられていることを確認してください。

Step 6. 確認後，[OK]，[Cancel]，[×]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。

■ チャンネル番号設定操作



Step 1. 設定するチャンネル番号をタッチします。

Step 2. チャンネル番号が表示されます。

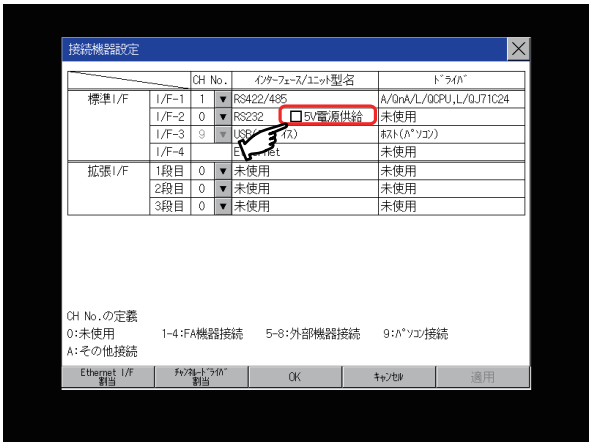
Step 3. チャンネル番号を選択すると，値が確定します。
同時に，GT Designer3で割付けしたチャンネル番号に対応した通信ドライバの名称がドライバ表示ボックスに表示されます。

■ 接続機器詳細設定への切換え操作

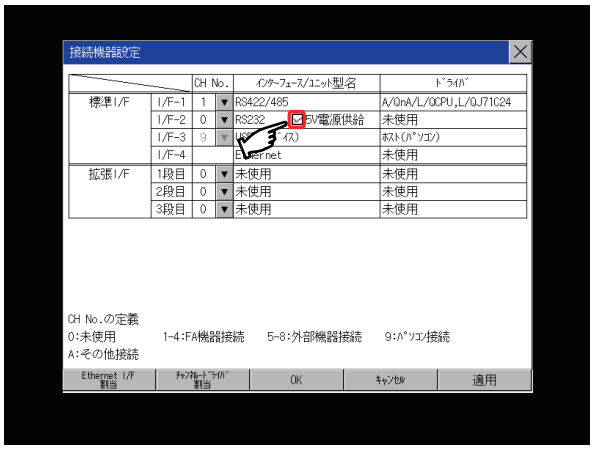
1. 接続機器設定画面または Ethernet I/F 割当て画面のドライバ表示ボックスをタッチすると関連する接続機器の詳細設定に切り換わります。
(☞ 2.9.5 接続機器詳細設定)

■ 5V 電源供給の設定操作

RS-232 インタフェースに接続機器を接続する場合，9 ピン経由で接続機器に DC5V 電源を供給する，しないを選択することができます。
このため，外部電源を接続する必要がなくなります。
RS-232 インターフェースを 9(ホスト (パソコン)) に設定したときは，自動的に 5V 電源供給を [しない] に変更します。



Step 1. [5V電源供給]をタッチします。



Step 2. タッチすると，5V電源を供給する設定であることを示すチェックが表示されます。

Step 3. [OK]，[キャンセル]，[×]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。

■ ホスト (パソコン) の設定

[パソコン接続種別] で [ホスト (パソコン)] を選択した場合，設定は不要です。
*1

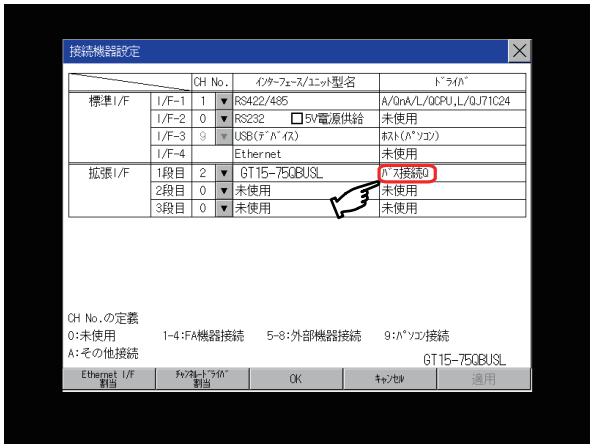
2.9.5 接続機器詳細設定

■ 接続機器詳細設定の設定機能

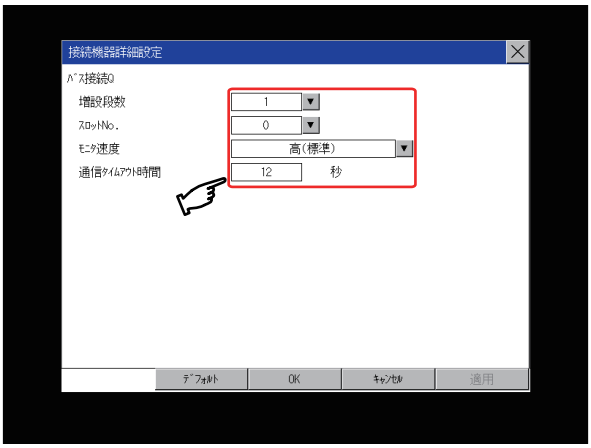
機能	内容
通信パラメータ設定	接続機器の各種通信パラメータを設定できます。 設定できるパラメータは接続機器により異なります。
キーワード設定	接続機器が FX シリーズシーケンサの場合，シーケンサ内のプログラム保護のためのキーワードを設定できます。
キーワード削除	接続機器が FX シリーズシーケンサの場合，シーケンサ内のプログラム保護のためのキーワードを削除できます。
キーワード保護解除	接続機器が FX シリーズシーケンサの場合，シーケンサ内のプログラム保護状態を解除できます。
キーワードプロテクト	接続機器が FX シリーズシーケンサの場合，シーケンサ内の解除したプログラム保護を再度保護の状態にできます。

■ 接続機器詳細設定の表示操作

(1) 接続機器設定の場合



Step 1. 接続機器で，設定を行う通信パラメータのドライバ表示ボックスをタッチします。



Step 2. 接続機器詳細設定へ切り換わります。この画面から，通信パラメータを設定します。
設定変更の操作は，下記を参照してください。
☞ 1.3.3 設定変更の基本操作

POINT

(1) GT Designer3による通信パラメータ設定

それぞれの通信ドライバに対する通信パラメータの設定は，GT Designer3の接続機器の設定で行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に通信パラメータの設定を変更する場合には，GOTの接続機器詳細設定にて設定を変更してください。

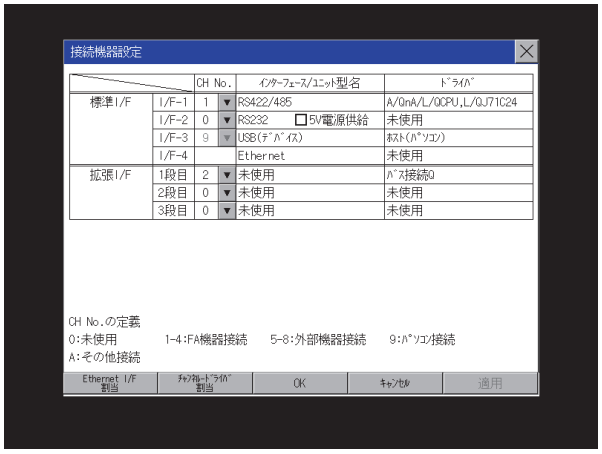
➡ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル
GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) Ethernetマルチ接続している場合

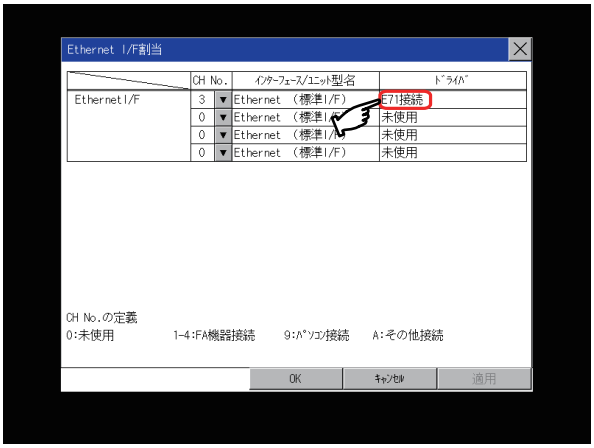
Ethrenet接続のドライバ表示ボックスをタッチすると，チャンネル番号1の接続機器詳細設定画面が表示されます。

(2) Ethernet I/F割当の場合

同じEtherenet インタフェースに複数のドライバが割当てられますが，GOTのIPアドレスは1つのインタフェースに対して1つとなります。
ひとつのインタフェースに対して設定変更することにより，同じインタフェースに割当てられる他ドライバのGOT IPアドレス，GOTポートNo.ダウンロード，デフォルトゲートウェイ，サブネットマスク設定が連動して変更されます。



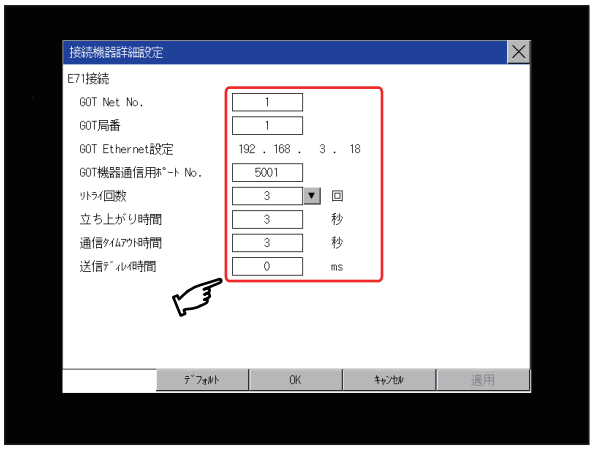
Step 1. 接続機器で，[Ethernet I/F割当]ボタンをタッチします。



Step 2. [Ethernet I/F割当]画面で，設定する通信パラメータのドライバ表示ボックスをタッチします。

⇩

(次のページへつづく)



Step 3. 接続機器詳細設定へ切り換わります。
この画面から，通信パラメータを設定します。
設定変更の操作は，下記を参照してください。
☞ 1.3.3 設定変更の基本操作

POINT

GT Designer3による通信パラメータ設定

それぞれの通信ドライバに対する通信パラメータの設定は，GT Designer3の接続機器の設定で行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に通信パラメータの設定を変更する場合には，GOTの接続機器詳細設定にて設定を変更してください。

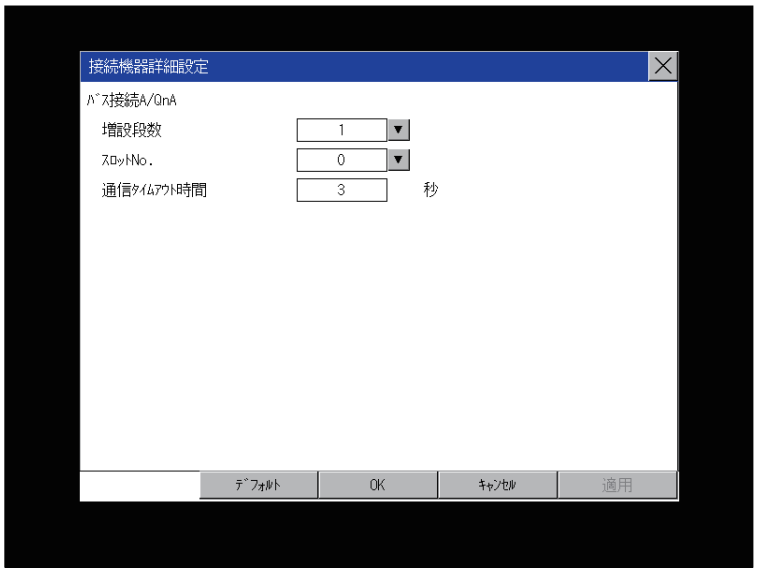
➠ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル
➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

■ 接続機器詳細設定の表示内容

接続機器詳細設定の内容は，ドライバの種類により異なります。

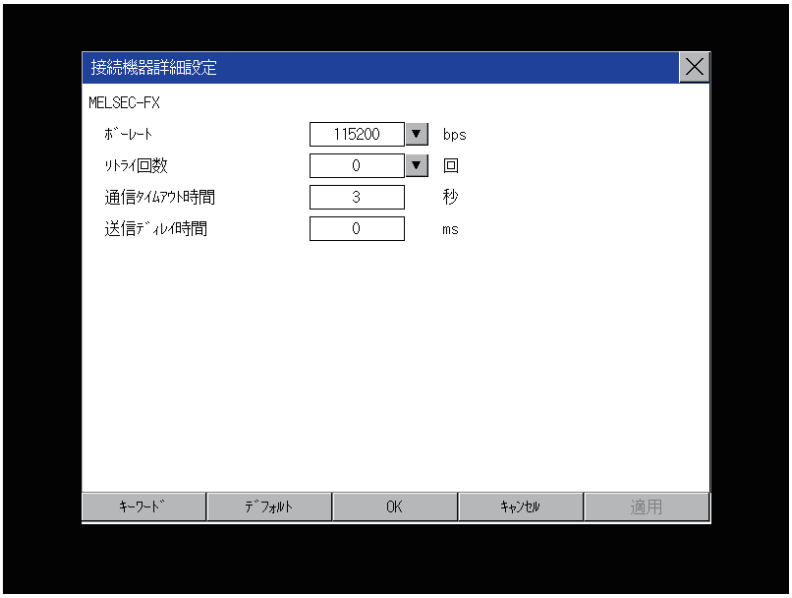
本項では，GT Designer3 の接続機器詳細設定と異なる項目についてのみ説明します。
本項に示す以外の設定項目については，下記を参照してください。

➠ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル
➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ



(1) キーワードの登録，削除，保護解除，プロテクト

MELSEC-FX



(a) 登録

キーワードの登録を行います。

Step 1. [キーワード]ボタンをタッチすると，キーワード入力用キーボードがポップアップ表示されます。

Step 2. キーワードを入力し，[Enter]キーをタッチすると登録が完了します。
キーワードは，A～F，0～9で，最大8桁まで設定できます。

接続シーケンサ	設定	
	キーワードと第２キーワードを登録した場合	キーワードのみ登録した場合
第２キーワード対応の FX シーケンサ	[登録条件]*1 を選択できます。	[登録条件]*1 は選択できません。
第２キーワード未対応の FX シーケンサ	－	

*1 *1 [登録条件]について
[読出/書込禁止]，[書込禁止]，[全てのオンライン操作禁止]からアクセス制限を選択できます。
各設定時のアクセス制限は，下記を参照してください。

➠ ☞ 使用するFXシーケンサのマニュアル

POINT

(1) キーワードの保護レベルの選択方法

FXシーケンサに対してオンライン操作が可能な機器に対しては，3段階の保護レベルが設定できます。
オンライン機器によるモニタや設定変更などを必要とする場合は，下記を考慮したキーワードを設定してください。

(a) キーワードのみ登録時

キーワードの先頭文字で保護レベルを選択します。

全操作禁止:	A，D～F，0～9のいずれかで始まるキーワードを設定します。

誤書込，読出禁止: Bで始まるキーワードを設定します。
誤書込禁止: Cで始まるキーワードを設定します。

(b) キーワードと第2キーワードを登録時

[登録条件]で保護レベルを選択します。

(2) キーワードの保護レベルごとのモニタ可否

保護レベルごとのデバイスのモニタ可否は下記のとおりです。

項　目		キーワードのみ登録時			キーワードと第2キーワードを登録時			キーワード未登録，保護解除
		全操作禁止	誤書込，読出禁止	誤書込禁止	全てのオンライン操作禁止	読出，書込禁止	書込禁止	
デバイスのモニタ		○	○	○	×	○	○	○
デバイスの変更	T，C設定値とファイルレジスタ(D1000～)	×	×	×	×	○	○	○
	上記以外	○	○	○	×	○	○	○

(3) 全てのオンライン操作禁止と全操作禁止の違い

全てのオンライン操作禁止を設定時は，プログラミングツール，GOTでのデバイス表示，入力のすべてが禁止されます。
全操作禁止時は，プログラミングツールでの操作はすべて禁止されますが，GOTでのデバイス表示，入力は可能です。

(b) **削除**
登録したキーワードを削除します。

Step 1. [削除]キーをタッチすると，キーワード入力用キーボードがポップアップ表示されます。

Step 2. キーワードを入力し，[Enter]キーをタッチするとキーワードが削除されます。

接続シーケンサ	設定
第 2 キーワード対応の FX シーケンサ	削除するキーワードを入力してください。
第 2 キーワード未対応の FX シーケンサ	キーワードにのみ，削除するキーワードを入力してください。 第 2 キーワードは無視されます。

(c) **保護解除**
キーワードが登録されているFXシーケンサへアクセスするために，キーワードによる保護を解除します。

Step 1. [保護解除]キーをタッチすると，キーワード入力用キーボードがポップアップ表示されます。

Step 2. キーワードを入力し，[Enter]キーをタッチすると保護が解除されます。

接続シーケンサ	設定
第 2 キーワード対応の FX シーケンサ	保護を解除するキーワードを入力してください。
第 2 キーワード未対応の FX シーケンサ	キーワードにのみ，保護を解除するキーワードを入力してください。 第 2 キーワードは無視されます。

(d) **プロテクト**
保護を解除したキーワードを，再度保護の状態にします。

Step 1. [プロテクト]キーをタッチすると，キーワード保護の状態になります。

2.10 Ethernet通信

2.10.1 Ethernet通信の設定機能

GT Designer3で設定したEthernet設定の内容を確認できます。
自局，Net.No.，局番，IPアドレスの変更ができます。
Ethernet設定については，下記を参照してください。

➠ ☞ 使用する接続機器に対応するGOT2000シリーズ接続マニュアル

2.10.2 Ethernet通信の表示操作

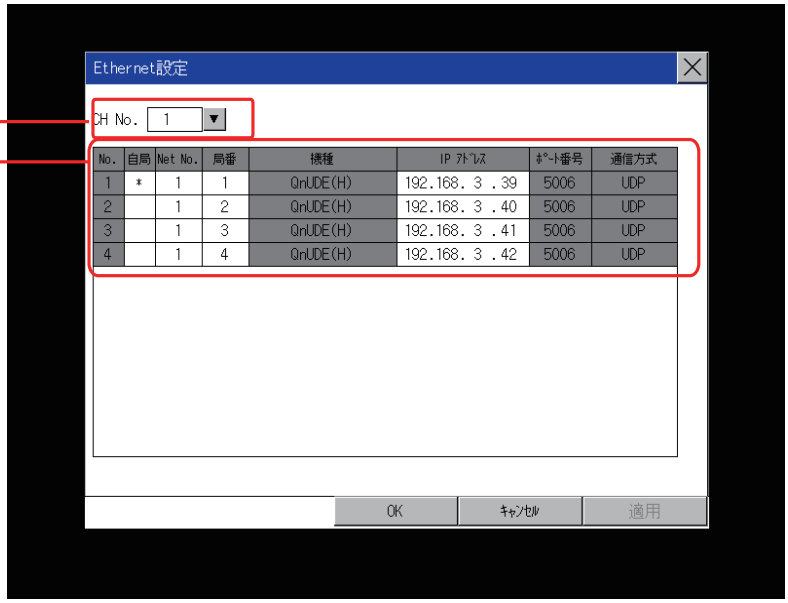
GOT基本設定

Ethernet設定

Ethernet設定
CH No. 1
No. 自局 Net No. 局番 機種 IP アドレス ポート番号 通信方式
1 * 1 1 QnUDE(H) 192.168. 3 . 39 5006 UDP
2 1 2 QnUDE(H) 192.168. 3 . 40 5006 UDP
3 1 3 QnUDE(H) 192.168. 3 . 41 5006 UDP
4 1 4 QnUDE(H) 192.168. 3 . 42 5006 UDP
OK
キャンセル
適用

2.10.3 Ethernet設定の表示内容

Ethernet設定の設定項目や，表示内容について説明します。



(1) チャンネル選択

チャンネルを切換えできます。
Ethernet設定がないチャンネルには切換えできません。
設定を変更したチャンネルの右側には[*]が表示されます。

(2) Ethernet設定項目

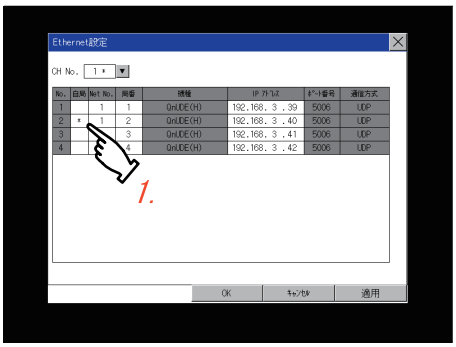
GT Designer3で設定したEthernet設定の内容を表示します。
[自局]，[Net.No.]，[局番]，[IPアドレス]の変更ができます。
☞ ■自局の変更，■Net.No.の変更，■局番の変更，■IPアドレスの変更，

POINT

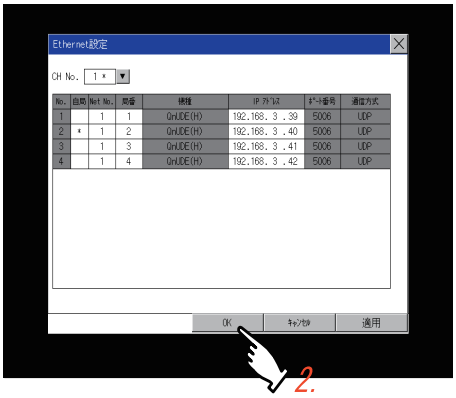
(1) [Ethernet設定]画面で変更した設定が反映される範囲

[Ethernet設定]画面で変更した設定はGOTで有効になりますが，GOTに書き込まれたプロジェクトデータには上書きされません。
設定を変更後にGOTから読み出したプロジェクトデータには，変更した設定は反映されません。
GOT一括データ取得でGOTのデータをコピーした場合は，コピーしたデータに[Ethernet設定]画面での変更が反映されます。

■ 自局の変更

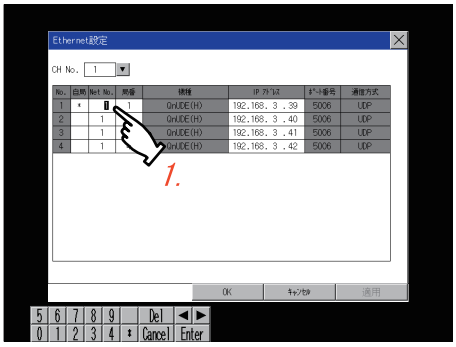


Step 1. 自局に設定する機器をタッチします。

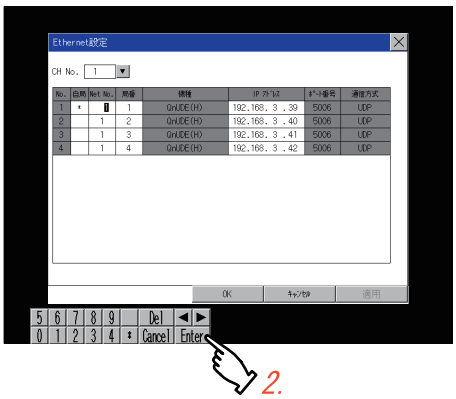


Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[キャンセル]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[接続機器設定]画面に戻ります。

■ Net.No. の変更

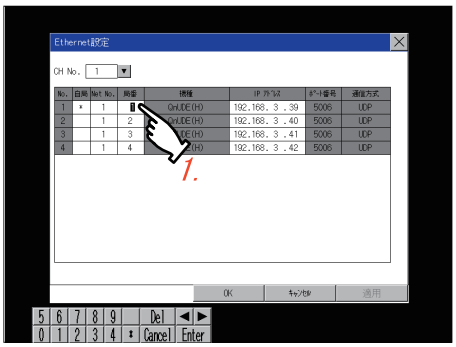


Step 1. 変更するNet.No.をタッチし，表示されるテンキーにて変更するネットワーク番号を入力します。

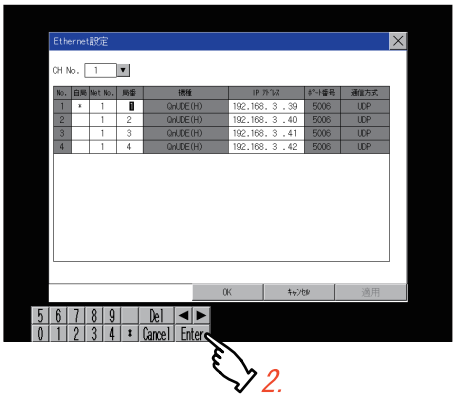


Step 2. [Enter]ボタンをタッチし，[OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[キャンセル]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[GOT基本設定]画面に戻ります。

■ 局番の変更

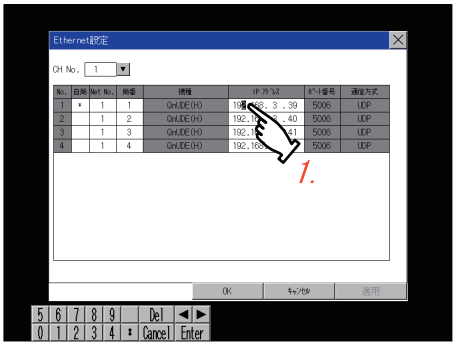


Step 1. 変更する局番をタッチし，表示されるテンキーにて変更する接続先のEthnernetユニットの局番を入力します。

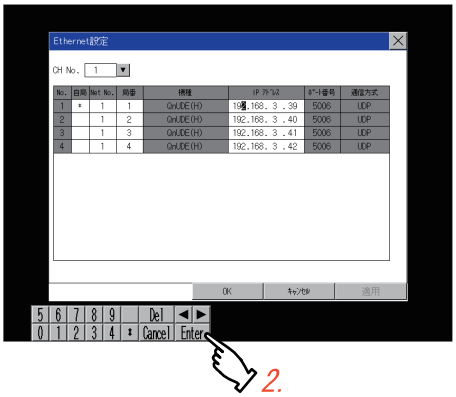


Step 2. [Enter]ボタンをタッチし，[OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[キャンセル]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[GOT基本設定]画面に戻ります。

■ IP アドレスの変更



Step 1. 変更するIPアドレスをタッチし，表示されるテンキーにて変更する接続先のIPアドレスを入力します。



Step 2. [Enter]ボタンをタッチし，[OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[キャンセル]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[GOT基本設定]画面に戻ります。

2.11　トランスペアレントモード

2.11.1　トランスペアレントモードの設定機能

マルチチャンネル機能使用時，FA トランスペアレント機能をどのチャンネル No. の接続機器に対して実行するか指定することができます。マルチチャンネルに関しては，下記を参照してください。

➠ ☞ GOT2000シリーズ接続マニュアル(三菱電機機器接続編) GT Works3 Version1対応

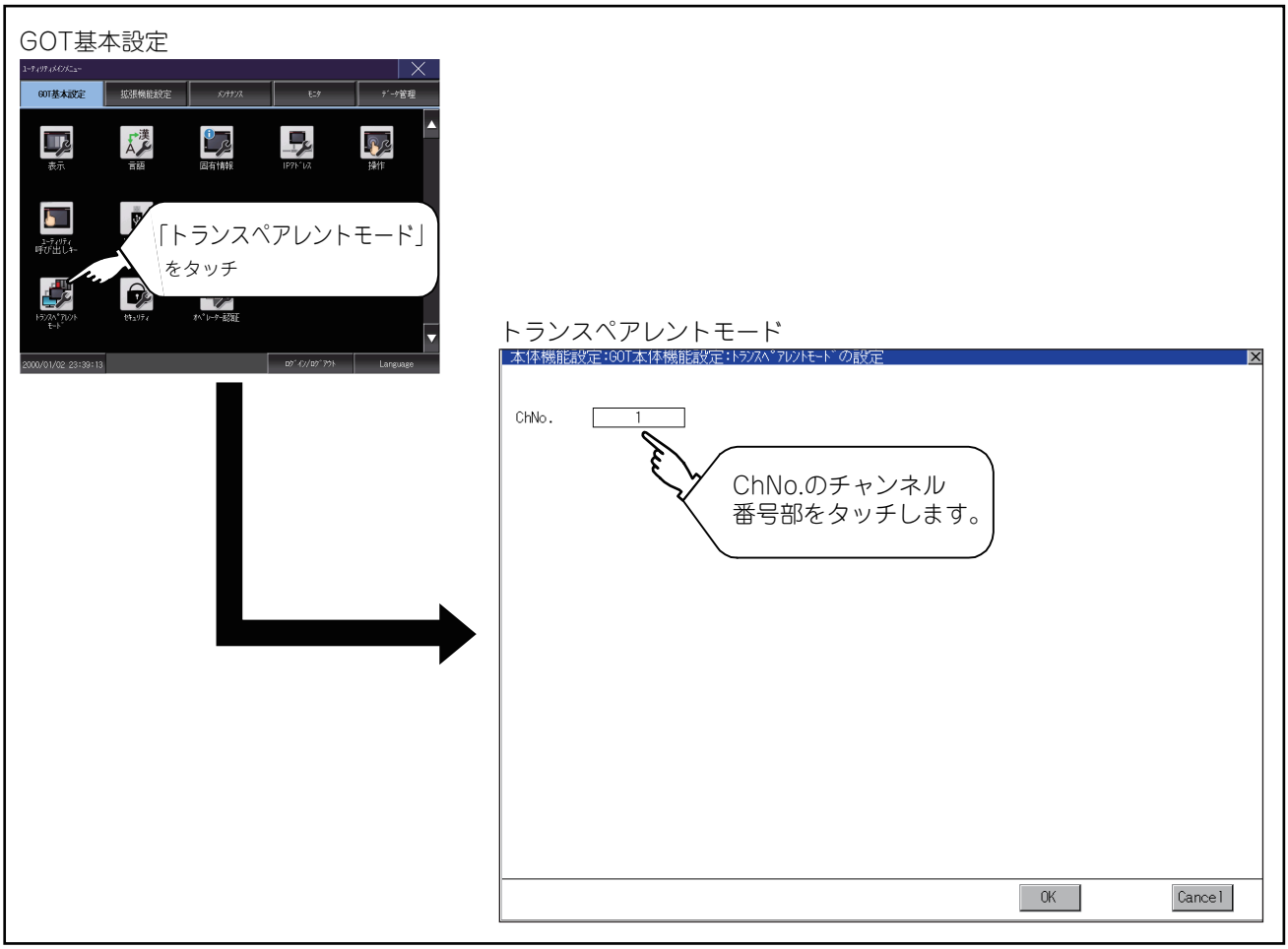
➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

また，FA トランスペアレント機能に関して，下記を参照ください。

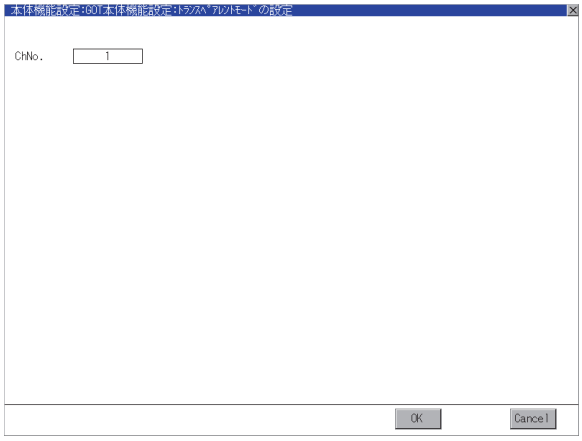
➠ ☞ GOT2000シリーズ接続マニュアル(三菱電機機器接続編) GT Works3 Version1対応

機能	内容	設定範囲
ChNo.	FA トランスペアレント機能をどのチャンネル No. の接続機器に対して実行するか設定できます。	1/2/3/4 <デフォルト：1 >

2.11.2　トランスペアレントモードの表示操作



2.11.3 トランスペアレントモードの設定操作



Step 1. 左記のトランスペアレントのChNo.数字部をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数値を入力してください。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，メインメニューに戻ります。

2.12.1 セキュリティレベル認証

■ セキュリティレベルの変更機能

各オブジェクトや画面切換えで設定したセキュリティの認証を行います。
セキュリティレベルの詳細は，下記を参照してください。

セキュリティレベルの設定.....☞	GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ
パスワード設定.....☞	GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

POINT

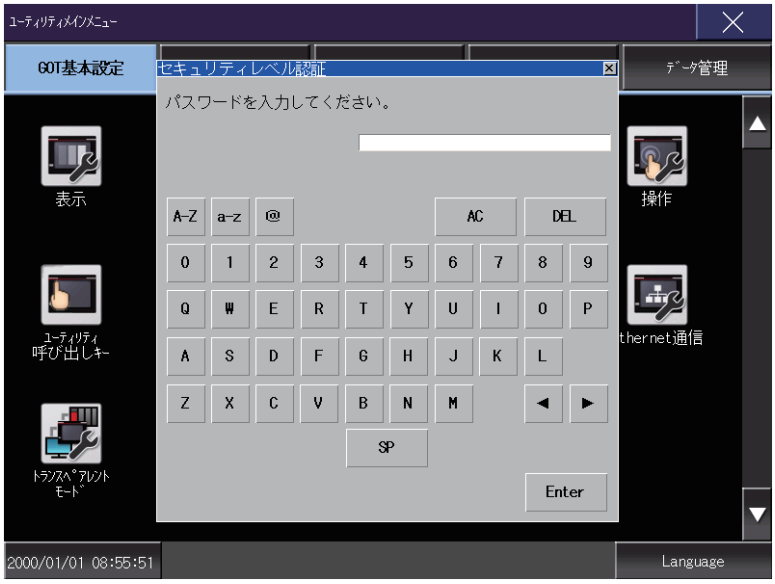
画面表示に関する制約事項

GOTにプロジェクトデータが存在しない場合，セキュリティレベル変更画面は表示できません。
プロジェクトデータをGOTにダウンロードしてから，セキュリティレベルを変更してください。

■ セキュリティレベル認証の表示操作

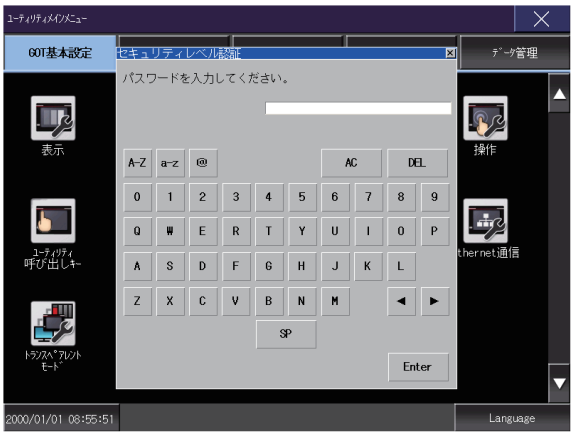
GOT基本設定

セキュリティレベル認証



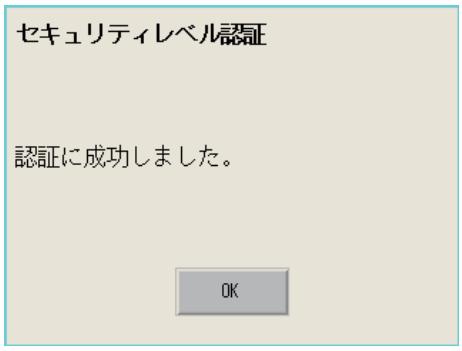
■ セキュリティレベル認証の設定操作

(1) パスワードの入力操作

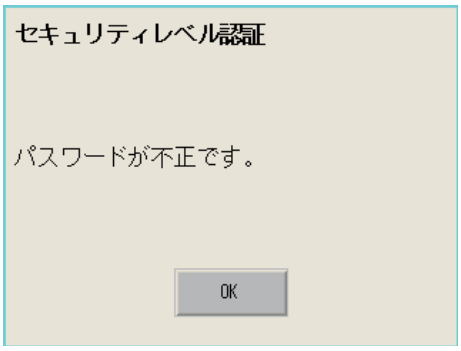


Step 1. キーをタッチして変更先セキュリティレベルのパスワードを入力します。

Step 2. 入力した文字を修正する場合には，[Del]キーをタッチして修正する文字を削除し，再入力してください。



Step 3. パスワードを入力後，[Enter]キーをタッチします。
パスワードが一致した場合には，正常完了メッセージを表示します。
パスワードが不一致の場合には，エラーメッセージを表示します。



Step 4. パスワードが不一致の場合，[OK]ボタンをタッチすると再度パスワードの入力画面に戻ります。

セキュリティレベル一時的変更時の戻し忘れについて

セキュリティレベルを一時的に変更してGOTを使用した場合，セキュリティレベルを元のレベルに戻し忘れることのないように，注意してください。

2.13 オペレータ認証

2.13.1 オペレータ管理

■ オペレータ管理

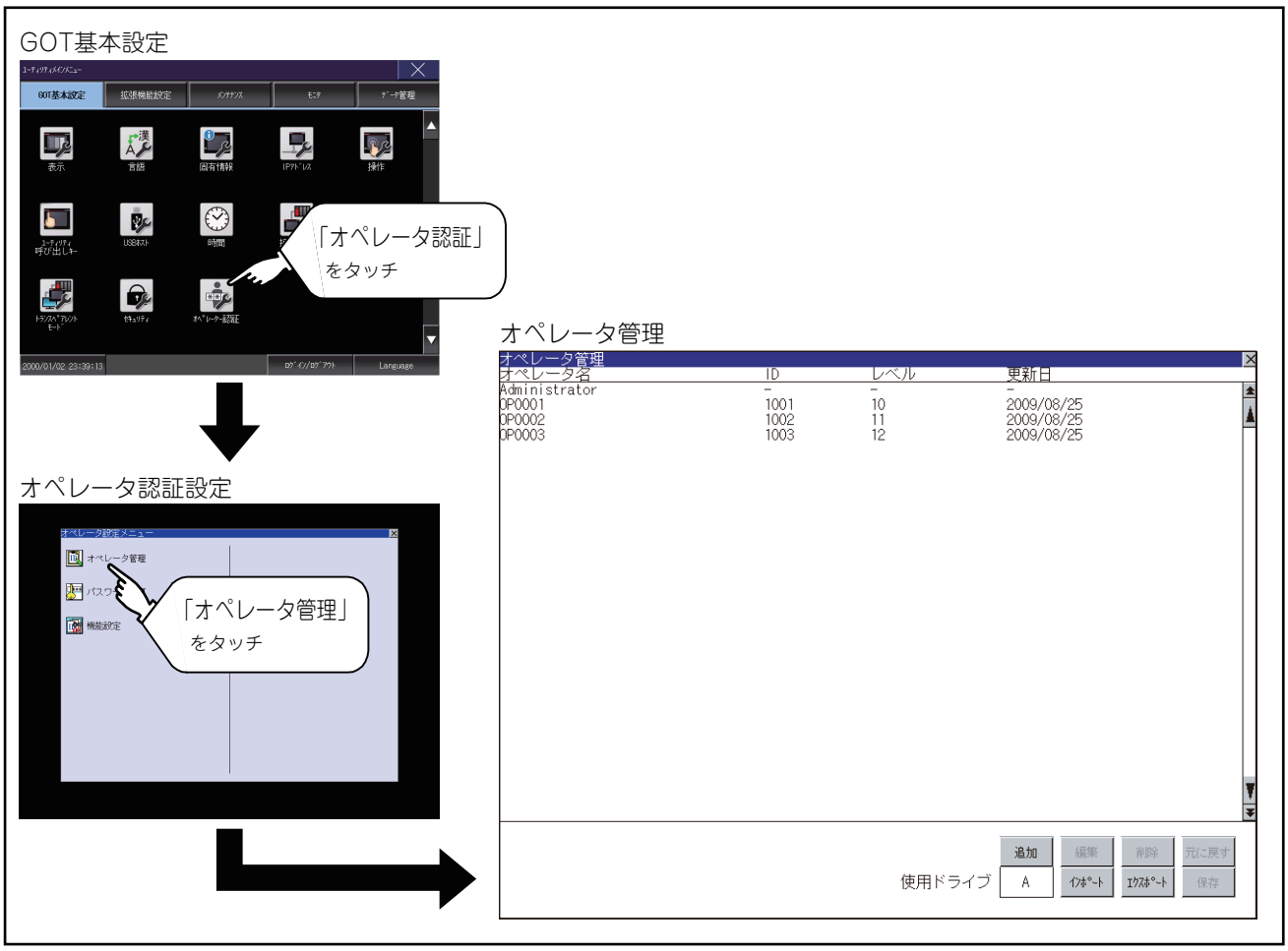
(1) オペレータ管理の機能

オペレータ認証機能で使用するオペレータ情報を一覧表示し，オペレータの追加，編集，削除などができます。
オペレータ認証時のパスワード有効期限切れにともなう，パスワードの変更ができます。
オペレータ認証時の機能(自動ログアウト時間，認証方法，パスワード有効期限など)を設定できます。
オペレータ認証機能の詳細については，下記を参照してください。

➠ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

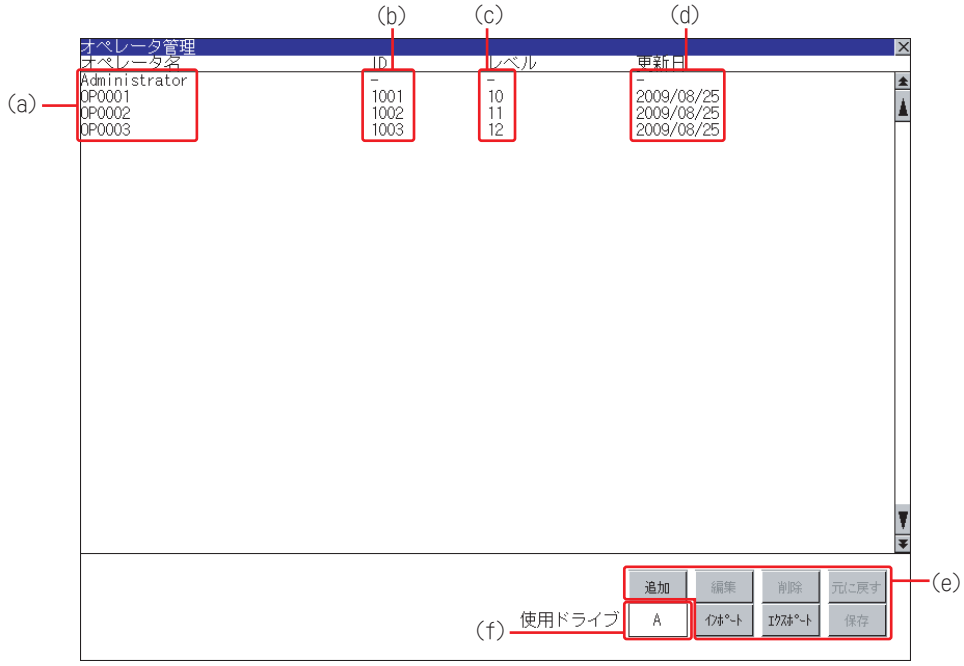
機能	内容	参照先
オペレータ管理	オペレータ情報の追加，編集，削除，インポート，エクスポートができます。	(2) オペレータ管理の表示操作，(4) オペレータ管理の操作
追加	GOTにオペレータ情報を追加します。	(a) 追加操作
編集	GOTに保存されているオペレータ情報を編集します。	(b) 編集操作
削除	GOTに保存されているオペレータ情報を削除します。	(c) 削除操作
元に戻す	オペレータ情報の状態を前回保存した状態に戻します。	(d) 元に戻す操作
インポート	あらかじめデータストレージにエクスポートされているオペレータ情報をGOTにインポートします。	(e) インポート操作
エクスポート	GOTに保存されているオペレータ情報をデータストレージにエクスポートします。	(f) エクスポート操作
パスワード変更	ログイン，ログアウト時に使用するパスワードの変更ができます。	■パスワード変更
機能設定	自動ログアウト時間，パスワード有効期限を設定できます。	■機能設定

(2) オペレータ管理の表示操作



(3) オペレータ管理の表示例

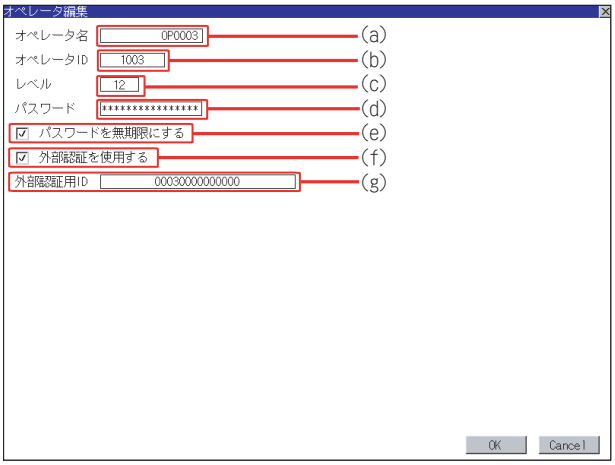
(a) オペレータ管理画面



番号	項目	内容
(a)	オペレータ名	オペレータ名を表示します。
(b)	ID	オペレータIDを表示します。
(c)	レベル	オペレータのセキュリティレベルを表示します。
(d)	更新日	オペレータ情報の最終更新日を表示します。
(e)	操作キー	各機能の実行キーです。
(f)	使用ドライブ	オペレータ情報のインポート，エクスポート先を表示，設定します。 タッチすると表示が切り換わります。(A: 標準SDカード，B: USBドライブ，E: USBドライブ，F: USBドライブ，G: USBドライブ) Bドライブ，Eドライブ，FドライブまたはGドライブが準備されている場合のみ切り換えできます。

(b) オペレータ編集画面

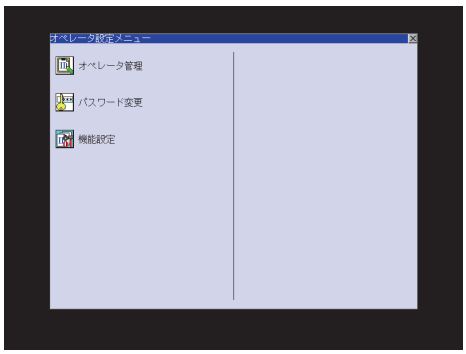
オペレータ管理画面で，[追加]ボタンをタッチするか，オペレータ情報を選択後，[編集]ボタンをタッチすると本画面が表示されます。
オペレータ情報の編集ができます。



番号	項目	内容
(a)	オペレータ名	オペレータ名を表示，入力します。(英数字16文字まで)
(b)	オペレータID	オペレータIDを表示，入力します。(設定範囲: 1～32766) 最大登録数は，GOTの機種により異なります。 • GT27，GT25: 1000 • GT21: 255
(c)	レベル	オペレータのセキュリティレベルを表示，入力します。(0～15)
(d)	パスワード	パスワードを入力します。(英数字16文字まで)
(e)	パスワードを無期限にする	パスワード有効期限のあり，なしを切り替えます。 (☐: パスワードの有効期限あり　☑: パスワードの有効期限なし)
(f)	外部認証を使用する	外部認証を使用する，しないを切り替えます。 (☐: 外部認証を使用しない　☑: 外部認証を使用する)
(g)	外部認証用ID	外部認証用IDを表示，入力します。 (指紋認証設定範囲: 数字1～7桁，外部認証設定範囲: 英数字[*1] 4～32桁) ☞ ■機能設定

*1　16進数用キーウィンドウのため，設定範囲は，A-Fまたは0-9の範囲で入力できます。

(4) オペレータ管理の操作



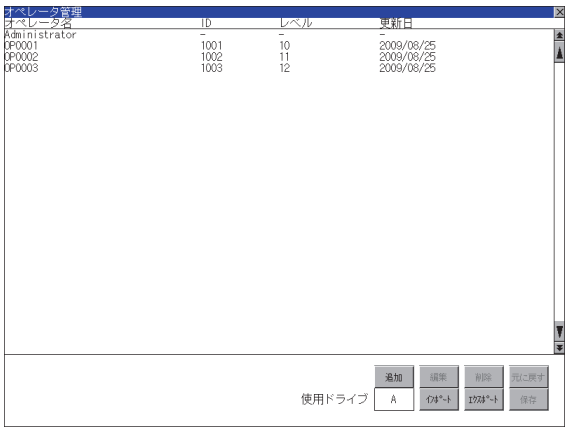
Step 1. オペレータ設定メニューで[オペレータ管理]をタッチします。

Step 2. 管理者パスワード認証画面が表示されますので，管理者パスワードを入力してください。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。

[A-Z]: 英大文字

[a-z]: 英小文字

入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。



Step 3. 管理者パスワードが正しく入力されると，オペレータ管理画面が表示されます。
操作スイッチの操作については，下記を参照してください。

追加.....☞(a) 追加操作

編集.....☞(b) 編集操作

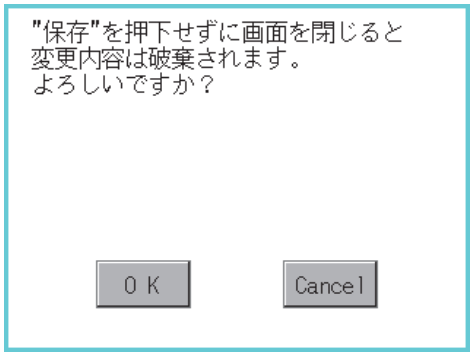
削除.....☞(c) 削除操作

元に戻す.....☞(d) 元に戻す操作

インポート.....☞(e) インポート操作

エクスポート.....☞(f) エクスポート操作

Step 4. すべての設定が完了した後，[保存]ボタンをタッチすると設定内容が保存されます。

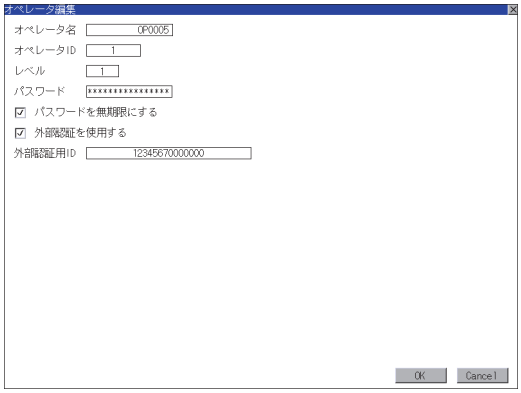


Step 5. [保存]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

(a) 追加操作

GOTにオペレータ情報を追加します。

Step 1. [追加]ボタンをタッチします。



Step 2. オペレータ編集画面が表示されますので，編集する項目をタッチします。
(a)オペレータ名
(b)オペレータID
(c)レベル
(d)パスワード
(e)パスワードを無期限にする
(f)外部認証を使用する
(g)外部認証用ID

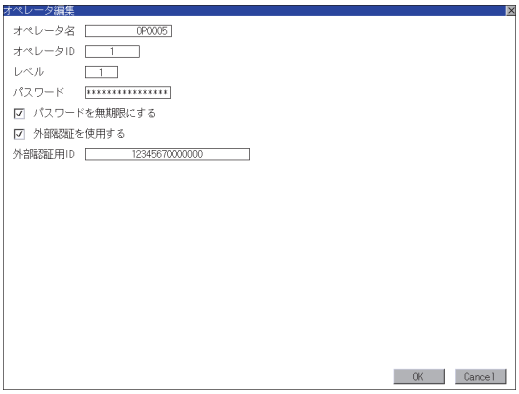
(a) オペレータ名をタッチすると，オペレータ名入力ダイアログが表示されますので,オペレータ名を入力します。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。
[A-Z]: 英大文字
[a-z]: 英小文字
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。

(b) オペレータIDをタッチすると，オペレータID入力ダイアログが表示されますので，オペレータIDを入力します。
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。

(次のページへつづく)

(c) レベルをタッチすると，オペレータレベル入力ダイアログが表示されますので，オペレータレベルを入力します。
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。
ログイン中のオペレータがレベルを変更した場合，いったんログアウトして再度ログインするまで，新しいレベルは適用されません。

(d) パスワードを変更する場合は，パスワードをタッチします。
新パスワード入力ダイアログが表示されますので，パスワードを入力します。
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。
パスワードの入力が完了すると，新パスワード入力確認ダイアログが表示されますので，再度同じパスワードを入力します。



(e) パスワードの有効期限をなくす場合は，パスワードを無期限にするチェックボックスをタッチして，設定を切換えます。

☐: パスワード有効期限あり

☑: パスワード有効期限なし

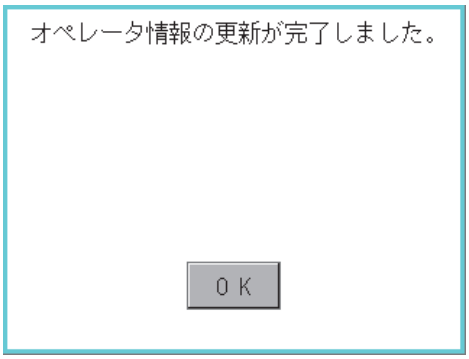
(f) 外部認証を使用する場合は，外部認証を使用するのチェックボックスをタッチして，設定を切替えます。

☐: 外部認証を使用しない

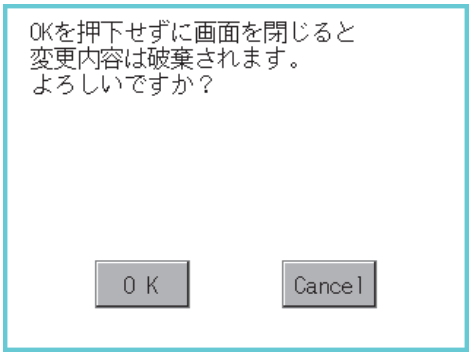
☑: 外部認証を使用する

(g) 外部認証用IDをタッチすると，外部認証用ID入力ダイアログが表示されますので，外部認証用IDを入力します。
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。
認証方式を[指紋認証]，[外部認証(汎用)]に設定している場合，外部認証機器で外部認証用IDを入力することもできます。

(次のページへつづく)



Step 3. すべての項目を入力し，[OK]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示され，入力したオペレータ情報が追加されます。



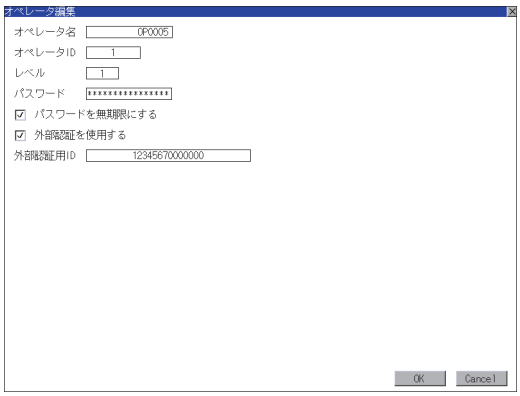
Step 4. [Cancel]ボタンをタッチまたは[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

(b) 編集操作

GOTに保存されているオペレータ情報を編集します。

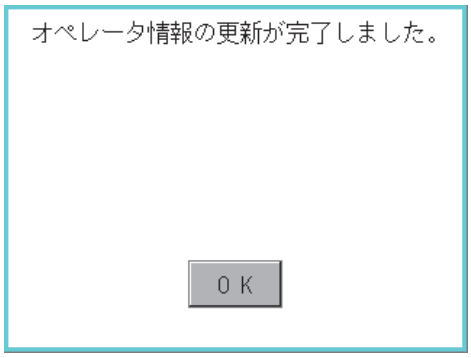
Step 1. 編集するオペレータ情報をタッチして選択します。

Step 2. [編集]ボタンをタッチします。

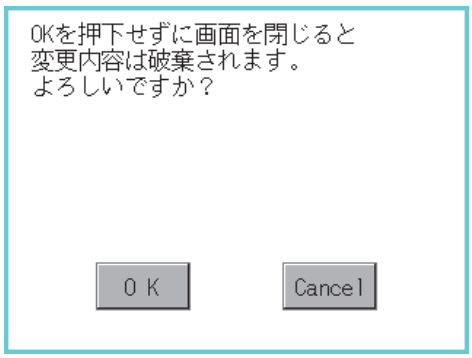


Step 3. オペレータ編集画面が表示されますので，編集する項目をタッチします。
(a)レベル
(b)パスワード
(c)パスワードを無期限にする
(d)外部認証を使用する
(e)外部認証用ID
編集方法については，下記を参照してください。
☞ (a) 追加操作

（次のページへつづく）



Step 4. すべての項目を入力し，[OK]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示され，入力したオペレータ情報が変更されます。

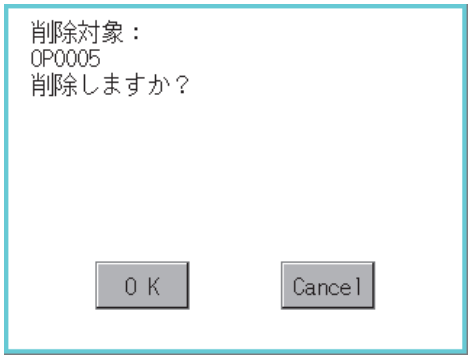


Step 5. [Cancel]ボタンをタッチまたは[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

(c) 削除操作

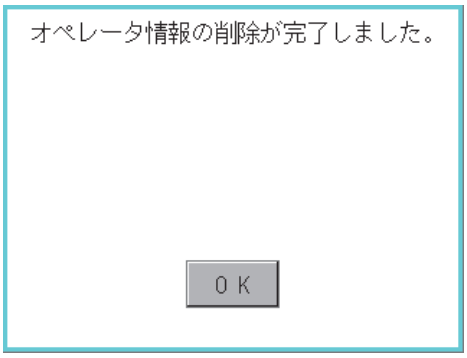
GOTに保存されているオペレータ情報を削除します。

Step 1. 削除するオペレータ情報をタッチして，選択します。



Step 2. [削除]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，選択したオペレータ情報を削除します。
[Cancel]ボタンをタッチすると削除操作を中止します。

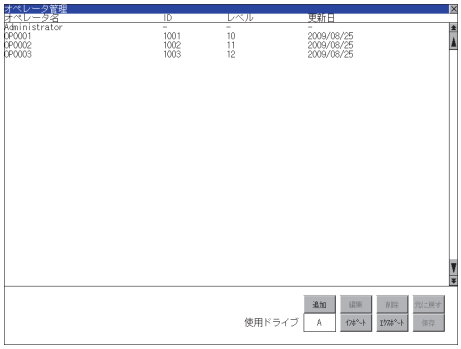
（次のページへつづく）



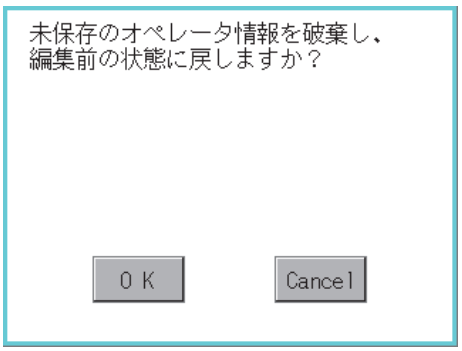
Step 3. 削除が完了すると，完了のダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとダイアログを閉じます。

(d) 元に戻す操作

オペレータ情報の状態を前回保存した状態に戻します。



Step 1. [元に戻す]ボタンをタッチします。



Step 2. 左記のダイアログが表示されますので，[OK]ボタンをタッチします。

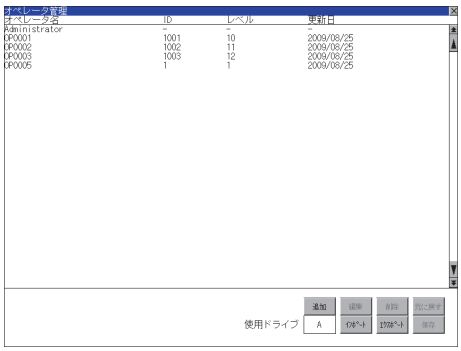
Step 3. 管理者パスワード認証画面が表示されますので，管理者パスワードを入力してください。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。

[A-Z]: 英大文字

[a-z]: 英小文字

入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。

（次のページへつづく）

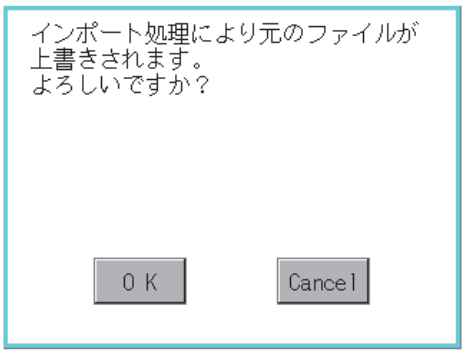


Step 4. 管理者パスワードが正しく入力されると，オペレータ情報が前回保存した状態に戻ります。

(e) インポート操作

あらかじめSDカードにエクスポートされているオペレータ情報をGOTにインポートします。

Step 1. [インポート]ボタンをタッチします。

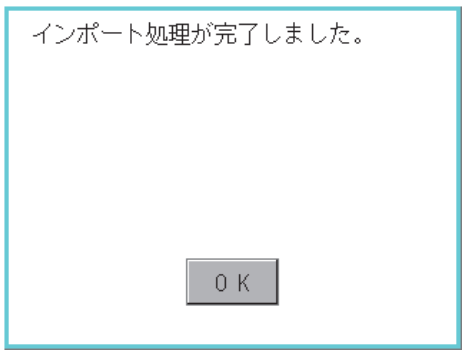


Step 2. 左記のダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，管理者パスワード認証画面が表示されますので，管理者パスワードを入力してください。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。

[A-Z]: 英大文字

[a-z]: 英小文字

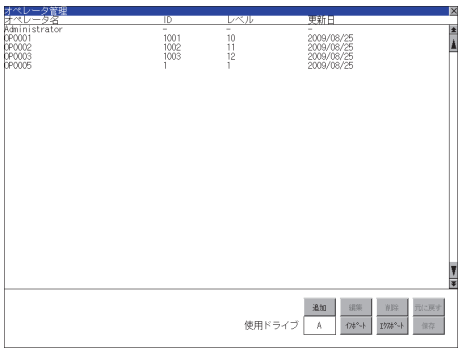
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。



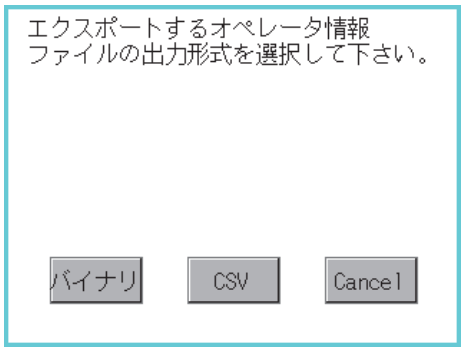
Step 3. 管理者パスワードが正しく入力されると，左記のダイアログが表示され，SDカードに保存されているオペレータ情報がGOTにインポートされます。

(f) エクスポート操作

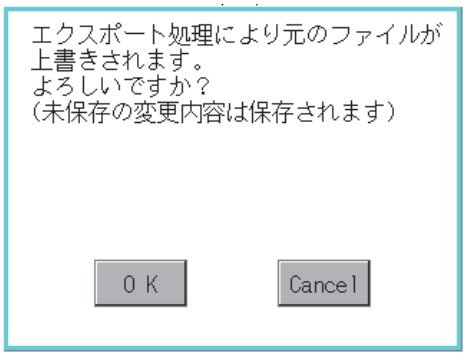
GOTに保存されているオペレータ情報をSDカードにエクスポートします。



Step 1. [エクスポート]ボタンをタッチします。



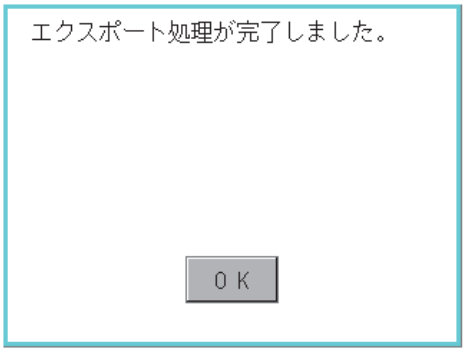
Step 2. 左記のダイアログが表示されます。
ファイルの出力形式により，下記のボタンをタッチしてください。
•バイナリファイル: [バイナリ]ボタン
•CSVファイル　: [CSV]ボタン



Step 3. 左記のダイアログが表示されます。
[OK]をタッチすると，管理者パスワード認証画面が表示されますので，管理者パスワードを入力してください。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。

[A-Z]: 英大文字

[a-z]: 英小文字
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。



Step 4. 管理者パスワードが正しく入力されると，左記のダイアログが表示され，GOTに保存されているオペレータ情報がSDカードにエクスポートされます。
(ファイル名: AUTHINF.G1U)

2.13.2　パスワード変更

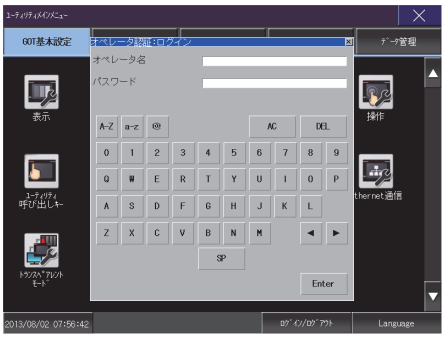
■ パスワード変更

(1)　パスワード変更の機能

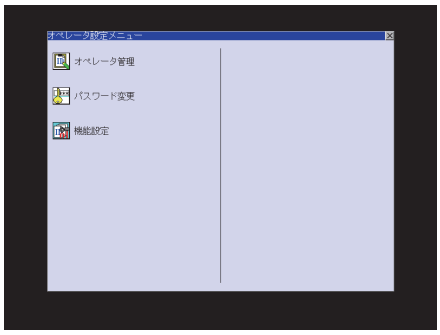
オペレータ認証で使用するパスワードを変更できます。
パスワード変更の際は，あらかじめパスワードを変更するオペレータIDで，GOTにログインしておく必要があります。

(2)　パスワード変更の表示操作

(3) パスワード変更の操作



Step 1. メインメニューにて，パスワード変更するオペレータIDでGOTにログインしてください。



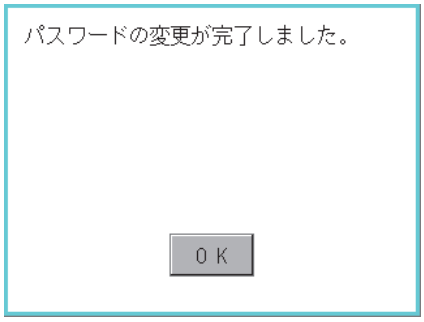
Step 2. オペレータ設定メニューで[パスワード変更]をタッチすると，オペレータ認証：パスワード変更ダイアログが表示されます。

Step 3. オペレータ認証：パスワード変更ダイアログで，現在のパスワードを入力してください。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。

[A-Z]: 英大文字
[a-z]: 英小文字
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。

Step 4. 新しいパスワードを入力してください。

Step 5. 入力後，再度，新しいパスワードを入力してください。



Step 6. 新しいパスワードが正しく入力されると，左記のダイアログが表示され，パスワードが変更されます。

2.13.3 機能設定

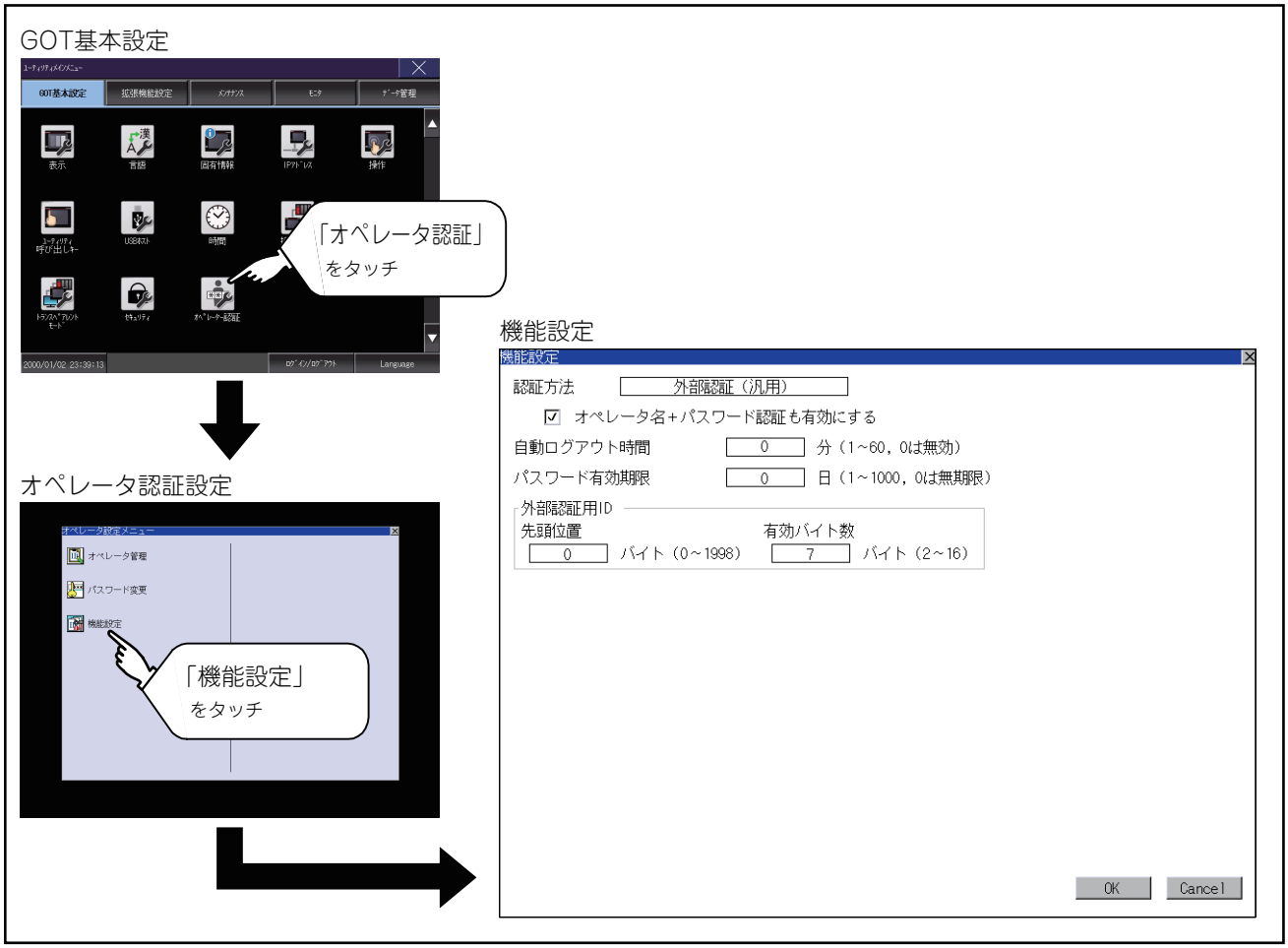
■ 機能設定

(1) 機能設定の機能

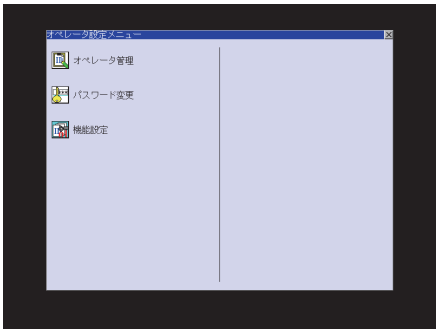
オペレータ情報の機能設定ができます。
設定できる項目を下記に示します。

項目	内容	参照先
自動ログアウト時間	最後にGOTを操作してから，自動ログアウトするまでの時間を設定できます。(1～60分，0は無効)	(a) 自動ログアウト時間
認証方法	認証方法の切替えができます。([オペレータ名+パスワード]，[外部認証(汎用)]，[指紋認証]) [外部認証(汎用)]または[指紋認証]を選択した場合は，認証方法の下に[オペレータ名+パスワード認証も有効にする]のチェックボックスが表示されます。	(b) 認証方法
パスワード有効期限	オペレータ認証で使用するパスワードを，定期的に変更する場合に設定します。(1～1000日，0は無効) パスワード設定後，有効期限の日数が過ぎると，オペレータにパスワードの変更を要求します。	(c) パスワード有効期限
外部認証用ID先頭位置	外部認証機器から読み出したデータの中から，外部認証用IDの先頭位置(バイト数)を設定できます。(0～1998バイト)	(d) 外部認証用ID先頭位置
外部認証用ID有効バイト数	外部認証IDの有効バイト数を設定できます。(2～16バイト)	(e) 外部認証ID有効バイト数

(2) 機能設定の表示操作



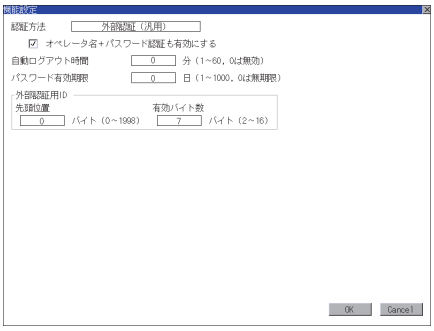
(3) 機能設定の操作



Step 1. オペレータ設定メニューで[機能設定]をタッチすると，管理者パスワード認証ダイアログが表示されます。

Step 2. 管理者パスワードを入力してください。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。

[A-Z]: 英大文字
[a-z]: 英小文字
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。



Step 3. 管理者パスワードが正しく入力されると，機能設定画面が表示されます。
設定する項目をタッチします。
(a)自動ログアウト時間
(b)認証方法
(c)パスワード有効期限
(d)外部認証用ID先頭位置
(e)外部認証用ID有効バイト数

(a) 自動ログアウト時間の設定をタッチすると，自動ログアウト時間入力ダイアログが表示されるので，設定時間を入力してください。
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。

(b) 認証方法
認証方法の切替を行います。
項目をタッチすると，[オペレータ名＋パスワード]→[外部認証(汎用)]→[指紋認証]→[オペレータ名＋パスワード]とタッチするごとに切替わります。[外部認証(汎用)]または[指紋認証]を選択した場合は，[認証方法]の下に[オペレータ名+パスワード認証も有効にする]のチェックボックスが表示されます。
チェックを入れると，[外部認証(汎用)]または[指紋認証]でログインする場合に，[オペレータ名+ パスワード]でログインすることも可能です。

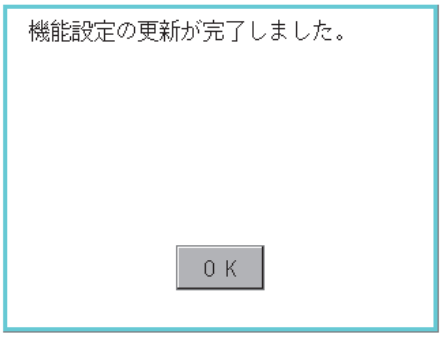
（次のページへつづく）

(c) パスワード有効期限の設定をタッチすると，パスワード有効期限入力ダイアログが表示されるので，設定時間を入力してください。
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。

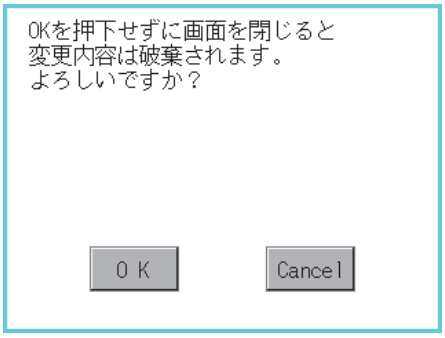
(d) 外部認証用ID先頭位置
外部認証機器から読み出したデータの中から，外部認証用IDの先頭位置(バイト数)を設定できます。

(e) 外部認証用ID有効バイト数
外部認証IDの有効バイト数が設定できます。
(認証方法が[外部認証(汎用)]の場合のみ有効です。)

Step 4. すべての項目を入力し，[OK]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示され,入力した設定項目が保存されます。



[OK]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。



3. 拡張機能設定

GOTユーティリティ画面から拡張機能の設定画面を表示できます。
拡張機能の設定画面では下記の設定ができます。

項目	内容	参照先
SoftGOT-GOT リンク機能	SoftGOT-GOT リンク機能の操作権に関する設定，操作優先権の取得，解放	3.1
VNC サーバ機能	VNC サーバ機能の操作権保証時間の設定	3.2
シーケンスプログラムモニタ	シーケンスプログラムの保存先の設定	3.3
バックアップリストア	バックアップデータの保存先の設定	3.4
ライセンス管理	ライセンスの登録，解除	3.6
ビデオ・RGB	ビデオ接続機器，ビデオ表示，RGB 表示	3.7
マルチメディア	マルチメディア接続機器，ビデオ表示，長時間録画保存設定	3.8
無線接続	無線 LAN 通信ユニットの設定，接続先アクセスポイント設定	3.9

3.1 SoftGOT-GOTリンク機能

3.1.1 SoftGOT-GOTリンク機能の設定機能

SoftGOT-GOTリンク機能の操作権に関する設定と，操作優先権の取得，解放ができます。
操作優先権を取得できるのはGOT側のみです。
GOT側が操作優先権を取得している場合，GT SoftGOT2000側は操作権を取得できなくなります。
SoftGOT-GOTリンク機能設定に関する詳細は，下記を参照してください。

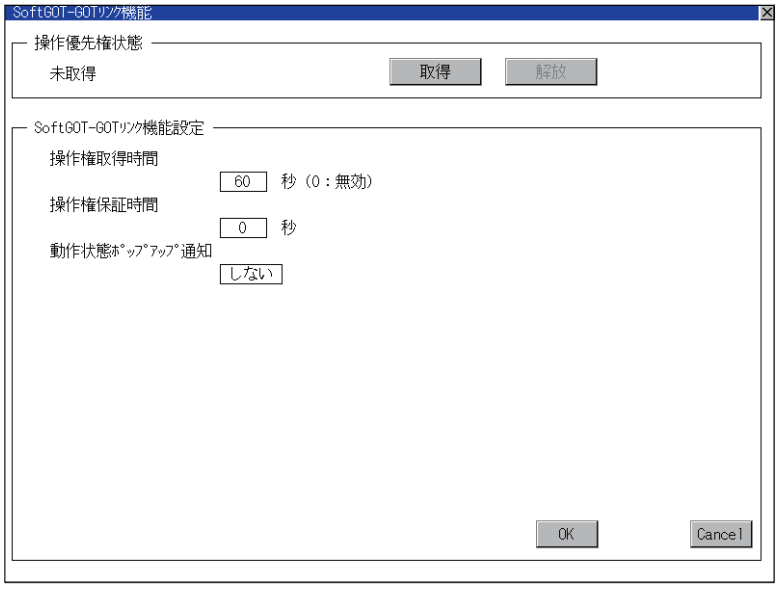
➠ GT SoftGOT2000 Version1 操作マニュアル

機能	内容	設定範囲
操作優先権状態	GOT の操作優先権取得状態が表示されます。 GOT で操作優先権の取得，解放を行えます。	取得 / 解放 <GOT 起動時 : 解放 >
操作権取得時間	GT SoftGOT2000 で操作権を取得後に操作を行ってから，GOT が自動的に操作権を取得するまでの時間を設定できます。	0 ～ 3600 秒 < 工場出荷時 : 60 秒 >
操作権保証時間	GT SoftGOT2000/GOT で操作権を取得して操作を行った後，操作権を取得した状態を保持する時間を設定できます。 (設定した時間が経過するまで，操作権がない側での操作権取得はできません。)	0 ～ 3600 秒 < 工場出荷時 : 0 秒 >
動作状態ポップアップ通知	GT SoftGOT2000/GOT で操作権が未取得の場合に，操作権を取得している側の情報をポップアップ表示する，しないを設定できます。	する / しない <GOT 起動時 : しない >

3.1.2 SoftGOT-GOTリンク機能の表示操作

拡張機能設定

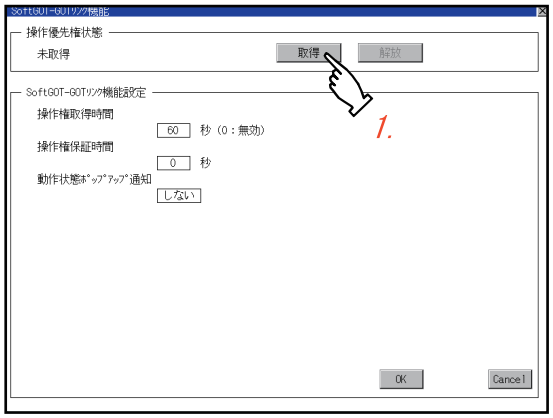
SoftGOT-GOT リンク機能設定



3.1.3 SoftGOT-GOTリンク機能の設定操作

■ 操作優先権状態

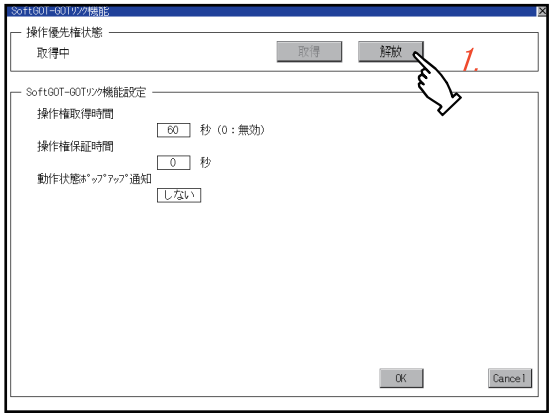
(1) 操作優先権の取得



Step 1. [取得]ボタンをタッチすると，ダイアログが表示されます。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると操作優先権を取得します。
[Cancel]ボタンをタッチすると操作優先権の取得を中止します。

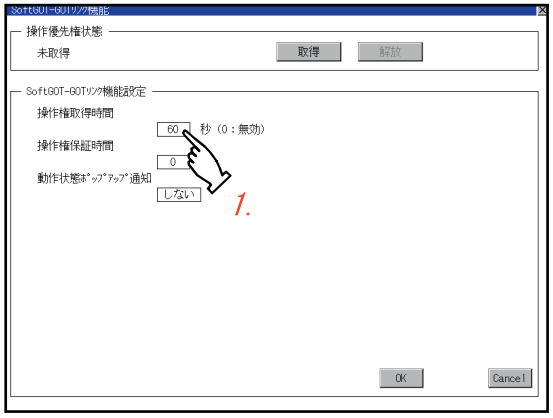
(2) 操作優先権の解放



Step 1. [解放]ボタンをタッチすると，ダイアログが表示されます。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると操作優先権を解放します。
[Cancel]ボタンをタッチすると操作優先権の解放を中止します。

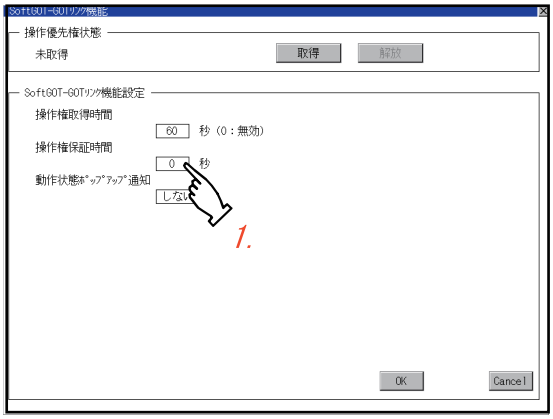
■ 操作権取得時間



Step 1. 操作権取得時間の選択ボタンをタッチすると，キーボードが表示されます。
キーボードにより操作権の取得時間を入力します。
0秒に設定すると，GT SoftGOT2000で操作権を取得後，GOTの操作権自動取得は行われません。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[拡張機能設定]画面に戻ります。

■ 操作権保証時間



Step 1. 操作権保証時間の選択ボタンをタッチすると，キーボードが表示されます。
キーボードにより操作権の保証時間を入力します。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[拡張機能設定]画面に戻ります。

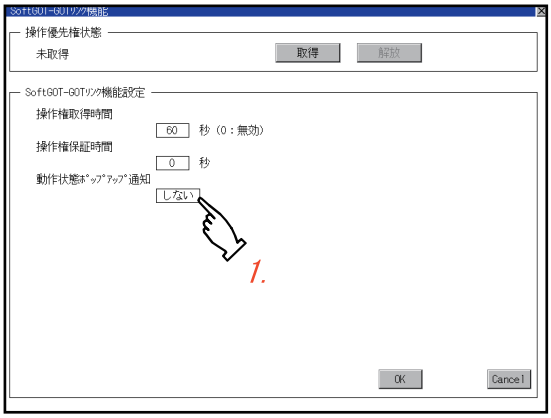
POINT

操作権取得時間と操作権保証時間の関係

下記の設定をした場合，操作権取得時間が優先されます。(操作権取得時間が経過すると，GOTが自動的に操作権を取得します。)

- 操作権取得時間を1秒以上に設定
- 操作権保証時間を操作権取得時間より長く設定

■ 動作状態ポップアップ通知



Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。
(する⇄しない)

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[拡張機能設定]画面に戻ります。

3.2 VNCサーバ機能

3.2.1 VNCサーバ機能設定の設定機能

VNCサーバ機能設定では，VNCサーバ機能の操作権保証時間を設定できます。
VNCサーバ機能に関する詳細は，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

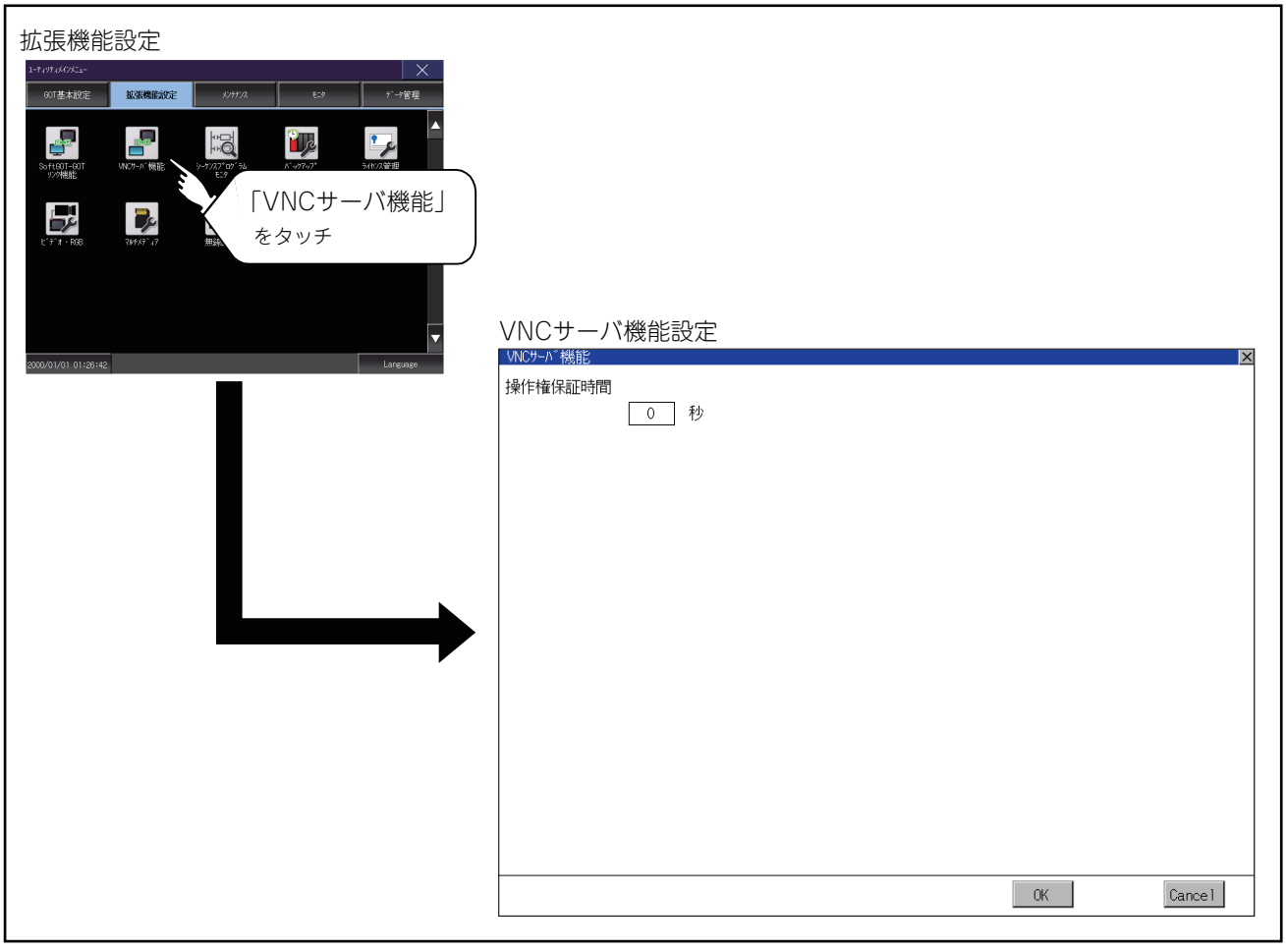
機能	内容	設定範囲
操作権保証時間	操作権を取得した側の機器で操作を行った後，操作権を取得した状態を保持する時間を設定できます。 (設定した時間が経過するまで，操作権がない側での操作権取得はできません。)	0 ～ 3600 秒 ＜工場出荷時：0 秒＞

POINT

操作権保証時間解除信号(GS1792.b8)

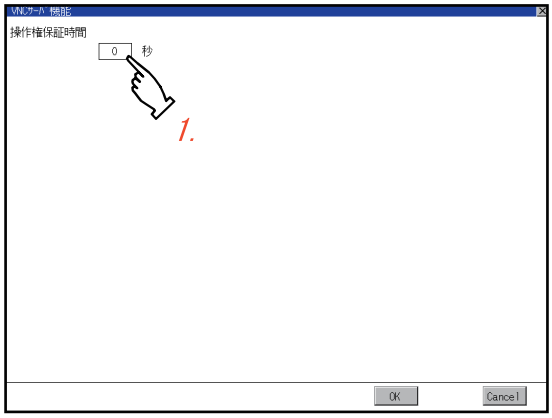
操作権保証時間解除信号(GS1792.b8)をONした場合，操作権保証時間の設定は無効になります。

3.2.2 VNCサーバ機能設定の表示操作



3.2.3 VNCサーバ機能の設定操作

■ 操作権保証時間



Step 1. [操作権保証時間]の入力欄をタッチすると，キーボードが表示されます。
キーボードにより操作権保証時間を入力します。

Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[拡張機能設定]画面に戻ります。

3.3 シーケンスプログラムモニタ

3.3.1 シーケンスプログラムモニタの設定機能

シーケンスプログラムモニタ機能で使用するデータの保存先などが設定できます。
シーケンスプログラムを保存することで，GOT次回起動時にシーケンサCPUからシーケンスプログラムを読み出す必要がなくなるので，シーケンスプログラムモニタ実行までの時間が短縮できます。
シーケンスプログラムモニタ機能の詳細については，下記を参照してください。

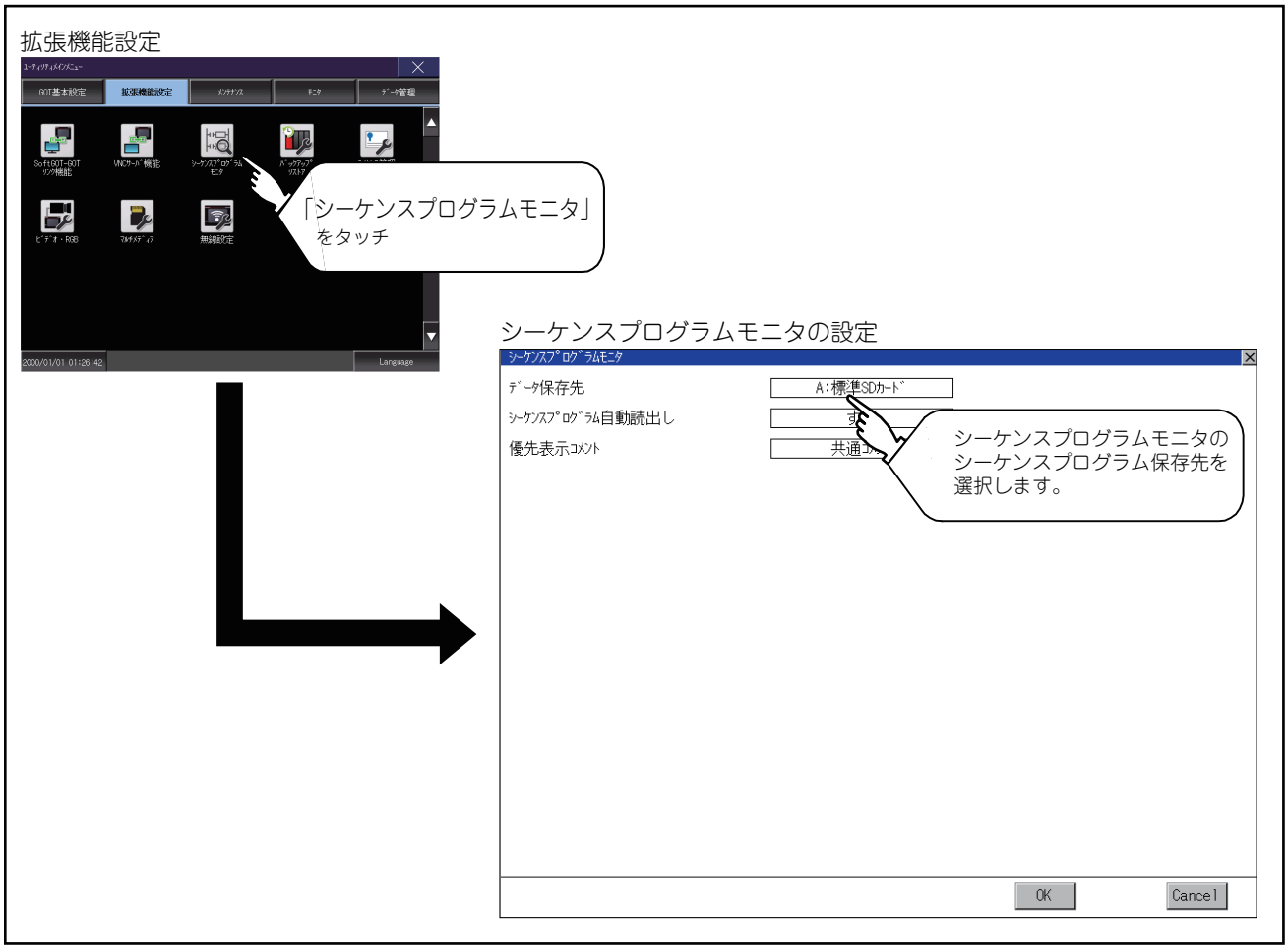
➡ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(モニタ編)

機能	内容	設定範囲
データ保存先	シーケンスプログラムモニタのシーケンスプログラム保存先を選択します。	A: 標準 SD カード B: USB ドライブ E: USB ドライブ F: USB ドライブ G: USB ドライブ 保存しない ＜デフォルト : A: 標準 SD カード＞
シーケンスプログラム自動読出し	タッチスイッチ，アラーム表示からシーケンスプログラムモニタ起動時，シーケンスプログラムの自動読出しをする，しないを選択します。	する / しない ＜デフォルト : する＞
優先表示コメント	シーケンスプログラムで，同一のデバイスに対して共通コメント，プログラム別コメントが設定されている場合，どちらのコメントをシーケンスプログラムモニタで表示するか選択します。	共通コメント / プログラム別コメント ＜デフォルト : 共通コメント＞

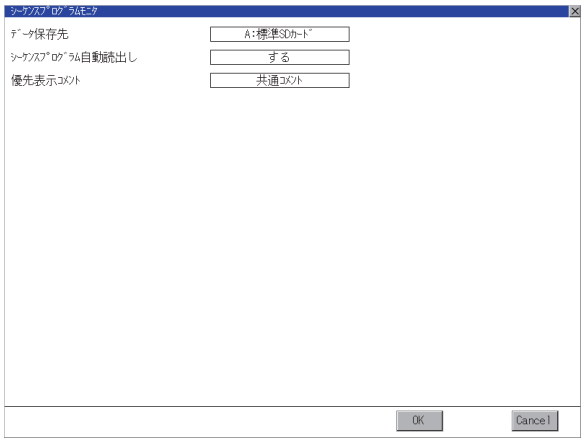
■ 保存されるシーケンスプログラムについて

保存されるシーケンスプログラムは，GOT がシーケンスプログラムモニタするためのデータです。
本機能でシーケンスプログラムを SD カードに保存できますが，パソコンにコピーして，GX Developer などで参照，編集はできません。

3.3.2　シーケンスプログラムモニタの表示操作



3.3.3　シーケンスプログラムモニタの設定操作



Step 1.　設定項目をタッチすると設定内容が変わります。

Step 2.　[OK] ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[拡張機能設定]画面に戻ります。

3.4　バックアップリストア

3.4.1　バックアップリストアの設定機能

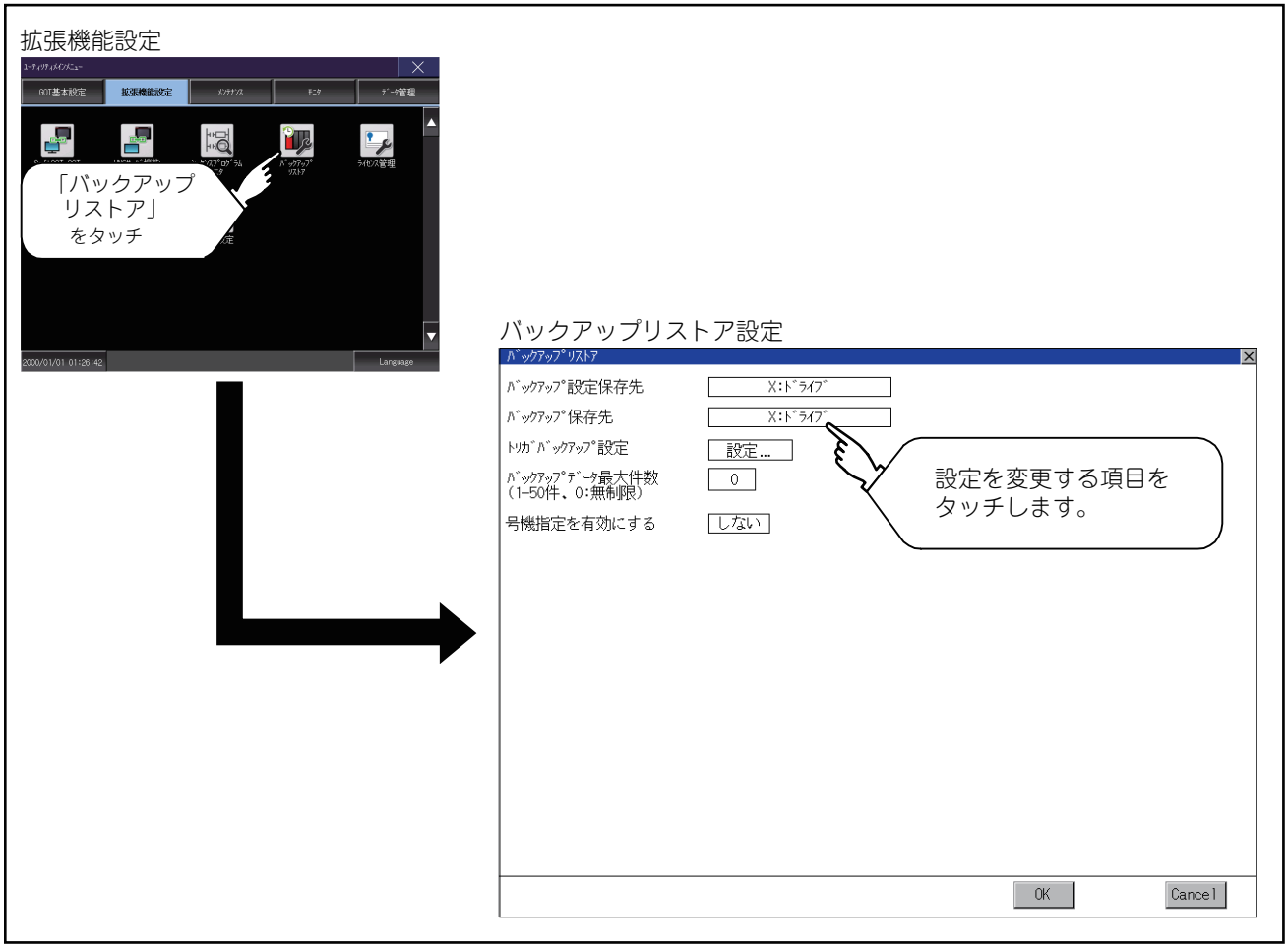
バックアップデータの保存先を設定できます。
バックアップリストア機能の使用方法については，下記を参照してください。

➡ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(モニタ編)

設定できる項目には下記のものがあり，各項目部をタッチして設定します。

項目	内容	設定範囲
バックアップ設定保存先	バックアップ設定 (接続機器のパラメータ，接続機器側のパスワードなど) を保存するドライブを選択できます。	A: 標準 SD カード B: USB ドライブ C: 内蔵フラッシュメモリ E: USB ドライブ F: USB ドライブ G: USB ドライブ <デフォルト : A: 標準 SD カード>
バックアップデータ保存先	バックアップしたデータを保存するドライブを選択できます。	A: 標準 SD カード B: USB ドライブ C: 内蔵フラッシュメモリ E: USB ドライブ F: USB ドライブ G: USB ドライブ <デフォルト : A: 標準 SD カード>
トリガバックアップ設定	バックアップ設定単位に指定した，トリガ (立上り，時刻) が成立した際に，自動的にバックアップを実行します。	なし / 立上り / 時刻 <デフォルト : なし> ☞ 3.5 トリガバックアップ設定
バックアップデータ最大件数	バックアップデータの最大保存件数を設定します。 (0 を指定すると，バックアップデータの保存数チェックを行いません。)	設定範囲 : 0 ～ 50 <デフォルト : 0 >
号機指定を有効にする	バックアップ時の号機指定を有効にする，しないを設定します。 ([する] を指定すると，GOT とシーケンサが 1 : 1 の通信となり，複数のシーケンサから一括でバックアップリストアするネットワーク一括バックアップ機能が使用できなくなります。)	する / しない <デフォルト : しない>

3.4.2 バックアップリストア設定の表示操作



3.4.3 バックアップリストア設定の設定操作

■ バックアップ設定保存先，バックアップ保存先

Step 1. 設定項目をタッチすると，設定内容が変わります。

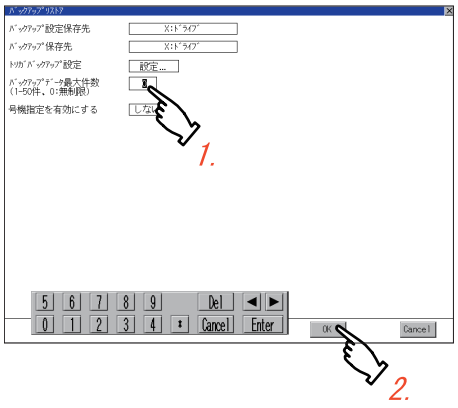
Step 2. [OK]ボタンをタッチすると，変更した設定が反映され，[拡張機能設定]画面に戻ります。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[拡張機能設定]画面に戻ります。

■ トリガバックアップ設定

トリガバックアップ設定の操作は，下記を参照してください。

➠ 3.4.3 トリガバックアップ設定

■ バックアップデータ最大件数

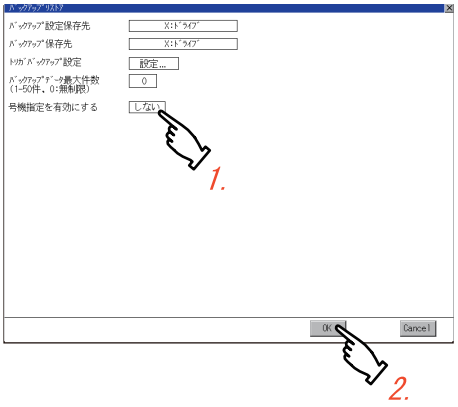


Step 1. 設定項目をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。

設定範囲: 0～50，デフォルト: 0
(0を指定すると，バックアップデータの保存数チェックを行いません。)

Step 2. [OK] ボタンをタッチすると，変更した設定が反映され，[拡張機能設定]画面に戻ります。
[Cancel] ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[拡張機能設定]画面に戻ります。

■ 号機指定を有効にする



Step 1. 設定項目をタッチすると，設定内容が変わります。

Step 2. [OK] ボタンをタッチすると，変更した設定が反映され，[拡張機能設定]画面に戻ります。
[Cancel] ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[拡張機能設定]画面に戻ります。

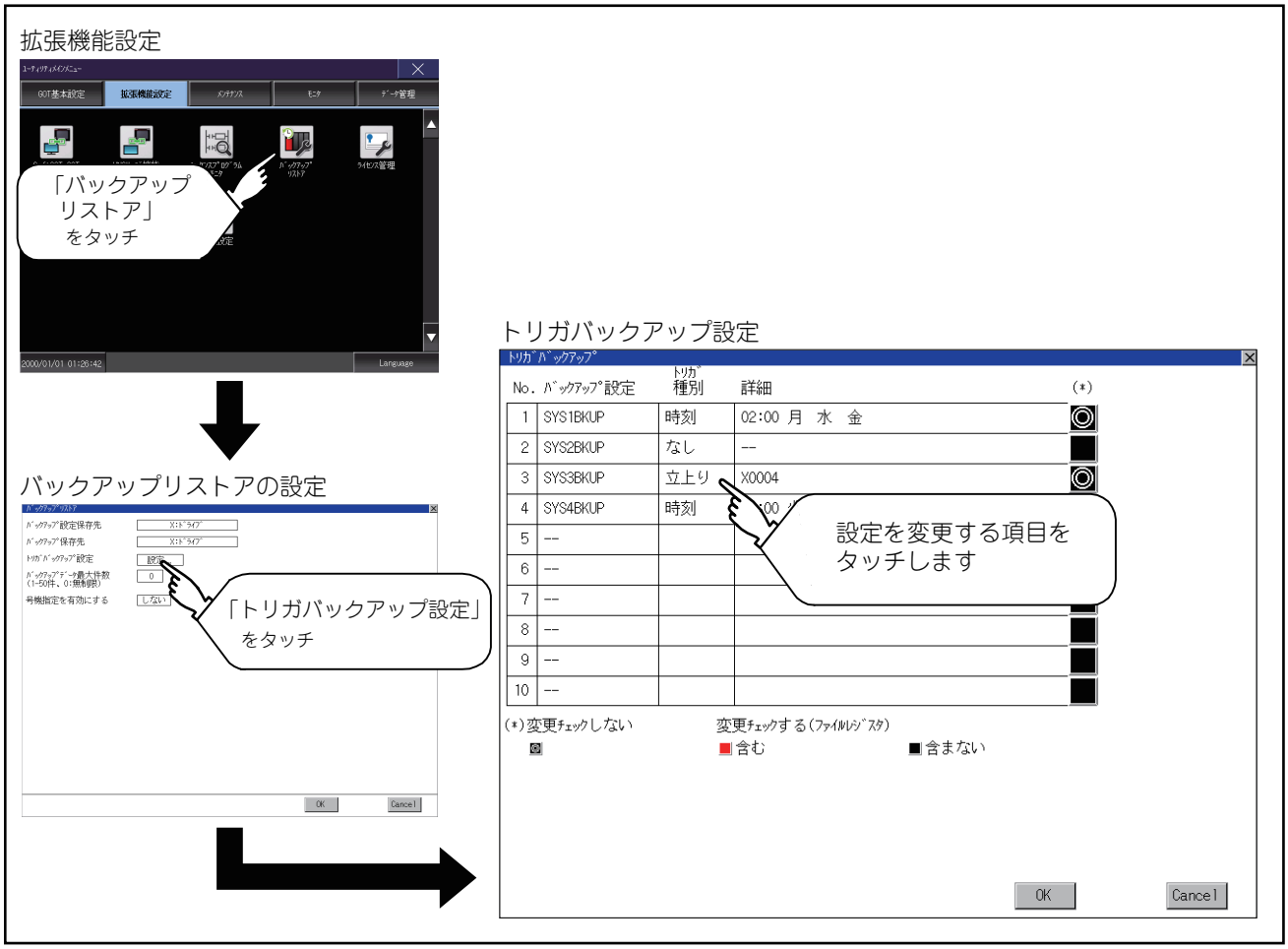
3.5 トリガバックアップ設定

3.5.1 トリガバックアップ設定の設定機能

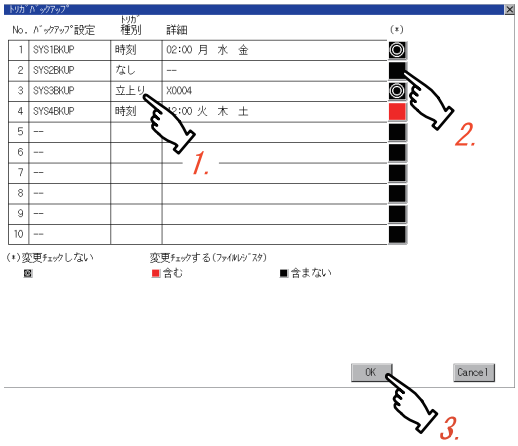
バックアップ設定単位に指定したトリガ(立上り，時刻)が成立した際に，自動的にバックアップを実行します。
トリガバックアップの使用方法については，下記を参照してください。

➠ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(モニタ編)

3.5.2 トリガバックアップ設定の表示操作



3.5.3 トリガバックアップ設定の設定操作



Step 1. トリガ種別の設定項目をタッチすると，トリガ種別の設定内容が変わります。

（なし　立上り　時刻）

なし　：トリガバックアップを実施しません。
立上り　：トリガデバイスの立上り時に，バックアップを実施します。
時刻　：指定時刻にバックアップを実施します。

Step 2. [変更チェック]の設定項目をタッチすると，設定内容が変わります。

：バックアップデータの内容の変更の有無に関係なく，バックアップを実施します。

：バックアップ実施時に，前回バックアップ時からバックアップデータ，ファイルレジスタの内容に変更があるかチェックし，変更がある場合にバックアップを実施します。

：バックアップ実施時に，前回バックアップ時からバックアップデータの内容に変更があるかチェックし，変更がある場合にバックアップを実施します。このとき，ファイルレジスタの変更の有無はチェックしません。

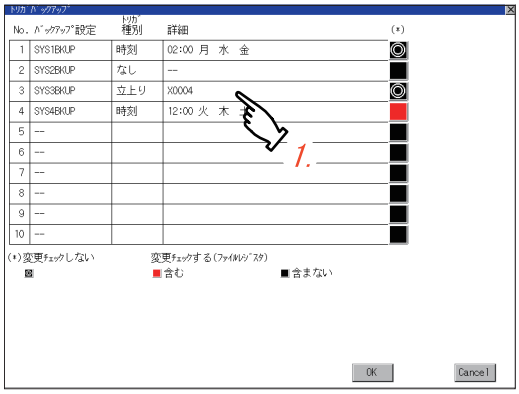
Step 3. トリガ種別を変更した場合，[OK]ボタンをタッチすると，パスワード入力キーウインドウが表示されます。
キーウィンドウ表示後，バックアップリストア用パスワードを入力してください。
パスワードが一致すると，設定内容が決定され，[トリガバックアップ設定]画面に戻ります。
トリガ種別を変更せずに[OK]ボタンをタッチした場合，設定内容が決定されます。
また，[Cancel] ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[バックアップリストア設定]画面に戻ります。

POINT

設定時の注意事項

トリガ種別を[立上り]にした場合，トリガデバイスの設定をGT Designer3であらかじめ設定する必要があります。
トリガデバイスの設定を行わない場合，立上りによるバックアップの設定は無効となります。

3.5.4 トリガ時刻設定の設定操作



Step 1. トリガバックアップの設定内容を時刻にした場合，[詳細]の設定項目をタッチすると，トリガ時刻設定画面に切り替わります。

Step 2. トリガ時刻設定画面では，バックアップを実施する曜日，時刻を指定します。

曜日　：曜日部分をタッチすることで，バックアップを行う曜日を選択することができます。
曜日は複数選択することができます。

時刻　：時刻の数値部分をタッチすることで，バックアップを行う時刻を設定することができます。

3.6　ライセンス管理

3.6.1　ライセンス管理の設定機能

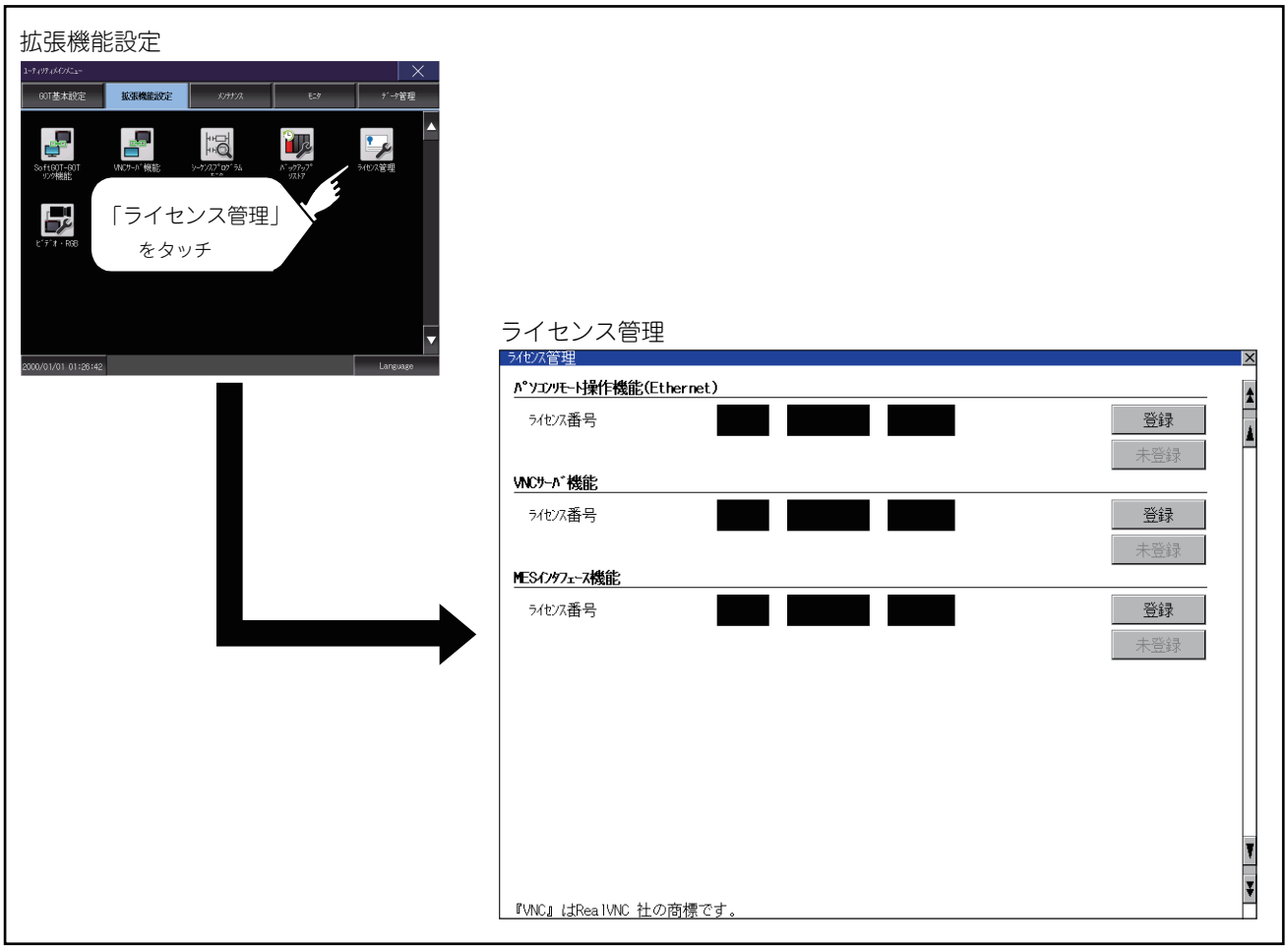
ライセンスが必要な機能を使用する場合，GOTにライセンスを登録します。
また，GOTに登録済みのライセンスを解除する場合もライセンス管理画面で行います。

項目	内容	設定範囲
パソコンリモート操作機能(Ethernet)	パソコンリモート操作 (Ethernet) 機能のライセンス登録，削除を行います。	—
VNC サーバ機能	VNC サーバ機能のライセンス登録，削除を行います。	—
MES インタフェース機能	MES インタフェース機能のライセンス登録，削除を行います。	—

パソコンリモート操作(Ethernet)機能，VNCサーバ機能，およびMESインタフェース機能のライセンス登録，解除が行えます。
各機能に関する詳細は，下記を参照してください。

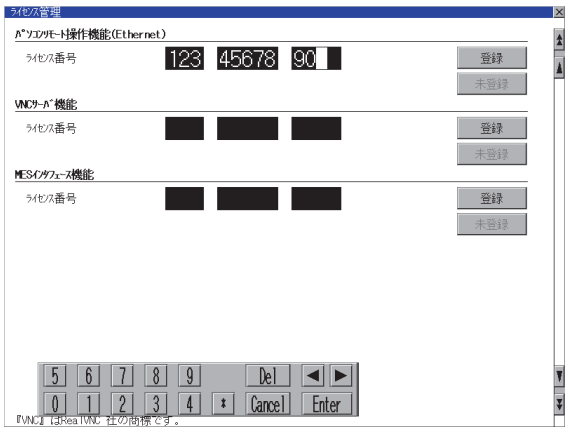
➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ
GOT2000シリーズ MESインタフェース機能マニュアル GT Works3 Version1対応

3.6.2　ライセンス管理の表示操作



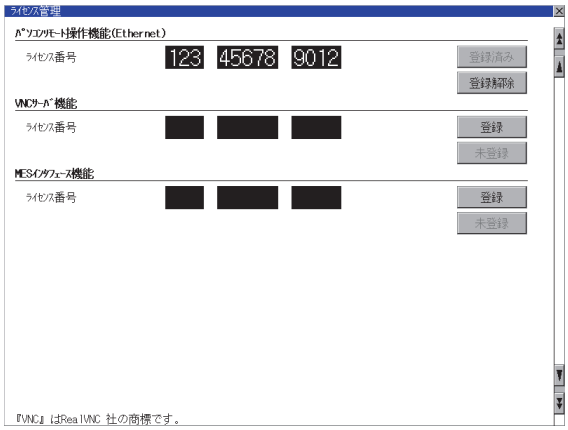
3.6.3 ライセンス管理の設定操作

■ GOT にライセンス番号を登録する場合



1. ライセンス管理画面にてライセンス番号入力エリアをタッチすると画面の下にキーボードが表示されます。
2. [登録] ボタンをタッチすると，入力したライセンス番号が登録されます。
   [登録] ボタンをタッチせずに [×] ボタンをタッチすると，ライセンス番号の登録は行われません。
3. ライセンス番号を登録後，[×] ボタンをタッチすると，ライセンス管理画面が閉じます。

■ GOT のライセンス番号を登録解除する場合



1. ライセンス番号の登録解除を行う場合は，[登録解除] ボタンをタッチします。
2. [×] ボタンをタッチすると，ライセンス管理画面が閉じます。

POINT

ライセンス番号の取得方法について

ライセンス番号の取得方法は最寄りの三菱電機システムサービス株式会社，代理店または支社にご相談ください。

3.7.1　ビデオ接続機器設定

■ ビデオ接続機器設定の設定機能

ビデオの入力信号や解像度を選択できます。

項目	内容	設定範囲
ビデオ接続機器設定	入力信号，解像度を選択できます。	入力信号 : NTSC 方式，PAL 方式 ＜工場出荷時 : NTSC 方式＞ 解像度　: 640×480, 720×480[*1]，768×576 ＜工場出荷時 : 640×480＞

*1　*1　PAL方式のみ選択可能

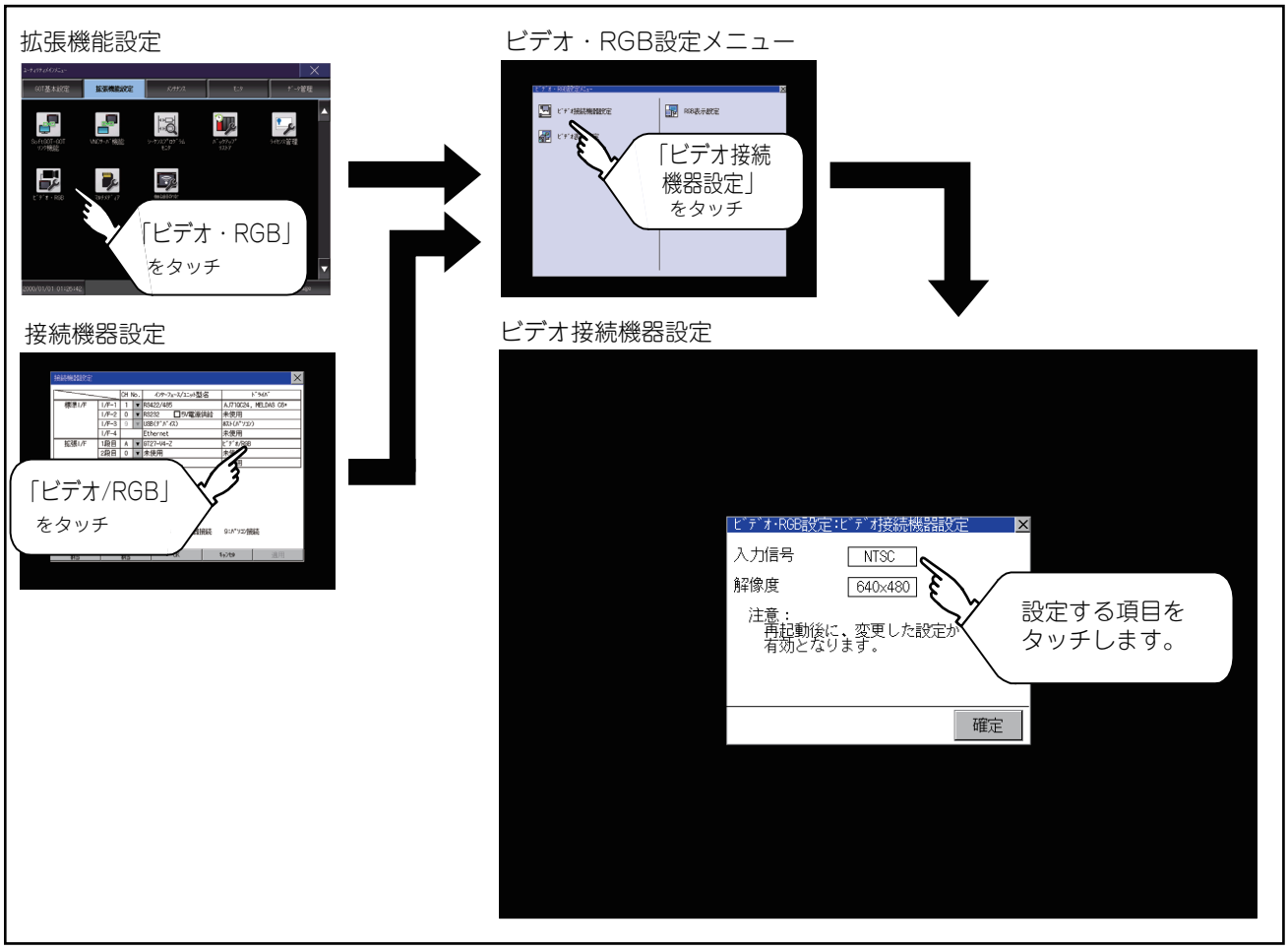
POINT

入力信号の設定について

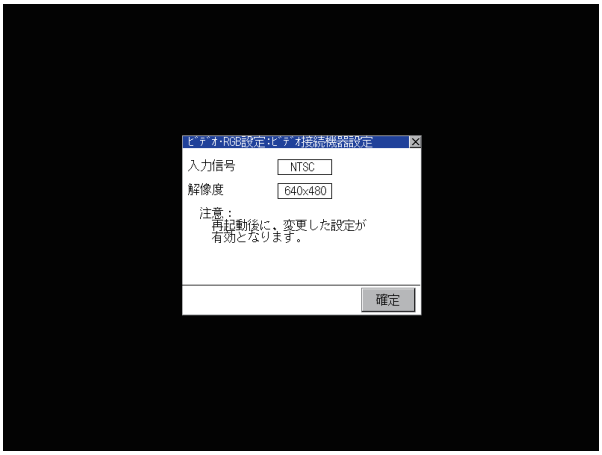
入力信号は，接続するビデオカメラなどの出力方式により，以下のように設定してください。
設定内容が異なると，ビデオ映像が正しく表示されない場合があります。

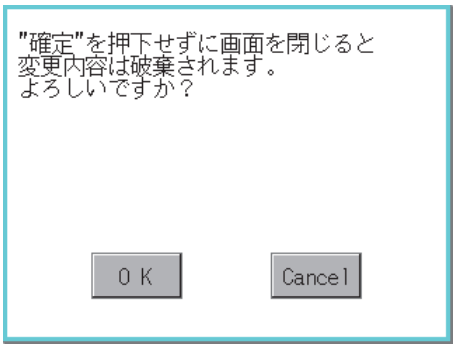
ビデオカメラなどの出力方式	入力信号の設定
NTSC方式	NTSC
PAL方式	PAL
EIA方式	NTSC
CCIR方式	PAL

■ ビデオ接続機器設定の表示操作



■ ビデオ接続機器設定の設定操作





Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。

入力信号: PAL
NTSC
解像度 : 720×480
768×576
640×480

Step 2. [確定]ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。

Step 3. [確定]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

Step 4. [ビデオ接続機器設定]で変更する項目の設定がすべて終了した後，[×]ボタンで[ビデオ接続機器設定]と[ビデオ・RGB設定]，[接続機器設定]を閉じると，GOTが再起動し，設定内容を反映します。

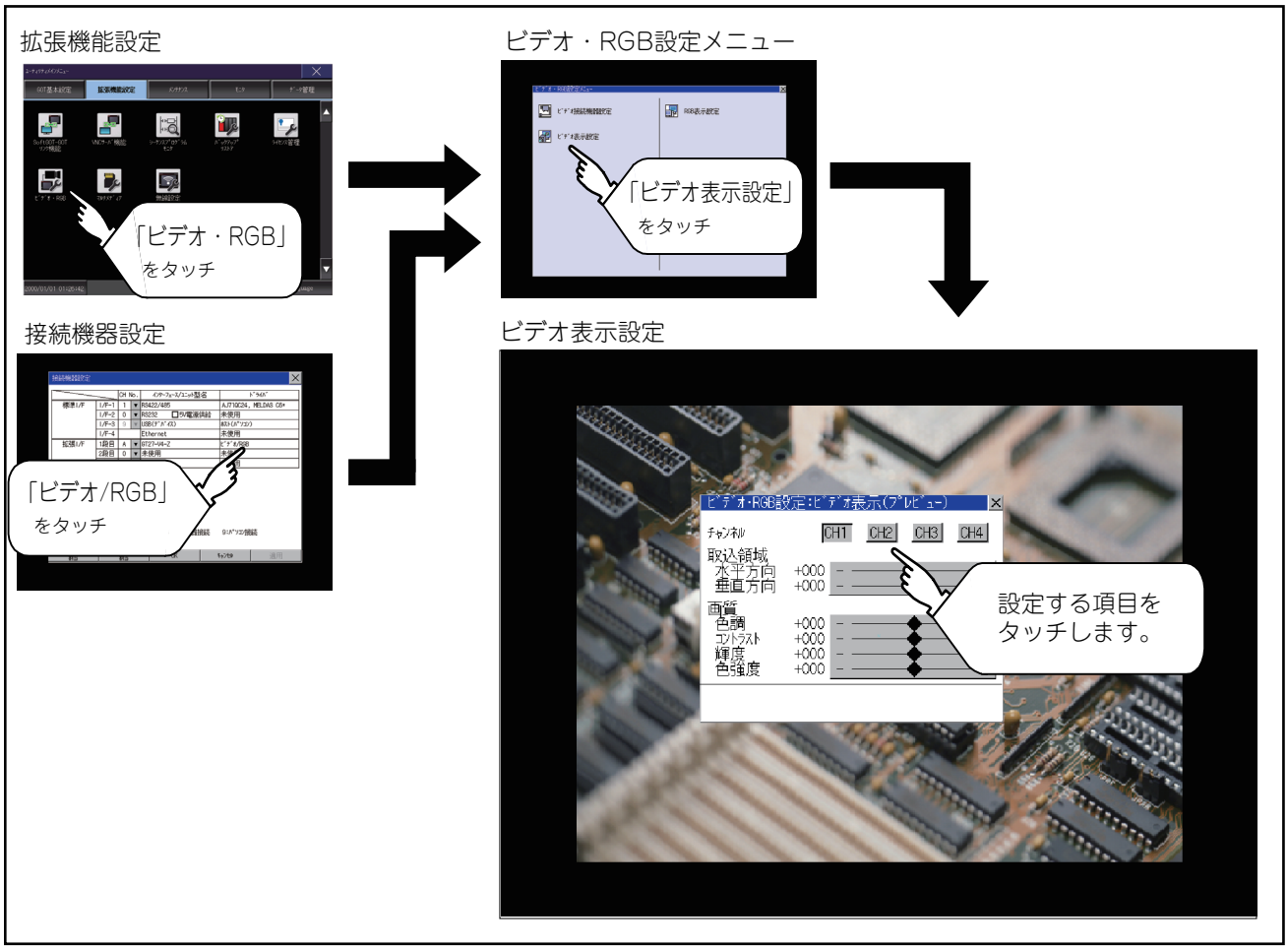
3.7.2　ビデオ表示設定

■ ビデオ表示設定の設定機能

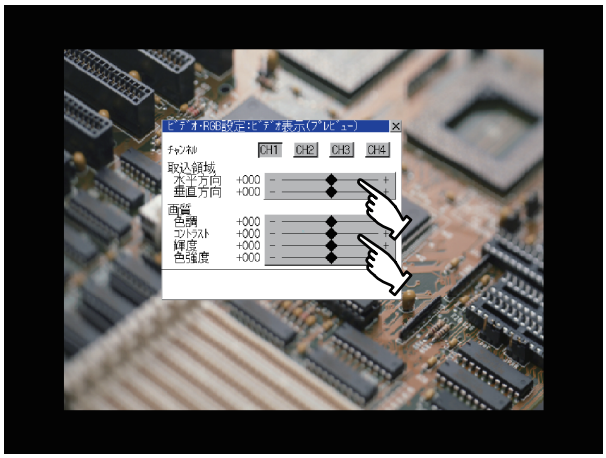
ビデオの設定対象およびプレビューチャンネルの選択，取込領域，および，画質の設定ができます。

項目	内容	設定範囲
ビデオ表示設定	ビデオの設定対象およびプレビューするチャンネルの選択，取込領域（水平方向，垂直方向），および，画質（色調，コントラスト，輝度，色強度）の設定ができます。 取込領域，画質は，チャンネル毎に設定できます。	チャンネル：1/2/3/4 ＜工場出荷時：1＞ 取込領域 水平方向：-100 ～ 100 ＜工場出荷時：0＞ 垂直方向：-100 ～ 100 ＜工場出荷時：0＞ 画質 色調　　：-100 ～ 100 ＜工場出荷時：0＞ コントラスト：-100 ～ 100 ＜工場出荷時：0＞ 輝度　　：-100 ～ 100 ＜工場出荷時：0＞ 色強度　　：-100 ～ 100 ＜工場出荷時：0＞

■ ビデオ表示設定の表示操作

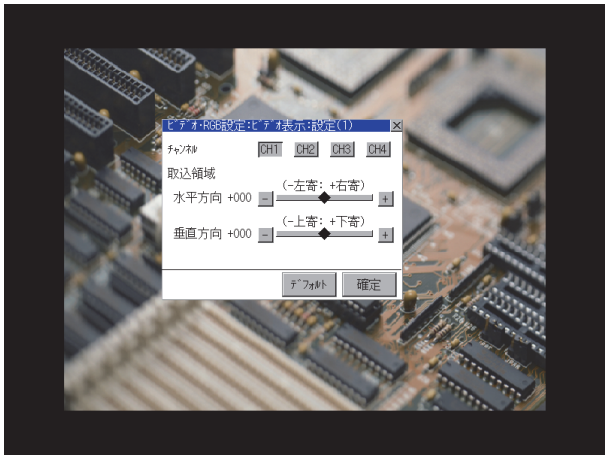


■ ビデオ表示設定の設定操作

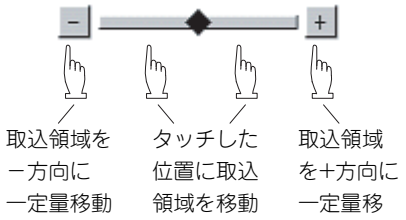


Step 1. 表示させたいビデオのチャンネルNo.を選択します。
選択したチャンネルNo.のビデオ映像をプレビュー表示します。

Step 2. 取込領域，画質を変更する場合は各表示部をタッチします。
取込領域 ：手順3～手順6参照
画質 ：手順7～手順10参照

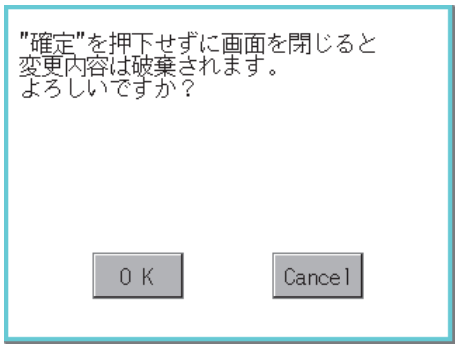


Step 3. 指定したチャンネルNo.の取込領域(水平方向，垂直方向)を変更できます。



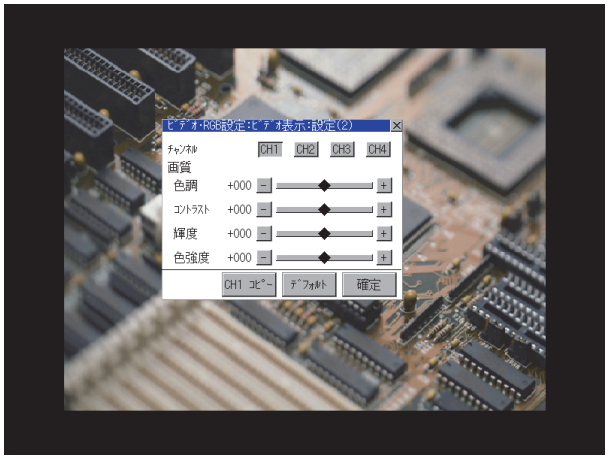
[デフォルト]ボタンをタッチすると初期値に戻すことができます。

Step 4. [確定]ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。

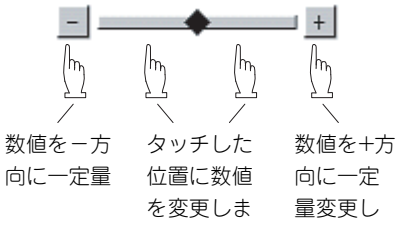


Step 5. [確定]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

Step 6. 項目の設定が終了した後，[×]ボタンをタッチすると，プレビューの画面手順1に戻ります。



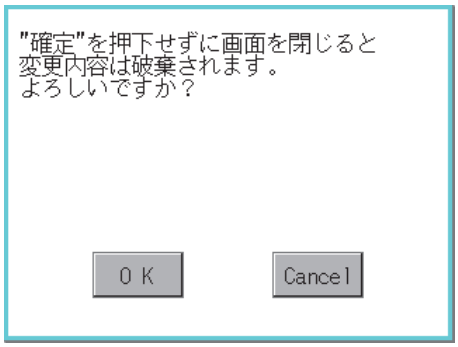
Step 7. 指定したチャンネルNo.の画質(色調，コントラスト，輝度，色強度)を変更することができます。



[デフォルト]ボタンをタッチすると，初期値に戻すことができます。
[CH1コピー]ボタンをタッチすると，選択中のチャンネルNo.の画質(色調，コントラスト，輝度，色強度)をチャンネルNo.1([CH1])の画質の設定に合わせます。

Step 8. [確定]ボタンをタッチすると，設定内容が決定されます。

Step 9. [確定]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。



Step 10. 項目の設定が終了した後，[×]ボタンをタッチすると，プレビューの画面手順1に戻ります。

Step 11. ビデオ表示設定で，変更する項目の設定がすべて終了した後，[×]ボタンで[ビデオ表示(プレビュー)]を閉じると，[ビデオ・RGB設定]に戻ります。

POINT

設定時の注意事項

設定値によっては，ビデオ映像が乱れたり，停止したりする場合があります。
(この場合，設定値をデフォルトにすると正常な表示に戻ります。)
本現象は，ビデオカメラなどの機器に依存します。
正常に表示できる設定値で使用してください。

3.7.3 RGB表示設定

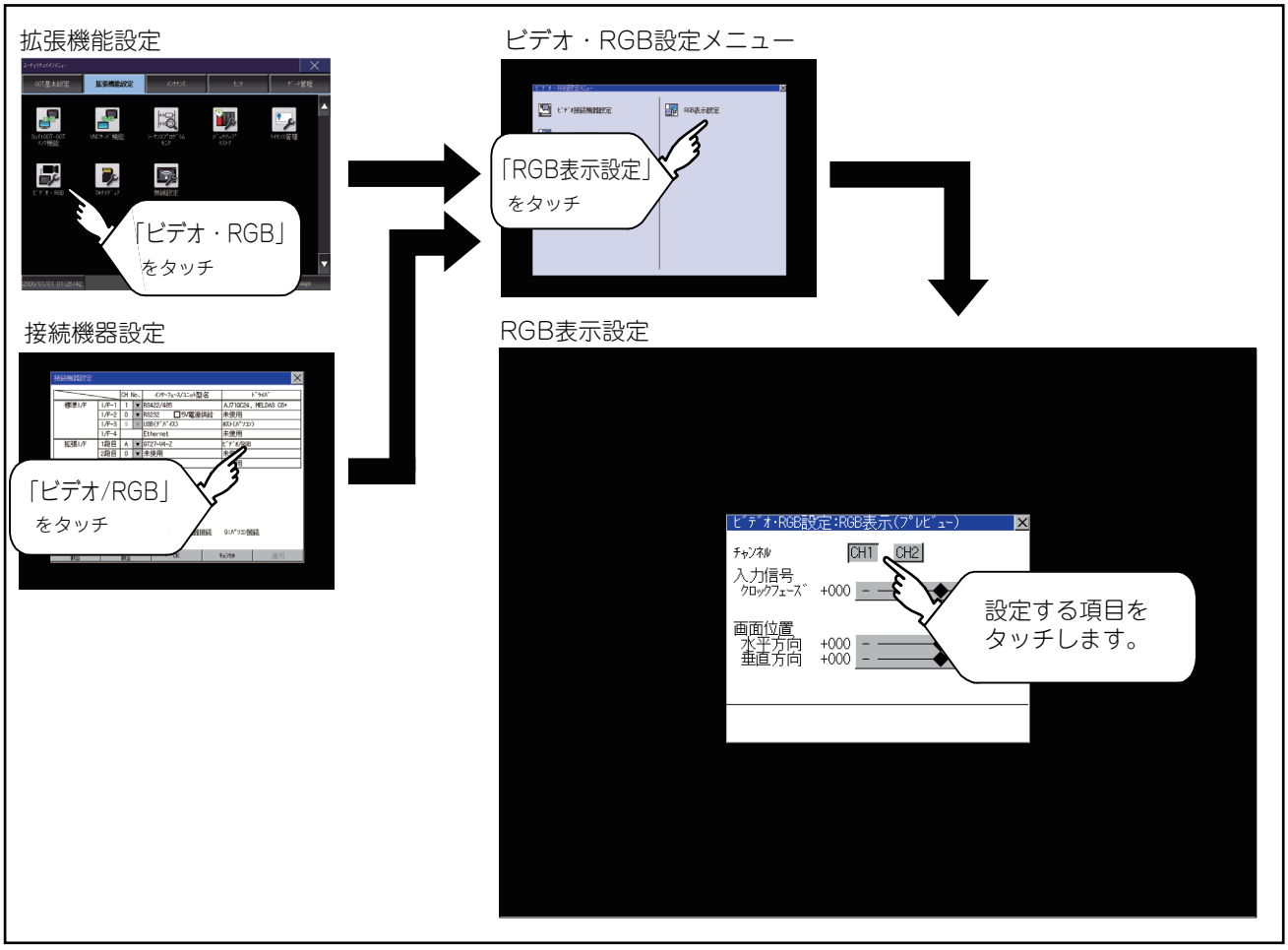
■ RGB 表示設定の設定機能

RGB のクロックフェーズ，画面位置の設定ができます。

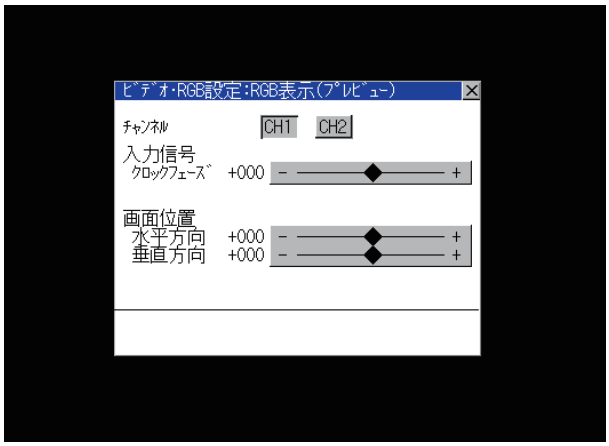
項目	内容	設定範囲
RGB 表示設定	RGB の設定対象およびプレビューするチャンネルの選択，RGB のクロックフェーズ*1，画面位置（水平方向，垂直方向）の設定ができます。	チャンネル : 1/2 ＜工場出荷時 : 1＞ クロックフェーズ : -100 ～ 100 ＜工場出荷時 : 0＞ 画面位置 水平方向 : -100 ～ 100 ＜工場出荷時 : 0＞ 画面位置 垂直方向 : -100 ～ 100 ＜工場出荷時 : 0＞

*1 *1 画面の横方向のノイズが表示されるとき，または，文字がにじんだり輪郭がはっきりしないときに調整します。

■ RGB 表示設定の表示操作

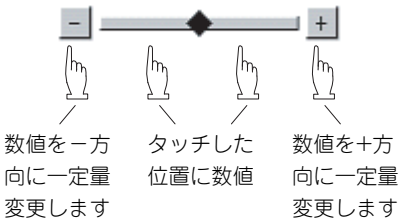


■ RGB 表示設定の設定操作



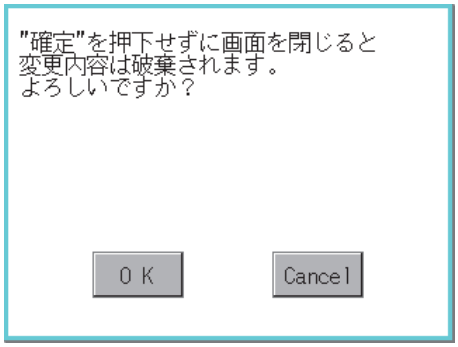
Step 1. 表示させたいRGBのチャンネルNo.を選択します。
選択したチャンネルNo.のRGB映像をプレビュー表示します。

Step 2. クロックフェーズ，画面位置(水平方向，垂直方向)を変更できます。



Step 3. [確定]ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。

Step 4. [確定]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。



Step 5. 項目の設定が終了した後，[×]ボタンをタッチすると，[ビデオ・RGB設定]に戻ります。

POINT

設定時の注意事項

[水平方向]，[垂直方向]の値が大きいと，RGB表示されない場合や表示が乱れたり，停止したりする場合があります。
この場合は設定値をデフォルトにし，RGB表示できる範囲で再度設定してください。

3.8.1　ビデオ接続機器設定

■ ビデオ接続機器設定の設定機能

ビデオの入力信号や解像度を選択できます。

項目	内容	設定範囲
ビデオ接続機器設定	入力信号，解像度を選択できます。	入力信号 : NTSC 方式，PAL 方式 ＜工場出荷時 : NTSC 方式＞ 解像度　: 640×480[*1]，768×576[*2] ＜工場出荷時 : 640×480＞

*1　*1　NTSC方式を選択すると解像度が640 × 480に固定されます。
*2　*2　PAL方式を選択すると解像度が768 × 576に固定されます。

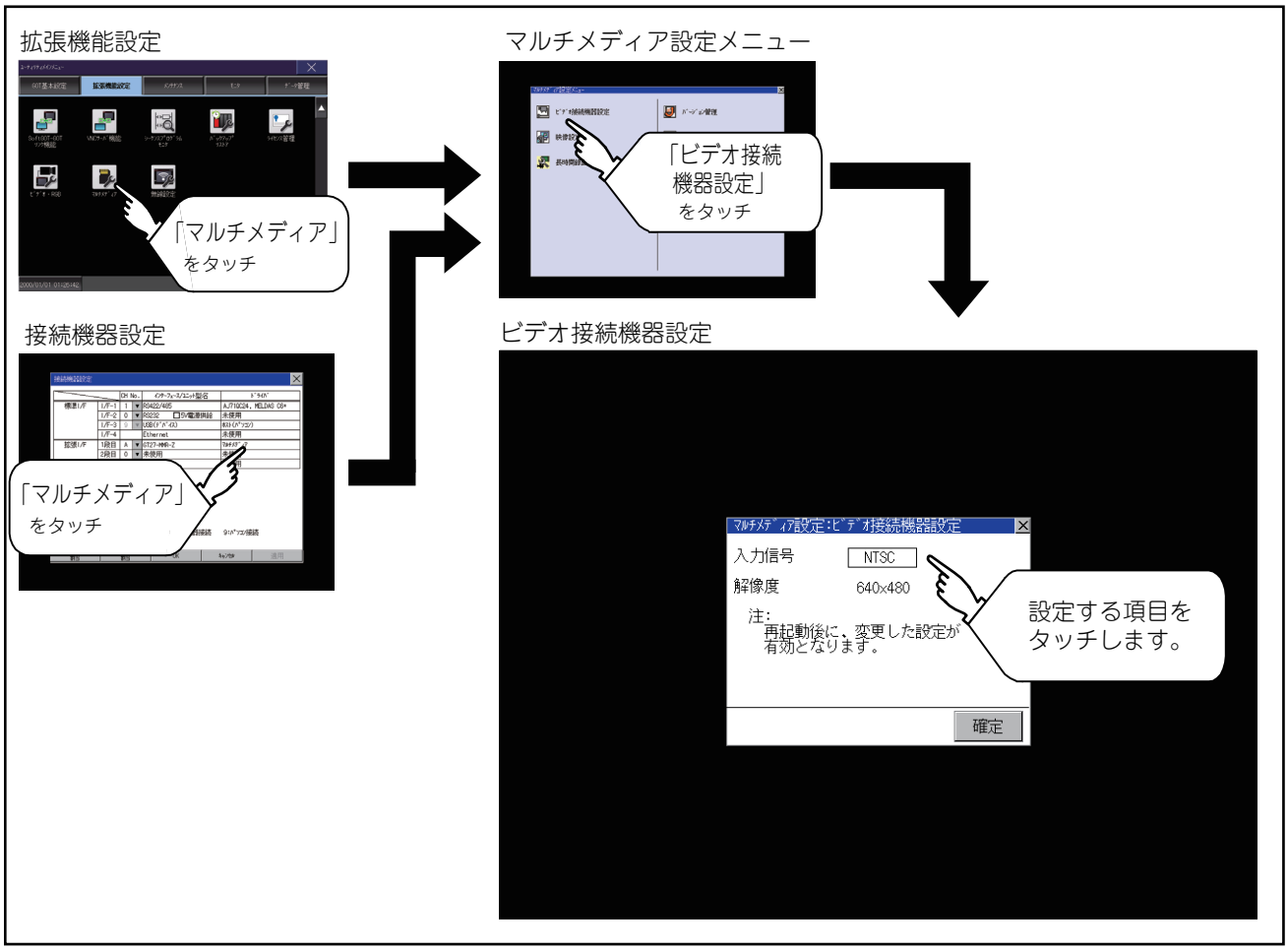
POINT

入力信号の設定について

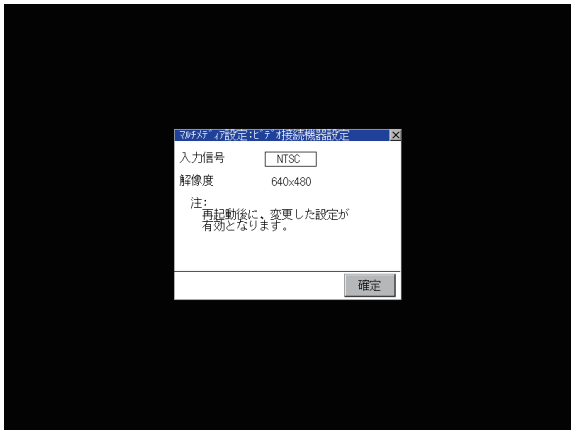
入力信号は，接続するビデオカメラなどの出力方式により，以下のように設定してください。
設定内容が異なると，ビデオ映像が正しく表示されない場合があります。

ビデオカメラなどの出力方式	入力信号の設定
NTSC方式	NTSC
PAL方式	PAL
EIA方式	NTSC
CCIR方式	PAL

■ ビデオ接続機器設定の表示操作



■ ビデオ接続機器設定の設定操作

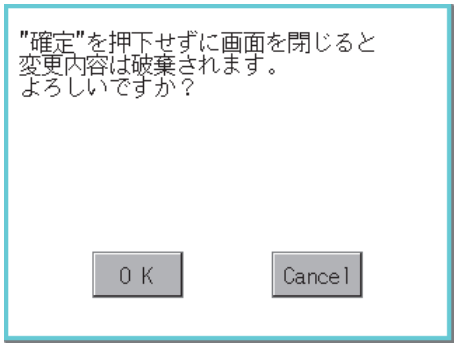


Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。

入力信号: PAL
NTSC
解像度 : 768×576
640×480

解像度は，NTSCを選択すると，640×480，PALを選択すると，768×576が自動で切替わります。

Step 2. [確定]ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。



Step 3. [確定]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

Step 4. 変更する項目の設定がすべて終了した後，[×]ボタンで[ビデオ接続機器設定]を閉じます。

Step 5. [×]ボタンで[マルチメディア設定]，または[接続機器設定]を閉じると，GOTが再起動し，設定内容を反映します。

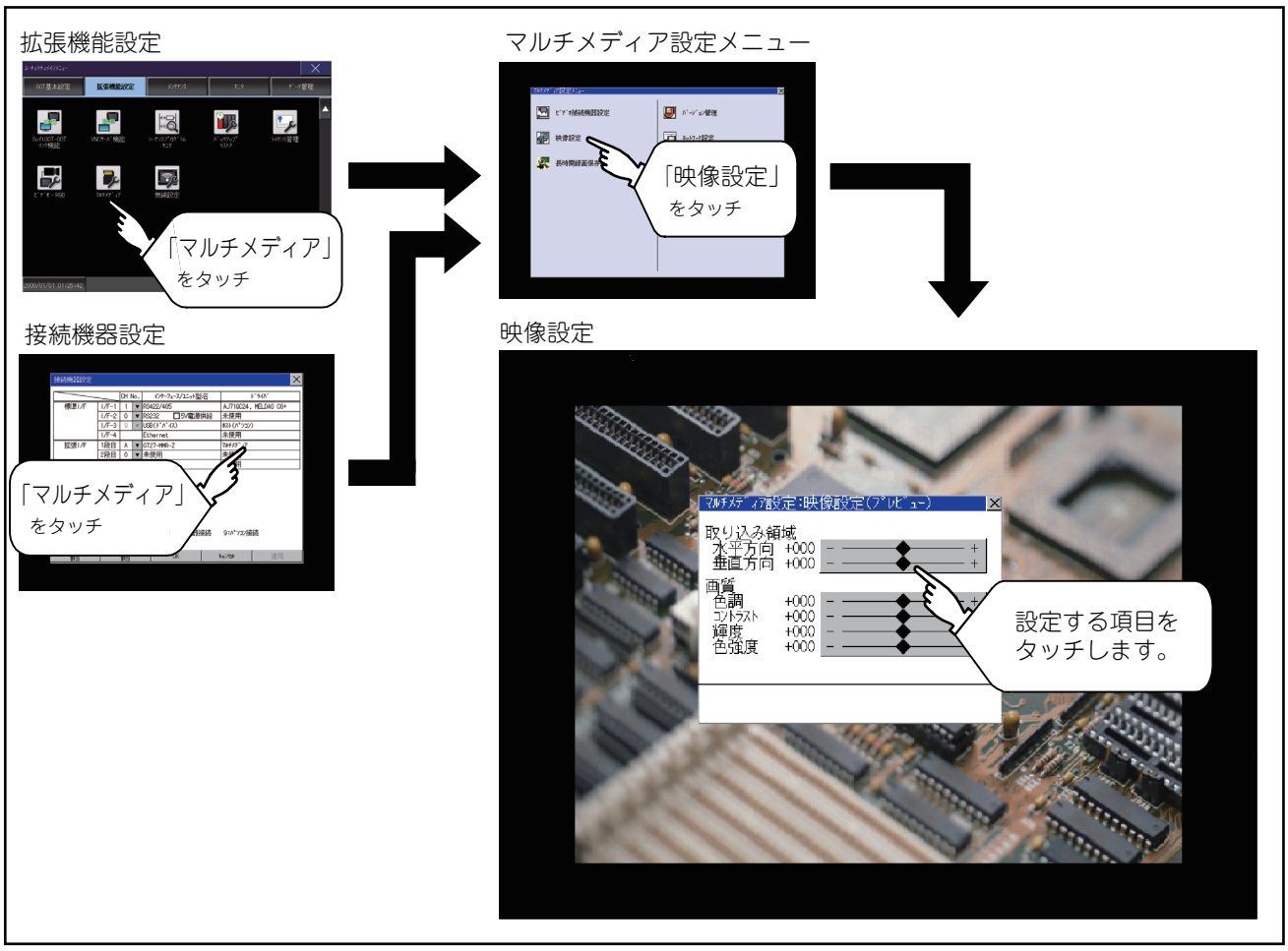
3.8.2　映像設定

■ 映像設定の設定機能

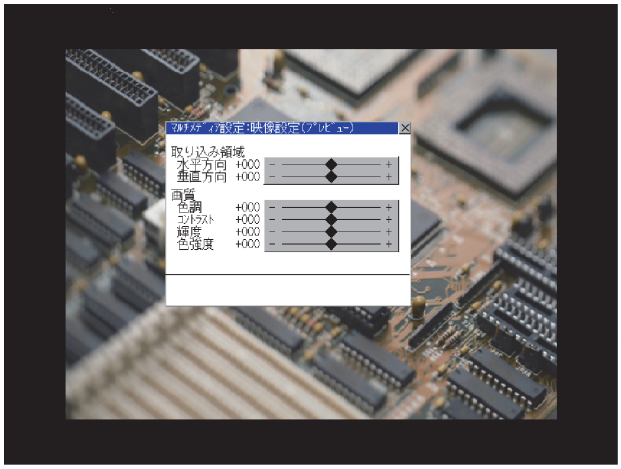
映像設定では，取込領域，および，画質の設定ができます。

項目	内容	設定範囲
映像設定	ビデオの取込領域（水平方向，垂直方向），および，画質（色調，コントラスト，輝度，色強度）の設定ができます。	取込領域 水平方向 : -100 ～ 100 ＜工場出荷時 : 0＞ 垂直方向　　: -100 ～ 100 ＜工場出荷時 : 0＞ 画質 色調　　: -100 ～ 100 ＜工場出荷時 : 0＞ コントラスト : -100 ～ 100 ＜工場出荷時 : 0＞ 輝度　　: -100 ～ 100 ＜工場出荷時 : 0＞ 色強度　　: -100 ～ 100 ＜工場出荷時 : 0＞

■ 映像設定の表示操作

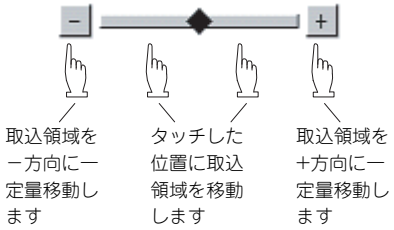


■ 映像設定の設定操作



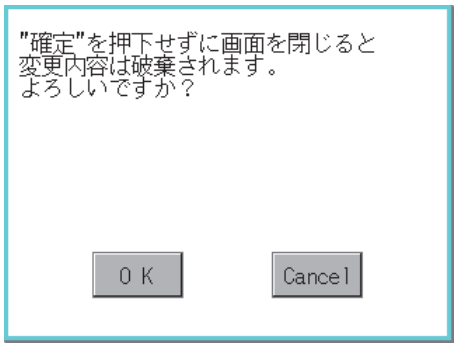
Step 1. 取込領域，画質を変更する場合は各表示部をタッチします。
取込領域 ：手順2～手順5参照
画質 ：手順6～手順9参照

Step 2. 取込領域(水平方向，垂直方向)を変更できます。



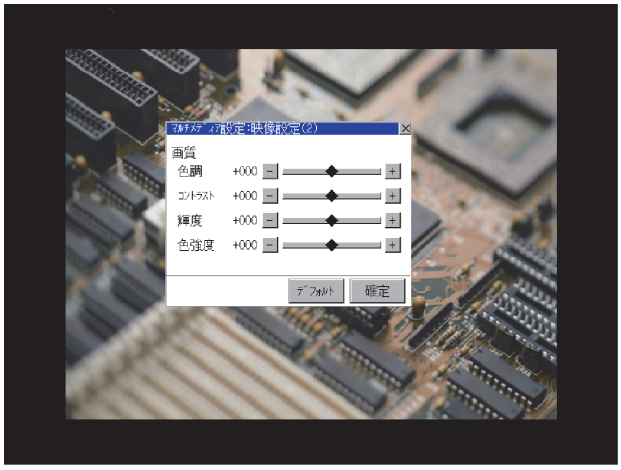
[デフォルト]ボタンをタッチすると初期値に戻すことができます。

Step 3. [確定]ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。

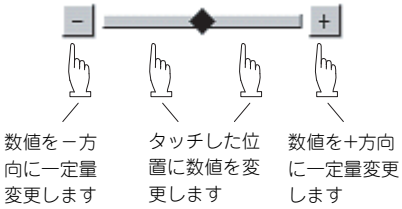


Step 4. [確定]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

Step 5. 項目の設定が終了した後，[×]ボタンをタッチすると，プレビューの画面手順1に戻ります。

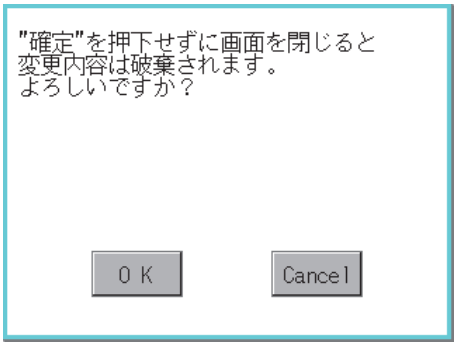


Step 6. 画質(色調，コントラスト，輝度，色強度)を変更することができます。



[デフォルト]ボタンをタッチすると，初期値に戻すことができます。

[×]ボタンをタッチすると，設定内容が決定されます。



Step 7. [確定]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

Step 8. 項目の設定が終了した後，[×]ボタンをタッチすると，プレビューの画面手順1に戻ります。

Step 9. [映像設定]で，変更する項目の設定がすべて終了した後，[×]ボタンで[映像設定(プレビュー)]を閉じると，[マルチメディア設定]に戻ります。

POINT

設定時の注意事項

設定値によっては，ビデオ映像が乱れたり，停止したりする場合があります。
(この場合，設定値をデフォルトにすると正常な表示に戻ります。)
本現象は，ビデオカメラなどの機器に依存します。
正常に表示できる設定値で使用してください。

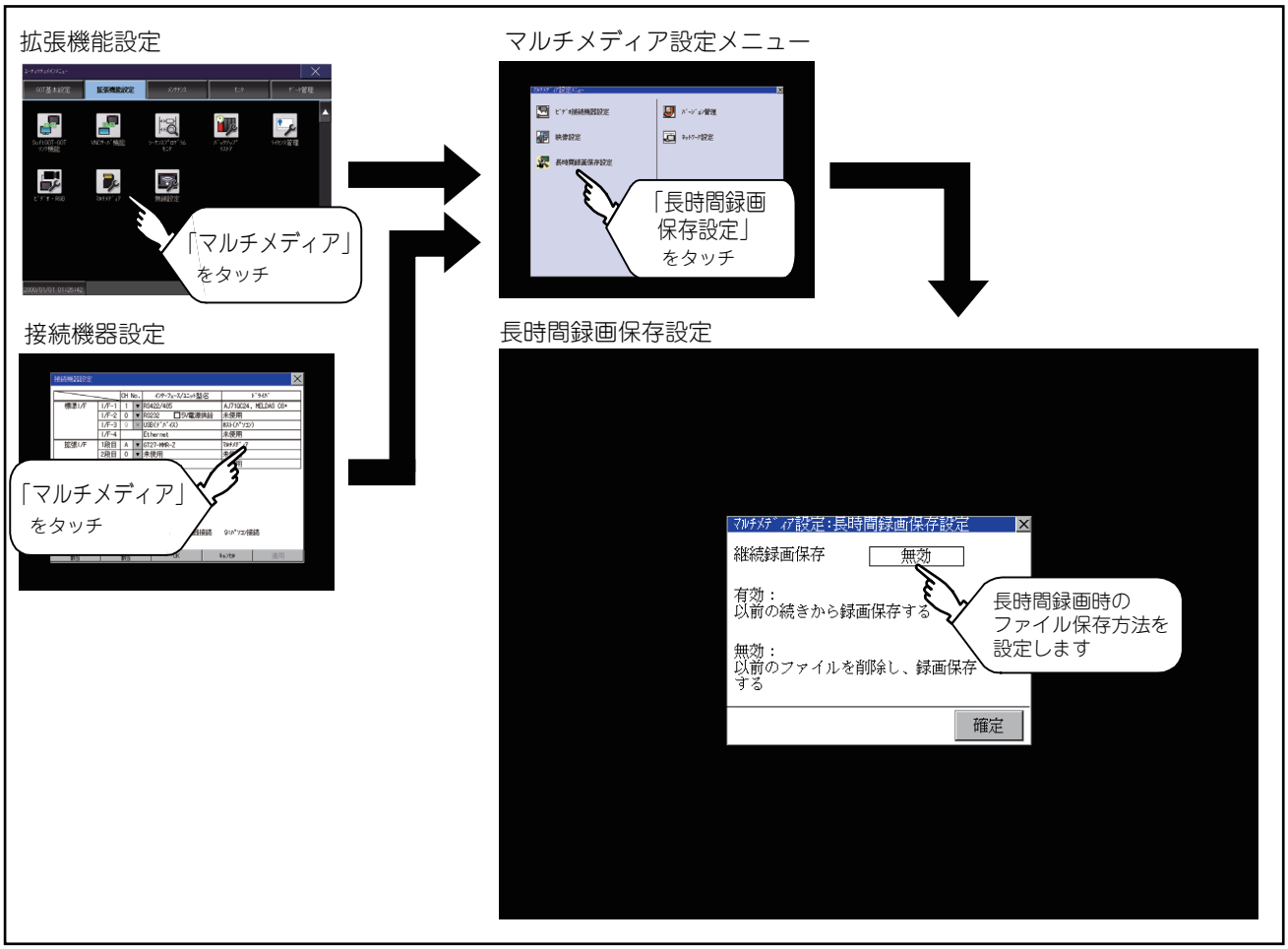
3.8.3　長時間録画保存設定

■ 長時間録画保存設定の設定機能

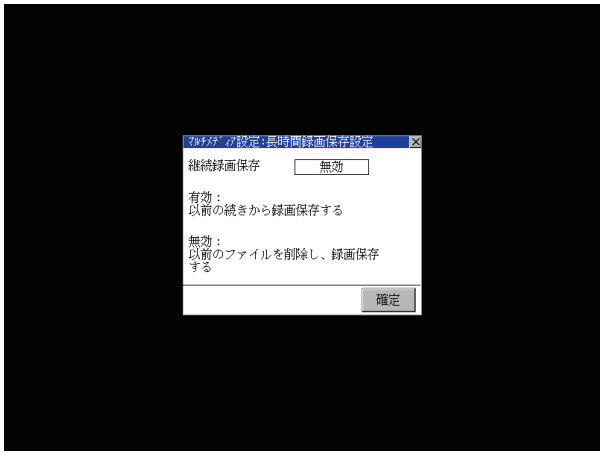
長時間録画保存設定では，長時間録画時の動画ファイルの保存方法を設定できます。

項目	内容	設定範囲
継続録画保存	長時間録画時，前回保存した動画ファイルをすべて削除してから録画を開始するか，削除せずに録画を開始するかの設定ができます。	有効 / 無効 ＜工場出荷時：無効＞

■ 長時間録画保存設定の表示操作

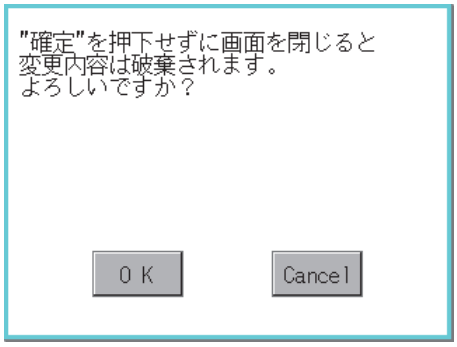


■ 長時間録画保存設定の設定操作



Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。
継続録画保存: 有効/無効

Step 2. [確定]ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。



Step 3. [確定]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

Step 4. 変更する項目の設定がすべて終了した後，[×]ボタンで[長時間録画保存設定]を閉じます。

Step 5. [×]ボタンで[マルチメディア設定]，または[接続機器設定]を閉じると，設定内容を反映します。

3.8.4　バージョン管理

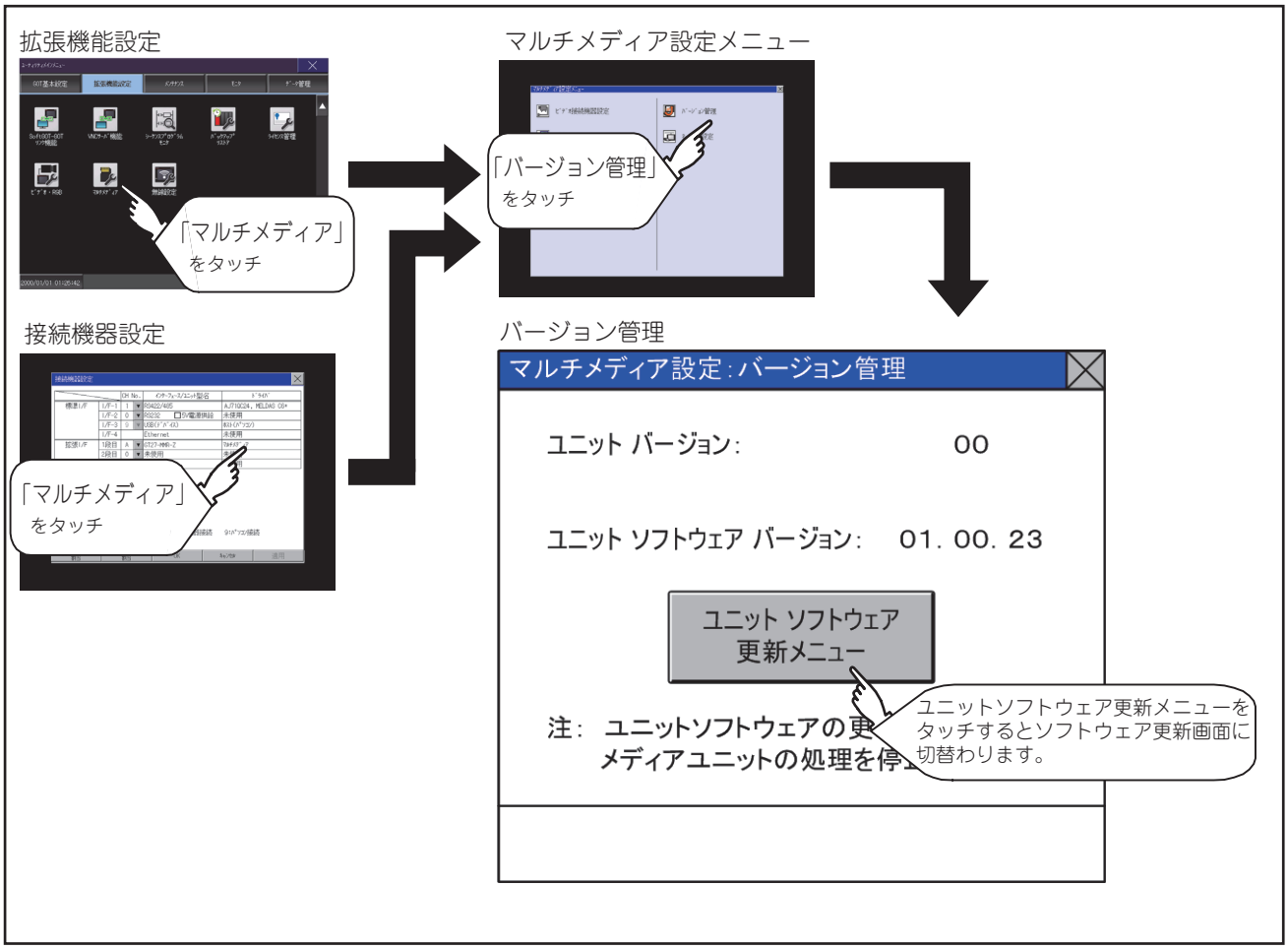
マルチメディアユニットのソフトウェアバージョンのバージョンアップをする場合に行います。

■ マルチメディア設定バージョン管理の表示操作

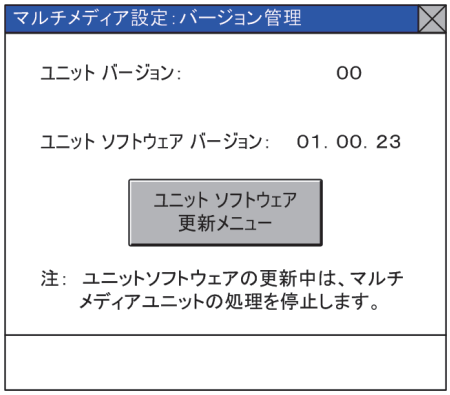
更新プログラムの入った SD カードをマルチメディアユニットに装着することで，プログラムの更新を行うことができます。

更新プログラムは下記のいずれかより用意してください。

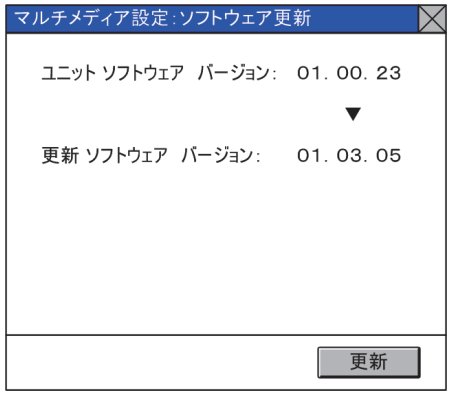
- GT Works3のDVD
- 三菱電機FA サイトからダウンロード
  http://www.mitsubishielectric.co.jp/fa/



■ マルチメディア設定バージョン管理の設定操作

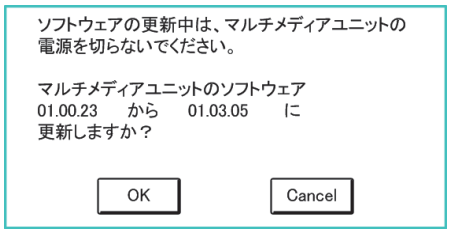


Step 1. ユニットソフトウェアバージョンに表示されているバージョンを確認します。現在マルチメディアユニットにインストールされているソフトウェアのバージョンです。
[ユニットソフトウェア更新メニュー]ボタンをタッチすると，更新プログラム転送画面が表示されます。

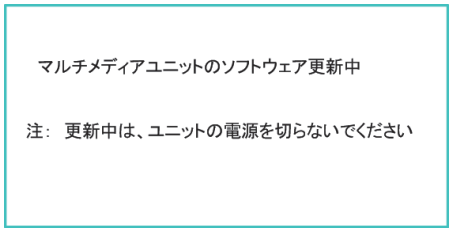


Step 2. 更新プログラムが入ったSDカードをマルチメディアユニットに装着します。
ユニットソフトウェアバージョンよりも新しい更新プログラムが格納されている場合のみ更新ソフトウェアバージョンに新しい更新プログラムのバージョンが表示されます。

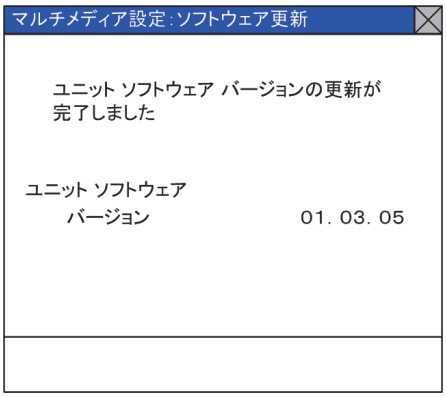
Step 3. 新しいバージョンに更新する場合は，[更新プログラム転送]ボタンをタッチします。



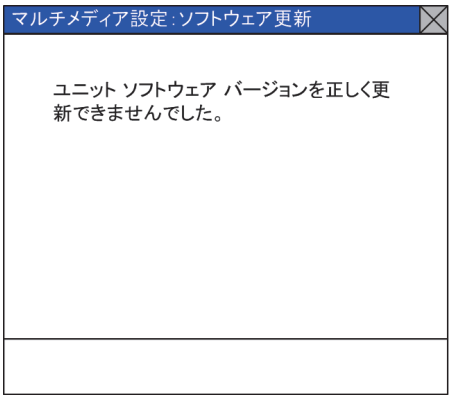
Step 4. 左記のダイアログが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ソフトウェアの更新が更新されます。
[Cancel]ボタンをタッチすると，ソフトウェアの更新はされません。



Step 5. 更新プログラムの更新中は左記のダイアログが表示されます。
左記のダイアログ表示中はSDカードを抜いたり，GOTの電源を切らないでください。
マルチメディアユニットのSDカードアクセススイッチをOFFにしないでください。
ソフトウェアが正しく更新されません。



Step 6. 正常に更新プログラムの更新が完了すると左記のダイアログが表示されます。



Step 7. 更新プログラムが正しくない場合または更新プログラムの更新に失敗した場合，左記のダイアログが表示されます。
GOTの再起動を行った後，手順1からやり直してください。

3.8.5　ネットワーク設定

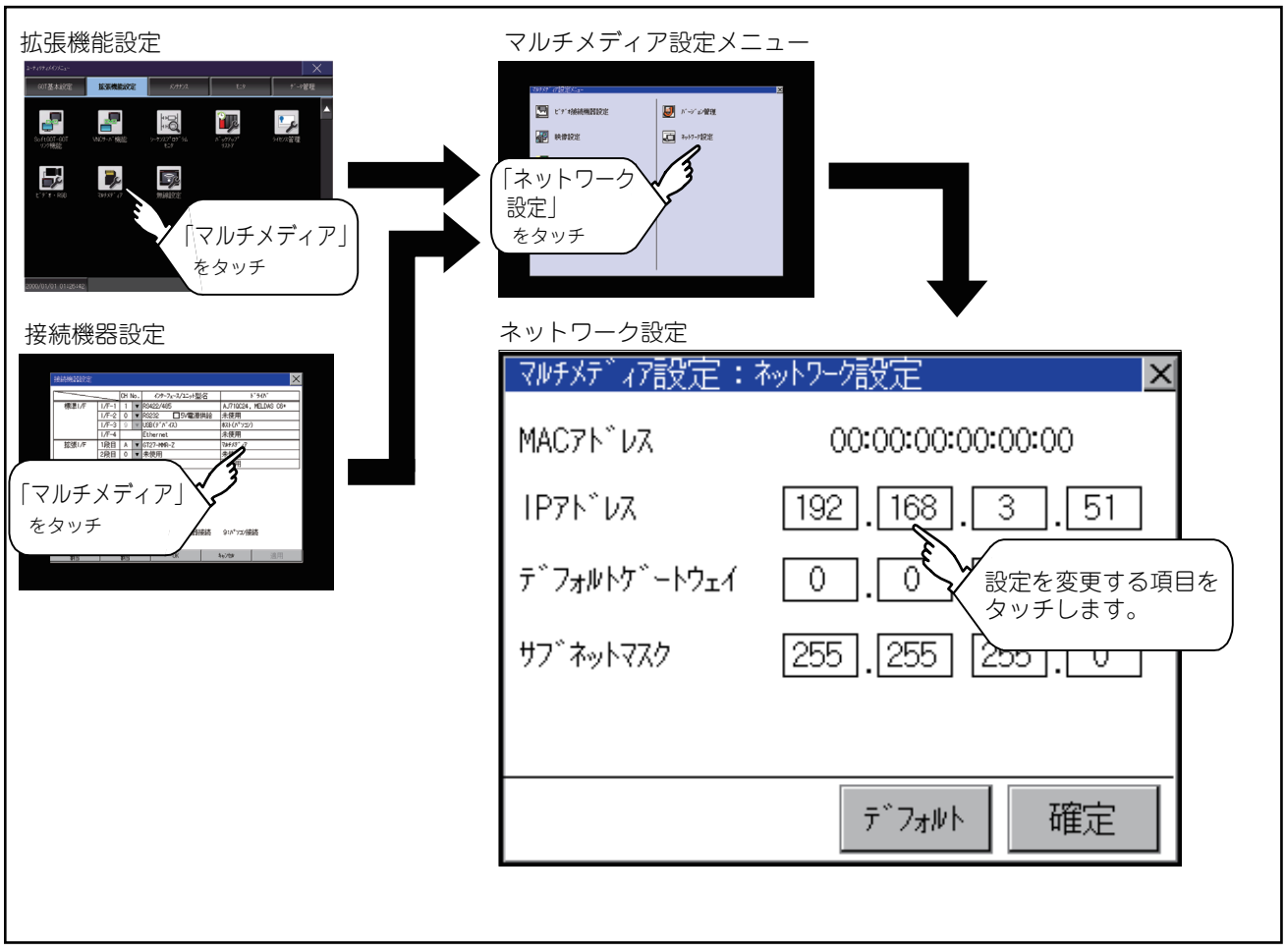
■ ネットワーク設定の設定機能

ネットワーク設定は，マルチメディアユニットの Ethernet I/F を使用してネットワーク接続をする場合に行います。

ネットワーク設定では，下記の設定ができます。

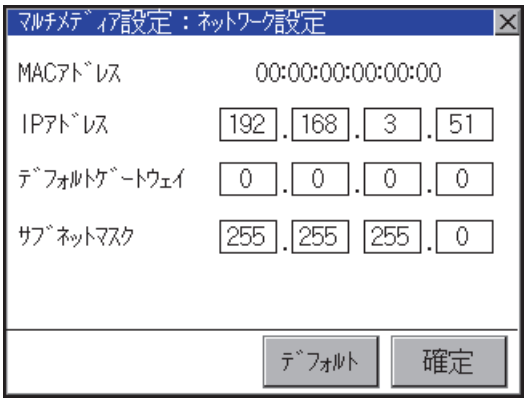
項目	内容	設定範囲
MAC アドレス	MAC アドレスを表示します。	−
IP アドレス	IP アドレスの表示，設定ができます。	0.0.0.0 ～ 255.255.255.255 <デフォルト : 192.168.3.51 >
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのルータアドレスを表示，設定ができます。 ルータ経由の場合，設定が必要です。	0.0.0.0 ～ 255.255.255.255 <デフォルト : 0.0.0.0 >
サブネットマスク	サブネットマスクの表示，設定ができます。 ルータ経由の場合，設定が必要です。	0.0.0.0 ～ 255.255.255.255 <デフォルト : 255.255.255.0 >

■ ネットワーク設定の表示操作



■ ネットワーク設定の設定操作

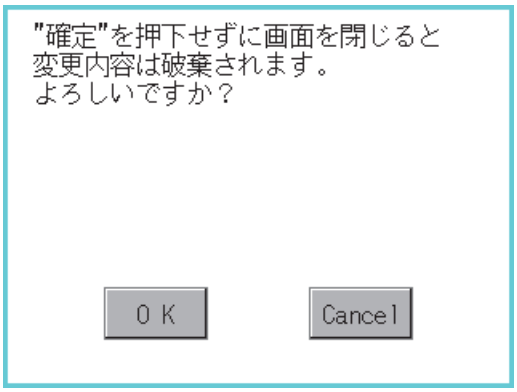
IP アドレスの設定操作を下記に示します。
デフォルトゲートウェイ，サブネットマスクの設定操作も同じです。



Step 1. IPアドレス表示ボックスをタッチします。

Step 2. キーボードが表示されますので，数字を入力します。

Step 3. [確定]ボタンをタッチすると設定内容が決定されます。
また，[デフォルト]ボタンをタッチすると初期値に戻すことができます。



Step 4. [確定]ボタンをタッチせずに[×]ボタンをタッチすると，左記のダイアログが表示されます。

Step 5. [ネットワーク設定]で，変更する項目の設定がすべて終了した後，[×]ボタンをタッチすると，[マルチメディア設定]に戻ります。

3.8.6 マルチメディア画面

■ マルチメディア画面の表示操作

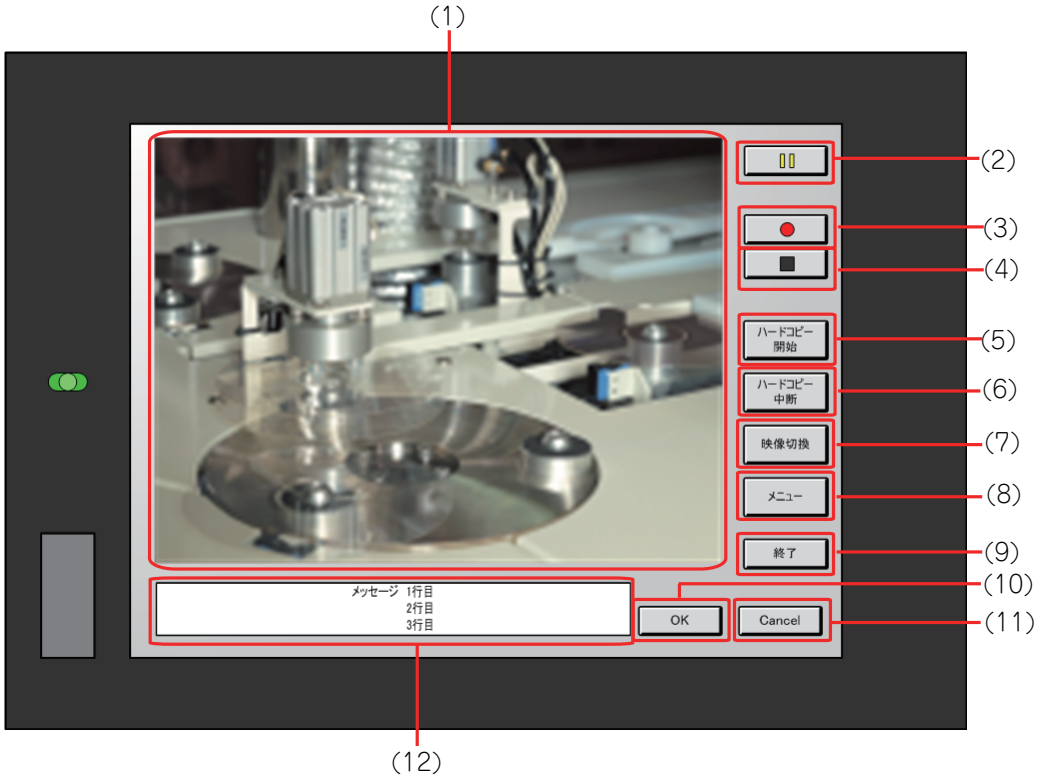
プロジェクト画面でマルチメディア画面を表示するマルチメディア画面スイッチを作成します。
マルチメディア画面スイッチをタッチすると，マルチメディア画面に切替わります。
マルチメディア画面では，ビデオ映像，動画再生およびファイル選択メニューの切替えができます。
マルチメディア画面を表示する拡張機能スイッチの作成手順の詳細は下記を参照してください。

➠ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

■ マルチメディア画面の設定操作

(1) ビデオ映像画面について

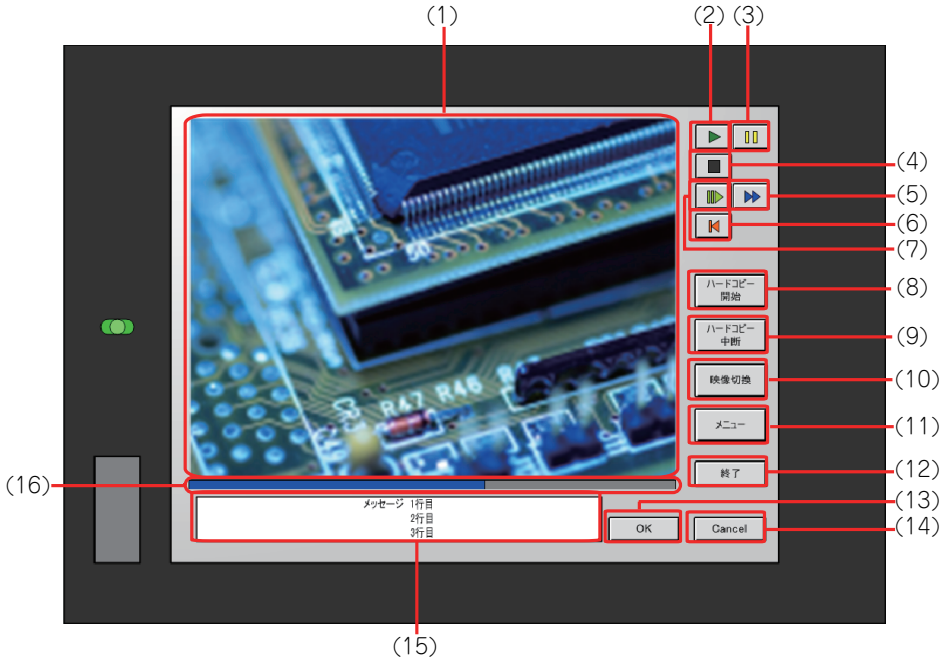
マルチメディアユニットに接続したビデオカメラで撮影した映像を，GOT画面で表示できます。
ビデオカメラで撮影した映像を録画できます。



項目	名称	内容
(1)	映像表示画面	ビデオカメラで撮影した映像を表示する画面
(2)	ボタン	ビデオカメラで撮影した映像を一時停止するボタン
(3)	ボタン	ビデオカメラで撮影している映像の録画を開始するボタン
(4)	ボタン	録画を停止するボタン
(5)	ハードコピー 開始 ボタン	ハードコピーを開始するボタン
(6)	ハードコピー 中断 ボタン	ハードコピーを中断するボタン
(7)	映像切換 ボタン	動画再生画面に表示切替をするボタン
(8)	メニュー ボタン	ファイルメニュー画面に切替をするボタン
(9)	終了 ボタン	マルチメディア画面を終了し，ユーティリティ画面に戻るボタン
(10)	OK ボタン	メッセージに対して許可をするためのボタン
(11)	Cancel ボタン	メッセージに対して中断をするためのボタン
(12)	メッセージ表示画面	エラーメッセージなど表示するための画面

(2) 動画再生画面について

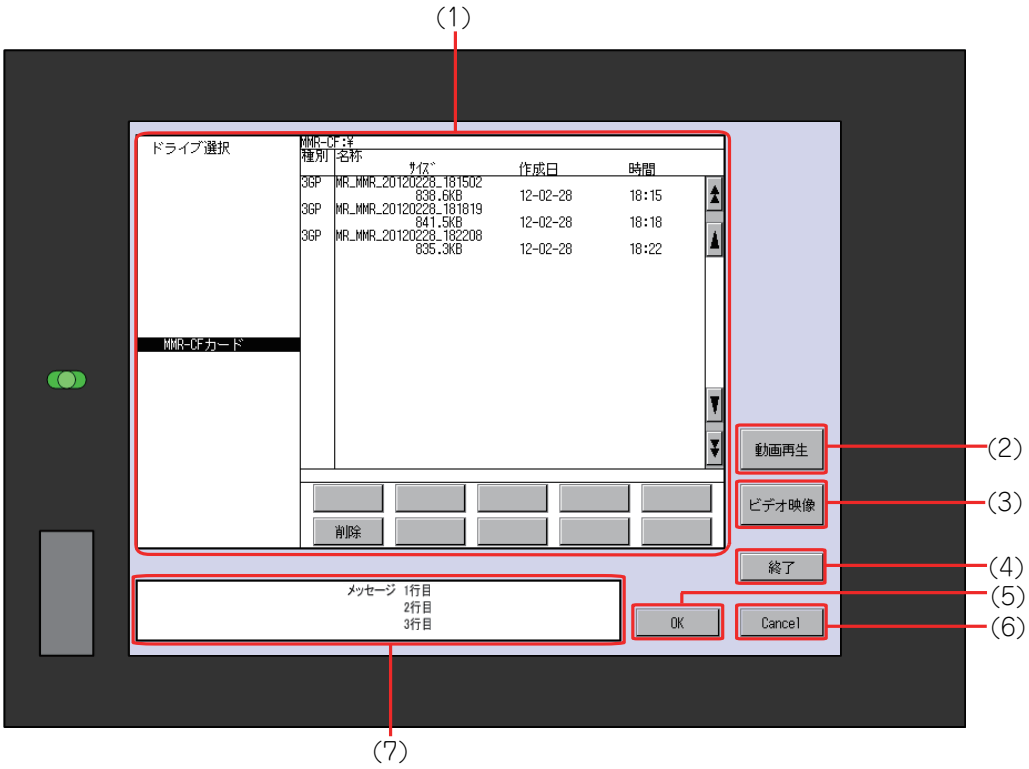
マルチメディアユニットに装着したSDカードに保存した動画ファイルの再生を行い，動画ファイルの表示ができます。



項目	名称	内容
(1)	映像表示画面	ビデオカメラで撮影した映像または動画再生を表示する画面
(2)	▶ ボタン	動画再生を行う場合の再生ボタン
(3)	⏸ ボタン	ビデオカメラで撮影した映像または動画再生を一時停止するボタン
(4)	■ ボタン	動画再生を停止するボタン
(5)	⏩ ボタン	動画を早送り再生するボタン
(6)	⏮ ボタン	動画ファイルの先頭まで戻り，動画再生をするボタン
(7)	⏭ ボタン	動画をスロー再生するボタン
(8)	ハードコピー 開始 ボタン	ハードコピーを開始するボタン
(9)	ハードコピー 中断 ボタン	ハードコピーを中断するボタン
(10)	映像切換 ボタン	ビデオ映像画面に表示切替をするボタン
(11)	メニュー ボタン	ファイルメニュー画面に切替をするボタン
(12)	終了 ボタン	マルチメディア画面を終了し，ユーティリティ画面に戻るボタン
(13)	OK ボタン	メッセージに対して許可をするためのボタン
(14)	Cancel ボタン	メッセージに対して中断をするためのボタン
(15)	メッセージ表示画面	再生中の動画のファイル名と撮影時刻，メッセージを表示するための画面
(16)	再生位置表示バー	動画の再生位置を表示

(3) ファイルメニュー画面について

マルチメディアユニットに装着したSDカードの動画ファイルの検索ができます。
検索した動画ファイルを動画再生画面で表示することができます。
ファイルの表示ができます。



項目	名称	内容
(1)	ファイルメニュー表示画面	ドライブ選択で選択した SD カード内の動画ファイルを表示または動画ファイルの削除を行う画面
(2)	動画再生 ボタン	動画再生画面に表示切替をするボタン
(3)	ビデオ映像 ボタン	ビデオ映像画面に表示切替をするボタン
(4)	終了 ボタン	マルチメディア画面を終了するボタン
(5)	OK ボタン	メッセージに対して許可をするためのボタン
(6)	Cancel ボタン	メッセージに対して中断をするためのボタン
(7)	メッセージ表示画面	エラーメッセージなど表示するための画面

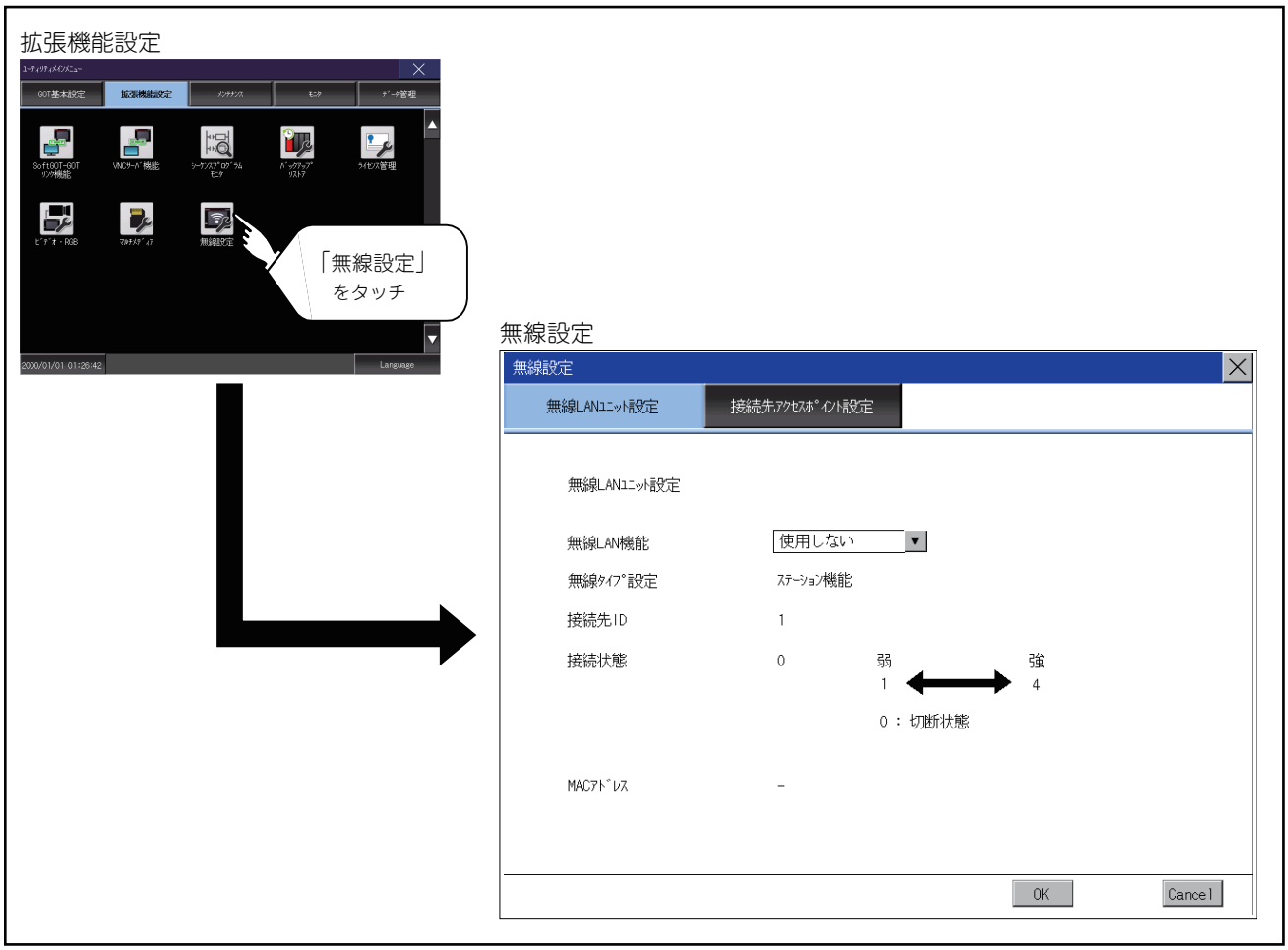
3.9 無線接続機能

3.9.1 無線接続機能の設定機能

GT Designer3で設定した無線接続機能の設定内容を確認できます。
GOTで無線LAN機能を使用または未使用を設定でき，接続先アクセスポイントのIDを確認できます。
無線LAN機能の設定については，下記を参照してください。

➠ ☞ GOT2000シリーズ 接続マニュアル(マイコン･MODBUS･周辺機器接続編) GT Works3 Version1対応

3.9.2 無線接続機能の表示操作



3.9.3 無線接続機能設定の表示内容

■ 無線 LAN 通信ユニット設定

無線接続機能の設定項目や，表示内容について説明します。

(1) 無線LAN機能の設定

無線LAN機能の使用しない，使用するを選択できます。

(2) 無線タイプ，接続先ID，接続状態の表示

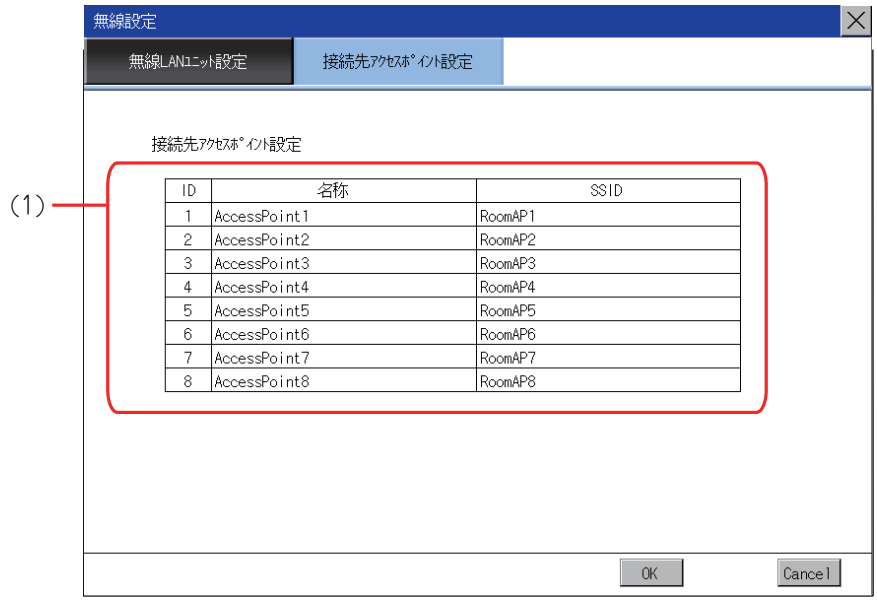
GT Designer3で設定した無線タイプ，接続先ID，MACアドレスの内容を表示します。
無線LANの接続状態を表示します。

(3) 設定変更

[OK]ボタンをタッチすると，GOTは再起動し，変更した設定で動作します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，変更した設定は破棄され，[無線設定]画面に戻ります。

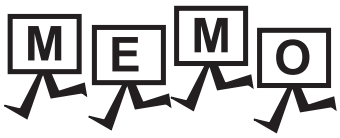
■ 接続先アクセスポイント設定

接続先アクセスポイントの設定画面で，接続先の ID を確認できます。



(1) 接続先アクセスポイント設定

GT Designer3で設定した接続先アクセスポイントのID，名称，SSIDの内容を表示します。


MEMO

4. メンテナンス

メンテナンスを実行するための画面を表示できます。
メンテナンスでは下記の機能が使用できます。

項目	内容	参照先
一括自己診断	GOT の通電時間，インストール済みシステムアプリケーション等の情報を収集し，診断結果閲覧メニュー画面に表示できます。	4.1
USB デバイス管理	GOT に装着中の USB 周辺機器を管理します。	4.2
画面掃除	画面を布などでふき掃除をするときに画面をタッチしても影響がないようにします。	4.3
タッチパネル調整	タッチ位置の読取り誤差を修正できます。	4.4
システムアラーム	エラー発生時に，エラーコードとエラーメッセージを表示します。	4.5
描画チェック	ビット欠け，色チェック，描画チェックを行います。	4.6
フォントチェック	文字データを画面に表示し，目視によるチェックを行います。	4.7
タッチパネルチェック	タッチキー最小単位 (16 ドット ×16 ドット) での不感帯領域がないかのチェックを行います。	4.8
I/O チェック	RS-232 インタフェースの相手先確認 (接続されているシーケンサ CPU との通信チェック) や，自己折り返しチェック (RS-232 インタフェースのハードウェアチェック) を行います。	4.9
Ethernet 状態チェック	ping を送信して，Ethernet 接続状態のチェックを行います。	4.10
GOT 情報	GOT の情報を表示します。	4.11

4.1　一括自己診断

一括自己診断では，GOTの通電時間，インストール済みシステムアプリケーション等の情報を収集し，診断結果閲覧メニュー画面に表示できます。

4.1.1　一括自己診断の機能

一括自己診断の画面でシステム状態ログのエクスポート先を指定するとデータストレージに記録できます。

項目	内容
システム状態ログ	GOT のシステムの状態を記録した診断データ

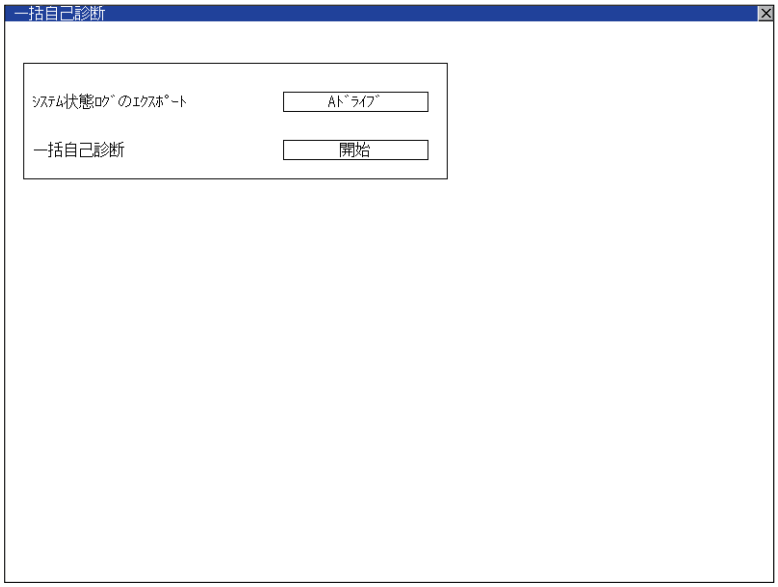
また，診断結果閲覧メニューでは下記に示す項目が表示されます。

項目	内容
各種起動情報	電源投入時情報，システム起動時情報
システム状態 1	インストール済みシステムアプリケーション，インストール履歴
システム状態 2	通信ドライバ，GOT システム構成情報
接続機器設定内容	接続機器の状態を表示
操作履歴	操作履歴と操作を行った時間を表示
画面切替履歴	画面切替履歴と画面切替を行った時間を表示
時刻変更履歴	変更前時刻と変更後時刻を表示
システムアラーム履歴	アラーム表示とアラーム発生時刻を表示
CPU エラー履歴	ChNo とエラーメッセージとエラー発生時刻を表示
電源投入時刻履歴	電源投入を行った時刻を表示

4.1.2　一括自己診断機能の表示操作

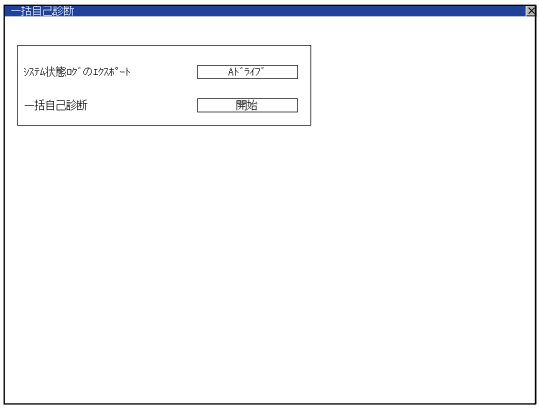
メンテナンス

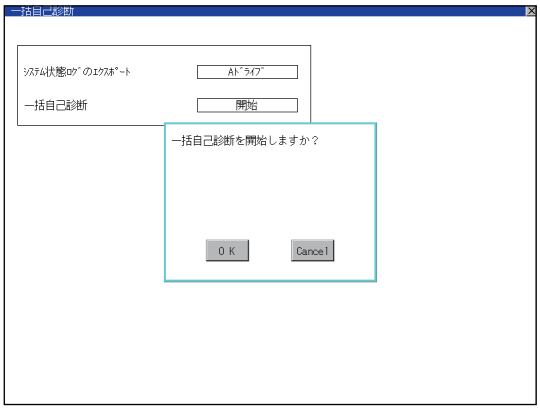
一括自己診断機能



4.1.3　一括自己診断機能の操作

■ 一括自己診断機能





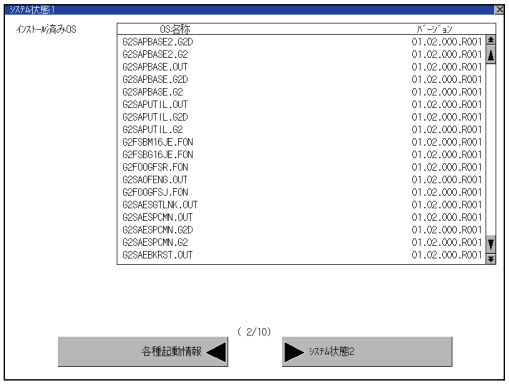
Step 1. システム状態のログのエクスポートの項目をタッチすると，Aドライブ→Bドライブ→Eドライブ→エクスポートしない→Aドライブとタッチするごとに切替わります。
Aドライブ，Bドライブを選択する場合は，SDカードを装着し，Eドライブを選択した場合はUSBメモリを装着してください。
装着しないで一括自己診断を開始すると，システム状態ログは保存されません。
(システム状態ログデータはメーカ調査用です。お客様は閲覧できません。)

Step 2. [開始]ボタンをタッチすると一括自己診断が開始されます。
また，[×]ボタンをタッチするとメインメニュー画面に戻ることもできます。

■ 診断結果閲覧メニュー

一括自己診断完了後，下記の画面が表示されます。
各項目をタッチすると，詳細画面が表示されます。
また，[終了] ボタンをタッチすると，一括自己診断機能画面に戻ります。

詳細画面表示例
項目をタッチすると下記の画面が表示されます。
また，[×] ボタンをタッチすると診断結果閲覧メニューに戻ります。



画面左下のボタンをタッチすると，前画面に移行します。
画面右下のボタンをタッチすると，次画面に移行します。

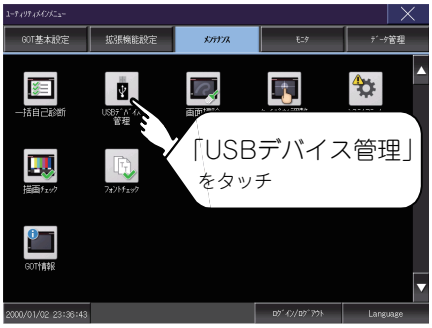
4.2 USBデバイス管理

4.2.1 USBデバイス管理の機能

GOTに装着中のUSB周辺機器の接続状態を一覧で表示します。
また，USB周辺機器をGOTから取外す場合もこの画面で行います。

4.2.2 USBデバイス管理の表示操作

メンテナンス

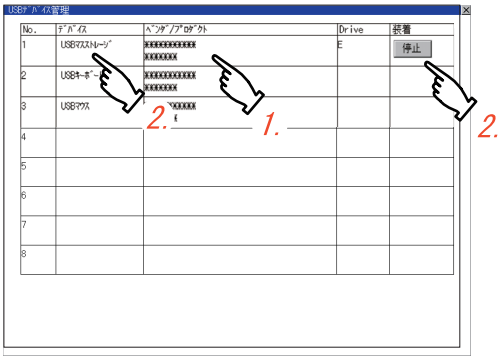


デバイス状態表示

USBデバイス管理

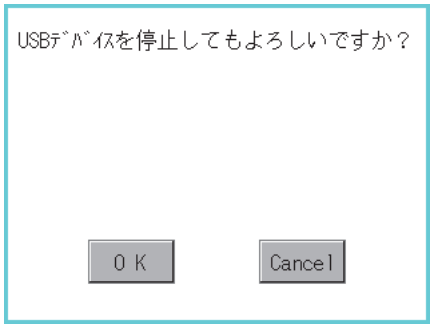
No.	デバイス	ベンダ/プロダクト	Drive	装着
1	USBマスストレージ	********** *******	E	停止
2	USBキーボード	********** *******		
3	USBマウス	********** *******		
4				
5				
6				
7				
8				

4.2.3 USBデバイス状態表示の操作

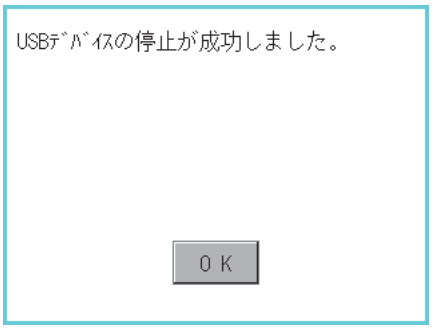


Step 1. USB周辺機器がGOTに装着されている場合，左記の画面が表示されます。

Step 2. デバイスにUSBマスストレージと表示され，装着に[停止]ボタンが表示されます。



Step 3. 装着の[停止]ボタンをタッチすると左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，USB周辺機器の取外し準備が行われます。
[Cancel]ボタンをタッチすると，USB周辺機器の取外し準備が中断されます。



Step 4. 取外し準備が完了すると左記の完了ダイアログボックスが表示されます。

Step 5. [OK]ボタンをタッチするとダイアログボックスを閉じます。

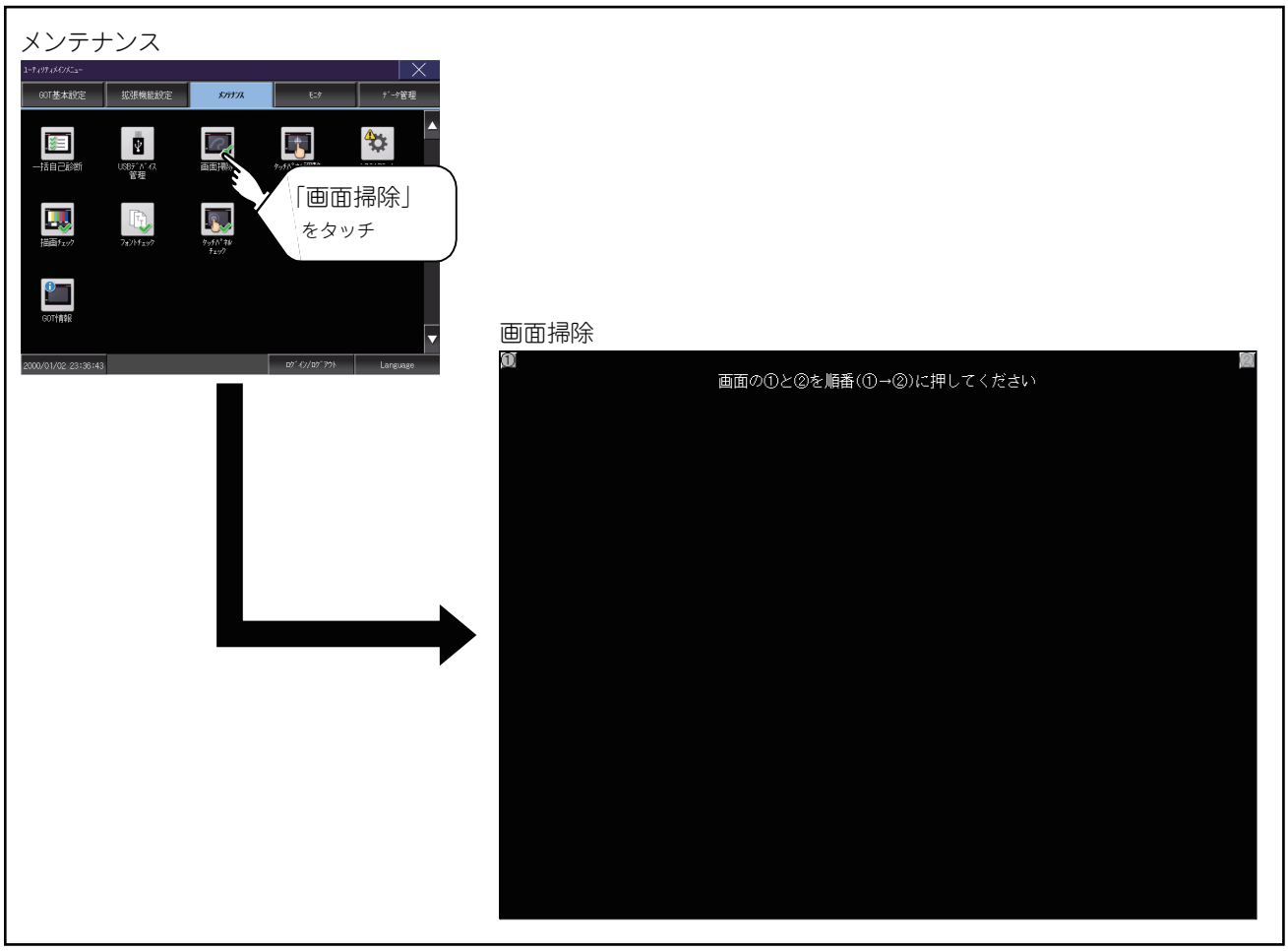
4.3 画面掃除

4.3.1 画面掃除の機能

ユーティリティでは，画面を布などでふき掃除をするときに画面をタッチしても影響のないようにすることができます。
掃除要領については下記を参照してください。

➠ ☞ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ハードウェア編)

4.3.2 画面掃除の表示操作



画面の左上隅と右上隅以外にタッチしても何も動作しません。

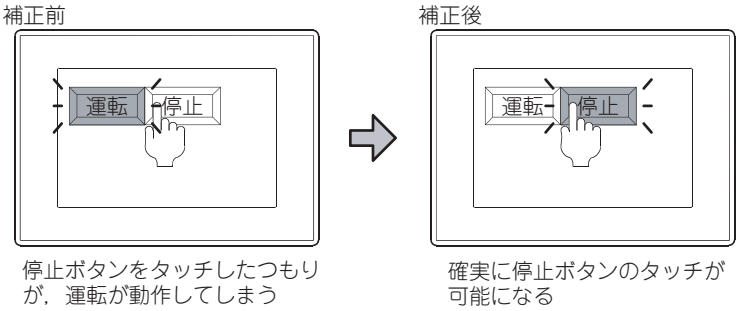
4.3.3　画面掃除の操作

画面掃除後，表示されている画面の指示に従って，画面をタッチしてください。
タッチ後，メインメニューに戻ります。
下記の画面が表示されます。

4.4　タッチパネル調整

4.4.1　タッチパネル調整の設定機能

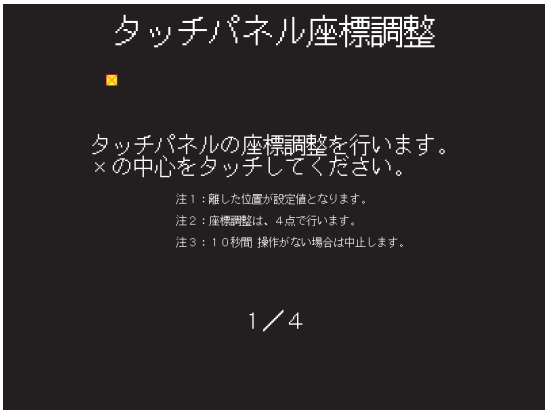
タッチ位置の読取り誤差を修正できます。
通常は調整する必要がありませんが，使用期間の経過とともに，オブジェクト位置とタッチした位置がずれる場合があります。
オブジェクト位置をタッチした位置がずれた場合は，本機能にて位置を補正してください。



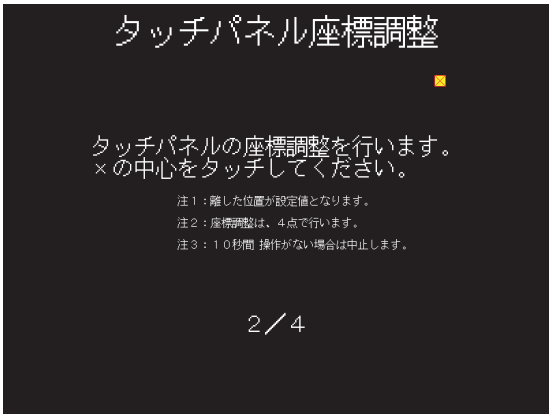
4.4.2　タッチパネル調整の設定の表示操作

4.4.3　タッチパネル調整操作

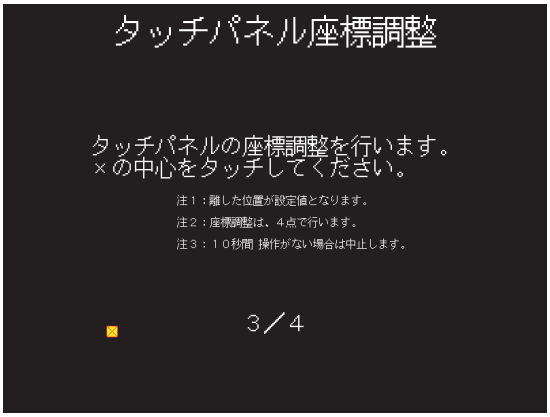
画面上に表示される☒を，順番に指で押して，設定します。



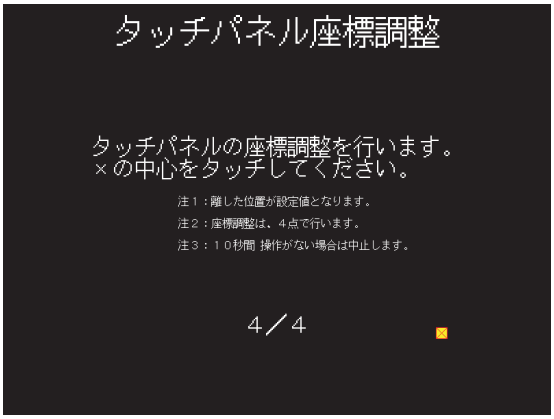
Step 1. 左上に表示されている☒の中心を正確にタッチしてください。



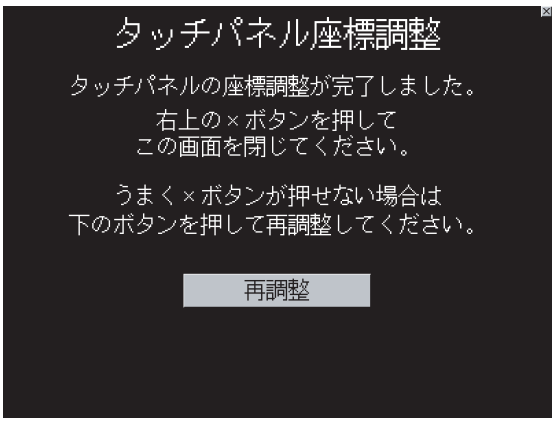
Step 2. 右上に表示されている☒をタッチしてください。



Step 3. 左下に表示されている☒をタッチしてください。



Step 4. 右下に表示されている ⊠ をタッチしてください。



Step 5. 右上に表示されている ⊠ をタッチすると，前画面に戻ります。
正確にタッチできなかった場合は，〔再調整〕ボタンをタッチすると，手順1から設定をやり直すことができます。

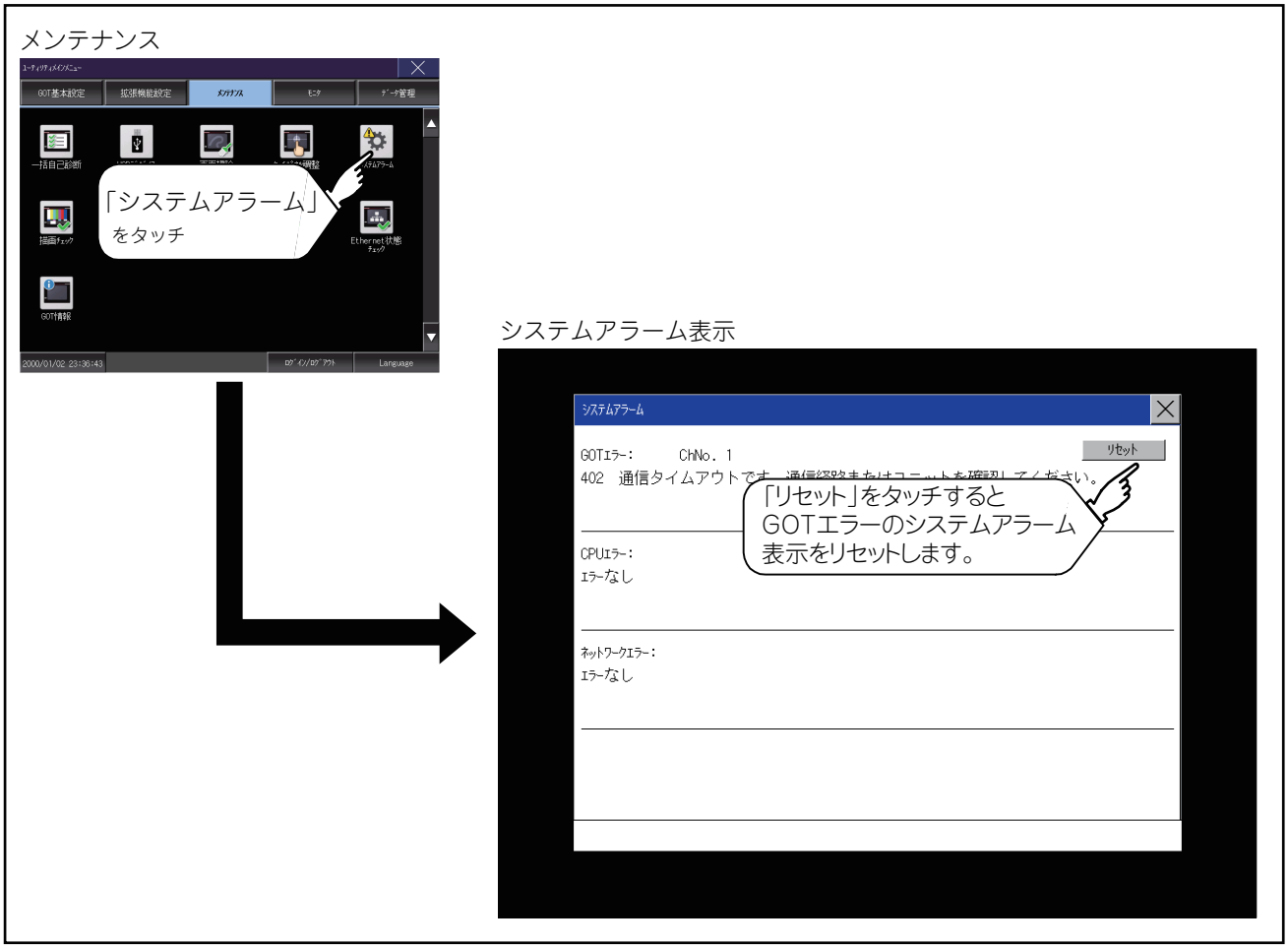
4.5 システムアラーム

4.5.1 システムアラームの機能

システムアラームは，GOT，接続機器，ネットワークのエラーが発生時に，エラーコードとエラーメッセージを表示する機能です。
また，システムアラーム画面では，システムアラームのリセットができます。
システムアラームの詳細については，下記を参照してください。

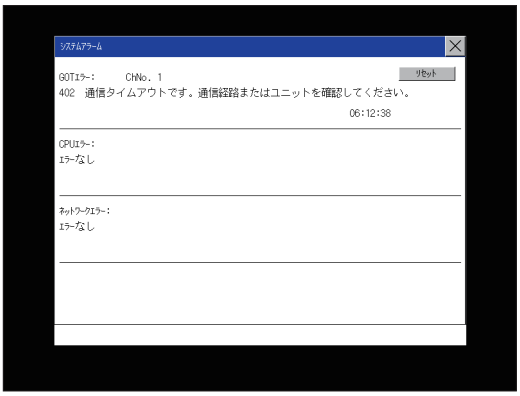
➠ 8. システムアラームの表示方法と一覧

4.5.2 システムアラームの表示操作



4.5.3 システムアラームの表示の操作

■ システムアラーム表示のリセット



Step 1. 発生しているシステムアラームの要因を解消します。
要因は，システムアラーム表示に表示されるエラーコード，エラーメッセージ，チャンネルNo.で特定できます。
☞ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ハードウェア編)

Step 2. エラーにより，システムアラームのリセット方法が異なります。

- GOTエラーの場合
  [リセット]ボタンをタッチして，システムアラームをリセットします。

- CPUエラー，ネットワークエラーの場合
  システムアラームの要因を解消すると，システムアラームは自動的にリセットされます。

POINT

(1) GOTエラーのシステムアラーム表示のリセットを行う前に
GOTエラーのシステムアラーム表示のリセットを行う前に，システムアラームの要因を解消してください。
要因が解消されていない場合は，リセット操作を行ってもGOTエラーのシステムアラーム表示がリセットされません。

(2) リセット時の処理内容
システム情報の下記のエリアもリセットされます。

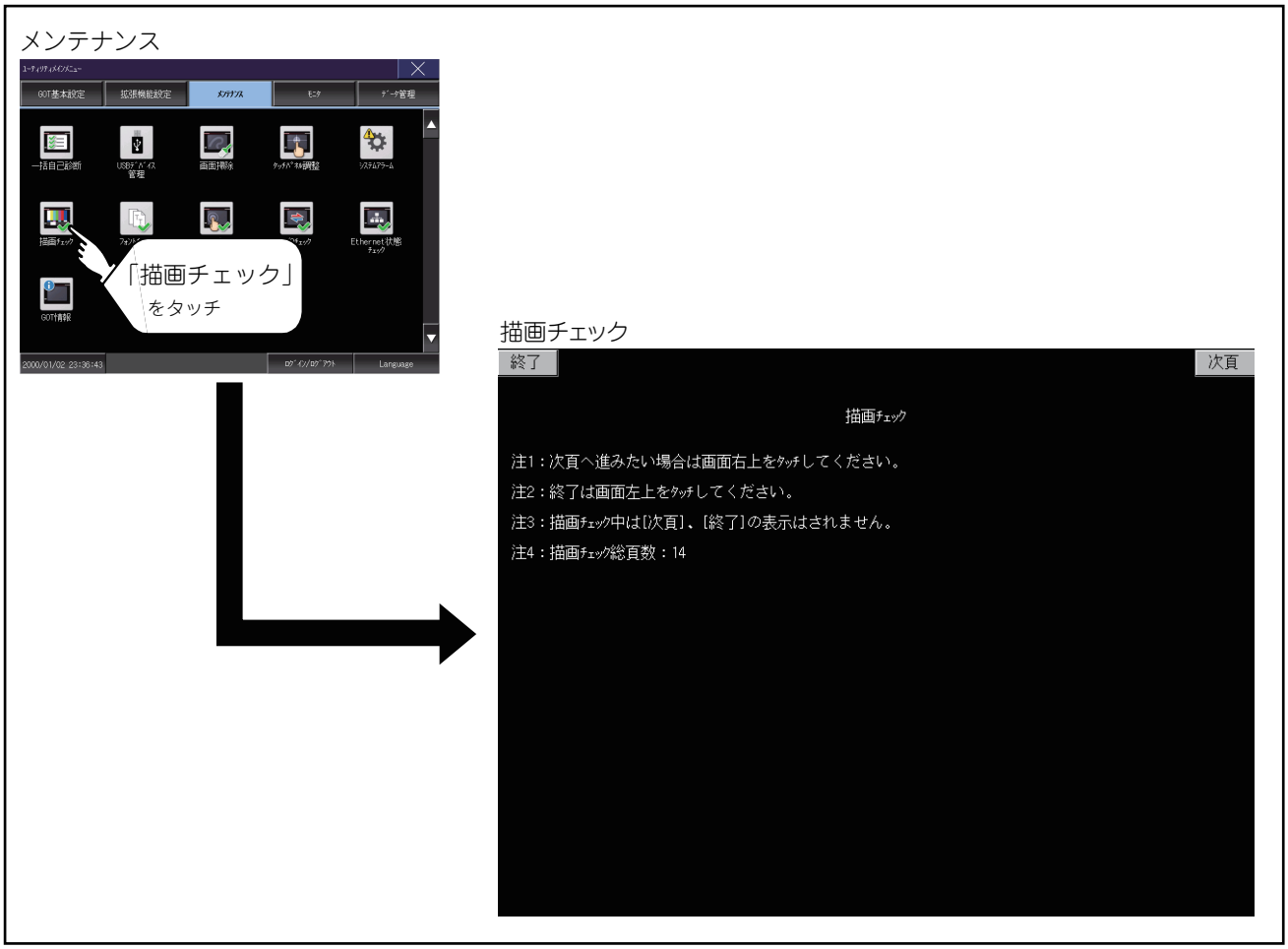
- GOTエラーコード(書込みデバイス)
- GOTエラー検出信号(システム信号2-1.b13)

4.6 描画チェック

4.6.1 描画チェックの機能

描画チェックは，ビット欠け，色チェック，基本図形表示チェック，スクリーン間ムーブチェックにより表示に関するチェックを行う機能です。

4.6.2 描画チェックの表示操作



POINT

描画チェックの留意点

以下の場合，ビット欠けが発生しています。

1.	塗り込み色と異なる色で描画されている部分がある。
2.	基本図形，描画パターンが「☞ 4.6.2 ■描画チェックの表示操作」に記載のレイアウトおよび手順どおりに描画されていない部分がある。

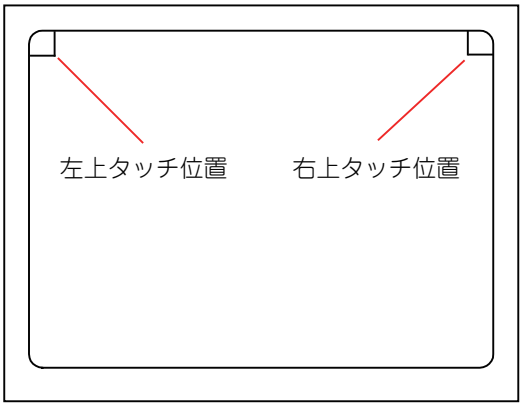
ビット欠けが発生した場合には，最寄りの三菱電機システムサービス(株)にお問い合わせください。

4.6.3　描画チェック操作

表示チェックメニューで，[描画チェック]をタッチすると描写チェック用の画面を表示します。

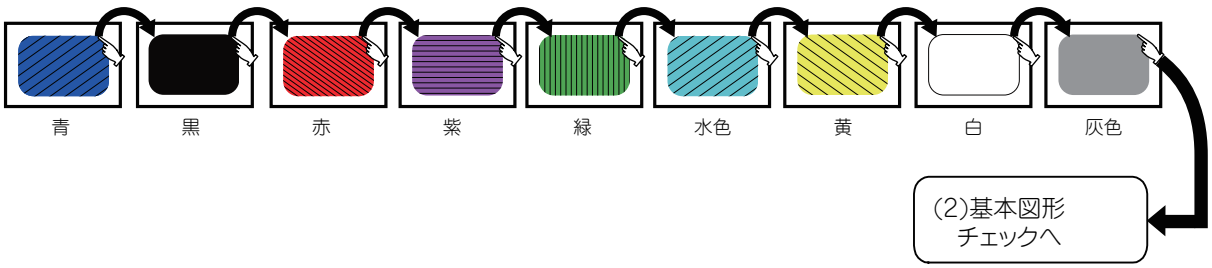
■ 描画チェック実行のまえに

描画チェック中は画面右上をタッチすることにより，順次，次のチェックに進むことができます。
また，画面左上をタッチするとメインメニューへ戻ります。



(1)　ビット欠け，色チェック

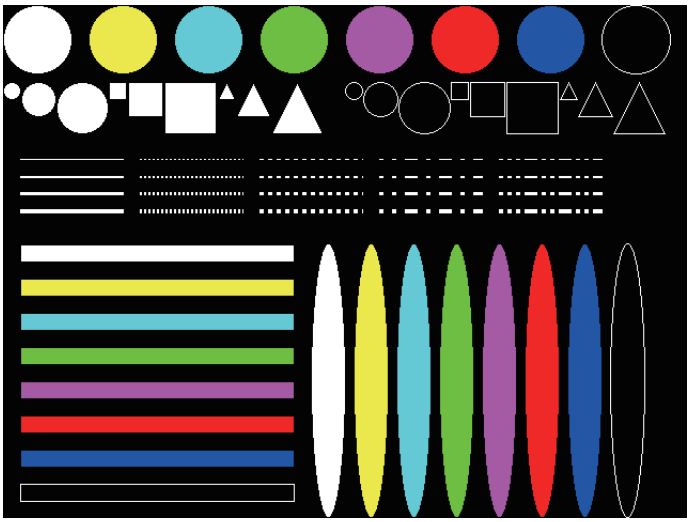
画面右上をタッチするたびに，全画面領域が，青色→黒色→赤色→紫色→緑色→水色→黄色→白色→灰色の順に表示されます。
目視により，ビット欠けチェック，色チェックを行ってください。

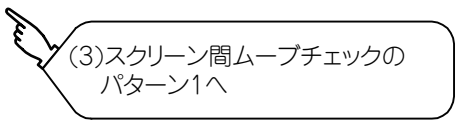


最後の色(白画面)で，画面右上をタッチすると，次の(2)基本図形チェックを表示します。

(2)　基本図形チェック

目視により，基本図形の形状変形，表示漏れがないかをチェックしてください。
描画させる基本図形は，1.塗り込み円，2.線,3.矩形,4.楕円の4種類です。

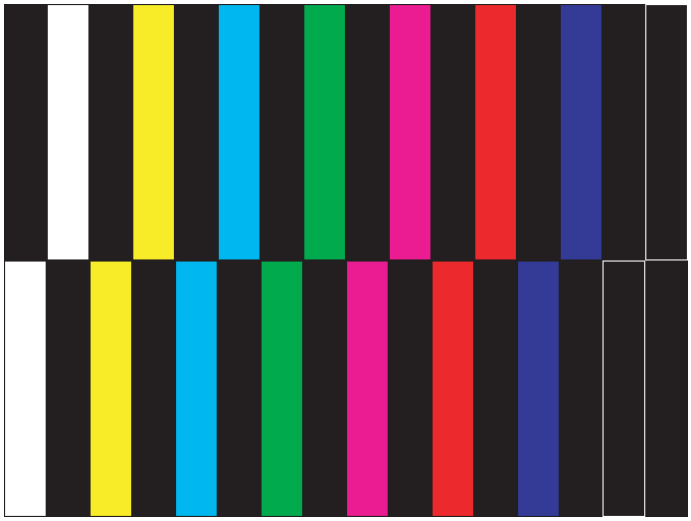




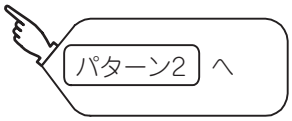
(3) スクリーン間ムーブチェック

(a) パターン1: 形状変形，色チェック

描画される図形は，等間隔に規則正しく表示されます。
目視により形状や色が規則正しく表示されれば正常です。

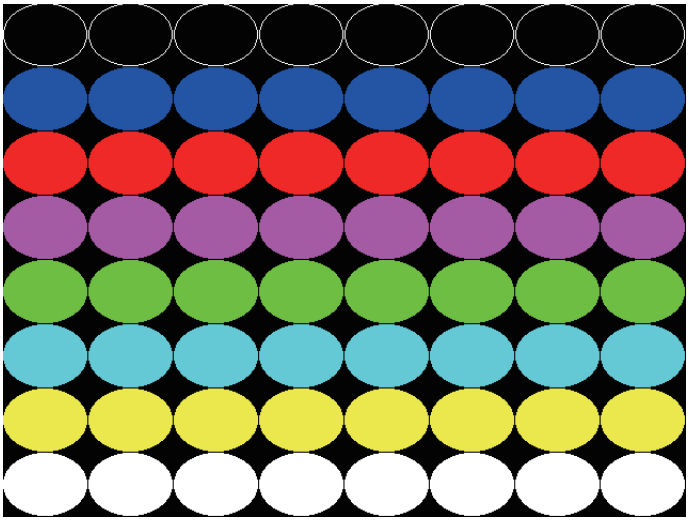


パターン1

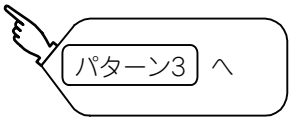


(b) パターン2: 形状変形，色チェック

描画される図形は等間隔に規則正しく表示されます。
目視により，形状や色が規則正しく表示されれば正常です。

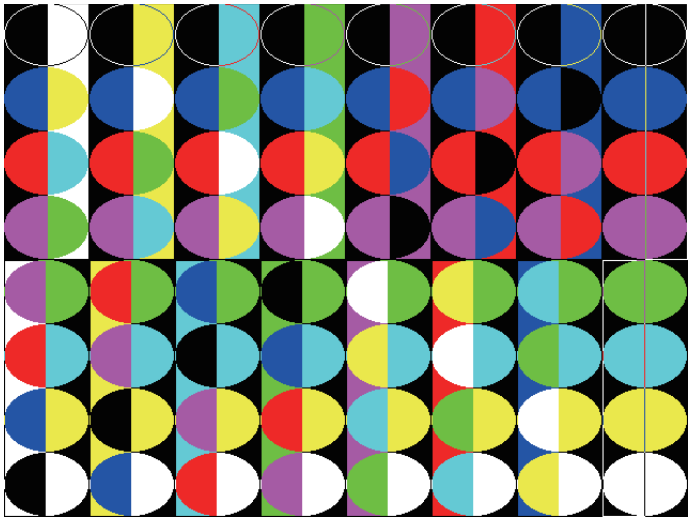


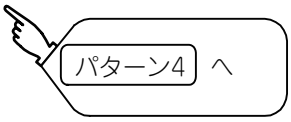
パターン2



(c) **パターン3: 形状変形，色チェック**

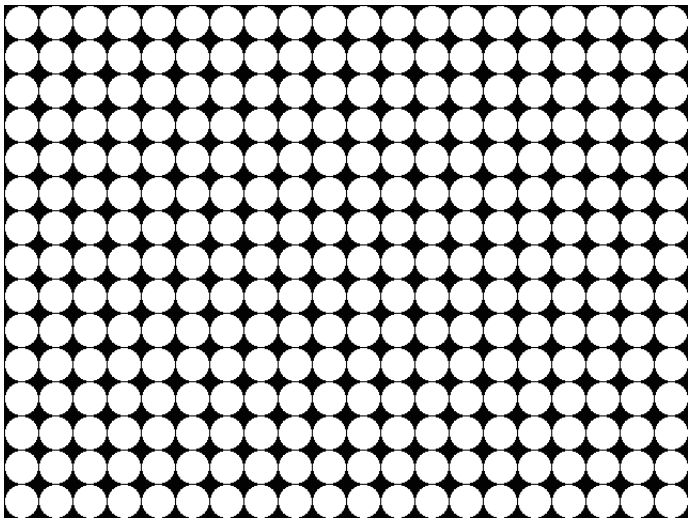
パターン1とパターン2の図形が重なって表示されます。
目視により，形状や色が規則正しく表示されれば正常です。

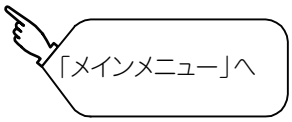




(d) **パターン4: 形状字形チェック**

描画される図形は，等間隔に規則正しく表示されます。
目視により，形状や間隔が正しく表示されれば正常です。
画面右上をタッチすると，メインメニューに戻ります。





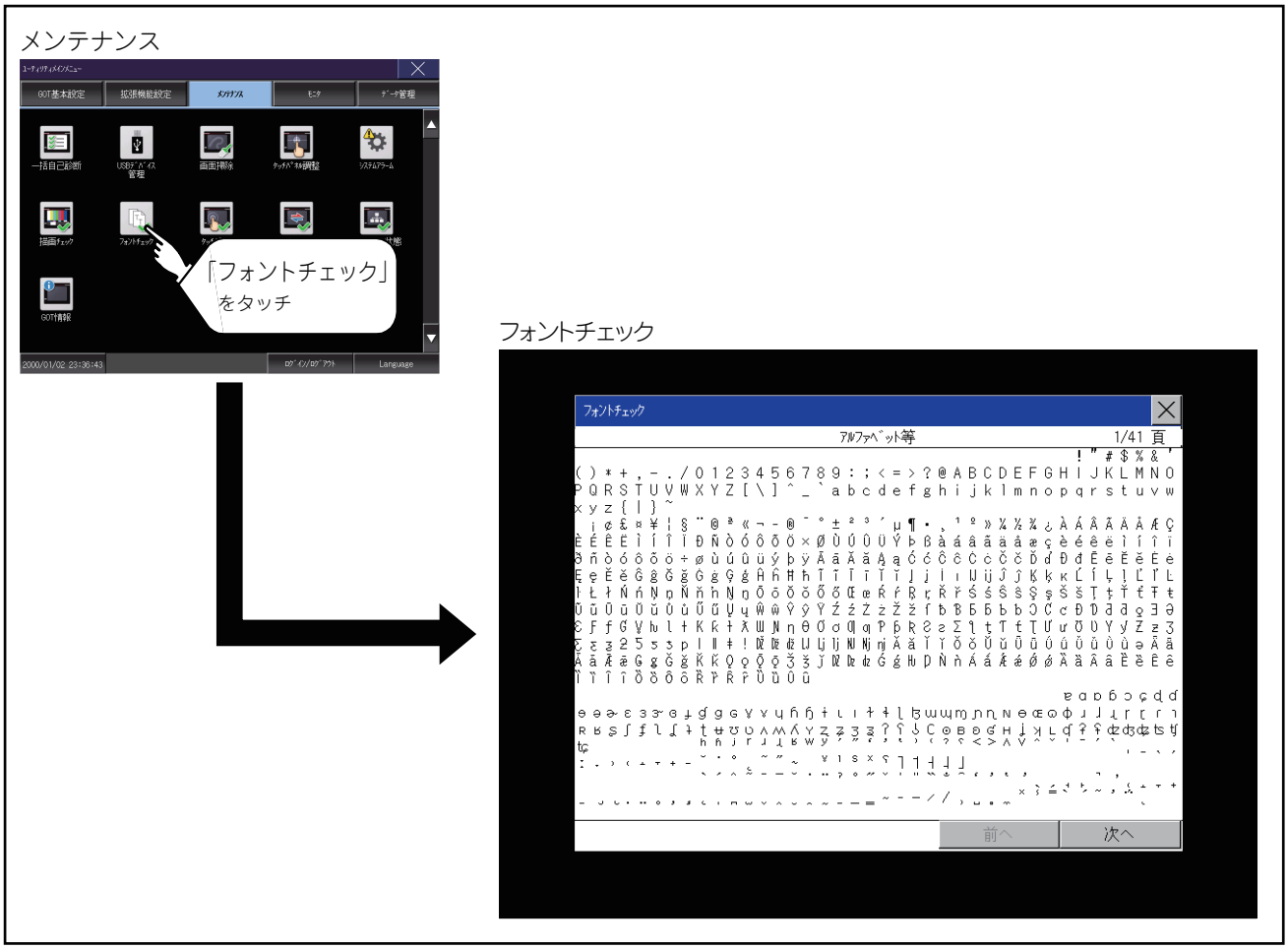
スクリーン情報読出し･書込み実行後のメインスクリーンイメージ

4.7　フォントチェック

4.7.1　フォントチェックの機能

フォントチェックは，GOTに搭載されているフォントの文字データを画面左上から順次表示することにより，GOTにインストールされているフォントを確認する機能です。

4.7.2　フォントチェックの表示操作



POINT

フォントチェックの留意点

以下の文字が正しく表示されていれば正常と判断できます(UNICODE)

アルファベット文字など	: 0 x 0000～0 x 04F9(基本ラテンからキリールまで)
ハングル文字	: 0 x AC00～0 x D7A3(ハングル・ハングル補助)
漢字	: 0 x 4E00～0 x 9FA5(CJK総合漢字)

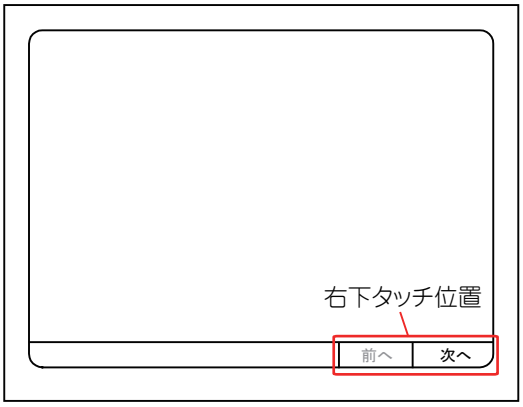
正しく表示されない場合はフォントがインストールされていない可能性があります。基本システムアプリケーションを再インストールしてください。

4.7.3　フォントチェック操作

表示チェックで[フォントチェック]をタッチするとフォントチェックを開始します。
内蔵フォント(内蔵フラッシュメモリ内)の文字データを画面に順次表示し，目視にてフォントの描画をチェックできます。

■ フォントチェック実行のまえに

フォントチェック中は画面右下 [次へ] ボタンをタッチすることにより，順次，次のチェックに進むことができます。
また，画面右下 [前へ] ボタンをタッチすると表示チェックへ戻ります。

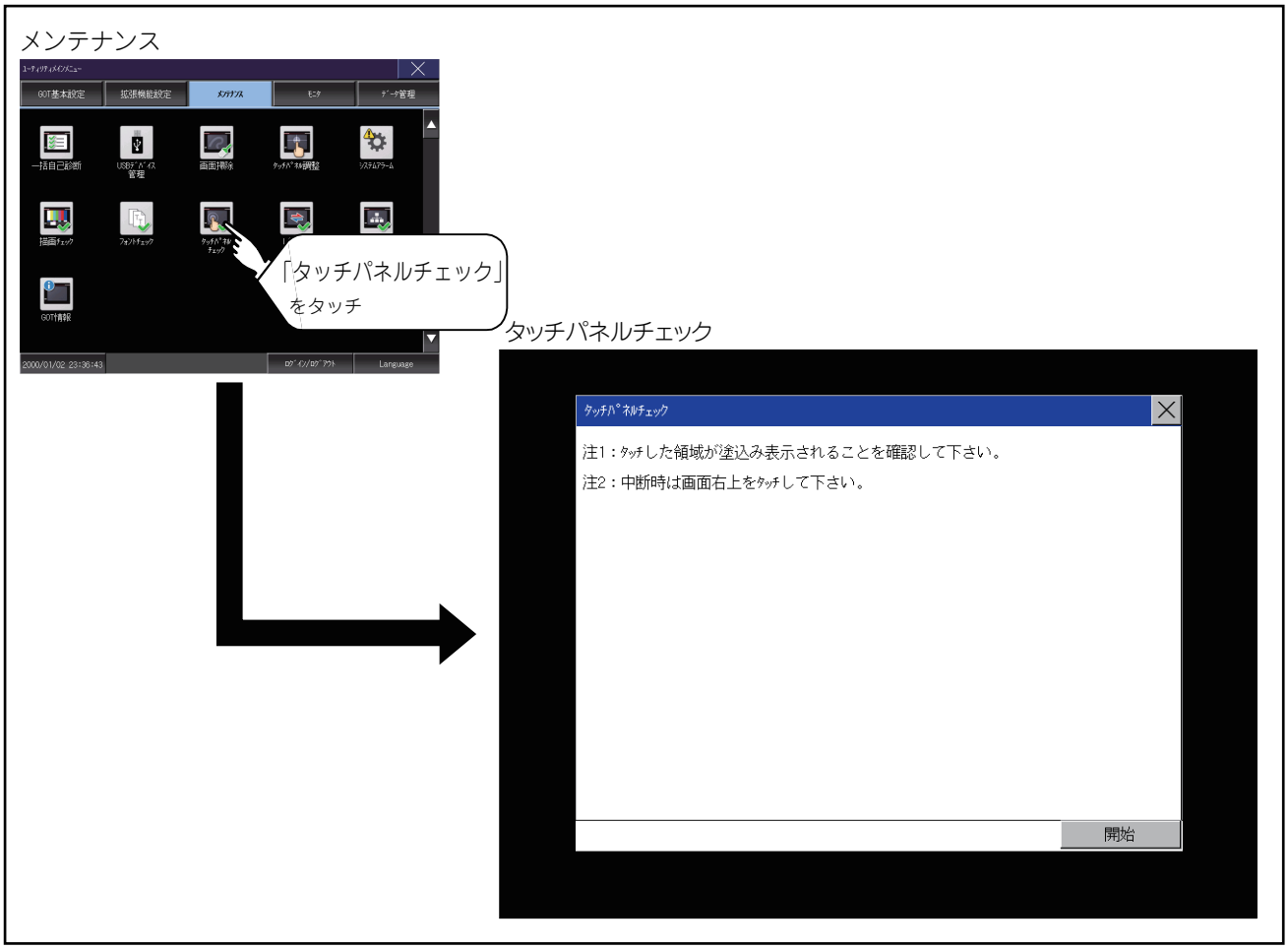


4.8　タッチパネルチェック

4.8.1　タッチパネルチェックの機能

タッチパネルチェックは，タッチキー最小単位(16ドット×16ドット)での不感帯領域がないかのチェックを行う機能です。

4.8.2　タッチパネルチェックの表示操作



POINT

タッチパネルチェックの留意点

タッチした部分が黄色の塗り込み表示にならなかった場合，以下の２つの原因が考えられます。

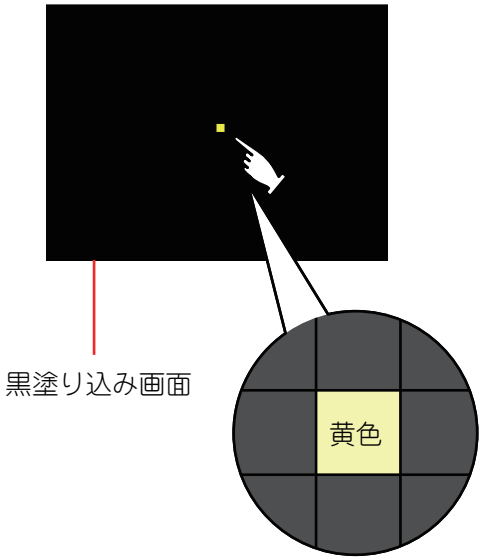
1.表示部分の故障
2.タッチパネルの故障

この場合，最寄りの三菱電機システムサービス(株)にお問い合わせください。

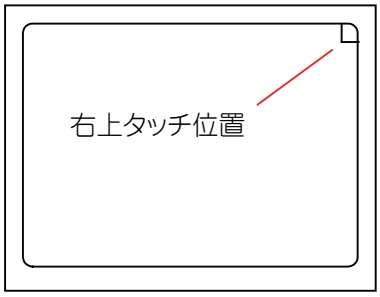
4.8.3　タッチパネルチェック操作

自己診断で[タッチパネルチェック]をタッチすると，画面全領域に渡って，黒塗り込み画面が表示されます。

Step 1. 画面の任意領域をタッチしてください。
タッチされた部分が黄色の塗り込み表示になります。



Step 2. 画面右上の領域をタッチすると，自己診断に戻ります。



画面左上領域のチェックについて
画面左上の領域のみ，黄色の塗り込み表示ができません。
自己診断へ戻ることができることで左上領域が正常動作すると判断してください。

4.9 I/Oチェック

4.9.1 I/Oチェックの機能

I/Oチェックは，GOTとシーケンサが通信できるかをチェックする機能です。
このチェックが正常終了すれば通信インタフェース，接続ケーブルのハードウェアは正常とみなされます。
I/Oチェックを行う場合は，あらかじめGT Designer3，GT Designer2から通信ドライバをGOTにインストールしておく必要があります。
本操作を実施すると，GOTが再起動しますので御注意ください。
通信ドライバのインストールに関する詳細は，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

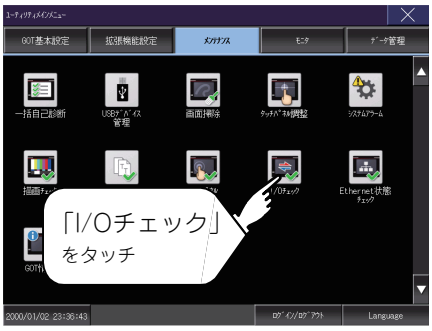
■ I/O チェックができない通信ドライバ

以下の通信ドライバを使用する場合，I/O チェックはできません。

接続形態		通信ドライバ名
三菱電機製シーケンサとの接続	MELSECNET/H 接続	MELSECNET/H
	MELSECNET/10 接続	MELSECNET/H
	CC-Link IE コントローラネットワーク接続	CC-Link IE コントローラネットワーク
	CC-Link IE フィールドネットワーク接続	CC-Link IE フィールドネットワーク
	CC-Link 接続 (インテリジェントデバイス局)	CC-Link Ver.2(ID)
	Ethernet 接続	Ethernet(MELSEC)，Q17nNC，CRnD-700，ゲートウェイ
富士電機社製シーケンサとの接続		富士電機 PXR/PXG/PXH
安川電機社製シーケンサとの接続		安川電機 GL 安川電機 CP9200(H) 安川電機 CP9300MS(MC 互換) 安川電機 MP2000/MP900/CP9200SH Ethernet(安川電機)，ゲートウェイ
横河電機社製シーケンサとの接続		横河電機 FA500/FA-M3/STARDOM Ethernet(横河電機)，ゲートウェイ
ALLEN-BRADLEY 製シーケンサとの接続		EtherNet/IP(AB)，ゲートウェイ
SIEMENS 社製シーケンサとの接続		SIEMENS S7-200 SIEMENS S7-300/400 Ethernet(SIEMENS S7)，ゲートウェイ
マイコン接続		マイコン接続
インバータ接続		FREQROL 500/700
MODBUS(R)/TCP 接続		MODBUS/TCP，ゲートウェイ
アズビル社製制御機器との接続		アズビル SDC/DMC
理化工業社製温度調節器との接続		理化工業 SR Mini HG(MODBUS)

4.9.2 I/Oチェックの表示操作

メンテナンス



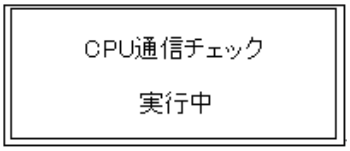
I/Oチェック

4.9.3 I/Oチェック操作

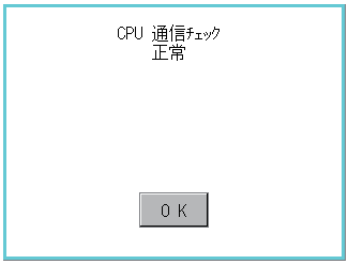
■ 相手先確認

[相手先] ボタンをタッチすると，相手先確認通信チェックを行います。

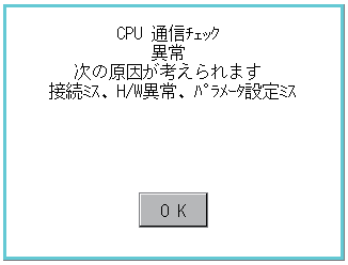
1. CPU 通信が正常に開始された後，相手先確認通信が正常に完了するまでは，チェック中であることを通知する右のダイアログが表示されます。



2. 相手先確認通信が終了すると，その結果はダイアログにて通知されます。相手先確認通信が正常終了すれば，正常終了であることを通知する右のダイアログが表示されます。結果内容を確認後，ダイアログ内の [OK] ボタンをタッチすると I/O チェックへ戻ります。



相手先確認選択後および CPU 通信チェックに右のダイアログが表示された場合，下記を確認してください。



- CPU との接続ミスがないか。
  ☞使用する接続機器に対応する GOT2000 シリーズ接続マニュアル
- パラメータ設定ミスはないか。
  ☞//2.9 接続機器設定
- ハードウェアに異常がないか。
  ☞GOT2000 シリーズ本体取扱説明書 (ハードウェア編)

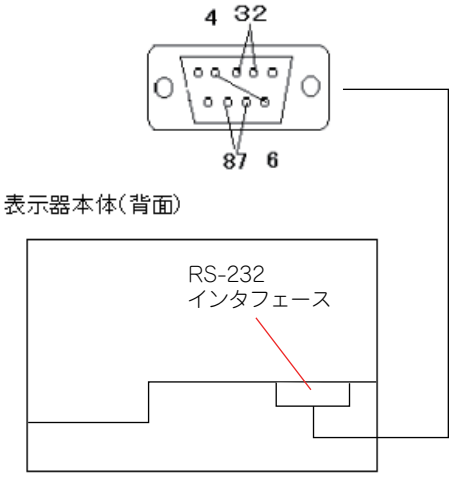
結果内容を確認後，ダイアログ内の[OK]ボタンをタッチするとI/Oチェックへ戻ります。

■ 自己折り返し

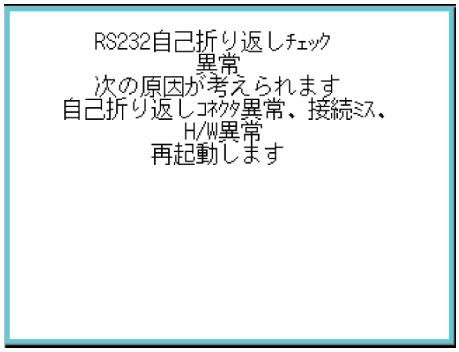
[折返し] ボタンをタッチすると，RS-232 インタフェースのハードウェアチェックを行います。

1. 自己折り返し通信チェック実施の前準備として，右図に示す自己折り返しチェック用コネクタ (ユーザにて準備) を RS-232 インタフェースに装着してください。
   このコネクタでは，2,3 ピン，7,8 ピン，4,6 ピンをそれぞれ短絡してください。

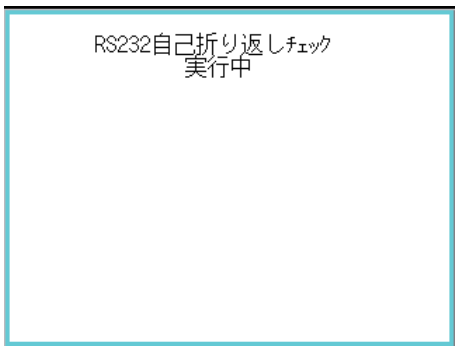
   またユーティリティの接続機器設定にて，RS-232 のチャンネル設定を未使用 (ChNo. : 0) に設定してください。



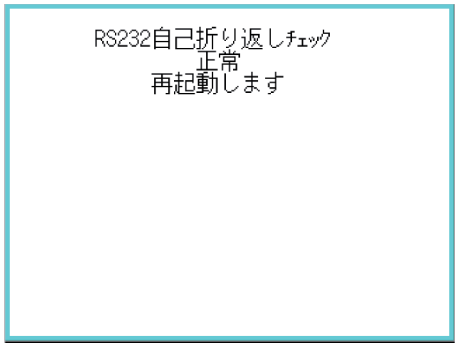
2. [折返し] 選択後，自己折り返しコネクタを介して，送信データと受信データのベリファイを行います。データ送信実行時，データを受信できない場合には，右のダイアログが表示され，5 秒後に再起動します。
   右のダイアログが表示された場合，下記を確認してください。
   - 自己折り返しチェック用コネクタの短絡先を間違えていないか。
   - ユーティリティの接続機器設定にて，RS-232 のチャンネル設定を未使用 (ChNo. : 0) に設定しているか。
     ☞ //2.9.* 接続機器設定の内容
   - ハードウェアに異常がないか。
     ☞ GOT2000 シリーズ本体取扱説明書 (ハードウェア編)



3. チェック中は，右のダイアログが表示されます。

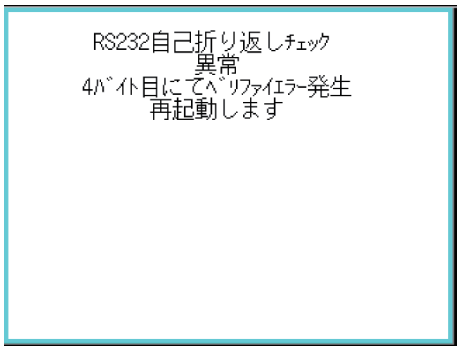


4. チェックがすべて正常に終了した場合，右のダイアログが表示されます。結果内容を表示後，5 秒後に再起動します。



5. エラーが発生すると，その時点で異常終了であることおよびエラーが何バイト目で発生したかを通知するダイアログが表示され，5 秒後に再起動します。
右のダイアログが表示された場合，下記を確認してください。
- ハードウェアに異常がないか。

  ☞ GOT2000 シリーズ本体取扱説明書（ハードウェア編）



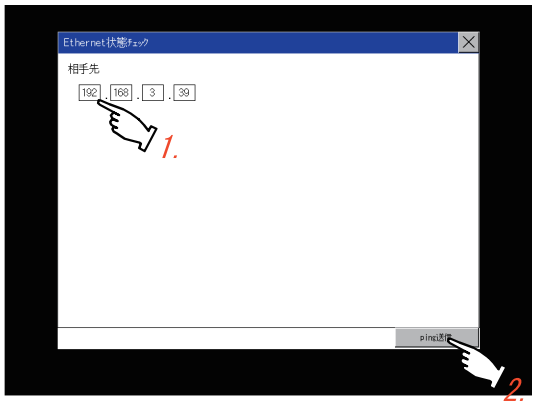
4.10 Ethernet状態チェック

4.10.1 Ethernet状態チェックの機能

Ethernet状態チェックは，pingを送信してEthernet上の機器との接続状態をチェックする機能です。

4.10.2 Ethernet状態チェックの表示操作

4.10.3 Ethernet状態チェック操作



Step 1. [相手先]のIPアドレスをタッチすると，キーボードが表示されます。
キーボードにより，相手先のIPアドレスを入力します。
<デフォルト: 192.168.3.39>

Step 2. [ping送信]ボタンをタッチすると，[相手先]のIPアドレスに対してping送信を行います。
結果はダイアログで表示されます。
タイムアウトまでの時間は約5秒です。

4.11 GOT情報

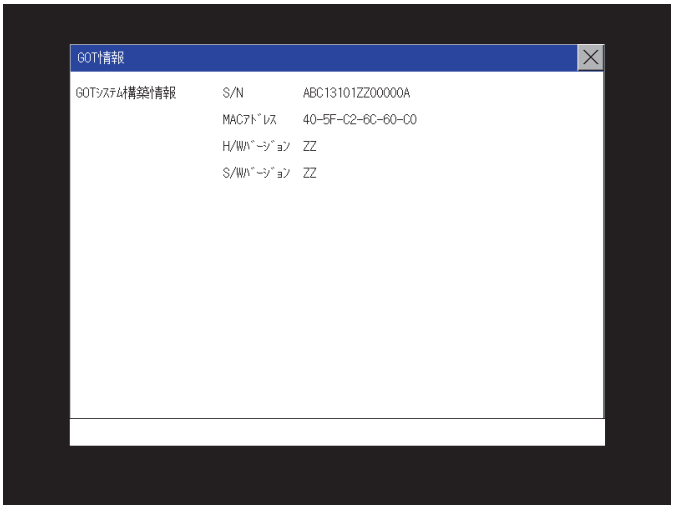
4.11.1 GOT情報の機能

GOT情報は，下記のGOTの情報を表示する機能です。

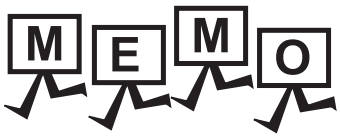
- GOTに書き込まれている通信ドライバ
- シリアル番号
- MACアドレス
- ハードウェアバージョン
- 出荷時のソフトウェアバージョン
- GOTに装着されている通信ユニット
- GOTに装着されているオプションユニット
- Aドライブ，Bドライブに装着されているSDカードの容量

4.11.2 GOT情報の表示操作

4.11.3 GOT情報の表示



項目	内容
S/N	シリアル番号を表示します。
MAC アドレス	MAC アドレスを表示します。
H/W バージョン	ハードウェアバージョンを表示します。
S/W バージョン	出荷時のソフトウェアバージョンを表示します。


MEMO

5. モニタ

5.1 各種モニタ

各種モニタでは，シーケンサCPUのデバイス状態を確認したり，シーケンサシステムトラブル時の対応を効率化したりする機能が用意されています。
本マニュアルでは，各種モニタの機能概要と画面を表示するまでの操作のみ記載しています。
各種モニタの表示内容や操作方法については，下記を参照してください。

➠ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(モニタ編)

5.1.1 各種モニタの機能

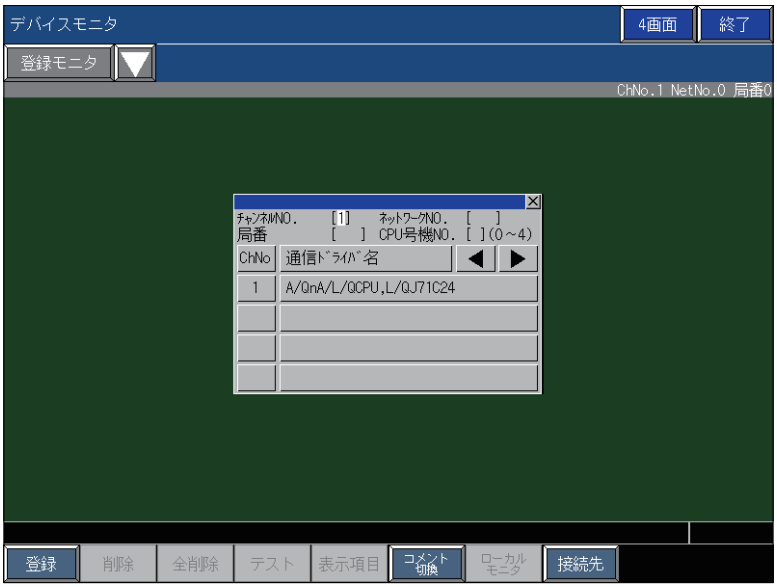
各種モニタでできる項目は下記のとおりです。

項目	内容
デバイスモニタ	シーケンサ CPU のデバイス，インテリジェント機能ユニットのバッファメモリをモニタ , テストできます。
シーケンスプログラムモニタ (回路)	シーケンサ CPU のプログラムをラダー形式でモニタできます。
FX 回路モニタ	シーケンサ CPU のプログラムをラダー形式でモニタできます。
ネットワークモニタ	MELSECNET/H，MELSECNET(II)，CC-Link IE コントローラネットワーク，CC-Link IE フィールドネットワークのネットワーク状態をモニタできます。
インテリジェントユニットモニタ	インテリジェント機能ユニットのバッファメモリを専用画面でモニタ，データ変更できます。また，入出力ユニットの信号状態をモニタできます。
サーボアンプモニタ	サーボアンプの各種のモニタ機能，パラメータ変更，テスト運転などができます。
Q モーションモニタ	モーションコントローラ CPU(Q シリーズ) のサーボモニタとパラメータ設定ができます。
R モーションモニタ	モーションコントローラ CPU(MELSEC iQ-R シリーズ) のサーボモニタとパラメータ設定ができます。
CNC モニタ	MELDAS 専用表示器と同等の位置表示モニタ，アラーム診断モニタ，工具補正パラメータ，プログラムモニタなどができます。
シーケンスプログラムモニタ (SFC)	シーケンサ CPU のプログラムを SFC 図形式 (MELSAP3 形式，MELSAP-L 形式) でモニタできます。
モーション SFC モニタ	モーションコントローラ CPU(Q シリーズ) 内のモーション SFC プログラム，デバイス値をモニタできます。
ログビューア	高速データロガーユニット，LCPU で取得したロギングデータの閲覧，GOT 経由でのロギングデータの取り出しができます。
FX リスト編集	FXCPU のシーケンスプログラムをリスト編集できます。
CNC 加工プログラム編集	GOT と接続した CNC の加工プログラムの編集が行えます。
CNC データ入出力	GOT と接続した CNC に対して，加工プログラムやパラメータなどのコピー，照合，削除が行えます。
MELSEC-L トラブルシュート	MELSEC-L CPU の状態表示とトラブルシュートに関連する機能へのボタンを表示します。

5.1.2　各種モニタ機能の表示操作

モニタ

モニタ機能を表示
（デバイスモニタの場合）



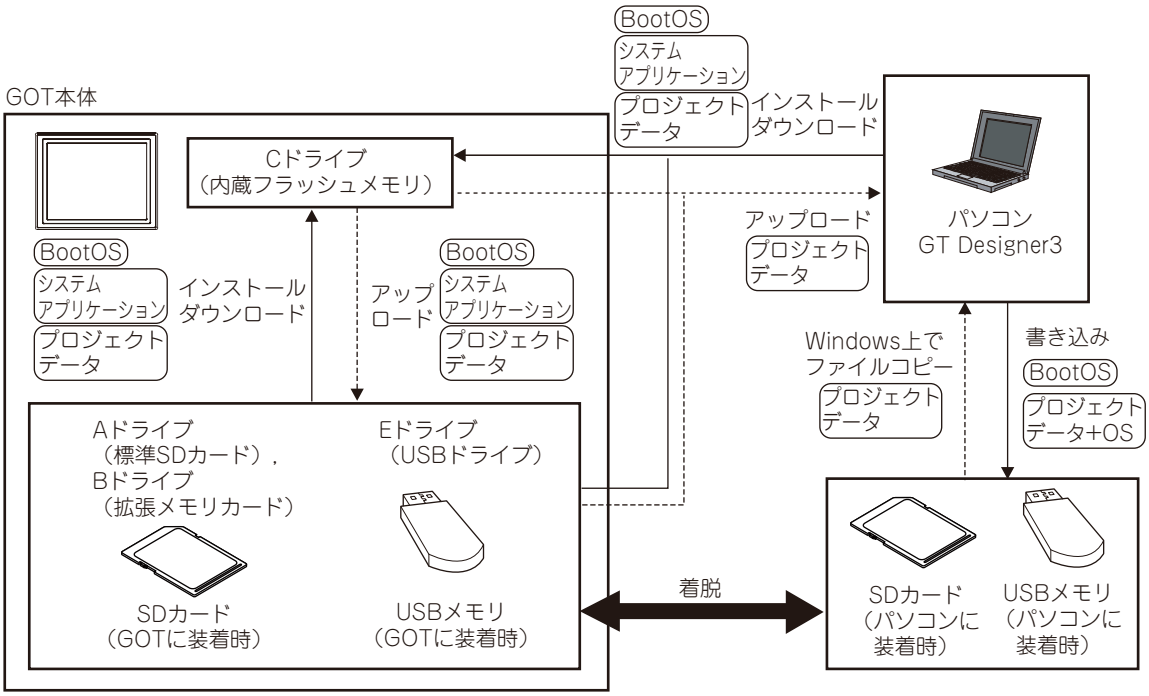
6. データ管理

GOTやデータストレージに書き込まれているシステムアプリケーション，プロジェクトデータ(画面データ)，アラームデータの表示やGOTとデータストレージ間のデータ転送が行えます。
また，データストレージのフォーマットもできます。

6.1 データの種類と格納先

■ システム

データの種類ごとに，データの格納先と転送 (書き込み，読み出し) 経路を下記に示します。
また，データの格納先を下表に示します。

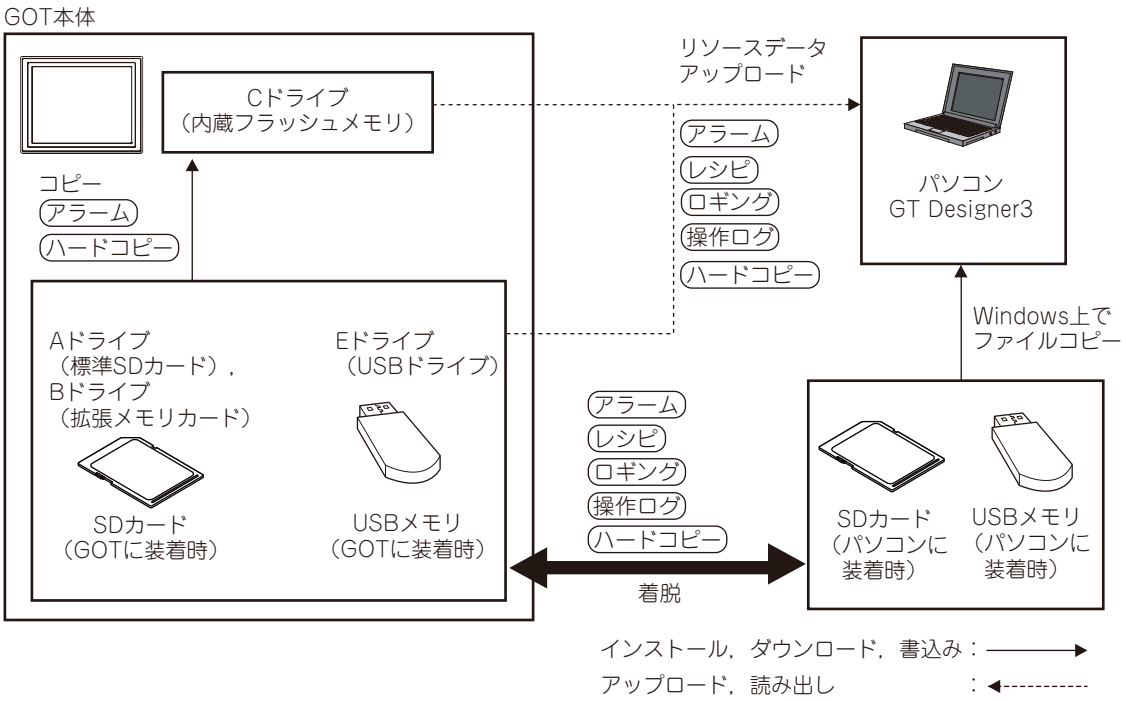


項目	データの種類	格納先
BootOS	BootOS	• 内蔵フラッシュメモリ(Cドライブ)
システムアプリケーション*1	基本システムアプリケーション	• 標準SDカード(Aドライブ) • 内蔵フラッシュメモリ(Cドライブ)*2
	通信ドライバ	
	拡張システムアプリケーション	
プロジェクトデータ*1	プロジェクトデータ (レシピ設定，アラーム条件，タイムアクション，GOTセットアップを含む)	• 標準SDカード(Aドライブ)*2 • 内蔵フラッシュメモリ(Cドライブ)*2

*1 *1 USBメモリを使用する場合はユーティリティより使用できます。
7.3.2 データ管理機能(ユーティリティ)を使用してインストールする方法

*2 *2 標準SDカード(Aドライブ)に格納しているプロジェクトデータをGOTで使用する場合は，SDカードを装着した状態で使用してください。
またUSBメモリは，プロジェクトデータを標準SDカード(Aドライブ)または内蔵フラッシュメモリ(Cドライブ)にプロジェクトデータを格納して使用してください。

■ メンテナンス時



内蔵フラッシュメモリのデータ (プロジェクトデータなど) は，バッテリ電圧が低下した場合でも保持されます。

項目	データの種類	格納先
アラーム	アラームデータ(アラームログファイル)	• 標準SDカード(Aドライブ) • USBドライブ(Bドライブ)*1 • USBドライブ(Eドライブ)*1 • USBドライブ(Fドライブ)*1 • USBドライブ(Gドライブ)*1
レシピ	レシピデータ(レシピファイル，レシピファイル)	
ロギング	ロギング(ロギングファイル)	
操作ログ	操作ログ(操作ログファイル)	
ハードコピー	画像ファイル(ハードコピー機能)	

*1 *1 USBメモリを使用する場合はユーティリティより使用できます。

7.3.2 データ管理機能(ユーティリティ)を使用してインストールする方法

■ OS バージョンの確認

BootOS，基本システムアプリケーションのインストール時は，システムアプリケーションのバージョンに注意が必要です。
システムアプリケーションのインストール時，GOT は自動的にシステムアプリケーションのバージョンを比較チェックします。

(1) BootOSインストール時

インストール対象BootOSのメジャーバージョンが古い場合，古いバージョンに書き換えられるのを防ぐためにインストール不可メッセージを表示し，インストールを中止します。
(バージョンが同じ，もしくは新しい場合でも，バージョン情報と，継続する，しないを選択するダイアログボックスが表示されます。)
インストール方法により，表示するダイアログボックスが異なります。

- 標準SDカードからのインストール時は，本体でダイアログボックスを表示
- GT Designer3でUSB，RS-232，Ethernetからインストール時は，GT Designer3でダイアログボックスを表示

(2) 基本システムアプリケーション，通信ドライバ，拡張システムアプリケーションインストール時

基本システムアプリケーション，通信ドライバ，拡張システムアプリケーションが既にインストールされている場合，インストール済システムアプリケーションのバージョン情報と，継続する・しないを選択するダイアログボックスが表示されます。
また，システムアプリケーションのインストールによって全システムアプリケーション(基本システムアプリケーション，通信ドライバ，拡張システムアプリケーション)間でバージョンの混在が発生する場合には，インストール不可を示すダイアログボックスを表示し，インストール処理を中断します。

(3) プロジェクトデータダウンロード時

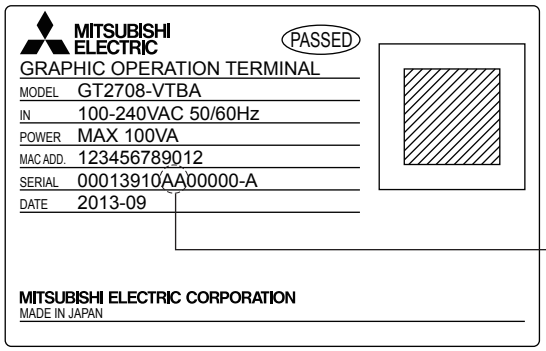
GOTはダウンロードするプロジェクトデータと，既にインストール済のシステムアプリケーションとのバージョンを自動的に比較します。
バージョンが異なる場合は，システムアプリケーションもあわせてインストールするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

データストレージからプロジェクトデータをダウンロードする場合は，あらかじめプロジェクトデータとシステムアプリケーションを格納しておくことをお勧めします。

POINT

定格銘板によるBootOSのバージョン確認について

製品出荷時にGOTにインストールされているBootOSのバージョンは，GOT背面の定格銘板で確認してください。



■ プロジェクトデータダウンロード先の空き容量確認

プロジェクトデータをダウンロードする場合，事前に転送先ドライブのユーザ領域の空き容量，転送するプロジェクトデータサイズ，拡張システムアプリケーションの転送サイズとバッファリングエリアサイズを確認し，ダウンロードの可否を判定する必要があります。
各容量は，GT Designer3 で確認できます。
詳細は，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

6.2 アラーム情報

6.2.1 アラーム情報の機能

各ドライブ(A: 標準SDカード，B: USBドライブ，C: 内蔵フラッシュメモリ，E: USBドライブ，F: USBドライブ，G: USBドライブ)が保持しているアラームログファイルを表示します。
また，ファイルに対して下記項目の処理を行えます。
USBドライブはログファイルの格納のみで表示はできません。
アラームの詳細については，下記を参照してください。

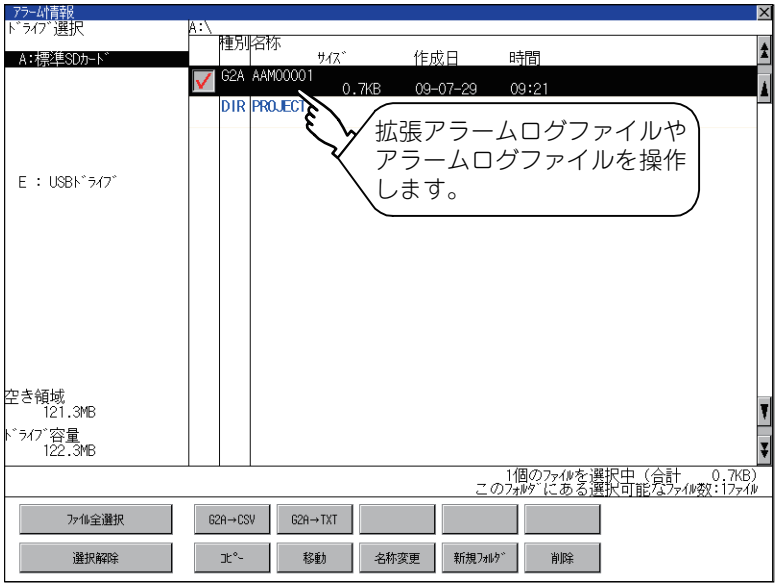
➠ ☞・GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

機能	内容	参照先
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの名称，データサイズ，作成日時を表示します。	6.2.3 アラーム情報の表示例，6.2.4 アラーム情報の操作
G2A→CSV変換	拡張アラームログファイルのG2AファイルをCSVファイルへ変換します。	■G2A→CSV変換操作，G2A→TXT変換操作
G2A→TXT変換	拡張アラームログファイルのG2AファイルをTXTファイルへ変換します。	■G2A→CSV変換操作，G2A→TXT変換操作
削除	ファイルを削除します。	■削除操作
コピー	ファイルをコピーします。	■コピー操作

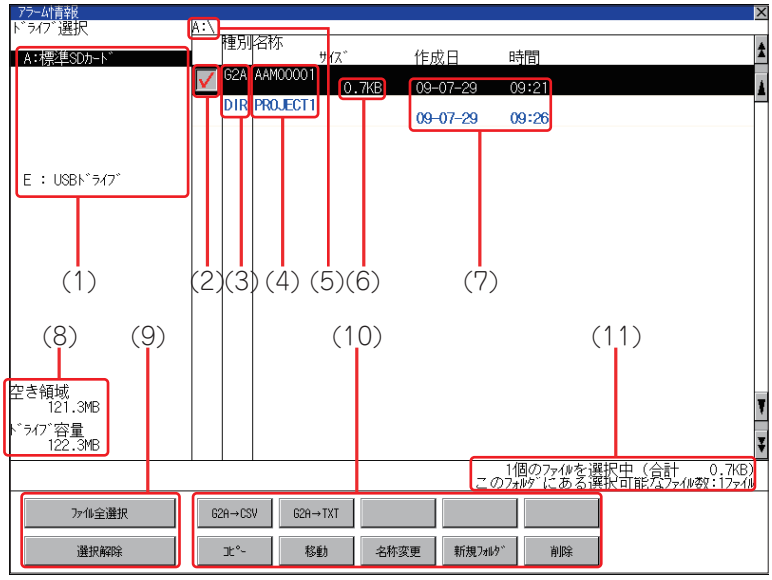
6.2.2　アラーム情報の表示操作

データ管理

アラーム情報



6.2.3　アラーム情報の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ファイルやフォルダの表示を行う対象ドライブを選択できます。 SDカード，USBメモリが装着されていない場合，下記ドライブは表示されません。 ・SDカード：[A: 標準SDカード] ・USBメモリ：[B: USBドライブ]，[E: USBドライブ]，[F: USBドライブ]，[G: USBドライブ]
(2)	チェックボックス	チェックを入れると最大512件まで複数選択できます。
(3)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合はDIRと表示します。
(4)	名称	ファイル名やフォルダ名を表示します。 長いファイル名，フォルダ名は，すべて表示できない場合があります。 表示されない部分の名称は，[コピー]ボタンなどで確認してください。 ☞ ■コピー操作 確認後，[Cancel]ボタンをタッチして処理をキャンセルしてください。
(5)	パス名	現在表示されているドライブ，フォルダのパス名を表示します。
(6)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(7)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(8)	ドライブのサイズ	ドライブ選択で選択したドライブの,使用中のサイズ，ドライブ全体のサイズを表示します。
(9)	ファイル全選択，選択解除	複数のファイルをまとめて選択，解除ができます。 [ファイル全選択]ボタンをタッチすると，ファイルが全件選択されます。 ただし，ファイル数が513件以上表示される場合は，上から512件のファイルが選択されます。
(10)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチです。
(11)	フォルダ，ファイル数	表示しているフォルダとファイルの合計を表示します。

POINT

作成日，時間欄の表示について

アラーム情報表示画面表示中にファイルが作成または更新されても，作成日，時間欄の表示は更新されません。
現在表示している画面を一旦閉じ(上の階層のフォルダへ移動するなど)，再度該当の画面を表示すると更新した内容が表示されます。

6.2.4　アラーム情報の操作

■ アラーム情報の表示操作

Step 1. [ドライブ選択]のドライブをタッチすると，タッチしたドライブ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。
⏫ ⏬ ボタンをタッチすると1画面分上下にスクロールします。

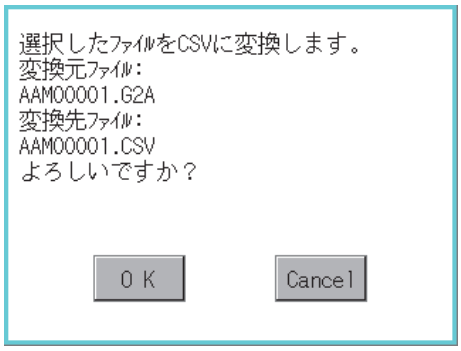
Step 5. チェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

Step 6. G2A→CSV，G2A→TXT，削除，コピーの操作については，下記を参照してください。
G2A→CSV，G2A→TXT..... ☞ ■G2A→CSV変換操作，G2A→TXT変換操作
削除..... ☞ ■削除操作
コピー ..... ☞ ■コピー操作

Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

■ G2A → CSV 変換操作，G2A → TXT 変換操作

選択した G2A ファイルを CSV ファイルまたは TXT ファイルへ変換します。

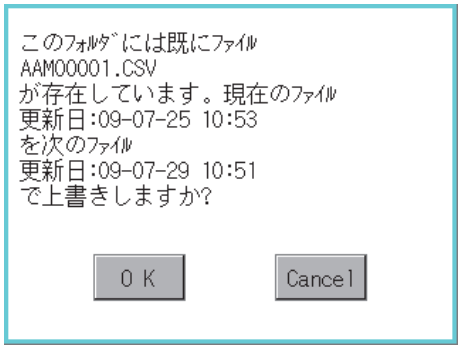


Step 1. CSVファイルまたはTXTファイルに変換するG2Aファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

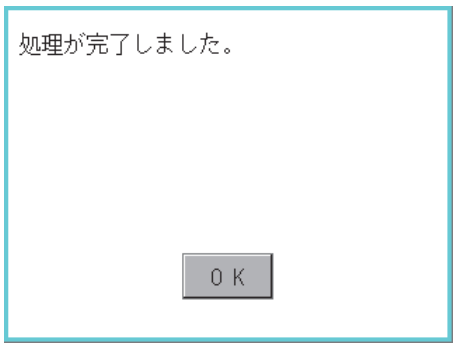
Step 2. 変換先ファイルの種類により下記のボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
- CSVファイル：[G2A→CSV]ボタン
- TXTファイル：[G2A→TXT]ボタン

（次のページへつづく）

（例：［G2A→CSV］ボタンをタッチした場合のダイアログボックス）



Step 3. ［OK］ボタンをタッチします。
出力先のフォルダに，同一名称のファイルが存在する場合は，変換を開始せずに左記のダイアログボックスが表示されます。
［OK］ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書き変換します。
［Cancel］ボタンをタッチすると変換を中止します。

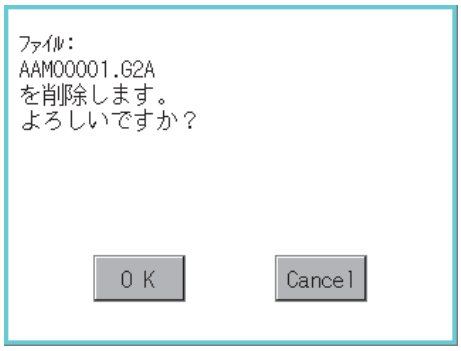


Step 4. 変換が完了すると，完了のメッセージをダイアログボックスに表示します。
［OK］ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

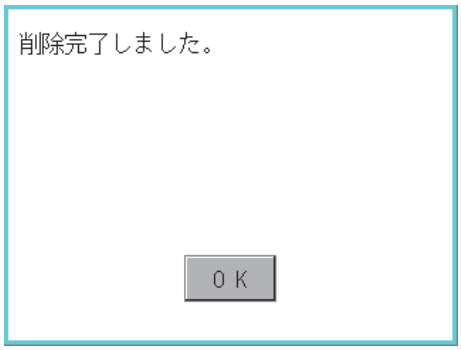
■ 削除操作

選択したファイルを削除します。

Step 1. 削除するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。



Step 2. ［削除］ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
［OK］ボタンをタッチするとファイルを削除します。
［Cancel］ボタンをタッチすると削除操作を中止します。



Step 3. 削除が完了すると，完了のダイアログボックスが表示されます。
［OK］ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

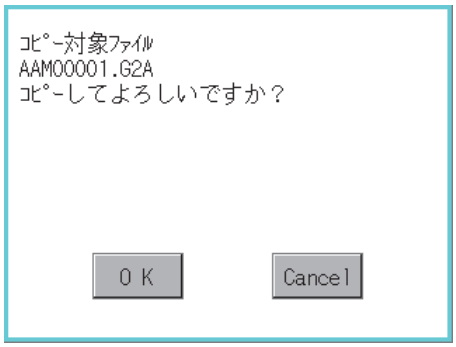
■ コピー操作

選択したファイルをコピーします。

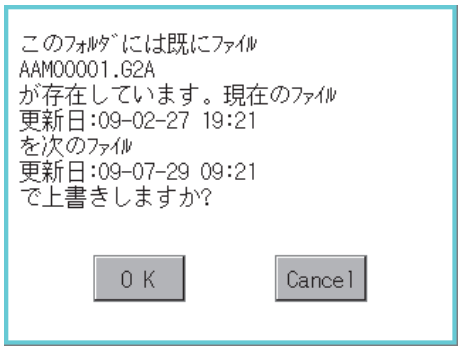
Step 1. コピーするファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

Step 2. [コピー]ボタンをタッチすると，画面左下に[コピー先ディレクトリを選択してください。]と表示されます。

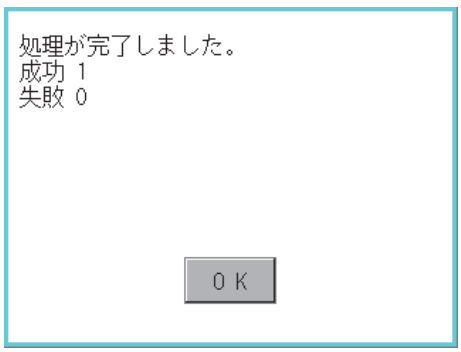
Step 3. コピー先のフォルダをタッチすると，画面表示がコピー先のフォルダに変更されます。
このとき，コピー元のファイルと同一のフォルダへはコピーできません。
異なるフォルダを選択してください。



Step 4. [実行]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。



Step 5. [OK]ボタンをタッチします。
コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，コピーを開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書きコピーします。
[Cancel]ボタンをタッチするとコピーを中止します。



Step 6. コピーが完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

6.3 画像ファイル管理

6.3.1 画像ファイル管理の機能

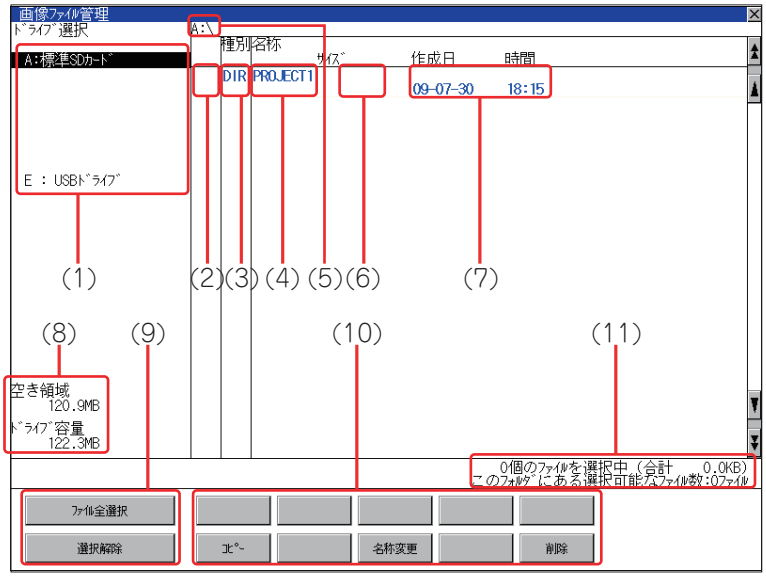
ハードコピー機能で作成されたファイルに対し，削除，コピー，移動，名称変更，新規フォルダ作成を行います。
ハードコピー機能の詳細については，下記を参照してください。

➠ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

機能	内容	参照先
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの種類と名称，データサイズ，作成日時を表示します。	6.3.3 画像ファイル管理の表示例6.3.4 画像ファイル管理の操作
削除	ファイルを削除します。	■削除操作
コピー	ファイルをコピーします。	■コピー操作
移動	ファイルを移動します。	■移動操作
名称変更	ファイルの名称を変更します。	■名称変更操作
新規フォルダ	新規にフォルダを作成します。	■新規フォルダ作成操作

6.3.2 画像ファイル管理の表示操作

6.3.3　画像ファイル管理の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ファイルやフォルダの表示を行う対象ドライブを選択できます。 SDカード，USBメモリが装着されていない場合，下記ドライブは表示されません。 ・SDカード：[A: 標準SDｶｰﾄﾞ] ・USBメモリ：[B: USBドライブ]，[E: USBドライブ]，[F: USBドライブ]，[G: USBドライブ]
(2)	チェックボックス	チェックを入れると最大512件まで複数選択できます。
(3)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合はDIRと表示します。
(4)	名称	ファイル名やフォルダ名を表示します。 長いファイル名，フォルダ名は，すべて表示できない場合があります。 表示されない部分の名称は，[コピー]ボタンなどで確認してください。 ☞ ■コピー操作 確認後，[Cancel]ボタンをタッチして処理をキャンセルしてください。
(5)	パス名	現在表示されているドライブ，フォルダのパス名を表示します。
(6)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(7)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(8)	ドライブのサイズ	ドライブ選択で選択したドライブの,使用中のサイズ，ドライブ全体のサイズを表示します。
(9)	ファイル全選択， 選択解除	複数のファイルをまとめて選択，解除ができます。 [ファイル全選択]ボタンをタッチすると，ファイルが全件選択されます。 ただし，ファイル数が513件以上表示される場合は，上から512件のファイルが選択されます。
(10)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチが表示されます。
(11)	フォルダ，ファイル数	表示しているフォルダとファイルの合計を表示します。

POINT

作成日，時間欄の表示について

画像ファイル管理表示中にファイルが作成または更新されても，作成日，時間の表示は更新されません。正しく再表示させるためには，現在表示している画面を一旦閉じ(上の階層のフォルダへ移動するなど)，再度該当の画面を表示することで更新した内容が表示されます。

6.3.4　画像ファイル管理の操作

■ 画像ファイル管理の表示操作

Step 1. [ドライブ選択]のドライブをタッチすると，タッチしたドライブ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。

Step 5. チェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

Step 6. 削除，コピー，名称変更の操作については，下記を参照してください。

削除..... ☞ ■削除操作

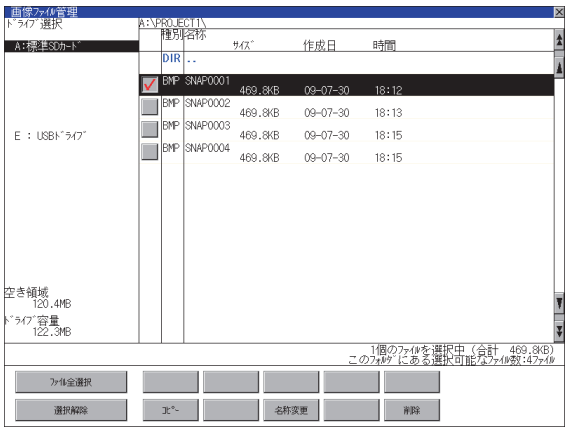
コピー ..... ☞ ■コピー操作

名称変更..... ☞ ■名称変更操作

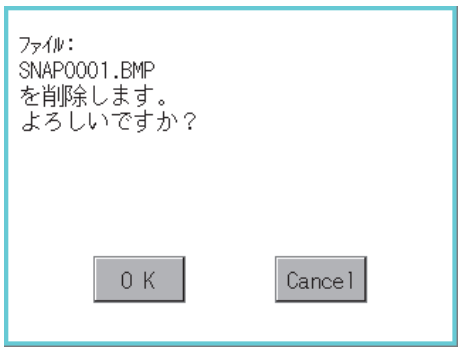
Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

■ 削除操作

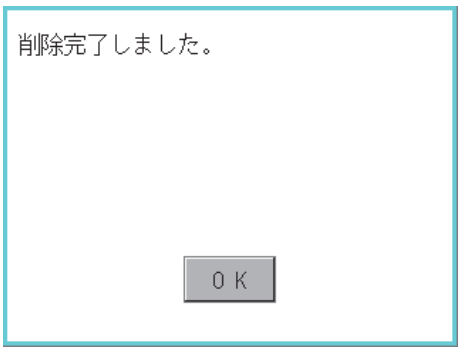
選択したファイルを削除します。



Step 1. 削除するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。



Step 2. [削除]ボタンをタッチすると，左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとファイルを削除します。
[Cancel]ボタンをタッチすると削除を中止します。



Step 3. 削除が完了すると，完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ コピー操作

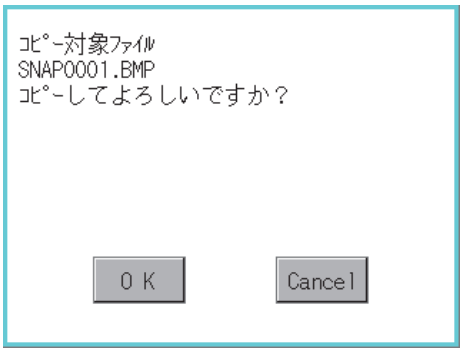
選択したファイルをコピーします。

Step 1. コピーするファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

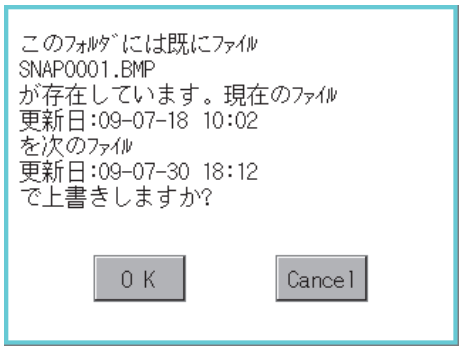
Step 2. [コピー]ボタンをタッチすると，画面左下に[コピー先ディレクトリを選択してください。]と表示されます。

Step 3. コピー先のフォルダをタッチすると，画面表示がコピー先のフォルダに変更されます。
このとき，コピー元のファイルと同一のフォルダへはコピーできません。
異なるフォルダを選択してください。

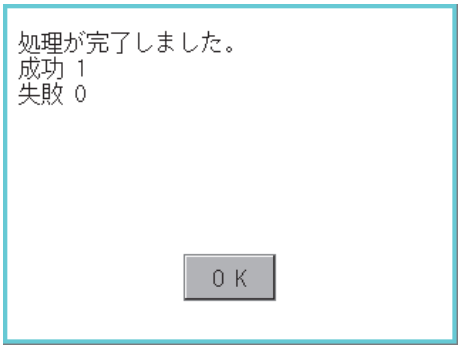
Step 4. [実行]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。



Step 5. [OK]ボタンをタッチします。
コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，コピーを開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書きコピーします。
[Cancel]ボタンをタッチするとコピーを中止します。

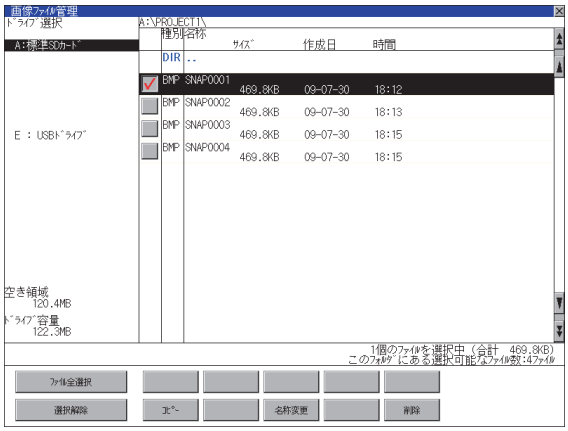


Step 6. コピーが完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

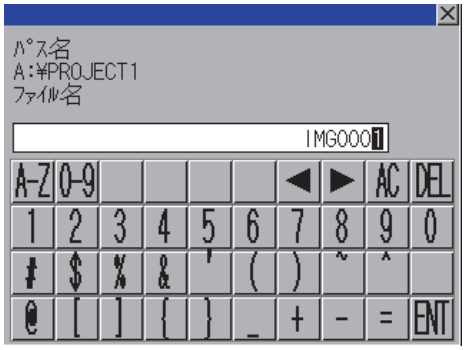


■ 名称変更操作

選択したファイルの名称を変更します。



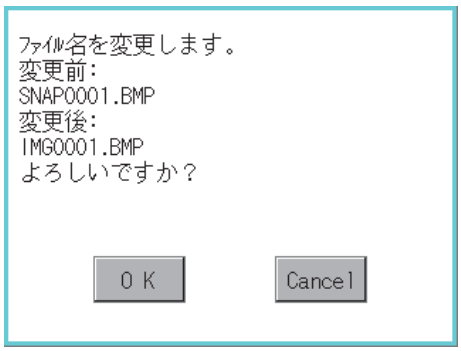
Step 1. 名称変更するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。



Step 2. [名称変更]ボタンをタッチすると，左記の画面が表示されるので，変更するファイル名を入力します。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

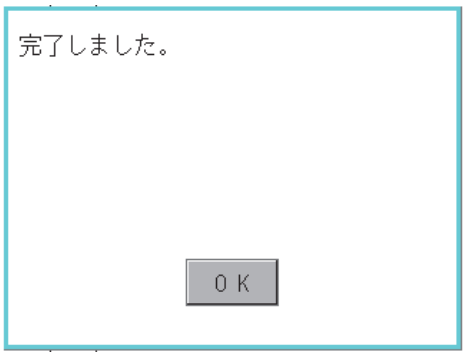
[A-Z] ：英大文字

[0-9] ：数字，記号



Step 3. [Enter]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

Step 4. [OK]ボタンをタッチするとファイル名変更を開始します。



Step 5. ファイル名変更が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

POINT

レシピ情報を使用する前に

本機能を使用して接続機器に書き込み，読み出しなどをしたり，レシピファイルをパソコンで編集したりする場合は，下記を参照してください。
仕様や操作の流れなど記載しています。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

6.4.1　レシピ情報の機能

レシピ機能で使用するレシピファイルに対し，コピー，削除，ファイル出力などができます。
また本機能を使用すれば，レシピを操作するための画面をGT Designer3で作成しなくても，接続機器に書き込み，読み出しができます。(GT Designer3のレシピ設定は必要です。)

■ レシピ情報

レシピ情報の画面で操作できる機能を下記に示します。

機能	内容	参照先
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの名称，データサイズ，作成日時を表示します。	6.4.3 レシピ情報の表示例，6.4.4 レシピ情報の操作
G2P→CSV変換	レシピファイルのG2PファイルをCSVファイルへ変換します。	■G2P → CSV変換操作，G2P → TXT変換操作
G2P → TXT変換	レシピファイルのG2PファイルをUnicodeテキストファイルへ変換します。	■G2P → CSV変換操作，G2P → TXT変換操作
CSV，TXT→G2P変換	CSV，TXTファイルをレシピファイルのG2Pファイルへ変換します。	■CSV，TXT→G2P変換操作
操作	レシピファイル一覧画面を表示します。	■レシピファイル一覧
コピー	ファイルをコピーします。	■コピー操作
移動	ファイルを移動します。	■移動操作
名称変更	ファイルの名称を変更します。	■名称変更操作
新規フォルダ	新規にフォルダを作成します。	■新規フォルダ作成操作
削除	ファイルやフォルダを削除します。	■削除操作

■ レシピファイル一覧

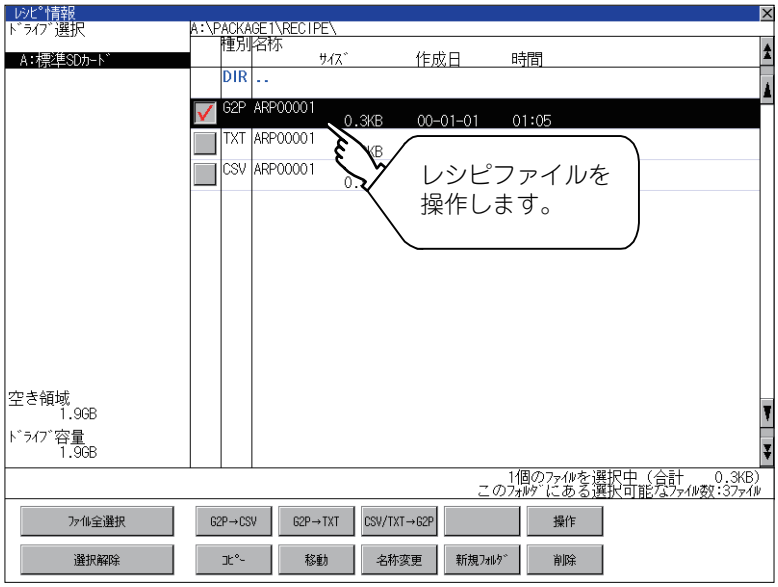
レシピファイル一覧の画面で操作できる機能を下記に示します。

機能	内容		参照先
レシピ操作	レシピ操作画面を表示します。		6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作
	GOT->デバイス	選択したレコードへレシピを書き込みます。	6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (1) レシピ操作 (a) レシピ書き込み操作
	デバイス->GOT	選択したレコードからレシピへ読み出します。	6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (1) レシピ操作 (b) レシピ読み出し操作
	GOT<->デバイス	選択したレコードとレシピを照合します。	6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (1) レシピ操作 (c) レシピ照合操作
	別名保存	選択中のレシピファイルに対応したレシピ設定で，レシピ読み出しを行い，新たなファイル名、レコードで保存します。	6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (1) レシピ操作 (d) 別名保存操作
コピー	レシピファイルをコピーします。		6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (2) コピー操作
新規フォルダ	レシピで使用するフォルダを作成します。		6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (3) 新規フォルダ作成操作
新規レシピ	新規でレシピファイルを作成します。		6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (4) 新規レシピ作成操作
変換	レシピファイルのG2PファイルをCSVファイルまたはUnicodeテキストファイルへ変換します。		6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (5) 変換操作
リネーム	レシピファイルの名称を変更します。		6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (6) リネーム操作
削除	レシピファイルを削除します。		6.4.4 レシピ情報の操作 ■レシピファイルの操作 (7) 削除操作

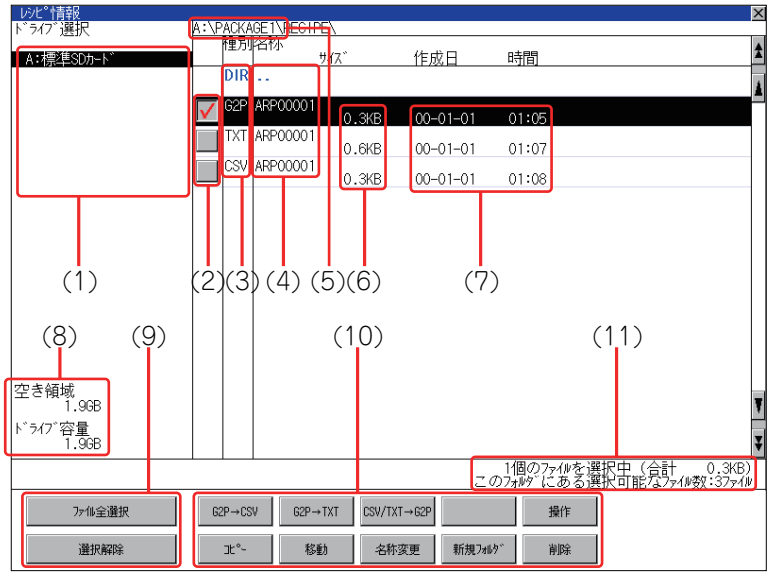
6.4.2　レシピ情報の表示操作

データ管理

レシピ情報



6.4.3 レシピ情報の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	対象ドライブを選択できます。(SDカードが装着されていなくても表示されます。)
(2)	チェックボックス	チェックを入れると最大512件まで複数選択できます。
(3)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合は[DIR]と表示します。
(4)	名称	ファイル名やフォルダ名を表示します。 長いファイル名，フォルダ名は，すべて表示できない場合があります。 表示されない部分の名称は，[名称変更]ボタンなどで確認してください。 ☞ ■名称変更操作 確認後，[Cancel]ボタンをタッチして処理をキャンセルしてください。
(5)	パス名	現在表示されているドライブ，フォルダのパス名を表示します。
(6)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(7)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(8)	ドライブのサイズ	ドライブ選択で選択したドライブの，使用中のサイズ，ドライブ全体のサイズを表示します。
(9)	ファイル全選択，選択解除	複数のファイルをまとめて選択，解除ができます。 [ファイル全選択]ボタンをタッチすると，ファイルが全件選択されます。 ただし，ファイル数が513件以上表示される場合は，上から512件のファイルが選択されます。
(10)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチです。
(11)	フォルダ，ファイル数	表示しているフォルダとファイルの合計を表示します。

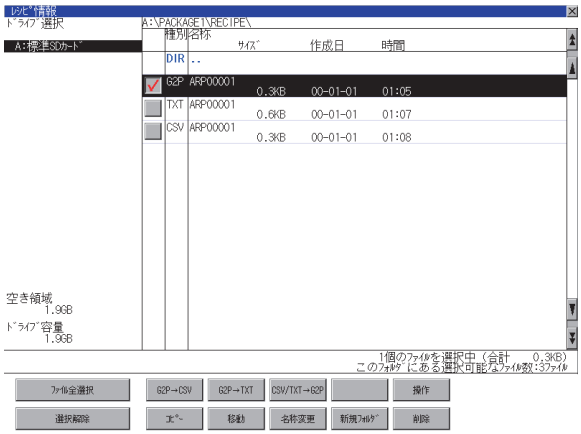
POINT

表示されるファイルについて

レシピ情報画面では，レシピ用ファイル以外は表示されません。

6.4.4　レシピ情報の操作

■ レシピ情報の表示操作



Step 1. [ドライブ選択]のドライブをタッチすると，タッチしたドライブ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。
⏫ ⏬ ボタンをタッチすると1画面分上下にスクロールします。

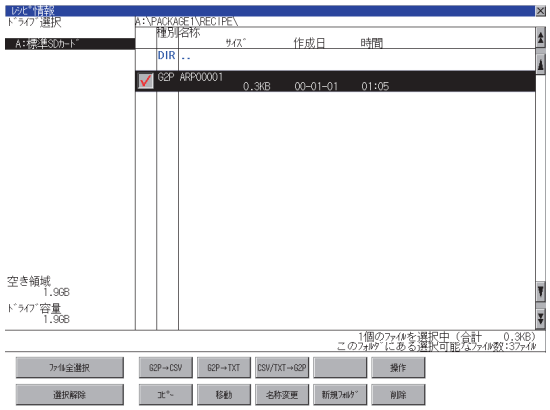
Step 5. チェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

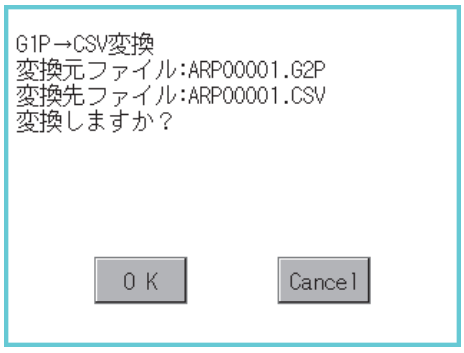
Step 6. 操作スイッチの操作については，下記を参照してください。
G2P→CSV，G2P→TXT ..... ☞ ■G2P → CSV変換操作，G2P → TXT変換操作
CSV，TXT→G2P変換操作 ..... ☞ ■CSV，TXT→G2P変換操作
操作 ..... ☞ ■レシピファイルの操作
コピー ..... ☞ ■コピー操作
移動..... ☞ ■移動操作
名称変更..... ☞ ■名称変更操作
新規フォルダ..... ☞ ■新規フォルダ作成操作
削除..... ☞ ■削除操作

Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

■ G2P → CSV 変換操作，G2P → TXT 変換操作

レシピファイル（G2P ファイル）を，パソコンで表示・編集できる CSV ファイルまたは Unicode テキストファイルに変換します。





（例：[G2P→CSV]ボタンをタッチした場合の
ダイアログボックス）

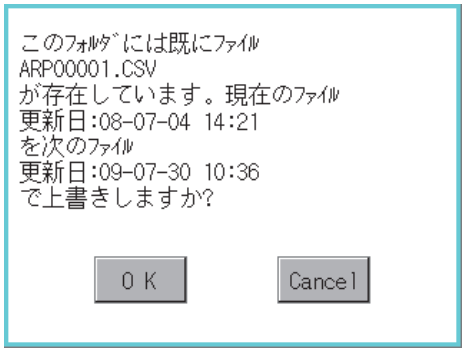
（次のページへつづく）

Step 1. CSVファイルまたはUnicodeテキストファイルに変換するG2Pファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

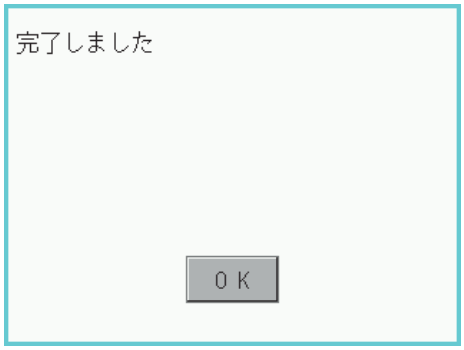
Step 2. 変換先ファイルの種類により下記のボタンをタッチします。
- CSVファイル：
  [G2P→CSV]ボタン
- Unicodeテキストファイル：
  [G2L→TXT]ボタン

Step 3. 出力先のフォルダを選択します。
（ドライブ直下に出力する場合は，フォルダの選択は不要です。）

Step 4. [実行]ボタンをタッチすると左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
（処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。）



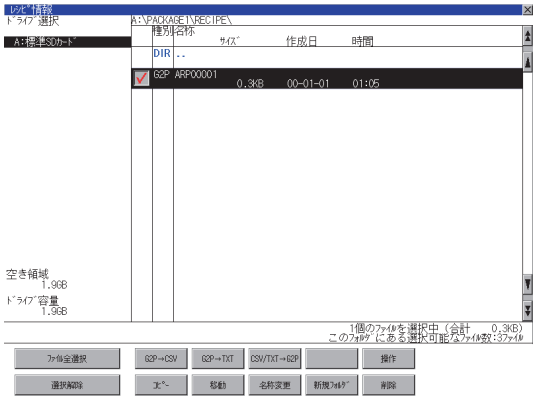
Step 5. 出力先のフォルダに，同一名称のファイルが存在する場合は，変換を開始せずに左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書き変換します。
[Cancel]ボタンをタッチすると変換を中止します。



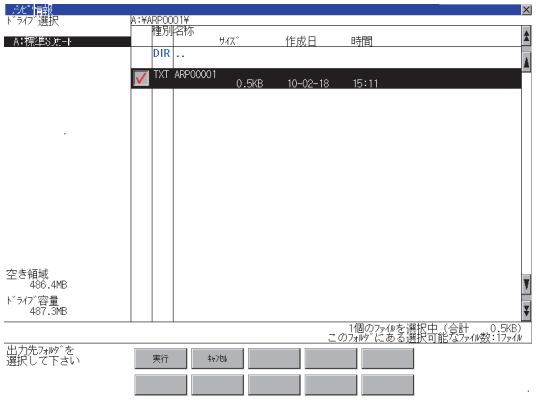
Step 6. 変換が完了すると，完了のメッセージをダイアログボックスに表示します。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ CSV，TXT → G2P 変換操作

CSV ファイルまたは UnicodeTXT ファイルをレシピファイル（G2P ファイル）へ変換します。

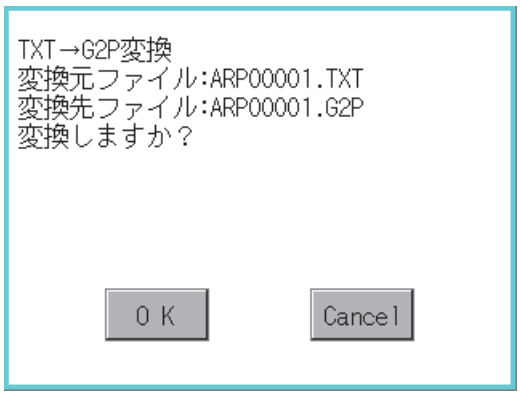


Step 1. G2Pファイルに変換するCSVファイルまたはUnicodeテキストファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。



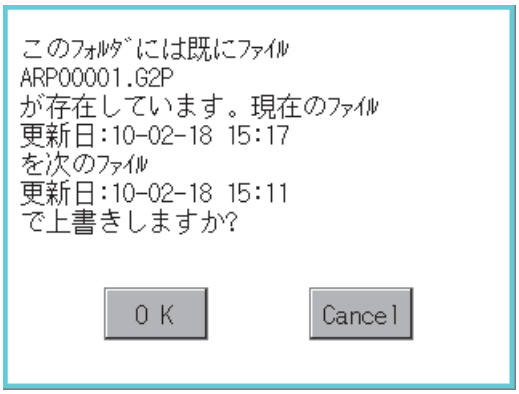
Step 2. [CSV,TXT→G2P]ボタンをタッチすると，画面左下に[コピー先ディレクトリを選択してください。]と表示されます。

Step 3. 出力先のフォルダを選択します。
（ドライブ直下に出力する場合は，フォルダの選択は不要です。）



Step 4. [実行]ボタンをタッチすると左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
（処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。）

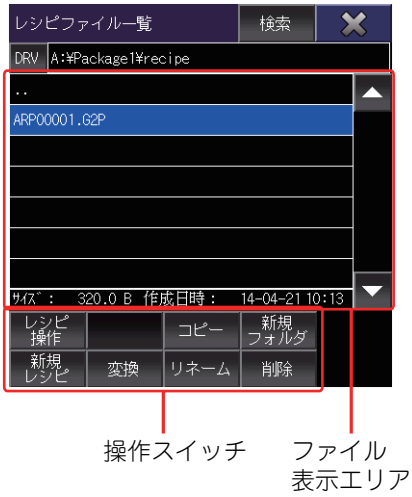
（次のページへつづく）



Step 5. 出力先のフォルダに，同一名称のファイルが存在する場合は，変換を開始せずに左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書き変換します。
[Cancel]ボタンをタッチすると変換を中止します。

Step 6. 変換が完了すると，完了のメッセージをダイアログボックスに表示します。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ レシピファイルの操作



Step 1. レシピファイル一覧画面の[DRV]をタッチすると，ドライブ選択画面が表示され，任意のドライブを選択します。

Step 2. ファイル表示エリア内のレシピをタッチすると，タッチしたレシピが選択されます。

Step 3. 名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。

Step 5. [検索]ボタンをタッチすると，検索画面が表示され，キーワードやファイル種別で検索できます。

Step 6. 操作スイッチの操作については，下記を参照してください。

レシピ操作 ..... ☞ (1) レシピ操作

コピー ..... ☞ (2) コピー操作

新規フォルダ..... ☞ (3) 新規フォルダ作成操作

新規レシピ..... ☞ (4) 新規レシピ作成操作

変換..... ☞ (5) 変換操作

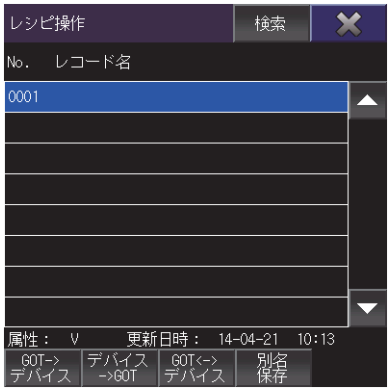
リネーム..... ☞ (6) リネーム操作

削除..... ☞ (7) 削除操作

Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

(1) レシピ操作

レシピファイル(G2Pファイル)を選択し，レシピ操作をタッチすると，レシピ操作画面が表示されます。



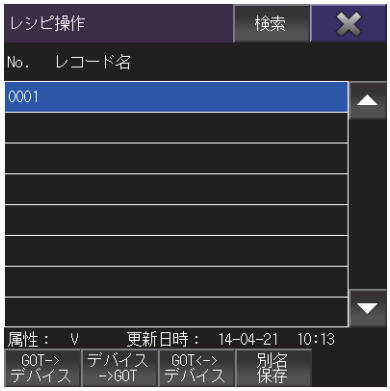
Step 1. スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。

Step 2. [検索]ボタンをタッチすると，検索画面が表示され，レコード番号やレコード名で検索できます。

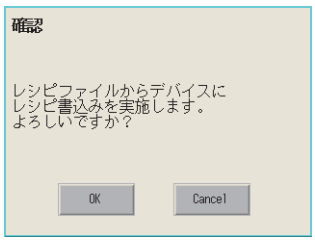
Step 3. ファイル表示エリアに表示されているレコード名を選択し，操作スイッチをタッチすると，下記の操作が行えます。
操作スイッチの操作は，下記を参照してください。
GOT->デバイス
.....☞ (a) レシピ書き込み操作
デバイス->GOT
.....☞ (b) レシピ読み出し操作
GOT<->デバイス
.....☞ (c) レシピ照合操作
別名保存
.....☞ (d) 別名保存操作

Step 4. [×]ボタンをタッチすると，レシピファイル一覧画面に戻ります。

(a) レシピ書き込み操作



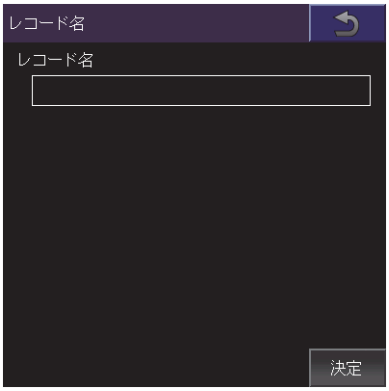
Step 1. ファイル表示エリアに表示されているレコード名を選択します。



Step 2. レシピ操作画面の[GOT->デバイス]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

Step 3. [OK]ボタンをタッチすると，選択したレシピファイルをデバイスに書き込みます。
[Cancel]ボタンをタッチするとデバイスへの書き込みを中止します。

(b)　レシピ読み出し操作



Step 1. レシピ操作画面の[デバイス->GOT]ボタンをタッチすると，レコード名画面が表示されます。
レコード名の入力エリアをタッチすると，入力キーウィンドウが表示されます。
作成するレコード名を入力します。
下記のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

[A-Z]：英大文字

[a-z]：英小文字

[@]：記号

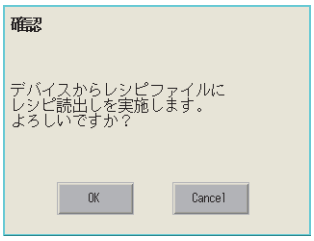
[0-9]：数字，A～F

[あ]：ひらがな

[ア]：カタカナ

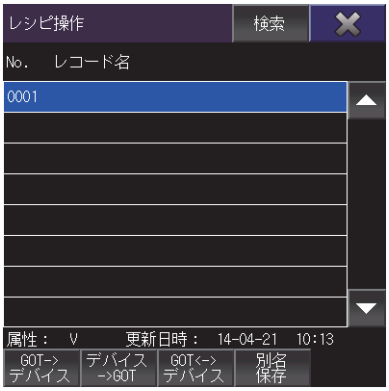
Step 2. [Enter]ボタンをタッチすると，入力キーウィンドウを閉じます。

Step 3. レコード名画面の[決定]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

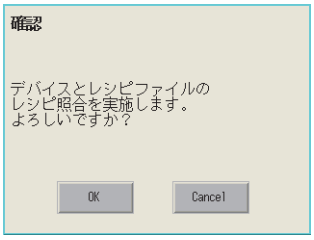


Step 4. [OK]ボタンをタッチすると，デバイスからレシピが読み出され，ダイアログボックスを閉じます。
[Cancel]ボタンをタッチするとデバイスからの読み出しを中止します。

(c)　レシピ照合操作

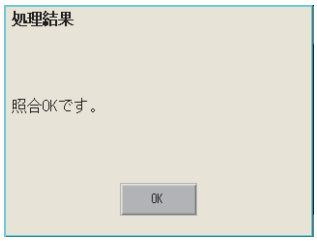


Step 1. ファイル表示エリアに表示されているレコード名を選択します。



Step 2. レシピ操作画面の[GOT<->デバイス]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，GOTのレシピファイルとデバイスのレシピファイルの照合が行われます。
[Cancel]ボタンをタッチすると照合を中止します。

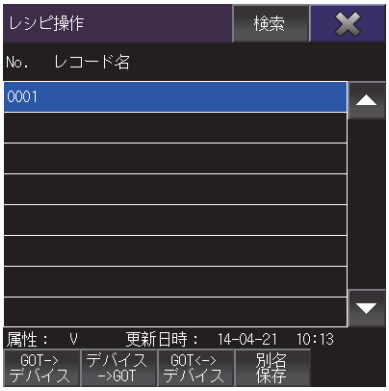
（次のページへつづく）



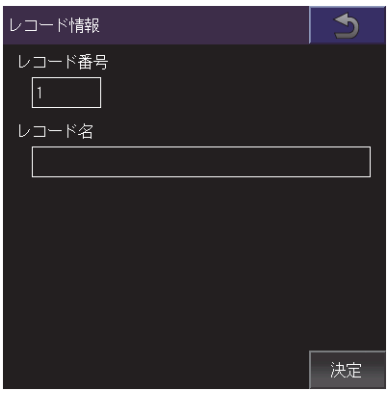
Step 3. 照合が完了し，GOTのレシピファイルとデバイスのレシピファイルが一致している場合，左記のダイアログボックスが表示されます。
一致していない場合は，[照合NGです。]のダイアログボックスが表示されます。

Step 4. [OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

(d) 別名保存操作



Step 1. ファイル表示エリアに表示されているレコード名を選択します。



Step 2. レシピ操作画面の[別名保存]ボタンをタッチすると，レコード情報画面が表示されます。

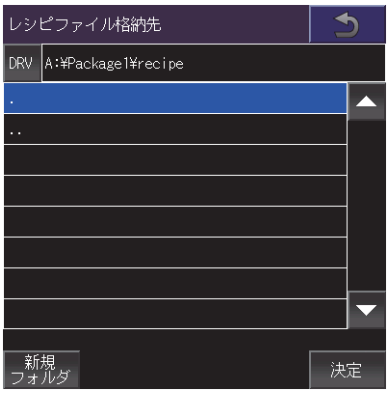
Step 3. レコード番号入力エリアに，レコード番号を入力します。
レコード番号の入力エリアをタッチすると，入力キーウィンドウが表示されます。

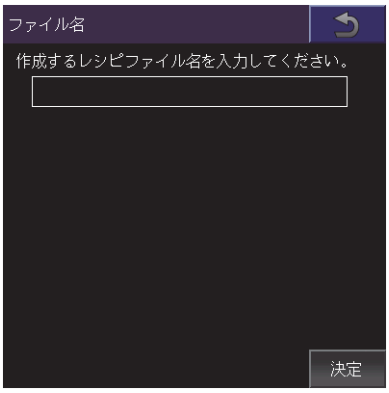
Step 4. レコード名入力エリアをタッチすると，入力キーウィンドウが表示されます。
作成するフォルダ名を入力します。
下記のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

[A-Z] ：英大文字
[a-z] ：英小文字
[@] ：記号
[0-9] ：数字，A～F
[あ] ：ひらがな
[ア] ：カタカナ

Step 5. [Enter]ボタンをタッチすると，入力キーウィンドウを閉じます。

（次のページへつづく）





Step 6. レコード情報画面の[決定]ボタンをタッチすると，レシピファイル格納先画面が表示されます。
名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。
[新規フォルダ]ボタンをタッチすると，フォルダ名画面が表示され，新規にフォルダを作成できます。
新規フォルダ..... (3) 新規フォルダ作成操作

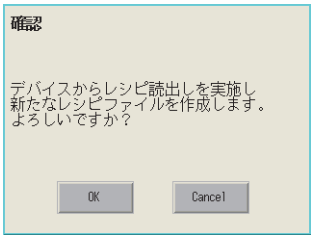
Step 7. レシピファイル格納先画面の[決定]ボタンをタッチすると，ファイル名画面が表示されます。
作成するレシピファイル名を入力エリアに入力します。

Step 8. レシピファイル名入力エリアをタッチすると，入力キーウィンドウが表示されます。
作成するレシピファイル名を入力します。
下記のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

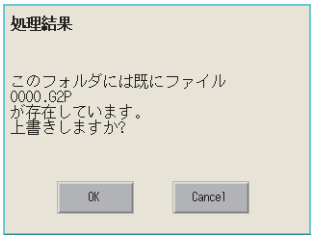
[A-Z] ：英大文字
[a-z] ：英小文字
[@] ：記号
[0-9] ：数字，A～F
[あ] ：ひらがな
[ア] ：カタカナ

Step 9. [Enter]ボタンをタッチすると，入力キーウィンドウを閉じます。

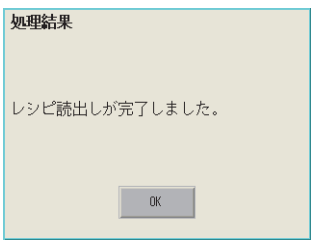
Step 10. ファイル名画面の[決定]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，デバイスからレシピを読み出します。
[Cancel]ボタンをタッチするとデバイスからレシピの読み出しを中止します。



Step 11. レシピ読み出し先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，レシピの読み出しを開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書き保存します。
[Cancel]ボタンをタッチするとレシピの読み出しを中止します。

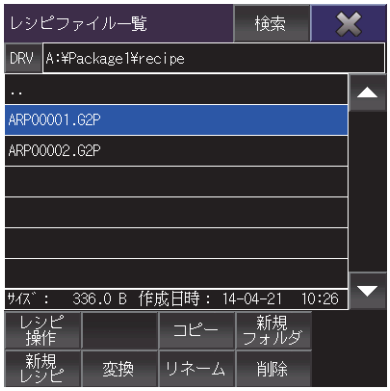


Step 12. デバイスからレシピの読み出しが完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

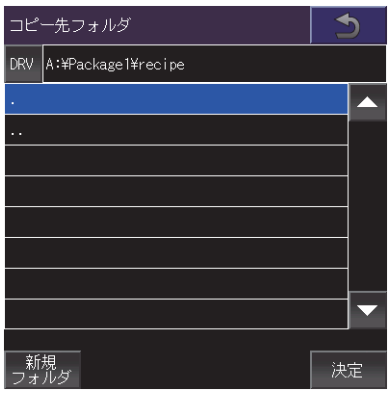


(2) コピー操作

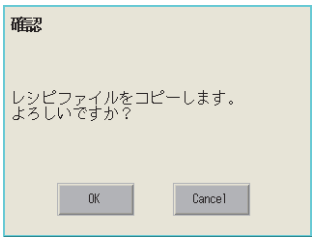
レシピファイルをコピーします。



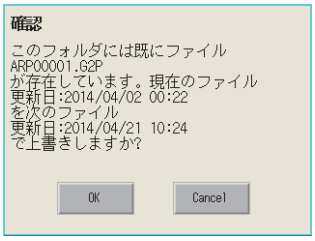
Step 1. レシピファイル一覧画面でコピーするファイルを選択します。



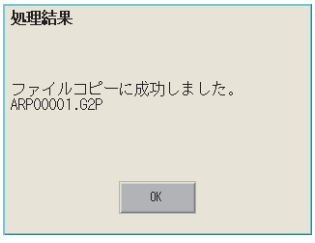
Step 2. [コピー]ボタンをタッチすると，コピー先フォルダ画面が表示され，コピー先のフォルダを選択します。
名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。
[新規フォルダ]ボタンをタッチすると，フォルダ名画面が表示され，新規にフォルダを作成できます。
新規フォルダ.....☞ (3) 新規フォルダ作成操作



Step 3. コピー先フォルダ画面の[決定]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)



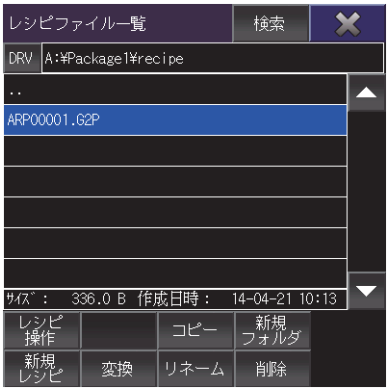
Step 4. コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，コピーを開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書きコピーします。
[Cancel]ボタンをタッチするとコピーを中止します。



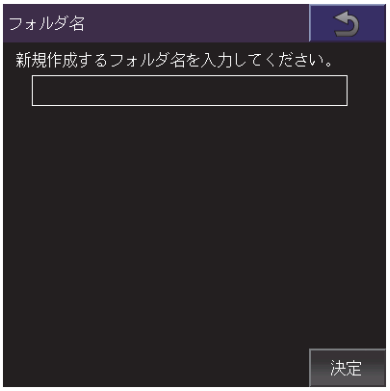
Step 5. コピーが完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

(3) 新規フォルダ作成操作

レシピで使用するフォルダを作成します。



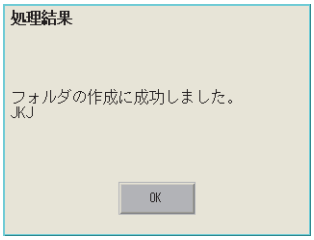
Step 1. レシピファイル一覧画面で[新規フォルダ]ボタンをタッチします。



Step 2. フォルダ名画面が表示され，新規フォルダを作成します。
新規フォルダ名の入力エリアをタッチすると，入力キーウィンドウが表示されます。
作成するフォルダ名を入力します。
下記のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

[A-Z] ：英大文字
[a-z] ：英小文字
[@] ：記号
[0-9] ：数字，A～F
[あ] ：ひらがな
[ア] ：カタカナ

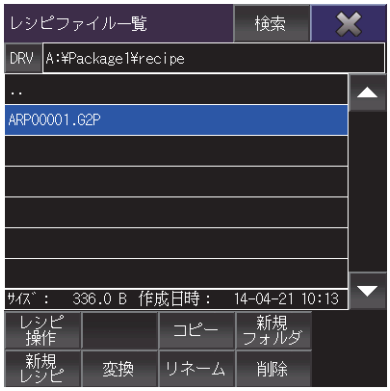
Step 3. [Enter]ボタンをタッチすると，入力キーウィンドウを閉じます。



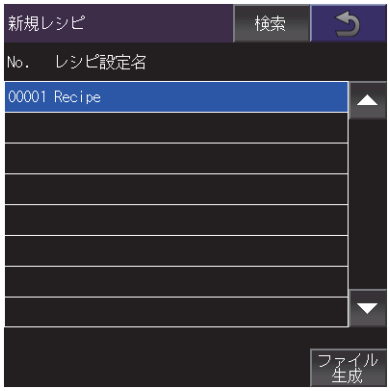
Step 4. フォルダ名画面の[決定]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示され，フォルダが作成されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

(4) 新規レシピ作成操作

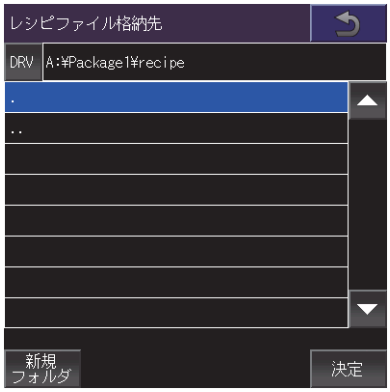
新規でレシピファイルを作成します。



Step 1. レシピファイル一覧画面で[新規レシピ]ボタンをタッチします。

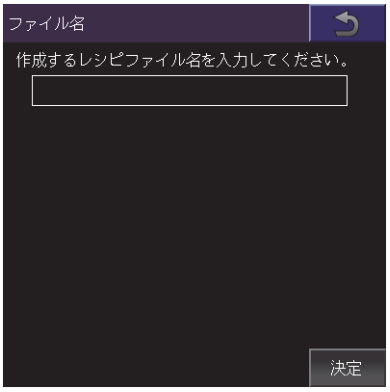


Step 2. 新規レシピ画面が表示されます。



Step 3. 新規レシピ画面の[ファイル生成]ボタンをタッチすると，レシピファイル格納先画面が表示されます。
名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。
[新規フォルダ]ボタンをタッチすると，フォルダ名画面が表示され，新規にフォルダを作成できます。
新規フォルダ.....☞ (3) 新規フォルダ作成操作

（次のページへつづく）



Step 4. レシピファイル格納先画面の[決定]ボタンをタッチすると，ファイル名画面が表示されます。

Step 5. 作成するレシピファイル名の入力エリアをタッチすると，入力キーウィンドウが表示されます。
作成するレシピファイル名を入力します。
下記のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

[A-Z] ：英大文字

[a-z] ：英小文字

[@] ：記号

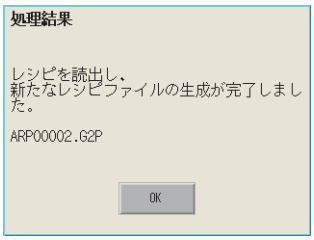
[0-9] ：数字，A～F

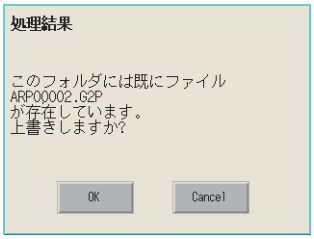
[あ] ：ひらがな

[ア] ：カタカナ

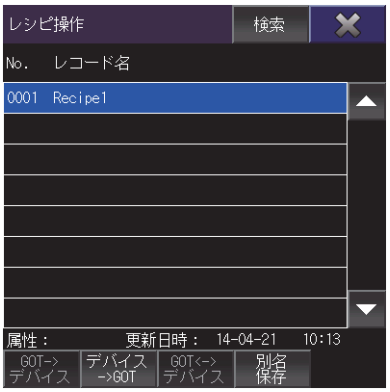
Step 6. [Enter]ボタンをタッチすると，入力キーウィンドウを閉じます。

Step 7. ファイル名画面の[決定]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示され，レシピファイルが作成されます。





Step 8. ファイル格納先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，レシピファイルの作成を開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書き保存します。
[Cancel]ボタンをタッチするとレシピファイルの作成を中止します。

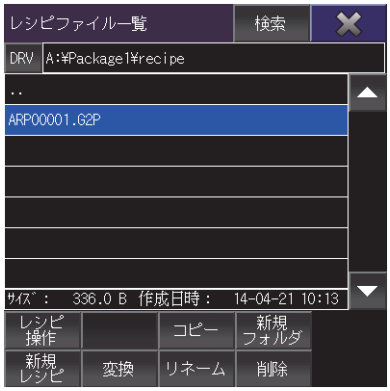


Step 9. [OK]ボタンをタッチすると，左記のレシピ操作画面が表示されます。
操作スイッチをタッチすると，下記の操作が行えます。
操作スイッチの操作については，下記を参照してください。
デバイス->GOT
..... ☞ (1) レシピ操作 (b) レシピ読み出し操作
別名保存
..... ☞ (1) レシピ操作 (d) 別名保存操作

Step 10. [×]ボタンをタッチすると，新規レシピ画面に戻ります。

(5) 変換操作

レシピファイルのG2PファイルをCSVファイルまたはUnicodeテキストファイルへ変換します。

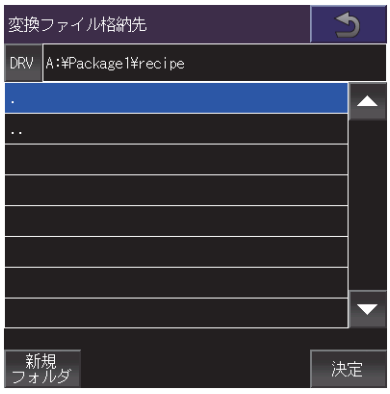


Step 1. レシピファイル一覧画面で変換するファイルを選択します。

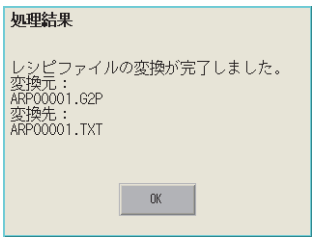
Step 2. レシピファイル一覧画面の[変換]ボタンをタッチすると，左記の変換ファイル種別画面が表示されます。

Step 3. 変換先ファイルの種類により下記のチェックボックスをタッチします。

- CSVファイル：
  [CSV]
- Unicodeテキストファイル：
  [Unicodeテキスト]



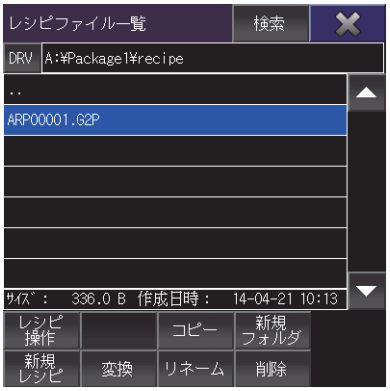
Step 4. 変換ファイル種別画面の[決定]ボタンをタッチすると，変換ファイル格納先画面が表示されます。
名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。
[新規フォルダ]ボタンをタッチすると，フォルダ名画面が表示され，新規にフォルダを作成できます。
新規フォルダ..... ☞ (3) 新規フォルダ作成操作

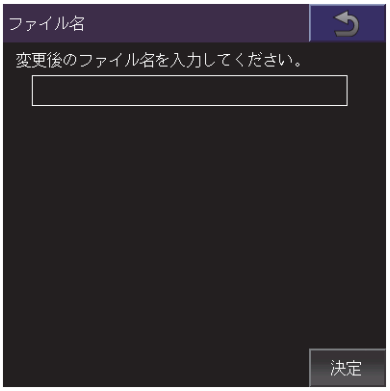


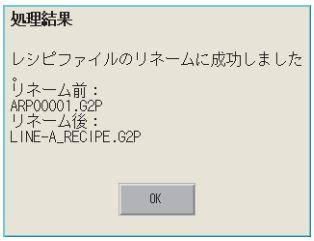
Step 5. 変換ファイル格納先画面の[決定]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

(6) リネーム操作

レシピファイルの名称を変更します。







Step 1. レシピファイル一覧画面で名称変更するファイルを選択します。

Step 2. レシピファイル一覧画面の[リネーム]ボタンをタッチすると，ファイル名画面が表示されるので，変更するファイル名を入力します。

Step 3. 作成するレシピファイル名の入力エリアをタッチすると，入力キーウィンドウが表示されます。
作成するレシピファイル名を入力します。
下記のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

[A-Z] ：英大文字

[a-z] ：英小文字

[@] ：記号

[0-9] ：数字，A～F

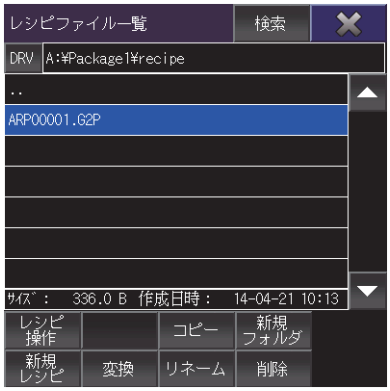
[あ] ：ひらがな

[ア] ：カタカナ

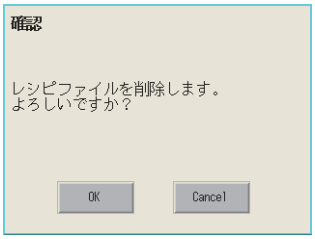
Step 4. ファイル名画面の[決定]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとダイアログボックスを閉じます。

(7) 削除操作

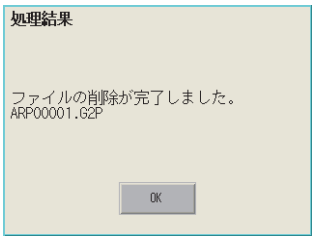
レシピファイルを削除します。



Step 1. レシピファイル一覧画面で削除するファイルをタッチします。



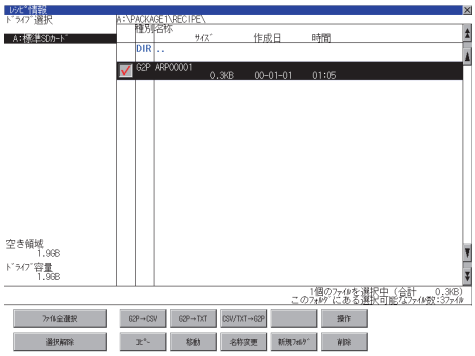
Step 2. レシピファイル一覧画面の[削除]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとファイルを削除します。
[Cancel]ボタンをタッチすると削除操作を中止します。



Step 3. 削除が完了すると，完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ コピー操作

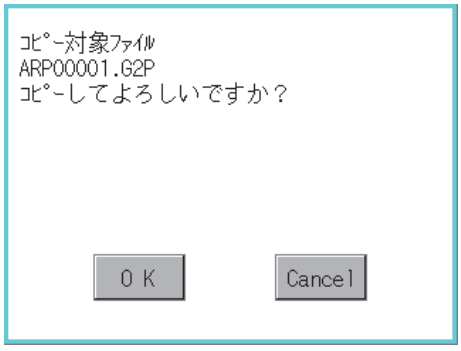
レシピで使用するファイルをコピーします。



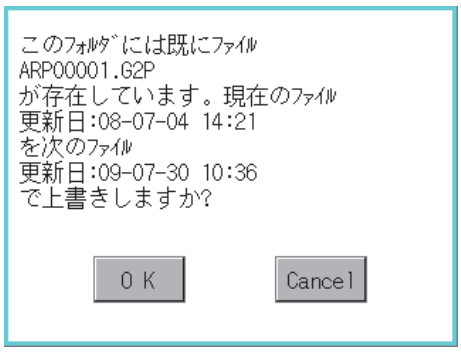
Step 1. コピーするファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

Step 2. [コピー]ボタンをタッチします。

Step 3. コピー先のフォルダを選択します。
(ドライブ直下にコピーする場合は，フォルダの選択は不要です。)
このとき，コピー元のファイルと同一のフォルダへはコピーできません。
異なるフォルダを選択してください。

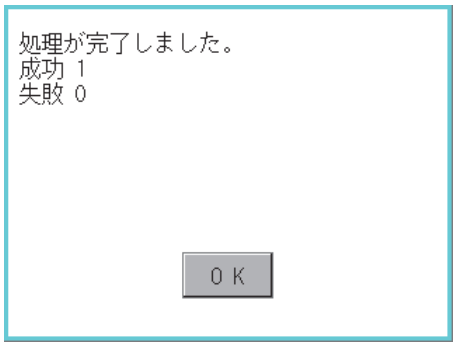


Step 4. [実行]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)



Step 5. コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，コピーを開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書きコピーします。
[Cancel]ボタンをタッチするとコピーを中止します。

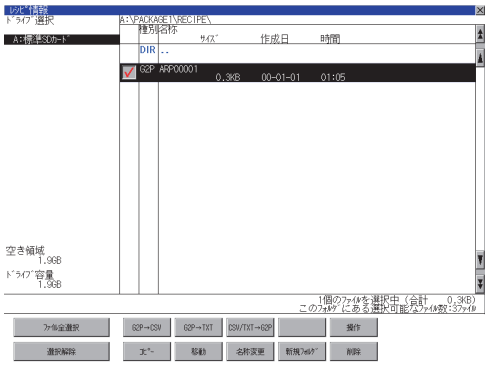
(次のページへつづく)



Step 6. コピーが完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 移動操作

レシピで使用するファイルを移動します。

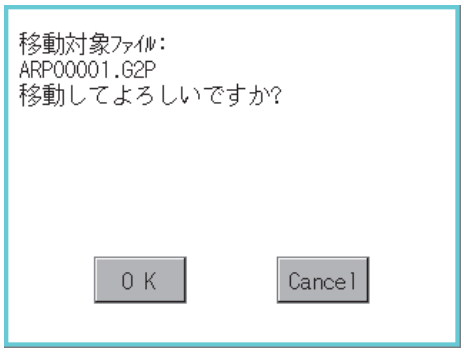


Step 1. 移動するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

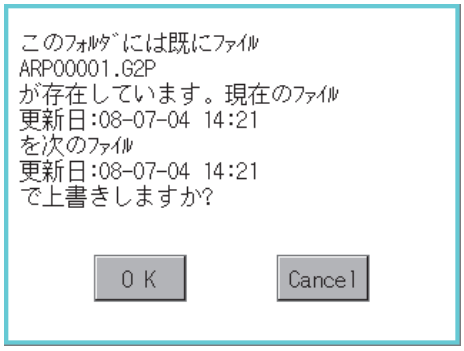
Step 2. [移動]ボタンをタッチします。

Step 3. 移動先のフォルダを選択します。
(ドライブ直下に移動する場合は，フォルダの選択は不要です。)

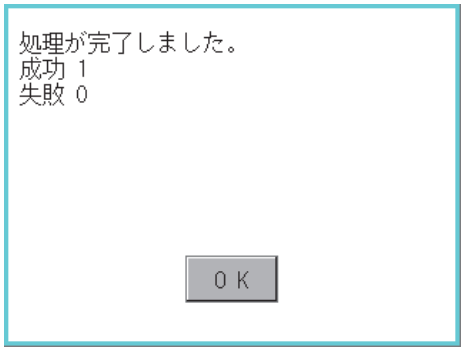
(次のページへつづく)



Step 4. [実行]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)



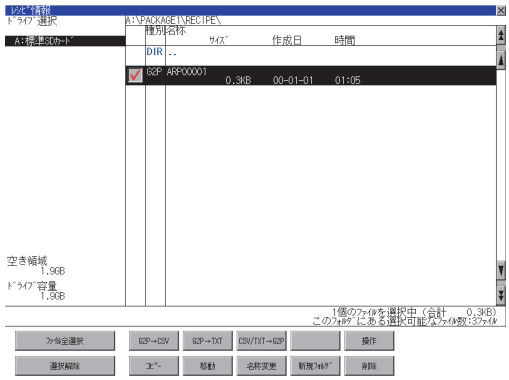
Step 5. 移動先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，移動を開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書きします。
[Cancel]ボタンをタッチすると移動を中止します。



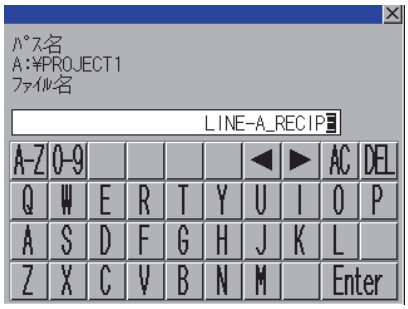
Step 6. 移動が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 名称変更操作

レシピで使用するファイルの名称を変更します。



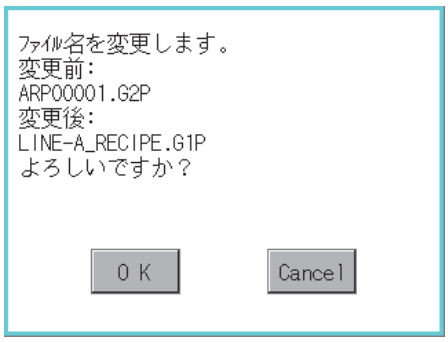
Step 1. 名称変更するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。



Step 2. [名称変更]ボタンをタッチすると，左記の画面が表示されるので，変更するファイル名を入力します。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

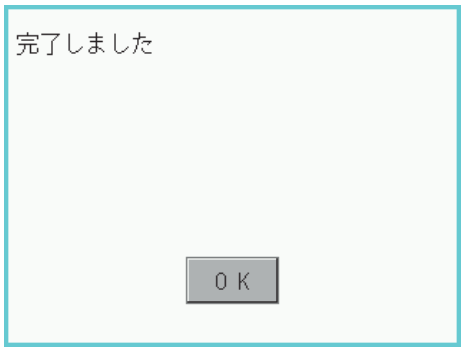
［A-Z］：英大文字

［0-9］：数字，記号



Step 3. [Enter]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

Step 4. [OK]ボタンをタッチするとファイル名変更を開始します。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)



Step 5. ファイル名変更が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 新規フォルダ作成操作

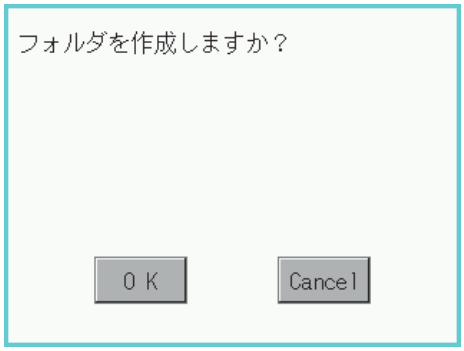
レシピで使用するフォルダを作成します。

Step 1. [新規フォルダ]ボタンをタッチします。

Step 2. 入力キーウィンドウが表示されるので，作成するフォルダ名を入力します。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

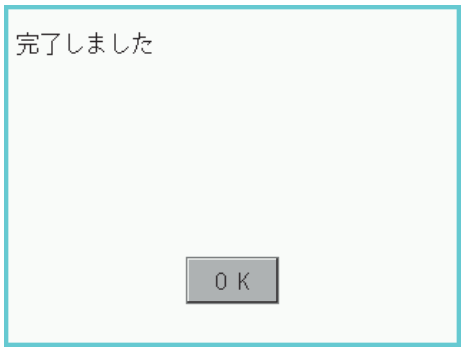
[A-Z] ：英大文字

[0-9] ：数字，記号



Step 3. [Enter]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

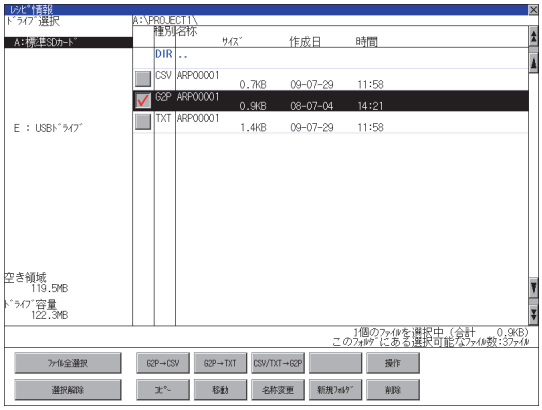
Step 4. [OK]ボタンをタッチするとフォルダの作成を開始します。



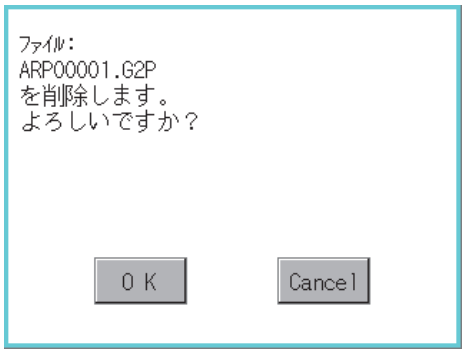
Step 5. 作成が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 削除操作

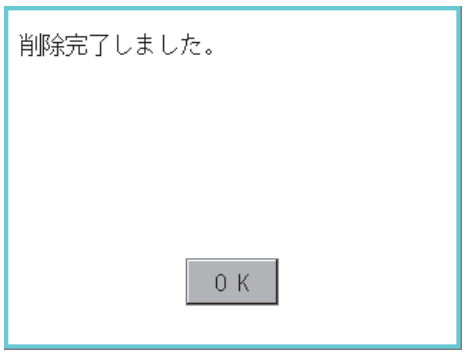
レシピで使用するフォルダやファイルを削除します。



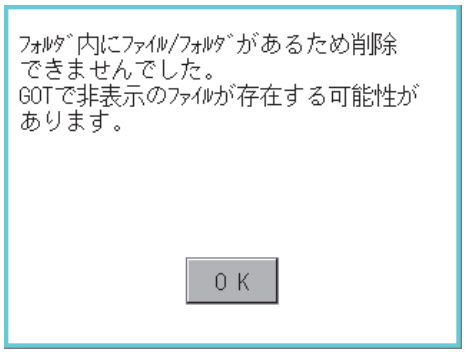
Step 1. 削除するフォルダをタッチまたは，削除するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。



Step 2. [削除]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとフォルダ，ファイルを削除します。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)
[Cancel]ボタンをタッチすると削除操作を中止します。



Step 3. 削除が完了すると，完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。



Step 4. 削除できない場合は，左記のダイアログボックスを表示します。(フォルダ削除実行時のみ)
フォルダ内にファイルが存在しないか確認し，再度削除操作を実行してください。
☞ 6.5.5 注意事項

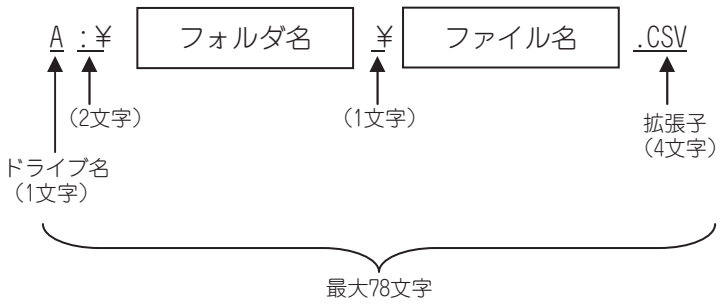
6.4.5 注意事項

■ 作成，削除時の注意事項

(1) フォルダ，ファイル作成時のフォルダ名とファイル名の文字数について

GOTは，ファイルの場所を下記に示すパスで認識しています。
フォルダ名，ファイル名の文字数は，パス全体で78文字以下になるように設定してください。
ユーザで設定可能な部分は，フォルダ名とファイル名のみです。
(フォルダ名とファイル名以外は自動的に付加されます。)

例)データストレージに保存されるCSVファイルのパス



フォルダに階層を付けた場合

フォルダ名とフォルダ名，フォルダ名とファイル名の間には¥マークが入ります。¥マークも1文字となります。

(2) フォルダ，ファイルに設定できない文字列について

フォルダ名，ファイル名に，以下の文字列は使用できません。(大文字，小文字に関わらず使用できません。)

· COM1～COM9	· LPT1～LPT9	· AUX	· CON
· NUL	· PRN	· CLOCK$	

また，下記に示すフォルダ名またはファイル名は使用できません。
- G2で始まるフォルダ名
- .(ピリオド)で始まるフォルダ名およびファイル名
- .(ピリオド)で終わるフォルダ名およびファイル名
- .(ピリオド1つ)または..(ピリオド2つ)のみのフォルダ名およびファイル名

(3) フォルダ削除時

フォルダ内にファイルがあるとフォルダを削除できません。
ファイルを削除したあとに，フォルダを削除してください。
なお，レシピ情報画面では，レシピ用ファイル以外はGOTに表示されません。
画面上でファイルが表示されていないのにフォルダの削除ができない場合は，データストレージ内に他のファイルが存在しないか，パソコンなどで確認してください。

(4) 使用可能な文字コード

ファイル名に半角英数字(ASCII)以外の文字を入力できますが，ユーティリティ画面のファイル一覧で表示すると文字化けします。
ユーティリティ画面でファイルを操作する場合は，半角英数字(ASCII)を使用してください。

(5) レシピファイル一覧画面のファイル表示エリア内の制約

(a) フォルダ表示エリア内の表示ファイル数

1つのフォルダ内に501ファイル以上を格納すると，501ファイル以降のファイルは表示されません。

(b) フォルダ，ファイル作成時のフォルダ名とファイル名の文字数について

フォルダ名，ファイル名の文字数は，全角，半角にかかわらず，パス全体で83文字以下になるように設定してください。
84文字以上設定した場合，84文字以降の文字は表示されません。

■ 操作時の注意事項

(1) フォルダ，ファイル操作中(作成，削除，コピー，ファイル出力など)の注意事項

GOTがフォルダやファイルを処理中に，SDカードインタフェースのカバーを開けても，処理は実行されます。(例：GOTがフォルダを作成中にSDカードインタフェースのカバーを開けても，フォルダは作成されます。)
そのため，SDカードインタフェースのカバーを開けても，画面に“処理に時間のかかる場合があります。しばらくお待ちください。”のメッセージが表示されている間は，SDカードを抜かないでください。

(2) GOTが他のファイル(アラームデータなど)へアクセス中の場合

他のファイルへアクセス中(SDカードアクセスLED点灯中)にレシピのフォルダ，ファイルの処理を実行した場合，他のファイルに対しての処理を待ってからレシピのフォルダ，ファイルの処理を実行します。
そのため，レシピのフォルダ，ファイルの処理を実行した場合，しばらく時間がかかる場合があります。(画面には“処理に時間のかかる場合があります。しばらくお待ちください。”のメッセージが表示されます。)

処理時間の目安

操作するレシピファイルの設定によっては，処理に時間がかかる場合があります。(ブロック数が多いほど処理に時間がかかります。)

(参考値)
QCPUとCPU直接接続(デバイス点数：32767点設定，伝送速度：115200bps)

- ブロック設定数1の場合　：約17秒
- ブロック設定数2048の場合：約4分

(3) 移動または名称変更を行ったレシピファイルでデバイス値の読み出し，書き込みを行う場合

GT Designer3，GT Designer2で，レシピ設定[レシピファイル]の設定を，移動または名称変更したファイルに合わせてください。
設定変更後，レシピ設定をGOTにダウンロードしてください。

6.5 ロギング情報

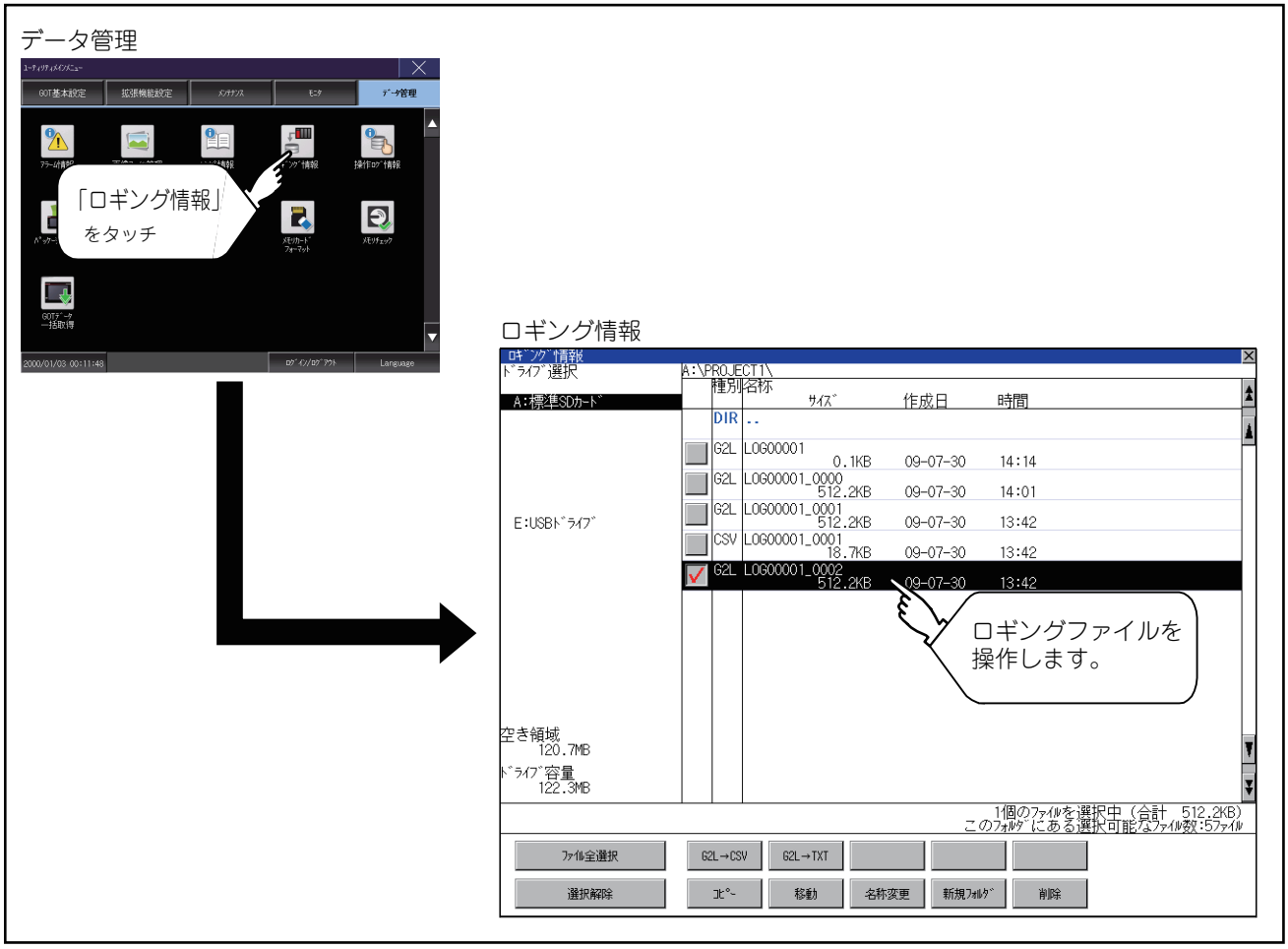
6.5.1 ロギング情報の機能

ロギング機能で作成されたロギングファイルに対し，ファイルコピー，ファイル削除，ファイル名変更などができます。
パソコンを使用しないで，GOT上でロギングファイルの管理ができます。
ロギング機能の詳細については，下記を参照してください。

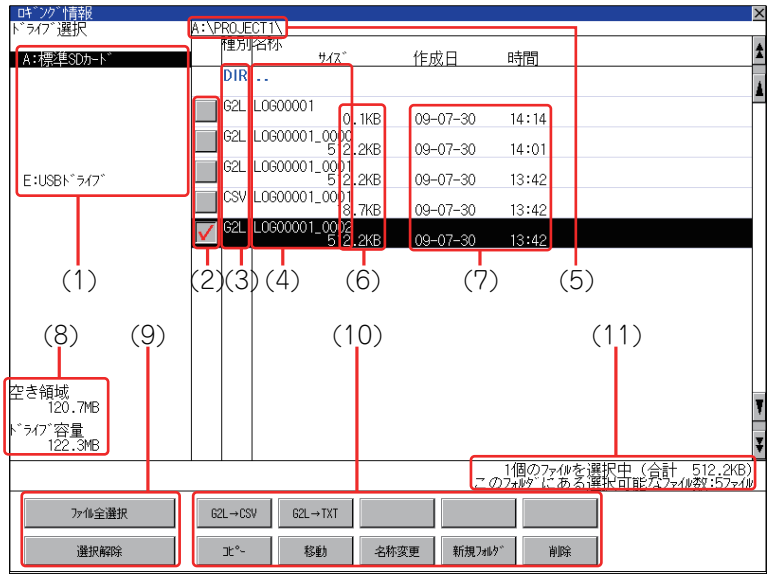
➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

機能	内容	参照先
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの名称，データサイズ，作成日時を表示します。	6.5.3 ロギング情報の表示例， 6.5.4 ロギング情報の操作
G2L→CSV変換	ロギングファイルのG2LファイルをCSVファイルへ変換します。	■G2L → CSV変換操作， G2L → TXT変換操作
G2L → TXT変換	ロギングファイルのG2LファイルをUnicodeテキストファイルへ変換します。	■G2L → CSV変換操作， G2L → TXT変換操作
削除	ファイルやフォルダを削除します。	■削除操作
コピー	ファイルをコピーします。	■コピー操作
移動	ファイルを移動します。	■移動操作
名称変更	ファイルの名称を変更します。	■名称変更操作
新規フォルダ	新規にフォルダを作成します。	■新規フォルダ作成操作

6.5.2 ロギング情報の表示操作



6.5.3 ロギング情報の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	対象ドライブを選択できます。(SDカードが装着されていなくても表示されます。)
(2)	チェックボックス	チェックを入れると最大512件まで複数選択できます。
(3)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合は[DIR]と表示します。
(4)	名称	ファイル名やフォルダ名を表示します。 長いファイル名，フォルダ名は，すべて表示できない場合があります。 表示されない部分の名称は，[名称変更]ボタンなどで確認してください。 ☞ ■名称変更操作 確認後，[Cancel]ボタンをタッチして処理をキャンセルしてください。
(5)	パス名	現在表示されているドライブ，フォルダのパス名を表示します。
(6)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(7)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(8)	ドライブのサイズ	ドライブ選択で選択したドライブの，使用中のサイズ，ドライブ全体のサイズを表示します。
(9)	ファイル全選択，選択解除	複数のファイルをまとめて選択，解除ができます。 [ファイル全選択]ボタンをタッチすると，ファイルが全件選択されます。 ただし，ファイル数が513件以上表示される場合は，上から512件のファイルが選択されます。
(10)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチです。
(11)	フォルダ，ファイル数	表示しているフォルダとファイルの合計を表示します。

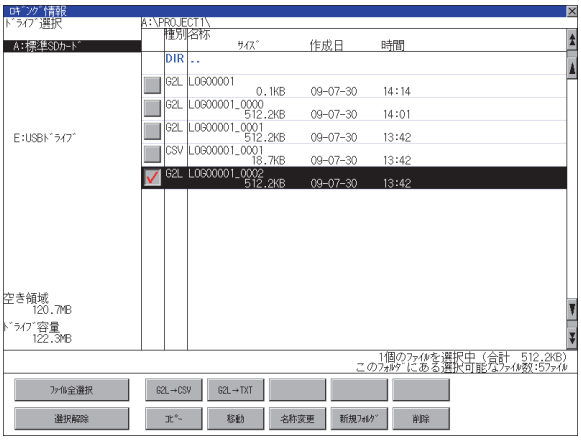
POINT

表示されるファイルについて

ロギング情報画面では，ロギングファイル以外は表示されません。

6.5.4　ロギング情報の操作

■ ロギング情報の表示操作



Step 1. [ドライブ選択]のドライブをタッチすると，タッチしたドライブ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。
⏫ ⏬ ボタンをタッチすると1画面分上下にスクロールします。

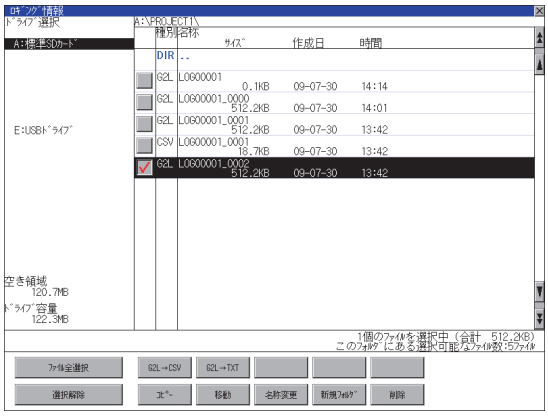
Step 5. チェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

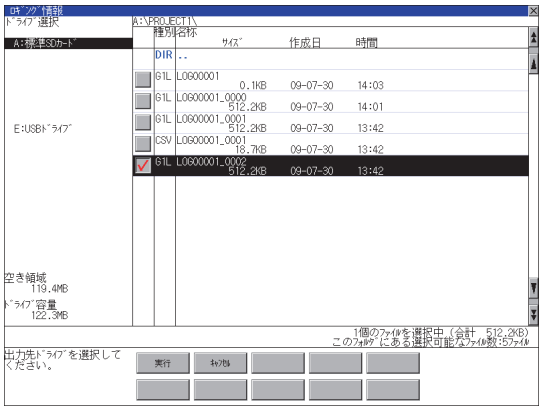
Step 6. 操作スイッチの操作については，下記を参照してください。
G2L→CSV，G2L→TXT ..... ☞ ■G2L → CSV変換操作，G2L → TXT変換操作
削除..... ☞ ■削除操作
コピー ..... ☞ ■コピー操作
移動..... ☞ ■移動操作
名称変更..... ☞ ■名称変更操作
新規フォルダ..... ☞ ■新規フォルダ作成操作

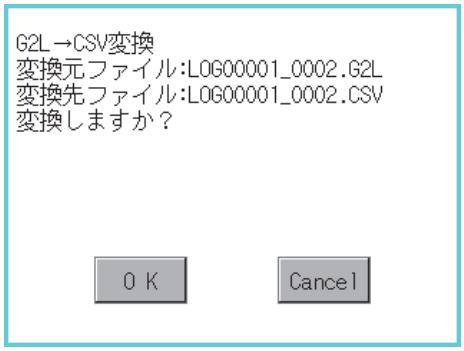
Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

■ G2L → CSV 変換操作，G2L → TXT 変換操作

ロギングファイル（G2L ファイル）を，パソコンで表示・編集できる CSV ファイルまたは Unicode テキストファイルに変換します。







（例：[G2L→CSV] ボタンをタッチした場合のダイアログボックス）

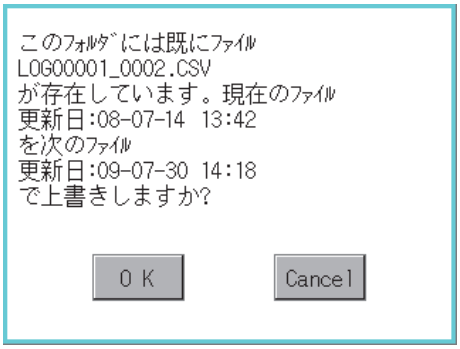
（次のページへつづく）

Step 1. CSVファイルまたはUnicodeテキストファイルに変換するG2Lファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

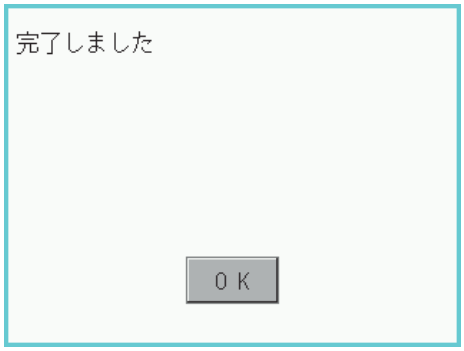
Step 2. 変換先ファイルの種類により下記のボタンをタッチします。
- CSVファイル：
  [G2L→CSV]ボタン
- Unicodeテキストファイル：
  [G2L→TXT] ボタン

Step 3. 出力先のフォルダを選択します。
（ドライブ直下に出力する場合は，フォルダの選択は不要です。）

Step 4. [実行]ボタンをタッチすると左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
（処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。）



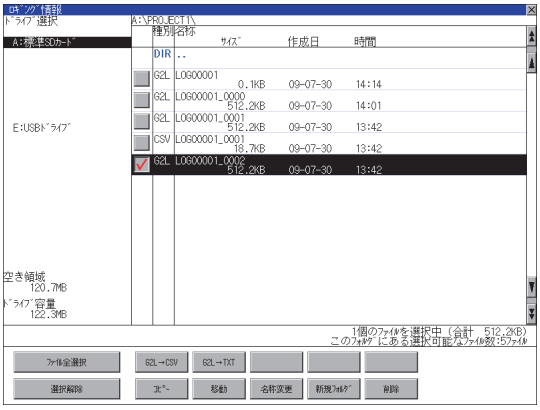
Step 5. 出力先のフォルダに，同一名称のファイルが存在する場合は，変換を開始せずに左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書き変換します。
[Cancel]ボタンをタッチすると変換を中止します。



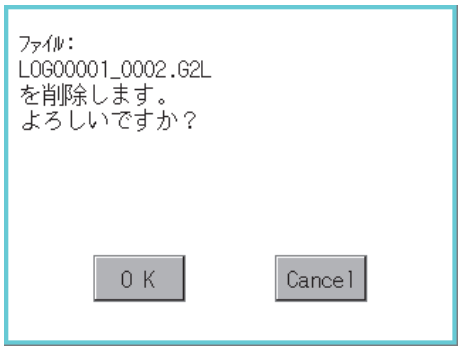
Step 6. 変換が完了すると，完了のメッセージをダイアログボックスに表示します。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 削除操作

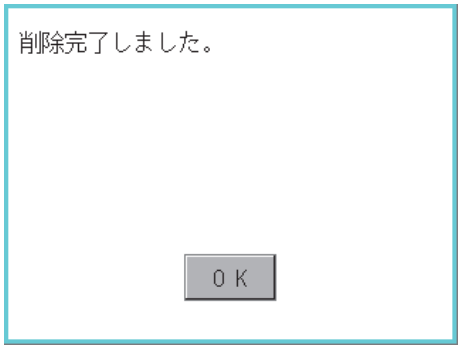
ロギングで使用するフォルダやファイルを削除します。



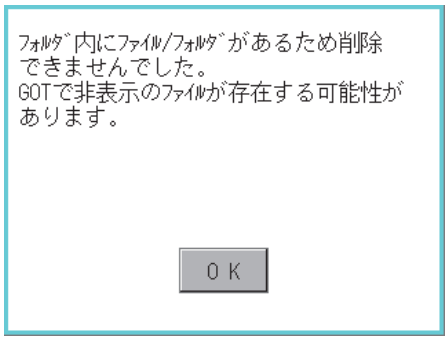
Step 1. 削除するフォルダをタッチまたは，削除するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。



Step 2. [削除]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとフォルダ，ファイルを削除します。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)
[Cancel]ボタンをタッチすると削除操作を中止します。



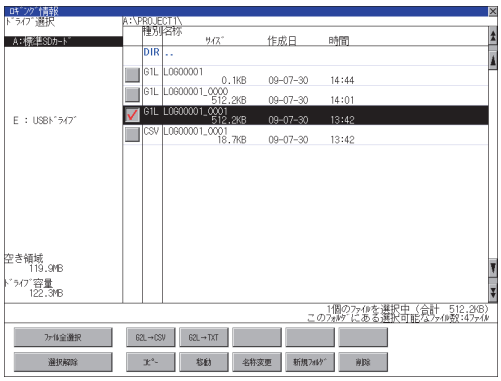
Step 3. 削除が完了すると，完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。



Step 4. 削除できない場合は，左記のダイアログボックスを表示します。(フォルダ削除実行時のみ)
フォルダ内にファイルが存在しないか確認し，再度削除操作を実行してください。
☞ 6.5.5 注意事項

■ コピー操作

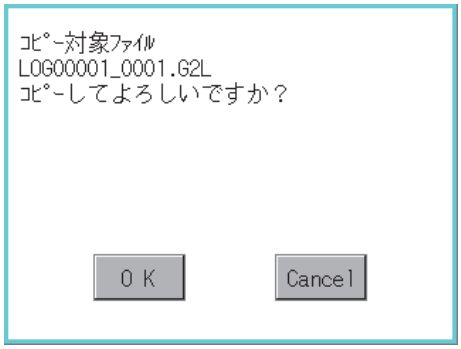
ロギングで使用するファイルをコピーします。



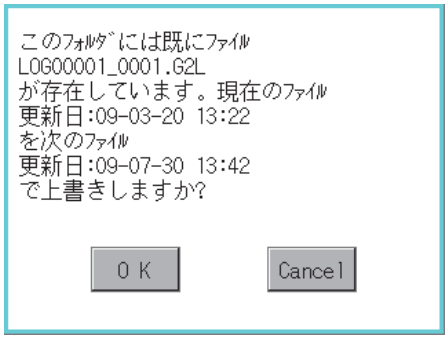
Step 1. コピーするファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

Step 2. [コピー]ボタンをタッチします。

Step 3. コピー先のフォルダを選択します。
(ドライブ直下にコピーする場合は，フォルダの選択は不要です。)
このとき，コピー元のファイルと同一のフォルダへはコピーできません。
異なるフォルダを選択してください。

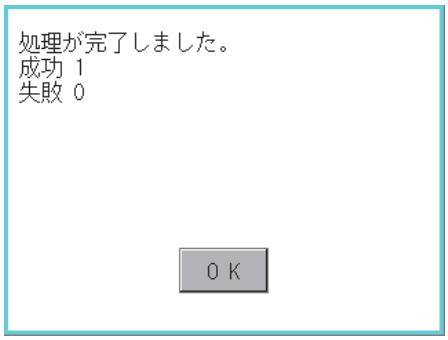


Step 4. [実行]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)



Step 5. コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，コピーを開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書きコピーします。
[Cancel]ボタンをタッチするとコピーを中止します。

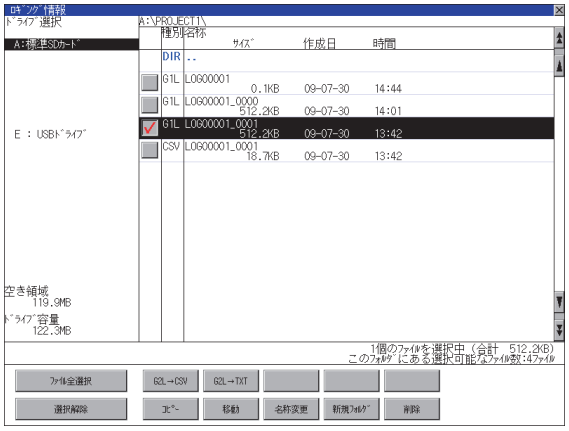
(次のページへつづく)



Step 6. コピーが完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 移動操作

ロギングで使用するファイルを移動します。

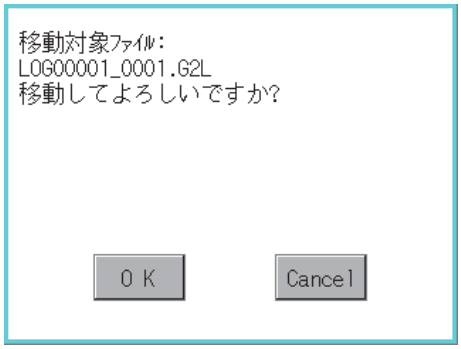


Step 1. 移動するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

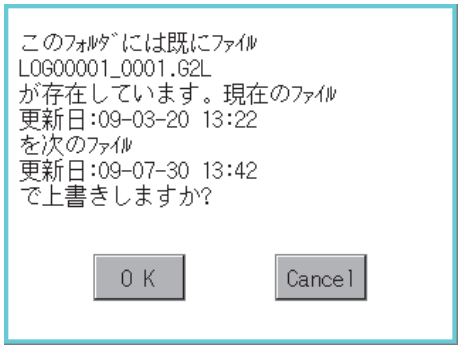
Step 2. [移動]ボタンをタッチします。

Step 3. 移動先のフォルダを選択します。
（ドライブ直下に移動する場合は，フォルダの選択は不要です。）

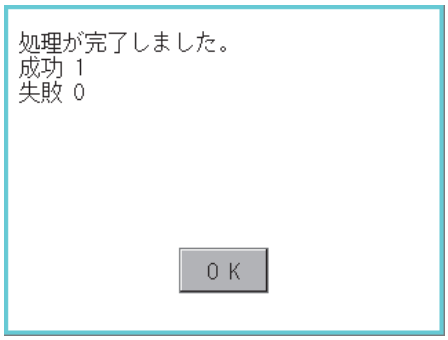
（次のページへつづく）



Step 4. [実行]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
OK ボタンをタッチします。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)



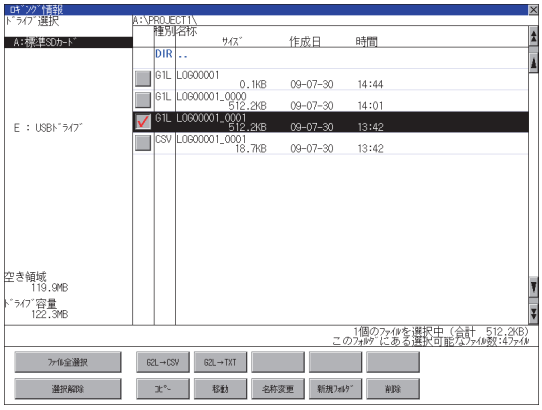
Step 5. 移動先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，移動を開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書きします。
[Cancel]ボタンをタッチすると移動を中止します。

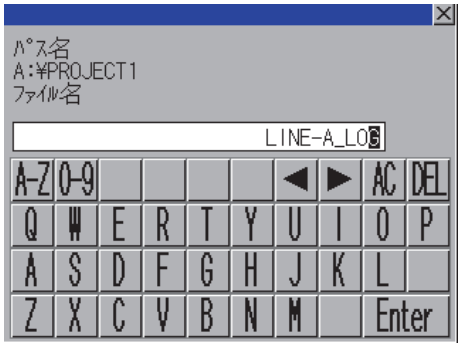


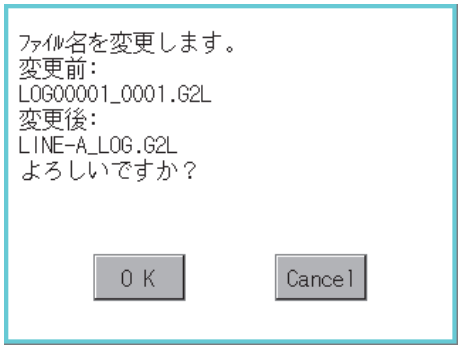
Step 6. 移動が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

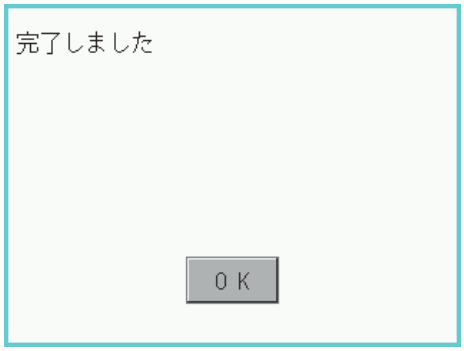
■ 名称変更操作

ロギングで使用するファイルの名称を変更します。









Step 1. 名称変更するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

Step 2. [名称変更]ボタンをタッチすると，左記の画面が表示されるので，変更するファイル名を入力します。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

[A-Z] ：英大文字

[0-9] ：数字，記号

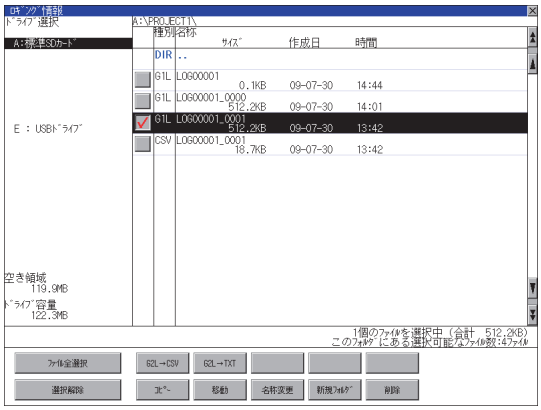
Step 3. [Enter]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

Step 4. [OK]ボタンをタッチするとファイル名変更を開始します。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)

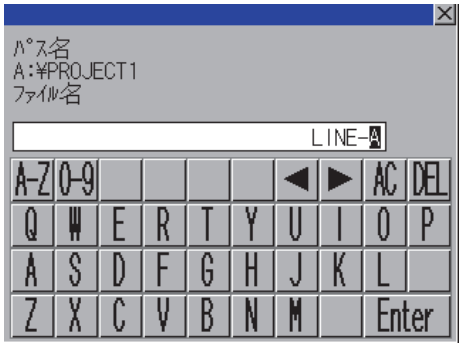
Step 5. ファイル名変更が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 新規フォルダ作成操作

ロギングで使用するフォルダを作成します。



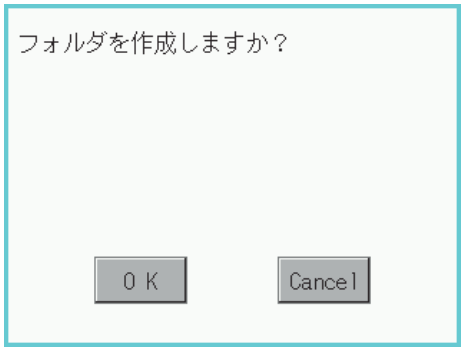
Step 1. [新規フォルダ]ボタンをタッチします。



Step 2. 入力キーウィンドウが表示されるので，作成するフォルダ名を入力します。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

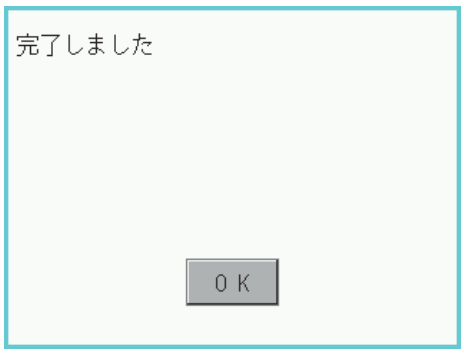
[A-Z] ：英大文字

[0-9] ：数字，記号



Step 3. [Enter]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

Step 4. [OK]ボタンをタッチするとフォルダの作成を開始します。



Step 5. 作成が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

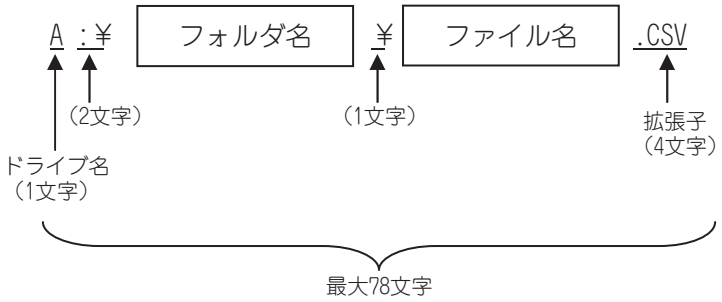
6.5.5 注意事項

■ 作成，削除時の注意事項

(1) フォルダ，ファイル作成時のフォルダ名とファイル名の文字数について

GOTは，ファイルの場所を下記に示すパスで認識しています。
フォルダ名，ファイル名の文字数は，パス全体で78文字以下になるように設定してください。
ユーザで設定可能な部分は，フォルダ名とファイル名のみです。
(フォルダ名とファイル名以外は自動的に付加されます。)

例)データストレージに保存されるCSVファイルのパス



フォルダに階層を付けた場合

フォルダ名とフォルダ名，フォルダ名とファイル名の間には¥マークが入ります。¥マークも1文字となります。

(2) フォルダ，ファイルに設定できない文字列について

フォルダ名，ファイル名に，以下の文字列は使用できません。(大文字，小文字に関わらず使用できません。)

· COM1～COM9	· LPT1～LPT9	· AUX	· CON
· NUL	· PRN	· CLOCK$	

また，下記に示すフォルダ名またはファイル名は使用できません。
- G2で始まるフォルダ名
- .(ピリオド)で始まるフォルダ名およびファイル名
- .(ピリオド)で終わるフォルダ名およびファイル名
- .(ピリオド1つ)または..(ピリオド2つ)のみのフォルダ名およびファイル名

(3) フォルダ削除時

フォルダ内にファイルがあるとフォルダを削除できません。
ファイルを削除したあとに，フォルダを削除してください。
なお，ロギング情報画面では，ロギングファイル以外はGOTに表示されません。
画面上でファイルが表示されていないのにフォルダの削除ができない場合は，データストレージ内に他のファイルが存在しないか，パソコンなどで確認してください。

■ 操作時の注意事項

(1) フォルダ，ファイル操作中(作成，削除，コピー，ファイル出力など)の注意事項

GOTがフォルダやファイルを処理中に，SDカードインタフェースのカバーを開けても，処理は実行されます。(例：GOTがフォルダを作成中にSDカードインタフェースのカバーを開けても，フォルダは作成されます。)
そのため，SDカードインタフェースのカバーを開けても，画面に“処理に時間のかかる場合があります。しばらくお待ちください。”のメッセージが表示されている間は，SDカードを抜かないでください。

(2) GOTが他のファイル(アラームデータなど)へアクセス中の場合

他のファイルへアクセス中(SDカードアクセスLED点灯中)にロギングのフォルダ，ファイルの処理を実行した場合，他のファイルに対しての処理を待ってからロギングのフォルダ，ファイルの処理を実行します。
そのため，ロギングのフォルダ，ファイルの処理を実行した場合，しばらく時間がかかる場合があります。(画面には“処理に時間のかかる場合があります。しばらくお待ちください。”のメッセージが表示されます。)

6.6 操作ログ情報

6.6.1 操作ログ情報の機能

操作ログ機能で作成された操作ログファイルに対し，ファイルコピー，ファイル削除，ファイル名変更などができます。
パソコンを使用しないで，GOT上で操作ログファイルの管理ができます。

操作ログ機能の詳細については，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

機能	内容	参照先
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの名称，データサイズ，作成日時を表示します。	6.6.2 操作ログ情報の表示操作
G2O→CSV変換	操作ログファイルのG2OファイルをCSVファイルへ変換します。	■G2O → CSV変換操作，G2O → TXT変換操作
G2O → TXT変換	操作ログファイルのG2OファイルをUnicodeテキストファイルへ変換します。	■G2O → CSV変換操作，G2O → TXT変換操作
削除	ファイルやフォルダを削除します。	■削除操作
コピー	ファイルをコピーします。	■コピー操作
移動	ファイルを移動します。	■移動操作
名称変更	ファイルの名称を変更します。	■名称変更操作
新規フォルダ	新規にフォルダを作成します。	■新規フォルダ作成操作
一覧	操作ログの一覧表示，検索ができます。	■一覧表示
表示順切換え	操作ログの表示順を切り換えます。	(1) 表示順切換え操作
検索	操作ログを検索します。	(3) 検索操作
最新	最新の操作ログ一覧を表示します。	■最新表示

6.6.2 操作ログ情報の表示操作

操作ログ情報画面を表示時のデフォルトの表示ドライブ

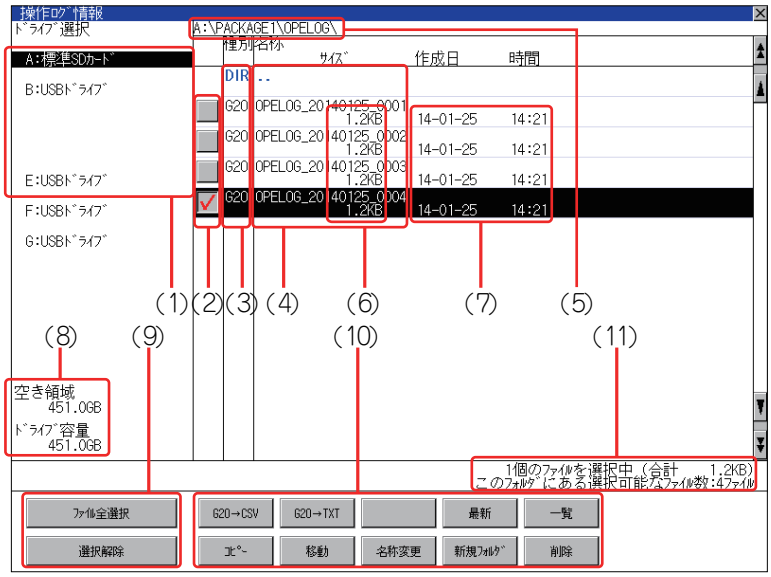
GT Designer3で，環境設定ダイアログ(操作ログ)の[保存先]を設定している場合，操作ログ情報画面を表示時のデフォルトの表示ドライブは，GT Designer3で設定したドライブになります。

☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

下記の場合，デフォルトの表示ドライブは，Aドライブになります。

- GT Designer3で[保存先]を設定していない場合
- GT Designer3で[保存先]に設定したドライブがない場合

6.6.3 操作ログ情報の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	対象ドライブを選択できます。(SDカードが装着されていなくても表示されます。)
(2)	チェックボックス	チェックを入れると最大512件まで複数選択できます。
(3)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合は[DIR]と表示します。
(4)	名称	ファイル名やフォルダ名を表示します。 長いファイル名，フォルダ名は，すべて表示できない場合があります。 表示されない部分の名称は，[名称変更]ボタンなどで確認してください。 ☞ ■名称変更操作 確認後，[Cancel]ボタンをタッチして処理をキャンセルしてください。
(5)	パス名	現在表示されているドライブ，フォルダのパス名を表示します。
(6)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(7)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(8)	ドライブのサイズ	ドライブ選択で選択したドライブの，使用中のサイズ，ドライブ全体のサイズを表示します。
(9)	ファイル全選択，選択解除	複数のファイルをまとめて選択，解除ができます。 [ファイル全選択]ボタンをタッチすると，ファイルが全件選択されます。 ただし，ファイル数が513件以上表示される場合は，上から512件のファイルが選択されます。
(10)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチです。
(11)	フォルダ，ファイル数	表示しているフォルダとファイルの合計を表示します。

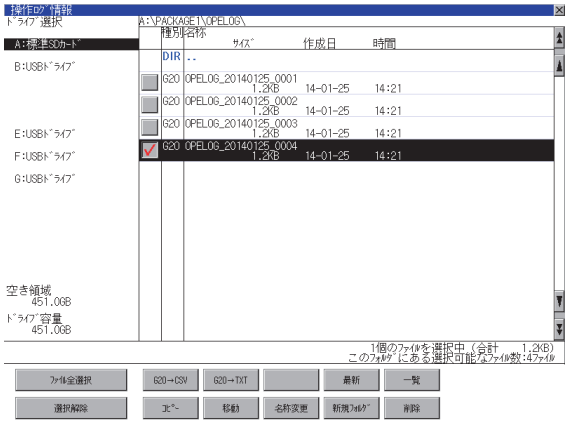
POINT

表示されるファイルについて

操作ログ情報画面では，操作ログファイル以外は表示されません。

6.6.4　操作ログ情報の操作

■ 操作ログ情報の表示操作



Step 1. [ドライブ選択]のドライブをタッチすると，タッチしたドライブ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの ▲ ▼ ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。
⏫ ⏬ ボタンをタッチすると1画面分上下にスクロールします。

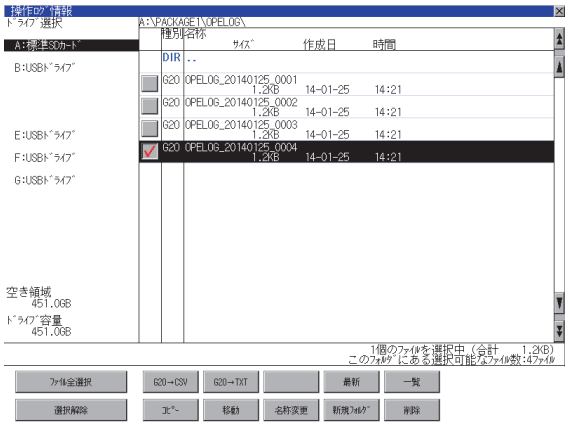
Step 5. チェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

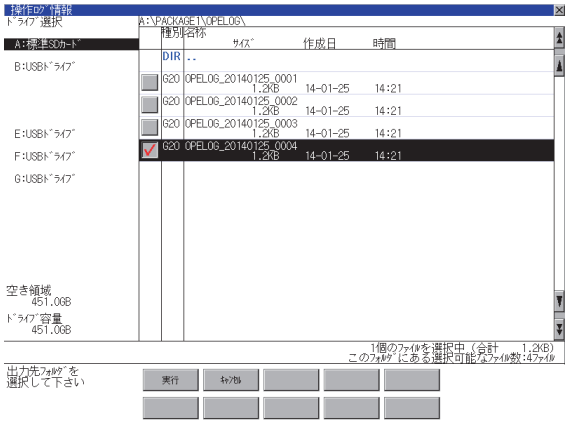
Step 6. 操作スイッチの操作については，下記を参照してください。
G2O→CSV，G2O→TXT ..... ☞ ■G2O → CSV変換操作，G2O → TXT変換操作
最新..... ☞ ■最新表示
一覧..... ☞ ■一覧表示
コピー ..... ☞ ■コピー操作
移動..... ☞ ■移動操作
名称変更..... ☞ ■名称変更操作
新規フォルダ..... ☞ ■新規フォルダ作成操作
削除..... ☞ ■削除操作

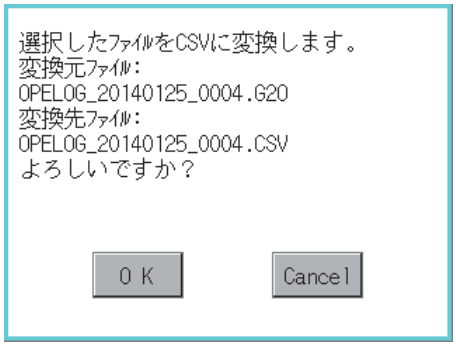
Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

■ G2O → CSV 変換操作，G2O → TXT 変換操作

操作ログファイル（G2O ファイル）を，パソコンで表示・編集できる CSV ファイルまたは Unicode テキストファイルに変換します。







（例：[G2O→CSV] ボタンをタッチした場合のダイアログボックス）

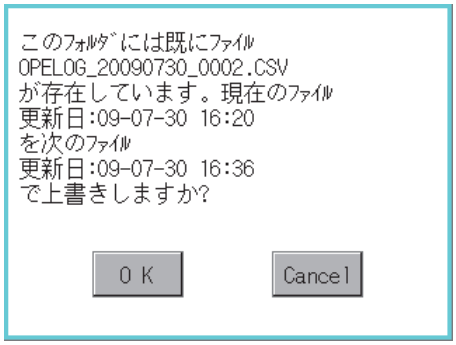
（次のページへつづく）

Step 1. CSVファイルまたはUnicodeテキストファイルに変換するG2Oファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

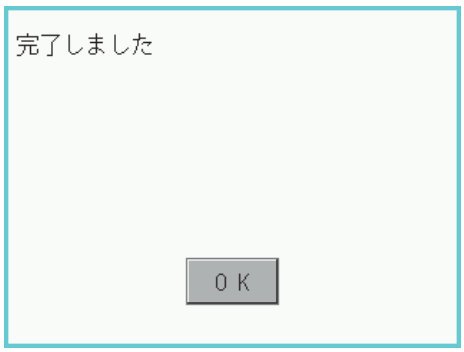
Step 2. 変換先ファイルの種類により下記のボタンをタッチします。
- CSVファイル：
  [G2O→CSV]ボタン
- Unicodeテキストファイル：
  [G2O→TXT]ボタン

Step 3. 出力先のフォルダを選択します。
（ドライブ直下に出力する場合は，フォルダの選択は不要です。）

Step 4. [実行]ボタンをタッチすると左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
（処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。）



Step 5. 出力先のフォルダに，同一名称のファイルが存在する場合は，変換を開始せずに左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書き変換します。
[Cancel]ボタンをタッチすると変換を中止します。



Step 6. 変換が完了すると，完了のメッセージをダイアログボックスに表示します。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 最新表示

最新の操作ログファイルを選択して，操作ログを一覧で表示します。

Step 1. [最新]ボタンをタッチすると操作ログファイル内の最新の操作ログが一覧で表示されます。

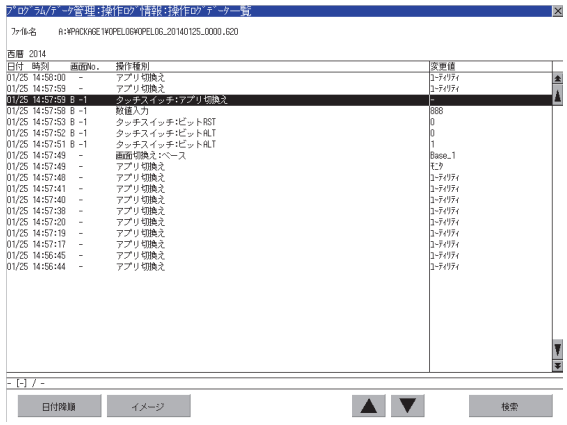
Step 2. 一覧では，下記の内容を確認できます。

表示項目：日付
時刻
画面No.
操作種別
変更値

操作スイッチの操作については，下記を参照してください。

日付昇順，降順.....☞（1）表示順切換え操作

検索.....☞（3）検索操作

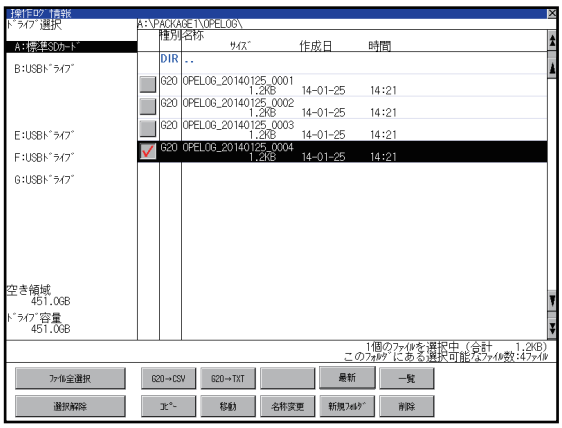


Step 3. 各操作ログの詳細を表示する方法は下記を参照してください。

☞ n 一覧表示

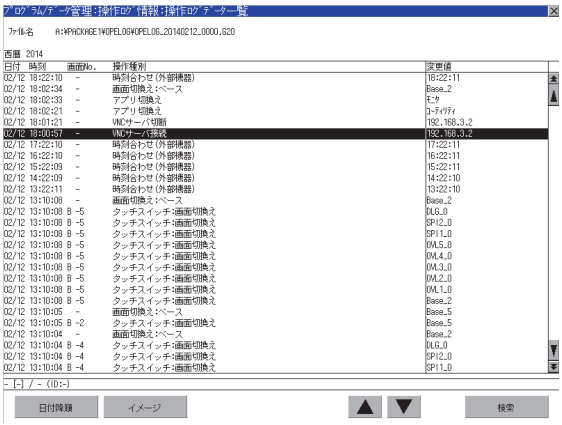
■ 一覧表示

操作ログファイル内の操作ログを一覧で表示します。

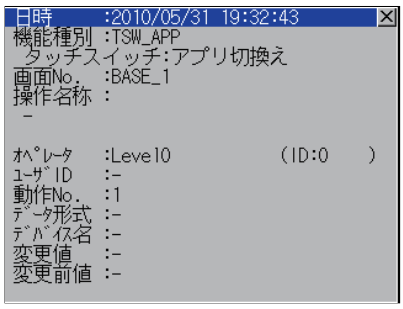


Step 1. 一覧を表示するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

Step 2. [一覧]ボタンをタッチすると一覧を表示します。
一覧では，下記の内容を確認できます。
表示項目：日付
時刻
画面No.
操作種別
変更値
操作スイッチの操作については，下記を参照してください。
日付昇順，降順..... ☞ (1) 表示順切換え操作
イメージ..... ☞ (2) 画面イメージの表示操作
検索..... ☞ (3) 検索操作

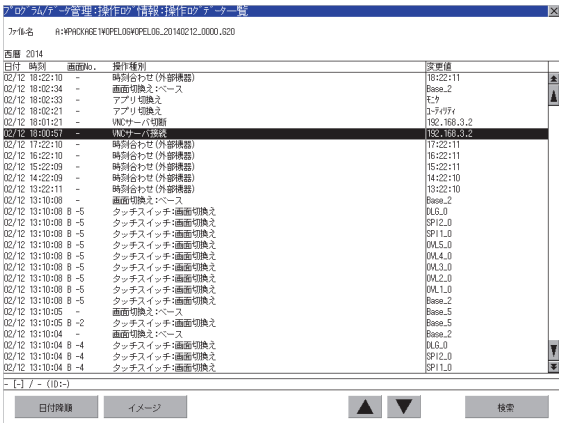


Step 3. 各操作ログの詳細を表示するには，詳細を表示する各操作ログの行をタッチして選択し，行の色を反転(白→黒)させます。



Step 4. 選択した行を再度タッチすると，操作ログの詳細情報が表示されます。
[×]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

(1) 表示順切換え操作



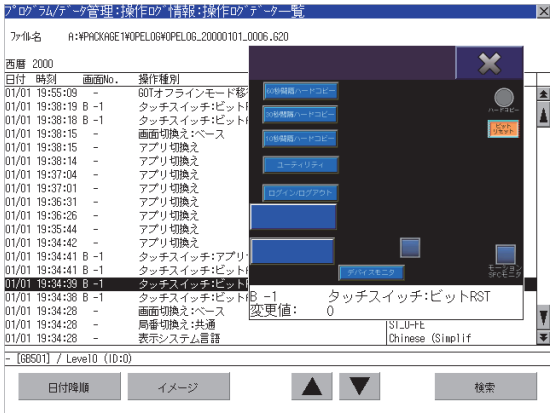
Step 1. 一覧にて[日付昇順]，[日付降順]ボタンをタッチすると，操作ログの表示順を切換えできます。
ボタンをタッチするごとに，[日付昇順]と[日付降順]が切り換わります。
ボタンの表示は，現在の表示順を示します。
- [日付昇順]: 収集した順番が古い順に並べる
- [日付降順]: 収集した順番が新しい順に並べる

POINT

(1) 表示順切換え後の選択行の位置
行を選択した状態で表示順を切り換えても，行は選択状態のままです。
選択した行の位置によっては，表示順切換え後の画面上に表示されないことがあります。

(2) 時系列に並んでいない操作ログの表示順
操作ログの表示順を切り換えると，収集した日時ではなく，収集した順で並べられます。
表示する操作ログが，GOTの時計の時刻変更により時系列に並んでいない場合，操作ログの表示順を切り換えても，表示上は日時の順に並ばないことがあります。

(2) 画面イメージの表示操作



Step 1. 一覧にて[イメージ] ボタンをタッチすると，選択した行の操作ログに対応した画面イメージのウインドウの表示，非表示を切換えできます。
画面イメージのウインドウは，タイトルバーをタッチして移動できます。
一覧の表示を閉じるまで，画面イメージのウインドウは，表示されます。
[×] ボタンをタッチすると，画面イメージのウインドウが閉じます。

POINT

(1) 操作ログの行を選択していないとき，および，データの破損など異常な操作ログの行を選択したとき
画面イメージのウインドウは，灰色のウインドウとなります。

(2) 画面イメージの表示有無
オブジェクトの種類，操作内容により，表示が可能なものは，画面イメージのウインドウを表示します。

(3) 画面イメージの表示の注意事項
画面イメージは，オブジェクトデータを元に，オブジェクトや図形などのイメージを表示します。そのため，画面に数値表示，ランプ表示などがある場合，画面イメージは実際に操作したときの数値，ランプ状態などを表示しません。
操作ログを収集したときのプロジェクトデータと現在動作中のプロジェクトデータが異なっている場合は，画面イメージが正しく表示されない場合があります。

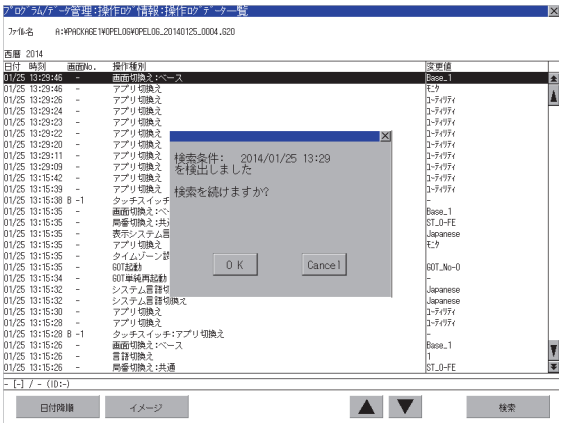
(3) 検索操作

Step 1. 一覧にて[検索]ボタンをタッチすると下記の項目でログの検索ができます。

項目：日付
時刻

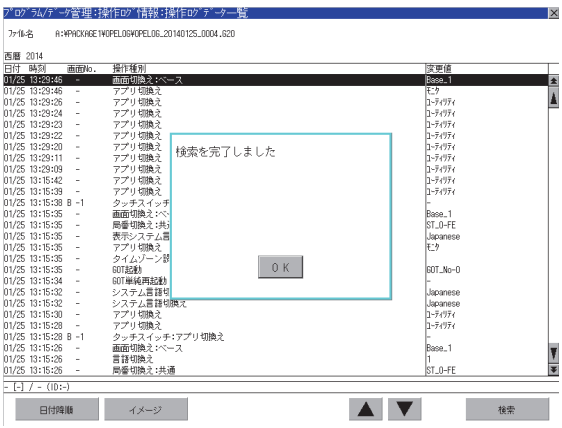
Step 2. 検索する日付や時刻を入力します。

Step 3. [Enter]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
(処理実行中は画面に"処理中です"のメッセージが表示されます)



Step 4. 検索した結果を表示し，左記のダイアログボックスを表示します。
検索を続ける場合は，[OK]ボタンをタッチします。
検索をやめる場合は，[Cancel]ボタンをタッチしてください。

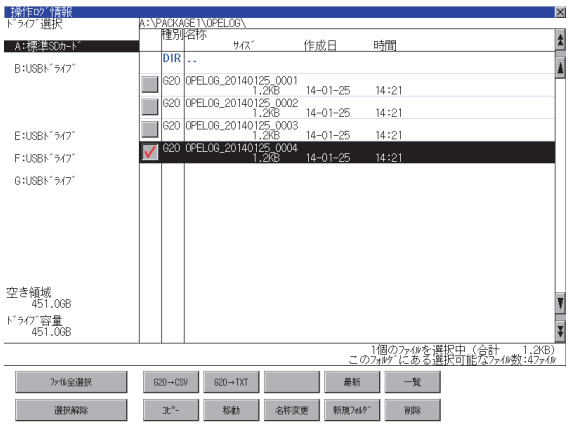
(次のページへつづく)


ｱﾗｰﾑ/ﾃﾞｰﾀ管理:操作ﾛｸﾞ情報:操作ﾛｸﾞﾃﾞｰﾀ一覧
ﾌｧｲﾙ名 A:¥PACKAGE1¥OPELOG¥OPELOG_20140125_0004.BIN
西暦 2014
日付 時刻 画面No. 操作種別 変更値
01/25 13:29:45 - 画面切換え:ベース Base_1
01/25 13:29:46 - アプリ切換え モニタ
01/25 13:29:26 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:29:24 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:29:23 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:29:22 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:29:20 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:29:11 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:29:09 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:15:42 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:15:39 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:15:38 B -1 タッチスイッチ -
01/25 13:15:35 - 画面切換え:ベ Base_1
01/25 13:15:35 - 局番切換え:共 ST_0-FE
01/25 13:15:35 - 実行システム言 Japanese
01/25 13:15:35 - アプリ切換え モニタ
01/25 13:15:35 - タイムゾーン設
01/25 13:15:35 - GOT起動 GOT_No-0
01/25 13:15:34 - GOT単純再起動 -
01/25 13:15:32 - システム言語切 Japanese
01/25 13:15:32 - システム言語切換え Japanese
01/25 13:15:30 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:15:28 - アプリ切換え ユーティリティ
01/25 13:15:28 B -1 タッチスイッチ:アプリ切換え -
01/25 13:15:26 - 画面切換え:ベース Base_1
01/25 13:15:26 - 言語切換え 1
01/25 13:15:26 - 局番切換え:共通 ST_0-FE
検索を完了しました
OK
- [-] / - (ID:-)
日付降順
イメージ
検索

Step 5. 検索が完了すると，完了のメッセージをダイアログボックスに表示します。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ コピー操作

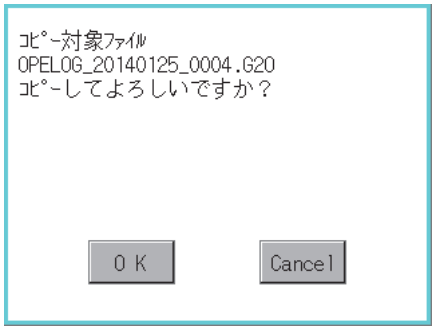
操作ログファイルをコピーします。



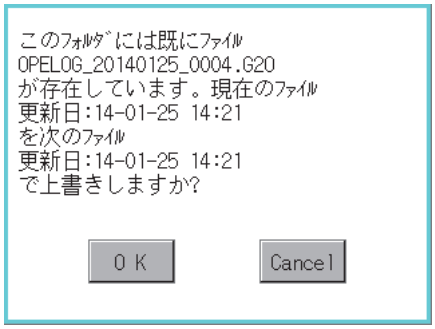
Step 1. コピーするファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

Step 2. [コピー]ボタンをタッチします。

Step 3. コピー先のフォルダを選択します。
(ドライブ直下にコピーする場合は，フォルダの選択は不要です。)
このとき，コピー元のファイルと同一のフォルダへはコピーできません。
異なるフォルダを選択してください。

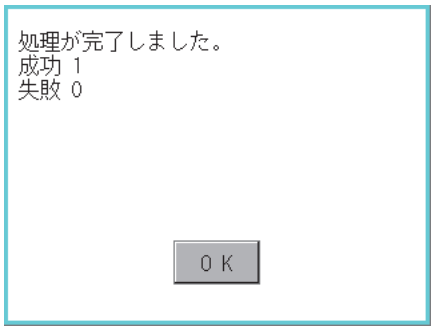


Step 4. [実行]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)



Step 5. コピー先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，コピーを開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書きコピーします。
[Cancel]ボタンをタッチするとコピーを中止します。

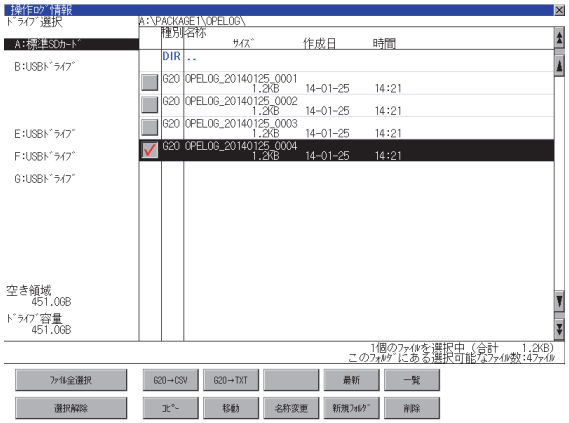
(次のページへつづく)



Step 6. コピーが完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 移動操作

操作ログファイルを移動します。

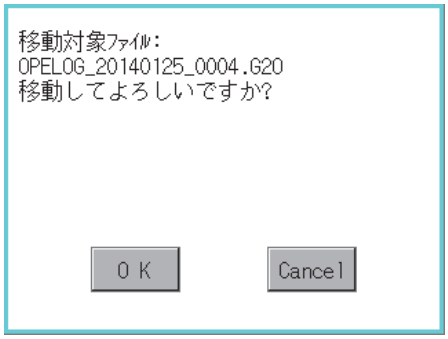


Step 1. 移動するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。

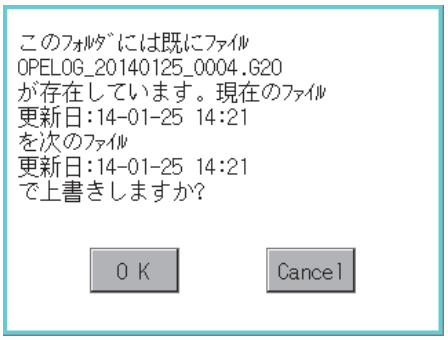
Step 2. [移動]ボタンをタッチします。

Step 3. 移動先のフォルダを選択します。
(ドライブ直下に移動する場合は，フォルダの選択は不要です。)

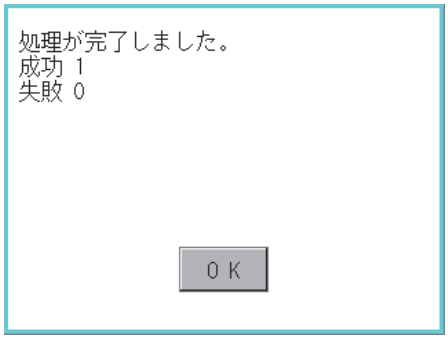
(次のページへつづく)



Step 4. [実行]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチします。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)



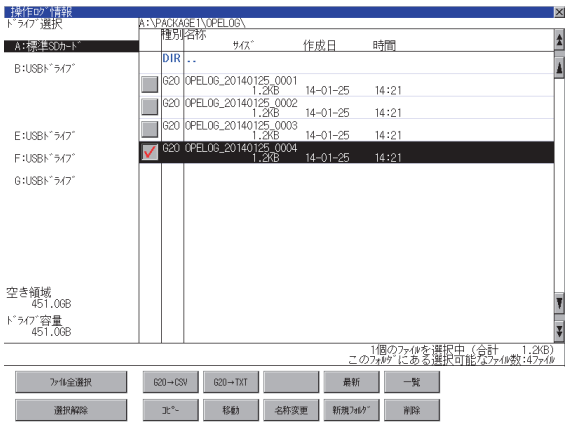
Step 5. 移動先のフォルダに同一名称のファイルが存在する場合は，移動を開始せずに左記の画面が表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書きします。
[Cancel]ボタンをタッチすると移動を中止します。



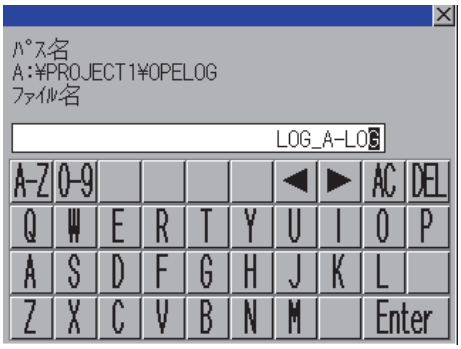
Step 6. 移動が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 名称変更操作

操作ログで使用するファイルの名称を変更します。



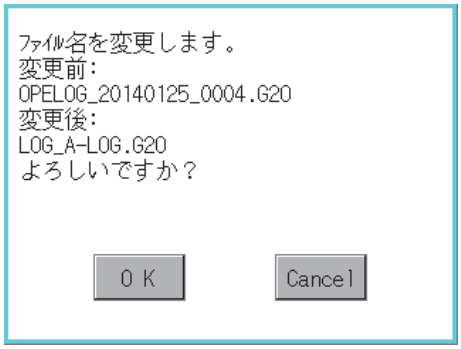
Step 1. 名称変更するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。



Step 2. [名称変更]ボタンをタッチすると，左記の画面が表示されるので，変更するファイル名を入力します。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

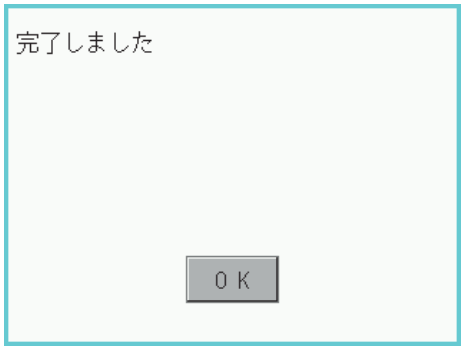
［A-Z］：英大文字

［0-9］：数字，記号



Step 3. [Enter]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

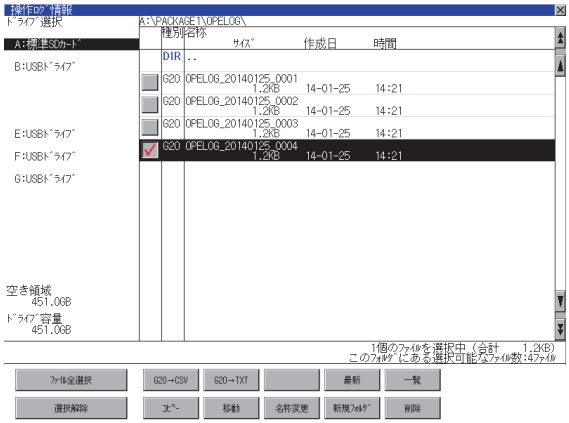
Step 4. [OK]ボタンをタッチするとファイル名変更を開始します。
（処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。）



Step 5. ファイル名変更が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 新規フォルダ作成操作

操作ログフォルダを作成します。

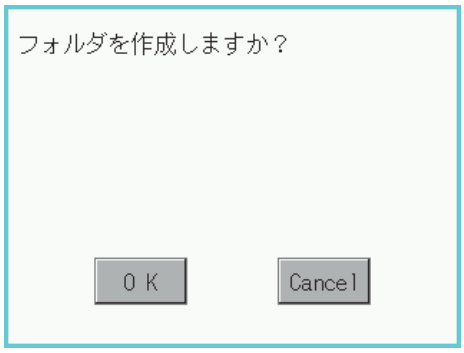


Step 1. [新規フォルダ]ボタンをタッチします。

Step 2. 入力キーウィンドウが表示されるので，作成するフォルダ名を入力します。
以下のボタンをタッチすると入力する文字の種類が変更できます。

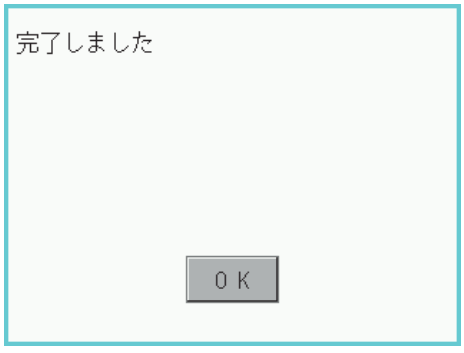
[A-Z] ：英大文字

[0-9] ：数字，記号



Step 3. [Enter]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

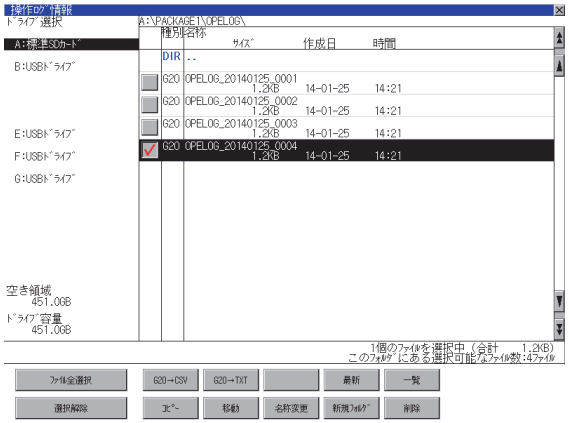
Step 4. [OK]ボタンをタッチするとフォルダの作成を開始します。



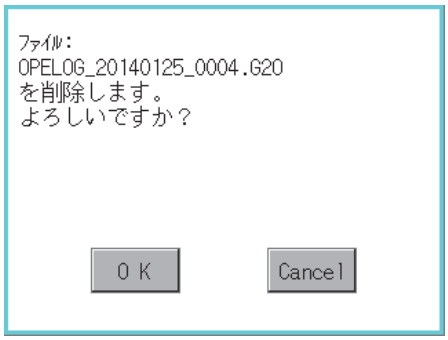
Step 5. 作成が完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。

■ 削除操作

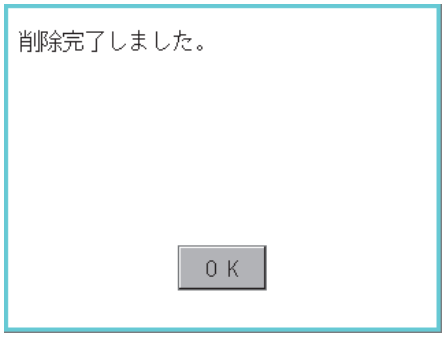
操作ログで使用するフォルダやファイルを削除します。



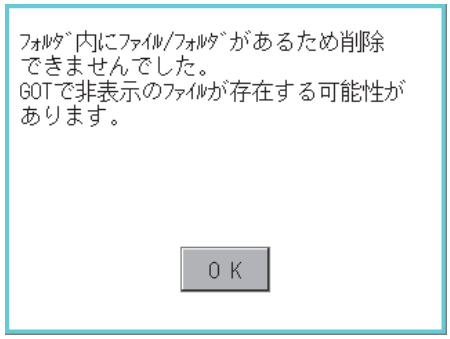
Step 1. 削除するフォルダをタッチまたは，削除するファイルのチェックボックスをタッチするとファイルが選択されます。



Step 2. [削除]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとフォルダ，ファイルを削除します。
(処理実行中は画面に“処理中です”のメッセージが表示されます。)
[Cancel]ボタンをタッチすると削除操作を中止します。



Step 3. 削除が完了すると，完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログボックスを閉じます。



Step 4. 削除できない場合は，左記のダイアログボックスを表示します。(フォルダ削除実行時のみ)
フォルダ内にファイルが存在しないか確認し，再度削除操作を実行してください。
☞ 6.6.5 注意事項

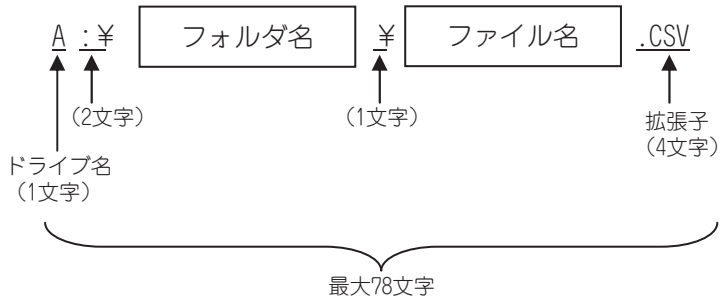
6.6.5 注意事項

■ 作成，削除時の注意事項

(1) フォルダ，ファイル作成時のフォルダ名とファイル名の文字数について

GOTは，ファイルの場所を下記に示すパスで認識しています。
フォルダ名，ファイル名の文字数は，パス全体で78文字以下になるように設定してください。
ユーザで設定可能な部分は，フォルダ名とファイル名のみです。
(フォルダ名とファイル名以外は自動的に付加されます。)

例)データストレージに保存されるCSVファイルのパス



フォルダに階層を付けた場合

フォルダ名とフォルダ名，フォルダ名とファイル名の間には¥マークが入ります。¥マークも1文字となります。

(2) 設定できない文字列について

フォルダ名，ファイル名に，以下の文字列は使用できません。(大文字，小文字に関わらず使用できません。)

· COM1～COM9	· LPT1～LPT9	· AUX	· CON
· NUL	· PRN	· CLOCK$	

また，下記に示すフォルダ名またはファイル名は使用できません。

- G2で始まるフォルダ名
- .(ピリオド)で始まるフォルダ名およびファイル名
- .(ピリオド)で終わるフォルダ名およびファイル名
- .(ピリオド1つ)または..(ピリオド2つ)のみのフォルダ名およびファイル名

(3) フォルダ削除時

フォルダ内にファイルがあるとフォルダを削除できません。
ファイルを削除したあとに，フォルダを削除してください。
なお，操作ログ情報画面では，操作ログファイル以外はGOTに表示されません。
画面上でファイルが表示されていないのにフォルダの削除ができない場合は，データストレージ内に他のファイルが存在しないか，パソコンなどで確認してください。

■ 操作時の注意事項

(1) フォルダ，ファイル操作中(作成，削除，コピー，ファイル出力など)の注意事項

GOTがフォルダやファイルを処理中に，SDカードインタフェースのカバーを開けても，処理は実行されます。(例：GOTがフォルダを作成中にSDカードインタフェースのカバーを開けても，フォルダは作成されます。)
そのため，SDカードインタフェースのカバーを開けても，画面に“処理に時間のかかる場合があります。しばらくお待ちください。”のメッセージが表示されている間は，SDカードを抜かないでください。

6.7　パッケージ管理

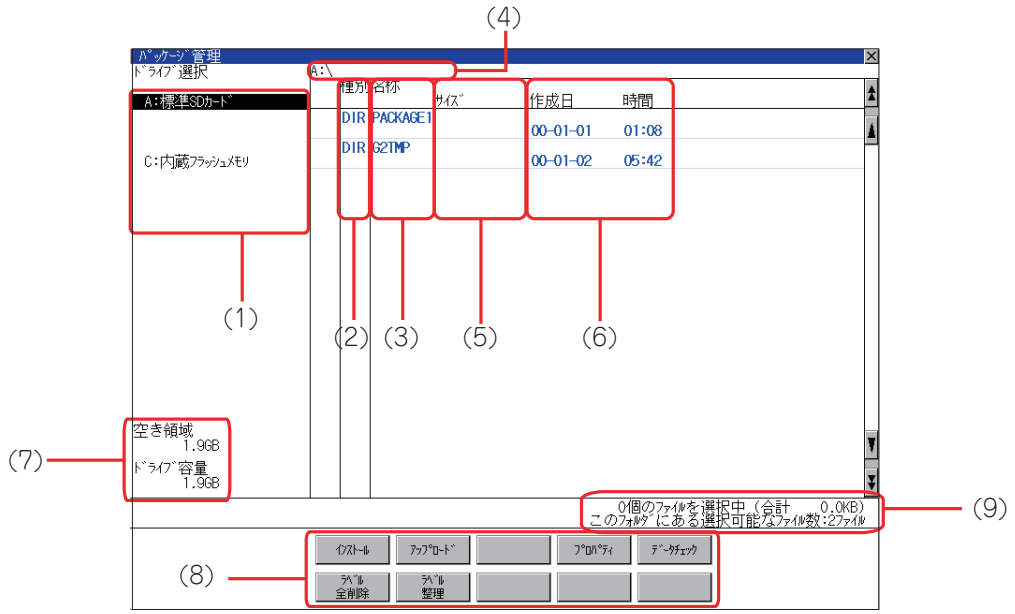
6.7.1　パッケージ管理の機能

各ドライブ(A: 標準SDカード，B: USBドライブ，C: 内蔵フラッシュメモリ，E: USBドライブ，F: USBドライブ，G: USBドライブ)が保持しているパッケージデータをリスト表示できます。
また，パッケージデータのインストール，アップロード，データチェックができます。

機能	内容	参照先
インストール	Aドライブ(標準SDカード)，Bドライブ(USBドライブ)，Eドライブ(USBドライブ)，Fドライブ(USBドライブ)，Gドライブ(USBドライブ)に書き込まれているすべてのパッケージデータをCドライブ(内蔵フラッシュメモリ)にインストールできます。	■インストール操作
アップロード	Cドライブ(内蔵フラッシュメモリ)のすべてのパッケージデータをAドライブ(標準SDカード)，Bドライブ(USBドライブ)，Eドライブ(USBドライブ)，Fドライブ(USBドライブ)，Gドライブ(USBドライブ)にアップロードできます。	■アップロード操作
データチェック	パッケージデータのデータチェックが行えます。	■データチェック操作

6.7.2　パッケージ管理の表示操作

6.7.3 パッケージ管理の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ファイルやフォルダの表示を行う対象ドライブを選択できます。 SDカードが装着されていない場合，[A: 標準SDカード]，は表示されません。 USBメモリが装着されていない場合，[B: USBドライブ]，[E: USBドライブ]，[F: USBドライブ]，[G: USBドライブ]は表示されません。
(2)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合はDIRと表示します。
(3)	名称	選択されたドライブまたはフォルダが保持しているファイル名やフォルダ名を表示します。 ファイル名やフォルダ名が20文字を超える場合，21文字目からは表示しません。
(4)	パス名	現在表示されているドライブ，フォルダのパス名を表示します。
(5)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(6)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(7)	ドライブのサイズ	ドライブ選択で選択したドライブの,使用中のサイズ，ドライブ全体のサイズを表示します。 (ただし，Cドライブ選択時は，使用中のサイズのみ表示します)
(8)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチです。
(9)	フォルダ，ファイル数	表示しているフォルダとファイルの合計を表示します。

6.7.4　パッケージ管理の操作

■ パッケージの表示操作

Step 1. ドライブ選択のドライブをタッチすると，タッチしたドライブの先頭フォルダ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの▲▼ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。
⏫⏬ボタンをタッチすると1画面分上下にスクロールします。

Step 5. パッケージの名称をタッチすると，ファイルを選択して反転表示されます。

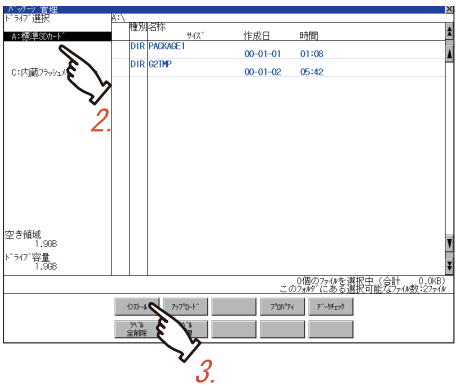
Step 6. インストール，アップロード，データチェック，グローバルラベルの操作については，下記を参照してください。
インストール.....☞■インストール操作
アップロード.....☞■アップロード操作
データチェック.....☞■データチェック操作
ラベル全削除.....☞■ラベル全削除操作
ラベル整理.....☞■ラベル整理操作

Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

■ インストール操作

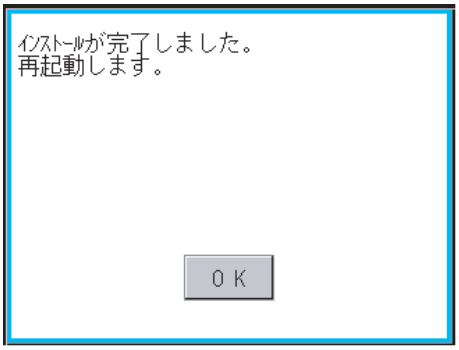
A ドライブ (標準 SD カード), B ドライブ (USB ドライブ), E ドライブ (USB ドライブ), F ドライブ (USB ドライブ), G ドライブ (USB ドライブ) に書き込まれた BootOS および OS を GOT にインストールできます。
(本説明では, A ドライブを使用した例で説明します。)

Step 1. インストールするパッケージを書き込んだデータストレージをGOTに装着します。
データストレージの着脱方法は, 下記を参照してください。
☞GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ハードウェア編)



Step 2. ドライブ選択で[A: 標準SDカード]をタッチします。

Step 3. [インストール]ボタンをタッチすると, インストールを開始します。



Step 4. インストールが完了すると, 左記ダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると, GOTを再起動します。

■ アップロード操作

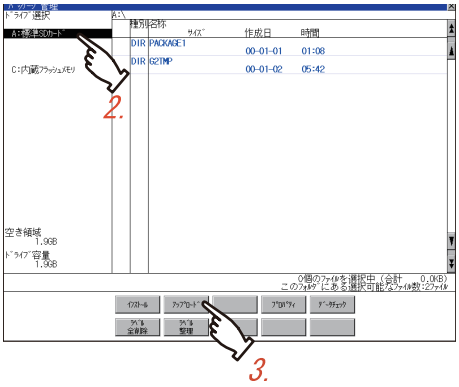
C ドライブ (内蔵フラッシュメモリ) のパッケージを A ドライブ (標準 SD カード), B ドライブ (USB ドライブ), E ドライブ (USB ドライブ), F ドライブ (USB ドライブ), G ドライブ (USB ドライブ) へアップロードできます。
アップロード後のデータストレージは他の GOT へのパッケージインストールに使用できます。

➠ ☞7. BootOS, 基本システムアプリケーションのインストール

(本説明では, A ドライブを使用した例で説明します。)

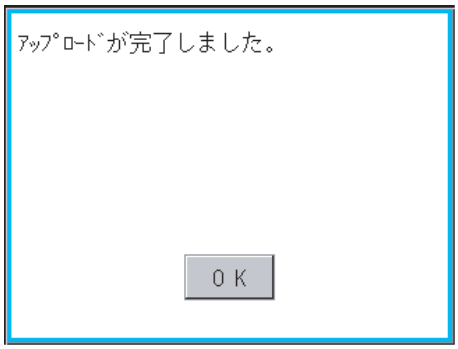
Step 1. アップロード先に使用するデータストレージをGOTに装着します。
データストレージの着脱方法は, 下記を参照してください。

☞ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ハードウェア編)



Step 2. ドライブ選択で[A: 標準SDカード]をタッチします。

Step 3. [アップロード]ボタンをタッチすると, アップロードを開始します。

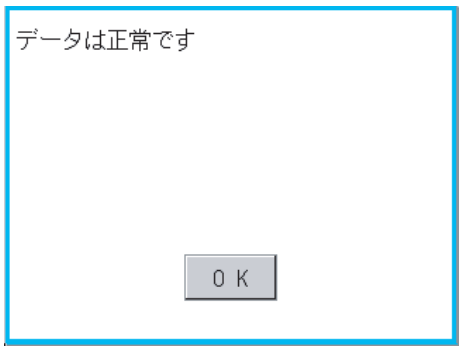


Step 4. アップロードが完了すると, 左記ダイアログボックスが表示されます。
[OK]タンをタッチすると, ダイアログボックスを閉じます。

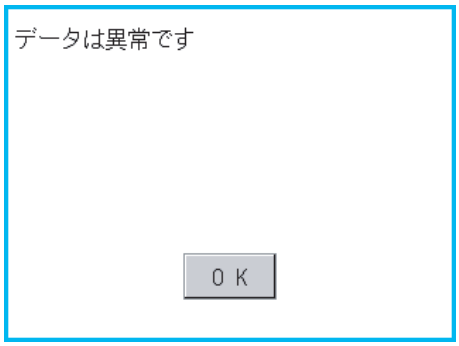
■ データチェック操作

選択したパッケージのデータチェックを行います。

データチェック正常時のダイアログ



データチェック異常時のダイアログ



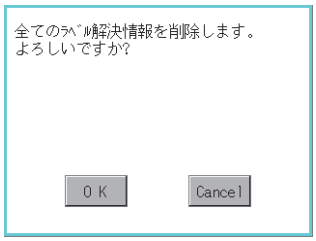
Step 1. データチェック対象パッケージを選択状態にした後，[データチェック]ボタンをタッチしてください。
データチェックを実行した後，左記のダイアログボックスでデータチェック結果が表示されます。

Step 2. [OK]ボタンをタッチするとダイアログボックスを閉じます。

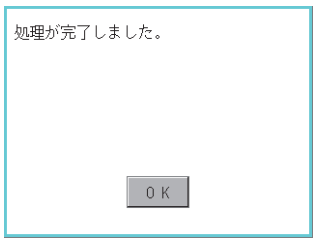
■ ラベル全削除操作

全てのラベル解決情報を削除します。
ラベル解決情報の詳細は，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ



Step 1. [ラベル全削除]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。



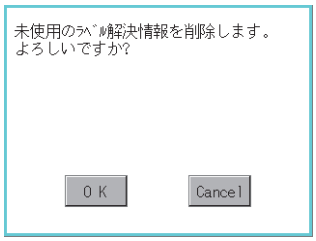
Step 2. [OK]ボタンをタッチするとすべてのラベル解決情報が削除されます。
[Cancel]ボタンをタッチすると，削除は中止され，ダイアログボックスを閉じます。

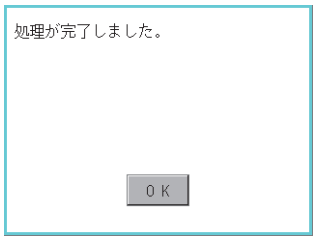
■ ラベル整理操作

未使用のラベル解決情報を削除します。
ラベル解決情報の詳細は，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

Step 1. [ラベル整理]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。





Step 2. [OK]ボタンをタッチすると未使用のラベル解決情報が削除されます。
[Cancel]ボタンをタッチすると，削除は中止され，ダイアログボックスを閉じます。

6.8　バックアップリストア機能

6.8.1　バックアップリストア機能

バックアップの実行，リストアの実行，バックアップデータの削除ができます。
バックアップリストア機能の詳細については，下記を参照してください。

➠ ☞ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(モニタ編)

6.8.2　バックアップリストア機能の表示操作

データ管理

バックアップリストア機能

6.8.3　バックアップリストア機能の設定操作

バックアップリストア機能では接続機器からGOTへバックアップリストアまたはバックアップデータの削除ができます。
また，GOTデータ一括取得もできます。
バックアップリストア機能に関する詳細は，下記のマニュアルを参照してください。

➠ ☞ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(モニタ編)

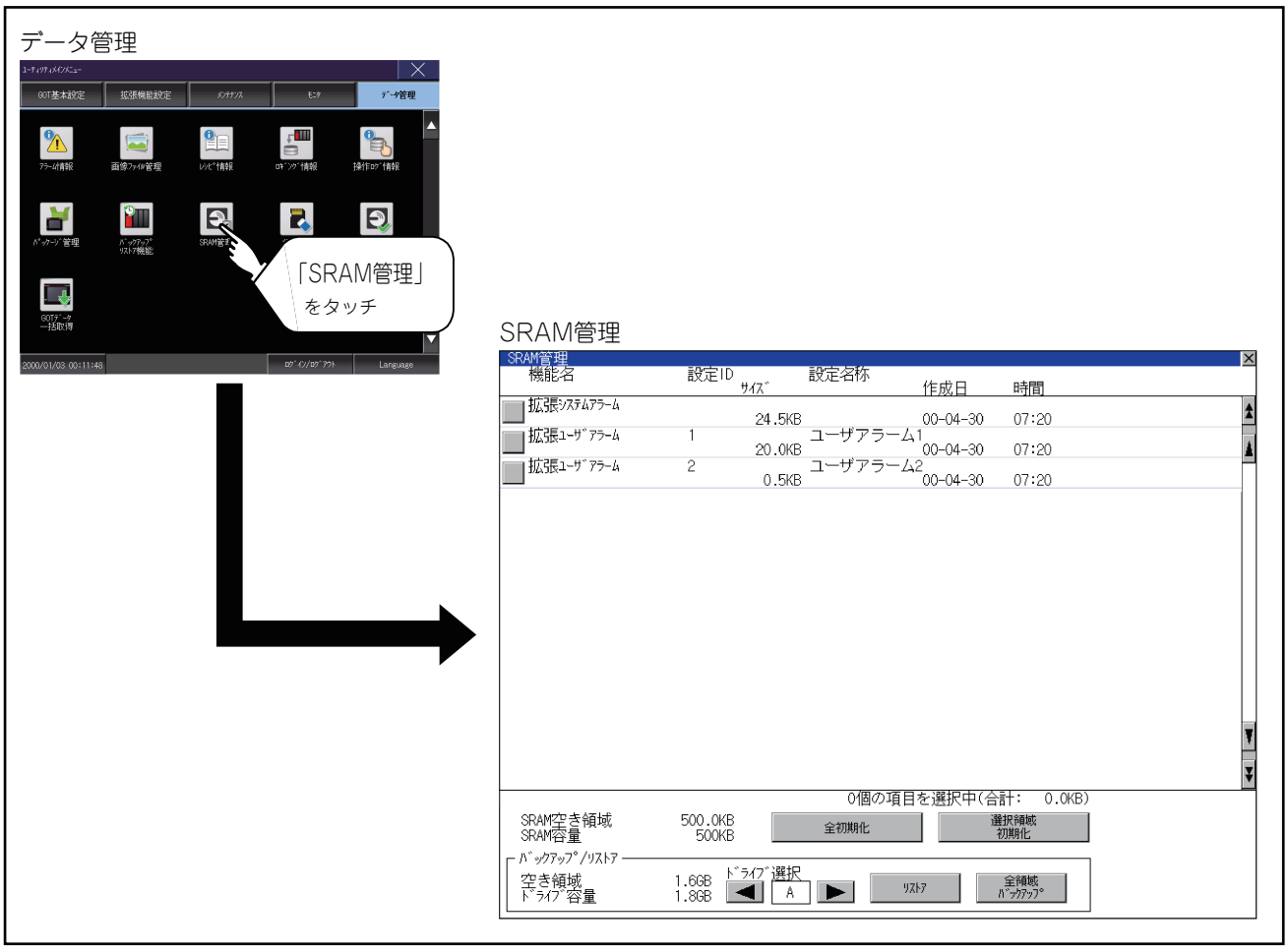
6.9 SRAM管理

6.9.1 SRAM管理の機能

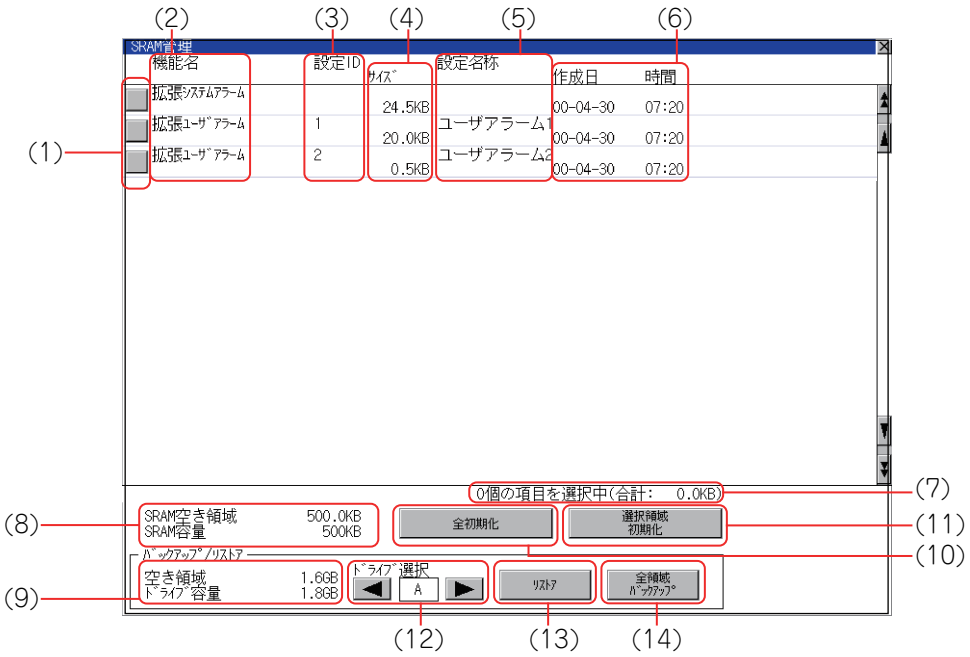
SRAMユーザ領域の使用状況の確認，バックアップ，リストア，初期化ができます。
SRAMユーザ領域で使用できる機能については，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

6.9.2 SRAM管理の表示操作



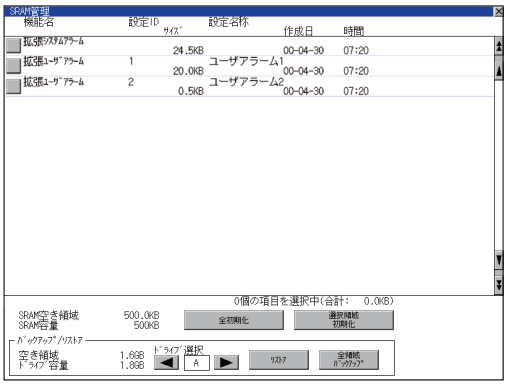
6.9.3 SRAM管理の表示例



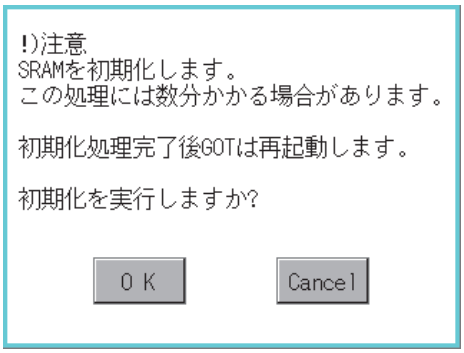
番号	項目	内容
(1)	チェックボックス	タッチすると項目の選択，解除ができます。
(2)	機能名	拡張システムアラーム，拡張ユーザアラーム，ロギングの順で使用している機能を表示します。
(3)	設定ID	設定IDを表示します。拡張システムアラームの設定IDは表示されません。
(4)	サイズ	機能名に表示されているデータのサイズを表示します。
(5)	設定名称	設定名称を表示します。設定名称は，表示枠内に収まる範囲で表示します。
(6)	作成日，時間	各データが作成された日時を表示します。
(7)	n個の項目を選択中	現在選択をしているデータの情報を表示します。
(8)	SRAM空き領域	SRAMユーザ領域の，現在の空きサイズ，全体のサイズを表示します。
(9)	空き領域	ドライブ選択で選択したドライブの，現在の空きサイズ，全体のサイズを表示します。
(10)	全初期化	SRAMユーザ領域を一括で初期化します。
(11)	選択領域初期化	SRAMユーザ領域の複数領域を個別に選択して初期化します。
(12)	ドライブ選択	SRAM ユーザ領域のバックアップ/リストアを行うドライブの切換えができます。 SD カード，USB メモリが装着されている場合のみ，下記ドライブの切換えができます。 ・SDカード: [A: 標準SDｶｰﾄﾞ] ・USB メモリ: [B: USBドライブ]，[E: USB ドライブ]，[F: USB ドライブ]，[G: USB ドライブ]
(13)	リストア	選択したドライブに保存されているデータをSRAMユーザ領域 に保存します。
(14)	全領域バックアップ	SRAM ユーザ領域のデータを選択したドライブに保存します。

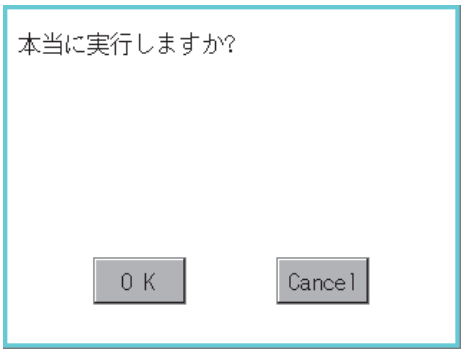
6.9.4 SRAM管理の操作

■ 全初期化，選択領域初期化の操作



（例：[全初期化]ボタンをタッチした場合のダイアログボックス）





Step 1. 下記のいずれかの操作をしてください。

・SRAMユーザ領域の全領域を初期化する場合
[全初期化]ボタンをタッチします。

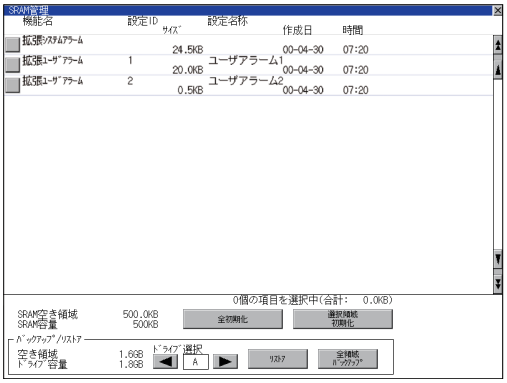
・SRAMユーザ領域の任意の領域を初期化する場合
初期化する領域のチェックボックスを個別に選択して[選択領域初期化]ボタンをタッチします。

Step 2. 上記のボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
ダイアログボックスの内容を確認し，SRAMユーザ領域の初期化を実行する場合は，[OK]ボタンをタッチします。
SRAMユーザ領域の初期化を中断する場合は，[Cancel]ボタンをタッチします。

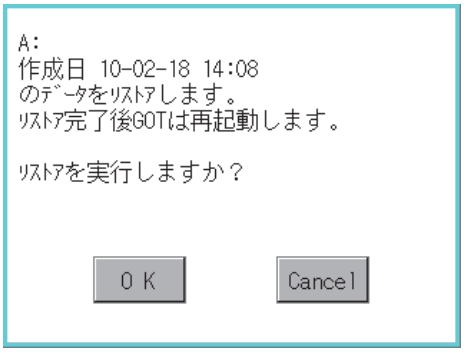
Step 3. 手順2で[OK]ボタンをタッチすると，再度SRAMユーザ領域を初期化することの確認のため，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると初期化を開始します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，SRAMユーザ領域の初期化を中断します。

Step 4. 初期化が完了すると完了ダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとダイアログボックスを閉じて再起動します。

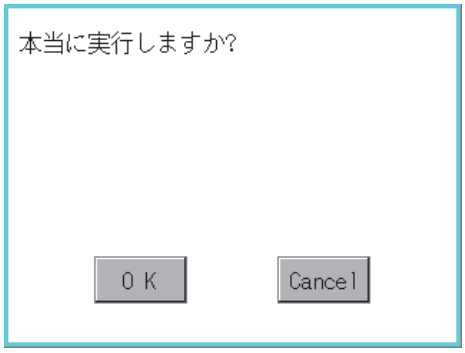
■ リストアの操作



Step 1. ドライブに保存されているデータをSRAMユーザ領域にリストアする場合データが保存されているドライブを選択し[リストア]ボタンをタッチします。



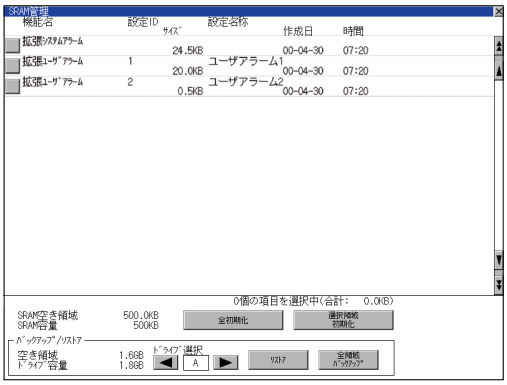
Step 2. 上記のボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
ダイアログボックスの内容を確認し，リストアを実行する場合は，[OK]ボタンをタッチします。
リストアを中断する場合は，[Cancel]ボタンをタッチします。

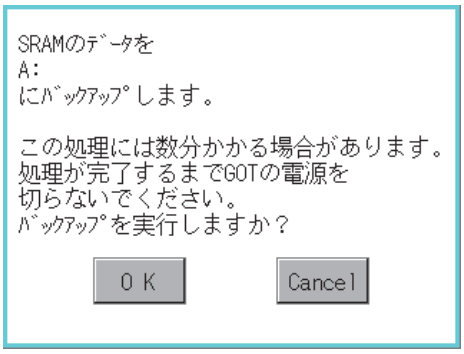


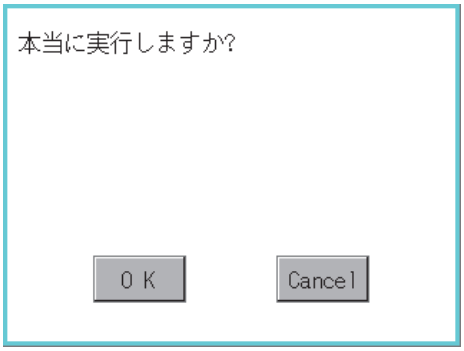
Step 3. 手順2で[OK]ボタンをタッチすると，再度リストアを実行することの確認のため，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとリストアを開始します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，リストアの実行を中断します。

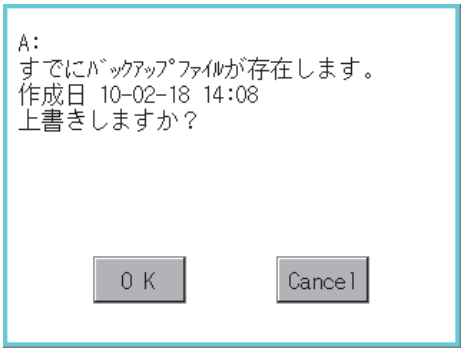
Step 4. リストアが完了すると完了ダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとダイアログボックスを閉じて再起動します。

■ 全領域バックアップの操作









Step 1. SRAMユーザ領域のデータをドライブにバックアップする場合
データを保存するドライブを選択し[全領域バックアップ]ボタンをタッチします。

Step 2. 上記のボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
ダイアログボックスの内容を確認し，全領域バックアップを実行する場合は，[OK]ボタンをタッチします。
全領域バックアップを中断する場合は，[Cancel]ボタンをタッチします。

Step 3. 手順2で[OK]ボタンをタッチすると，再度全領域バックアップを実行することの確認のため，左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると全領域バックアップを開始します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，全領域バックアップの実行を中断します。

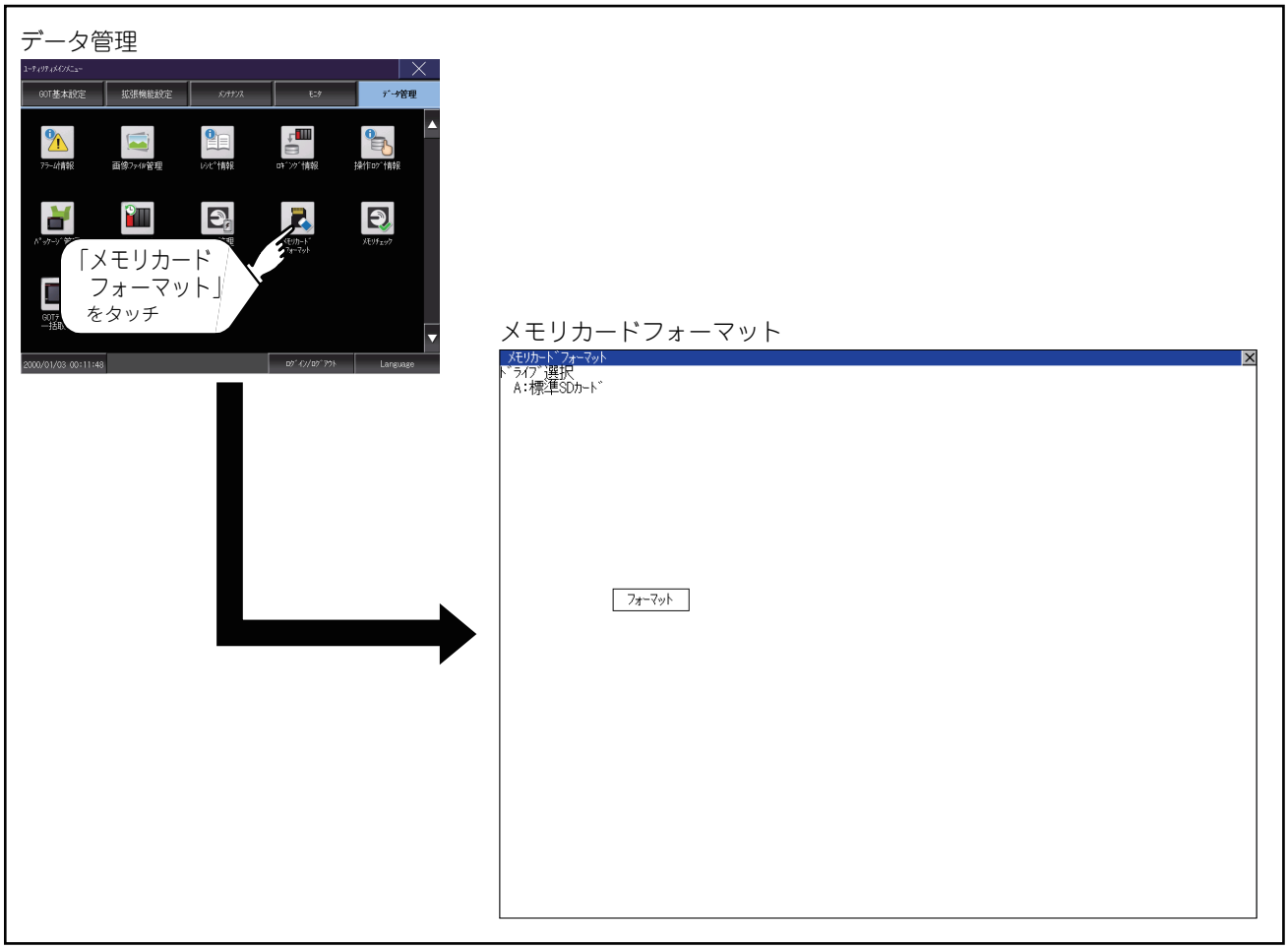
Step 4. 出力先のフォルダに，同一名称のファイルが存在する場合は，全領域バックアップを開始せずに左記のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると同一名称のファイルに上書き変換します。
[Cancel]ボタンをタッチすると，全領域バックアップの実行を中断します。

Step 5. 全領域バックアップが完了すると完了ダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチするとダイアログボックスを閉じます。

6.10　メモリカードフォーマット

データストレージをフォーマットします。

6.10.1　メモリカードフォーマットの表示操作

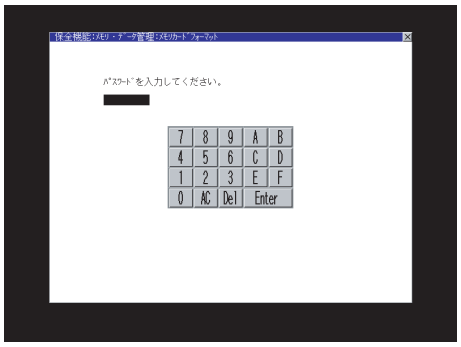


6.10.2 メモリカードフォーマットの操作

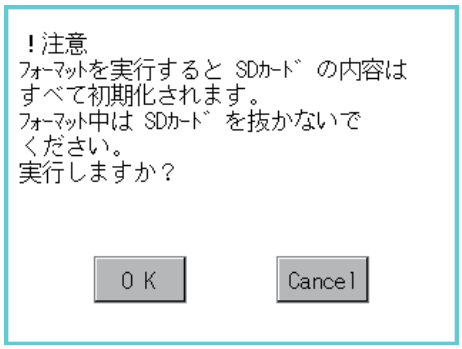
Step 1. データストレージをGOTに装着します。
データストレージの着脱方法は，下記を参照してください。
☞ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ハードウェア編)

Step 2. ドライブ選択でフォーマットするドライブをタッチして選択します。

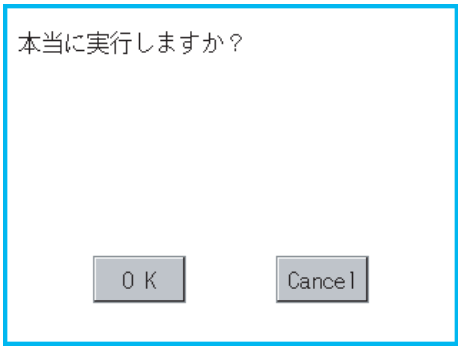
Step 3. [フォーマット]ボタンをタッチするとパスワード入力画面が表示されます。



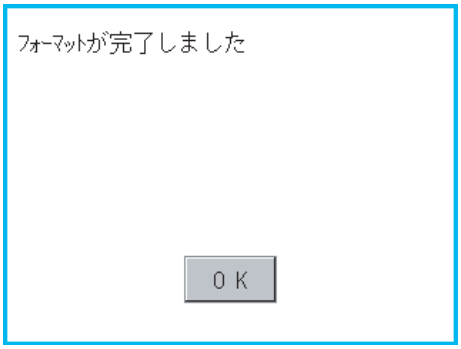
Step 4. [1] [1] [1] [1]を入力して[Enter]キーをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。(パスワードは1111固定です。)
ダイアログボックスの内容を確認し，データストレージのフォーマットを実行する場合は，[OK]ボタンをタッチします。
データストレージのフォーマットを中断する場合は，[Cancel]ボタンをタッチします。



Step 5. 手順4で[OK]ボタンをタッチすると，再度確認のため左記のダイアログボックスが表示されます。



Step 6. 再度データストレージをフォーマットすることの確認をしてください。
[OK]ボタンをタッチするとフォーマットを開始します。
[Cancel]ボタンをタッチするとデータストレージのフォーマットを中断します。



Step 7. フォーマットが完了すると左記の完了ダイアログボックスが表示されます。

Step 8. [OK]ボタンをタッチするとダイアログボックスを閉じます。

フォーマットの制約について

- 未フォーマットのデータストレージは，パソコンでフォーマットしてからGOTで使用してください。GOTでは未フォーマットのデータストレージをフォーマットできません。
- GOTのフォーマットはデータストレージのファイルシステム(例：FAT16)を変更しません。フォーマット前のファイルシステムを継承します。

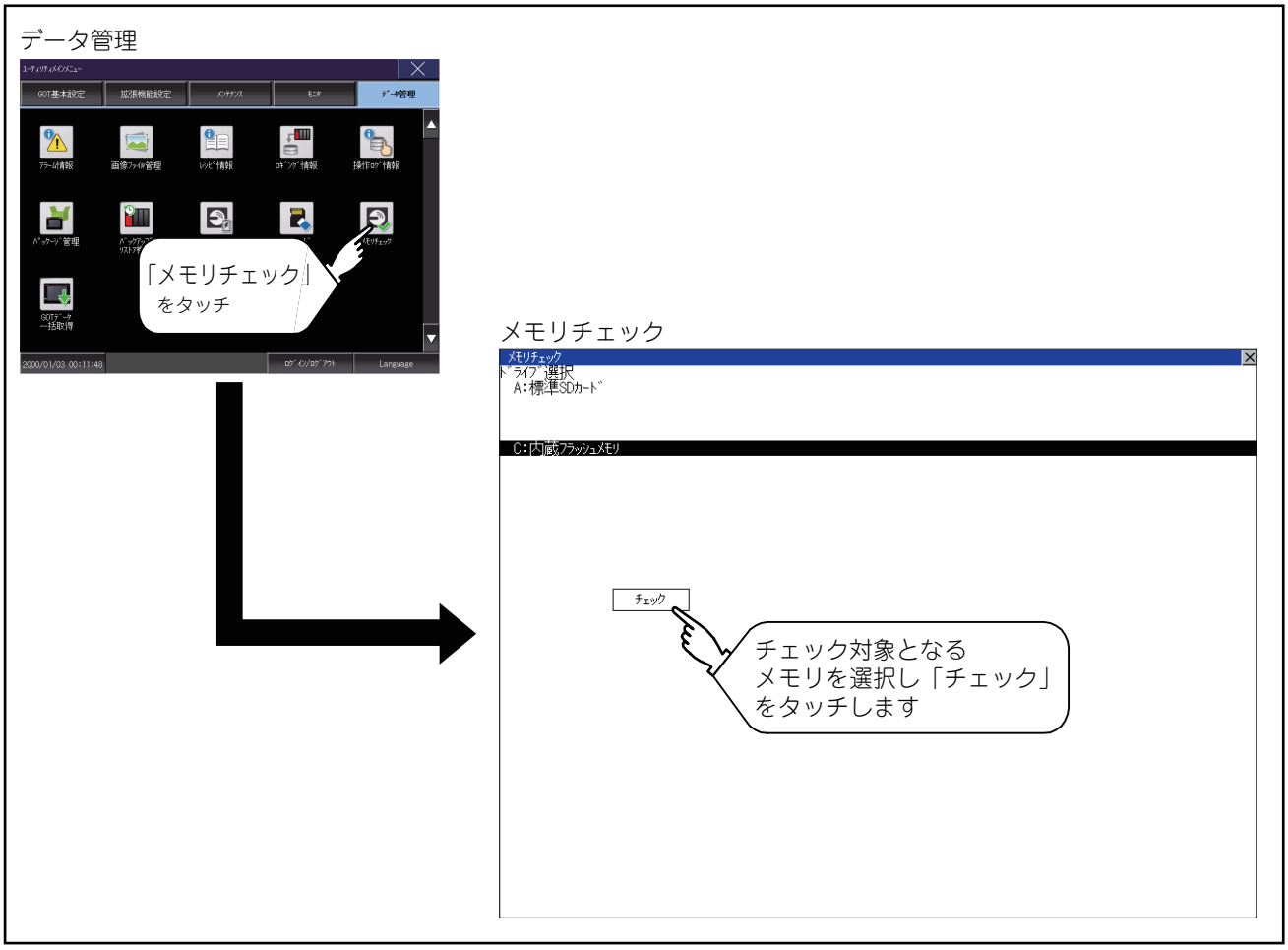
6.11　メモリチェック

6.11.1　メモリチェックの機能

メモリチェック機能は，Aドライブ(標準SDカード)，Bドライブ(USBドライブ)，Cドライブ(内蔵フラッシュメモリ)，Eドライブ(USBドライブ)，Fドライブ(USBドライブ)，Gドライブ(USBドライブ)のライト/リードチェックを行います。

機能	内容
A ドライブメモリチェック	A ドライブのメモリ (標準 SD カード) が正常に読み書きできるかチェックします。
B ドライブメモリチェック	B ドライブのメモリ (USB ドライブ) が正常に読み書きできるかチェックします。
C ドライブメモリチェック	C ドライブのメモリ (内蔵フラッシュメモリ) が正常に読み書きできるかチェックします。
E ドライブメモリチェック	E ドライブのメモリ (USB ドライブ) が正常に読み書きできるかチェックします。
F ドライブメモリチェック	F ドライブのメモリ (USB ドライブ) が正常に読み書きできるかチェックします。
G ドライブメモリチェック	G ドライブのメモリ (USB ドライブ) が正常に読み書きできるかチェックします。

6.11.2　メモリチェックの表示操作



6.11.3　メモリチェックの操作

メモリのライト/リードチェックを行います。

POINT

ドライブが表示されない場合

チェックするドライブ(メモリ)が表示されない場合は下記を参照し，装着要領やメモリ種類の確認を行ってください。

➠ ☞GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ハードウェア編)

装着などに問題がない場合，メモリの故障が考えられます。

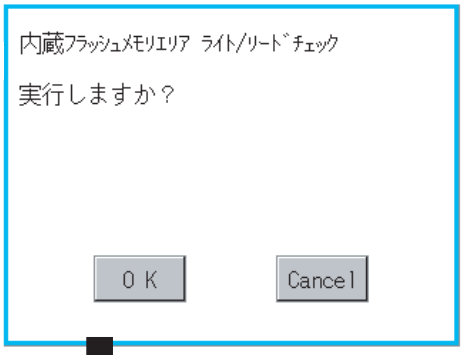
データストレージの交換または内蔵フラッシュメモリ(Cドライブ)の交換を実施してください。

内蔵フラッシュメモリは，最寄りの三菱電機システムサービス(株)までお問い合わせください。

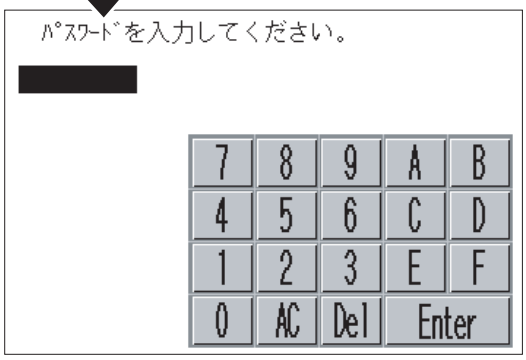
内蔵フラッシュメモリ(Cドライブ)の場合を例に説明します。
標準SDカード(Aドライブ)のチェック時は，はじめにSDカードを装着した後，USBドライブ(Bドライブ)，(Eドライブ)，(Fドライブ)，(Gドライブ)のチェック時は，はじめにUSBメモリを装着した後，内蔵フラッシュメモリの場合と同様のキー操作を行ってください。

1. メモリチェックの設定画面にて内蔵フラッシュメモリを選択してください。
   [OK] ボタンを選択するとテンキーウィンドウが表示されます。

   [Cancel] ボタンを選択すると初期のメニューに戻ります。

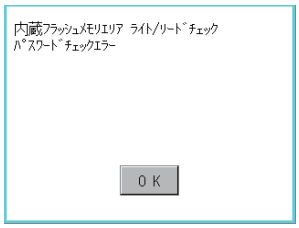


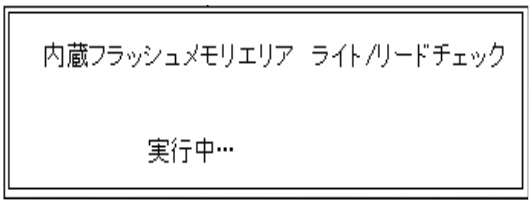
2. パスワード ([5] [9] [2] [0]) をタッチし，[Enter] キーをタッチしてください。
   [Enter] キーをタッチすると内蔵フラッシュメモリのライト / リードチェックが実行され，約 10 秒で終了します。

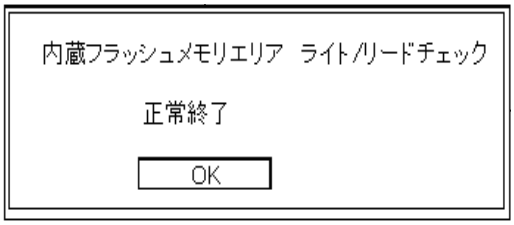


パスワードの変更について

パスワードは変更できません。
パスワード入力でエラーの場合には中断ダイアログボックスを表示します。
[OK]をタッチするとメモリチェックに戻ります。







POINT

メモリに異常が発見された場合

チェックで異常が発見された場合には異常発生個所を示すダイアログボックスが表示されます。
異常時は，最寄りの三菱電機システムサービス(株)までお問い合わせください。
[OK]をタッチするとメモリチェック画面に戻ります。

6.12 GOTデーター括取得

6.12.1 GOTデーター括取得の機能

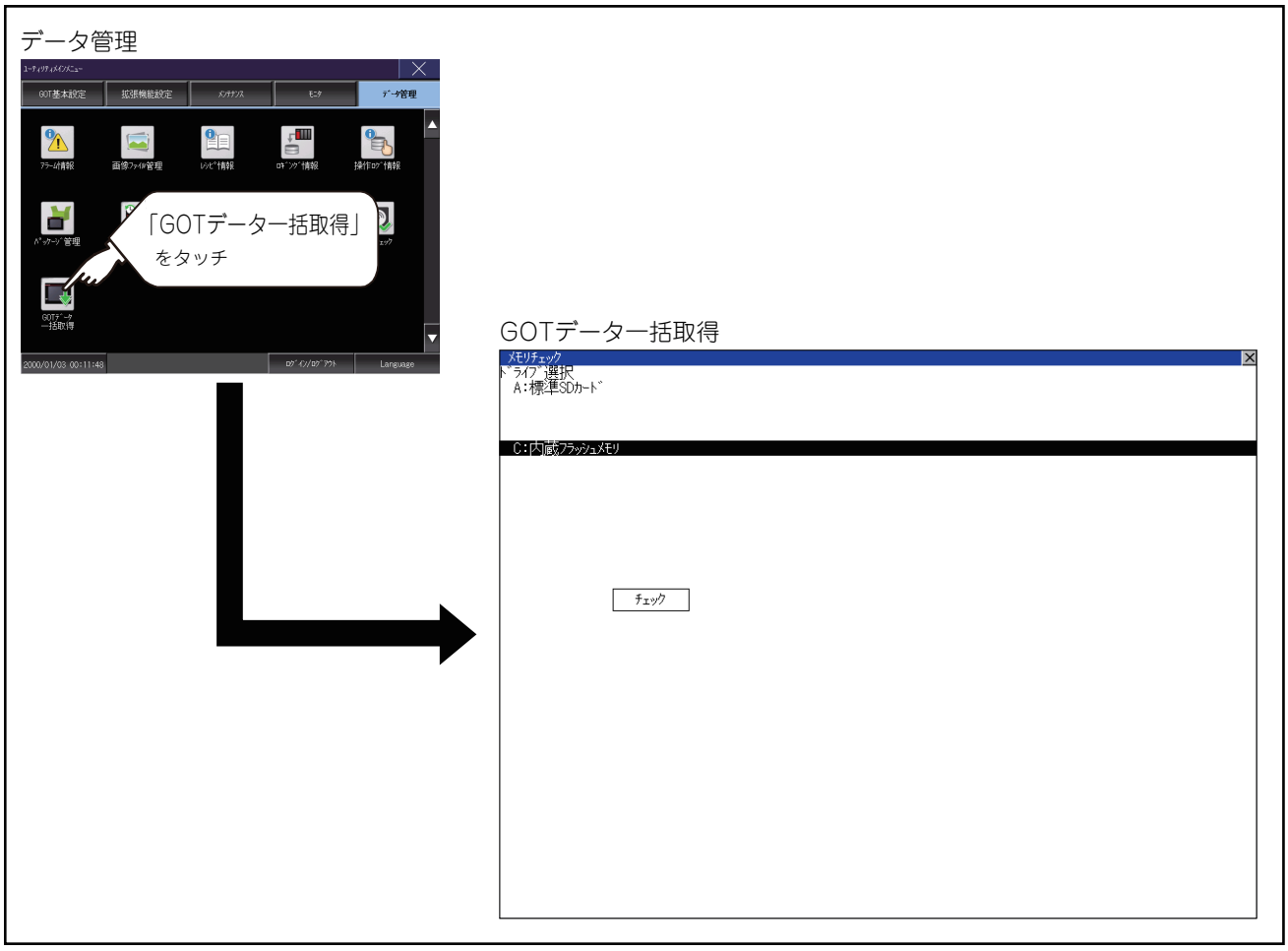
GOT本体にインストールされている下記のシステムアプリケーション，データをデータストレージへコピーする機能です。

- システムアプリケーション
  （BootOS，基本システムアプリケーション，通信ドライバ，拡張システムアプリケーション）
- 特殊データ
- プロジェクトデータ

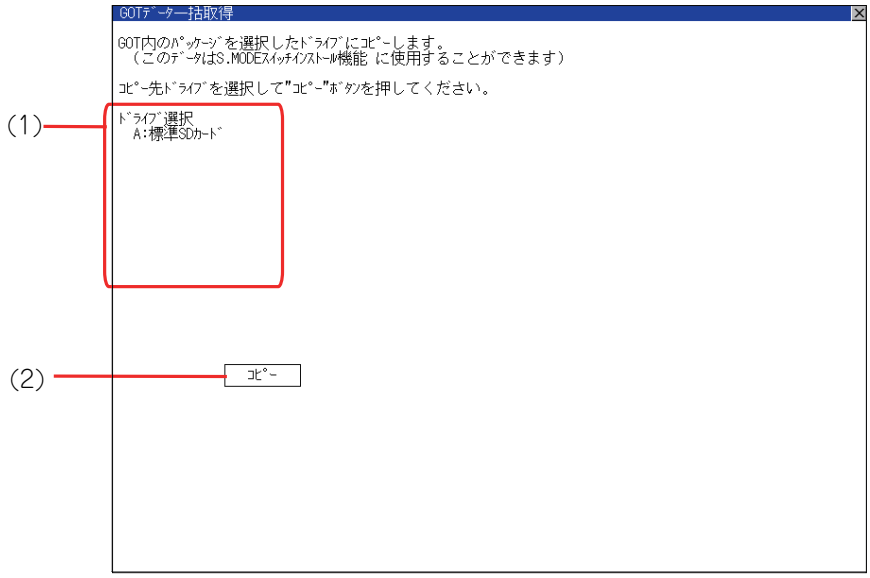
コピーしたデータは，バックアップ用として使用したり，他のGOTへインストールして，同一システムのGOTを作成することもできます。
GOTのインストール機能に関しては，下記を参照してください。

➠ ☞ 7.3 データストレージを使用したBootOS，システムアプリケーションのインストール

6.12.2 GOTデーター括取得の表示操作



6.12.3 GOTデーター括取得の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ユーザがOS，データをコピーできるドライブを表示します。 SDカードが装着されていない場合，[A: 標準SDｶｰﾄﾞ]は表示されません。 USBメモリが装着されている場合は，認識したUSBドライブが表示されます。USBメモリが装着されていない場合は，USBドライブとして認識されないので，USBドラ イブは表示されません。
(2)	コピー	タッチすると，コピーを開始します。

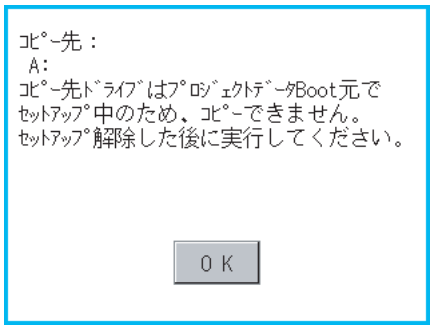
6.12.4 GOTデーター括取得の操作

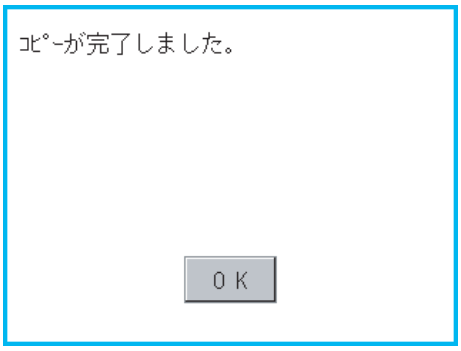
■ GOT データー括取得の表示操作

GOT 本体にインストールされている下記のシステムアプリケーション，データをデータストレージへコピーします。
(本説明では，A ドライブを使用した例で説明します。)

Step 1. [ドライブ選択]のドライブをタッチすると，タッチしたドライブの名称の行が反転表示します。
[コピー]ボタンをタッチするとコピーを開始します。

(例：[コピー]ボタンをタッチした場合のダイアログボックス)





Step 2. コピー先の状態やセットアップの状態により，表示される内容が異なります。表示されたダイアログボックスに従い，操作してください。

Step 3. システムアプリケーション，データのコピーを実施し，コピーを完了すると完了のダイアログボックスが表示されます。
[OK]ボタンをタッチすると，ダイアログを閉じます。

処理時間の目安
システムアプリケーション，データの容量およびファイル構成等，条件によって処理に必要な時間が異なります。
(参考値)
- 容量が4M バイト場合　：6秒前後
- 容量が12Mバイト場合　：18秒前後

■ 操作時の注意事項

(1) プロジェクトデータのコピーについて
プロジェクトデータのBoot元ドライブとコピー先のドライブが同じドライブの場合，プロジェクトデータはコピーできません。
Boot元ドライブとコピー先のドライブが同じドライブの場合は，セットアップの解除をしてください。

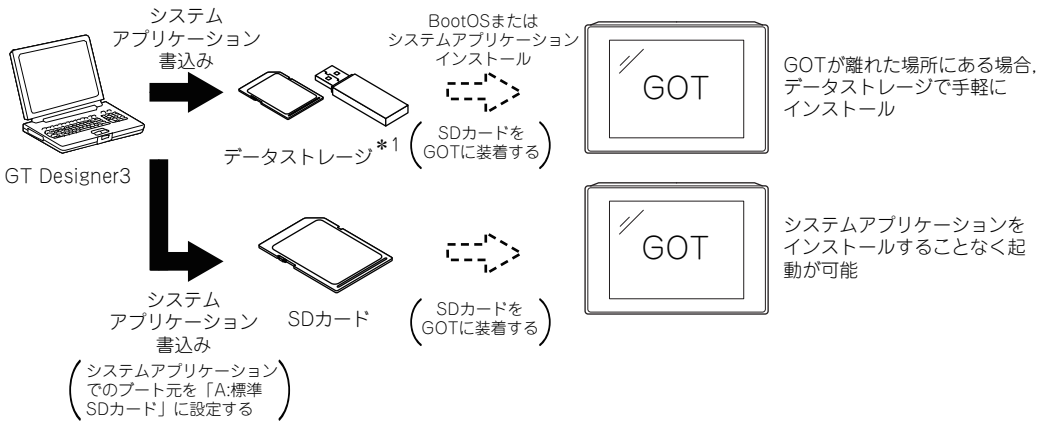
(2) GOTへコピーした場合
データ一括取得で作成したデータストレージを使用して，システムアプリケーションやプロジェクトデータをGOTへコピーした場合，ユーティリティの設定もコピーされます。
GOTへコピーした後は，ユーティリティの各設定を確認し，必要に応じて設定を変更してください。

(3) 使用するデータストレージついて
GOTデータ一括取得をする場合，データストレージには他のデータを格納しないでください。
格納されている他のデータは，使用できなくなります。

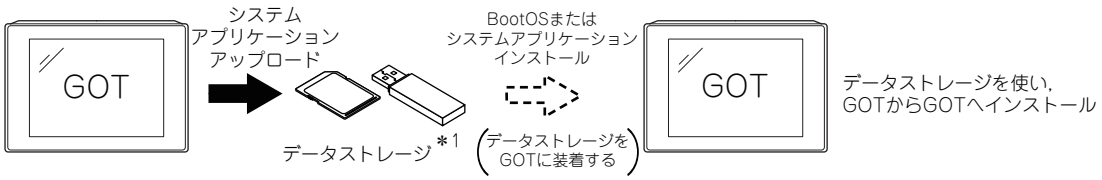
7. BootOS，基本システムアプリケーションのインストール

GOTのユーティリティを実行するためには，GOTのCドライブ(内蔵フラッシュメモリ)にBootOS，システムアプリケーションをインストールする，またはシステムアプリケーションのBoot元を[A: 標準SDカード]に設定し，システムアプリケーションを書き込んだSDカードを装着する必要があります。
(GOTは,工場出荷時にBootOSをインストールしています。BootOSのバージョンアップを必要としない場合，BootOSのインストール作業は不要です。)
本章では，GOTを使用したインストールについて説明します。

GT Designer3→ データストレージ／→ GOT



GOT→ データストレージ／→ GOT



*1　*1　USBメモリを使用してインストールする場合，インストール先のGOTにあらかじめシステムアプリケーションがインストールされている必要が有ります。

GT Designer3を使用したインストールに関しては，下記を参照してください。

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

7.1　インストールが必要なBootOS，基本システムアプリケーション

ユーティリティを実行するためには下記のBootOS，基本システムアプリケーションが必要です。

システムアプリケーション名	機能概要
BootOS	GOT の制御やパソコンと GOT 間の通信に必要な OS です。 工場出荷時にインストールされています。 (GT Designer3 または SD カードからインストールすることもできます。インストールすると GOT が初期化され，工場出荷時の状態になります。なお BootOS を再インストールする場合，GOT に基本システムアプリケーションがインストールされている必要があります。)
システムアプリケーション	GOT のモニタ機能，システムアプリケーションやプロジェクトデータのインストールと削除，タッチキー制御，画面やガイダンスの表示機能など GOT を動作させるためのシステムアプリケーションです。 ユーザ作成画面やユーティリティ画面の表示，操作に必要なシステムアプリケーションです。 工場出荷時は GOT にインストールされていません。 GT Designer3 またはデータストレージからインストールしてください。

7.2 BootOS，システムアプリケーションのインストール前準備

GOTを使用したインストールでは，あらかじめBootOS，システムアプリケーションが格納済みのデータストレージが必要です。
BootOS，システムアプリケーションをデータストレージへ書き込む方法としては，以下の3通りがあります。

(1) GT Designer3から「メモリカードへの転送」による方法

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) 他のGOT(BootOS，システムアプリケーションインストール済み)からアップロードする方法

➡ ☞ 6. データ管理

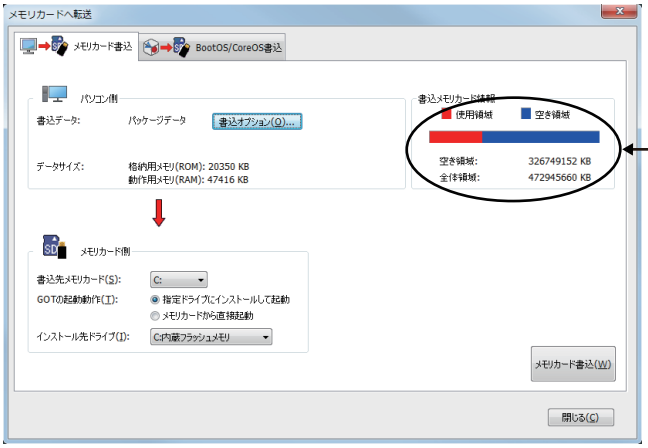
(3) システムアプリケーションのBoot元をAドライブに設定したSDカードを使用する方法

➡ ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

POINT

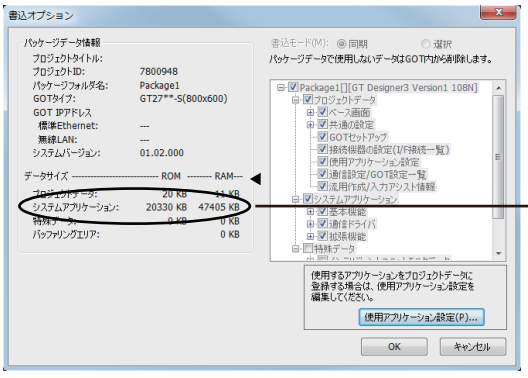
BootOS，システムアプリケーションなどをデータストレージへ書き込む場合のご注意
BootOS，システムアプリケーションなどをデータストレージへ書き込む場合は，必ず他のGOTのユーティリティ，またはGT Designer3により実行してください。
GOTのユーティリティからのアップロード，またはGT Designer3以外からのコピーを実行したデータストレージでは，GOTに正しくインストールされません。
また，データストレージの空き容量にご注意ください。
BootOS，システムアプリケーションの空き容量については，GT Designer3の[メモリカードへの書込み]，[書込オプション]で確認できます。

[メモリカードへ転送]ダイアログ



データストレージ空き容量

[書込みオプション]ダイアログ



システムアプリケーション空き容量

7.3 データストレージを使用したBootOS，システムアプリケーションのインストール

データストレージを使用したBootOS，システムアプリケーションのインストールには，以下の2通りがあります。

(1) GOT電源投入時にインストールする方法

➠ ☞ 7.3.1 GOT電源投入時にインストールする方法

GOT電源投入時に，データストレージに格納したシステムアプリケーションやプロジェクトデータをすべて，GOTへ転送します。このインストール方法は，以下に示す場合に有効です。

- GOTのユーティリティが表示できない場合
- システムアプリケーションがインストールされていない場合

(2) データ管理機能(ユーティリティ)を使用してインストールする方法

➠ ☞ 7.3.2 データ管理機能(ユーティリティ)を使用してインストールする方法

ユーティリティの操作により，データストレージに格納したシステムアプリケーションやプロジェクトデータを選択して、GOTへ転送します。

POINT

BootOS，システムアプリケーションインストール時のご注意

(1) BootOSとシステムアプリケーションの両方をインストールする場合

BootOSのインストール完了後，システムアプリケーションをインストールしてください。
BootOSをインストールすると，GOT内の内蔵フラッシュメモリが初期化され，工場出荷時の状態になります。(システムアプリケーションやプロジェクトデータは削除されます。)

GOT は工場出荷時に BootOS をインストール済みです。BootOS のバージョンアップを行わない場合，BootOS のインストールは不要です。

(2) データストレージを使用してプロジェクトデータをコピーする場合

BootOS，システムアプリケーションをインストールした後にプロジェクトデータをダウンロードしてください。
このとき,GOT内のシステムアプリケーションとプロジェクトデータを作成したシステムアプリケーションのバージョンを一致させてください。

(3) データストレージ内にシステムアプリケーションとプロジェクトデータが存在する場合(GT Designer3使用時)

S.MODEスイッチを押してインストールする場合，システムアプリケーションインストール完了後にプロジェクトデータがダウンロードされます。
ユーティリティでインストールする場合は，システムアプリケーションのインストールとプロジェクトデータのダウンロードをそれぞれの操作画面で行ってください。

(4) インストールの中断はできません。

BootOS，システムアプリケーションをインストール中は下記のことをしないでください。
インストールに失敗し，GOTが動作しなくなる場合があります。

- GOTの電源をOFFにする
- GOTのリセットボタンを押す
- SDカードインタフェースのカバーを開ける
- データストレージを取外す

インストールに失敗してGOTが動作しなくなった場合は，下記の処置を行ってください。

- BootOSのインストールに失敗した場合:
  表示されたダイアログにしたがい画面をタッチして，GOTを再起動してください。
  再起動後，GOTは出荷状態に初期化されます。
- 基本システムアプリケーションのインストールに失敗した場合:
  BootOSをインストールしてください。

➠ ☞ 7.3.1 GOT電源投入時にインストールする方法

7.3.1 GOT電源投入時にインストールする方法

GOT内の基本システムアプリケーションのインストール状態により，表示されるメッセージが異なります。操作を要求する画面が表示された場合は，画面の指示に従って操作してください。

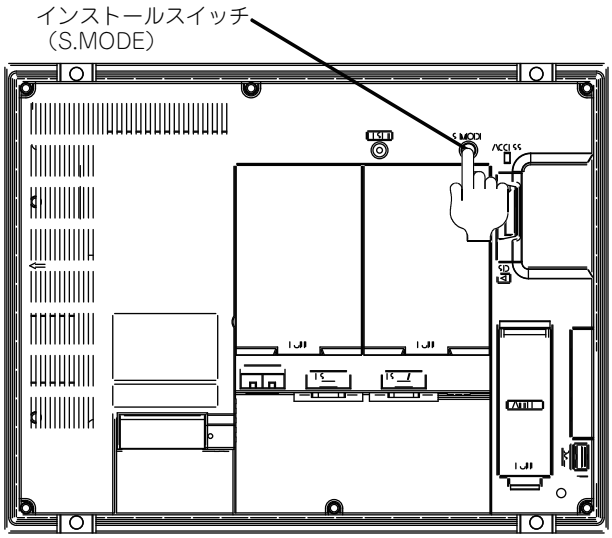
POINT

S.MODEスイッチを押したインストールについて

OSのBoot元をAドライブに設定したデータストレージを使用している場合，S.MODEスイッチを押してインストールを行うことはできません。

■ 操作手順

S.MODE スイッチは GOT 背面の下記に示した位置にあります。



(1)SDカードでインストールする場合

Step 1. GOTの電源をOFFにし，BootOSまたはシステムアプリケーション，プロジェクトデータ格納済みのSDカードをGOTのSDカードインタフェースへ装着してください。

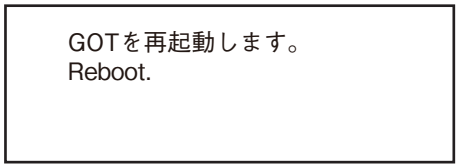
Step 2. GOTのSDカードインタフェースのカバーを閉じてください。

Step 3. GOTの電源をONします。
GOT背面のインストールスイッチ(S.MODEスイッチ)を押しながら，GOTの電源をONしてください。
(1点押しインストール機能)

Step 4. BootOS，システムアプリケーションが内蔵フラッシュメモリにインストールされます。
インストール実行中はSDカードアクセスLEDが点灯します。
SDカードアクセスLED点灯中はSDカードを抜いたり，GOTの電源をOFFにしないでください。

> BootOSをインストール中です。
> Now installing BootOS.

Step 5. インストール完了後，自動的に再起動されます。
（システムアプリケーションインストール済みの場合は，OKボタンをタッチすると再起動します。）



Step 6. 正常に再起動ができたことを確認した後，SDカードアクセスLEDの消灯を確認し，SDカードをGOTのSDカードインタフェースから取り外してください。

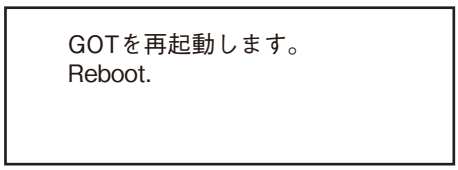
(2) USBメモリでインストールする場合

Step 1. GOTの電源をOFF，BootOSまたはシステムアプリケーション，プロジェクトデータ格納済みのUSBメモリをGOTのUSBインタフェースへ装着してください。
BootOSはシステムアプリケーション，プロジェクトデータと同じUSBメモリには格納できません。

Step 2. GOTの電源をONします。
GOT背面のインストールスイッチ(S.MODEスイッチ)を押しながら，GOTの電源をONしてください。
（1点押しインストール機能）

Step 3. BootOS，システムアプリケーションが内蔵フラッシュメモリにインストールされます。
インストール実行中はUSBメモリのアクセスランプが点灯します。
USBメモリのアクセスランプ点灯中はUSBメモリを抜いたり，GOTの電源をOFFにしないでください。

Step 4. インストール完了後，自動的に再起動されます。
（システムアプリケーションインストール済みの場合は，OKボタンをタッチすると再起動します。）



Step 5. 正常に再起動ができたことを確認した後，USBメモリのアクセスランプの消灯を確認し，USBメモリをGOTのUSBインタフェースから取り外してください。
USBメモリの取り外し方法は下記を参照してください。

➠ ☞ 4.2.3 USBデバイス状態表示の操作

7.3.2　データ管理機能(ユーティリティ)を使用してインストールする方法

データ管理機能に関する詳細は，下記を参照してください。

➡ ☞ 6. データ管理

POINT

データ管理機能実行時のご注意

データ管理機能を実行する場合，あらかじめGOTにシステムアプリケーションがインストールされている必要があるため，GOT購入後，初回のBootOS，システムアプリケーションのインストールには，本機能は使用できません。
システムアプリケーションは，以下の2通りの方法により，インストールしてください。

(1) GT Designer3 による方法

(2) GOT 電源投入時にインストールする方法

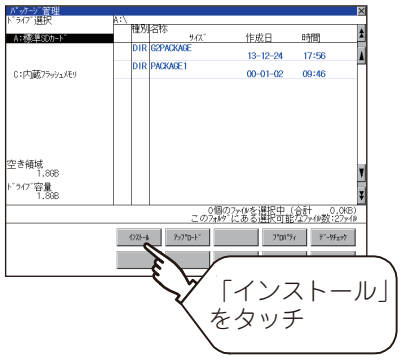
■ 操作手順

(1) SDカードでインストールする場合

Step 1. BootOS，システムアプリケーション，プロジェクトデータ格納済みのSDカードをGOTのSDカードインタフェースへ装着してください。

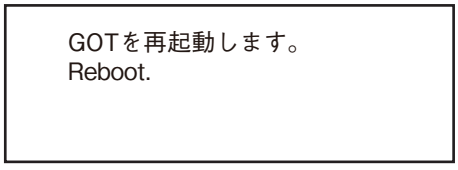
Step 2. GOTのSDカードインタフェースのカバーを閉じてください。

Step 3. GOTでデータ管理機能用画面(ユーティリティ)を表示し，SDカードからGOTにBootOS，システムアプリケーションをインストールしてください。



Step 4. インストール実行中はSDカードアクセスLEDが点灯します。
SDカードアクセスLED点灯中はSDカードインタフェースのカバーを開けたり，GOTの電源をOFFにしないでください。

Step 5. インストール完了後，自動的に再起動されます。

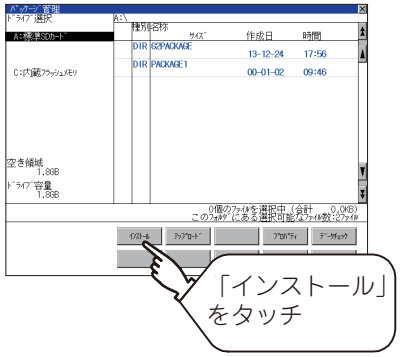


Step 6. 正常に再起動ができたことを確認した後，SDカードアクセスLEDの消灯を確認し，SDカードをGOTのSDカードインタフェースから取り外してください。

(2) USBメモリでインストールする場合

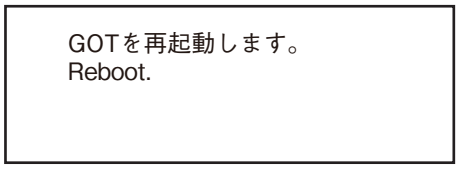
Step 1. BootOS，システムアプリケーション，プロジェクトデータ格納済みのUSB メモリをUSB インタフェースへ装着してください。

Step 2. GOT でデータ管理機能用画面(ユーティリティ)を表示し，USB ドライブからGOT に基本システムアプリケーションをインストールしてください。



Step 3. インストール実行中はUSB メモリのアクセスランプが点灯します。
USB メモリのアクセスランプ点灯中はUSB メモリを抜いたり，GOT の電源をOFF にしないでください。

Step 4. インストール完了後，自動的に再起動されます。



Step 5. 正常に再起動ができたことを確認した後，USB メモリのアクセスランプの消灯を確認してください。
GOT のUSB デバイス状態表示画面を表示しUSB メモリをUSB インタフェースから取り外してください。

➠ ☞ 4.2.3 USBデバイス状態表示の操作

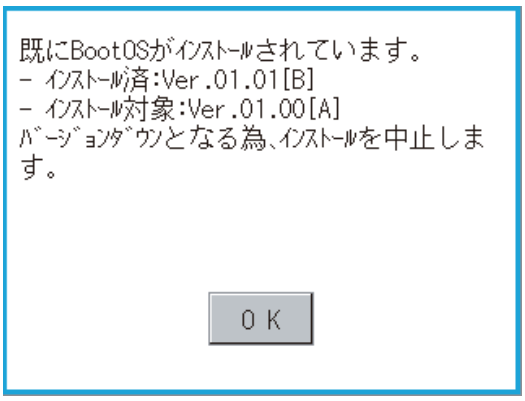
7.4 BootOS，基本システムアプリケーションのバージョンが異なる場合

(1) BootOS インストール時

GOTは，BootOSをインストール時に，インストール済みBootOSとインストールするBootOSのバージョンを比較します。
インストールするBootOSのメジャーバージョンが古い場合，書き換えられるのを防ぐために下記の動作を実行します。
(GT Designer3からインストール時はパソコンの画面にメッセージが表示されます。
表示に従い，操作を行ってください。)

(a) データストレージにBootOSのみを格納している場合

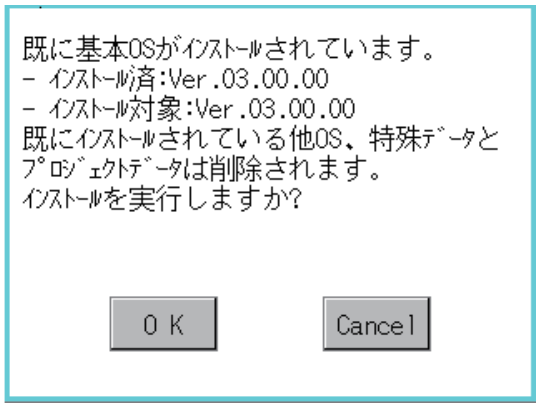
インストール不可メッセージが表示されます。



OK ボタンをタッチし，インストールを中止してください。
インストールの中止後，再起動を実行します。

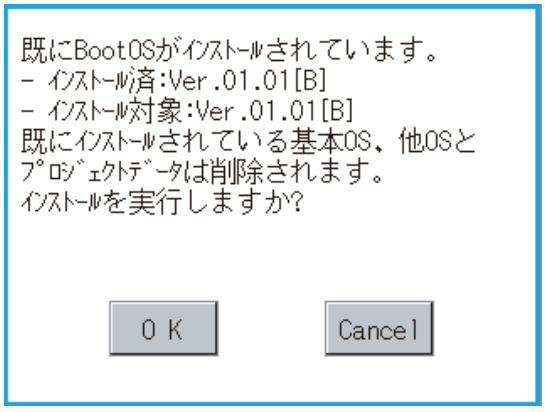
(b) データストレージにBootOS ，システムアプリケーションを格納している場合

BootOSの インストールをスキップし，システムアプリケーションインストール以降の処理を行います。
既に、GOTにシステムアプリケーションがインストールされているときは下記のメッセージが表示されます。



OK ボタンをタッチすると，インストールを実行します。
Cancel ボタンをタッチすると，インストールを中止します。
インストールの実行，または中止後，再起動を実行します。

(c) データストレージ内の格納データ(前述(a),(b)の条件)に関係なく，バージョンが同一または，新しい場合バージョン情報と，継続する・しないを選択するダイアログボックスが表示されます。



<データストレージからBootOSをインストールした場合のGOT画面>

OK ボタンをタッチすると，インストールを実行します。

Cancel ボタンをタッチすると，インストールを中止します。

(2) システムアプリケーションインストール時

システムアプリケーションのインストール時は，各システムアプリケーションのバージョンを合わせるようにしてください。

各システムアプリケーションのバージョンが合っていない場合，システムアプリケーションはインストールできません。

<インストール処理が中断される場合>

基本システムアプリケーション	:	1. ○. ○
通信ドライバ	:	2. ○. ○
拡張システムアプリケーション	:	2. ○. ○

番号を合わせてください

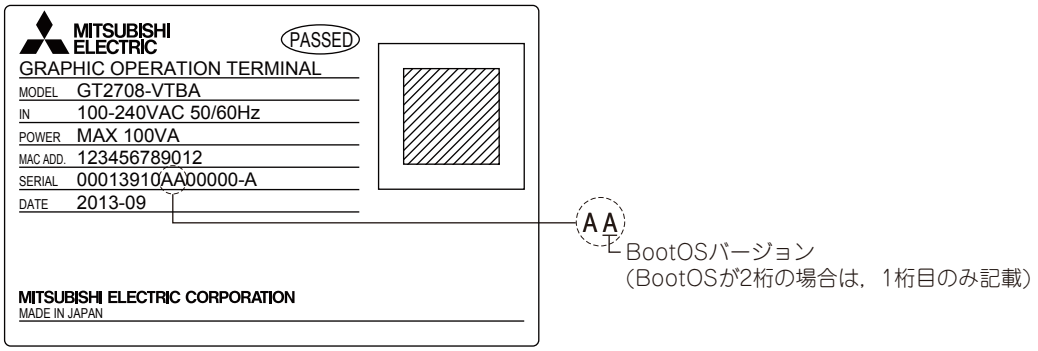
<インストール処理が正常実行される場合>

基本システムアプリケーション	:	2. ○. ○
通信ドライバ	:	2. ○. ○
拡張システムアプリケーション	:	2. ○. ○

POINT

BootOS，システムアプリケーションのバージョンの確認方法

製品出荷時にGOTにインストールされているBootOSのバージョンは，GOT背面の定格銘板で確認してください。



8. システムアラームの表示方法と一覧

GOTで表示されるシステムアラームについて説明します。

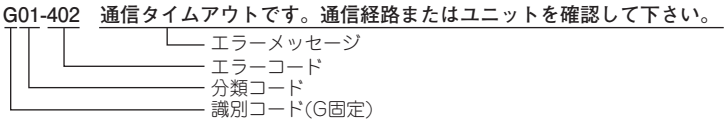
8.1 GOTでの表示

GOTでのシステムアラームの表示内容，表示方法を下記に示します。

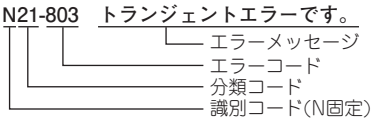
■1. システムアラームの表示内容

エラーの発生元により，表示内容が異なります。

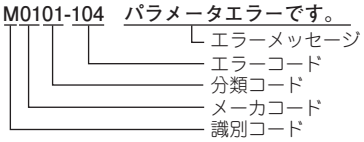
• GOTエラー



• ネットワークエラー



• CPUエラー



■2. システムアラームの表示方法

(1) GT Designer3で設定した表示方法で確認する

GT Designer3でシステムアラームの表示方法を設定できます。
GT Designer3での設定，表示内容の詳細は，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) ユーティリティで確認する

GT Designer3で表示方法を設定していない場合，ユーティリティのシステムアラーム表示でシステムアラームを確認できます。

➡ 4.5 システムアラーム

POINT

エラーコードまたはチャンネルNo.の確認方法

エラーコードまたはチャンネルNo.は，下記方法でも確認できます。

• エラーコード
  システム情報機能のエラーコード格納エリア
• チャンネルNo.
  GOT特殊レジスタ(GS262～GS264)

システム情報およびGOT特殊レジスタの詳細は，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

8.2　エラーコード，システムアラーム一覧

■1. GOTで表示するエラーコード

GOTで表示するエラーコードと参照マニュアルを下記に示します。

(1) GOTエラーコード，ネットワークエラーコード

エラーコード	エラーの発生元	内容	エラー発生チャンネルNo. 格納先 *1	参照先
300 ～ 399	GOT*2	GOT 本体機能のエラーコード	GS262*3	■3. システムアラーム一覧
400 ～ 499		GOT 通信機能のエラーコード		
500 ～ 699		GOT 本体機能のエラーコード		
800 ～ 999	ネットワーク	ネットワークのエラーコード	GS264	

*1　GOT特殊レジスタ(GS262～GS264)の詳細は，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

*2　ファイルアクセスに関するシステムアラームでは，アラームが発生しているドライブを確認できません。
システム信号2-2のファイルアクセスエラー信号(b7～b10)を確認することで，アラームが発生しているドライブを特定できます。

*3　エラーコードによっては，チャンネルNo.が格納されません。
エラーコードごとのチャンネルNo.格納有無は，下記を参照してください。

➡ ■3. システムアラーム一覧

(2) 接続機器エラーコード

エラーコード	エラーの発生元	内容	エラー発生チャンネルNo. 格納先 *1	参照先
1 ～ 32767	接続機器	各接続機器のエラーコード *2*3	GS263	各接続機器のマニュアル

*1　GOT特殊レジスタ(GS262～GS264)の詳細は，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

*2　FXCPUの場合，M8060～M8069の状態をエラーコード100～109で表示します。
例) エラーコード100のエラーが発生した場合，M8060のエラー処置を行ってください。

*3　サーボアンプの場合，GOTで表示するエラーコードは，サーボアンプで表示されるエラーコード(16進)を10進表記にして＋20000したものです。
そのため，GOTのシステムアラームで表示されるエラーコードをもとに，サーボアンプのマニュアルを参照する場合は，GOTのエラーコードを-20000して下3桁を16進に読みかえてください。
例) GOTのシステムアラームが20144の場合，サーボアンプのエラーコードは90Hとなります。

■2. システムアラームの識別コード，メーカコード，分類コード

システムアラームには，エラーのカテゴリを表す識別コード，エラーが発生した分野を表すメーカコードと分類コードが付加されます。
識別コード，メーカコード，分類コードの内容を下記に示します。

(1) 識別コード

識別コード	内容
G	GOT のエラー
N	ネットワークエラー（GOT に装着したネットワークユニットのエラー）
M	三菱電機製接続機器のエラー
C	他社接続機器，マイコン，MODBUS

(2) メーカコード

メーカコード	内容
01h	三菱電機株式会社
20h	マイコン接続，MODBUS
21h	オムロン社
22h	キーエンス社
23h	富士電機社（シーケンサ）
24h	富士電機社（温度調節器）
25h	安川電機社
26h	横河電機社
27h	パナソニック社，パナソニックデバイス SUNX 社
28h	東芝社
29h	東芝機械社
2Ah	日立産機システム社
2Bh	日立製作所社
2Ch	光洋電子工業社
2Dh	シャープマニファクチャリングシステム社
2Eh	ジェイテクト社
30h	神港テクノス社
31h	チノー社
32h	アズビル社
33h	理化工業社
34h	アイエイアイ社
36h	ALLEN-BRADLEY
37h	GE 社
38h	LS 産電社
39h	SICK 社
3Ah	SIEMENS 社

(3) 分類コード

識別コード，メーカコードにより，分類コードの内容が異なります。

識別コード	メーカコード	分類コード	内容
G	-	00h	モニタ機能，オブジェクト機能関連
		01h	通信，接続機器関連
		02h	操作関連
		03h	ファイルアクセス関連
N	-	21h	[MELSECNET/H]
		22h	[CC-Link IE コントローラネットワーク]
		23h	[CC-Link IE フィールドネットワーク]
		24h	[CC-Link Ver.2(ID)]
M	01h	00h	[シリアル (MELSEC)]
		01h	[CC-Link(G4)]
		02h	[マルチドロップ (スレーブ)]
		03h	[AJ71QC24, MELDAS C6*]
		04h	[AJ71C24/UC24]
		05h	[MELSEC-FX]
		06h	[MELSEC-WS]
		10h	[Ethernet(MELSEC), Q17nNC,CRnD-700, ゲートウェイ]
		11h	[Ethernet(FX), ゲートウェイ]
		20h	[バス接続 Q]
		21h	[MELSECNET/H]
		22h	[CC-Link IE コントローラネットワーク]
		23h	[CC-Link IE フィールドネットワーク]
		24h	[CC-Link Ver.2(ID)]
		25h	[バス接続 A/QnA]
		30h	[MELSERVO-J4,J3,J2S/M,JE]
		50h	[FREQROL 500/700/800, センサレスサーボ]
		51h	[FREQROL 800]
C	21h	00h	[オムロン SYSMAC]
		10h	[Ethernet(オムロン), ゲートウェイ]
	22h	00h	[キーエンス KV-700/1000]
		10h	[Ethernet(キーエンス), ゲートウェイ]
	23h	00h	[富士電機 MICREX-F]
	25h	00h	[安川電機 GL]
		01h	[安川電機 MP2000/MP900/CP9200SH]
		02h	[安川電機 CP9200(H)]
		03h	[安川電機 CP9300MS(MC 互換)]
		10h	[Ethernet(安川電機), ゲートウェイ]
	26h	00h	[横河電機 FA500/FA-M3/STARDOM]
		10h	[Ethernet(横河電機), ゲートウェイ]
	27h	00h	[パナソニック MEWNET-FP]
	28h	00h	[東芝 PROSEC T/V]
	29h	00h	[東芝機械 TCmini]

識別コード	メーカコード	分類コード	内容
C	2Ah	00h	[日立産機システム HIDIC H]
		01h	[日立産機システム HIDIC H (伝送手順 2)]
	2Bh	00h	[日立製作所 S10mini/S10V]
	2Ch	00h	[光洋電子 KOSTAC/DL]
	2Dh	00h	[シャープ JW]
	2Eh	00h	[ジェイテクト TOYOPUC-PC]
	36h	00h	[AB SLC500, AB 1:N 接続]
		01h	[AB MicroLogix]
		02h	[AB Control/CompactLogix]
		03h	[AB MicroLogix(デバイス拡張)]
		10h	[EtherNet/IP(AB), ゲートウェイ]
		11h	[EtherNet/IP(AB Tag), ゲートウェイ]
	37h	00h	[GE (SNP-X)]
	38h	00h	[LS 産電 MASTER-K]
	39h	00h	[SICK Flexi Soft]
	3Ah	00h	[SIEMENS S7-200]
		01h	[SIEMENS S7-300/400]
		10h	[Ethernet(SIEMENS S7), ゲートウェイ]
		11h	[Ethernet(SIEMENS OP), ゲートウェイ]
	21h	70h	[オムロン サーマック / インパネル NEO]
	24h	70h	[富士電機 PXR/PXG/PXH]
	26h	70h	[横河電機 GREEN/UT100/UT2000/UT Advance]
	30h	70h	[神港テクノス 調節計]
	31h	70h	[チノー調節計 (MODBUS)]
	32h	70h	[アズビル SDC/DMC]
		71h	[アズビル DMC50]
	33h	70h	[理化工業 SR Mini HG(MODBUS)]
	34h	90h	[アイエイアイ ロボシリンダ]
		91h	[アイエイアイ X-SEL]
	27h	30h	[パナソニック MINAS-A4]
		31h	[パナソニック MINAS-A5]
	20h	E0h	[MODBUS/RTU]
		E1h	[マイコン接続]
		F0h	[MODBUS/TCP, ゲートウェイ]
		F1h	[マイコン接続]

■3. システムアラーム一覧

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
302	プロジェクトデータに未対応の設定が含まれています。	GOT へパッケージデータを再度書き込んでください。	×
303	モニタ点数が多すぎます。設定数を減らして下さい。	表示している画面からオブジェクトの点数を減らしてください。1 画面の最大オブジェクト点数は，下記を参照してください。 ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ	×
305	システムパッケージのバックグラウンドロードに失敗しました	パッケージデータや GOT プロジェクトデータを格納したデータストレージが未装着，または，データが破損していないか確認してください。	×
306	プロジェクトデータがありません。画面データをダウンロードして下さい。	プロジェクトデータがダウンロードされていない，または画面データが不足しています。 プロジェクトデータまたは画面データをダウンロードしてください。	×
307	モニタデバイスが設定されていません。	オブジェクトのモニタデバイスが決定されていません。 オブジェクトのモニタデバイスを決定してください。	×
308	コメントデータがありません。コメントをダウンロードして下さい。	コメントファイルが存在しません。 コメントファイルを作成し，GOT にダウンロードしてください。	×
309	デバイス読み出しエラーです。デバイスを修正して下さい。	連続デバイスを読出ししたとき，エラーが発生しました。 デバイスを修正してください。	×
310	指定プロジェクトデータが存在しないまたは指定番号が範囲外です。	• 指定したベース画面 / ウィンドウ画面が，プロジェクトデータに存在しません。 • 指定したベース画面 / ウィンドウ画面が許容範囲外です。存在するベース画面 / ウィンドウ画面を指定してください。	×
311	アラーム履歴件数が上限を越えました。復旧した履歴を削除して下さい。	アラーム履歴表示機能で履歴件数が監視できる最大点数を超えました。 復旧した履歴を削除して件数を減らしてください。	×
312	散布グラフの収集回数が上限を超えました。収集データを消去して下さい。	散布グラフで “ メモリ保存 ”，“ 累積回数 / 平均値書込み ” の設定をしている場合に，収集回数が上限を超えました。 • 散布グラフで設定した “ 消去トリガ ” を成立させてください。 • 散布グラフの “回数オーバー時動作” を “初期化して継続” に設定してください。	×
315	デバイス書き込みエラーが発生しました。デバイスを修正して下さい。	デバイスへ書込みをしたとき，エラーが発生しました。 デバイスを修正してください。	×
316	演算結果の値が表示／入力できません。演算式を見直して下さい。	コメント / 部品番号の間接指定において，データ演算結果がデバイス型で表現できる範囲を超えました。 データ演算式を見直し，デバイス型で表現できる範囲を超えないようにしてください。	×
317	データ収集の発生頻度が高すぎます。収集条件を見直して下さい。	表示トリガ連動データ収集を設定したオブジェクトのデータ収集頻度が高すぎるか，同時に収集可能なオブジェクトの数を超えています。 • 各オブジェクトのトリガが発生する周期を長く設定してください。 • 表示トリガ連動データ収集を設定したオブジェクトの表示トリガが，同時に 257 個以上発生しないように設定してください。	×
320	指定部品が存在しないまたは指定番号が範囲外です。	部品ファイルが存在しません。 部品ファイルを作成し，GOT にダウンロードしてください。	×
322	指定デバイス No. が範囲外です。使用可能範囲を確認して下さい。	モニタするデバイス No. が対象シーケンサ CPU の許容範囲外です。 モニタするシーケンサ CPU およびパラメータ設定により，モニタ可能範囲のデバイスを設定してください。	×

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No.格納有無
326	ラベルのデータ型が不一致です。ラベル設定内容を確認して下さい。	• ラベルに割り付けされたデバイスのデータ型が不正です。 使用できるグローバルラベルのデータ型は，下記を参照してください。 ➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ • オブジェクトなどのデータ形式とシーケンサのラベルのデータ型が不一致です。 シーケンサのラベルのデータ型に合わせて、プロジェクトデータのデータ形式を修正してください。 • ラベルに定数値が設定されています。 オブジェクトの設定から，定数値を設定したラベルを使用しないでください。 • 64ビット型のデバイスがラベルに割り付けられています。 デバイス設定で64ビット型のラベルを使用しないでください。	×
327	ラベル名が未解決です。ラベル名の再解決を実施して下さい。	シーケンサの接続状態を確認して，再度ラベル名解決を実行してください。 ➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ	×
328	ラベル設定異常です。ラベル設定内容を確認して下さい。	• ラベル未対応のシーケンサに対して，ラベルを設定しています。 ネットワークNo、局番を確認し修正してください。 • プロジェクトデータで指定したラベル名がシーケンサ側に存在していません。 プロジェクトデータで設定したラベル名がシーケンサ側に存在するか確認してください。 • 外部機器からのアクセスが無効のラベルに対してアクセスしています。 シーケンサ側のラベル設定で外部機器からのアクセスを有効にしてください。 • デバイスを手動で割り付けたメンバを持つ構造体型をデータ型としているグローバルラベルは，ラベル名解決できません。 メンバのデバイスを自動割り付けに変更するか，手動で割り付けたデバイスを，モニタデバイスに直接設定してください。	×
329	ラベルは局番切換えできません。	ラベルを使用中の局番に対して，局番切り換えを行わないでください。	×
330	メモリカードの容量不足です。容量を確認して下さい。	メモリの空き容量が不足しています。 メモリカードの空き容量を確認してください。 GT Designer3 (GOT2000) ヘルプに記載のシステム情報画面で確認することができます。	×
331	ドライブにメモリカードが未装着または SD カードカバーが開いています。	ドライブにメモリカードが装着されていない，または SD カードカバーが開いた状態になっています。 • 指定ドライブにメモリカードを装着してください。 • SD カードカバーを閉じて，SD カードをアクセス可能な状態にしてください。	×
332	メモリカードが未フォーマットです。	メモリカード（内蔵 SD カード）がフォーマットされていない，または不正なフォーマットです。メモリカードをフォーマットしてください。	×
333	メモリカードがライトプロテクトのため書き込みできません。	メモリカード（内蔵 SD カード) がライトプロテクトされています。 メモリカードのライトプロテクトを解除してください。	×
334	メモリカードが異常です。メモリカードを交換して下さい。	メモリカード（内蔵 SD カード) が異常です。 メモリカードを交換してください。	×
337	ファイルの出力に失敗しました。出力先を確認して下さい。	保存先 SD カード /USB メモリの中に，作成するファイルと同名である下記のいずれかが存在します。 • データが格納されているフォルダ • 書込み禁止のファイル 上記フォルダ，またはファイルを削除するか，作成するファイル名を変更してください。	×

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
338	モデムが正しく接続されていないか電源が投入されていません。	モデムが正しく接続されていないか，電源が投入されていないため，初期化コマンドに対する応答がありません。 ・モデムの接続を確認してください。 ・モデムの電源を投入してください。	×
339	モデムの初期化に失敗しました。初期化コマンドを確認して下さい。	初期化コマンドが不正なため，モデムからエラーが返されました。 ・モデムの初期化コマンドを確認してください。	×
340	プリンタでエラー発生または電源が投入されていません。	プリンタの異常，またはプリンタの電源が投入されていません。 ・プリンタを確認してください。 ・プリンタの電源を投入してください。	×
342	外部入出力ユニットの外部電源が未供給です。	外部入出力インタフェースユニットで異常が発生しました。 ・外部電源（DC24V）が未供給の場合，外部電源を供給してください。 ・外部電源が供給されている場合，外部入出力インタフェースユニットを交換してください。	×
343	外部入出力ユニットの装着不良です。脱落がないか確認して下さい。	外部入出力インタフェースユニットが正しく装着されていません。 外部入出力インタフェースユニットを正しく装着してください。	×
345	BCD ／ BIN 変換エラーが発生しました。データを修正して下さい。	BCD/BIN 変換できない値を表示 / 入力しようとしています。 ・表示対象のデバイスデータを BCD 値にしてください。 ・入力値を整数 4 桁にしてください。	○
360	除数 0 で除算エラーが発生しました。演算式を見直して下さい。	データ演算式で除算 0 が発生しました。 データ演算式を見直し，除数が 0 にならないようにしてください。	×
361	指定ファイル番号が範囲外です。	入力されたファイル番号の値が範囲外になっています。 入力したファイル番号の値を確認して，適正な値（1 ～ 9999）を入力してください。	×
362	タイムアクション設定デバイス値が不正です。	タイムアクションの外部制御を行う際，設定 No. が範囲外になっているか，動作設定に関するデバイス値が範囲外の値，または不正な値になっています。 有効な値を設定してください。	×
370	上下限値の大小関係に矛盾があります。設定内容を確認して下さい。	上下限値の設定内容が［上限＜下限］になっています。 上下限値の設定内容を確認し，［上限≧下限］になるよう修正してください。	×
380	増設ドライブの容量不足です。容量を確認して下さい。	増設ドライブの空き容量が不足してます。 容量を確認して容量が少ない場合は空き容量を増やしてください。	×
381	増設ドライブが未装着または取り外し可能状態です。	増設ドライブが装着されていない場合は増設ドライブを装着してください。 増設ドライブが取り外し可能状態の場合は，再度増設ドライブを装着してください。	×
382	増設ドライブが未フォーマットです。	増設ドライブがフォーマットされていない， または GOT に適合しないフォーマット形式です。 増設ドライブを再度フォーマットしてください。	×
383	増設ドライブがライトプロテクトのため書き込みできません。	増設ドライブがライトプロテクトされています。 増設ドライブのライトプロテクトを解除してください。	×
384	増設ドライブが異常です。増設ドライブを交換して下さい。	増設ドライブの異常です。 増設ドライブを交換してください。	×

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
402	通信タイムアウトです。通信経路またはユニットを確認して下さい。	通信時にタイムアウトエラーが発生しました。 ・ケーブル抜け，通信ユニットの装着状態，シーケンサの状態を確認してください。 マルチチャンネル機能使用時にエラーが発生した場合，エラーコード，エラーメッセージにエラーが発生したチャンネル No. は表示されません。 下記マニュアルを参照して，エラーが発生したチャンネル No. を特定してください。 ☞ 使用する接続機器に対応する GOT2000 シリーズ接続マニュアル GT Works3 Version1 対応（1.6 正常にモニタしているか確認する） ・他局アクセス時，シーケンサ CPU の負荷が重くなると発生する場合がありますので，そのときは他局のデータを自局のシーケンサ CPU へ移し，自局でモニタしてください。 ・シーケンススキャンが長い場合は，COM 命令を入れてください。 ・通信ドライバのバージョンが接続機器に対応しているバージョンか確認してください。 通信ドライバのバージョンの確認方法は，下記を参照してください。 ☞ GT Designer3（GOT2000）ヘルプ	○
403	通信の SIO 受信ステータスが異常です。通信経路・ユニットを確認して下さい。	RS-422/RS-232 通信の受信時に，オーバランエラー，パリティビットエラー，フレーミングエラーのいずれかのエラーが発生しました。 ケーブル抜け，通信ユニットの装着状態，シーケンサの状態，計算機リンクの伝送速度を確認してください。 マルチチャンネル機能使用時にエラーが発生した場合，エラーコード / エラーメッセージにエラーが発生したチャンネル No. は表示されません。 下記マニュアルを参照して，エラーが発生したチャンネル No. を特定してください。 ☞ 使用する接続機器に対応する GOT2000 シリーズ接続マニュアル GT Works3 Version1 対応（1.6 正常にモニタしているか確認する）	○
406	指定局がアクセス範囲外です。局番を確認して下さい。	・CC-Link 接続（G4 経由）時にマスタ / ローカル局以外の局番を指定しています。 ・QCPU 以外のシーケンサ CPU にアクセスしました。 プロジェクトデータの局番を確認してください。	○
407	他ネットワークにアクセスしました。設定を変更して下さい。	・GOT と同一ネットワークをモニタする場合 MELSECNET/H，MELSECNET/10(PC 間ネット) および CC-Link IE コントローラネットワーク接続時に他ネットワークにアクセスしました。プロジェクトデータのネットワーク No. を確認し，他ネットワークにアクセスしないようにしてください。 ・他ネットワークをモニタする場合 GT Designer3 の「ルーチング情報」の設定内容を見直してください。または，GX Developer の「ルーチングパラメータ」の設定を見直してください。 ・GT15-75J71LP23-Z,GT15-75J71BR13-Z を使用する場合 他ネットワークのモニタはできません。 プロジェクトデータのネットワーク No. を確認し，他ネットワークにアクセスしないようにしてください。	○
410	PC が RUN 中のため操作できません。PC を STOP させて下さい。	シーケンサ CPU の RUN 中にできない操作をしました。 シーケンサ CPU を STOP させてください。	○
411	PC に装着したメモリカセットが書き込み禁止状態です。メモリカセットを確認下さい。	シーケンサ CPU に装着したメモリカセットが EPROM，または E^2PROM でプロテクトがかかった状態です。 シーケンサ CPU に装着したメモリカセットを確認してください。	○

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
412	キーワードによりモニタ / 書き込み禁止状態です。キーワードを解除して下さい。	シーケンサ CPU にキーワードが設定されています。 キーワードを解除してください。	○
420	E71 の指定が ASCII です。	シーケンサ側の「Ethernet 動作設定」が「ASCII コード交信」になっています。 「バイナリコード交信」に設定してください。	○
421	E71 が書込み禁止に設定されています。禁止を解除して下さい。	シーケンサ側の Ethernet ユニットが，書込み禁止に設定されています。 シーケンサ側の Ethernet ユニットを書込み可能に設定してください。	○
422	CPU と E71 の間で交信ができません。CPU の異常を確認して下さい。	シーケンサ CPU の異常，シーケンサ CPU とシーケンサ側の Ethernet ユニットが交信できません。 GX Developer などでシーケンサ CPU に異常がないか確認してください。(バッファメモリを確認)	○
423	ネットワークテーブルに局情報が不足しています。局番を追加して下さい。	GT Designer3 の Ethernet 設定に，プロジェクトデータで設定している局番，および局番切換えデバイスに設定された局番が存在しません。 • GT Designer3 の Ethernet 設定に，プロジェクトデータで設定している局番を追加してください。 • 局番切換えを使用している場合には，局番切換デバイスの内容を確認してください。 Ethernet 設定にその局番が設定されていない場合は，局番を追加してください。 システムに局番が存在しない場合には，局番切換えデバイスの内容を見直してください。 (GX Developer のパラメータ設定で設定している，シーケンサ側の Ethernet ユニットの局番と同じになるようにしてください。)	○
424	GOT とプロジェクトデータで同じ局が設定されています。通信設定を確認下さい。	GOT のユーティリティで設定した局番が，GT Designer3 の Ethernet 設定で設定した局番 (シーケンサ側の Ethernet ユニットの局番) やプロジェクトデータで設定した局番と同じになっています。 下記の内容を確認し，局番が重ならないようにしてください。 • GOT のユーティリティで GOT の局番を確認してください。 • プロジェクトデータで設定している局番を確認してください。 • Ethernet 設定で設定している局番を確認してください。 (GX Developer のパラメータ設定で設定しているシーケンサ側の Ethernet ユニットの局番と同じになるようにしてください。) • 局番切換えが対象の場合には，局番切換えデバイスの内容を確認してください。	○
425	IP アドレスの重複を検出しました。設定を確認下さい。	他の機器と IP アドレスの重複が検出されました。 GOT または他の機器の IP アドレスを変更してください。	○
430	無線ユニットが未装着，又は H/W 異常です。	側面インタフェースに無線 LAN 通信ユニットが装着されていません。 無線 LAN 通信ユニットが正しく装着されているか確認をしてください。	×
431	接続可能なアクセスポイントが見つかりません。	接続可能なアクセスポイントの設定と、無線接続設定を確認してください。	×
432	無線接続設定が実施されていません。	無線接続設定にて設定後，無線機能を有効にしてください。 設定内容を変更する方法は，下記を参照してください。 ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ	×
433	アクセスポイントとの認証に失敗しました。	アクセスポイント側で設定されている認証方式の設定が，無線接続設定で設定されているかを確認してください。	×
440	ラベル情報を更新しました。	自動的にラベル名解決が実行されます。 完了するまでお待ちください。	×
441	指定先 CPU がラベル情報を更新中です。	指定先 CPU のグローバルラベル情報更新が実行されます。 完了するまでお待ちください。	×

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
448	ファイルレジスタ等の範囲外のデバイスが含まれています。設定を確認下さい。	シーケンサ CPU のファイルレジスタ，バッファメモリの範囲外のデバイスを指定しました。 シーケンサ CPU のファイルレジスタを設定して，モニタデバイスも修正してください。	○
449	指定デバイス No. が範囲外です。使用可能範囲を確認して下さい。	モニタする特殊ユニットのモニタ可能範囲のアドレスを設定してください。	○
450	二重化システムで，経路の切替または，タイムアウトが発生しました。	二重化システムで経路の切替えが発生または，タイムアウトが発生しました。 ・経路の切り替わりが発生していないか，シーケンサ CPU を確認する ・ケーブル抜け，通信ユニットの装着状態，シーケンサ CPU の状態を確認する ・他局アクセス時，シーケンサ CPU の負荷が重くなると発生する場合がありますので，そのときは他局のデータを自局のシーケンサ CPU へ移し，自局でモニタしてください。 ・シーケンススキャンが長い場合は，COM 命令 /END 処理延長 / 一般データ処理の回数設定 / データ更新一括処理のいずれかを実施してください。	○
451	Q 二重化設定と実システム構成が一致していません。	Q 二重化 CPU システムに合わせて，Q 二重化設定を変更してください。	○
460	通信ユニットが異常です。	・GOT の電源をリセットしてください。 ・ユニットを交換してください。	○
480	通信チャンネルが未設定です。ユーティリティより通信チャンネルを設定して下さい。	接続機器と通信するためのチャンネル (CH No.1 ～ 4) が設定されていません。 ・GT Designer3 で接続機器設定後，接続機器設定を GOT にダウンロードしてください。 ・ユーティリティの接続機器設定で，チャンネルの割付けを変更してください。	○*1
481	通信チャンネルを設定済みのスロットに通信ユニットが未装着です。	チャンネル (CH No.1 ～ 4) が設定されているインタフェースに通信ユニットが装着されていません。 ・チャンネル(CH No.1～4)が設定されているインタフェースに通信ユニットを装着してください。 ・接続機器設定でチャンネル(CH No.1～4)の割当てを変更してください。	○*1
482	同一ユニットの装着可能数を超えています。装着可能数を確認して下さい。	GOT に装着されているユニットが，装着可能数を超えています。ユニットの数を確認して，不要なユニットを取り外してください。	○*1
483	排他的にしか装着できない異種ユニットが同時に装着されています。	GOT に同時に装着できないユニットが，2 つ以上装着されています。装着されているユニットを確認して，不要なユニットを取り外してください。	○*1
484	装着位置が正しくないユニットがあります。装着位置を確認して下さい。	GOT に装着されているユニットの装着位置が間違っています。ユニットの装着位置を確認してください。	○*1
485	ユニットの装着可能数を超えています。装着可能数を確認して下さい。	GOT に装着されているユニットが，装着可能数を超えています。ユニットの数を確認して，不要なユニットを取り外してください。	○*1
486	通信ユニットと通信ドライバ情報が不一致です。設定内容を確認して下さい。	接続機器設定で設定されている通信ドライバと，GOT に装着されている通信ユニットの組み合わせが間違っています。 ・接続機器設定で設定されている通信ドライバが正しいか確認し てください。 ・GOT に装着されている通信ユニットが間違っていないか確認してください。	○*1
487	シーケンサと GOT の電源を再投入して下さい。	シーケンサと GOT の電源を再投入してください。	○

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
488	ユニットの装着可能数を超えています。装着可能数を確認して下さい。	GOT に装着されているユニットが，装着可能数を超えています。ユニットの数を確認して，不要なユニットを取り外してください。	○*1
489	チャンネル指定に動作していない CH が指定されています。	プロジェクトデータに，動作していないチャンネル No. が設定されています。 • プロジェクトデータに，不要なチャンネル No. の設定がないか確認してください。 • プロジェクトデータで設定しているチャンネル No. が，接続機器設定で設定されているか確認してください。	○*1
492	使用できない通信ユニットが装着されています。	GOT に使用できないユニットが装着されています。 使用できないユニットを取外してください。	○*1
500	GOT 内蔵バッテリの電圧が低下しています。	GOT 内蔵バッテリの電圧が低下しています。 GOT 内蔵バッテリを交換してください。	×
510	時計データとして入力された値が入力範囲外です。	時計データとして入力された値が入力範囲外となっています。 この場合入力値は受け付けません。 時計データとして入力する値の入力範囲を確認した後に再度適正な値を入力してください。	×
522	内容の異なるファイルを破棄して新しいファイルを作成しました。	内容の異なるファイルを破棄して新しいファイルを作成しました。 ファイル作成時に同一ファイル名で内容の異なるファイルが存在すると古いファイルを破棄して新しいファイルを作成しますので注意してください。	×
525	アラームログファイルが異常です。	アラームログファイル，およびアラームログファイルの保存先を確認してください。	×
526	ファイル変換に失敗しました。	ファイル変換で指定したファイルがありません。 変換対象ファイルを指定する設定を確認してください。	×
527	SRAM の容量が不足しています。	SRAM ユーザ領域の空き容量が不足しています。 • データの合計が保存容量を超えていないか，設定を確認してください。 • (使用していない / 不要な) データが格納されている場合, データを初期化して保存容量を確保してください。	×
528	SRAM に異常があり，データの書き込みに失敗しました。	GOT 本体の故障と考えられますので，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社，代理店または支社にご相談ください。	×
529	SRAM 内のデータ異常です。バッテリ状態を確認下さい。	バッテリ低下等で，SRAM 内のデータが不正となっています。 バッテリ状態の確認をしてください。	×
535	イメージファイルオープン中にエラーが発生しました。	SD カード /USB メモリ内にファイル SD が存在するか確認してください。	×
536	イメージファイルが異常，または非対応形式です。	• SD カード /USB メモリ内のイメージファイルが正常か確認してください。 • 対応していない形式のイメージファイルが格納されていないか確認してください。	×
562	指定したシステム言語に対応する適切なフォントをインストールして下さい。	システム言語切換えで指定したシステム言語に対応する適切なフォントがインストールされていません。 適切なフォントをインストールしてください。	×
571	D ドライブの空き容量がありません。	D ドライブの空き容量がない。 D ドライブをメモリフォーマットし，空き領域を確保してください。	×
581	レシピファイルの内容が正常ではありません。	内容が正しくないレシピファイルが存在するため，レシピを実行できません。該当するレシピファイルを SD カード /USB メモリから削除してください。	×

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
582	レシピファイルの生成に失敗しました。	レシピファイルの生成に失敗しました。下記の内容を確認し，再度レシピ処理を実行してください。 ・SD カード /USB メモリが装着されているか確認してください。 ・SD カードカバーを閉じて，SD カードをアクセス可能な状態にしてください。 ・SD カード /USB メモリの空き容量を確認してください。	×
583	レシピファイルへの書込みに失敗しました。	レシピファイルへの書込みに失敗しました。 ・SD カード /USB メモリのライトプロテクトを確認してください。 ・書込むファイルの属性が読み取り専用になっていないか確認してください。	×
584	レシピファイルへの書込み中にエラーが発生しました。	レシピファイル書込み中にエラーが発生しました。 レシピ動作中に SD カード /USB メモリを抜かないようにしてください。	×
585	レシピファイルの読込み中にエラーが発生しました。	レシピファイル読込み中にエラーが発生しました。 レシピ動作中に SD カード /USB メモリを抜かないようにしてください。	×
586	指定されたレシピ設定 ID が存在しません。	存在しないレシピ設定 ID を実行しようとしました。 存在するレシピ設定 ID を実行してください。	×
587	指定されたレコード No. が存在しません。	存在しないレコード No. を実行しようとしました。 存在するレコード No. を実行してください。	×
588	上書きできないレコードに対しレシピを実行しようとしました。	レシピデバイス値を編集できないレコードに対し，読出しレシピ実行しようとしました。 GT Designer3 のレシピ設定で，レコードのレシピデバイス値を編集可能にするか，レシピデバイス値が編集可能なレコードを指定してください。	×
589	ファイルを使用しない設定のレシピの読出し・変換を実行しようとしました。	ファイルを使用しない設定をしているレシピ設定に対し，読出しレシピを実行しようとしました。 ファイルを使用するレシピ設定を指定してください。	×
590	レシピデバイス値がないレコードからレシピの書き込みを実行しようとしました。	レシピデバイス値が設定されていないレコードを指定し，書込みレシピを実行しようとしました。 レシピデバイス値が設定されているレコードを指定してください。	×
591	レシピデータが異常です。レシピデータ内容を確認して下さい。	レシピの設定が正常でありません。 プロジェクトデータのレシピ設定を見直し，再度 GOT にダウンロードしてください。	×
593	流用元の G1P ファイルの設定がプロジェクトデータと異なります。	流用元の拡張レシピファイルのレシピの設定が GOT2000 のレシピファイルの設定と一致していないか，または，正しくありません。 レシピ設定が一致した拡張レシピファイルを使用してください。 または，メモリカードから不要な拡張レシピファイルを削除してください。	×
595	ロギングファイルが異常です。	ロギングファイルが異常です。 最初からデータを収集し直す場合は，ロギングファイル，管理ファイルを削除してください。	×
596	指定したロギング設定が存在しない，またはロギング設定が不正です。	指定したロギング設定が存在しない，またはロギング設定に誤りがあります。 ヒストリカルトレンドグラフ / ヒストリカルデータリストの設定を見直し，存在するロギング設定にあわせてください。	×
597	指定したロギング ID が存在しません。	・存在しているロギング ID をロギング ID 外部制御デバイスに指定してください。 ・ロギング ID 特定方法指定機能で間接（デバイス）を選択して，ロギング設定に存在するロギング ID を指定してください。	×

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
598	指定したロギング設定が不適合です。	• ロギング ID のロギングデバイスとヒストリカルトレンドグラフで指定したデバイスのデータ形式が同じになるように設定してください。 • ロギング ID 外部制御デバイスに指定したロギング ID のロギングデバイスを，ヒストリカルトレンドグラフで指定したデバイスの型と一致させてください。	×
601	プリンタユニットが異常です。	プリンタユニットが正しく装着されていない，内蔵フラッシュメモリの故障または寿命です。 プリンタユニットが正しく装着されているか確認してください。 プリンタユニットが正しく装着されている場合は，内蔵フラッシュメモリの故障または寿命のため，プリンタユニットを交換してください。	×
602	ビデオ /RGB 入力ユニットが未装着です。	• ビデオ /RGB 入力ユニットが装着されているか，確認してください。 • ビデオ /RGB 入力に対応した GOT を使用しているか，確認してください。	×
603	外部入出力ユニットが異常です。	外部入出力ユニットが正しく装着されているか確認してください。	×
604	音声出力ユニットが異常です。	音声出力ユニットが正しく装着されているか確認してください。	×
605	USB デバイス I/F が異常です。	GOT の故障が考えられますので，最寄りの三菱電機システムサービス株式会社，代理店または支社にご相談ください。	×
606	マルチメディアユニットが未装着です。	マルチメディアユニットが正しく装着されていません。 マルチメディアユニット正しく装着されているか確認してください。	○ *1
610	実行メモリ容量が不足しています。	MES インタフェース機能を実行するためのメモリが確保できていません。 不要なファイルを削除して，メモリを確保してください。	×
611	ジョブファイルが異常です。ジョブファイル内容を確認して下さい。	ジョブファイルの内容と設定が一致していません。 設定画面で設定内容に間違いがないか確認してください。	×
612	ログファイルにアクセスできません。メモリーカードを確認して下さい。	• SD カード /USB メモリを装着してください。 • SD カードカバーを閉じて，SD カードをアクセス可能な状態にしてください。 • SD カード /USB メモリ内に不要なファイルがある場合，削除してください。	×
613	ログファイル書込み中にエラーが発生しました。	• SD カード /USB メモリを装着してください。 • SD カードカバーを閉じて，SD カードをアクセス可能な状態にしてください。 • SD カード /USB メモリが書込み可能か確認してください。	×
614	ログファイル読込み中にエラーが発生しました。	• SD カード /USB メモリを装着してください。 • SD カードカバーを閉じて，SD カードをアクセス可能な状態にしてください。 • SD カード /USB メモリが読込み可能か確認してください。	×
615	サーバアクセスに失敗しました。サーバを確認して下さい。	サーバが正しく動作していないか，サーバとの接続経路が正しく構成できていません。 • サーバの動作状況を確認してください。 • サーバまでのネットワークを確認してください。	×
616	SNTP サーバアクセスに失敗しました。サーバを確認して下さい。	SNTP サーバの設定が間違っているか，SNTP サーバとのネットワークが正しく構成できていません。 • SNTP サーバの動作状況を確認してください。 • SNTP サーバまでのネットワークを確認してください。	×
630	動画ファイル保存に失敗しました。	CF カードの空き領域，装着状態，書込み禁止の解除，フォーマット済み，保存ファイル数を確認してください。	×
631	動画ファイルのネットワーク保存に失敗しました。	ファイルサーバでパソコン連携ソフトウェアの起動，GOT の Ethernet の FTP 機能が有効，GOT とファイルサーバのネットワーク設定，GOT 装着の SD カードの空き領域を確認してください。	×

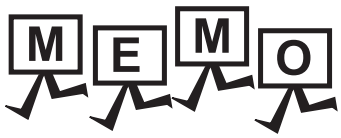
エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
632	マルチメディア処理中に異常を検出しました。	GOT の電源を OFF にして，マルチメディアユニットの装着状態の確認またはマルチメディアユニットの交換をしてください。	×
633	ユニットソフトウェアバージョンが最新ではありません。	GOT のユーティリティで，対応した最新のマルチメディアユニットソフトウェアをインストールしてください。	×
634	ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ用 CF カードの空き容量不足のため録画を停止します。	マルチメディアユニットに装着されている CF カードを交換するか，不要なファイルを削除してください。	×
640	FTP クライアント処理でエラーが発生しました。	GOT(FTP クライアント) の設定を見直してください。 FTP サーバの稼働状況 , ネットワーク回線を確認してください。 エラーの詳細は，GOT 特殊レジスタの GS989(FTP 通信エラー通知) を確認してください。 GOT 特殊レジスタの詳細は，下記を参照してください。 ☞ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ	×
641	ライセンスキーが未登録です。ライセンスを確認下さい。	VNC® サーバ機能，パソコンリモート操作（Ethernet），または，MES インタフェース機能のライセンス番号を GOT に登録してください。	×
699	BootOS のバージョン不足です。	新しいバージョンの BootOS をインストールしてください。	×
800	ユニット状態エラーです。	使用しているネットワークのマニュアルに記載している，SB0020 の説明項を参照してください。 CC-Link IE フィールドネットワークの場合，MELSEC-Q CC-Link IE フィールドネットワークマスタ・ローカルユニットのマニュアルを参照してください。	○
801	バトンパス状態異常です。	使用しているネットワークのマニュアルに記載している，SB0047 の説明項を参照してください。	○
802	自局データリンク状態異常です。	使用しているネットワークのマニュアルに記載している，SB0049 の説明項を参照してください。	○
803	トランジェントエラーです。	使用しているネットワークのマニュアルに記載している，SB00EE の説明項を参照してください。	○
804	自局の IN 側の光ケーブルが断線または，接続されていません。	使用しているネットワークのマニュアルに記載している，SB0067 の説明項を参照してください。	○
805	自局の OUT 側の光ケーブルが断線または，接続されていません。	使用しているネットワークのマニュアルに記載している，SB0068 の説明項を参照してください。	○
850	スイッチ状態設定エラーが発生しました。	• スイッチ設定に誤りがないか確認してください。 • SW006A 格納されたエラーコードを確認してください。 • 使用しているネットワークのマニュアルに記載している，SB006A 説明項を参照してください。	○
851	自局データリンク状態異常が発生しました。	• 終端抵抗が接続されているか確認してください。 • シーケンサ CPU のエラーコードを確認してください。 • マスタ局のシーケンサ CPU のパラメータの内容を確認してください。 • マスタ局のエラー状態を確認してください。 • 使用しているネットワークのマニュアルに記載している，SB006E の説明項を参照してください。	○
852	自局回線状態が異常です。	• ケーブル状態を確認してください。 • 使用しているネットワークのマニュアルに記載している，SB0090 の説明項を参照してください。	○

エラーコード	エラーメッセージ	対処	チャンネル No. 格納有無
853	トランジェントエラーが発生しました。	• (SW0094 ～ SW0097) に格納された各局のトランジェント伝送エラーの発生状態を確認してください。 • SB0094 の説明項を参照してください。	○

2部

GT21 ユーティリティ

9. ユーティリティ機能 . . . . . 9 - 1
10. 言語の設定（Language） . . . . . 10 - 1
11. 通信インタフェースの設定（接続機器設定） . . . . . 11 - 1
12. 表示と操作の設定 (GOT セットアップ) . . . . . 12 - 1
13. セキュリティレベルとオペレータの設定 (セキュリティの設定) . . . . . 13 - 1
14. 時計の設定とバッテリの状態表示（時計の表示 / 設定画面） . . . . . 14 - 1
15. 各種データ管理 (データ管理) . . . . . 15 - 1
16. GOT の自己診断 (保全機能) . . . . . 16 - 1
17. メンテナンス . . . . . 17 - 1
18. SD カードを使用したパッケージデータのインストール . . 18 - 1
19. BootOS，基本システムアプリケーションのインストール . . . . . 19 - 1


MEMO

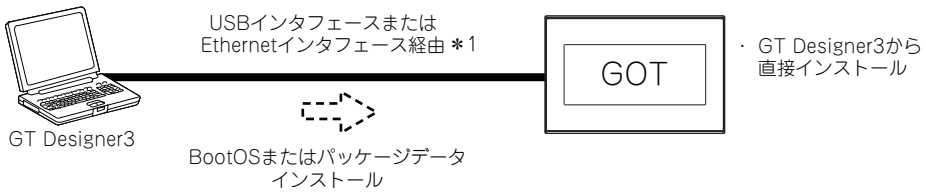
9. ユーティリティ機能

ユーティリティは，GOTと接続機器との接続，画面表示の設定，操作方法の設定，プログラム/データ管理，自己診断などを行うための機能です。

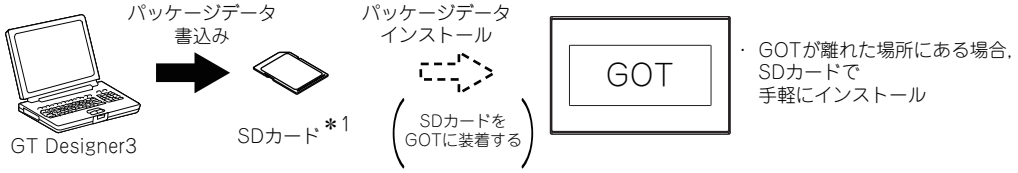
9.1 ユーティリティの実行について

ユーティリティを実行するためには，BootOS，パッケージデータをCドライブ(内蔵フラッシュメモリ) にインストールしてユーティリティを表示させる必要があります。
BootOS，パッケージデータのインストール方法には，以下の2通りがあります。

① GT Designer3→GOT



② GT Designer3→SDカード→GOT



GT Designer3を使用したインストールに関しては，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 Version1 ヘルプ

SDカードを使用したパッケージデータのインストール方法は、以下を参照してください。

➡ 18. SDカードを使用したパッケージデータのインストール

9.2 ユーティリティ機能一覧

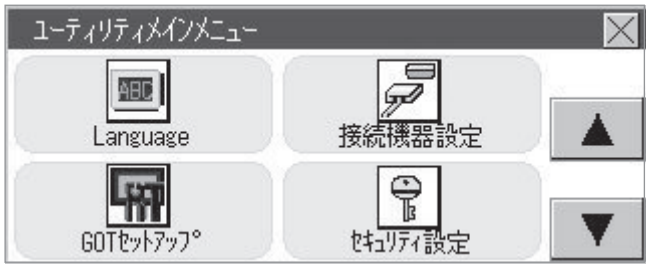
ユーティリティの各画面で設定・操作できる内容は下記のとおりです。

項目			機能概要	参照先
Language			メッセージ言語切換え	➡ 10.
接続機器設定	標準I/Fの設定		通信インタフェースへのチャンネル番号設定と通信ドライバの割付	➡ 11.1
	GOT Ethernet設定		GOT本体のEthernet設定	➡ 11.2
	通信モニタ		シリアル通信ポートの通信確認	➡ 11.3
	Ethernetチェック		Ethernet通信ポートの通信確認	➡ 11.4
	トランスペアレント設定		FAトランスペアレント機能使用時，通信対象のチャンネルNo.設定	➡ 11.5
	キーワード		FXCPU接続時，シーケンサプログラム保護用キーワード設定/削除/保護状態解除	➡ 11.6
GOT セットアップ	表示の設定		タイトル表示時間の設定	➡ 12.1
			タスクリーンセーブ時間の設定	
			輝度の調整	
	操作の設定		ブザー音の設定	➡ 12.2
			ウィンドウ移動時のブザー音の設定	
			キー反応速度の設定	
			タッチパネル調整	
			ユーティリティ呼出キーの設定	
	固有情報		GOT ID番号の設定	➡ 12.3
セキュリティの設定	セキュリティレベル認証		セキュリティレベル変更	➡ 13.1
	オペレータ認証		オペレータ管理	➡ 13.2
			パスワード変更	
			機能設定	
	ログイン/ログアウト			➡ 13.3
時計の表示 / 設定	時計の表示/設定			➡ 14.1
データ管理	システムアプリケーション情報		システムアプリケーション情報/ プロパティ表示/ データチェック	➡ 15.2
	リソースデータ情報	アラーム情報	アラームログファイルの削除/コピー アラームログファイルのG2A→CSV/TXT変換	➡ 15.3.1
		レシピ情報	レシピファイルのG2P→CSV/TXT変換 CSV/TXT→レシピファイルのG2P変換 レシピファイルの削除/コピー	➡ 15.3.2
		ロギング情報	ロギングファイルの削除/コピー	➡ 15.3.3
		画像ファイル管理	ハードコピーファイルの削除/コピー	➡ 15.3.4
	SD カードアクセス		SDカードのアクセス許可の設定	➡ 15.4
	メモリカードフォーマット		SDカードのフォーマット	➡ 15.5
	メモリクリア		GOT 内プロジェクトデータ，リソースデータのクリア	➡ 15.6
	データコピー		パッケージデータのインストール/アップデート	➡ 15.7
	バックアップ/リストア		シーケンスプログラム，パラメータ，設定値などのバックアップ/リストア	➡ 15.8

項目		機能概要	参照先
保全機能	デバイスモニタ	シーケンサのデバイスモニタ，テスト機能，インテリジェントユニットのバッファメモリモニタとバッファメモリの現在値変更	➠ 16.2
	FXリスト編集	FXシーケンサのシーケンスプログラムとパラメータの変更	➠ 16.2
	FX3U-ENET-ADP通信設定機能	FXCPU に格納しているFX3U-ENET-ADPの通信設定	➠ 16.2
メンテナンス	タッチパネル調整	表示部を掃除するための画面を表示	➠ 17.1
	タッチパネルチェック	タッチパネル動作のチェック	➠ 17.2
	画面掃除	表示部を掃除するための画面を表示	➠ 17.3

9.3 ユーティリティの表示

各種ユーティリティの設定画面を表示するためには，まずメインメニューを表示させる必要があります。



(1) メインメニュー

ユーティリティで設定できるメニュー項目が表示されます。
各メニュー項目部をタッチすると，それぞれの設定画面，または次の項目選択画面を表示します。

(2) システムメッセージ切換えボタン

ユーティリティの言語やシステムアラームの言語を切り換えるボタンです。
[Language]ボタンをタッチするとLanguage画面が表示されます。

Step 1. 表示させたい言語のボタンをタッチして，[確定]ボタンをタッチすると，言語が選択されます。

Step 2. [×]ボタンをタッチすると，ユーティリティの言語が選択した言語に切り換わります。

POINT

(1) GOT起動時に言語が選択されていない場合，または選択されている言語とGOTにインストールされているフォントに不整合が生じた場合

下記画面が表示されます。
表示させたい言語のボタンをタッチすると，GOTが再起動し，選択した言語に切り換わります。

(2) 選択できる言語

システムメッセージ切換えボタンは，選択できる言語のみ表示されます。
選択できる言語は，GOTにインストールされているフォントにより異なります。
選択できる言語とフォントの関係については，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(3) デバイスを使用したシステム言語の切り換え

GT Designer3 で設定したシステム言語切り換えデバイスを使用して，システム言語を切り換えできます。システム言語切り換えデバイスの設定方法は，下記を参照してください。

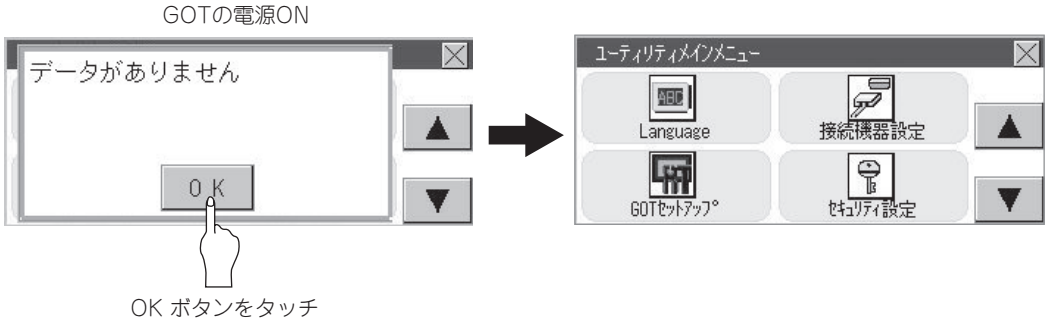
➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

9.3.1　メインメニューの表示操作

メインメニューは，下記4通りの操作で表示できます。
(いずれもGT Designer3から基本機能OSをGOTの内蔵フラッシュメモリへインストール後に行ってください。)

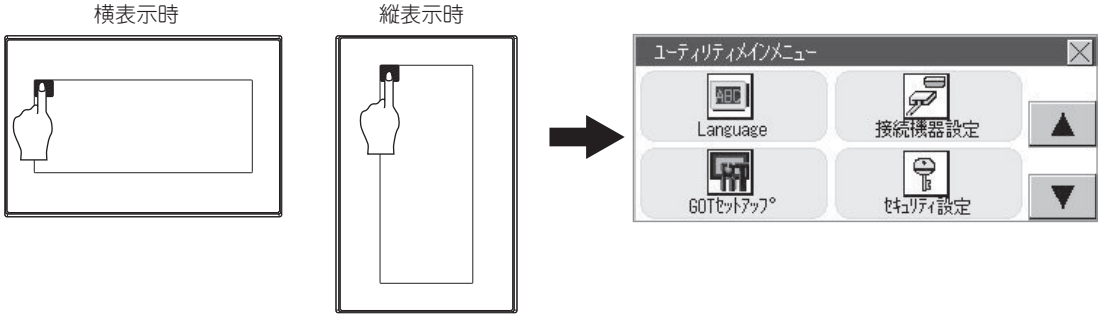
(1) プロジェクトデータ未ダウンロード時

GOTの電源をONすると，プロジェクトデータが存在しないことを通知するダイアログを表示します。表示後，[OK]ボタンをタッチするとメインメニューが表示されます。



(2) ユーティリティ呼出キータッチ時

ユーザ作成画面を表示中，ユーティリティ呼出キーをタッチするとメインメニューが表示されます。
工場出荷時のユーティリティ呼び出しキーの位置はGOTの画面左上隅です。



*1　*ユーティリティ機能の画面は横表示固定です。
*2

ユーティリティ呼び出しキーは，GOTのユーティリティまたはGT Designer3により設定できます。
ユーティリティ呼び出しキーの設定方法は，下記を参照してください。

➠ 12.2.5 ユーティリティ呼出キーの設定

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

POINT

(1) 2点以上の同時押し禁止

GOTの画面を2点以上同時にタッチしないでください。同時にタッチすると，タッチした部分以外が反応する場合があります。

(2) ユーティリティ呼出しキー押下時間について

ユーティリティ呼出しキーの設定画面で[押下時間]を0秒以外に設定した場合，[押下時間]以上タッチパネルを押し続けたあとに，タッチパネルから指を離してください。
ユーティリティ呼出しキーの設定については，下記を参照してください。

➠ 12.2.5 ユーティリティ呼出キーの設定

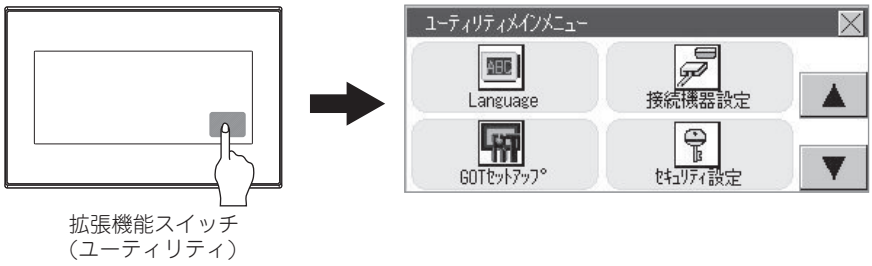
(3) ユーティリティ呼び出しキーを設定しない場合

ユーティリティ呼び出しキーを設定しない(0点に設定する)場合も，下記の操作でメインメニューを表示させることができます。

- ユーザ作成画面上に設定した拡張機能スイッチを押下する。
- 起動モード選択画面より[ユーティリティ]を選択する。

(3) 拡張機能スイッチ(ユーティリティ)タッチ時

ユーザ作成画面を表示中，拡張機能スイッチ(ユーティリティ)をタッチすると，メインメニューが表示されます。
拡張機能スイッチ(ユーティリティ)は，GT Designer3によりユーザ作成画面中に表示するタッチスイッチとして設定できます。



拡張機能スイッチ
(ユーティリティ)

拡張機能スイッチの設定に関する詳細は，下記を参照してください。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

POINT

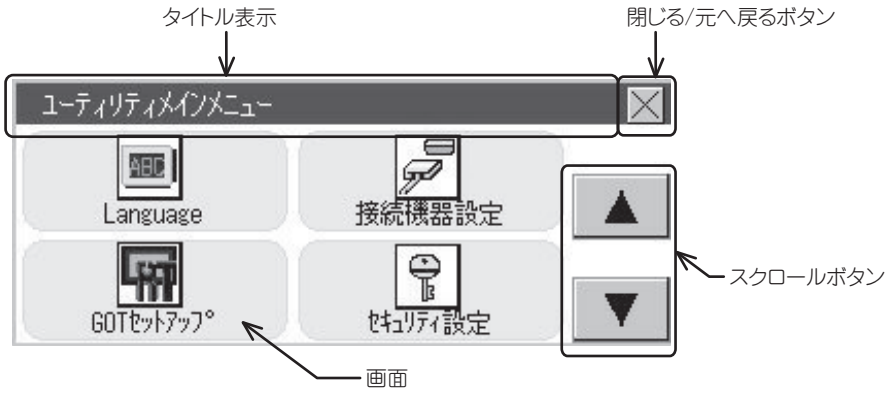
ユーティリティの表示，操作を制限する場合

ユーティリティの表示，操作するユーザを制限する場合，GT Designer3でGOTにパスワードを設定してください。ユーティリティのメインメニューを表示しようとすると，パスワード入力が表示されます。
パスワード設定に関する詳細は，下記を参照してください。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

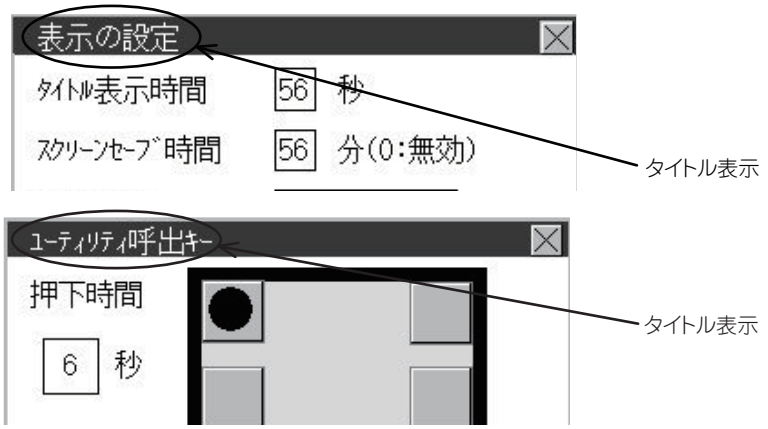
9.3.2 ユーティリティの基本構成

ユーティリティの基本構成は以下のとおりです。



(1) タイトル表示

タイトル表示部にはその画面のタイトル名が表示されます。



(2) 閉じる/元へ戻るボタン

階層の途中の画面が表示されているときに，画面右上隅にある[×](閉じる/元へ戻る)ボタンをタッチすると，1つ前の階層の画面へ戻ります。

モニタ画面から直接表示されたときに，このボタンをタッチすると画面を閉じ，モニタ画面へ戻ります。

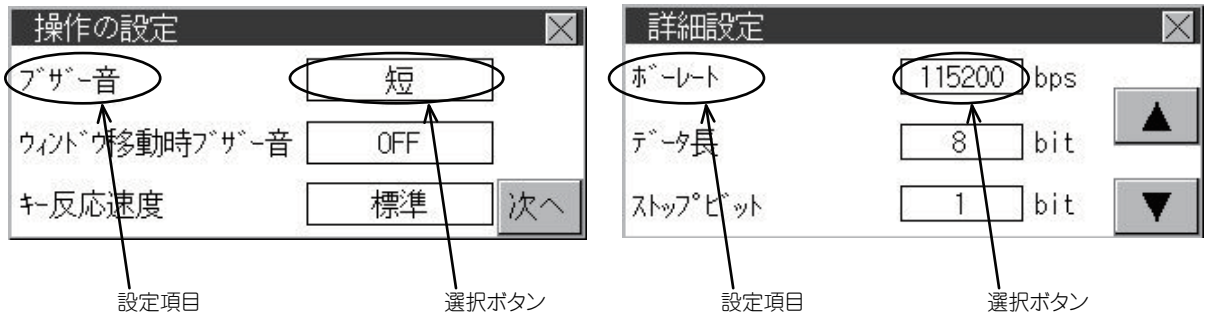
(3) スクロールボタン

画面1枚に収まりきらない内容をもつ画面には右，または下にスクロールボタンがあります。

▲▼ キーで1行あるいは1列分スクロールします。

9.3.3　設定変更の基本操作

■1. 設定値の変更



(1)　設定項目，選択ボタン

選択ボタンをタッチすることで，設定を変更できます。
設定項目により，設定方法は異なります。
設定方法には，下記のような種類があります。

(a)　設定値を切り換える

タッチするごとに あり なし のように，繰り返します。

(b)　キーボードで設定値を入力する

数値を入力するキーです。タッチすると，GOTの画面上にキーボードを表示します。
キーボードの操作は次ページを参照してください。

(c)　別の設定画面に移行する

タッチすると，各設定項目の設定画面に移行します。
各設定項目の設定方法は，各設定画面の設定操作を参照してください。

(2)　[×](閉じる/元へ戻る)ボタン

変更した設定の反映や，破棄を行います。

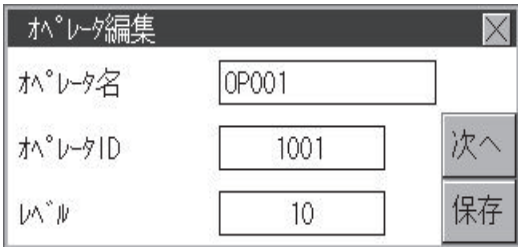
(a)　[×](閉じる/元へ戻る)ボタン

タッチすると，画面が閉じます。設定項目によっては，GOTが再起動します。
[×]ボタンをタッチすると下記のダイアログボックスが表示されます。
(変更した設定がない場合は表示されません)
ダイアログボックスのメッセージに従って操作してください。

POINT

保存メッセージ画面

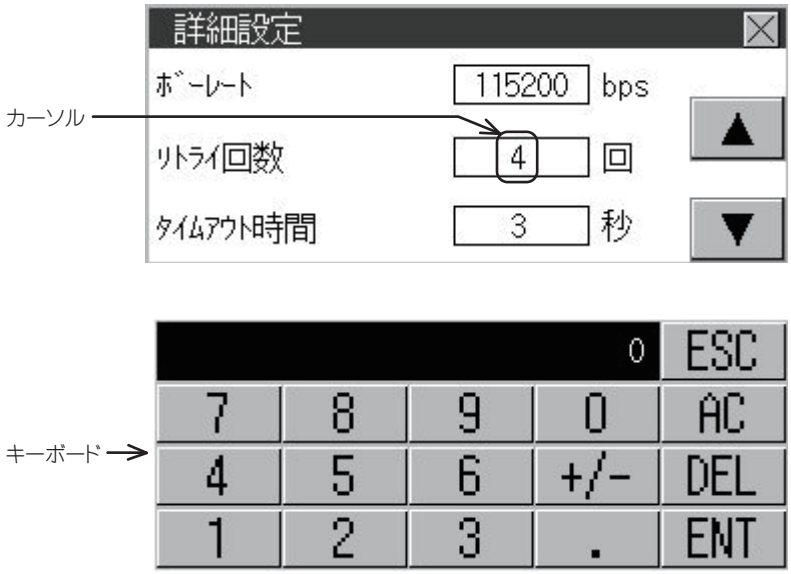
以下のような[保存]ボタンがある設定画面では，設定変更をした場合に[×]をタッチしても，上記保存メッセージ画面は表示されず，前画面に戻ります。設定内容を保存する場合は，必ず[保存]ボタンをタッチしてください。



■2. キーボードの操作

Step 1. 変更する数値をタッチしてください。

Step 2. 数値入力用のキーボードが表示され，同時にカーソルが表示されます。
キーボードはタッチされた数値の位置により表示される位置が変化します。
(数値入力の際，邪魔にならない位置に表示されます)。



Step 3. キーボードにより数値を入力してください
- [0]～[9]キー：数値を入力します。
- [Enter]キー：数値の入力を完了し，キーボードを閉じます。
- [Cancel]キー：数値の入力を中断し，キーボードを閉じます。
- [Del]キー：1文字取り消します。
- [AC]キー：すべての文字を取り消します。

Step 4. [Enter]キーをタッチすると入力を完了し，キーボードを閉じます。

10. 言語の設定（Language）

10.1　表示言語の設定

10.1.1　表示言語の設定機能

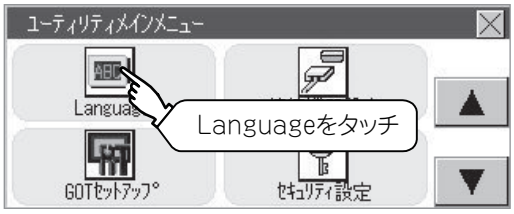
表示言語の選択ができます。
選択できる項目には下記のものがあります。

項目	内容	設定範囲
Language	ユーティリティとダイアログで表示される言語について，現在の言語の確認と言語の切換えができます。	日本語 / 英語 / 中国語 <工場出荷時：中国語>

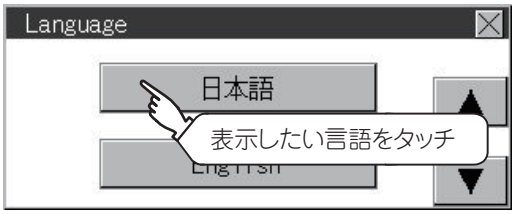
10.1.2　Languageの設定操作

■1. Language

メインメニュー



Step 1. 「Language」をタッチして設定画面を表示します。



Step 2. 表示させたい言語のボタンをタッチします。

Step 3. 設定を変更後，[×]ボタンをタッチしてください。
設定を確定し，設定画面を閉じます。

POINT

(1) デバイスによるユーティリティの表示言語切換え

任意のデバイスを使用して，ユーティリティの表示言語を切換えることができます。詳細は，下記を参照してください。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

デバイスを使用して，ユーティリティの表示言語切換えを行っている場合，GOT本体ユーティリティ画面から言語切換えを行ってもユーティリティ表示言語は切り換わりません

(2) 選択できる言語

システムメッセージ切換えボタンは，選択できる言語のみ表示されます。
選択できる言語は，GOT にインストールされているフォントにより異なります。
選択できる言語とフォントの関係については，下記を参照してください。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

MEMO

11. 通信インタフェースの設定（接続機器設定）

以下の通信インターフェースの設定を行うことができます。

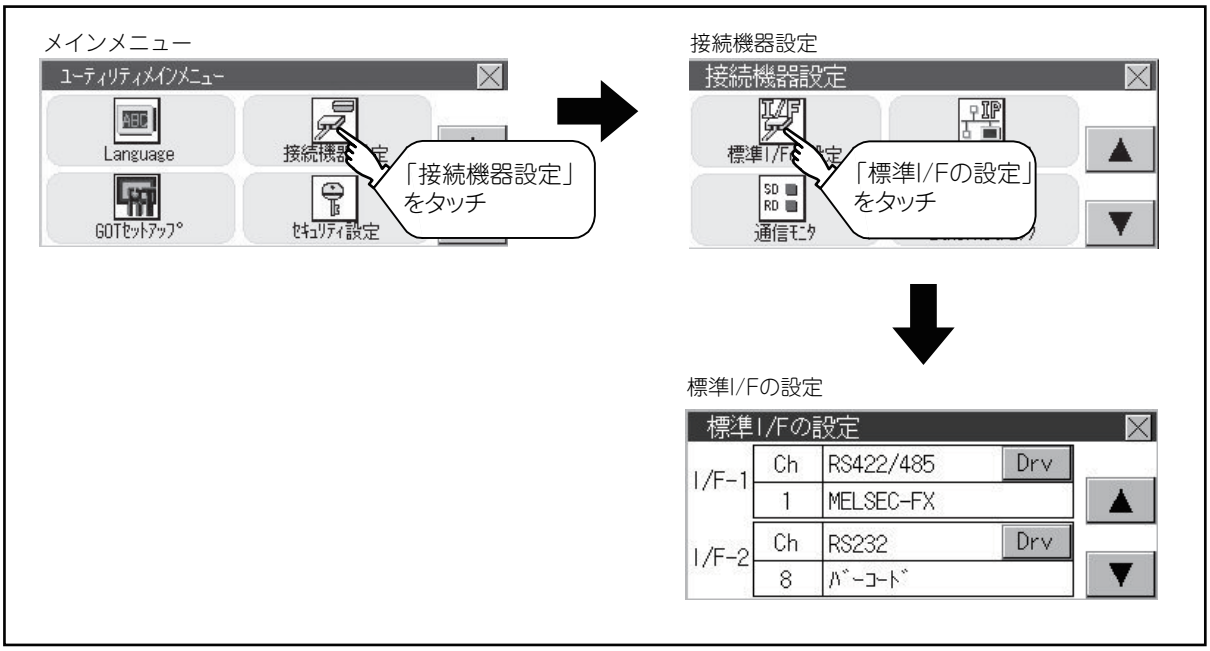
項目		機能概要	参照先
接続機器設定	標準I/Fの設定	通信インタフェースへのチャンネル番号設定と通信ドライバの割付	➠ 11.1
	GOT IPアドレス	GOT本体のEthernet設定	➠ 11.2
	通信モニタ	シリアル通信ポートの通信確認	➠ 11.3
	Ethernetチェック	Ethernet通信ポートの通信確認	➠ 11.4
	トランスペアレント設定	FAトランスペアレント機能使用時，通信対象のチャンネルNo.設定	➠ 11.5
	キーワード	FXCPU接続時，シーケンサプログラム保護用キーワード設定/削除/保護状態解除	➠ 11.6

11.1 標準I/Fの設定

11.1.1 標準I/Fの設定機能

機能	内容
チャンネル番号表示	作画ソフトウェアで割付けられたチャンネル番号（CH No）を表示します。
通信ドライバ表示	作画ソフトウェアで割付けられた通信ドライバを表示します。
通信パラメータ表示	作画ソフトウェアで設定された接続機器の通信パラメータを表示します。

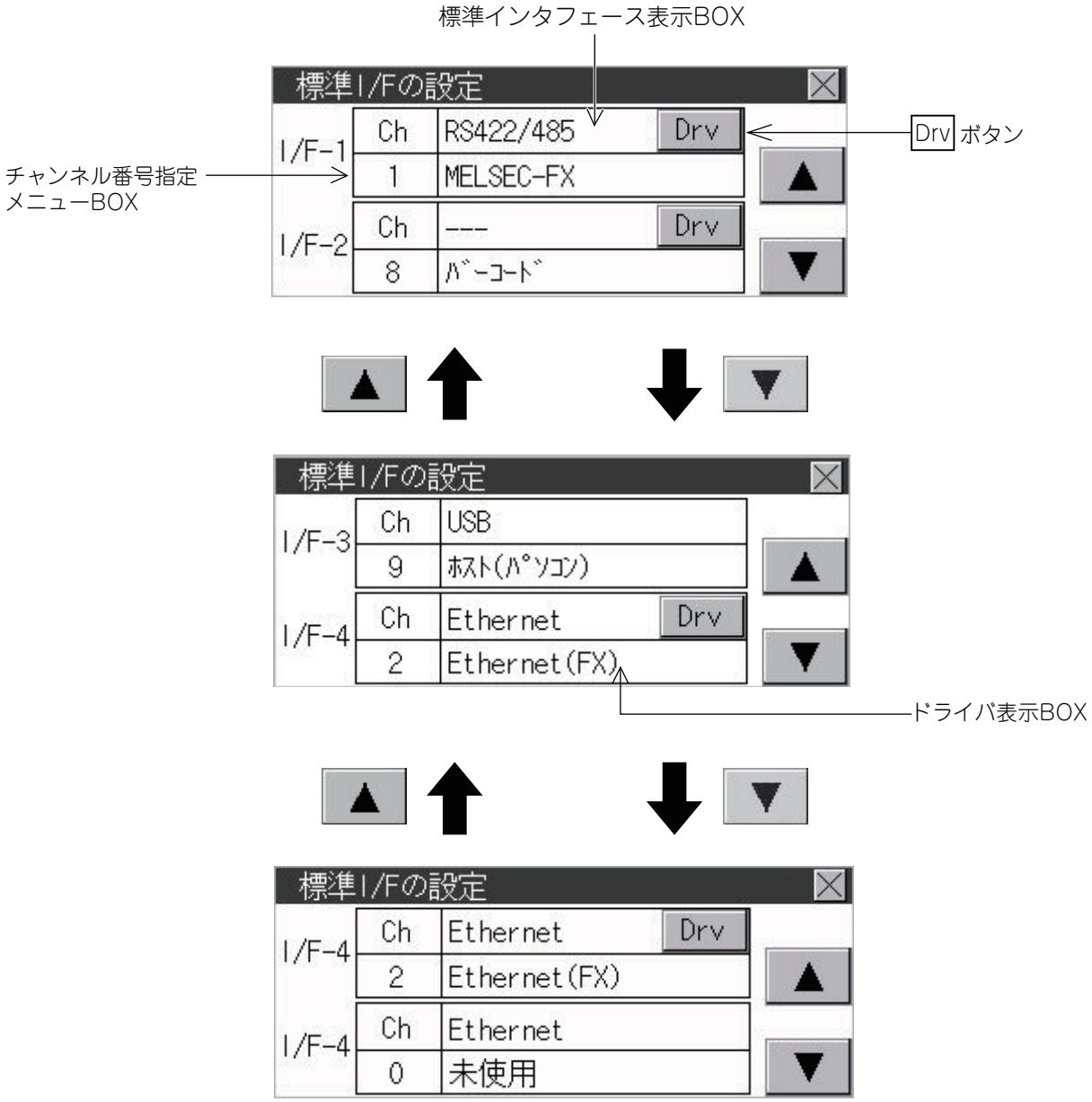
11.1.2 標準I/Fの設定の表示操作



11.1.3　標準I/Fの設定の表示内容

標準I/Fの設定での表示項目と動作について説明します。

■1. 表示項目



(1) 標準インタフェース表示BOX

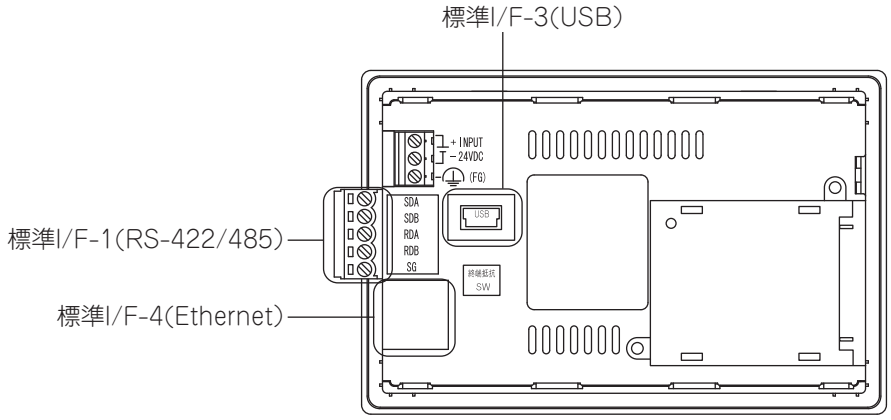
標準インタフェースには，以下の4種類があります。
標準I/F-1(RS-422/485)・・・接続機器との通信用
標準I/F-2(RS-232)・・・パソコン（作画ソフトウェア），モデム，接続機器，バーコードリーダ，トランスペアレントでの通信用
標準I/F-3(USB)・・・・パソコン（作画ソフトウェア），トランスペアレントでの通信用
標準I/F-4(Ethernet)・・パソコン(作画ソフトウェア)または接続機器との通信用

GOT機種により，対応する標準インタフェースが異なります。

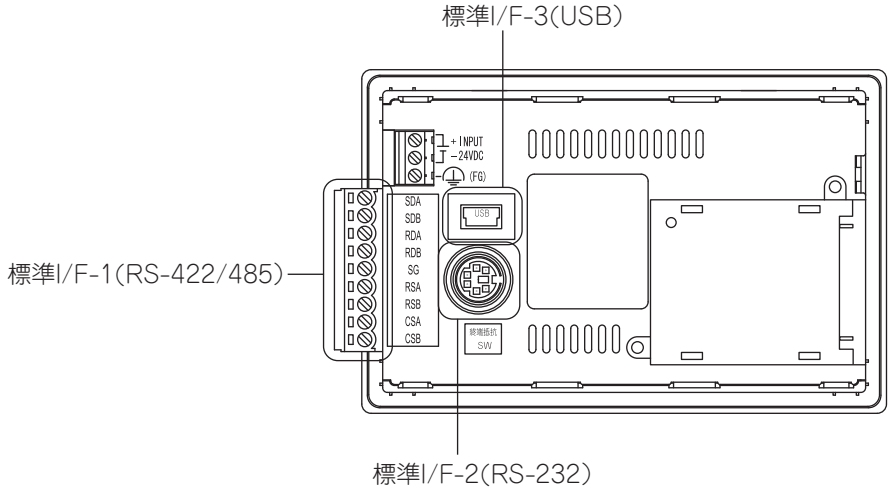
○：対応，×：非対応

GOT	標準I/F-1 (RS-422/485)	標準I/F-2 (RS-232)	標準I/F-3 (USB)	標準I/F-4 (Ethernet)
GT2103-PMBD	○	×	○	○
GT2103-PMBDS	○	○	○	×

GT2103-PMBDの場合



GT2103-PMBDSの場合



(2) チャンネル番号指定メニュー BOX

標準インタフェースで使用するチャンネル番号を設定します。

➡ 11.1.5 チャンネル設定の操作

各チャンネルに割付け可能なドライバについては，本項(3)を参照してください。

0：	通信インタフェース未使用時に設定します。
1，2：	接続機器との接続時に設定します。
8：	バーコードリーダ，RFID との接続時に設定します。

9 : [*1]	· パソコン (作画ソフトウェア) との接続時に設定します。
	· 複数台接続を行う場合，2 台目 GOT との接続に設定します。
A :	プリンタとの接続時に設定します。
* :	Ethernet ダウンロード機能を使用時に設定します。

• 標準I/F-3（USB）に対しては，自動的に「9」に設定されます。

(3) ドライバ表示BOX

(a) **チャンネルに割り付けられている通信ドライバの名称や作画ソフトウェアの接続機器設定で設定した通信ドライバが表示されます。**
表示される通信ドライバの詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(b) **以下に示すいずれかの場合，ドライバ表示ボックスには「未使用」と表示されます。**
- 通信ドライバがインストールされていない場合。

➡ 15.2 システムアプリケーション情報)

- チャンネル番号指定メニューボックスに「0」を設定している場合。

(c) **標準I/F-3（USB）のチャンネル番号は，「9」に固定されています。**

(4) Drv **ボタン**
ドライバ設定画面を表示します。
ドライバ設定画面で使用するドライバを選択してください。

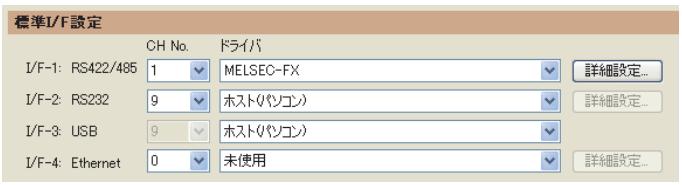
➡ 11.1.6 ドライバ設定の操作

以下の場合，Drv ボタンが表示されます。
- 標準I/F-1，標準I/F-2，標準I/F-4にch0/ch9以外が設定されている場合。

POINT

GOTと接続機器との通信を行うための注意

(1) 通信ドライバのインストールと接続機器設定のダウンロード
接続機器との通信を行うために，通信インタフェースに対して，下記を行う必要があります。
①通信ドライバのインストール(最大2つ)
②通信インタフェースに対するチャンネル番号，通信ドライバの割付け
③②割付けした内容(プロジェクトデータ)のダウンロード
上記①，②，③は作画ソフトウェアにより，行ってください。



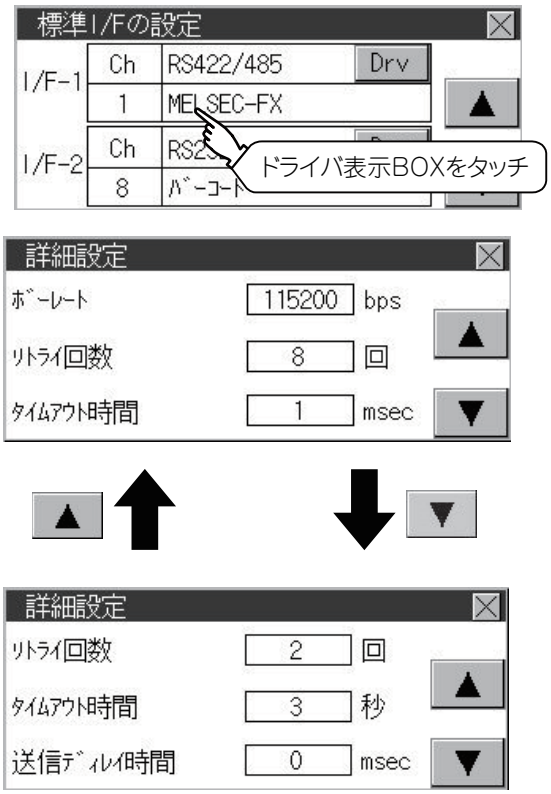
詳細は，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) 接続機器設定がダウンロードされていない場合
作画ソフトウェアで，接続機器設定がダウンロードされていない場合，作画ソフトウェアまたはGOT本体ユーティリティ画面で，接続機器設定を行ってください。

11.1.4　詳細情報の設定操作

■1. 標準I/F-1(RS422)，標準I/F-2(RS232) の場合



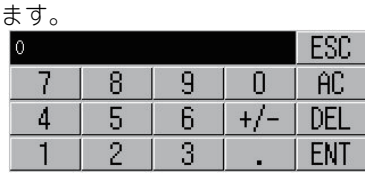
Step 1. 標準I/F-1，I/F-2の設定で，ドライバ表示BOXをタッチします。

Step 2. 詳細情報へ切り換わり，通信パラメータが表示されます。

Step 3. ボーレートの数値をタッチすると数値がくり返し切り換ります。

例：4800bps → 9600bps → 19200bps

また，設定によってはテンキーで設定します。



「0」～「9」
数値入力用のキーです。「0」設定時はスクリーンセーブ機能無効になります。
「ESC」
入力された値を破棄し，テンキーを表示したときの時間に戻してテンキーを閉じます。
「AC」
数値入力中の値を全て削除します。
「DEL」
数値入力中の値を1文字分削除します。
「ENT」
入力された時間を確定し，テンキーを閉じます。
「+/－」
入力値を正/負の値に変更します。（時間設定は正の値のみ有効です。）
「.」
無効（使用しません。）

Step 4. [×]ボタンをタッチすると設定保存確認ウィンドウが表示されます。

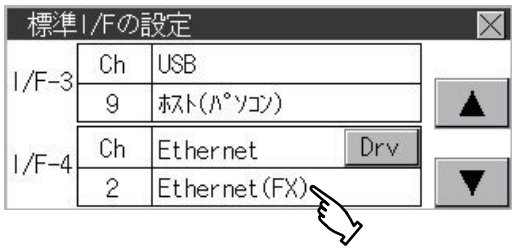
Step 5. [YES]ボタンをタッチすると設定が保存されて再起動します。[NO]ボタンをタッチすると変更内容は破棄されます。

POINT

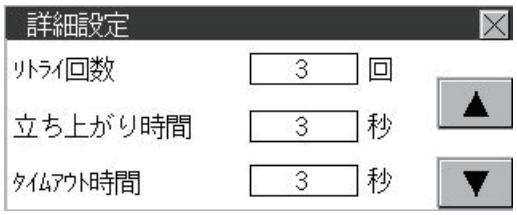
通信パラメータ
通信パラメータの項目は，GOTにインストールされている通信ドライバにより異なります。
各ドライバに対する設定内容は下記を参照してください。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

■2. 標準I/F-4(Ethernet) の場合

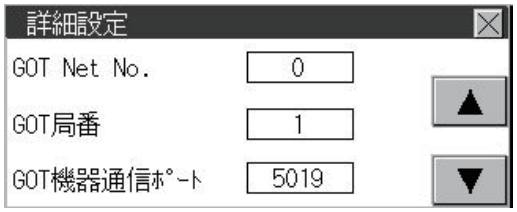


Step 1. 設定する通信パラメータのドライバ表示BOXをタッチします。

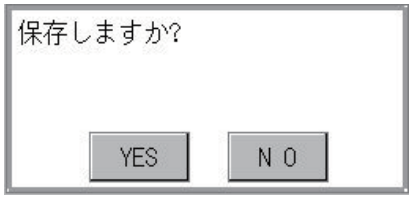


Step 2. 接続機器詳細設定へ切り換わります。この画面から，通信パラメータを設定します。
GOT IPアドレス設定

➠ 11.2 GOT IPアドレス設定



Step 3. [×]ボタンをタッチすると前画面に戻ります



Step 4. [×]ボタンをタッチすると設定保存確認ウィンドウが表示されます。

Step 5. [YES]ボタンをタッチすると設定が保存されて再起動します。[NO]ボタンをタッチすると変更内容は破棄されます。

POINT

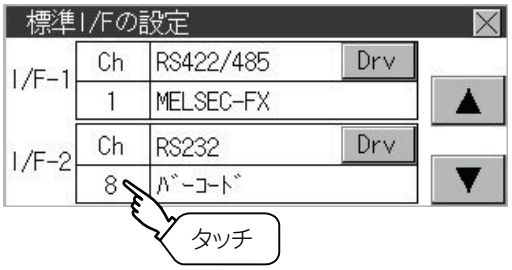
作画ソフトウェアによる通信パラメータ設定

それぞれの通信ドライバに対する通信パラメータの設定は，GT Designer3の[共通の設定]→[接続機器の設定]で行ってください。

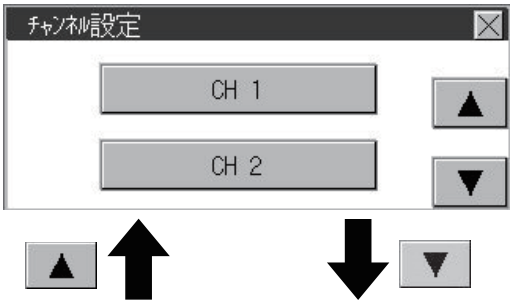
➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

11.1.5　チャンネル設定の操作

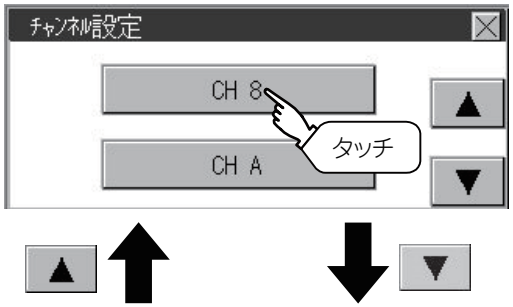
■1. チャンネル番号設定操作

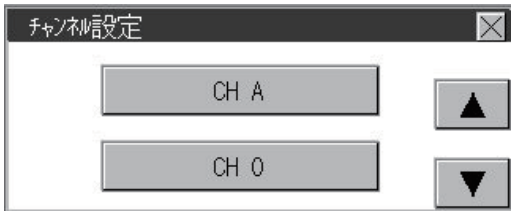


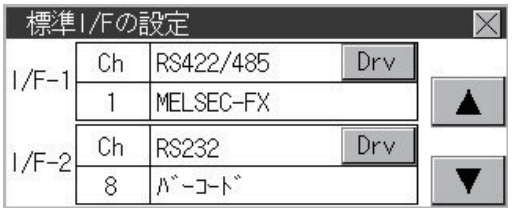
Step 1. 設定したいチャンネル番号指定メニュー BOXをタッチします。



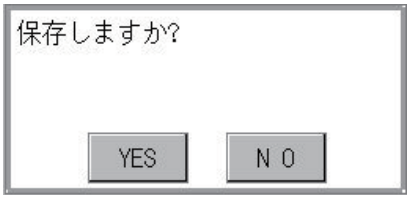
Step 2. チャンネル設定画面が表示されますので，チャンネル番号を選択します。







Step 3. チャンネル番号を選択すると確定して前画面に戻りますので［×］ボタンをタッチします。

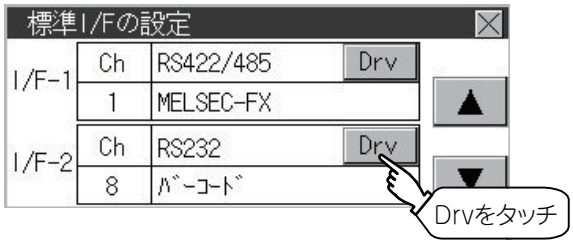


Step 4. ［×］ボタンをタッチすると設定保存確認ウィンドウが表示されます。

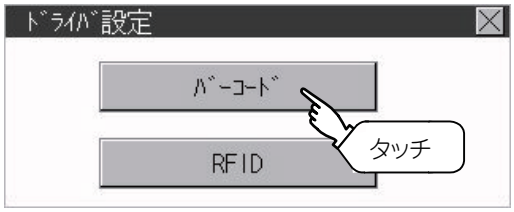
Step 5. ［YES］ボタンをタッチすると設定が保存されて再起動します。［NO］ボタンをタッチすると変更内容は破棄されます。

11.1.6　ドライバ設定の操作

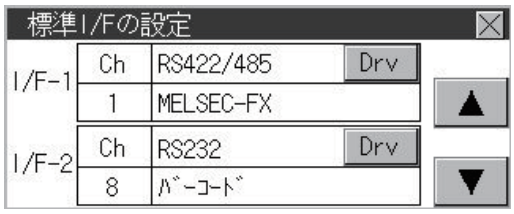
■1. ドライバ設定操作



Step 1. [Drv]ボタンをタッチするとドライバ設定画面が表示されます。



Step 2. ドライバ設定画面に選択可能なドライバ名称が表示されますので，使用するドライバを選択します。



Step 3. チャンネル番号を選択すると確定して前画面に戻りますので [×]ボタンをタッチします。

Step 4. [×]ボタンをタッチすると設定保存確認ウィンドウが表示されます。

Step 5. [YES]ボタンをタッチすると設定が保存されて再起動します。[NO]ボタンをタッチすると変更内容は破棄されます。

11.2 GOT IPアドレス設定

GOT本体のEthernet設定について説明します。
作画ソフトでもGOT本体のEthernet設定が行えます。詳細は，下記を参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

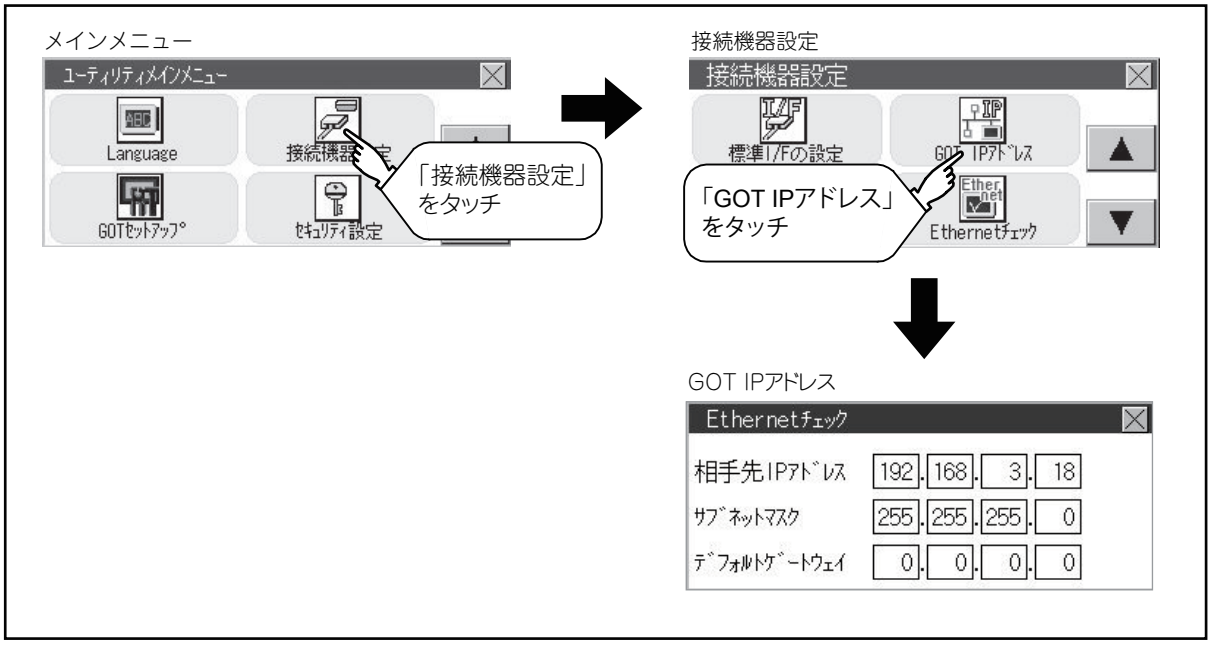
11.2.1 規格

設定可能項目，及び設定可能範囲は，以下の通りです。

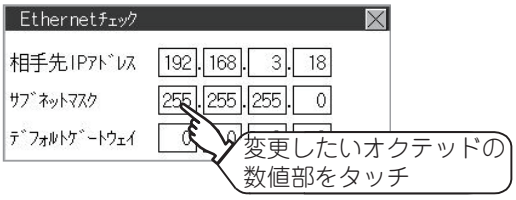
設定可能項目	設定範囲	備考
IPアドレス	0.0.0.1～223.255.255.254	設定範囲外を設定すると，エラーメッセージ「入力した数値が間違ってます」が表示されます。
サブネットマスク*1	192.0.0.0～255.255.255.252	
デフォルトゲートウェイ*1	0.0.0.1～223.255.255.254	

*1 サブネットマスクパターン，デフォルトルータIPアドレスを使用しない場合は，設定値を[0.0.0.0]に設定してください。

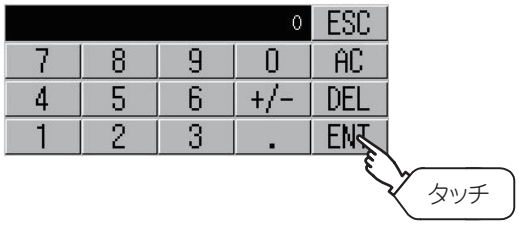
11.2.2 GOT IPアドレスの表示操作



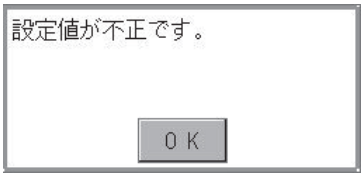
11.2.3 設定操作



Step 1. 第1～4オクテッドの内，変更したいオクテッドの数値部をタッチしてください。

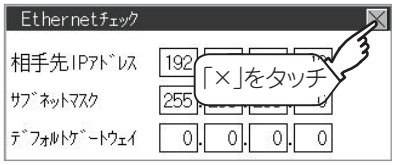


Step 2. テンキーが表示されますので，3桁までの数値を入力して，ENT キーをタッチしてください。
設定可能範囲以外を設定すると，以下のエラー表示となります。再度入力してください。

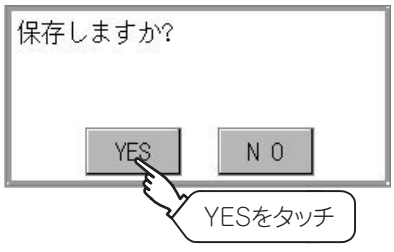


設定可能範囲の詳細は，以下を参照してください。

➡ 16.2.1項 仕様



Step 3. 変更後のIPアドレスが表示されました。
[×]キーをタッチしてください。



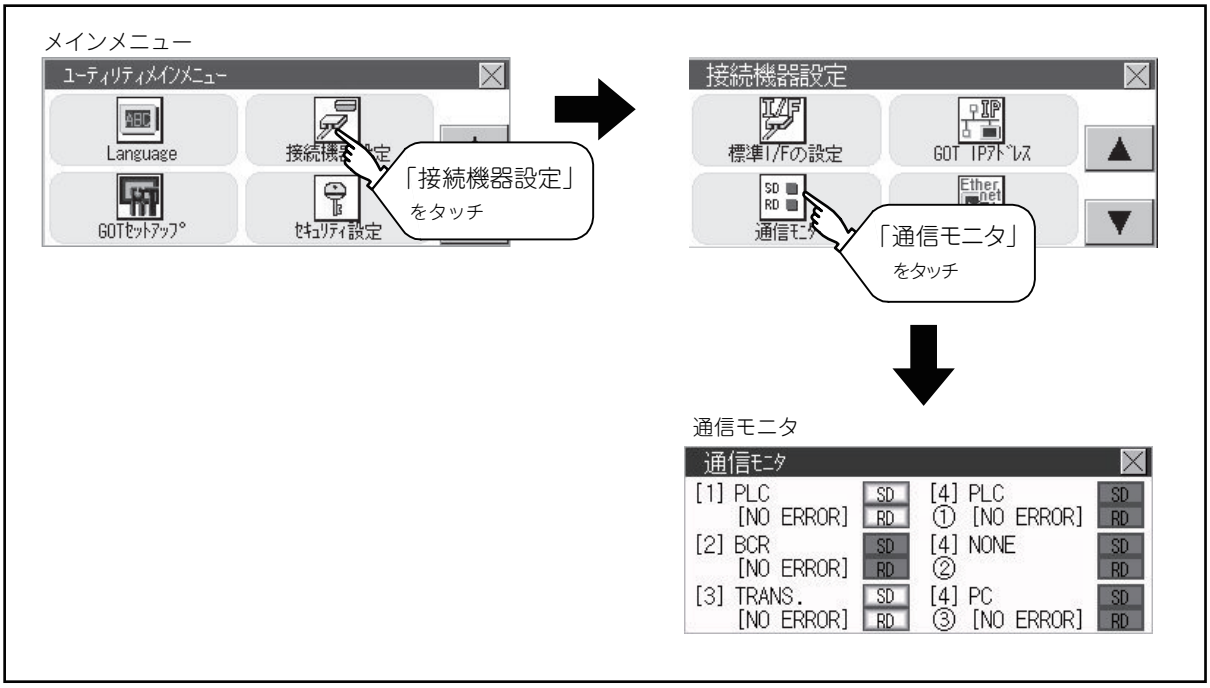
Step 4. 左記の画面が表示されるので，[YES]キーをタッチしてください。

11.3 通信モニタ

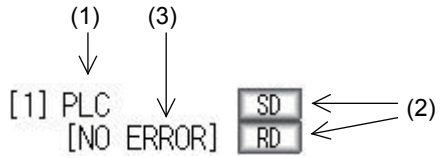
11.3.1 通信モニタ機能

機能	内容
通信ポートの選択状況表示	標準I/F-1およびI/F-2の接続対象を表示します。
通信状況表示	SD(送信)，RD(受信)の状況を表示します。
通信エラー発生状況表示	通信エラー発生時，エラーメッセージを表示します。

11.3.2 通信モニタの表示操作



11.3.3 画面表示内容



(1) 通信ポートの選択状況

標準I/F-1およびI/F-2の接続対象を表示します。
下表に各表示項目と接続対象（設定チャンネル番号）を示します。

表示項目	設定チャンネル番号	備考
PLC	Ch1	接続機器（シーケンサやマイコンなど）との接続時に表示します。
BCR	Ch8	バーコードリーダ，またはRFIDとの接続時に表示します。
TRANS.	Ch9	一方の通信ポートに割当られた接続機器がトランスペアレント可能な機種の場合，" TRANS. "と表示します。 作画ソフトウェアと通信時は自動的に" PC "に変化します。
PC	Ch9	作画ソフトウェアとの接続時に表示します。
PRT	ChA	プリンターとの接続時に表示します。

(2) 通信状況

各通信ポートの通信状況を表示します。
送信または受信実行時は白地に黒文字（SD，RD），実行していないときは灰色地に黒文字（SD，RD）を表示します。通信の状態によっては点灯しているように見えることがあります。

SD, RDの表示により，正常通信時，接続機器との接続ケーブル抜け発生時の確認ができます。
設定例

ポート	設定チャンネル番	接続機器タイプ
I/F-1	Ch1	MELSEC-FX
I/F-2	Ch8，Ch9	－

(a) [正常通信時(トランスペアレント有り)]

I/F-1,のSD, RDが点滅します。

(b) [接続機器との接続ケーブル抜け発生時]

I/F-1のSDのみが点滅します。

(3) 通信エラー発生状況

各ポートの通信エラー状態を表示します。
下表に各表示項目が示す通信状態を示します。

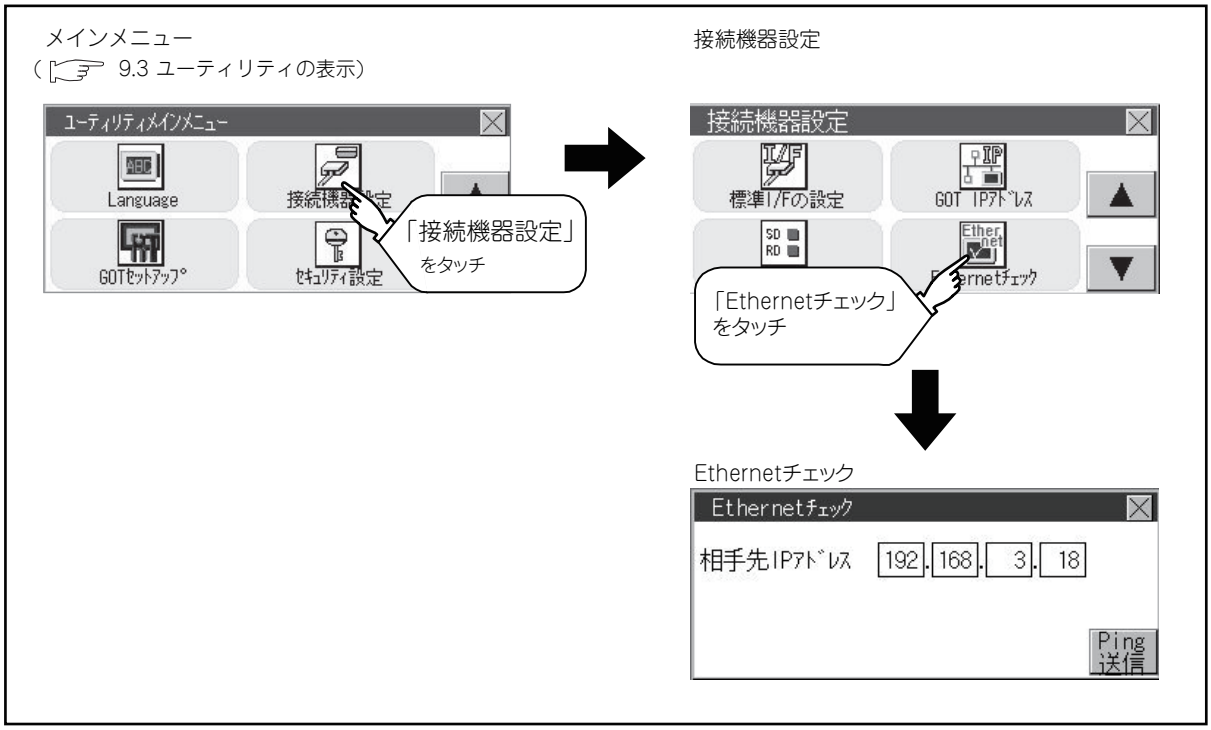
表示項目	状態	内容・対処
NO ERROR	エラーなし	正常に動作しています。
ERR Ovr.	オーバランエラー	受信データが速いタイミングで連続して送られています。 GOTと相手機器のボーレート(通信速度)を一致させてください。
ERR Frm.	フレーミングエラー	通信フレームが不一致になっています。 GOTと相手機器のデータ長，ストップビットやボーレート等の通信設定を一致させてください。
ERR Prt.	パリティエラー	パリティチェックが不一致になっています。 GOTと相手機器のパリティチェック(奇数/偶数)を一致させてください。
ERR Text	伝文エラー	サムデータの不一致，またはGOTからの送信コマンドに対し，受信データの内容が一致していません。 GOTと相手機器の通信設定，データの内容を一致させてください。(GOTとマイコンボードを接続しているときは，NAKを受信すると伝文エラーになります。)
TIME OUT	通信タイムアウト	受信を開始した後，受信データが送られてきません。 GOTと相手機器の配線を確認してください。 (GOTとマイコンボードを接続しているときは，ターミネータ，CR,配線を確認してください。)
ERR Line	制御ライン異常	制御ラインが正しく動作していません。 配線を確認してください。
ERR Cmd.	コマンドエラー	GOTからの送信コマンドに対し，受信データに含まれているコマンドが一致していません。

11.4 Ethernetチェック

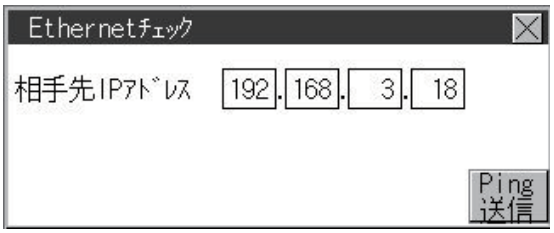
■1. Ethernetチェック機能

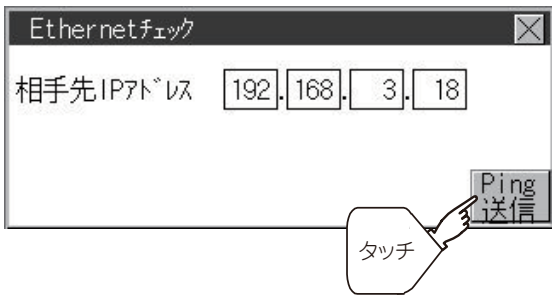
Ethernet状態チェック機能は，pingを送信しEthernetの接続状態をチェックするための機能です。

■2. Ethernetチェックの表示操作



■3. Ethernet状チェックの操作





Step 1. [相手先IPアドレス] の選択ボタンをタッチすると，キーボードが表示されます。
キーボードにより，相手先のIPアドレスを入力します。
＜デフォルト:192.168.3.39 ＞

Step 2. [ping送信] ボタンをタッチすると，[相手先IPアドレス] に入力したIPアドレスに対してping送信を行います。タイムアウトまでの時間は5秒です。

- 通信成功の場合
  [応答がありました。] のダイアログボックスが表示されます。
- 通信エラーの場合
  [タイムアウトしました。] のダイアログボックスが表示されます。

11.5　トランスペアレントモードの設定

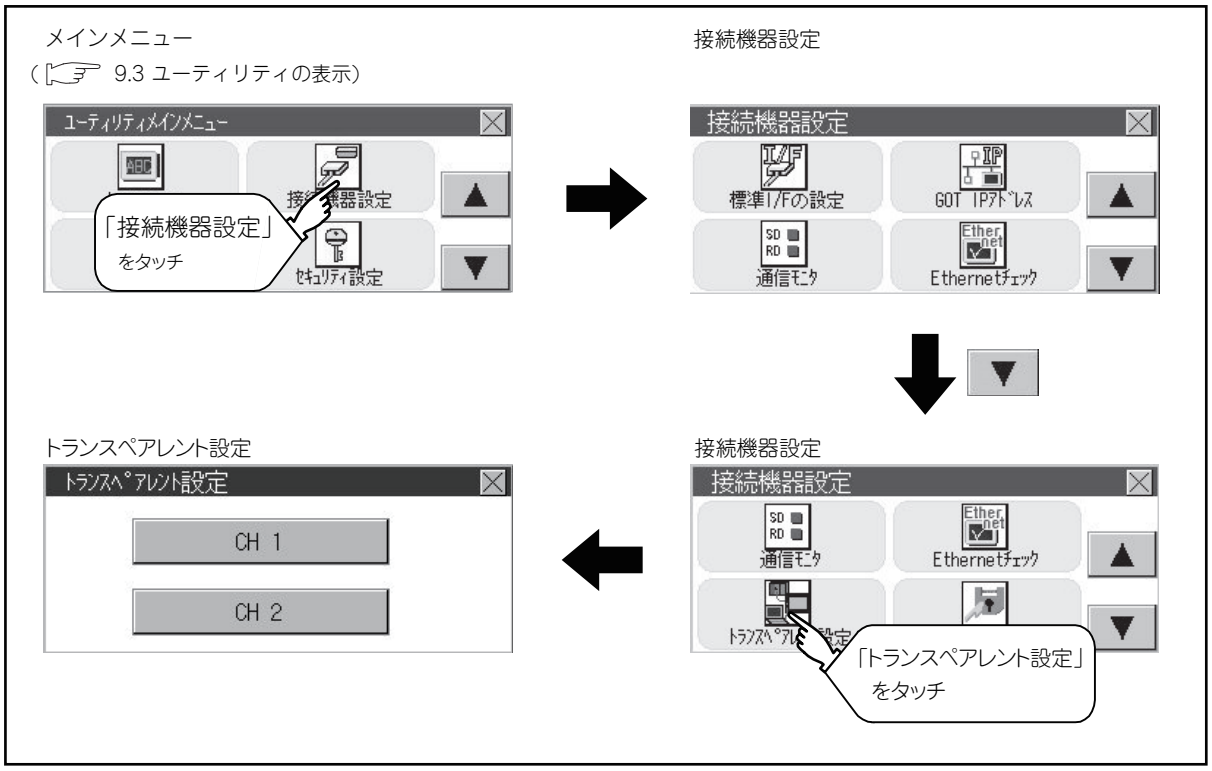
■1. トランスペアレントモードの設定機能

マルチチャンネル機能使用時，FAトランスペアレント機能をどのチャンネルNo.の接続機器に対して実行するか指定することができます。マルチチャンネル機能，FAトランスペアレント機能については，下記のマニュアルを参照してください。

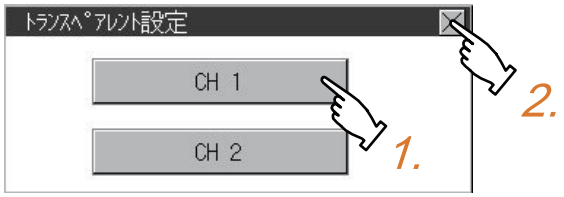
➠ GOT2000シリーズ接続マニュアル(三菱電機機器接続編) GT Works3 version1対応

機能	内容	設定範囲
ChNo.	FAトランスペアレント機能をどのチャンネルNo.の接続機器に対して実行するか設定できます。	1/2 (デフォルト：1)

■2. トランスペアレントモードの設定の表示操作



■3. トランスペアレントモードの設定操作



Step 1. 左記のトランスペアレントのChNo.数字部をタッチすると通信ドライバを選択する画面が表示されます。FAトランスペアレント機能を実行するチャンネルを選択してください。

Step 2. [×]ボタンをタッチすると，設定に変更がある場合，再起動します。

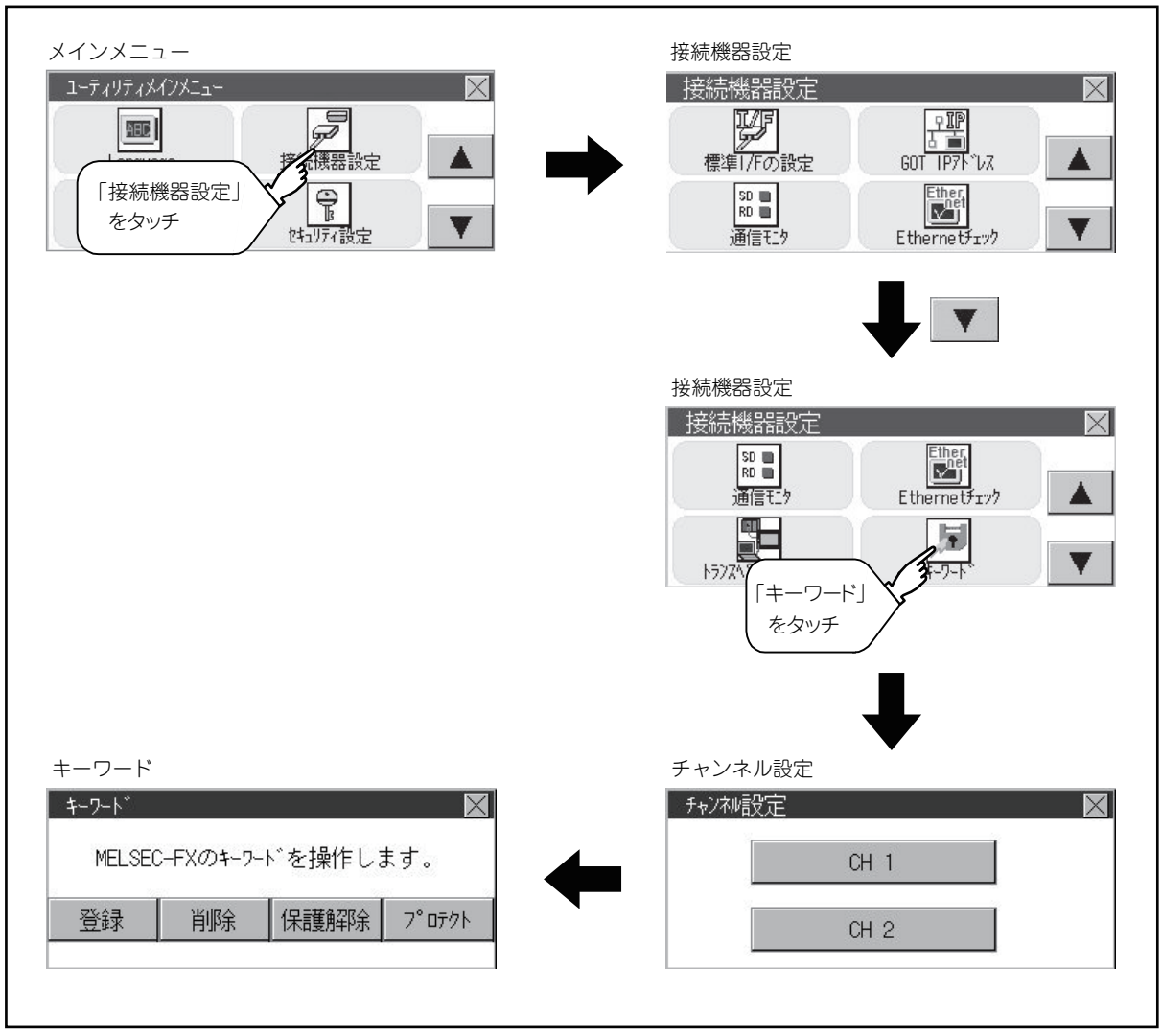
11.6　キーワード

11.6.1　キーワード機能

FXシリーズシーケンサのキーワードに関する操作ができます。

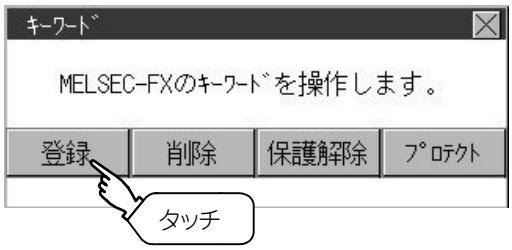
機能	内容
登録	キーワードを登録します。
削除	登録したキーワードを削除します。
保護解除	キーワードによる保護を解除します。
プロテクト	保護を解除したキーワードを再度保護の状態にします。

11.6.2　キーワードの表示操作



11.6.3 登録

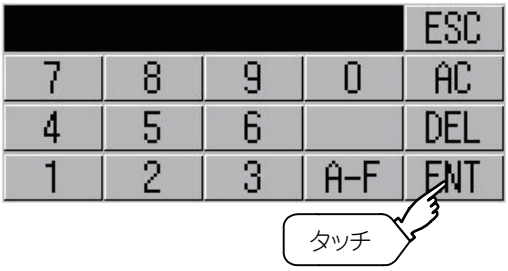
キーワードの登録を行います。



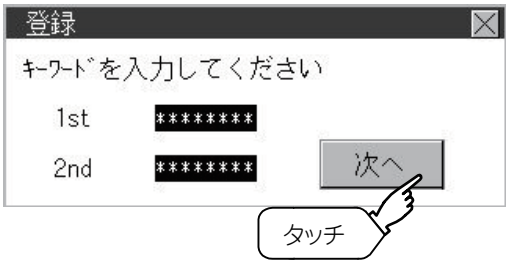
Step 1. 「登録」をタッチすると登録選択画面を表示します。
カスタマーキーワードに対応していないFXシーケンサの場合は［Step3］のキーワード入力画面が表示されます。［Step3］から操作してください。
カスタマーキーワード対応機種については，使用されるシーケンサのマニュアルを参照してください。

Step 2. 「キーワード」または「キーワード+カスタマーキーワード」を選択します。
キーワード，第2キーワードのみを登録する場合は，「キーワード」をタッチしてください。
カスタマーキーワードを登録する場合は，「キーワード+カスタマーキーワード」をタッチしてください。

Step 3. キーワードを入力します。
登録したいキーワードの表示部をタッチしてください。



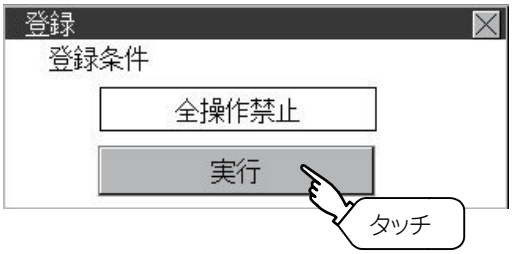
Step 4. キーワード入力用のキーボードが表示されます。［A-F］，［0-9］ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。キーワードを入力し，［ENT］キーをタッチしてください。
キーワードは，0～9，A～Fで8桁設定します。



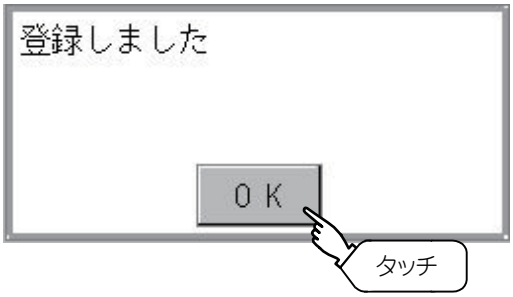
Step 5. キーワードの入力が完了したら［次え］をタッチしてください。
登録選択画面で「キーワード+カスタマーキーワード」を選択した場合，カスタマーキーワード入力画面を表示します。キーワード，第2キーワードと同様に入力してください。

Step 6. 登録条件を設定します。
設定項目をタッチすると設定内容が変ります。

全操作禁止 → 書込禁止 → 読出/書込禁止 → 全操作禁止



Step 7. 登録条件設定後，「実行」キーをタッチしてください。
キーワードの登録が完了します。



Step 8. キーワードの登録が完了しました。
[OK]をタッチしてください。

POINT

(1) 登録条件の選択可否

登録条件を選択可能なシーケンサは下記のとおりです。

接続シーケンサ	設定	
	キーワードと第2キーワードを登録した場合	キーワードのみ登録した場合
第2キーワード対応のFXシーケンサの場合*1	登録条件*2を選択できます。	登録条件は選択できません
第2キーワード未対応のFXシーケンサの場合*1	−	

*1 第2キーワードの対応機種については，使用されるシーケンサのマニュアルを参照してください。

*2 登録条件は「読出/書込禁止」,「書込禁止」,「全てのオンライン操作禁止」から選択できます。各設定時のアクセス制限は使用されるシーケンサのマニュアルを参照してください。

(2) キーワードの保護レベルの選択方法

FX シーケンサに対してオンライン操作が可能な機器に対しては，3段階の保護レベルが設定できます。

オンライン機器によるモニタや設定変更などを必要とする場合は，下記を考慮したキーワードを設定してください。

(a) キーワードのみ登録時

キーワードの先頭文字で保護レベルを選択します。

全操作禁止：A，D ～ F，0 ～ 9のいずれかで始まるキーワードを設定します。

誤書込，読出禁止：Bで始まるキーワードを設定します。

誤書込禁止: Cで始まるキーワードを設定します。

(b) キーワードと第2キーワードを登録時

(3) キーワードの保護レベルごとのモニタ可否

保護レベルごとのデバイスのモニタ可否は下記のとおりです。

項目		キーワードのみ登録時			キーワードと第2キーワードを登録時			キーワード未登録／保護解除
		全操作禁止	誤書込読出禁止	誤書込禁止	全てのオンライン操作禁止	読出／書込禁止	書込禁止	
デバイスのモニタ		○	○	○	×	○	○	○
デバイスの変更	T，C設定値とファイルレジスタ（D1000～）	×*1	×*1	×*1	×	○	○	○
	上記以外	○	○	○	×	○	○	○

*1 T，C設定値が間接指定の場合，デバイスの変更は可能です。

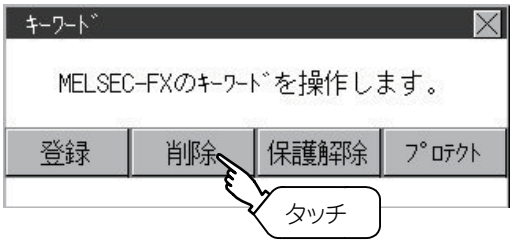
(4)「全てのオンライン操作禁止」と「全操作禁止」の違い

全てのオンライン操作禁止」を設定時は，プログラミングツール，GOTでのデバイス表示，入力共に禁止されます。

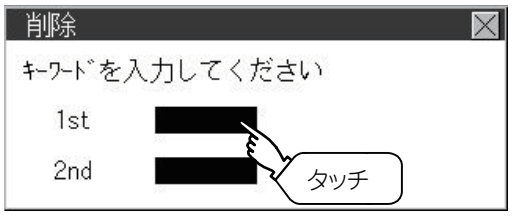
「全操作禁止」設定時は,プログラミングツールでの操作は全て禁止されますが，GOTでのデバイス表示，入力は可能です。

11.6.4 削除

登録したキーワードの削除を行ないます。

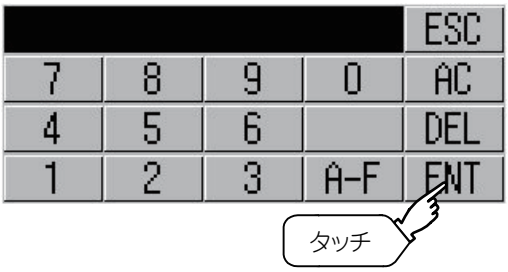


Step 1. 「削除」をタッチするとキーワード入力画面が表示されます。

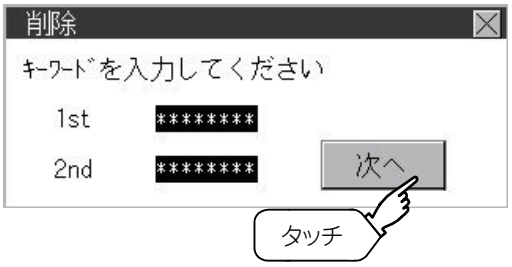


Step 2. キーワードを入力します。
登録したキーワードの表示部をタッチしてください。

接続シーケンサ	設定
第2キーワード対応のFXシーケンサの場合	削除するキーワードを入力してください
第2キーワード未対応のFXシーケンサの場合	「キーワード」のみ削除するキーワードを入力してください。 「第2キーワード」は無視されます。

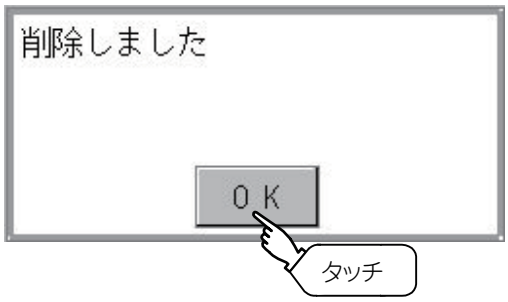


Step 3. キーワード入力用のキーボードが表示されます。キーワードを入力し，[ENT]キーをタッチしてください。[A-F]，[0-9]ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。



Step 4. キーワードの入力が完了したら[次へ]をタッチしてください。

Step 5. 「実行」キーをタッチしてください。



Step 6. キーワードが削除されました。
〔OK〕をタッチしてください。

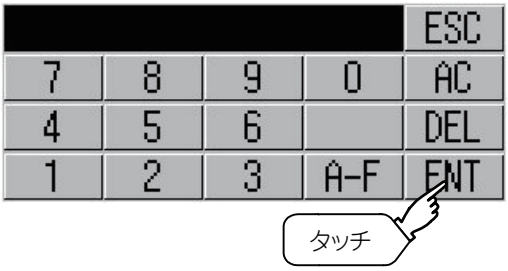
11.6.5　保護解除

キーワードが登録されているFXシーケンサへアクセスするために，キーワードによる保護を解除します。

Step 1. 「保護解除」をタッチするとキーワード入力画面が表示されます。

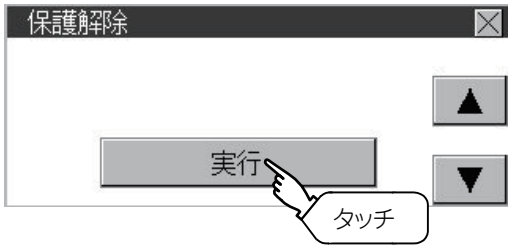
Step 2. キーワードを入力します。
登録したキーワードの表示部をタッチしてください。

接続シーケンサ	設定
カスタマーキーワード対応のFXシーケンサの場合	保護を解除するキーワードまたはカスタマーキーワードを入力してください
第2キーワード対応のFXシーケンサの場合	保護を解除するキーワードを入力してください
第2キーワード未対応のFXシーケンサの場合	「キーワード」のみ保護を解除するキーワードを入力してください。「第2キーワード」は無視されます。

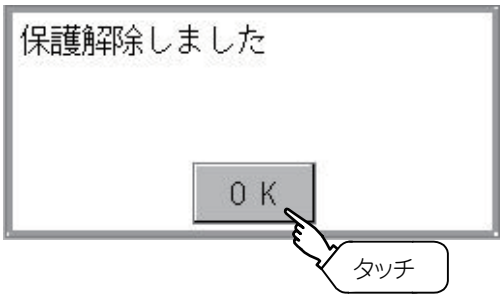


Step 3. キーワード入力用のキーボードが表示されます。キーワードを入力し，[ENT]キーをタッチしてください。[A-F]，[0-9]ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。

Step 4. キーワードの入力が完了したら[次へ]をタッチしてください。



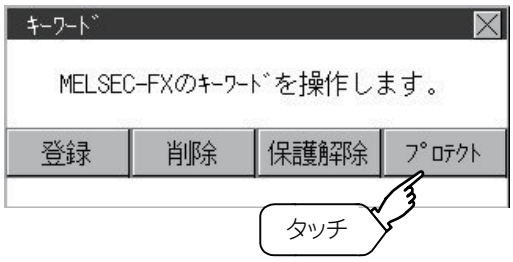
Step 5. 「実行」キーをタッチしてください。



Step 6. 保護が解除されました。
〔OK〕をタッチしてください。

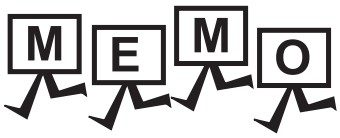
11.6.6　プロテクト

保護を解除したキーワードを再度保護の状態にします。プロテクトは第2キーワードを登録した場合に有効です。



Step 1. 「プロテクト」をタッチするとキーワード保護の状態になります。

Step 2. プロテクトされました。
[OK]をタッチしてください。


MEMO

12. 表示と操作の設定(GOTセットアップ)

ユーティリティ画面から表示に関する設定画面や操作に関する設定画面を表示できます。
表示に関する設定画面や操作に関する設定画面では下記の設定ができます。

項目	内容	参照
表示の設定	タイトル表示時間，スクリーンセーブ時間	➠ 12.1.1
	輝度調整	
操作の設定	ブザー音，ウィンドウ移動時ブザー音，キー反応速度	➠ 12.2.3
	タッチパネル調整	➠ 12.2.4
	ユーティリティ呼出キー	➠ 12.2.4

12.1 表示の設定

12.1.1 表示の設定機能

表示に関する設定ができます。
設定できる項目には下記のものがあり，各項目部をタッチすると，それぞれの設定が可能な状態になります。

項目	内容	設定範囲
タイトル表示時間	本体起動時のタイトル表示時間を設定できます。	0～60秒 (工場出荷時：1秒)
スクリーンセーブ時間	ユーザがタッチパネルを操作しなくなってからスクリーンセーブ機能起動までの時間を設定できます。	0～60分 (工場出荷時：0分)
輝度調整	輝度の調整ができます。 ➠ ■2. 輝度調整	-

POINT

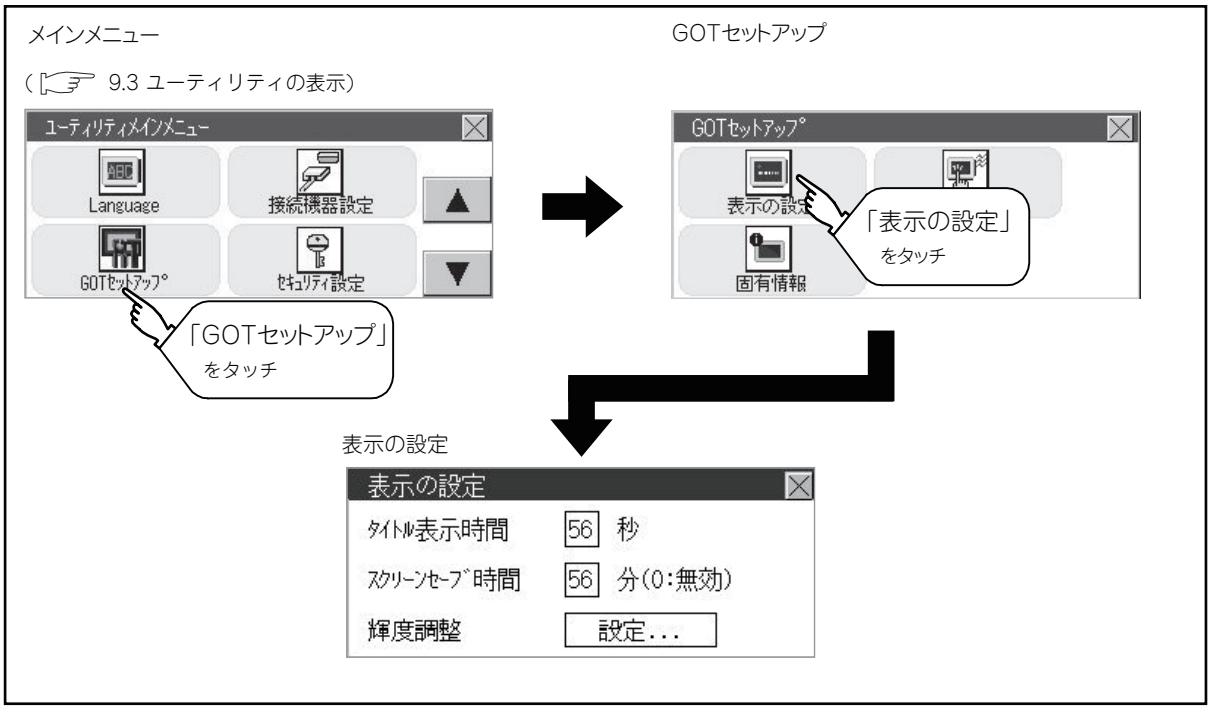
(1) GT Designer3による表示の設定
タイトル表示時間，スクリーンセーブ時間，スクリーンセーブバックライトの設定は，GT Designer3の
[共通の設定]→[GOT環境設定]→[GOTセットアップ]で行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOTの表示の設定にて設定を変更してください。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

(2) スクリーンセーブ時間
システム情報機能を使用することで，接続機器から強制的にスクリーンセーブ状態(強制スクリーンセーブ無効信号)にしたり，ユーティリティで設定したスクリーンセーブ時間を無効(自動スクリーンセーブ無効信号)にしたりできます。

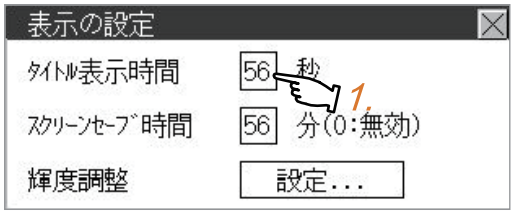
➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

12.1.2 表示の設定の表示操作

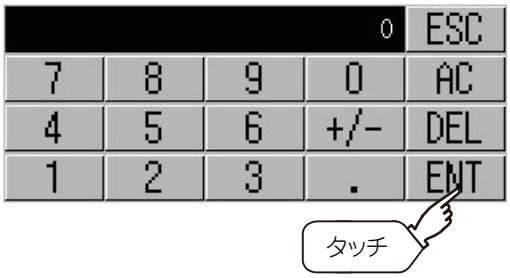


12.1.3　表示の設定操作

■1. タイトル表示，スクリーンセーブ時間



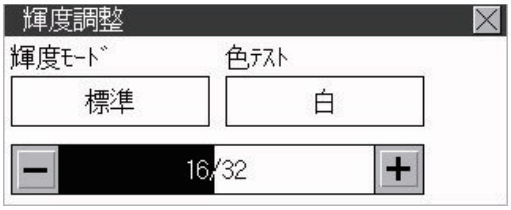
Step 1. 設定(数字)をタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。



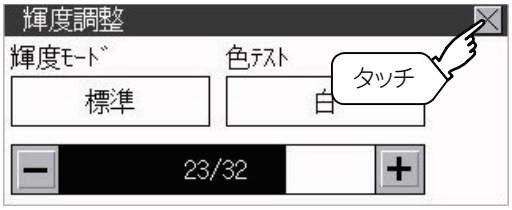
Step 2. テンキーで，タイトル表示時間を設定して、「ENT」をタッチしてください。

■2. 輝度調整

Step 1. [輝度調整]をタッチすると輝度調整画面が表示されます。



Step 2. 輝度調整画面が表示されますので，設定する項目をタッチします。
(a) 色テスト
タッチするごとに，バックライトの色を[白]，[緑]，[赤]，[桃]，[橙]にした場合の色テストを行うことがでします。
(b) 輝度モード
タッチするごとに[標準]，[低輝度]に切り換えができます。
(C) 輝度調整
[+]，[-]キーをタッチすることで輝度を調整できます。



Step 3. [×]ボタンをタッチすると設定内容が反映されます

12.2 操作の設定(操作に関する設定)

12.2.1 操作の設定機能

GOTの操作に関する設定ができます。
設定できる項目には以下のものがあり，各項目部をタッチすると，それぞれの設定が可能な状態になります。

機能	内容	設定範囲
ブザー音設定	ブザー音の設定を変更できます。	無/短/長 (工場出荷時:短)
ウィンドウ移動時ブザー音設定	ウィンドウを移動させる時にブザー音を鳴らすか鳴らさないかを選択できます。	あり/なし (工場出荷時：あり)
キー反応速度	GOTの画面をタッチしたときのタッチパネルの感度を設定できます。 (チャタリング防止)	±0～+120*1
タッチパネル調整	タッチパネルの読取り誤差を修正できます。 ➡ 12.2.4 タッチパネルの位置補正(タッチパネル調整の設定)	-
ユーティリティ呼出キー画面切換え	ユーティリティ呼出キー設定画面を表示できます。 ➡ 12.2.5 ユーティリティ呼出キーの設定	-

*1 「キー反応速度」の設定値が大きいほどキー反応が鈍くなります。

「キー反応速度」[ms]	標準（±0）	+10	+20	+40	+80	+120

例えば，GOTの画面を1回タッチしたときに2回タッチの動作になってしまう場合は，「キー反応速度」の設定を遅くしてください。

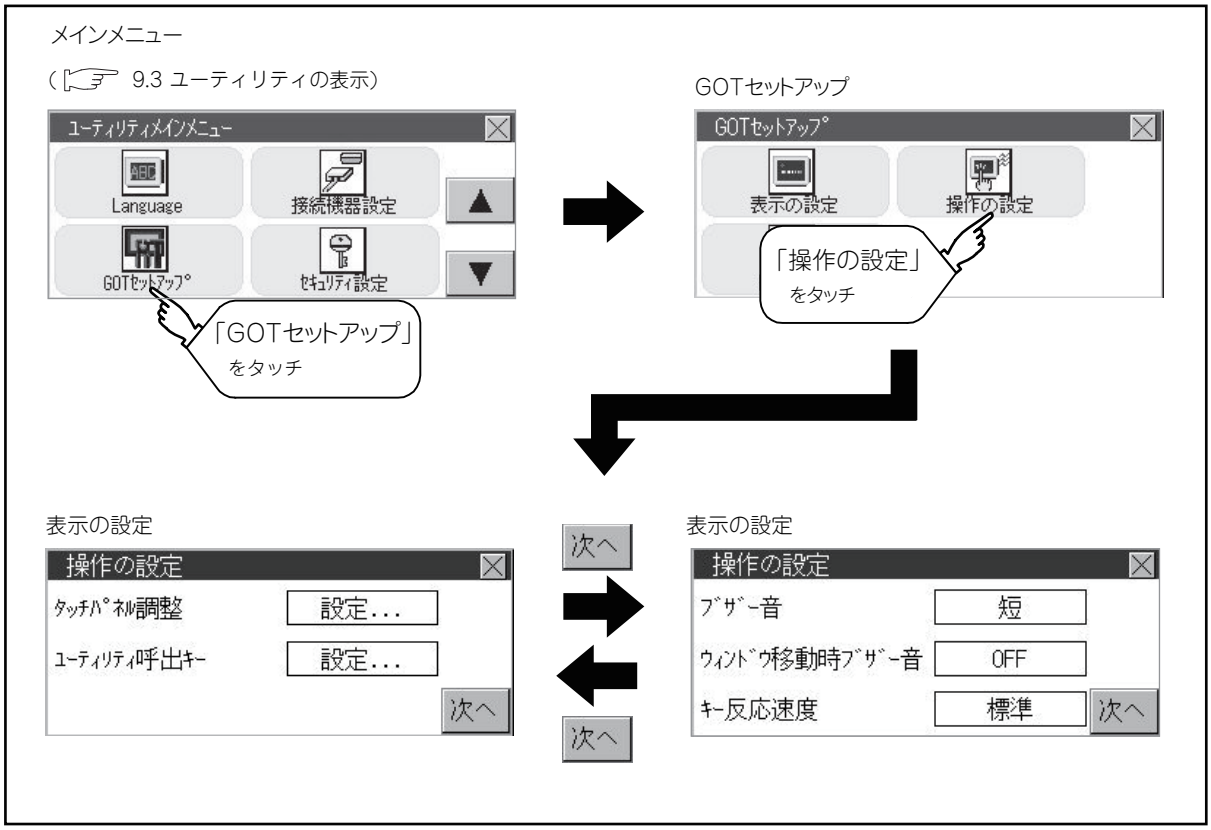
POINT

GT Designer3による操作の設定

ブザー音およびウィンドウ移動時ブザー音の設定は，GT Designer3の[共通の設定]→[GOT環境設定]→[GOTセットアップ]で行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOTの表示の設定にて設定を変更してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

12.2.2 操作の設定の表示操作



12.2.3　操作の設定操作

■1. ブザー音,

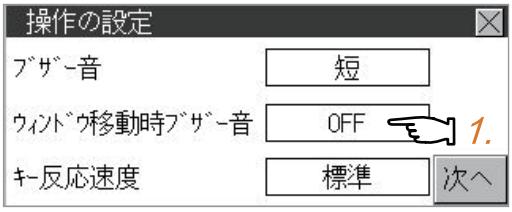
Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。

ブザー音 :短 ⇄ 長 ⇄ なし

Step 2. [×]ボタンをタッチすると，変更した設定が決定されます。

➡

■2. ウィンドウ移動時ブザー音

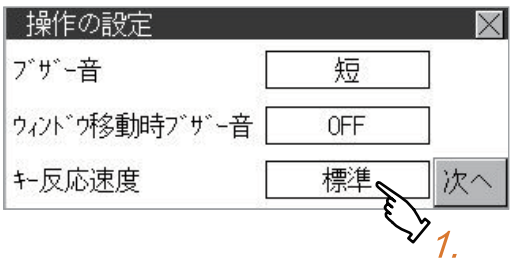


Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。

ウィンドウ移動時ブザー音 :ON ⇄ OFF

Step 2. [×]ボタンをタッチすると，変更した設定が決定されます。

■3. キー感度の設定



Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容[*1]が変わります。

Step 2. 設定を変更後，[×]ボタンをタッチしてください。
設定を確定し，設定画面を閉じます。

*1 「キー反応速度」の設定値が大きいほどキー反応が鈍くなります。

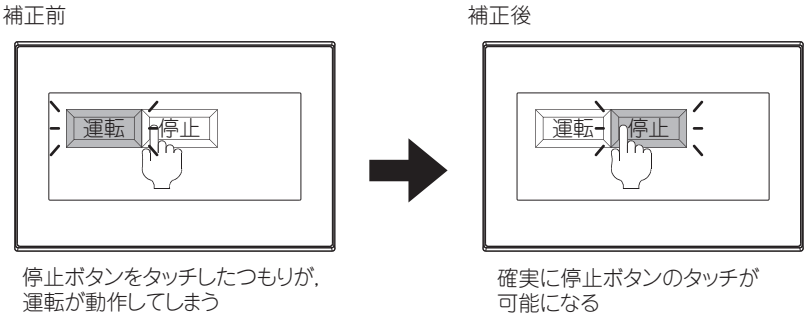
「キー反応速度」[ms]	標準（±0）	+10	+20	+40	+80	+120

例えば，GOTの画面を1回タッチしたときに2回タッチの動作になってしまう場合は，「キー反応速度」の設定を遅くしてください。

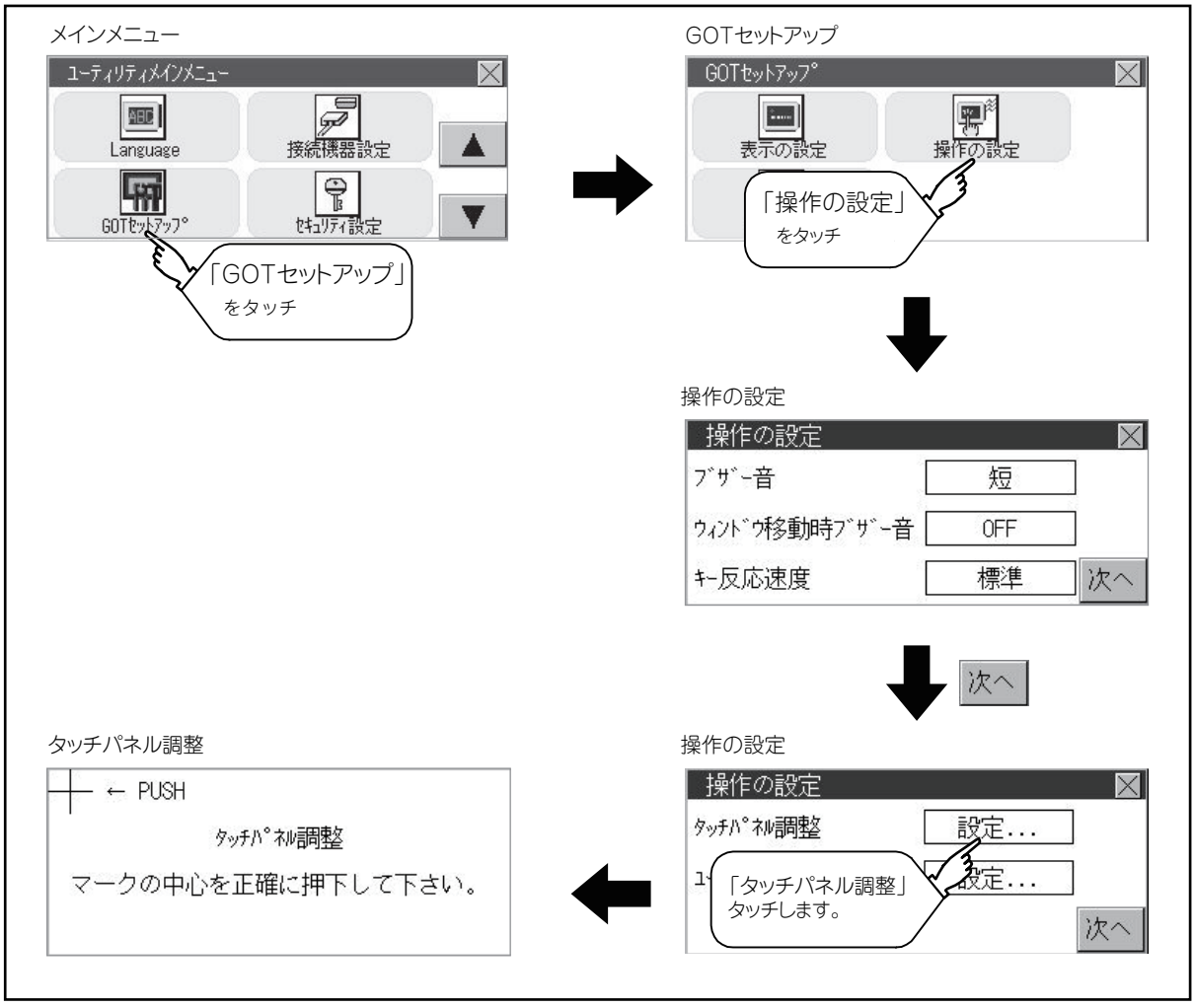
12.2.4　タッチパネルの位置補正(タッチパネル調整の設定)

■1. タッチパネル調整の設定機能

タッチ位置の読取り誤差を修正できます。
通常は調整する必要がありませんが，使用期間の経過とともに，オブジェクト位置とタッチした位置がずれる場合があります。
オブジェクト位置とタッチした位置がずれた場合は，本機能にて位置を補正してください。

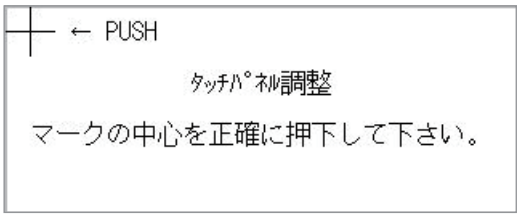


■2. タッチパネル調整の設定の表示操作

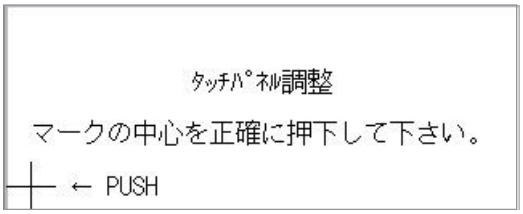


■3. タッチパネル調整操作

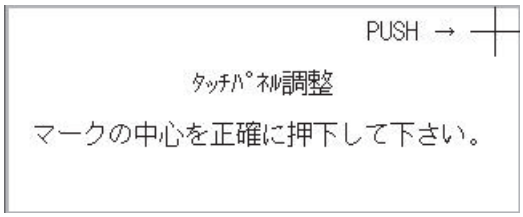
画面上に表示される[+]を，順番に指で押して，設定します。



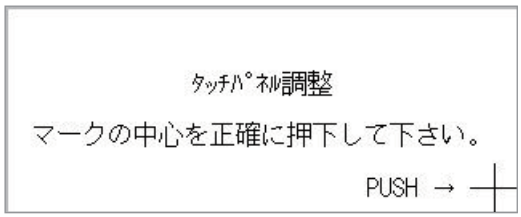
Step 1. 左上に表示されている[+]の中心を正確にタッチしてください。



Step 2. 左下に表示されている[+]をタッチしてください。



Step 3. 右上に表示されている[+]をタッチしてください。



Step 4. 右下に表示されている[+]をタッチしてください。

Step 5. 正確にタッチできなかった場合は，[YES]ボタンをタッチすると，手順Step1から設定をやり直すことができます。

12.2.5　ユーティリティ呼出キーの設定

■1. ユーティリティ呼出キーの設定機能

ユーティリティのメインメニューを呼び出すための，キー位置を指定できます。
キー位置は，画面の4隅のうちから1点，または指定なし(0点)の設定ができます。
また，画面を押しつづけるとユーティリティに切り換わるように設定することもできます。
これにより，意図しないユーティリティへの切換えを防止できます。

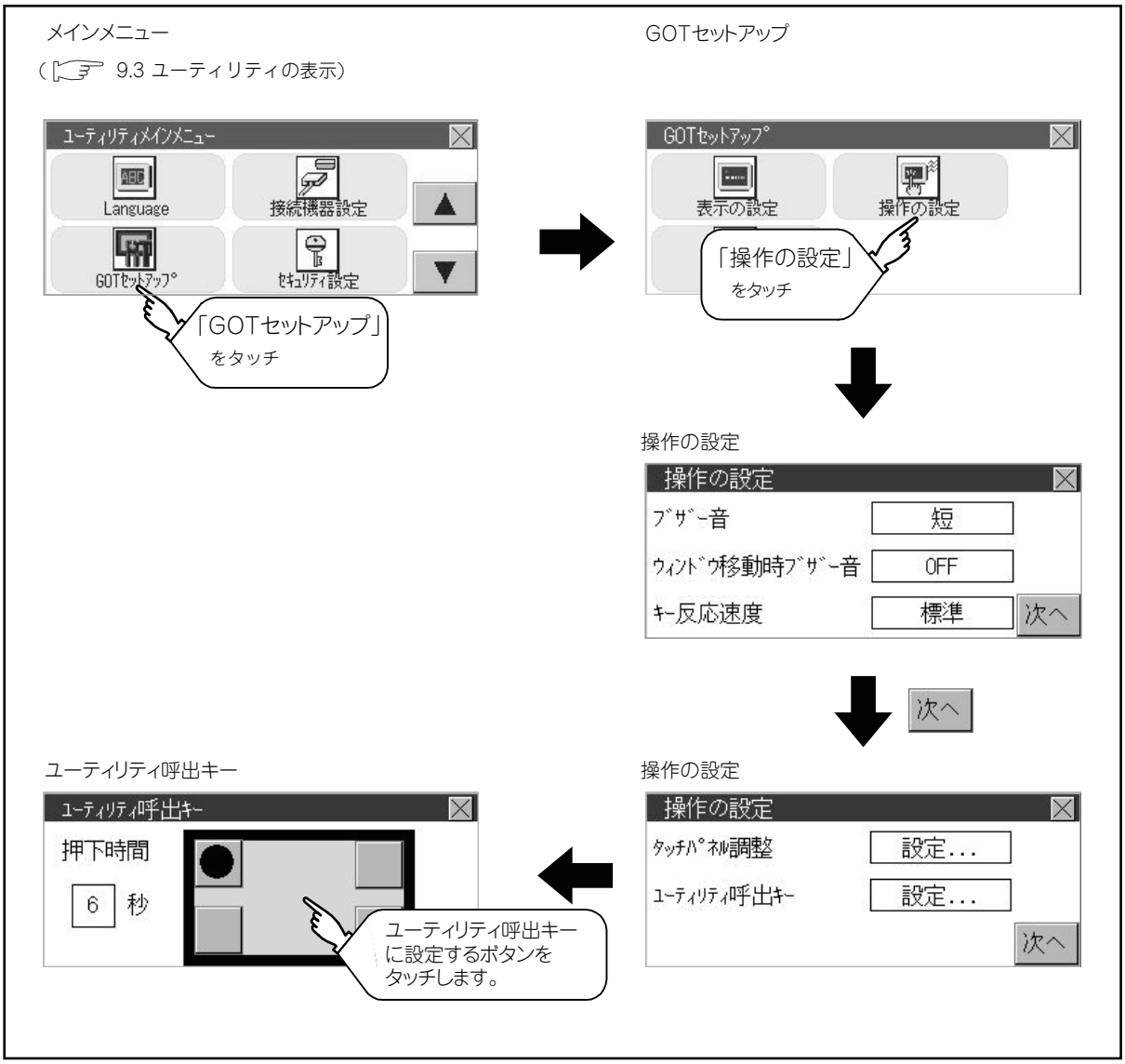
POINT

GT Designer3による操作の設定

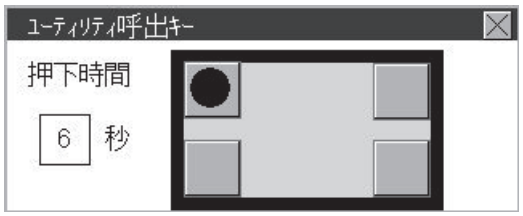
ユーティリティ呼出キーの設定は，GT Designer3の[共通の設定]→[GOT環境設定]→[GOTセットアップ]で行ってください。
プロジェクトデータをダウンロード後に一部の設定を変更する場合には，GOTの表示の設定にて設定を変更してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

■2. ユーティリティ呼出キーの表示操作

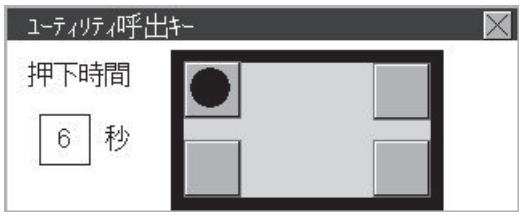


■3. ユーティリティ呼出キーの設定操作



Step 1. 設定画面の4隅に表示される[●]または[　]をタッチします。ボタンはタッチするごとに[●]⇄[　]を繰り返します。キー位置に指定する部分を，[●]にします。

キー位置は，0～1点まで指定できます。



Step 2. キー位置を押しつづけたときにユーティリティへ切り換える時間を設定します。
時間の入力エリアをタッチします。

Step 3. 入力エリアをタッチするとキーボードが表示されます。
キーボードにより数字を入力します。

Step 4. [×]ボタンをタッチすると，変更した設定が決定されます。

POINT

(1) ユーティリティ呼び出しキーを設定しない(0点に設定する)場合

ユーティリティ呼び出しキーを設定しない(0点に設定する)場合も，下記の操作でメインメニューを表示させることができます。

- ユーザ作成画面上に設定した拡張機能スイッチを押下する。

➠ 9.3.1 メインメニューの表示操作

(2) ユーティリティの表示，操作を制限する場合

ユーティリティの表示，操作するユーザを制限する場合，GT Designer3でGOTにパスワードを設定してください。ユーティリティのメインメニューを表示しようとすると，パスワード入力が表示されます。
パスワード設定に関する詳細は，下記を参照してください。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

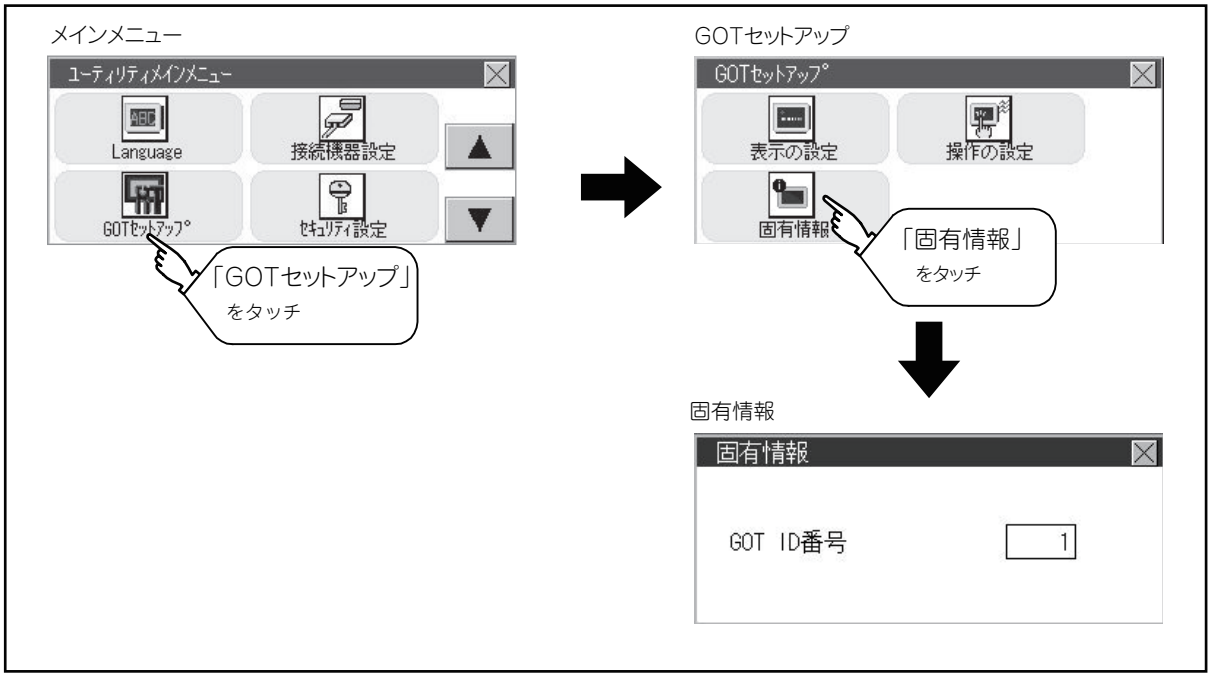
12.3 固有情報

12.3.1 固有情報の設定機能

固有情報の設定ができます。

項目	内容	設定範囲
GOTID 番号	GOT に固有の情報としてID 番号を設定できます。	0 ～ 32767 < デフォルト: 0>

12.3.2 固有情報の表示操作



12.3.3 固有情報の設定操作

Step 1. 設定項目をタッチするとキーボードが表示されます。キーボードにより数字を入力します。

Step 2. [×] ボタンをタッチすると，GOT は再起動し，変更した設定で動作します。

MEMO

13. セキュリティレベルとオペレータの設定(セキュリティの設定)

13.1 セキュリティレベル認証

■1. セキュリティレベルの変更機能

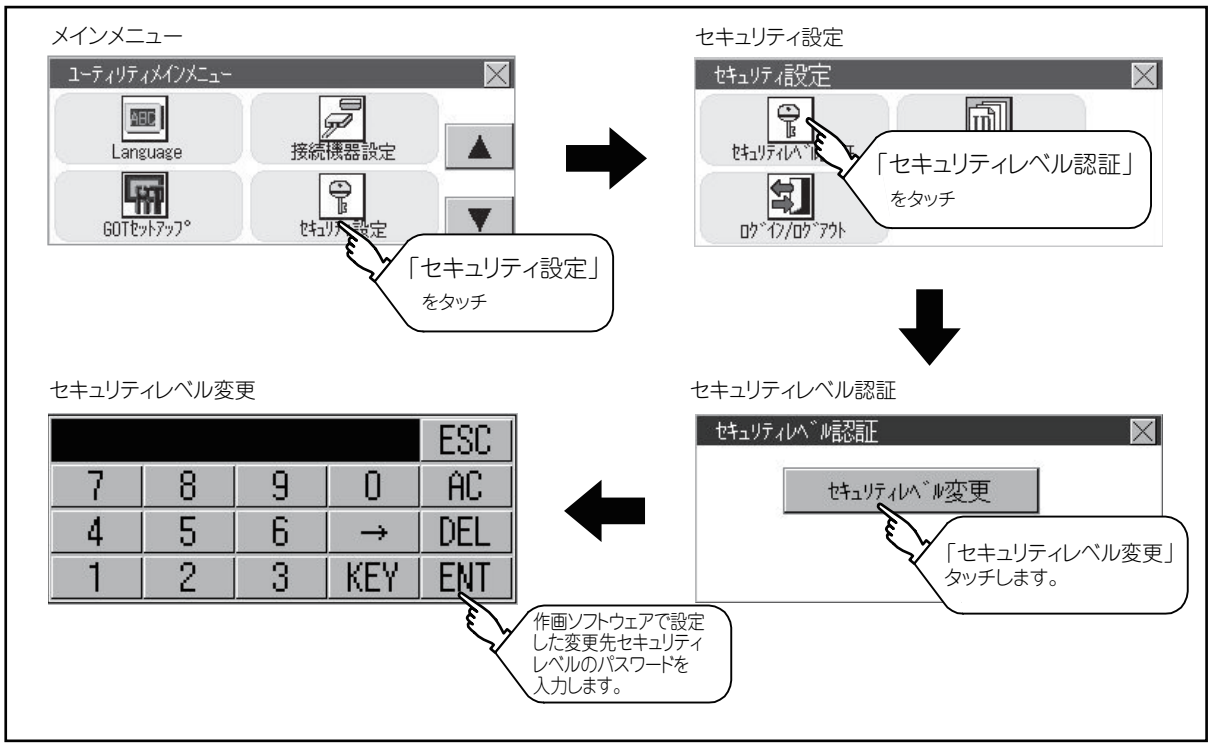
各オブジェクトや画面切換えで設定したセキュリティレベルに変更します。
セキュリティレベルを変更するには，GT Designer3 で設定した変更先セキュリティレベルのパスワードを入力します。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

POINT

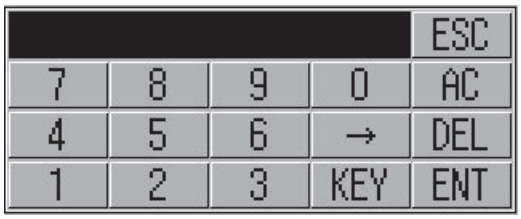
画面表示に関する制約事項
GOTにプロジェクトデータが存在しない場合，セキュリティレベル変更画面は表示できません。
プロジェクトデータをGOTにダウンロードしてから，セキュリティレベルを変更してください。

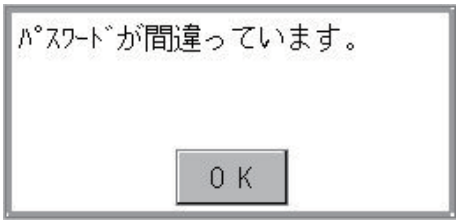
■2. セキュリティ変更の表示操作



■3. セキュリティレベルの変更操作

(1) パスワードの入力操作





Step 1. [0]～[9]，[A]～[F]キーをタッチして変更先セキュリティレベルのパスワードを入力します。[KEY]ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。

Step 2. 入力した文字を修正する場合には，[Del]キーをタッチして修正する文字を削除し，再入力してください。

Step 3. パスワードを入力後，[Enter]キーをタッチします。
パスワードが不一致の場合には，エラーメッセージを表示します。

Step 4. [OK]ボタンをタッチすると再度パスワードの入力画面に戻ります。

Step 5. [×]ボタンをタッチすると，
セキュリティ設定画面に戻ります。

POINT

セキュリティレベル一時的変更時の戻し忘れについて

セキュリティレベルを一時的に変更してGOTを使用した場合，セキュリティレベルを元のレベルに戻し忘れることのないように，注意してください。

13.2 オペレータ認証

13.2.1 オペレータ情報管理

■1. オペレータ管理

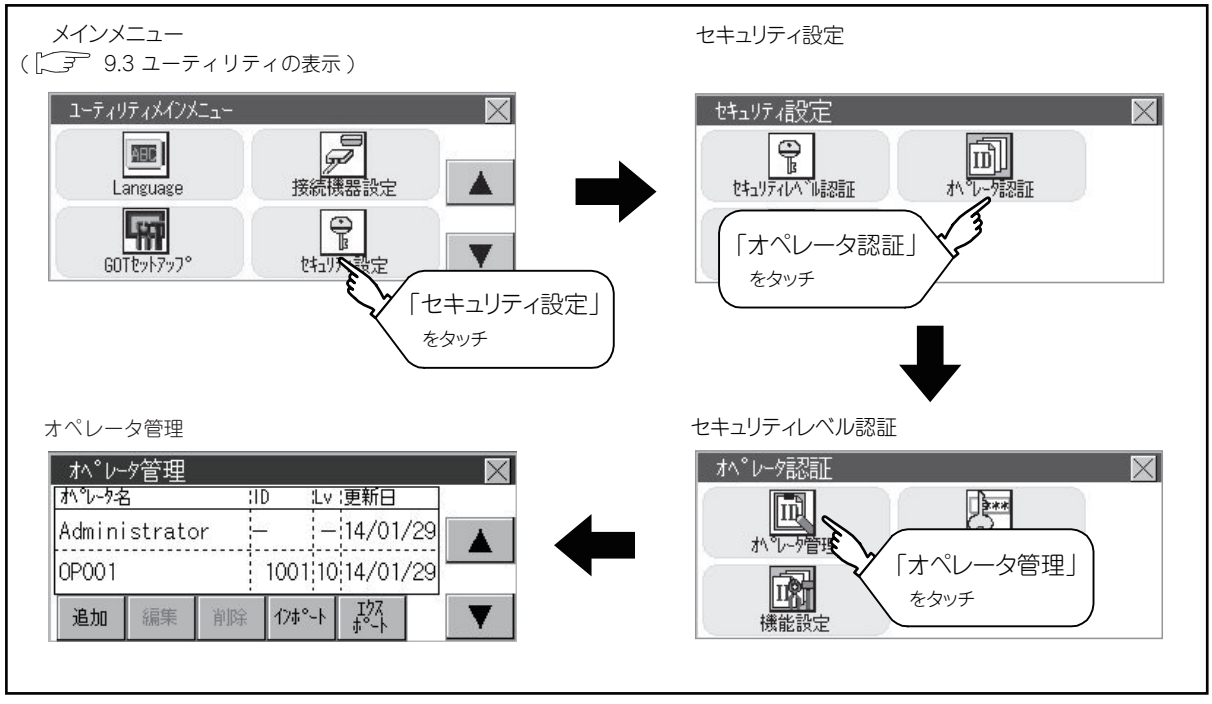
(1) オペレータ管理の機能

オペレータ認証機能で使用するオペレータ情報を一覧表示し，オペレータの追加/編集/削除などができます。
オペレータ認証時のパスワード有効期限切れにともなう，パスワードの変更ができます。
オペレータ認証時の機能(自動ログアウト時間，認証方法，パスワード有効期限など)を設定できます。
オペレータ認証機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

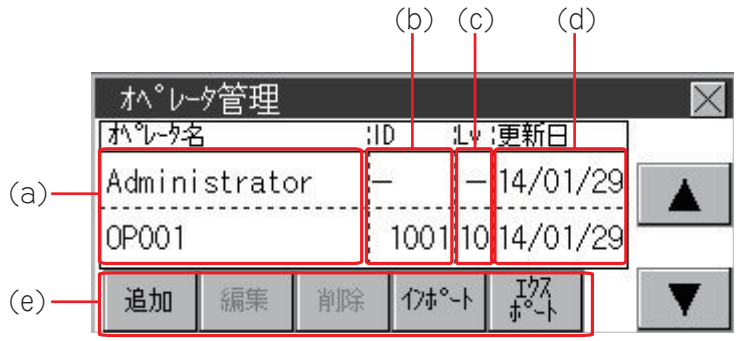
機能	内容	参照ページ
オペレータ管理	オペレータ情報の追加/編集/削除/インポート/エクスポートができます。	➡ 13-3，13-6
追加	GOTにオペレータ情報を追加します。	➡ 13-7
編集	GOTに保存されているオペレータ情報を編集します。	➡ 13-9
削除	GOTに保存されているオペレータ情報を削除します。	➡ 13-10
インポート	あらかじめSDカードにエクスポートされているオペレータ情報をGOTにインポートします。	➡ 13-11
エクスポート	GOTに保存されているオペレータ情報をSDカードにエクスポートします。	➡ 13-12
パスワード変更	ログイン/ログアウト時に使用するパスワードの変更ができます。	➡ 13-13
機能設定	自動ログアウト時間，パスワード有効期限を設定できます。	➡ 13-15

(2) オペレータ管理の表示操作



(3) オペレータ管理の表示例

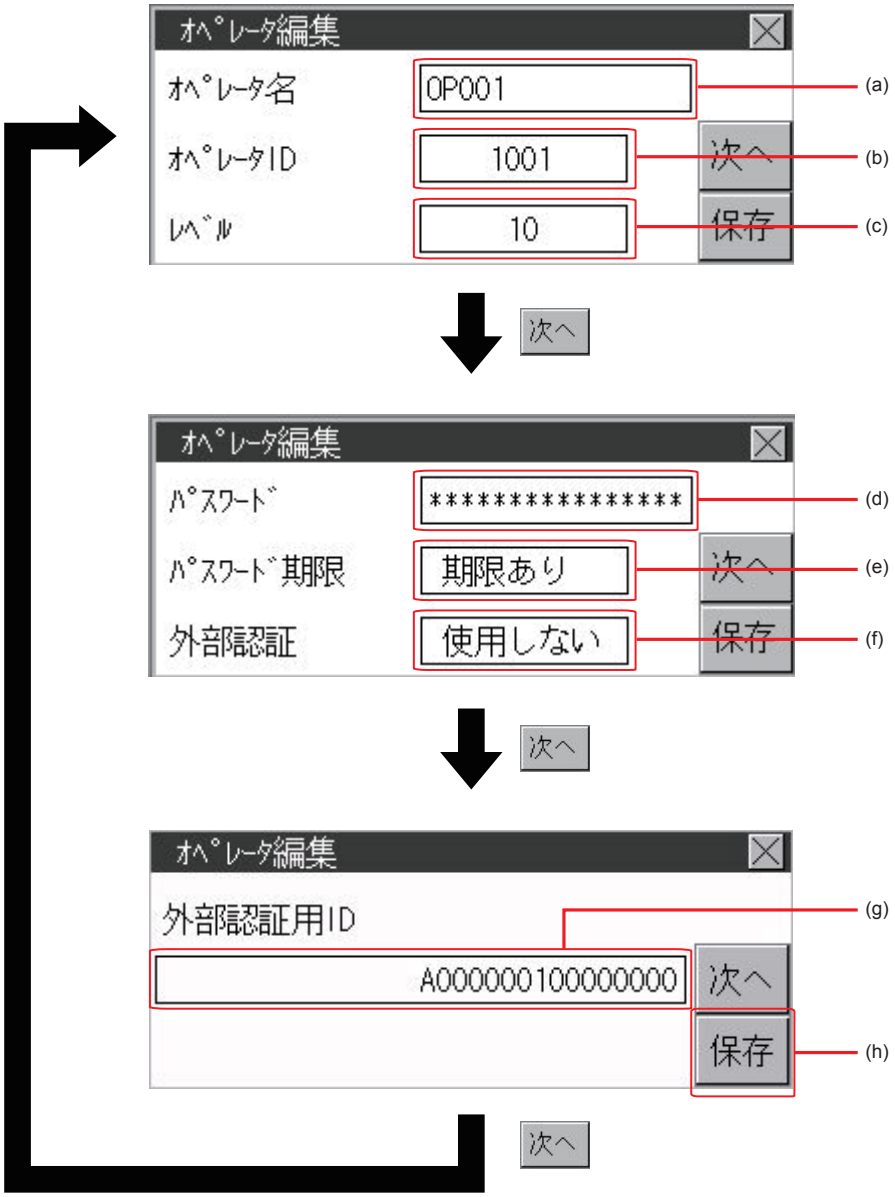
(a) オペレータ管理画面



番号	項目	内容
(a)	オペレータ名	オペレータ名を表示します。
(b)	ID	オペレータIDを表示します。
(c)	Lv	オペレータのセキュリティレベルを表示します。
(d)	更新日	オペレータ情報の最終更新日を表示します。
(e)	操作キー	各機能の実行キーです。

(b) オペレータ編集画面

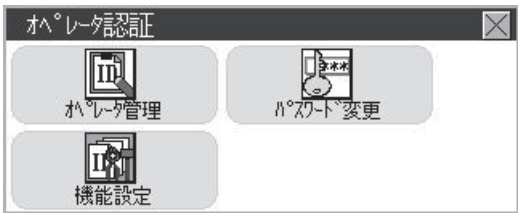
オペレータ管理画面で，[追加]ボタンをタッチするか，オペレータ情報を選択後，[編集]ボタンをタッチすると本画面が表示されます。
オペレータ情報の編集ができます。



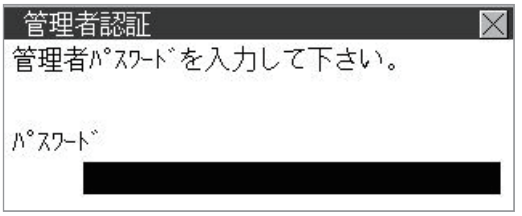
番号	項目	内容
(a)	オペレータ名	オペレータ名を表示/入力します。(英数字16文字まで)
(b)	オペレータID	オペレータIDを表示/入力します。 (設定範囲:1～32766，最大登録数:255)
(c)	レベル	オペレータのセキュリティレベルを表示/入力します。(0～15)
(d)	パスワード	パスワードを入力します。(英数字16文字まで)
(e)	パスワードを無期限にする	パスワード有効期限のあり/なしを切り替えます。
(f)	外部認証	外部認証を使用する/使用しないを切り替えます。
(g)	外部認証用ID	外部認証用ID を表示/ 入力します。 (外部認証設定範囲：英数字[*1] 4～ 32桁)
(h)	保存	設定内容を保存します。

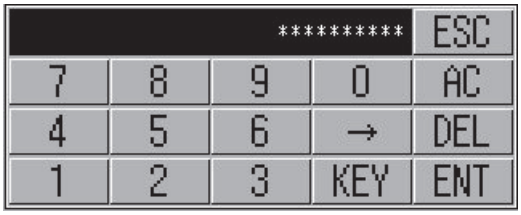
*1　*116進数用キーウィンドウのため，設定範囲は，A-F または0-9 の範囲で入力できます。

(4) オペレータ管理の操作



Step 1. [オペレータ認証]→[オペレータ管理]をタッチします。





Step 2. 管理者パスワード認証画面が表示されますので，管理者パスワードを入力してください。
[KEY]ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。

Step 3. 管理者パスワードが正しく入力されると，オペレータ管理画面が表示されます。
操作スイッチの操作については，下記を参照してください。
[追加]

➠ 本項(4) (a)

[編集]

➠ 本項(4) (b)

[削除]

➠ 本項(4) (c)

[インポート]

➠ 本項(4) (d)

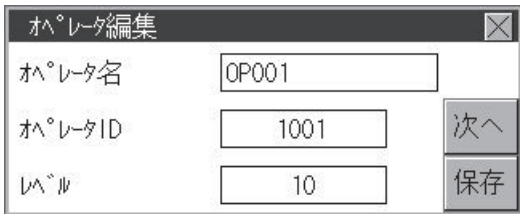
[エクスポート]

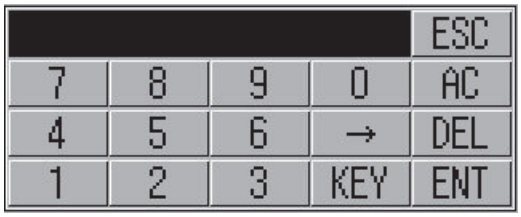
➠ 本項(4) (e)

Step 4. 右上に表示されている[×]をタッチすると，前画面に戻ります。

(a) 追加操作

GOTにオペレータ情報を追加します。





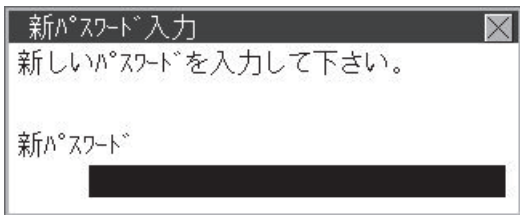
Step 1. [追加]ボタンをタッチします。

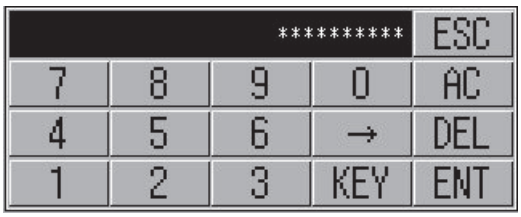
Step 2. オペレータ編集画面が表示されます。[次へ]スイッチをタッチして，編集する項目を表示させてから，編集する項目をタッチします。
(a)オペレータ名
(b)オペレータID
(c)レベル
(d)パスワード
(e)パスワード期限
(f)外部認証
(g)外部認証用ID

(a) オペレータ名をタッチすると，キーボードが表示されます。キーボードによりオペレータ名を入力します。
[KEY] ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。
入力が完了したら，[ENT] キーをタッチします。

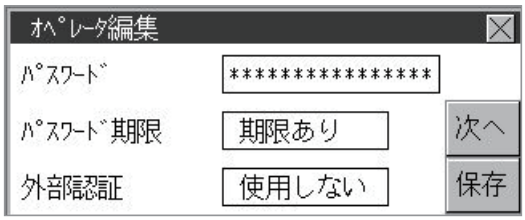
(b) オペレータ ID をタッチすると，キーボードが表示されます。オペレータ ID を入力します。
[KEY] ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。
入力が完了したら，[ENT] キーをタッチします。

(c) レベルをタッチすると，キーボードが表示されます。オペレータレベルを入力します。
[KEY] ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。
入力が完了したら，[ENT] キーをタッチします。
ログイン中のオペレータがレベルを変更した場合，いったんログアウトして再度ログインするまで，新しいレベルは適用されません。



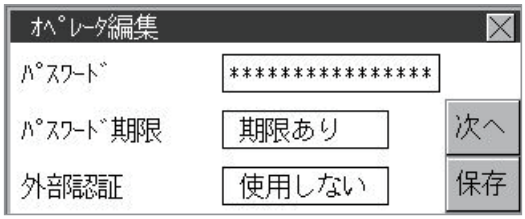


(d) パスワードを変更する場合は，パスワードをタッチします。キーボードが表示されますので，パスワードを入力します。
入力が完了したら，[ENT] キーをタッチします。
パスワードの入力が完了すると，新パスワード入力確認ダイアログボックスが表示されますので，再度同じパスワードを入力します。



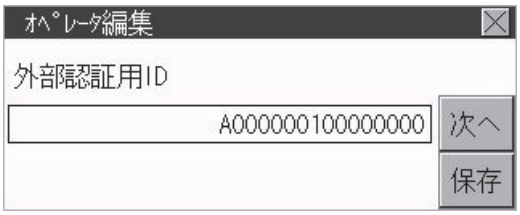
(e) パスワードの有効期限を切り替える場合は，「パスワード期限」のダイアログボックスをタッチして，設定を切換えます。

[期限あり] ⇄ [無期限]



(f) 外部認証の使用する場合は，ダイヤログボックスをタッチして設定を切り換えます。

[使用する] ⇄ [使用しない]



(g) 外部認証用 ID のダイヤログボックスをタッチすると，16 進テンキーが表示されますので，外部認証用 ID を入力します。入力が完了したら，[Enter] キーをタッチします。
認証方式を 外部認証に設定している場合，外部認証機器で外部認証用 ID を入力することもできます。

Step 3. すべての項目を入力し，[保存]ボタンをタッチすると入力したオペレータ情報が保存されます。右上に表示されている[×]をタッチすると，前画面に戻ります。

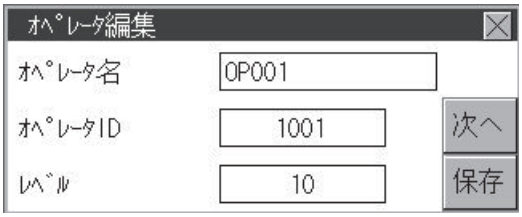
POINT

設定保存

[保存]ボタンをタッチしないで，[×]をタッチすると，設定内容が保存されずに前画面に戻ります。
設定内容を保存する場合は，必ず[保存]ボタンをタッチしてください。

(b) 編集操作

GOTに保存されているオペレータ情報を編集します。



Step 1. 編集するオペレータ情報をタッチして選択します。

Step 2. [編集]ボタンをタッチします。

Step 3. オペレータ編集画面が表示されます。[次へ]スイッチをタッチして，編集する項目を表示させてから，編集する項目をタッチします。
(a)レベル
(b)パスワード
(c)パスワード期限
(f)外部認証
(g)外部認証用ID
編集方法については，下記を参照してください。

➡ 本項(4)(a)

Step 4. すべての項目を入力し，[保存]ボタンをタッチすると入力したオペレータ情報が保存されます。右上に表示されている[×]をタッチすると，前画面に戻ります。

POINT

設定保存

[保存]ボタンをタッチしないで，[×]をタッチすると，設定内容が保存されずに前画面に戻ります。
設定内容を保存する場合は，必ず[保存]ボタンをタッチしてください。

(c) 削除操作

GOTに保存されているオペレータ情報を削除します。

Step 1. 削除するオペレータ情報をタッチして，選択します。

Step 2. [削除]ボタンをタッチすると、該当するオペレータ情報が削除されます。右上に表示されている[×]をタッチすると，前画面に戻ります。

(d) インポート操作

あらかじめSDカードにエクスポートされているオペレータ情報をGOTにインポートします。

Step 1. [インポート]ボタンをタッチします。

Step 2. 左記のダイアログボックスが表示されます。
[YES]ボタンをタッチすると，管理者パスワード認証画面が表示されますので，管理者パスワードを入力してください。
[KEY]ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。
入力が完了したら，[Enter]キーをタッチします。

Step 3. 管理者パスワードが正しく入力されると，左記のダイアログボックスが表示され，SDカードに保存されているオペレータ情報がGOTにインポートされます。

(e) エクスポート操作

GOTに保存されているオペレータ情報をSDカードにエクスポートします。

Step 1. [エクスポート]ボタンをタッチします。

Step 2. 左記のダイアログボックスが表示されます。

Step 3. ファイルの出力形式により，下記のボタンをタッチしてください。

バイナリファイル：
[BIN]ボタン
CSVファイル ：
[CSV]ボタン

Step 4. 左記のダイアログボックスが表示されます。
エクスポートする場合，［YES］をタッチします。

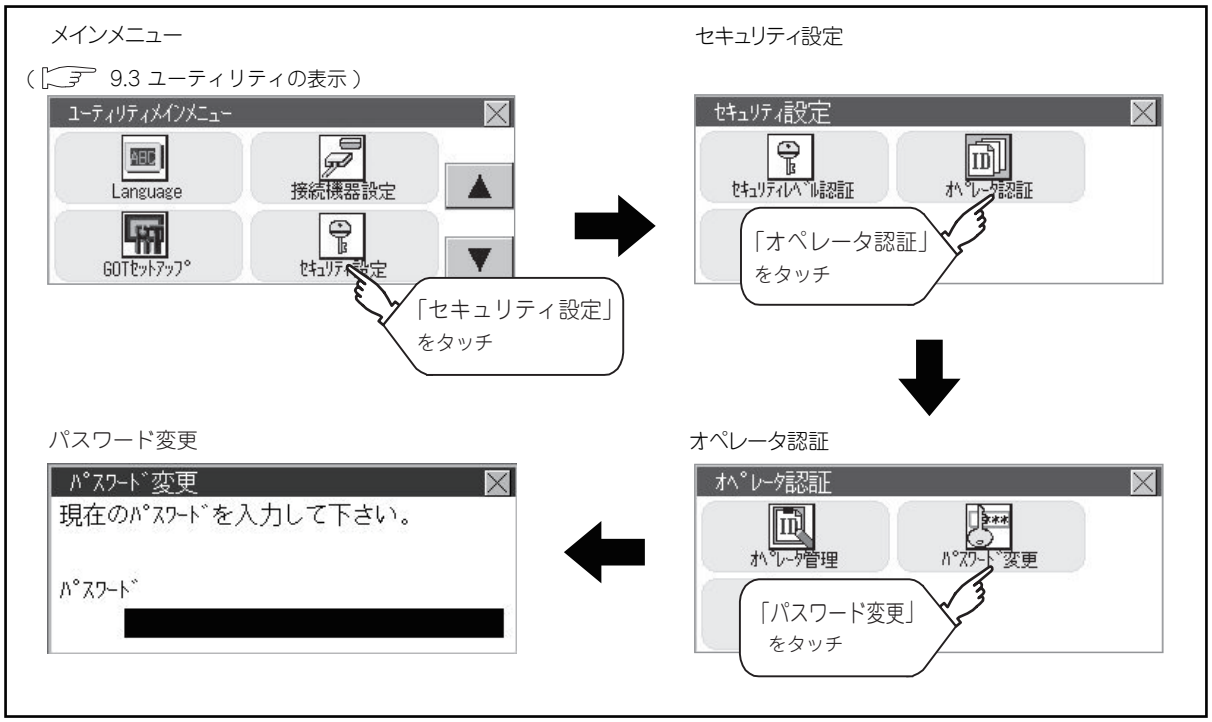
Step 5. 左記のダイアログボックスが表示され，GOTに保存されているオペレータ情報がSDカードにエクスポートされます。
(ファイル名: AUTHINF.G2U)

13.2.2　パスワード変更

(1)　パスワード変更の機能

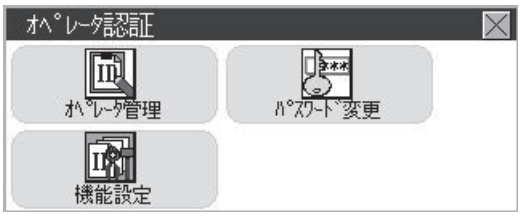
オペレータ認証で使用するパスワードを変更できます。
パスワード変更の際は，あらかじめパスワードを変更するオペレータIDで，GOTにログインしておく必要があります。

(2)　パスワード変更の表示操作

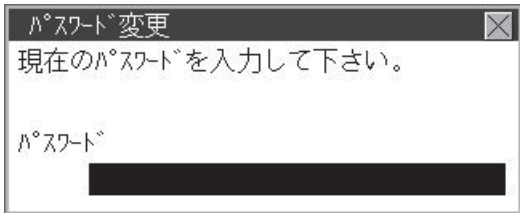


(3) パスワード変更の操作

Step 1. [セキュリティ設定]→[ログイン/ログアウト]タッチにて，パスワード変更するオペレータIDでGOTにログインしてください。

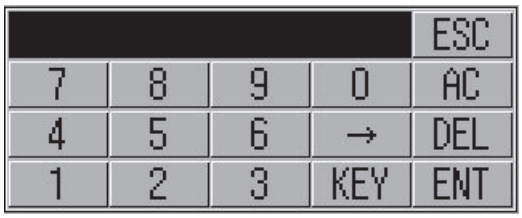


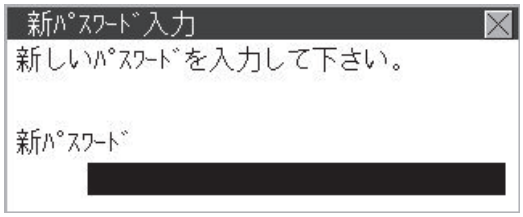
Step 2. オペレータ設定メニューで[パスワード変更]をタッチすると，オペレータ認証：パスワード変更ダイアログボックスが表示されます。



Step 3. オペレータ認証：パスワード変更ダイアログボックスで，現在のパスワードを入力してください。
[KEY]ボタンをタッチすると入力する文字の種類を変更できます。

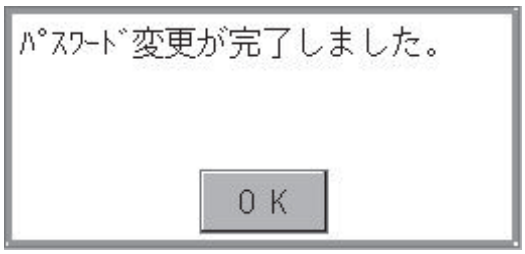
入力が完了したら，[ENT]キーをタッチします。





Step 4. 新しいパスワードを入力してください。

Step 5. 入力後，再度，新しいパスワードを入力してください。



Step 6. 新しいパスワードが正しく入力されると，左記のダイアログボックスが表示され，パスワードが変更されます。

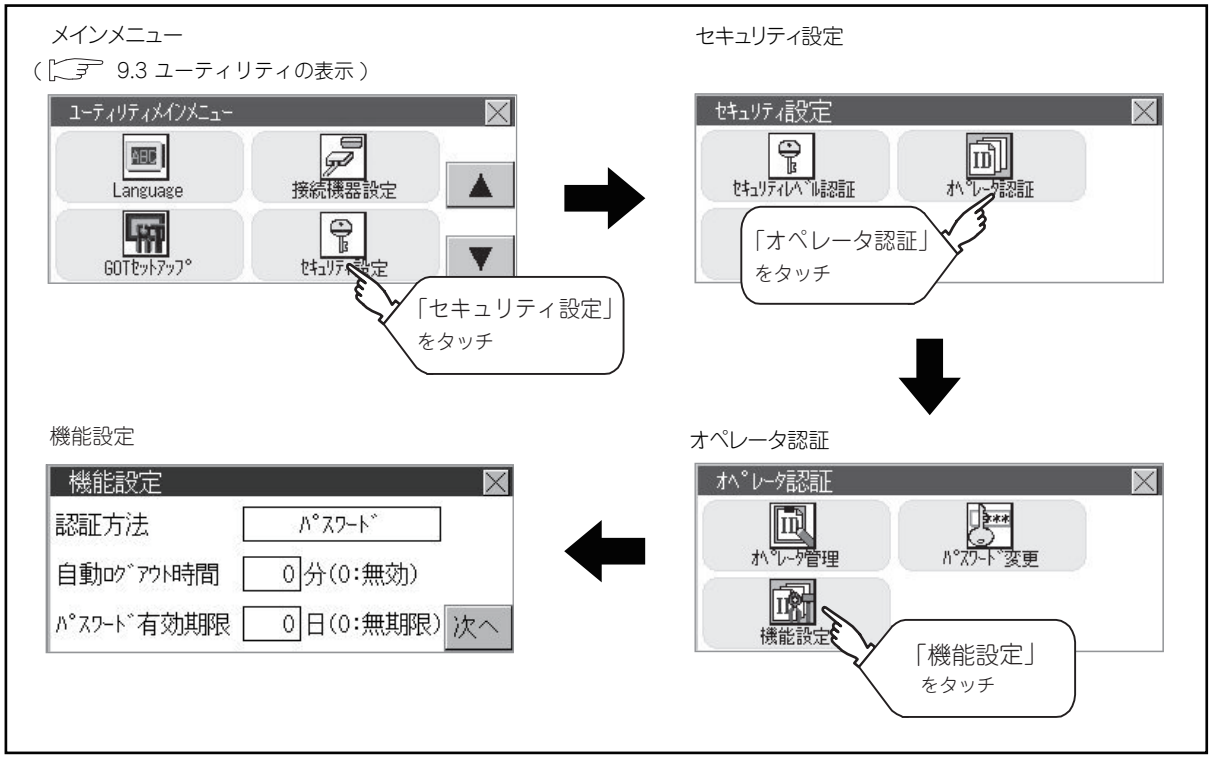
13.2.3 機能設定

(1) 機能設定の機能

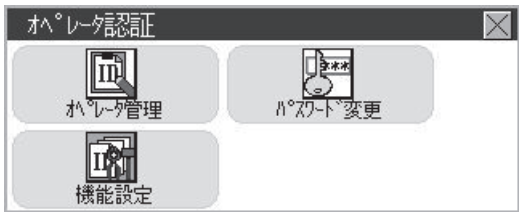
オペレータ情報の機能設定ができます。設定できる項目を下記に示します。

項目	内容	参照ページ
認証方法	認証方法の切替を行います。 [パスワード], [外部認証], [外部認証/パスワード]	➡ 13-16
自動ログアウト時間	最後にGOTを操作してから，自動ログアウトするまでの時間を設定できます。 (1～60分，0は無効)	➡ 13-16
パスワード有効期限	オペレータ認証で使用するパスワードを，定期的に変更する場合に設定します。(1～1000日，0は無効) パスワード設定後，有効期限の日数が過ぎると，オペレータにパスワードの変更を要求します。	➡ 13-16
外部認証用ID先頭位置	外部認証機器から読み出したデータの中から，外部認証用IDの先頭位置(バイト数)を設定できます。(0～1998バイト)	➡ 13-16
外部認証用ID有効バイト数	外部認証IDの有効バイト数を設定できます。(2～16バイト)	➡ 13-16

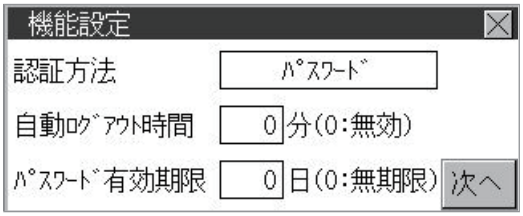
(2) 機能設定の表示操作



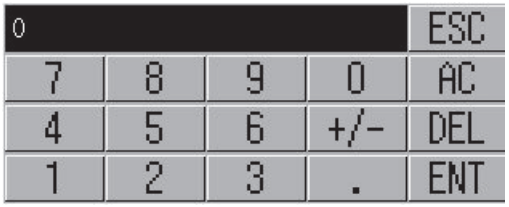
(3) 機能設定の操作



Step 1. [オペレータ認証]→[機能設定]をタッチすると，管理者パスワード認証ダイアログボックスが表示されます。



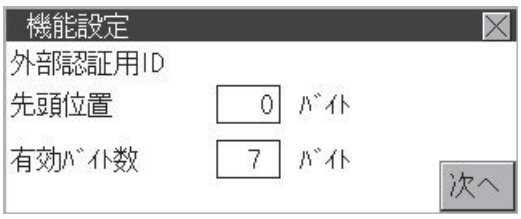
Step 2. 管理者パスワードが正しく入力されると，機能設定画面が表示されます。
[次へ]スイッチで設定画面を切り換えて，設定する項目をタッチします。
(a) 認証方法
(b) 自動ログアウト時間
(c) パスワード有効期限
(d) 外部認証用ID先頭位置
(e) 外部認証用ID有効バイト数



(a) 認証方法
認証方法の切替を行います。
項目をタッチすると，[パスワード] → [外部認証] → [外部認証 / パスワード] とタッチするごとに切替わります。

(b) 自動ログアウト時間の設定をタッチすると，テンキーが表示されるので，設定時間を入力してください。入力が完了したら，[ENT] キーをタッチします。

(c) パスワード有効期限の設定をタッチすると，テンキーが表示されるので，設定時間を入力してください。入力が完了したら，[Enter] キーをタッチします。



(d) 外部認証用 ID 先頭位置
外部認証機器から読み出したデータの中から，外部認証用 ID の先頭位置 (バイト数) を設定できます。

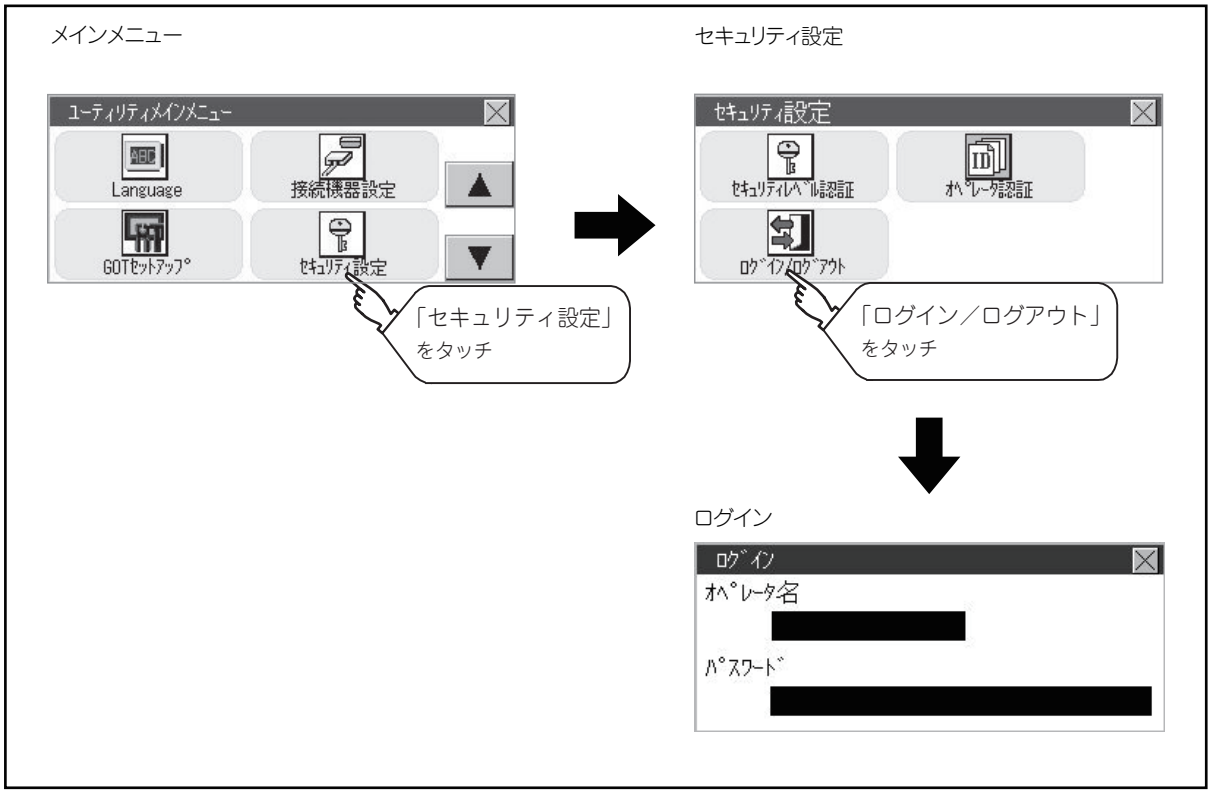
(e) 外部認証用 ID 有効バイト数
外部認証用 ID の有効バイト数が設定できます。
(認証方法が [外部認証]，[外部認証 / パスワード] の場合のみ有効です。)

Step 3. 右上に表示されている[×]をタッチすると，設定内容を保存して前画面に戻ります。

13.3 ログイン/ログアウト

ログインした上で，オペレータ管理，パスワード変更を行ってください。

■1. ログイン/ログアウトの表示操作

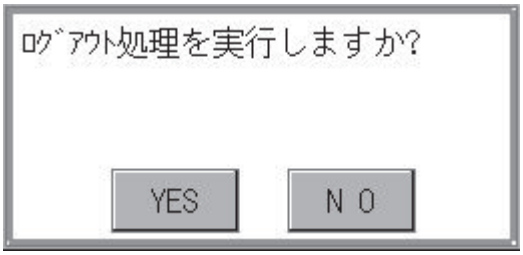


■2. ログイン/ログアウトの操作

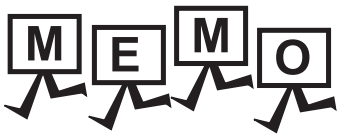
(1) ログイン

Step 1. オペレータ名，パスワードを入力して，ログインしてください。
外部認証機器でのログインも可能です。

(2) ログアウト



Step 1. [セキュリティ設定]→[ログイン/ログアウト]をタッチすると、左記画面が表示されるので、[YES]をタッチしてください。


MEMO

14. 時計の設定とバッテリの状態表示（時計の表示/設定画面）

GOTの時計データ（日付と時刻）を表示および設定します。

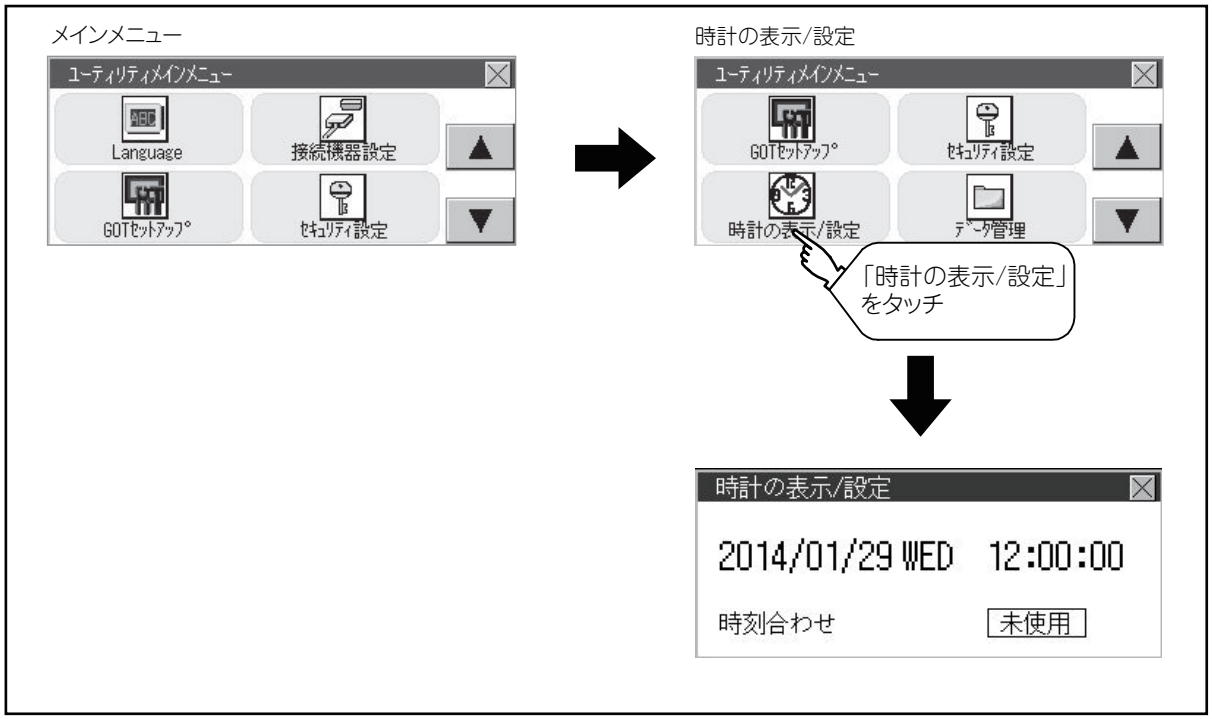
14.1 時計の表示と設定画面

14.1.1 時計の表示と設定機能

時計に関する設定とGOT内蔵バッテリの状態表示ができます。

機能	内容
時計表示	接続機器の時計データの表示および設定を行います。

14.1.2 時計の表示と設定の表示操作

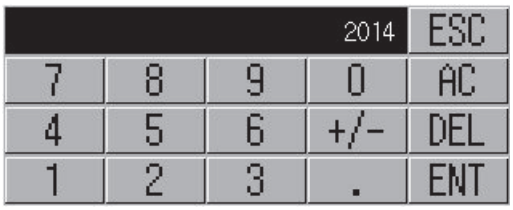


14.1.3　時計の設定操作

■1. 時計表示

GOTの時計データの表示と設定を行います。
時計データの設定時は，時計管理の設定が「未使用」以外の場合，GOT と接続機器の時計データを変更します。接続機器への時計データの変更処理に失敗した場合，GOTの時計データの変更も行われません。
接続機器と未接続状態，または，時計データを保持しない接続機器と接続状態で時計データを変更する場合，時計管理の設定を「未使用」に設定した上で行ってください。
時計データの設定方法を下記に示します。

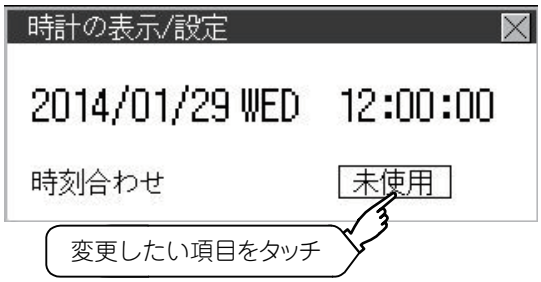
Step 1. 日付，または時刻のうち，変更したい項目をタッチします。



Step 2. テンキーで日付または時刻の値を設定します。

曜日の表示は，入力された日付に対応し，自動的に表示されます。

「0」～「9」
数値入力用のキーです。
「ESC」
入力された値を破棄し，テンキーを表示したときの日付や時刻に戻してテンキーを閉じます。
「AC」
数値入力中の値を全て削除します。
「DEL」
数値入力中の値を1文字分削除します。
「ENT」
入力された日付や時刻を確定し，テンキーを閉じます。
「+/－」
入力値を正/負の値に変更します。（日付や時計データは正の値のみ有効です。）
「.」
無効（使用しません。）



Step 3. [時計調整]を設定します。設定項目をタッチすると設定内容が変わります。[使用する] ⇄ [未使用]
使用する：外部接続機器から時刻情報を取得する。
未使用：外部接続機器から時刻情報を取得しない。

Step 4. 日付または時刻を設定後，[×]ボタンをタッチして設定画面を閉じます。

15. 各種データ管理(データ管理)

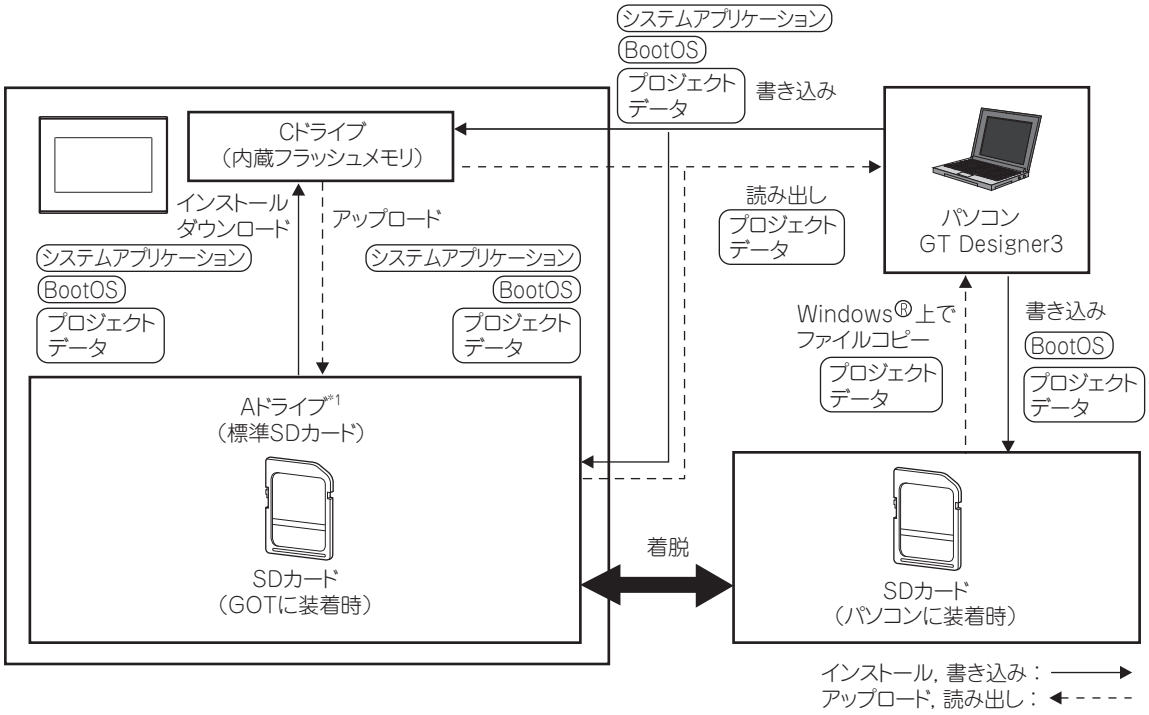
GOTやSDカードに書き込まれているシステムアプリケーション，プロジェクトデータ(画面データ)，アラームデータの表示やGOTとSDカード間のデータ転送が行えます。
また，SDカードのフォーマットもできます。

15.1 データの保存先

15.1.1 データの種類と格納先

■1. システム

データの種類ごとに，データの格納先と転送 (書き込み / 読み出し) 経路を下記に示します。
また，データの格納先を下表に示します。



*1　別売のSDカードユニット(GT21-03SDCD)が必要です。

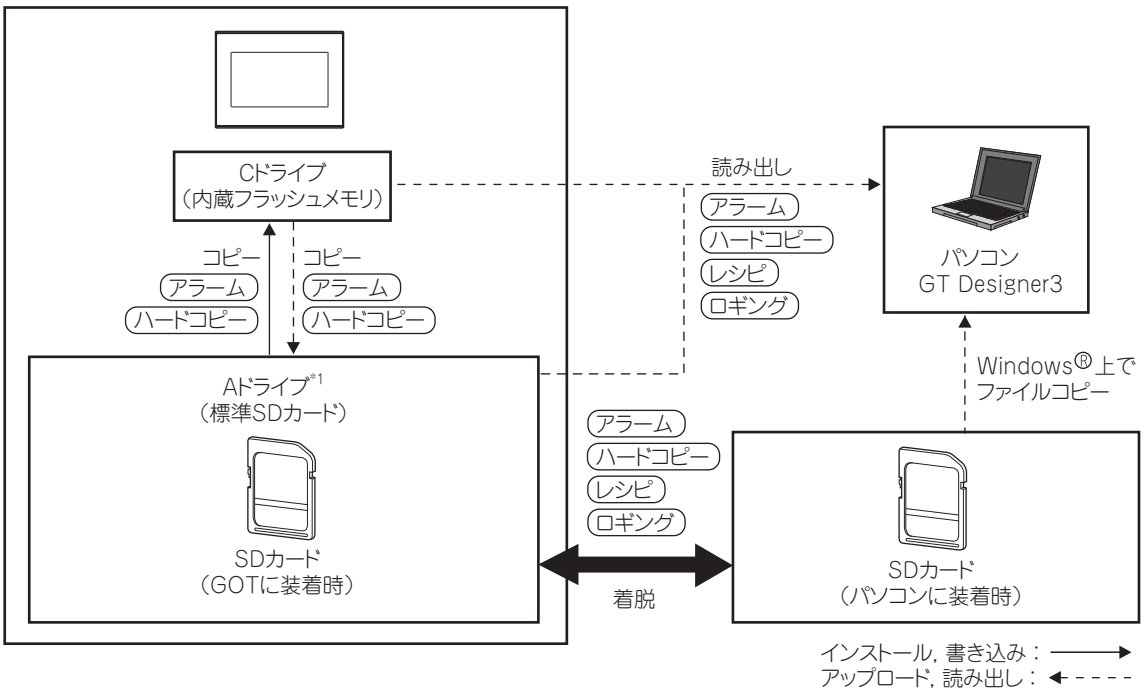
内蔵フラッシュメモリのデータ (プロジェクトデータなど) は，バッテリ電圧が低下した場合でも保持されます。

項目	データの種類	格納先
BootOS	BootOS	内蔵フラッシュメモリ(Cドライブ)
システムアプリケーション *1	基本システムアプリケーション	標準SDカード(Aドライブ) 内蔵フラッシュメモリ(Cドライブ) *2
	通信ドライバ	
	拡張システムアプリケーション	
プロジェクトデータ *1	プロジェクトデータ (レシピ設定，アラーム条件，タイムアクション，GOTセットアップを含む)	標準SDカード(Aドライブ) 内蔵フラッシュメモリ(Cドライブ) *2

*1　SDカードを使用する場合はユーティリティより使用できます。
➡ 15.2 システムアプリケーション情報

*2　標準SDカード(Aドライブ)に格納しているプロジェクトデータをGOTで使用する場合は，SDカードを装着した状態で使用してください

■2. メンテナンス時



*1　別売のSDカードユニット(GT21-03SDCD)が必要です。

■3.

項目	データの種類	格納先
アラーム	アラームデータ(アラームログファイル)	標準SDカード(Aドライブ) Cドライブ（内蔵フラッシュメモリ）
レシピ	レシピデータ(レシピファイル)	
ロギング	ロギング(ロギングファイル)	
ハードコピー	画像ファイル(ハードコピー機能)	

POINT

保存先メモリ容量の確認

リソースデータを保存する場合，保存先メモリの空き容量を確認して使用してください。

15.1.2　BootOS，基本システムアプリケーションのバージョン確認

BootOS，基本システムアプリケーションのインストール時は，基本システムアプリケーションのバージョンに注意が必要です。
基本システムアプリケーションのインストール時，GOTは自動的に基本システムアプリケーションのバージョンを比較チェックします。

(1)　BootOSインストール時

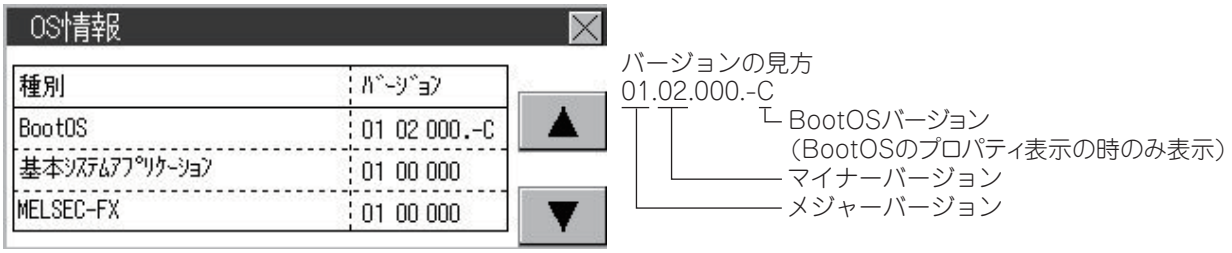
インストール対象BootOSのメジャーバージョンが古い場合，古いバージョンに書き換えられるのを防ぐためにインストール不可メッセージを表示し，インストールを中止します。
(バージョンが同じ，もしくは新しい場合でも，バージョン情報と，継続する・しないを選択するダイアログボックスが表示されます。)

(2)　基本システムアプリケーション，通信ドライバインストール時

基本システムアプリケーション，通信ドライバが既にインストールされている場合，インストール済基本システムアプリケーションのバージョン情報と，継続する・しないを選択するダイアログボックスが表示されます。
また，基本システムアプリケーションのインストールによって全システムアプリケーション(基本システムアプリケーション，通信ドライバ)間でバージョンの混在が発生する場合には，インストール不可を示すダイアログボックスを表示し，インストール処理を中断します。

(3)　プロジェクトデータダウンロード時

GOTはダウンロードするプロジェクトデータと，既にインストール済の基本システムアプリケーションとのバージョンを自動的に比較します。
バージョンが異なる場合は，基本システムアプリケーションもあわせてインストールするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
GOTにインストールされている各システムアプリケーションのバージョンはOS情報画面によって確認できます。



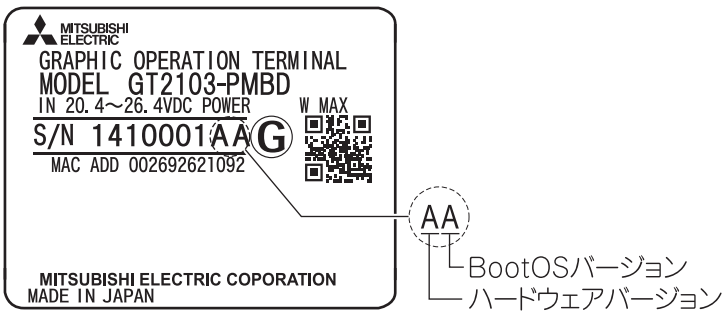
画面の表示操作は，下記を参照してください。

➠ 15.2 システムアプリケーション情報

POINT

定格銘板によるBootOSのバージョン確認について

製品出荷時にGOTにインストールされているBootOSのバージョンは，GOT背面の定格銘板で確認してください。



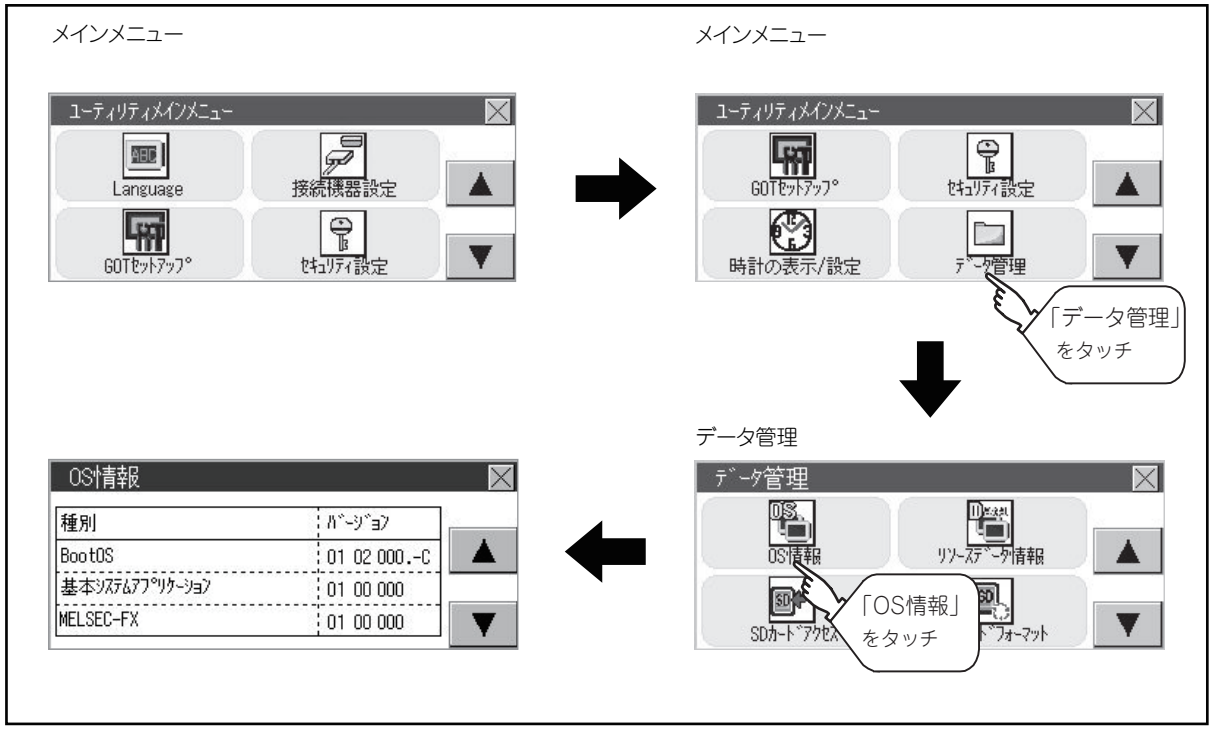
15.2 システムアプリケーション情報

■1. システムアプリケーション情報の機能

GOTで動作しているBootOSおよびパッケージデータの各ファイル名/フォルダ名をリスト表示できます。

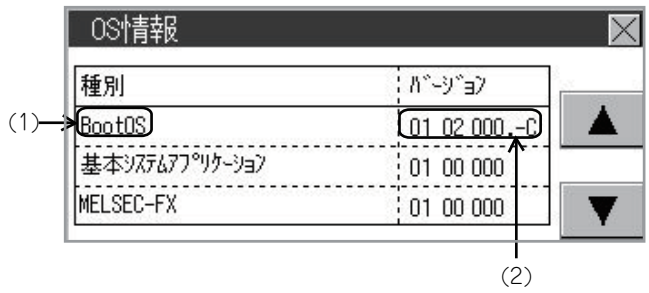
機能	内容	参照ページ
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルの種類と名称，バージョンを表示します。	➠ 15-5

■2. システムアプリケーション情報の表示操作



■3. システムアプリケーション情報の表示例

OS情報画面　保存ファイル/フォルダ表示画面



番号	項目	内容
(1)	名称	GOTで動作しているBootOSおよびパッケージデータの各ファイル名/フォルダ名をリスト表示できます。
(2)	バージョン情報	S/Wバージョンを表示します。

15.3.1 アラーム情報

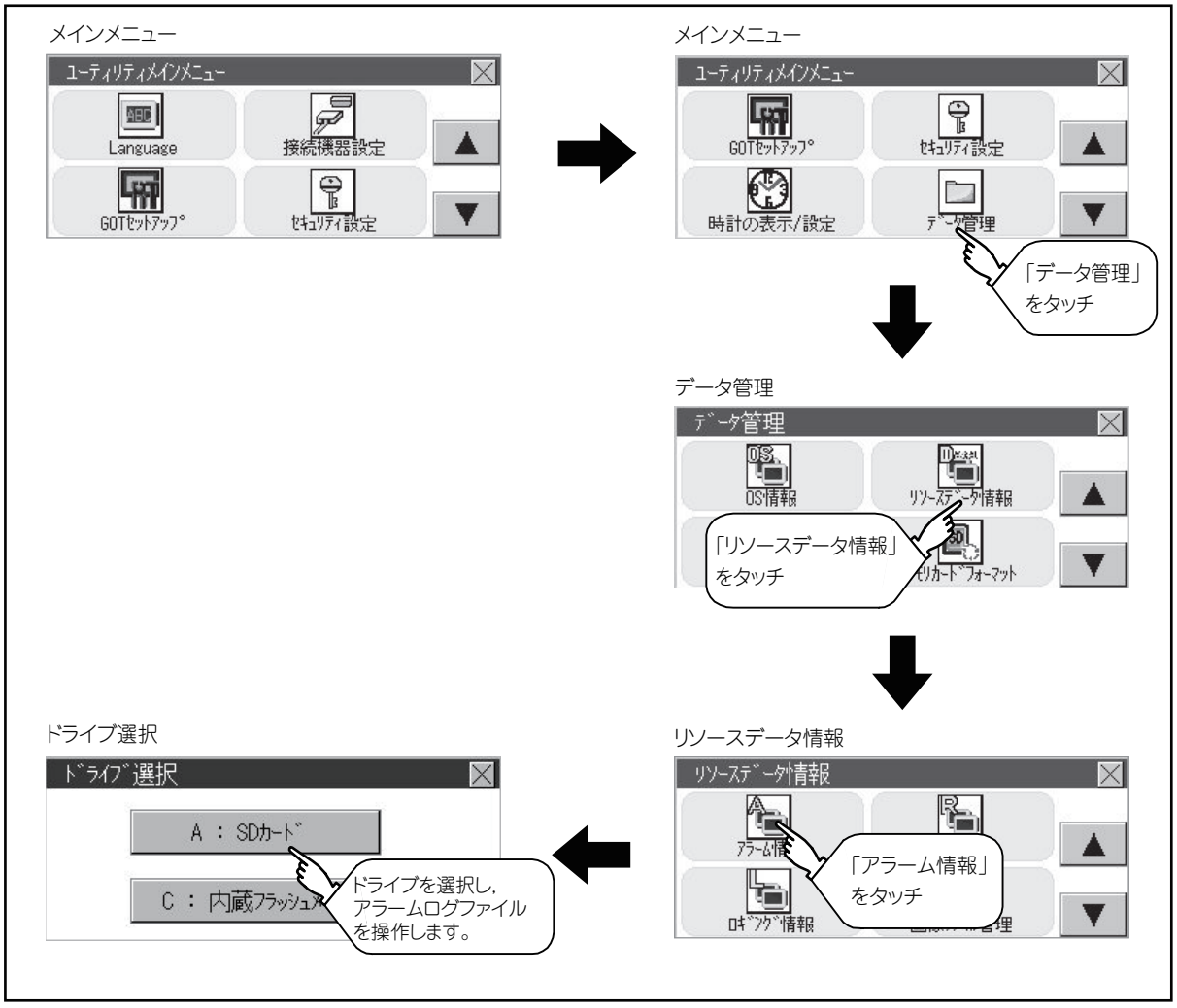
■1. アラーム情報の機能

各ドライブ(A:標準SDカード，C:内蔵フラッシュメモリ)が保持しているアラームログファイルを表示します。
また，ファイルに対して下記項目の処理を行えます。
アラームの詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

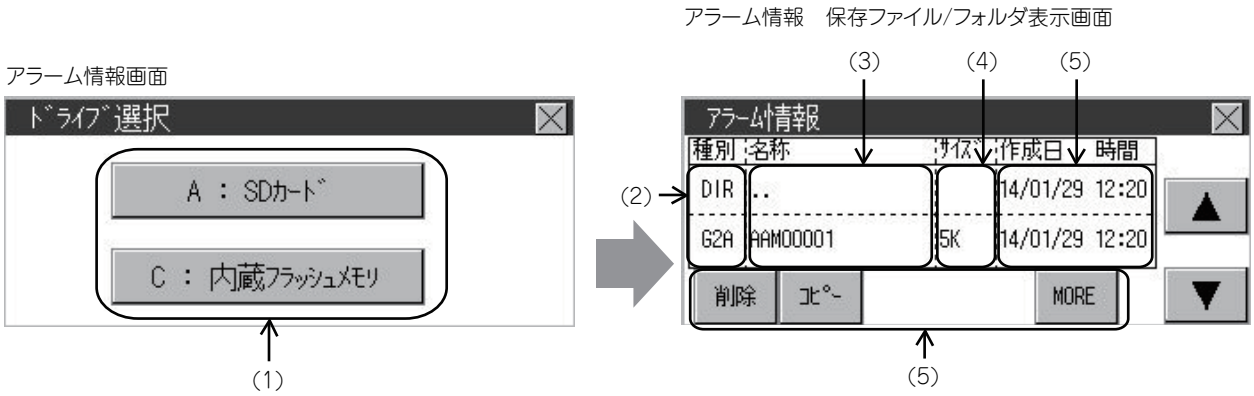
➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

機能	内容	参照ページ
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの名称，データサイズ，作成日時を表示します。	➠ 15-7，15-8
G2A→CSV変換	アラームログファイルのG1Aファイルを CSVファイルへ変換します。	➠ 15-9
G2A→TXT変換	アラームログファイルのG1Aファイルを TXTファイルへ変換します。	➠ 15-9
削除	ファイルを削除します。	➠ 15-10
コピー	ファイルをコピーします。	➠ 15-11

■2. アラーム情報の表示操作



■3. アラーム情報の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ファイルやフォルダの表示を行う対象ドライブを選択できます。
(2)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合はDIRと表示します。
(3)	名称	ファイル名やフォルダ名を表示します。 長いファイル名/フォルダ名は，すべて表示できない場合があります。 ➠ ■4. アラーム情報の操作
(4)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(5)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(6)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチです。

POINT

(1) 作成日，時間欄の表示について

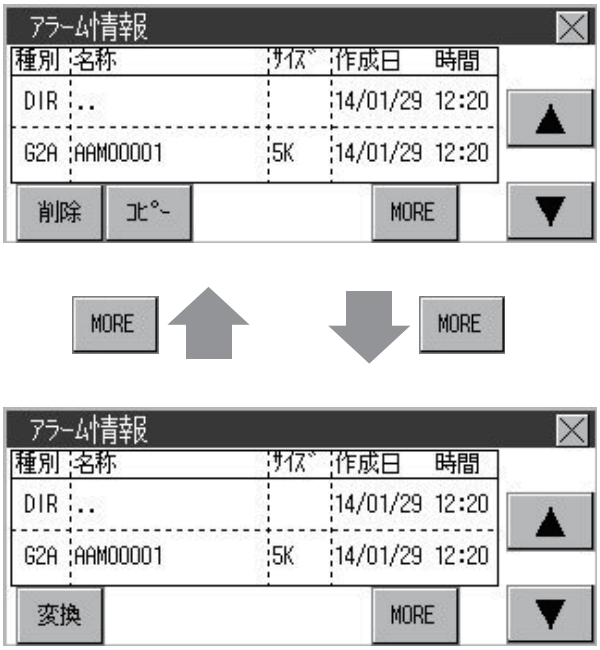
アラーム情報表示画面表示中にファイルが作成または更新されても，作成日，時間欄の表示は更新されません。
現在表示している画面をいったん閉じ(上の階層のフォルダへ移動するなど)，再度該当の画面を表示すると更新した内容が表示されます。

■4. アラーム情報の操作

(1) アラーム情報の表示操作

アラーム情報画面

アラーム情報　保存ファイル/フォルダ表示画面



Step 1. ドライブ選択のドライブをタッチすると，タッチしたドライブ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの▲ ▼ボタンをタッチすると，
1行ずつ上下にスクロールします。

Step 5. ファイルの名称をタッチすると，ファイルを選択します。

Step 6. G2A→CSV，G2A→TXT，削除，コピー，グラフの操作については，下記を参照してください。
G2A→CSV，G2A→TXT

➡ 本項(2)

削除

➡ 本項(3)

コピー

➡ 本項(4)

Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

(2) G2A→CSV変換操作，G2A→TXT変換操作

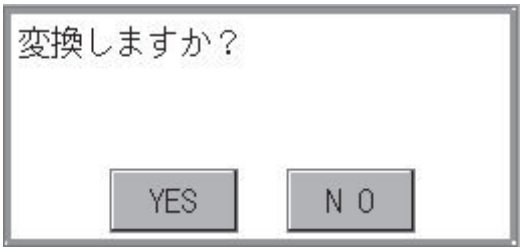
選択したG1AファイルをCSVファイルまたはTXTファイルへ変換します。

Step 1. CSVファイルまたはTXTファイルに変換するG2Aファイルをタッチして選択します。

Step 2. [変換]をタッチしてください。

Step 3. 変換先ファイルの種類により下記のボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。

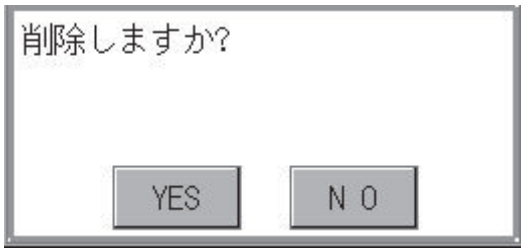
- CSVファイル：
  [CSV]ボタン
- TXTファイル：
  [TXT]ボタン



Step 4. [YES]ボタンをタッチします。変換後のファイルが作成されて，上書き保存されます。

(3) 削除操作

選択したファイルを削除します。



Step 1. 削除するファイルをタッチして選択します。

Step 2. [削除]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[YES]ボタンをタッチするとファイルを削除します。
[NO]ボタンをタッチすると削除操作を中止します。

(4) コピー操作

選択したファイルをコピーします。

Step 1. コピーするファイルをタッチして選択します。

Step 2. [コピー]ボタンをタッチすると、ドライブ選択画面が表示されます。

Step 3. ドライブを選択してください。

Step 4. コピー先のフォルダを選択して、[実行]をタッチしてください。ファイルがコピーされます。

15.3.2　レシピ情報

POINT

レシピ情報を使用する前に

本機能を使用して接続機器に書込み/読出しなどをしたり，レシピファイルをパソコンで編集したりする場合は，下記のマニュアルを参照してください。
仕様や操作の流れなど記載しています。

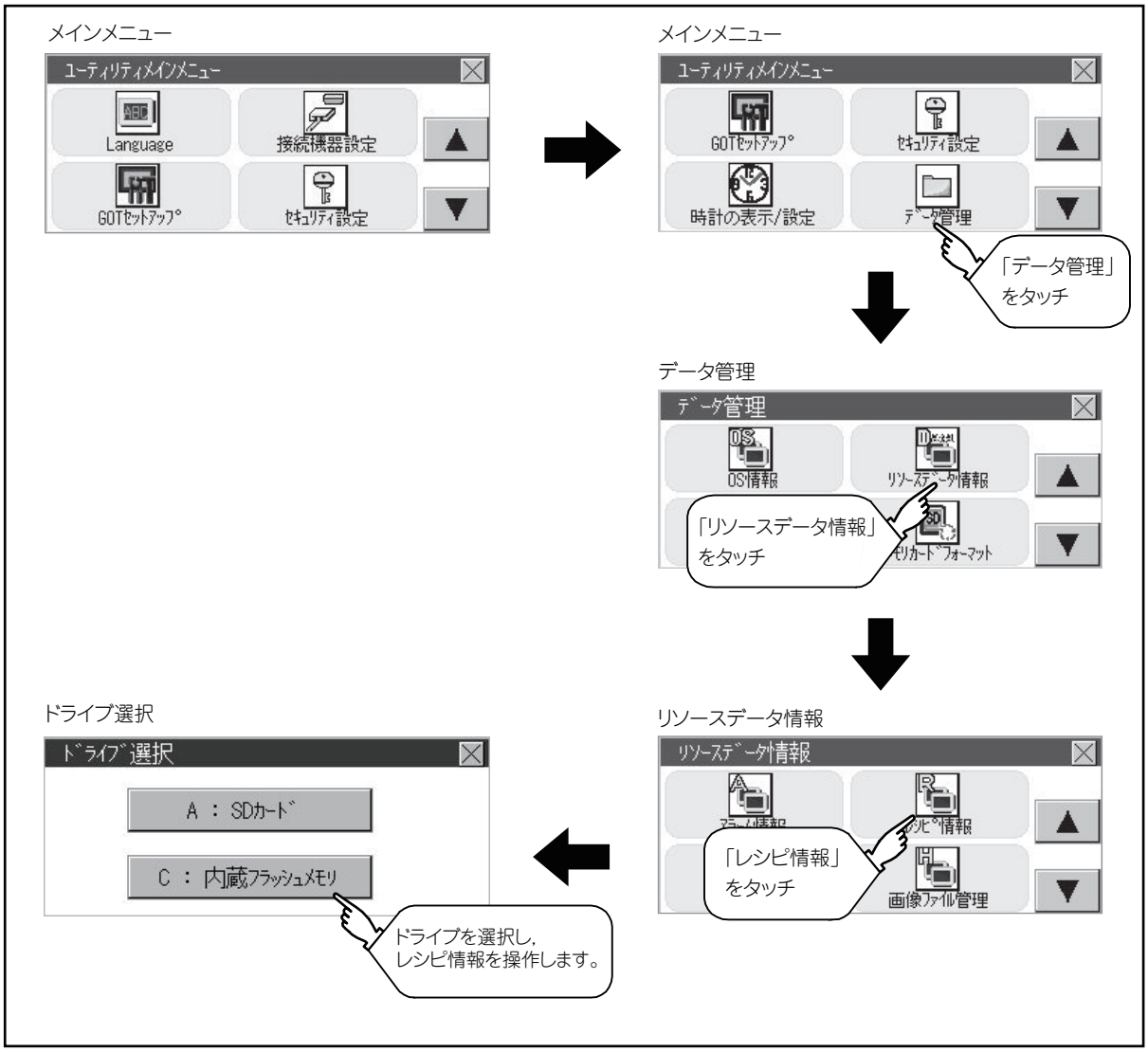
➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

■1. レシピ情報の機能

レシピ機能で使用するレシピファイルに対し，コピー /削除/ファイル変換などができます。

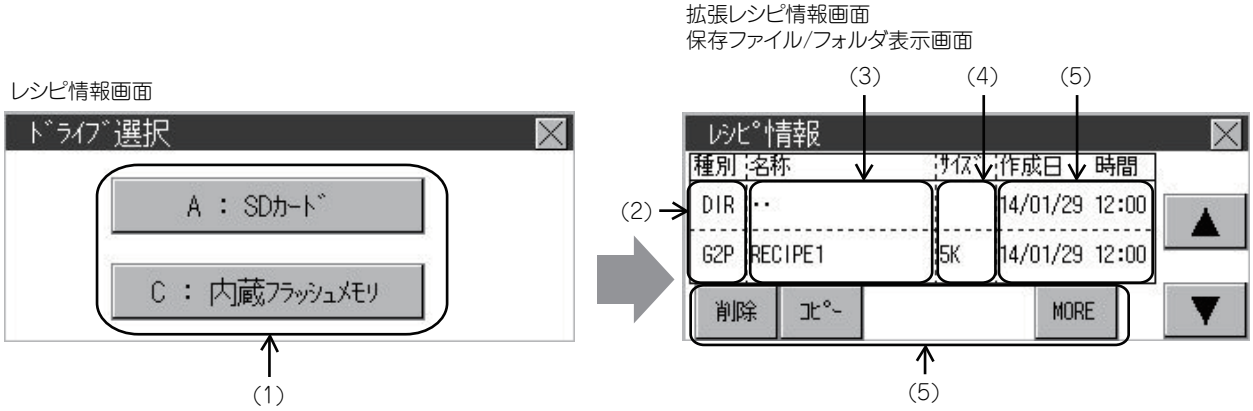
機能		内容	参照ページ
レシピ情報画面	ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの名称，データサイズ，作成日時を表示します。	➡ 15-14 15-15
	G2P→CSV変換	レシピファイルのG2PファイルをCSVファイルへ変換します。	➡ 15-16
	G2P→TXT変換	レシピファイルのG2PファイルをUnicodeテキストファイルへ変換します。	➡ 15-16
	CSV，TXT→G2P変換	CSV，TXTファイルをレシピファイルのG1Pファイルへ変換します。	➡ 15-17
	削除	ファイルを削除します。	➡ 15-18
	コピー	ファイルをコピーします。	➡ 15-19

■2. レシピ情報の表示操作



■3. レシピ情報の表示例

(1) レシピ情報画面

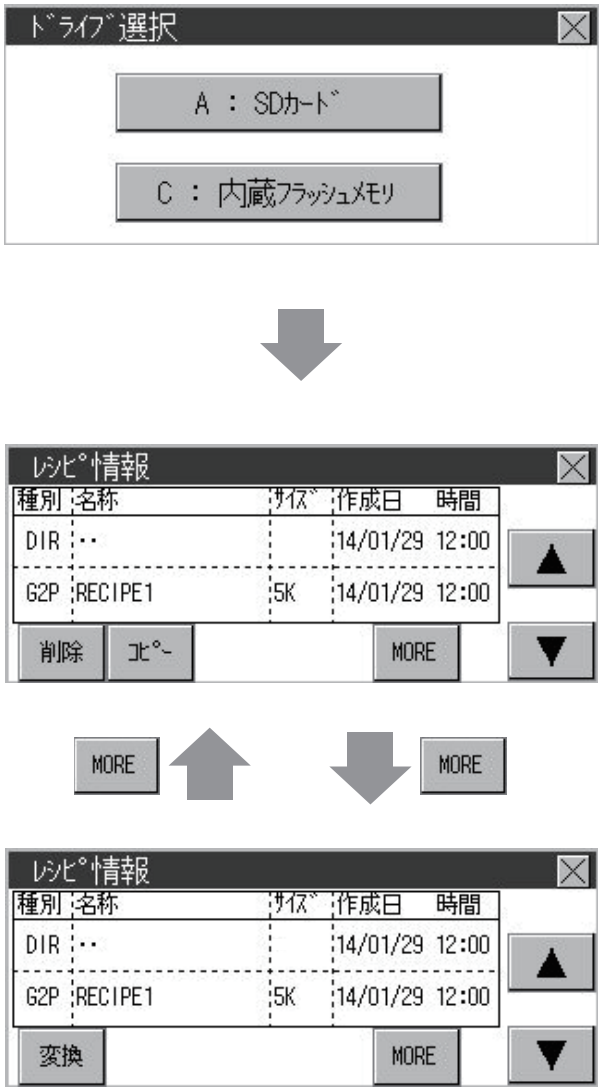


番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	対象ドライブを選択できます。(SDカードが装着されていなくても表示されます。)
(2)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合は[DIR]と表示します。
(3)	名称	ファイル名やフォルダ名を表示します。 長いファイル名/フォルダ名は，すべて表示できない場合があります。
(4)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(5)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(6)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチです。

■4. レシピ情報の操作

(1) レシピ情報の表示操作

レシピ情報画面



Step 1. [ドライブ選択]のドライブをタッチすると，タッチしたドライブ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が[. .]のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの▲▼ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。

Step 5. ファイルの名称をタッチすると，ファイルを選択します。

Step 6. 操作スイッチの操作については，下記を参照してください。

G2P→CSV，G2P→TXT

➠ 本項(2)

CSV/TXT→G2P

➠ 本項(3)

削除

➠ 本項(4)

コピー

➠ 本項(5)

Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

(2) G2P→CSV変換操作，G2P→TXT変換操作

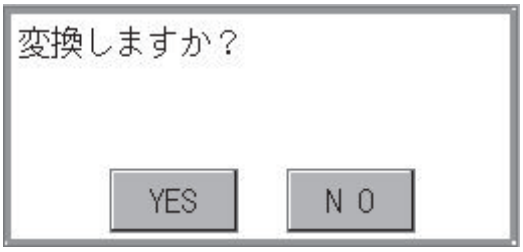
レシピファイル(G2Pファイル)を，パソコンで表示・編集できるCSVファイルまたはUnicodeテキストファイルに変換します。

Step 1. CSVファイルまたはTXTファイルに変換するG2Pファイルをタッチして選択します。

Step 2. [変換]をタッチしてください。

Step 3. 変換先ファイルの種類により下記のボタンをタッチします。

- CSVファイル：[CSV]ボタン
- TXTファイル：[TXT]ボタン



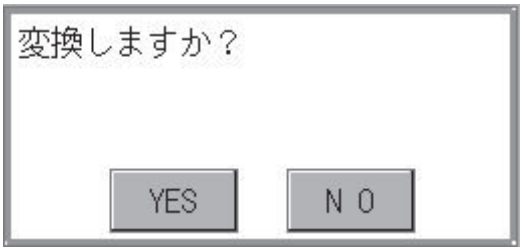
Step 4. [YES]ボタンをタッチします。変換後のファイルが作成されて，上書き保存されます。

(3) CSV/TXT→G2P変換操作

CSVファイルまたはUnicodeTXTファイルをレシピファイル(G2Pファイル)へ変換します。

Step 1. G2Pファイルに変換するCSVファイルまたはTXTファイルをタッチするとファイルが選択されます。

Step 2. [変換]ボタンをタッチします。

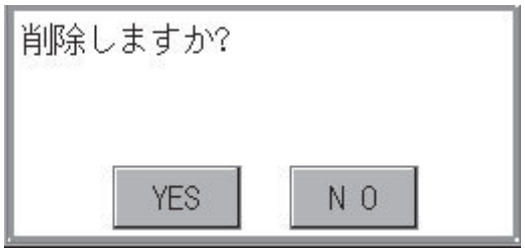


Step 3. [YES]ボタンをタッチすると、変換後のファイルが上書き保存されます。

(4) 削除操作

レシピで使用するファイルを削除します。

Step 1. 削除するファイルをタッチして選択します。



Step 2. [削除]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[YES]ボタンをタッチするとファイルを削除します。
[NO]ボタンをタッチすると削除操作を中止します。

(5) コピー操作

レシピで使用するファイルをコピーします。

Step 1. コピーするファイルをタッチして選択します。

Step 2. [コピー]ボタンをタッチすると、ドライブ選択画面が表示されます。

Step 3. ドライブを選択してください。

Step 4. コピー先のフォルダを選択して、[実行]をタッチしてください。ファイルがコピーされます。

■5. 注意事項

(1) 操作時の注意事項

(a) ファイル操作中(作成/削除/コピー /ファイル変換など)の注意事項

GOTがファイルを処理中に，SDカードアクセスを禁止にしても，処理は実行されます。(例：GOTがファイルコピー中にSDカードアクセスを禁止にしても，ファイルは作成されます。)
そのため，SDカードアクセスを禁止にしても，画面に“処理に時間のかかる場合があります。しばらくお待ちください。”のメッセージが表示されている間は，SDカードを抜かないでください。

(b) GOTが他のファイル(アラームデータなど)へアクセス中の場合

他のファイルへアクセス中(SDカードアクセスLED点灯中)にレシピファイルの処理を実行した場合，他のファイルに対しての処理を待ってからレシピファイルの処理を実行します。
そのため，レシピファイルの処理を実行した場合，しばらく時間がかかる場合があります。

POINT

処理時間の目安

操作するレシピファイルの設定によっては，処理に時間がかかる場合があります。(ブロック数が多いほど処理に時間がかかります。)
また，レシピファイルの設定によっては，初回ファイル作成の処理に時間がかかる場合があります。

15.3.3　ロギング情報

■1. ロギング情報の機能

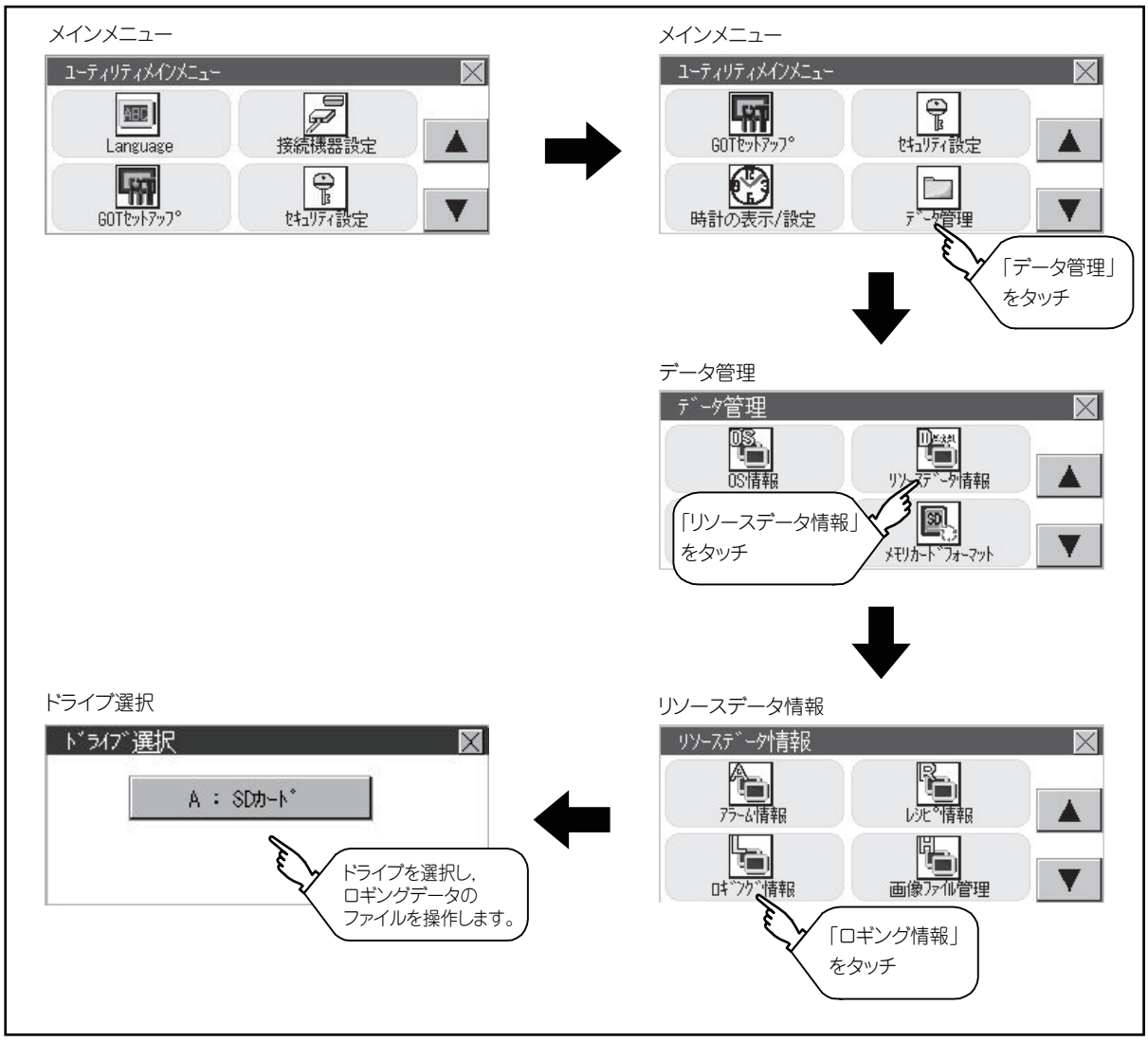
ロギング機能で作成されたロギングファイルに対し，ファイルコピー /ファイル削除などができます。
パソコンを使用しないで，GOT上でロギングファイルの管理ができます。

ロギング機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

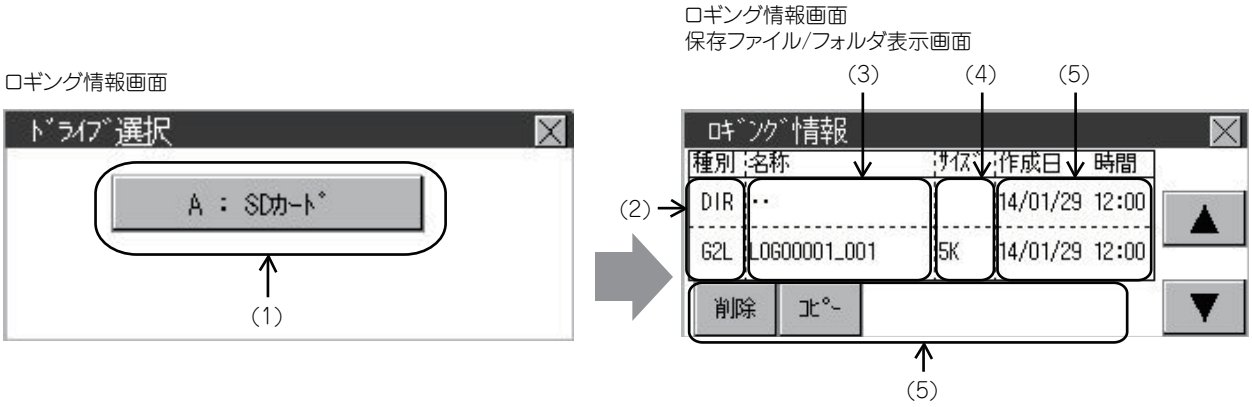
➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

機能	内容	参照ページ
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの名称，データサイズ，作成日時を表示します。	➠ 15-22 15-23
削除	ファイルを削除します。	➠ 15-24
コピー	ファイルをコピーします。	➠ 15-25

■2. ロギング情報の表示操作



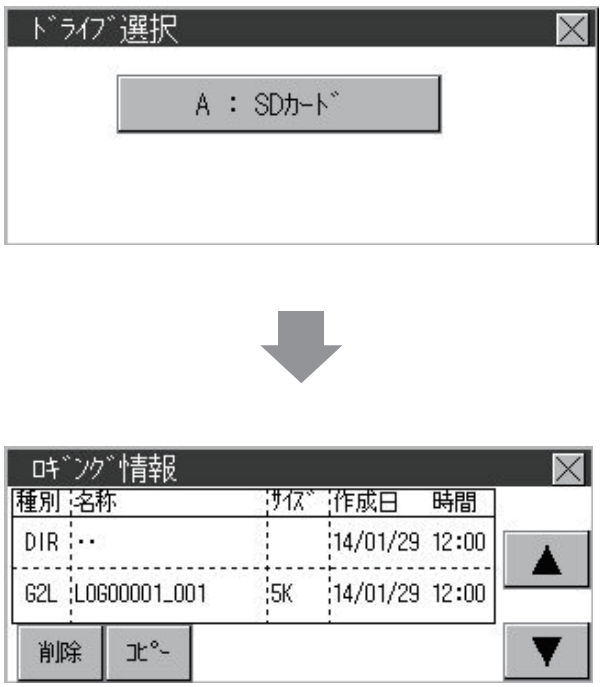
■3. ロギング情報の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	対象ドライブを選択できます。(SDカードが装着されていなくても表示されます。)
(2)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合は[DIR]と表示します。
(3)	名称	ファイル名やフォルダ名を表示します。 長いファイル名/フォルダ名は，すべて表示できない場合があります。
(4)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(5)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(6)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチです。

■4. ロギング情報の操作

(1) ロギング情報の表示操作



Step 1. [ドライブ選択]のドライブをタッチすると，タッチしたドライブ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が「. .」のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの▲▼ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。

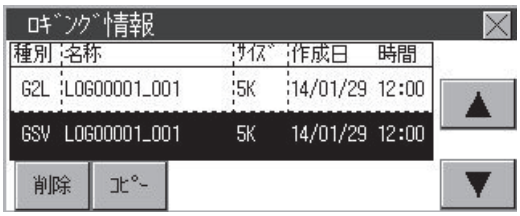
Step 5. ファイルの名称をタッチすると，ファイルを選択します。

Step 6. 操作スイッチの操作については，下記を参照してください。
削除
➡ 本項(2)
コピー
➡ 本項(3)

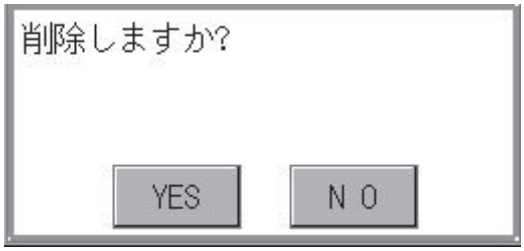
Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

(2) 削除操作

ロギングで使用するファイルを削除します。



Step 1. 削除するファイルをタッチして選択します。



Step 2. [削除]ボタンをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。
[YES]ボタンをタッチするとファイルを削除します。
[NO]ボタンをタッチすると削除操作を中止します。

(3) コピー操作

ロギングで使用するファイルをコピーします。

Step 1. コピーするファイルをタッチして選択します。

Step 2. [コピー]ボタンをタッチすると、ドライブ選択画面が表示されます。

Step 3. ドライブを選択してください。

Step 4. コピー先のフォルダを選択して、[実行]をタッチしてください。ファイルがコピーされます。

■5. 注意事項

(1) 操作時の注意事項

(a) ファイル操作中(作成/削除/コピーなど)の注意事項

GOTがファイルを処理中に，SDカードアクセスを禁止にしても，処理は実行されます。
(例：GOTがファイルコピー中にSDカードアクセスを禁止にしても，ファイルは作成されます。)
そのため，SDカードアクセスを禁止にしても，画面に“処理に時間のかかる場合があります。しばらくお待ちください。”のメッセージが表示されている間は，SDカードを抜かないでください。

(b) GOTが他のファイル(アラームデータなど)へアクセス中の場合

他のファイルへアクセス中(SDカードアクセスLED点灯中)にロギングファイルの処理を実行した場合，他のファイルに対しての処理を待ってからロギングファイルの処理を実行します。
そのため，ロギングファイルの処理を実行した場合，しばらく時間がかかる場合があります。

15.3.4　画像ファイル管理

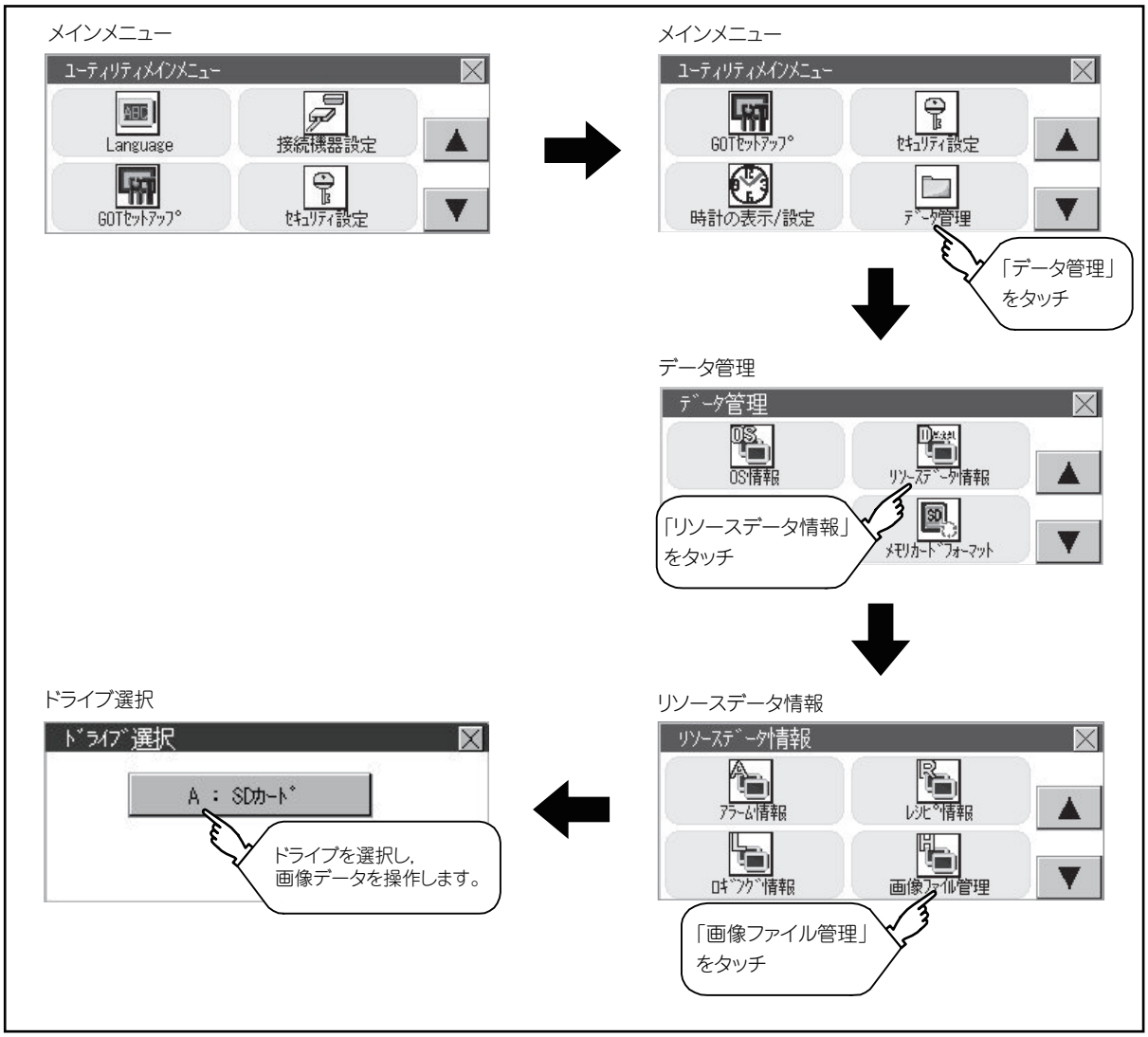
■1. 画像ファイル管理の機能

ハードコピー機能で作成されたファイルに対し，削除，コピー，移動を行います。
ハードコピー機能の詳細については，下記のマニュアルを参照してください。

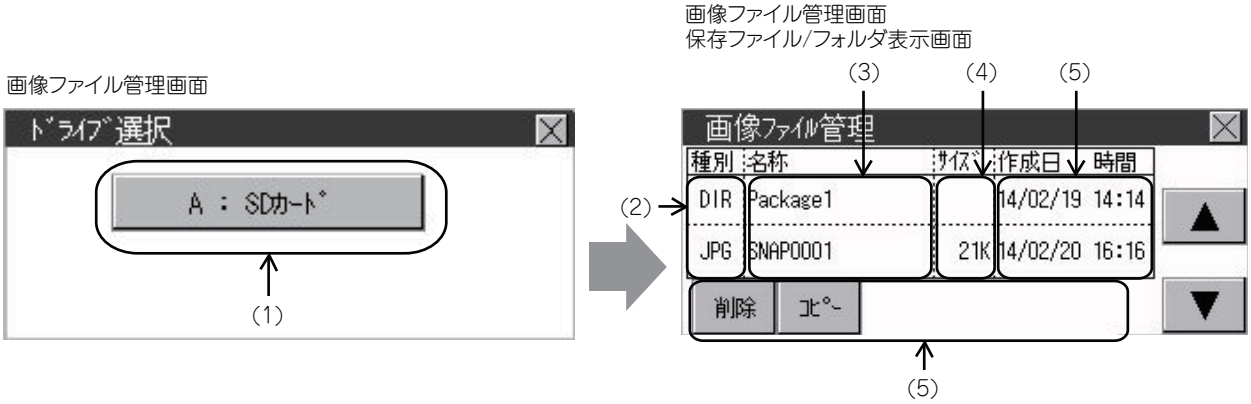
➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

機能	内容	参照ページ
ファイル，フォルダの情報表示	ファイルやフォルダの種類と名称，データサイズ，作成日時を表示します。	➡ 15-28 15-29
削除	ファイルを削除します。	➡ 15-30
コピー	ファイルをコピーします。	➡ 15-31

■2. 画像ファイル管理の表示操作



■3. 画像ファイル管理の表示例



番号	項目	内容
(1)	ドライブ選択	ファイルやフォルダの表示を行う対象ドライブを選択できます。 SDカードが装着されていない場合，下記ドライブは表示されません。 ・SDカード：[A:標準SDカード]
(2)	種別	表示されている名称がファイルなのかフォルダなのかを表示します。 ファイルの場合は拡張子，フォルダの場合は[DIR]と表示します。
(3)	名称	ファイル名やフォルダ名を表示します。 長いファイル名/フォルダ名は，すべて表示できない場合があります。
(4)	サイズ	名称に表示されたファイルのサイズを表示します。
(5)	作成日，時間	各ファイルの作成日時を表示します。
(6)	操作スイッチ	各機能の実行スイッチが表示されます。

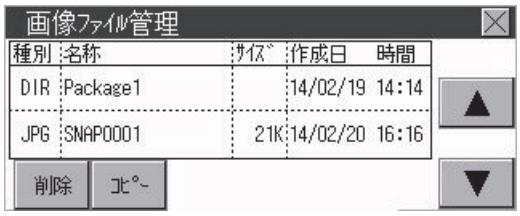
POINT

(1) 作成日，時間欄の表示について

画像ファイル管理表示中にファイルが作成または更新されても，作成日，時間の表示は更新されません。正しく再表示させるためには，現在表示している画面をいったん閉じ(上の階層のフォルダへ移動するなど)，再度該当の画面を表示することで更新した内容が表示されます。

■4. 画像ファイル管理の操作

(1) 画像ファイル管理の表示操作



Step 1. ドライブ選択のドライブをタッチすると，タッチしたドライブ内の情報が表示されます。

Step 2. フォルダの名称をタッチすると，タッチしたフォルダ内の情報が表示されます。

Step 3. 名称が「. . 」のフォルダをタッチすると，1階層上のフォルダ内の情報が表示されます。

Step 4. スクロールバーの▲▼ボタンをタッチすると，1行ずつ上下にスクロールします。

Step 5. ファイルの名称をタッチすると，ファイルを選択します。

Step 6. 削除，コピー，名称変更の操作については，下記を参照してください。

削除

➡ 本項(2)

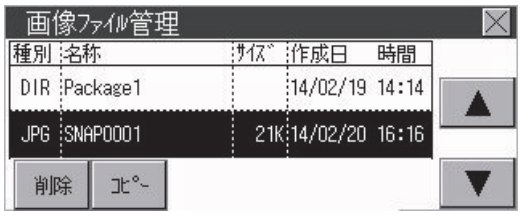
コピー

➡ 本項(3)

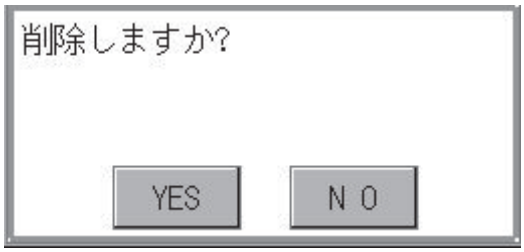
Step 7. [×]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。

(2) 削除操作

選択したファイルを削除します。



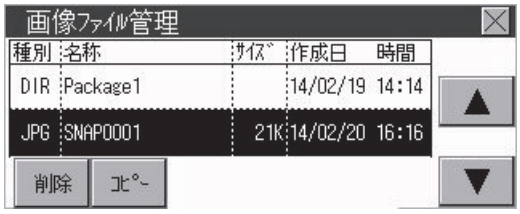
Step 1. 削除するファイルをタッチして選択します。



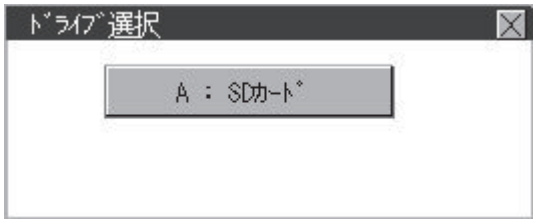
Step 2. [削除]ボタンをタッチすると，左記の画面が表示されます。
[YES]ボタンをタッチするとファイルを削除します。
[NO]ボタンをタッチすると削除を中止します。

(3) コピー操作

選択したファイルをコピーします。

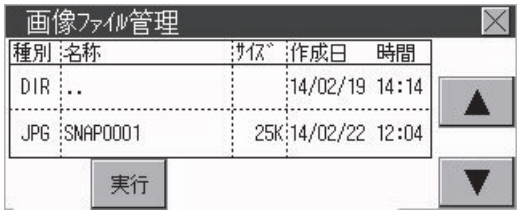


Step 1. コピーするファイルをタッチして選択します。



Step 2. [コピー]ボタンをタッチすると，ドライブ選択画面が表示されます。ドライブを選択してください。

Step 3. コピー先のフォルダをタッチすると，画面表示がコピー先のフォルダに変更されます。このとき，コピー元のファイルと同一のフォルダへはコピーできません。異なるフォルダを選択してください。



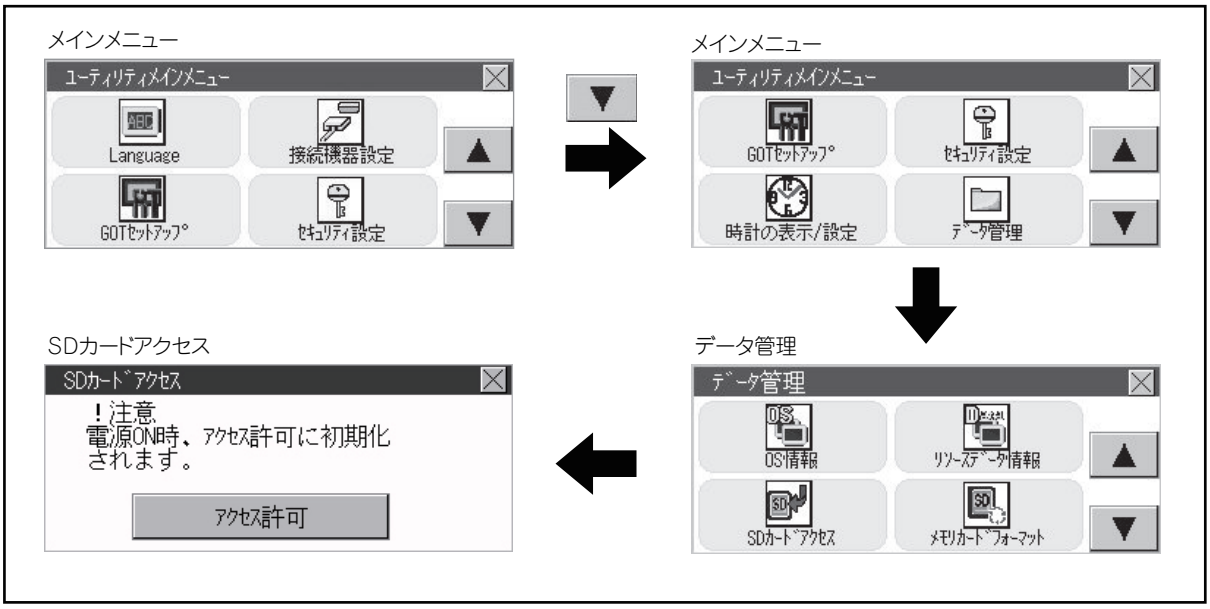
Step 4. [実行]ボタンをタッチすると，ファイルがコピーされます。

15.4 SDカードアクセス

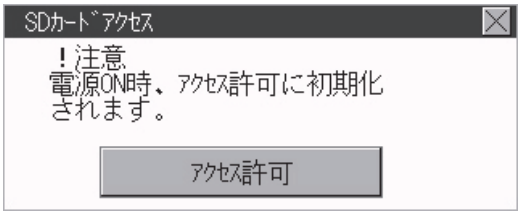
15.4.1 SDカードアクセスの機能

GOT電源投入時に，SDカード内のデータを破壊することなく，GOT本体からSDカードを着脱することができます。

15.4.2 SDカードアクセスの表示操作



15.4.3 SDカードアクセスの操作



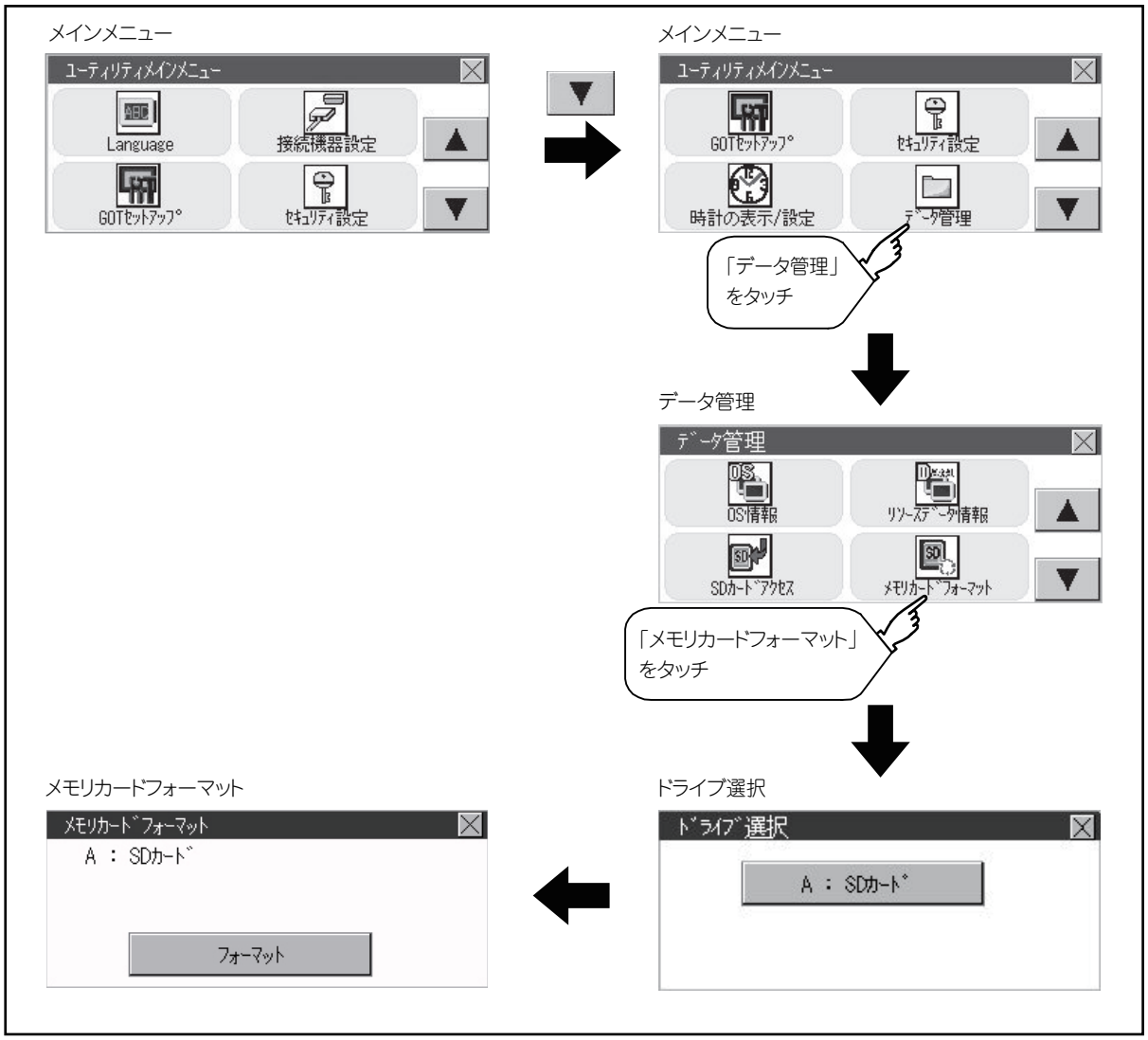
Step 1. 設定項目をタッチすると設定内容が変わります。
[アクセス許可] ⇄ [アクセス禁止]
SDカードを着脱する場合は，必ず[アクセス禁止]にしてください。

15.5 メモリカードフォーマット

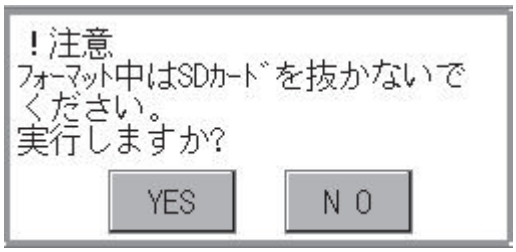
■1. メモリカードフォーマットの機能

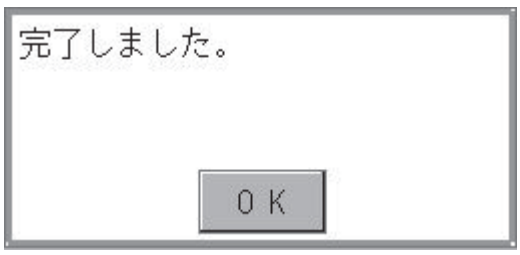
SDカードをフォーマットします。

■2. メモリカードフォーマットの表示操作



■3. メモリカードフォーマットの操作





Step 1. SDカードをGOTに装着します。
SDカードの着脱方法は，下記を参照してください。

➠ GT21-03SDCD形SDカードユニット取扱説明書

Step 2. ドライブ選択でフォーマットするドライブをタッチして選択します。

Step 3. [フォーマット]ボタンをタッチするとパスワード入力画面が表示されます。

Step 4. 1 1 1 1 を入力して[Enter]キーをタッチすると，左記のダイアログボックスが表示されます。(パスワードは1111固定です。)
ダイアログボックスの内容を確認し，フォーマットを実行する場合は，[YES]ボタンをタッチします。
フォーマットを中断する場合は，[NO]ボタンをタッチします。

Step 5. フォーマットが完了すると左記の完了ダイアログボックスが表示されます。

Step 6. [OK]ボタンをタッチするとダイアログボックスを閉じます。

POINT

フォーマットの制約について

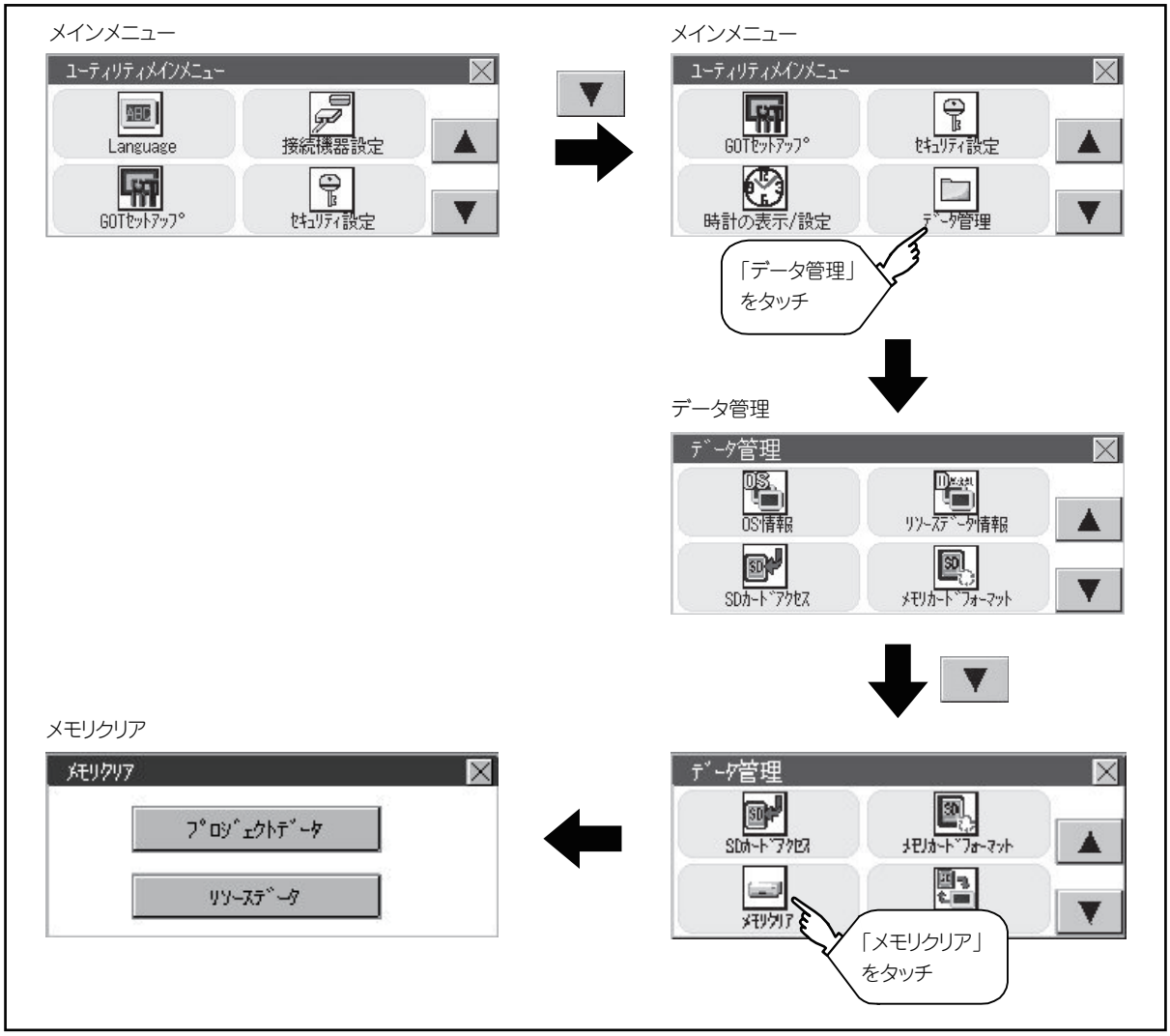
- 未フォーマットのSDカードは，パソコンでフォーマットしてからGOTで使用してください。GOTでは未フォーマットのSDカードをフォーマットできません。
- GOTのフォーマットはSDカードのファイルシステム(例：FAT16)を変更しません。フォーマット前のファイルシステムを継承します。

15.6 メモリクリア

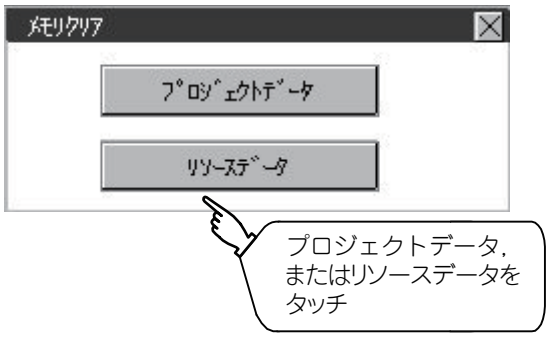
15.6.1 メモリクリア機能

GOTに書き込まれているプロジェクトデータやリソースデータを消去します。

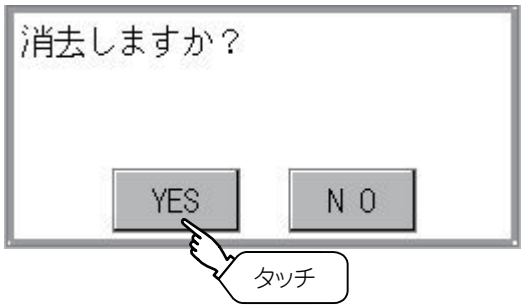
15.6.2 メモリクリアの表示操作



15.6.3　メモリクリアの操作



Step 1. 消去するデータをタッチして選択します。



Step 2. 確認のため左記のダイアログが表示されます。
データを消去するときは[YES]ボタンをタッチし，メモリクリアを中断するときは[NO]ボタンをタッチしてください。

POINT

メモリクリアの中断について

メモリクリアの確認画面で，消去を選択（[YES]ボタンをタッチ）後は，データ消去を中断できません。十分に確認してから操作してください。

15.7 データコピー

SDカードを使用して，プロジェクトデータや基本システムアプリケーションの転送を行います。

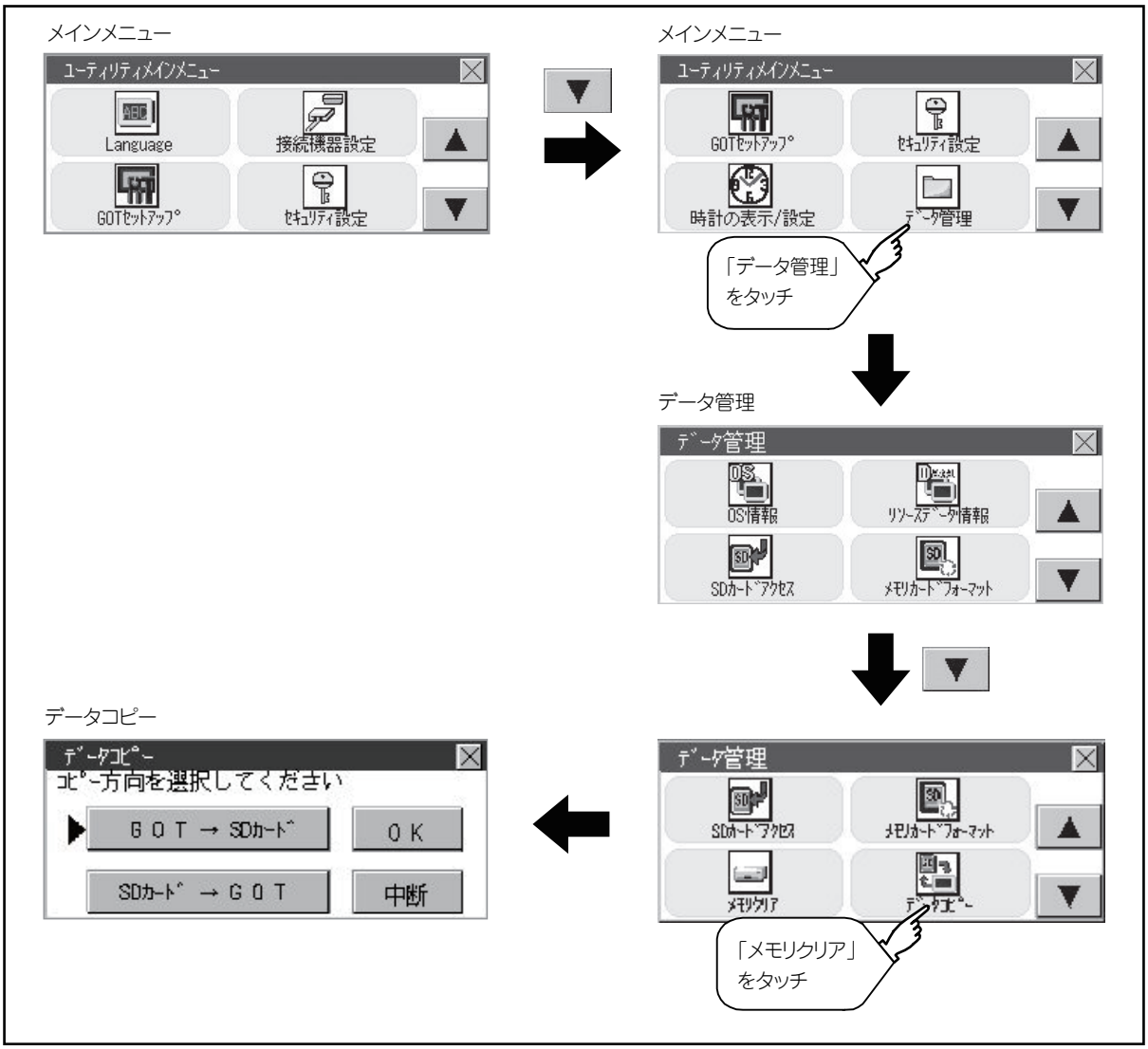
POINT

SDカードからGOTへコピーする場合

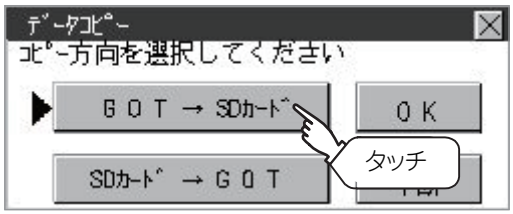
SDカードからGOTへコピーする場合，GOTの電源投入時にコピーする方法があります。
GOTの電源投入時にコピーする方法は下記を参照してください。

➡ 18.1 GOTの電源投入時にインストールする方法

15.7.1 データコピーの表示操作



15.7.2 データコピーの操作

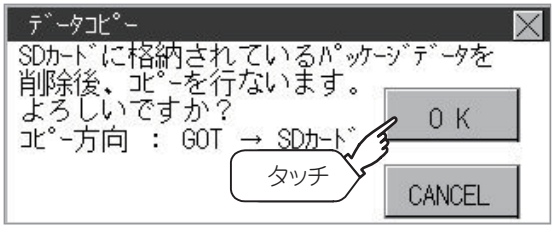


Step 1. コピー方向を選択します。
選択したキーの横に選択マークが表示されます。

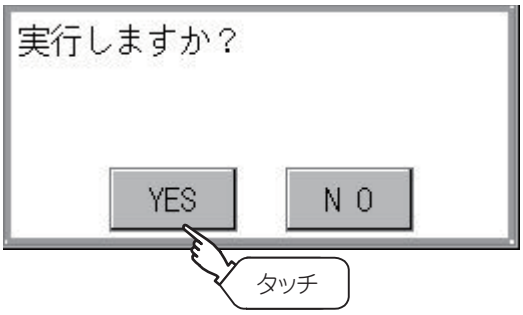
GOT→SDカード：
GOTからSDカードへコピーします。

SDカード→GOT：
SDカードからGOTへコピーします。

Step 2. コピー方向の選択を完了したときは[OK]ボタンをタッチし，コピーを中断するときは[中断]ボタンをタッチしてください。



Step 3. コピー方向，コピー対象を確認してください。
設定が正しいときは，[OK]ボタンをタッチし，設定をやり直す場合は[CANCEL]ボタンをタッチしてください。



Step 4. 確認のため左記のダイアログが表示されます。
コピーを開始するときは[YES]ボタンをタッチし，コピーを中断するときは[NO]ボタンをタッチしてください。

Step 5. コピー実行中は左記ダイアログが表示されます。

Step 6. コピーが完了しました。
[ESC]ボタンをタッチすると，画面を閉じます。
コピー中にエラーが発生した場合は，エラーメッセージを表示します。
エラーメッセージについての詳細は下記を参照してください。

➠ エラー表示

プロジェクトデータのみをGOTへコピーした場合，[ESC]ボタンをタッチするとGOTは再起動し，ユーザ作成画面を表示します。
基本システムアプリケーションをGOTへコピーした場合，GOTは自動的に再起動し，ユーザ作成画面を表示します。
（プロジェクトデータが存在しない場合は，プロジェクトデータが存在しないことを示すメッセージを表示します。）

POINT

SDカード着脱時

かならずGOT本体の[アクセス許可]を行ってください。詳細は，以下を参照してください。

➠ 15.4 SDカードアクセス

■1. エラー表示

GOTとSDカード間でコピーができないときは，GOTのエラー表示により，下記内容を確認してください。

エラーメッセージ	対処方法
SDｶｰﾄﾞが装着されていません。	SDカードをGOTに装着してください。
機種情報が一致しません。	SDカード内のデータに設定されている機種と、コピー先GOTの機種が不一致です。 コピー先GOTの機種と同一のデータを使用してください。
SDカードのライトプロテクトスイッチがONになっています。	SDカードのライトプロテクトスイッチがONになっています。 ライトプロテクトスイッチをOFFにしてください。
有効なコピー対象データがコピー元に存在しません。	コピー元に、対象となるデータが存在しません。 コピー元に，コピーするデータを格納し，再度コピーを行ってください。

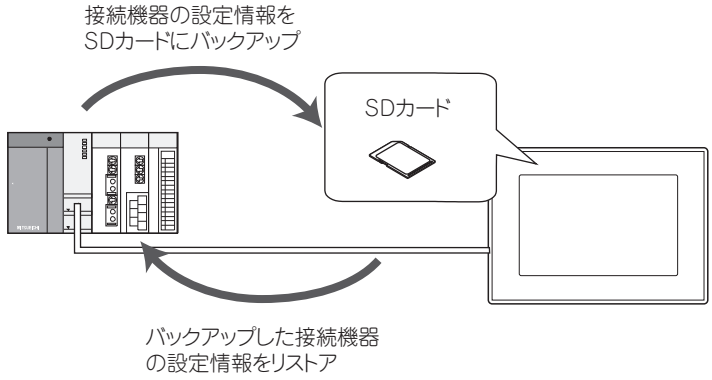
15.8 バックアップ/リストア

15.8.1 バックアップ/リストア

バックアップ/リストアでは，GOTと接続した接続機器の設定情報(シーケンスプログラム，パラメータ，設定値など)を，GOTに装着したSDカードに保存(バックアップ)して，必要に応じて保存した設定を機器に戻す(リストア)ことができます。
下記に，バックアップ/リストアの特長を示します。

■1. システムのバックアップ/リストアをパソコンレス化し，ダウンタイム短縮

GOTに接続している機器の設定情報を，バックアップ/リストアできます。
設定情報をバックアップしておくことで，故障などで接続機器を交換する場合も，接続しているGOTから設定情報をリストアできるので，システムを簡単に復元できます。

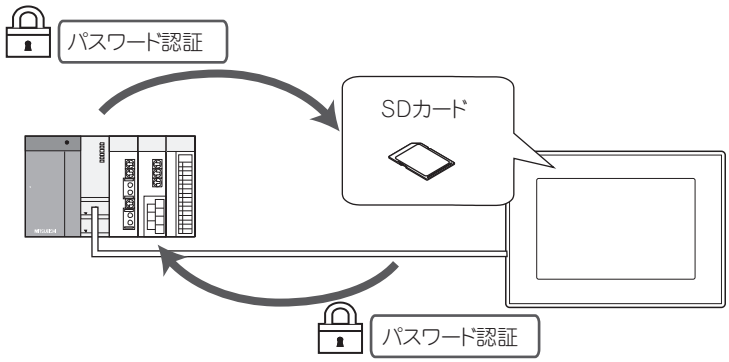


■2. 同一システムの作成もパソコンレスで実現

バックアップした設定情報を，別のシステムの機器へリストアすることで，パソコンレスで同一システムを作成することができます。

■3. セキュリティの強化

バックアップやリストア時，パスワードによる設定情報の閲覧や変更に制限をかけることで，セキュリティを強化します。



15.8.2　システム構成

バックアップ/リストアのシステム構成について説明します。
各接続形態の設定方法や，使用する通信ユニット/ケーブル，接続形態に関する注意事項については，下記を参照してください。

➡ GOT2000シリーズ接続マニュアル(三菱電機機器接続編) GT Works3 Version1対応

■1. 対象接続機器

接続機器
QCPU(Qモード)*1*2*3
LCPU
FXCPU*4

*1　Q12PRHCPU，Q25PRHCPUは除く。
*2　機能バージョンB以降のシーケンサCPUを使用してください。
*3　接続先が二重化CPUの場合，バックアップ/リストアできません。
*4　特殊パラメータを含むバックアップデータのリストアを行う場合，下記に示すバージョンのCPUを使用してください。
- FX3U(C)のバージョン：3.10以上
- FX3G(C)のバージョン：2.00以上

■2. 接続形態

本機能は，下記に示す接続形態で使用できます。

(○:使用可能，△:一部制約あり，×:使用不可)

機能		GOT と接続機器の接続形態		
名称	内容	CPU直接接続	計算機リンク接続	Ethernet接続
バックアップ/リストア	GOTと接続した接続機器の設定情報をバックアップ/リストア	△*1	△*3	△*2*3

*1　LCPUを接続時は，L6ADP-R2を使用してください。
*2　CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタを使用した場合，バックアップ/リストアは使用できません。
*3　工場出荷状態，またはメモリをフォーマットされたQCPUにはリストアできません。

■3. 必要なハードウェア

バックアップ/リストアには，SDカードが必要です。

■4. バックアップ/リストア対象データ

バックアップ/リストアの対象となるデータを以下に示します。
下記以外のデータはバックアップ/リストアできません。

(1)　ベーシックモデルQCPU

項目	内容	ファイル名
パラメータ	シーケンサを動作させるためのパラメータ	PARAM.QPA
インテリジェント機能ユニットパラメータ	インテリジェント機能ユニットのためのパラメータ	IPARAM.QPA
シーケンスプログラム	CPUが演算するためのプログラム	MAIN.QPG
SFCプログラム	SFC形式のシーケンスプログラム	MAIN-SFC.QPG
ファイルレジスタ*1	ファイルレジスタのデータ	MAIN.QDR
デバイスコメント	シーケンサに格納するデバイスコメント	MAIN.QCD
デバイス初期値	デバイスの初期値設定	MAIN.QDI

*1　CPUに装着されているFlashカード内のファイルレジスタは，上書き確認をすることなく常にリストアされます。
*2　RAMカードまたは標準RAM内のファイルレジスタは，リストアする/しないを，リストア実行時に表示されるダイアログボックスで選択できます。
*3　ファイルレジスタをリストアしない場合，既存のファイルレジスタは削除されるため，接続機器のプログラムが正しく動作しなくなることがあります。
リストア後，接続機器の動作に問題が発生した場合は，ファイルレジスタも含めてリストアをやり直してください。

(2) ハイパフォーマンスモデルQCPU

項目	内容	ファイル名
パラメータ	シーケンサを動作させるためのパラメータ	PARAM.QPA
インテリジェント機能ユニットパラメータ	インテリジェント機能ユニットのためのパラメータ	IPARAM.QPA
プログラム	CPUが演算するためのプログラム(SFC含む)	***.QPG
デバイスコメント	シーケンサに格納するデバイスコメント	***.QCD
ブート設定ファイル	ROM等からプログラムを起動する際のバッチファイル	AUTOEXEC.QBT
デバイス初期値	デバイスの初期値設定	***.QDI
ファイルレジスタ*1	ファイルレジスタのデータ	***.QDR
サンプリングトレースファイル*2	指定デバイスデータを指定タイミングで連続して収集するサンプリングトレースのデータ	***.QTD
故障履歴データ*2	自己診断結果の記録である故障履歴のデータ	***.QFD
PCユーザデータ	ユーザが作成しメモリカードに格納した任意のデータ	***.***(任意)

*1 CPUに装着されているFlashカード内のファイルレジスタは，上書き確認をすることなく常にリストアされます。
*2 SRAMカードまたは標準RAM内のファイルレジスタは，リストアする/しないを，リストア実行時に表示されるダイアログボックスで選択できます。
*3 ファイルレジスタをリストアしない場合，既存のファイルレジスタは削除されるため，接続機器のプログラムが正しく動作しなくなることがあります。
リストア後，接続機器の動作に問題が発生した場合は，ファイルレジスタも含めてリストアをやり直してください。
*4 バックアップのみ可能です。

(3) ユニバーサルモデルQCPU

項目	内容	ファイル名
パラメータ	シーケンサを動作させるためのパラメータ	PARAM.QPA
インテリジェント機能ユニットパラメータ	インテリジェント機能ユニットのためのパラメータ	IPARAM.QPA
プログラム	CPUが演算するためのプログラム(SFC含む)	***.QPG
デバイスコメント	シーケンサに格納するデバイスコメント	***.QCD
ブート設定ファイル	ROM等からプログラムを起動する際のバッチファイル	AUTOEXEC.QBT
デバイス初期値	デバイスの初期値設定	***.QDI
ファイルレジスタ*1	ファイルレジスタのデータ	***.QDR
サンプリングトレースファイル*2	指定デバイスデータを指定タイミングで連続して収集するサンプリングトレースのデータ	***.QTD
PCユーザデータ	ユーザが作成しメモリカードに格納した任意のデータ	***.***(任意)
デバイスデータ格納用ファイル	SP.DEVST，S.DEVLD命令により扱うデバイスデータ	DEVSTORE.QST
ドライブ見出し文	ドライブ見出し文	QN.DAT
リモートパスワード	リモートパスワードの設定	00000000.QTM
モニタシーケンス拡張	他局からのモニタを高速にするためのデータ	MONITOR.Q0*
ラッチデータバックアップファイル	標準ROMへのラッチデータバックアップ機能において，バックアップデータを格納する	LCHDAT00.QBK

*1 CPUに装着されているFlashカード内のファイルレジスタは，上書き確認をすることなく常にリストアされます。
*2 SRAMカードまたは標準RAM内のファイルレジスタは，リストアする/しないを，リストア実行時に表示されるダイアログボックスで選択できます。
*3 ファイルレジスタをリストアしない場合，既存のファイルレジスタは削除されるため，接続機器のプログラムが正しく動作しなくなることがあります。
リストア後，接続機器の動作に問題が発生した場合は，ファイルレジスタも含めてリストアをやり直してください。
*4 バックアップのみ可能です。

(4) LCPU

項目	内容	ファイル名
パラメータ	シーケンサを動作させるためのパラメータ	PARAM.QPA
インテリジェント機能ユニットパラメータ	インテリジェント機能ユニットのためのパラメータ	IPARAM.QPA
プログラム	CPUが演算するためのプログラム(SFC含む)	***.QPG
デバイスコメント	シーケンサに格納するデバイスコメント	***.QCD
ブート設定ファイル	ROM等からプログラムを起動する際のバッチファイル	AUTOEXEC.QBT
デバイス初期値	デバイスの初期値設定	***.QDI
ファイルレジスタ*1	ファイルレジスタのデータ	***.QDR
サンプリングトレースファイル*2	指定デバイスデータを指定タイミングで連続して収集するサンプリングトレースのデータ	***.QTD
PCユーザデータ	ユーザが作成しメモリカードに格納した任意のデータ	***.***(任意)
デバイスデータ格納用ファイル	SP.DEVST，S.DEVLD命令により扱うデバイスデータ	DEVSTORE.QST
ドライブ見出し文	ドライブ見出し文	QN.DAT
リモートパスワード	リモートパスワードの設定	00000000.QTM
モニタシーケンス拡張	他局からのモニタを高速にするためのデータ	MONITOR.Q0*
ラッチデータバックアップファイル	標準ROMへのラッチデータバックアップ機能において，バックアップデータを格納する	LCHDAT00.QBK
データロギング設定ファイル	データロギングの設定	LOGCOM.QLG LOG01.QLG～ LOG10.QLG
メニュー定義ファイル	メニュー定義ファイル	MENUDEF.QDF

*1 CPUに装着されているFlashカード内のファイルレジスタは，上書き確認をすることなく常にリストアされます。
*2 SRAMカードまたは標準RAM内のファイルレジスタは，リストアする/しないを，リストア実行時に表示されるダイアログボックスで選択できます。
*3 ファイルレジスタをリストアしない場合，既存のファイルレジスタは削除されるため，接続機器のプログラムが正しく動作しなくなることがあります。
リストア後，接続機器の動作に問題が発生した場合は，ファイルレジスタも含めてリストアをやり直してください。
*4 バックアップのみ可能です。

(5) FXCPU

項目	内容	ファイル名
パラメータ	シーケンサを動作させるためのパラメータ	INFO.FPG
デバイスコメント	シーケンサに格納するデバイスコメント	
シーケンスプログラム	CPUが演算するためのプログラム	
特殊プログラム*1	内蔵位置決め設定/初期値用パラメータ	
ファイルレジスタ	ファイルレジスタのデータ	
拡張ファイルレジスタ*2	拡張ファイルレジスタのデータ	
内蔵CC-Link/LT設定*3	CC-Link/LT　パラメータ	
特殊パラメータ*1	基本ユニットに保存される特殊アダプタ，特殊ブロック用のパラメータ	

*1 FX3U(C)シリーズ，FX3G(C)シリーズ使用時のみバックアップ/リストアできます。
*2 FX3U(C)シリーズ使用時のみバックアップ/リストアできます。
*3 FX3U-32MT-LT-2にのみ存在するデータです。

(6) 各種ソフトウェア用データ

項目		内容	ファイル名
ラベルプログラム		GX Developer用のデータ	PROJINFO.CAB
図形データ		PX Developer用の図形データ	#FBDQINF.BIN
ソース情報	シンプルプロジェクト(ラベルあり)	GX Works2のデータ	SRCINFOM.CAB SRCINFOM.C32
	構造化プロジェクト	GX Works2のデータ	SRCINFOI.CAB SRCINFOI.C32
新ソース情報	シンプルプロジェクト(ラベルあり)	GX Works2のデータ	SRCINF1M.CAB SRCINF2M.CAB SRCINF1M.C32 SRCINF2M.C32
	構造化プロジェクト	GX Works2のデータ	SRCINF1I.CAB SRCINF2I.CAB SRCINF1I.C32 SRCINF2I.C32

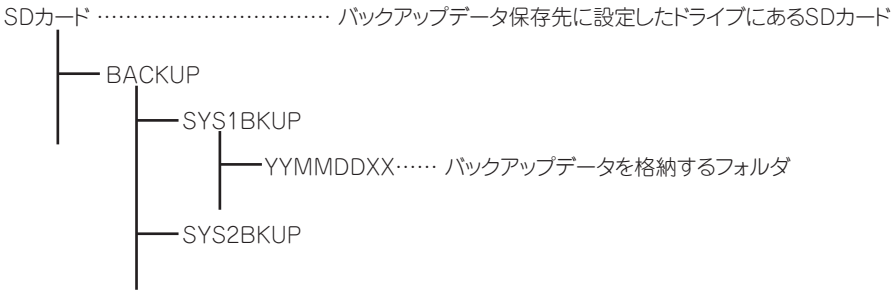
■5. バックアップデータ

(1) バックアップデータの保存

同じチャンネルを対象にしてバックアップを複数回行った場合，バックアップデータは上書きされます。

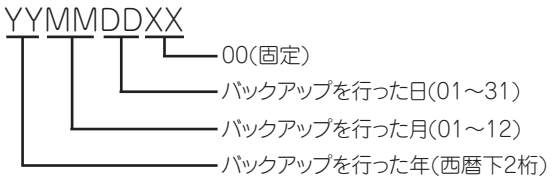
(2) バックアップデータの保存先

バックアップデータは，SDカード内に下記のフォルダ構成で格納されます。



(3) バックアップデータのフォルダ

バックアップデータはフォルダ単位で保存され，フォルダ名称(YYMMDDXX)は下記のように決定されます。



15.8.3 アクセス範囲

(1) 接続形態によるアクセス範囲

各接続形態でのバックアップ/リストア実行先を，以下に示します。

接続形態	実行先
計算機リンク接続	自局
Ethernet接続	自局

(2) マルチチャンネル機能使用時

マルチチャンネル機能使用時，チャンネルごとにバックアップ/リストアを実行します。

(3) マルチCPUシステムのバックアップ/リストア

バックアップは，全号機の一括バックアップのみ実行します。1～4号機の指定バックアップは対応していません。

15.8.4 注意事項

■1. バックアップ時の注意事項

(1) バックアップできないデータ

デバイスの現在値，およびデバイスメモリはバックアップできません。
デバイスの現在値を収集する場合は，レシピを使用してください。
レシピの使用方法については，下記マニュアルを参照してください。

➡ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

デバイスメモリを収集する場合は，GX Developerを使用してください。

(2) バックアップ対象のファイル名

シフトJISコード，ASCIIコード以外の文字をファイル名に使用している場合，GOTでバックアップすると，ファイル名が正しく表示されない場合があります。
バックアップ/リストア機能を使う場合、ファイル名にはシフトJISコード，ASCIIコードの文字を使用してください。

(3) インテリジェント機能ユニットパラメータのバックアップ

インテリジェント機能ユニットパラメータ(IPARAM.QPA)をバックアップする際，対象となるパラメータは，シーケンサCPUに格納できるパラメータのみです。
それ以外のパラメータをバックアップする場合，GX Works2やユニットに対応したGX Configuratorが必要です。
シーケンサCPUに格納できるインテリジェント機能ユニットパラメータについては，下記を参照してください。

➡ GX Works2 Version1オペレーティングマニュアル(インテリジェント機能ユニット操作編)

(4) バックアップデータの互換性

(a) **GT21で取り扱うバックアップデータは，GT27，GT25では使用できません。**

(b) **GT27，GT25で取り扱うバックアップデータは，GT21では使用できません。**

■2. リストア時の注意事項

(1) GOTとリストアを行う接続機器の通信状態

リストアを行う場合は，リストア対象の接続機器とGOTが通信可能な状態にしてください。
リストア対象の接続機器とGOTが通信できない場合，リストアできません。

(2) リストア時のSTOP状態

シーケンサCPUは，リストアを行う前，リモートSTOPによりSTOP状態になります。
FXCPUは，リストア時にリモートSTOPができませんので，ユーザにてシーケンサをSTOP状態にしてください。
リストア完了後，これらのSTOP状態は解除されません。
ユーザにて各接続機器を再起動してください。

(3) リストアの中断

リストアを中断した場合，接続機器にすべてのデータが書き込まれず，正常に動作しない場合があります。
リストアを中断した場合は，必ず再度リストアを行ってください。
また，中断後もSTOP状態は解除されません。
ユーザにて接続機器を再起動してください。

(4) リストア時の接続機器の構成

リストアする接続機器の構成は，バックアップした時と同じにしてください。
接続機器の構成がバックアップした時と違っていると，リストアできません。
なお，接続機器の構成がバックアップした時と同じであれば，接続形態，CH No.が違っていてもリストアできます。
FXCPU接続時には，機種，メモリカセットの有無，およびメモリカセットのメモリ容量をバックアップした時と同じにしてください。

(5) 接続機器の動作

リストア時には設定値，デバイス値などが変更されることで，予期しない動作をする場合があります。
リストアは，リストアするデータを十分に確認した上で，接続機器の動作に注意して行ってください。

■3. バックアップ時，リストア時の注意事項

(1) バックアップ/リストア用パスワード

バックアップ/リストア用パスワード設定後に接続機器側のパスワードを変更すると，バックアップ/リストア用パスワードを新しく設定する必要があります。
バックアップ/リストア用パスワードの設定方法については下記を参照してください。

➠ 15.8.5 セキュリティとパスワード

(2) GT Designer3 (GOT2000)使用時の注意事項

バックアップ/リストア実行中に，GT Designer3 (GOT2000)で下記の操作を行わないでください。

GT Designer3 (GOT2000)での操作
• BootOSのインストール
• パッケージデータや通信ドライバ，基本システムアプリケーション，拡張システムアプリケーションの書き込み

上記の操作を行った場合，バックアップ/リストアを中断します。

(3) GX Developer使用時の注意事項

(a) バックアップ/リストア実行中に，GX Developerでバックアップ/リストア対象の接続機器にアクセスしないでください。

対象の接続機器にアクセスした場合，バックアップ/リストアを中断します。

(b) GX Developerでバックアップ/リストア対象の接続機器にアクセス中に，バックアップ/リストアを実行しないでください。

バックアップ/リストアを実行した場合，GX Developerで通信エラーが発生します。
(バックアップ/リストアは実行されます。)

(4) セキュリティキーを設定したCPU

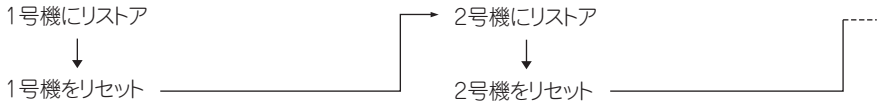
セキュリティキーを設定したCPUはバックアップ/リストアができません。
バックアップ/リストアを実行する場合は，CPUの設定を見直してください。
バックアップ/リストア対象機器に，セキュリティキーを設定しているCPUと，していないCPUが混在している場合，セキュリティキーを設定していないCPUのみ，バックアップ/リストアできます。

■4. QCPU使用時の注意事項

工場出荷状態，またはメモリをフォーマットされたQCPUへのリストアは，下記の場合のみ可能です。

- シングルCPUシステム使用時: 接続形態がCPU直接接続の場合
- マルチCPUシステム使用時: 接続形態がCPU直接接続の場合

ただし，工場出荷状態，またはメモリフォーマットされたQCPUを含んだマルチCPUシステムでは，複数の号機に対して一括でリストアできません。
下記の手順で，号機ごとにリストアしてください。



■5. FXCPU使用時の注意事項

(1) メモリカセット装着時

メモリカセット装着時はメモリカセット内のデータをバックアップします。
未装着時には内蔵メモリ内のデータをバックアップします。

(2) キーワード設定

キーワード設定毎のバックアップ/リストア機能の実行可否を下表に示します。

(実行可 ○ 実行不可 ×)

機能	解除できないプロテクト			キーワード有り						キーワード無し
	書込禁止	読出/書込禁止	全操作禁止	書込禁止		読出/書込禁止		全操作禁止		
	保護	保護	保護	保護	解除	保護	解除	保護	解除	
(トリガ)バックアップ	○	×	×	○	○	×	○	×	○	○
リストア	×	×	×	×	○	×	○	×	○	○

(3) リストア時のキーワード

リストア時にはリストア先のFXCPUのキーワードが保持されます。
FXCPUのキーワード設定/解除については下記を参照してください。

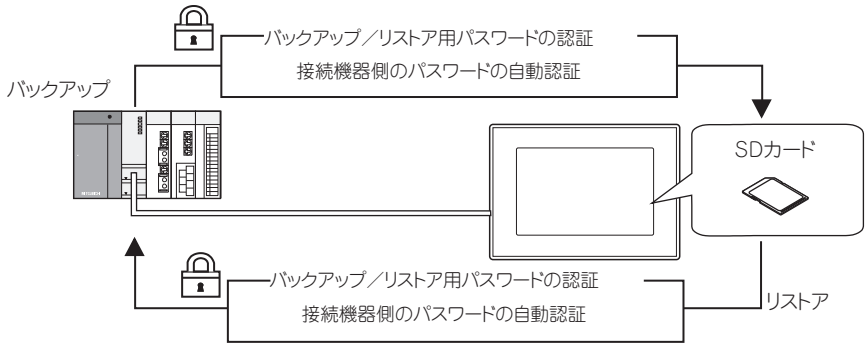
➠ GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ユーティリティ編)
使用しているFXCPUのプログラミングマニュアル

(4) ソース情報を含むバックアップデータ

リストア先のFXCPUがソース情報に対応していない場合，ソース情報を含むバックアップデータはリストアできません。

15.8.5　セキュリティとパスワード

バックアップ/リストア機能ではパスワードを設定することで，バックアップ/リストア時にパスワードによる認証が行えます。
認証には，バックアップ/リストア用パスワードと接続機器側のパスワードを使用します。



バックアップ/リストア時に使用するパスワードについて，下記に示します。

パスワード	内容
バックアップ/リストア用パスワード	バックアップ/リストア時の認証用パスワードです。 初回バックアップ時にGOTで設定します。 設定するためには，接続機器側のパスワードを設定しておく必要があります。
接続機器側のパスワード	接続機器の，バックアップ/リストアの対象となるファイルに設定したパスワードです。 接続機器へのファイル書込み時に接続機器の設定ソフトウェアで設定します。

初回バックアップ(バックアップ/リストア用パスワード設定)以降のバックアップ/リストアでは，接続機器側のパスワードの入力は必要ありません。(接続機器側のパスワードは，自動で認証が行われます。)
このため，セキュリティ上，下記のメリットがあります。

ユーザ	メリット
管理者	現場オペレータへ接続機器側のパスワードを公開不要 (管理者以外による接続機器の設定情報の閲覧，編集の防止)
現場オペレータ	バックアップ/リストア用パスワードのみでバックアップ/リストアが可能 (接続機器側のパスワードの入力が不要)

POINT

バックアップ/リストア用パスワードを設定する前に
バックアップ/リストア用パスワードを忘れるとバックアップ/リストアができなくなります。
バックアップ/リストア用パスワードを忘れた場合は，SDカードをフォーマットして使用，または新しいSDカードを使用してバックアップしなおしてください。

バックアップ/リストア用パスワードの設定方法については，下記を参照してください。

➠ ■バックアップ/リストア用パスワードの設定

バックアップ/リストア用パスワードを設定した後の使用方法については，下記を参照してください。

➠ ■バックアップ/リストア用パスワードの使用方法

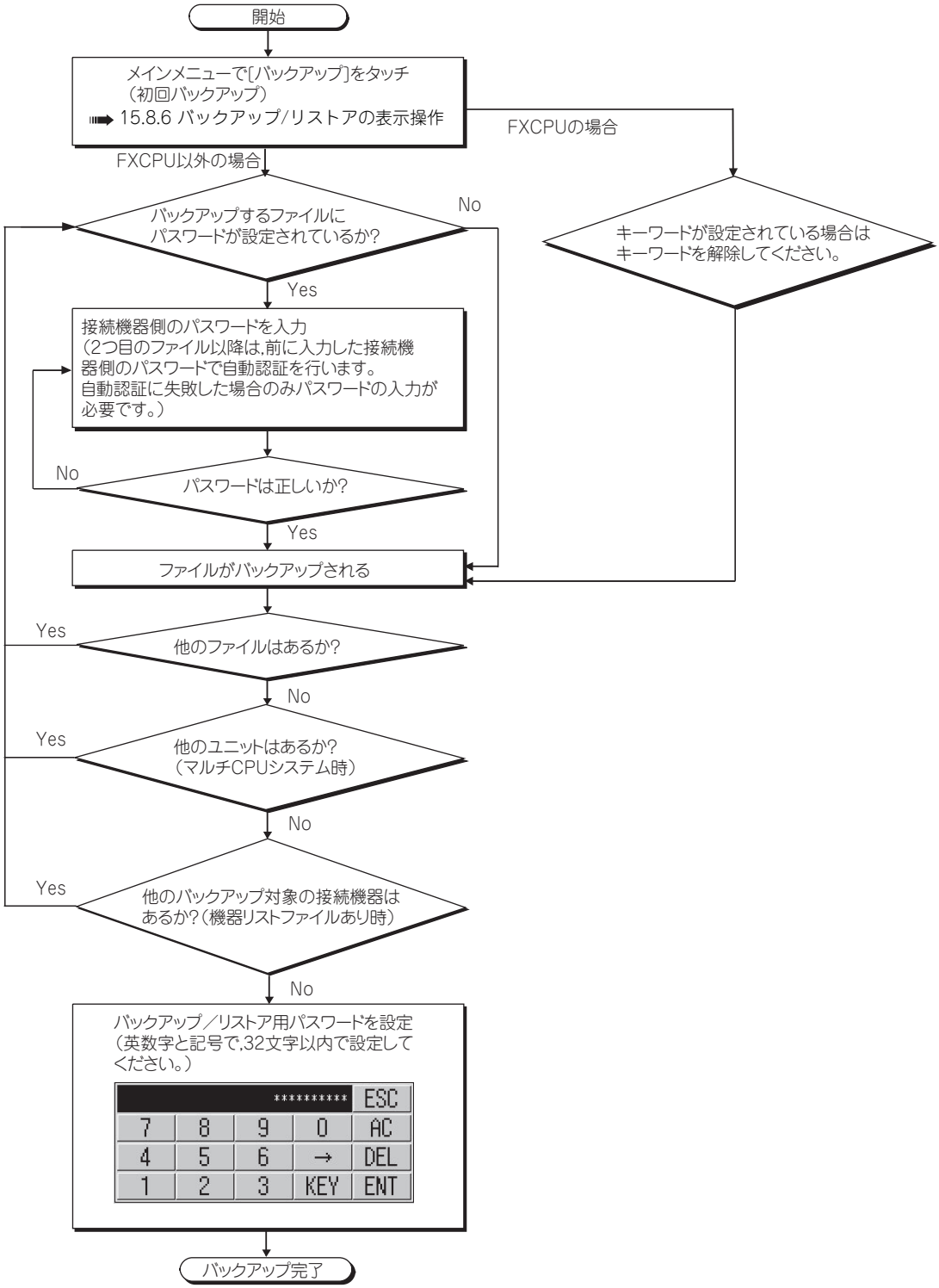
■1. バックアップ/リストア用パスワードの設定

バックアップ/リストア用パスワードは，初回バックアップ時に下記の条件を満たしている場合のみ設定できます。

- 対象機器の，バックアップするファイルにパスワードが設定されている

初回バックアップ時は，接続機器側のパスワードによる認証が必要です。
以下に，初回バックアップ実行時の操作手順を示します。
操作画面の詳細は，以下を参照してください。

➡ 15.8.6 バックアップ/リストアの表示操作



POINT

(1) パスワードの設定

セキュリティ確保の観点から，バックアップ/リストア用パスワードは，8文字以上の推測されにくい文字列にすることをお薦めします。
パスワードが漏洩した場合，同一構成のシステムを作成される可能性がありますので，パスワードの管理には十分注意してください。

(2) FXCPUのキーワード

FXCPUをバックアップ/リストアする場合は，あらかじめキーワードを解除しておいてください。

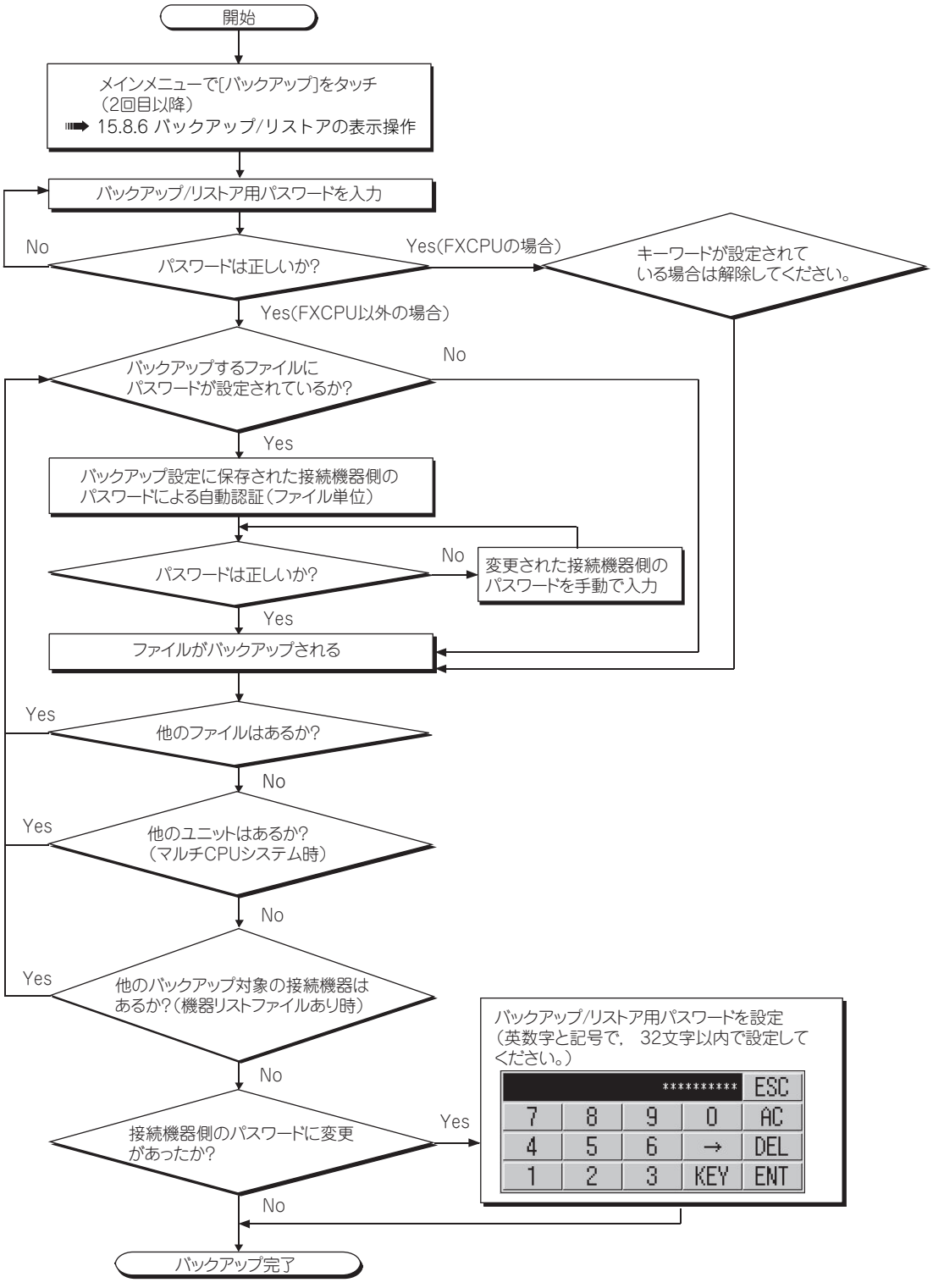
➠ 15.8.9 キーワードの操作

■2. バックアップ/リストア用パスワードの使用方法

バックアップ/リストア用パスワード設定後のバックアップの操作手順を下記に示します。
操作画面の詳細は，以下を参照してください。

➡ 15.8.6 バックアップ/リストアの表示操作

(1) バックアップ



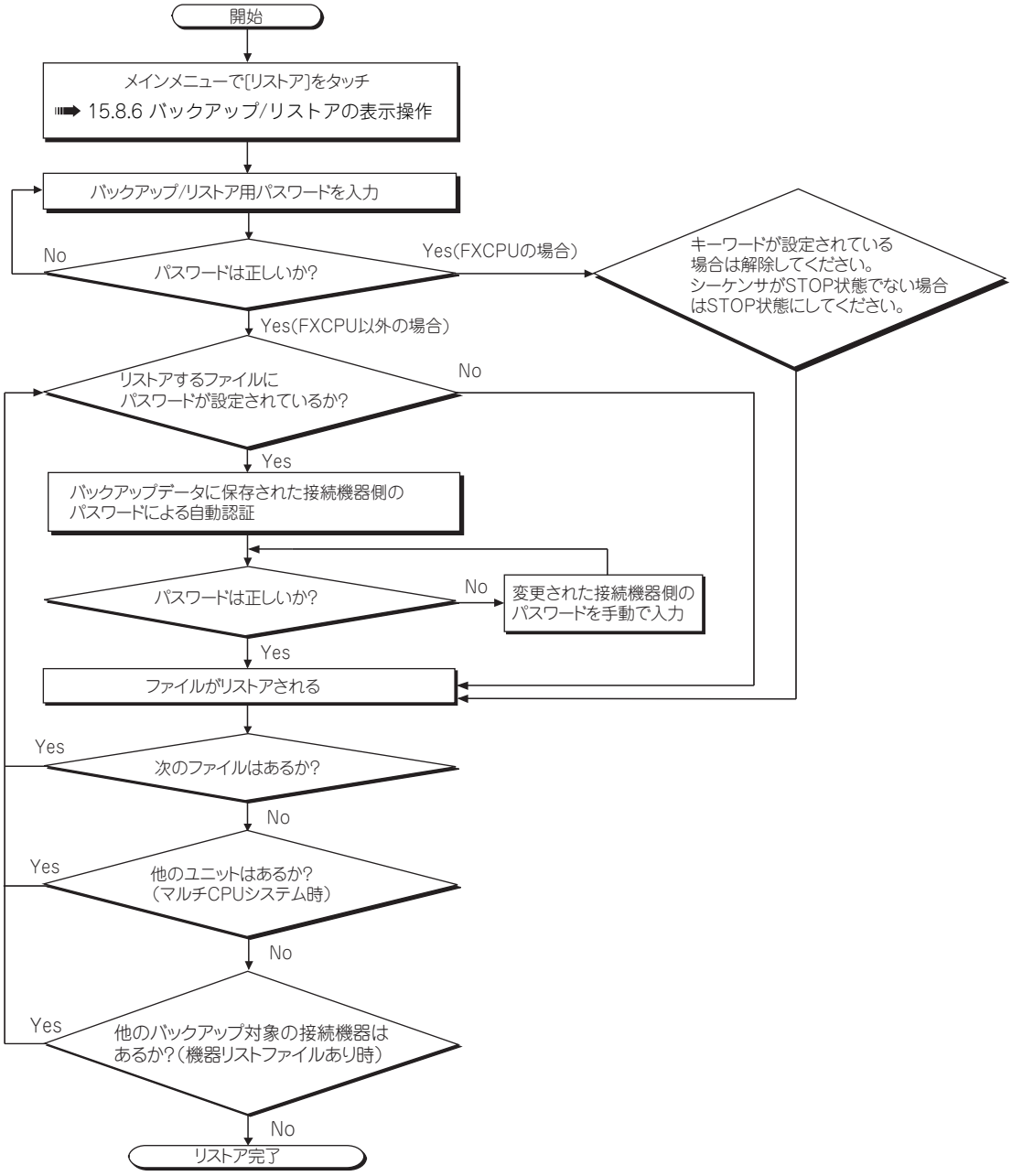
POINT

接続機器側のパスワード変更後のバックアップ時の注意事項

接続機器側のパスワードを手動入力時，入力を中止してバックアップを中断すると，開始から中断までにバックアップしたファイルはすべて破棄されます。

(2) リストア

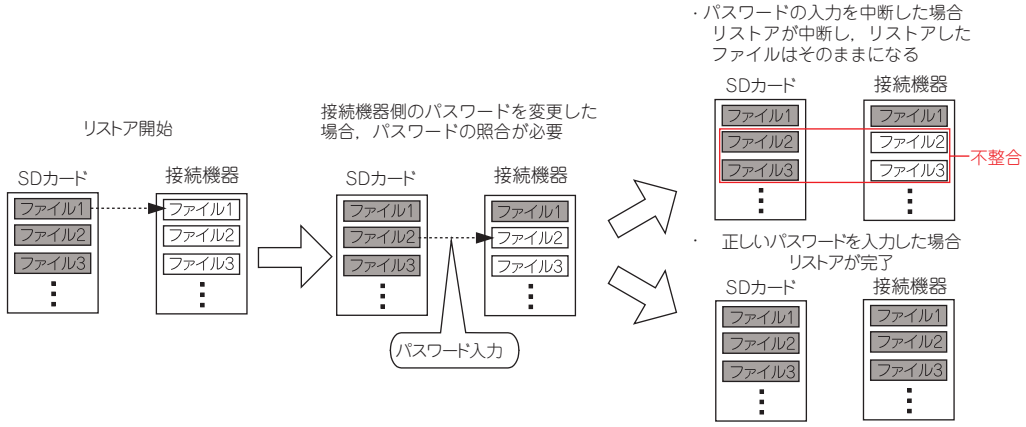
バックアップ/リストア用パスワード設定後のリストアの操作手順を下記に示します。



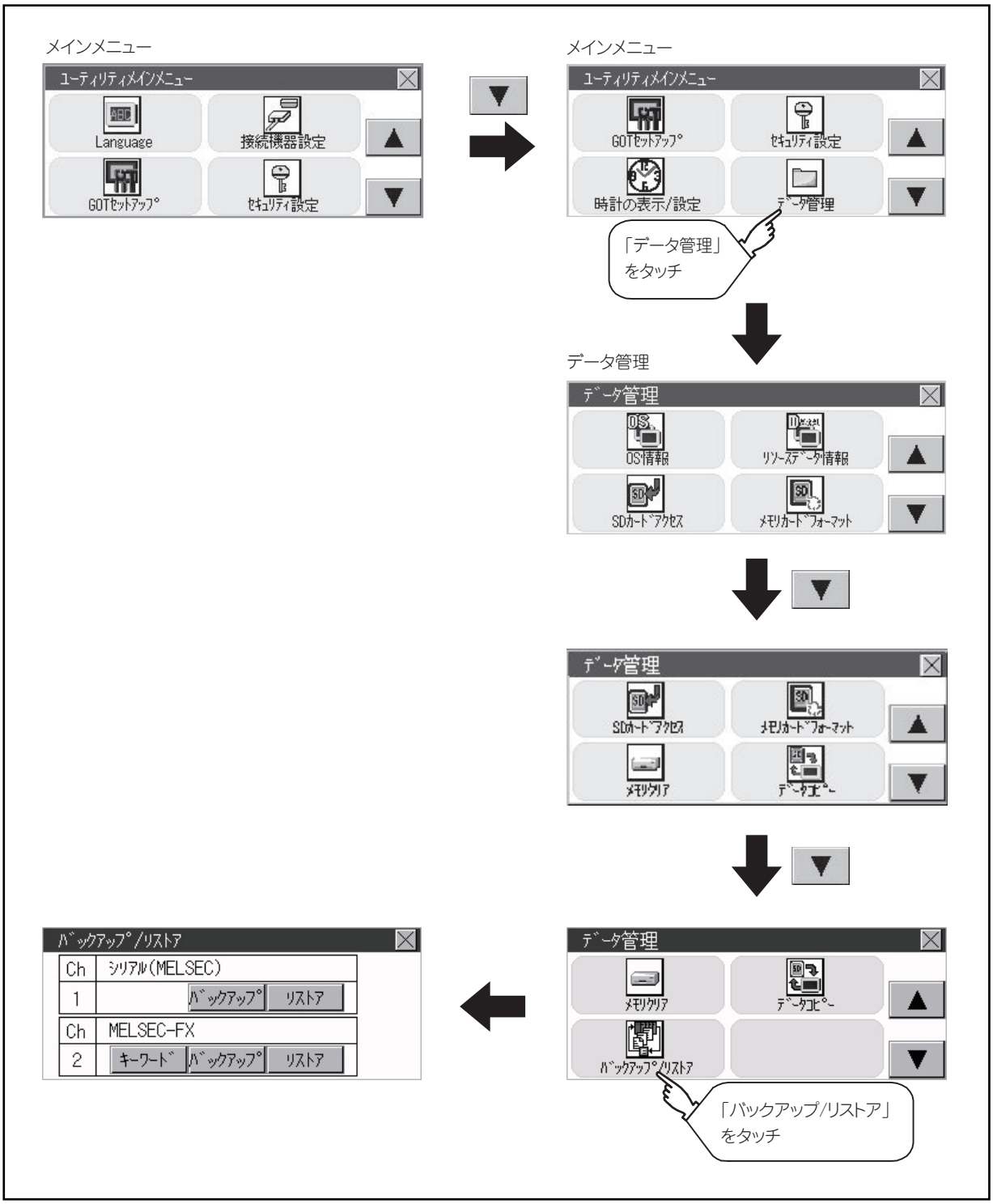
POINT

接続機器側のパスワード変更後のリストア時の注意事項

接続機器側のパスワードを手動入力時，入力を中止してリストアを中断すると，開始から中断までにリストアしたファイルはそのままになります。
一部ファイルのみリストアすると，システム全体で不整合になる場合があります。



15.8.6 バックアップ/リストアの表示操作

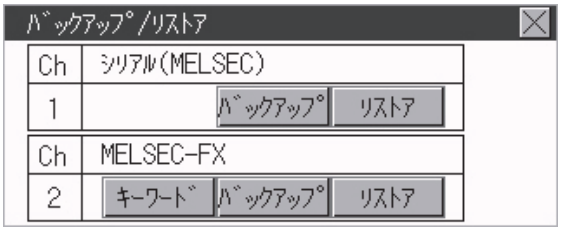


*1 接続機器がFXCPU以外の場合は，〔キーワード〕スイッチは表示されません。

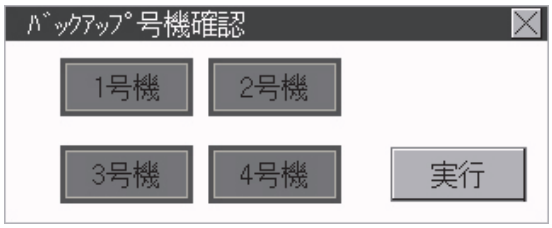
15.8.7　バックアップの操作

本節は，バックアップ操作画面の説明します。シーケンサCPUの機種，およびパスワードの状態により，画面操作手順が異なります。操作手順の詳細は，以下を参照してください。

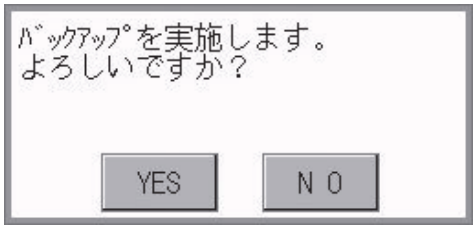
➡ 15.8.5 セキュリティとパスワード



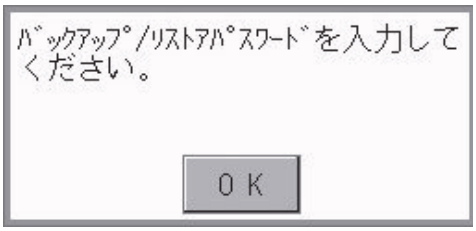
Step 1.　[バックアップ]をタッチします。



Step 2.　[実行]をタッチします。
スイッチ（[1号機]，[2号機]，[3号機]，[4号機]）のタッチ操作は，無効です。



Step 3.　左記画面が表示されますので，[YES]をタッチします。

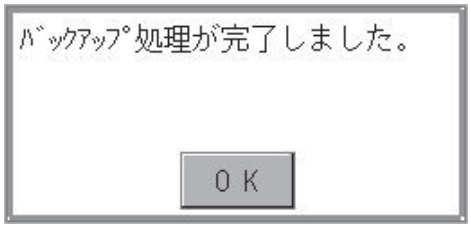


Step 4.　左記画面が表示されますので，[ＯＫ]をタッチして，キーウインドウでパスワードを入力してください。

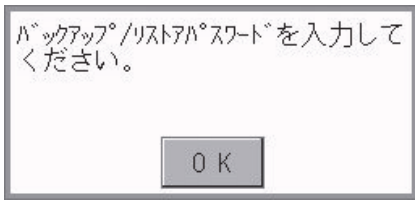
Step 5.　シーケンサCPUのプログラムにパスワード設定がされている場合は，左記画面表示されるので，[OK]をタッチしてパスワードをキーウインドウにて入力してください。
パスワード入力がすべて完了すると，バックアップ処理を実行します。

Step 6.　実行中は，左記画面が表示されます。

（次ページへ続く）



Step 7. バックアップが終了すると左記画面が表示されますので，[OK]をタッチしてください。
FXCPUの場合は，以下画面が表示されますので，[OK]をタッチしてパスワードを入力してください。

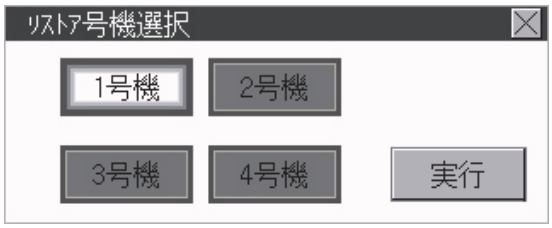


15.8.8　リストアの操作

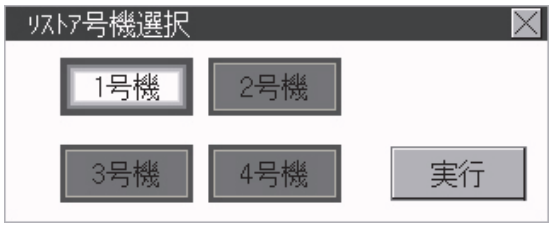
本節は，リストア操作画面の説明します。シーケンサCPUの機種，およびパスワードの状態により，画面操作手順が異なります。操作手順の詳細は，以下を参照してください。

➡ 15.8.5 セキュリティとパスワード

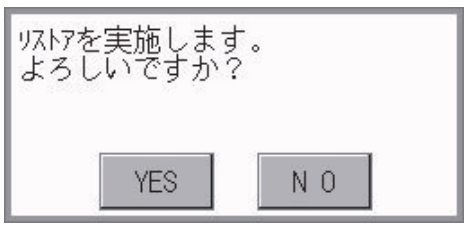
Step 1. [リストア]をタッチします。



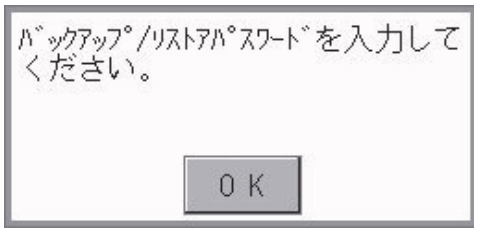
Step 2. リストアするCPU号機をスイッチ（[1号機]，[2号機]，[3号機]，[4号機])で選択してください。接続機器がFXCPUの場合は，スイッチ（[1号機]，[2号機]，[3号機]，[4号機])のタッチ操作は，無効です。



Step 3. [実行]をタッチします。



Step 4. 左記画面が表示されますので，[YES]をタッチします。

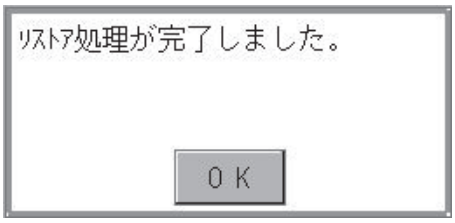


Step 5. 左記画面が表示されますので，[ＯＫ]をタッチして，キーウインドウでパスワードを入力してください。

Step 6. シーケンサCPUのプログラムにパスワード設定がされている場合は，左記画面表示されるので，[OK]をタッチしてパスワードをキーウインドウにて入力してください。
パスワード入力がすべて完了すると，リストア処理を実行します。

（次ページへ続く）

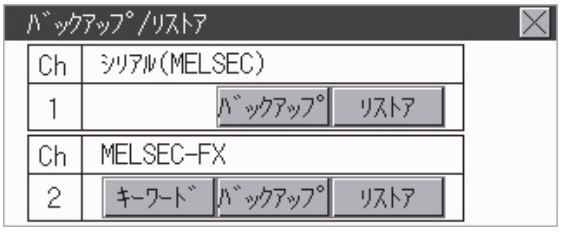
Step 7. 実行中は，左記画面が表示されます。



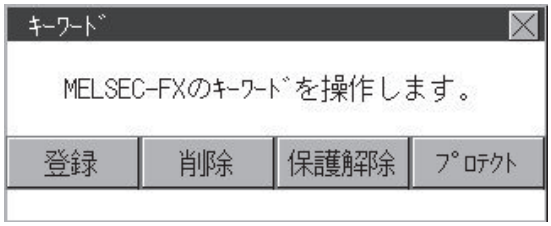
Step 8. リストアが終了すると左記画面が表示されますので，[OK]をタッチしてください。

15.8.9　キーワードの操作

接続しているFXシリーズシーケンサがキーワードで保護されている場合に，保護解除の操作ができます。



Step 1.　[キーワード]をタッチします。



Step 2.　左記画面が表示されます。
FXシリーズシーケンサの保護解除を行ってください。

➡ 11.6 キーワード

15.8.10 エラーと対処法

■1. バックアップ/リストア共通

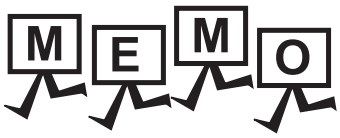
症状	原因	処置方法
バックアップデータが見つからない。	接続しているSDカードにバックアップデータが保存されていない。 バックアップ設定格納先として指定しているドライブにSDカードが存在しない。	• バックアップ設定が保存されているSDカードを接続する。 • バックアップデータ格納先をユーティリティで確認する。
バックアップデータのパスワードがわからず、バックアップ/リストアできない。	パスワードを覚えていない。 または，間違っている。	• システム·装置の管理者に、バックアップデータのパスワードを確認する。 • SDカードをフォーマットして使用，または新しいSDカードを使用してバックアップしなおす。
FXCPUでシーケンスプログラムのバックアップ/リストアができない。	シーケンスプログラムがブロックパスワードによって保護されている。	シーケンスプログラムのブロックパスワード設定を解除する。
バックアップ/リストア途中に相手機器との通信エラーが発生し，バックアップ/リストアできない。	GOTの接続機器設定，通信ドライバが間違っている。	GOTの接続機器設定，通信ドライバが正しいかを確認する。
	相手機器のパラメータが間違っていて，GOTを認識しない。	GX Developerなど，相手機器用のツールで，相手機器のパラメータが正しく設定されているか確認する。
	相手機器の電源が入っていない。	相手機器の電源を投入する。
	ケーブルが正しく接続されていない。	ケーブルを確認する。

■2. バックアップ

症状	原因	処置方法
バックアップしたデータをSDカードに書き込めない。	SDカードを接続していない。	バックアップ設定/バックアップデータの格納先に指定しているドライブにSDカードを接続する。
	SDカードの空き容量がない。	空き容量が十分なSDカードを装着する。 SDカード内の不要なファイルを削除する。
	SDカードが書込み不可になっている。	SDカードを書込み可能にする。 ファイルの属性変更はGOTでは実施できないため，パソコンで行う。
	ドライブが存在しない。	バックアップ設定/バックアップデータの格納先に指定しているドライブが存在するか(SDカードが接続されているかなど)確認する。
機器から設定情報(ファイル·データ)を取得できない。	機器と通信可能な状態になっていない。	以下の設定を確認する。 GOT側 • ケーブルが正しく接続されているか？ • 正しい通信ドライバが書き込まれているか？ • 接続機器設定は正しいか？ 機器側 • パラメータは設定されているか？ • ケーブルが正しく接続されているか？ • 電源は入っているか？
ファイルのパスワードがあり、バックアップできない。	パスワードを覚えていない。または、間違っている。(1回目のバックアップ) ファイルのパスワードが変更された。	システム·装置の管理者に、ファイルのパスワードを確認する。

■3. リストア

症状	原因	処置方法
設定情報(ファイル·データ)を機器に書込めない。	機器と通信可能な状態になっていない。	以下の設定を確認する。 GOT側 ・ケーブルが正しく接続されているか？ ・正しい通信ドライバが書き込まれているか？ ・接続機器設定は正しいか？ 機器側 ・パラメータは設定されているか？ ・ケーブルが正しく接続されているか？ ・電源は入っているか？
	バックアップデータにある機器と実際の機器とが一致していない。	・選択したバックアップデータが、対象とするシステムのものか確認する。 ・リストア先の機器がバックアップ時と同じ，または同じとみなすことができる機器か確認する。
ファイルのパスワードがあり、リストアできない。	機器に書き込まれているファイルのパスワードが変更された。	システム·装置の管理者に、ファイルのパスワードを確認する。


MEMO

16. GOTの自己診断(保全機能)

保全機能では，シーケンサシステムの状態確認やトラブル対応の効率化を図る機能が用意されています。
保全機能でできる項目は下記のとおりです。

項目	内容	参照
デバイスモニタ	接続しているFA機器のデバイスに対して，強制ON/OFFや設定値，現在値の変更が行えます。	➠ 16-1
FX3U-ENET-ADP通信設定機能	CPU に格納しているFX3U-ENET-ADPの通信設定値を変更できます。	➠ 16-13

16.1　デバイスモニタ機能

接続しているFA機器のデバイスに対して，強制ON/OFFや設定値，現在値の変更が行えます。

16.1.1　システム構成

デバイスモニタの使用できる接続機器名，およびGOTと接続機器の接続形態について説明します。
各接続形態のPC通信ユニットやケーブルに関する詳細は，下記マニュアルを参照してください。

➠ GOT2000シリーズ　接続マニュアル　GT Works3 version1

■1. 対象接続機器

接続機器	接続形態
QCPU（Qモード），LCPU	Ethernet接続，CPU直接接続，計算機リンク接続，CC-Link(G4)接続
QnACPU	CPU直接接続，計算機リンク接続
ACPU，QCPU（Aモード）	CPU 直接接続
FXCPU	Ethernet接続，CPU直接接続
インバータ	インバータ接続
マイコン	マイコン接続
MODBUS/RTU機器	MODBUS/RTU接続

■2. 必要なシステムアプリケーション

システムアプリケーション		バージョン
基本システムアプリケーション		-
通信ドライバ	MELSEC-Q/L/QnA	-
	MELSEC-A	
	MELSEC-FX	-
	CC-Link(G4)	-
	FREQROL 500/700/800,センサレスサーボ	
	マイコン接続	
	MODBUS/RTU	

POINT

基本システムアプリケーション，通信ドライバのバージョンの確認方法
GOTにインストールされている基本システムアプリケーション，通信ドライバのバージョンは，ユーティリティ「システムアプリケーション情報」で確認してください。
詳細は下記を参照してください。

➠ 15.2 システムアプリケーション情報

16.1.2　モニタできるデバイス

モニタ可能なデバイス名，および範囲の詳細内容については，下記のマニュアルを参照してください。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

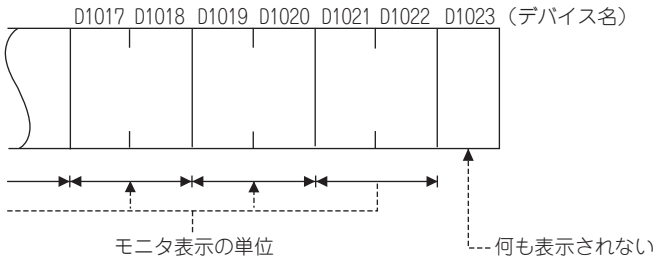
16.1.3　注意事項

(1)　実数データのモニタ・テスト

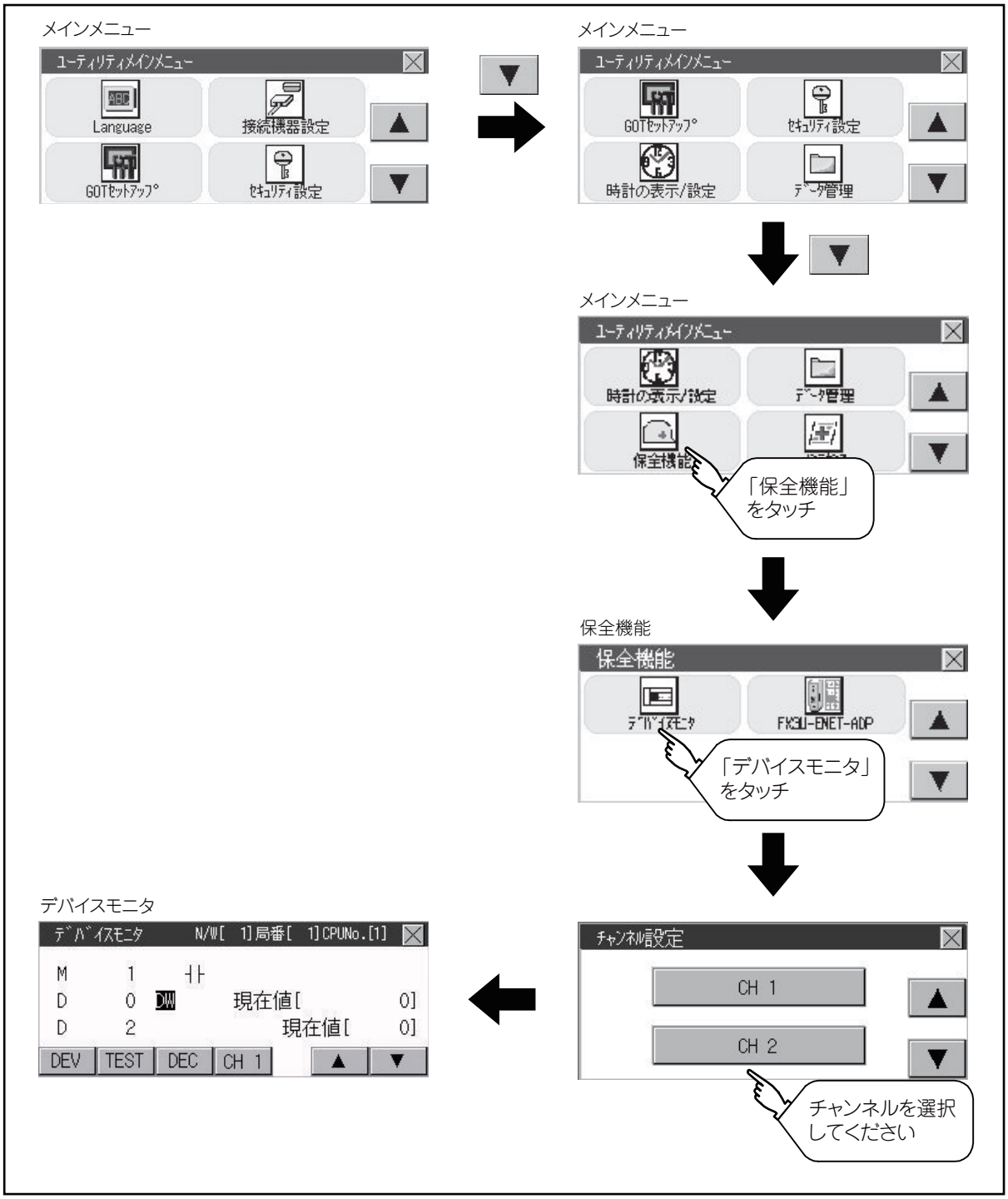
実数データのモニタ・テストはできません。
実数データを格納しているワードデバイスに対するモニタは，すべて整数データ（バイナリデータ）で行われます。

(2)　32ビット単位のモニタ

ワードデバイス（T,C,D,Wなど）を32ビット（2ワード）単位でモニタする場合，モニタ処理の残りが32ビット存在するところまでモニタします。
残りが16ビット（1ワード）分になったところは，モニタされません。
モニタデバイスの先頭番号として奇数番号を指定したとき接続機器のもつ最後のデバイス番号が表示できなくなります。
(例) QnACPUのデータレジスタを奇数番号(D1,D3…)から32ビット単位でモニタした場合



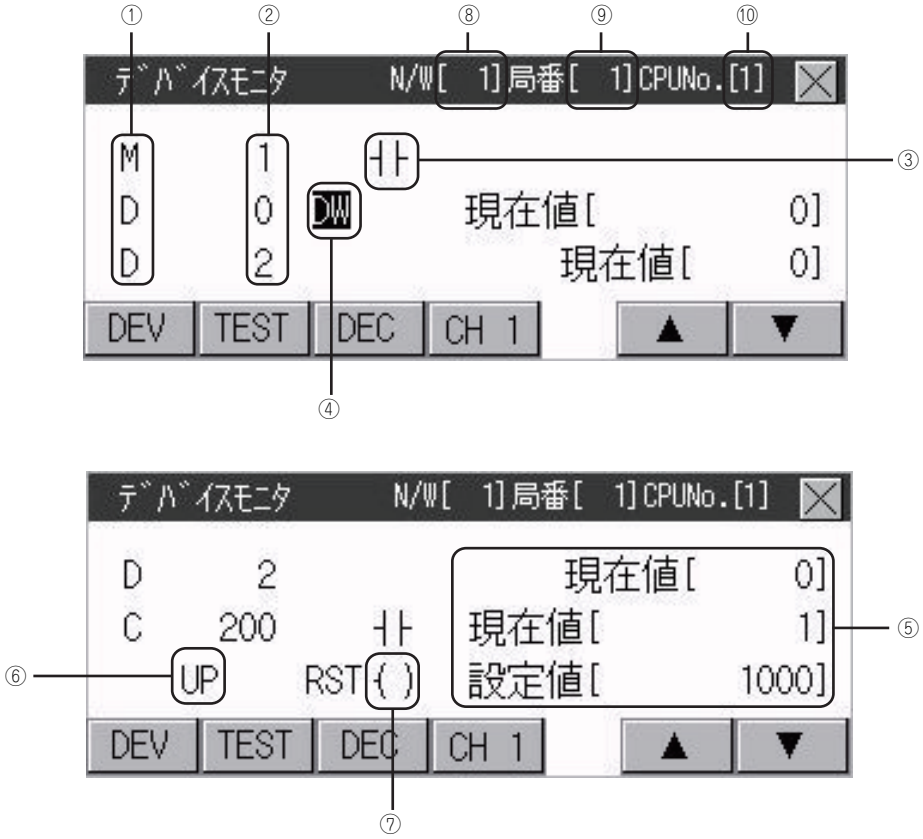
16.1.4　デバイスモニタの表示操作



16.1.5　デバイスモニタ画面の表示内容とキー機能

■1. デバイスモニタ画面

デバイスモニタ画面の表示内容を説明します。



番号	項目	設定内容
①	デバイス名	デバイス名称を表示します。
②	デバイス番号	デバイス番号を表示します。
③	ビットデバイスのON/OFF タイマ/カウンタ接点のON/OFF	ビットデバイスおよびタイマ/カウンタ接点のON/OFF情報を表示します。 ：ONを示します。　　：OFFを示します。
④	データ形式の表示	DW　　：デバイス値がダブルワード(32ビット)であることを示します。 表示なし：デバイス値がワード(16ビット)であることを示します。
⑤	ワードデバイスの現在値 タイマ/カウンタの現在値/設定値*1	【10進数】 16ビット単位：6桁(符号一桁を含みます)を表示します。(表示例：-12345) 32ビット単位：11桁(符号一桁を含みます)を表示します。(表示例：-1234567890) 【16進数】 16ビット単位：4桁を表示します。(表示例：H AB12) 32ビット単位：8桁を表示します。(表示例：H ABCDE123)
⑥	カウンタ計数方向	FXCPUのカウンタ200番台を登録時，カウンタの計数方向を表示します。 UP：アップカウントモード　　DOWN：ダウンカウントモード
⑦	リセットコイルのON/OFF	FXCPUのタイマ/カウンタを登録時，リセットコイルの状態を表示します。 ：ONを示します。　　：OFFを示します。
⑧	ネットワークNo.	PLCがネットワーク上にある場合、該当のネットワークNo.を設定/表示します。
⑨	局番	PLCに局番がアサインされている場合、該当の局番を設定/表示します。
⑩	CPU号機指定	0～4：QマルチCPUまたはQnUCPUと接続時のみ設定が必要です。 号機番号を変更すると，登録済みのデバイスはすべて削除されます。 ➡ 16.1.7 デバイスの登録

*1　ACPU，QnACPU，FXCPUのタイマ/カウンタを登録時，タイマ/カウンタの設定値を表示します。

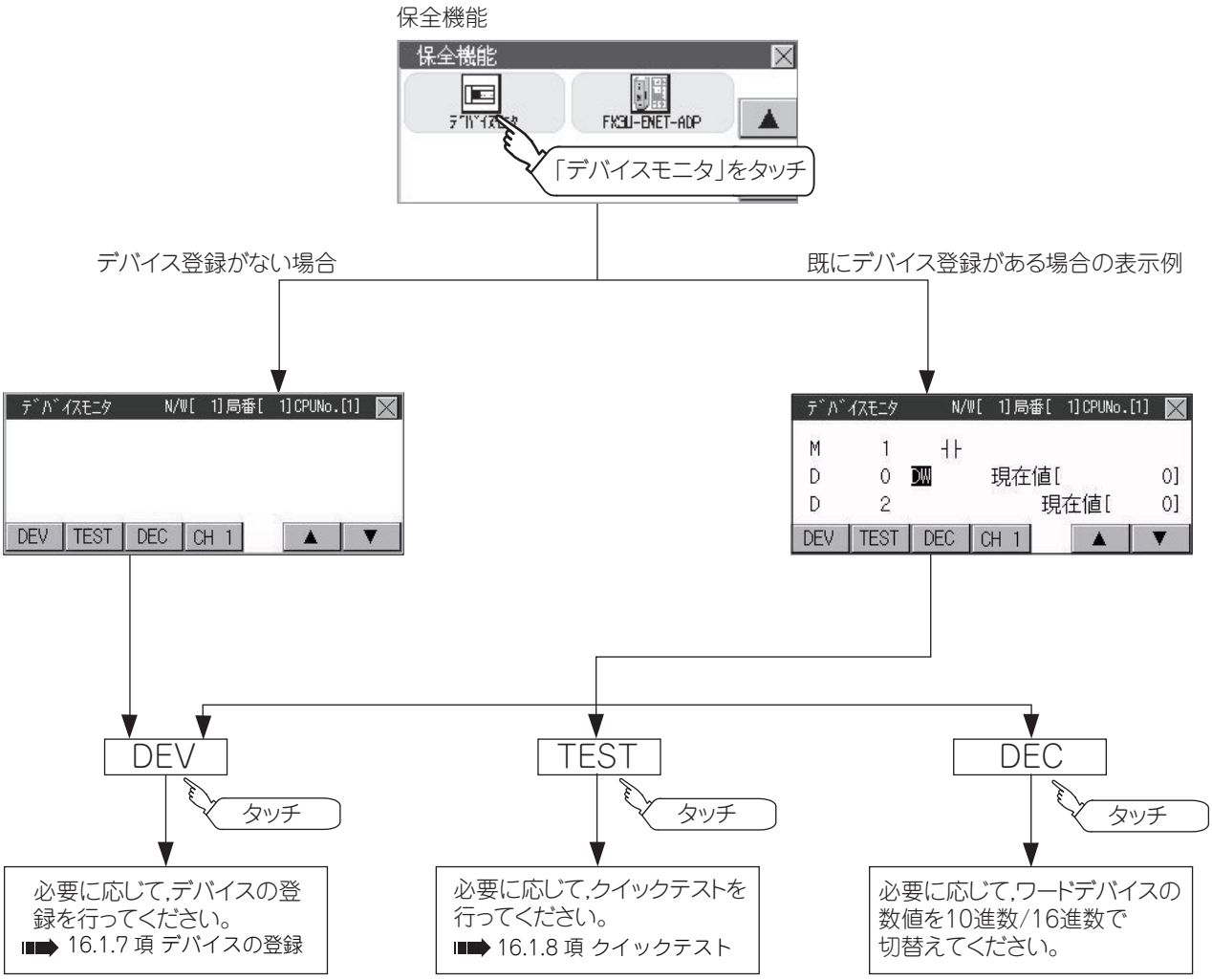
■2. キー機能

デバイスモニタ表示画面のキー機能を説明します。

キースイッチ	機能
DEV	モニタしたいデバイスを登録するためのデバイス登録キーウィンドウへ遷移します。 ➠ 16.1.7 デバイスの登録
TEST	クイックテストモードの有効/無効を切替えます。 ➠ 16.1.8 クイックテスト
DEC/HEX	ワードデバイスの数値を10進数/16進数で切替えます。
CH1，またはCH2	チャンネルを切替えます。
▲▼	表示内容を上/下方向へ1行分スクロールし，現在登録されている最上行/最下行のデバイスの前/後のデバイスを表示します。 ▲：一行分，上方向へスクロールし，最上行のデバイス番号-1のデバイスを表示 ▼：一行分，下方向へスクロールし，最下行のデバイス番号+1のデバイスを表示
×	デバイスモニタを終了し，保全機能画面へ戻ります。

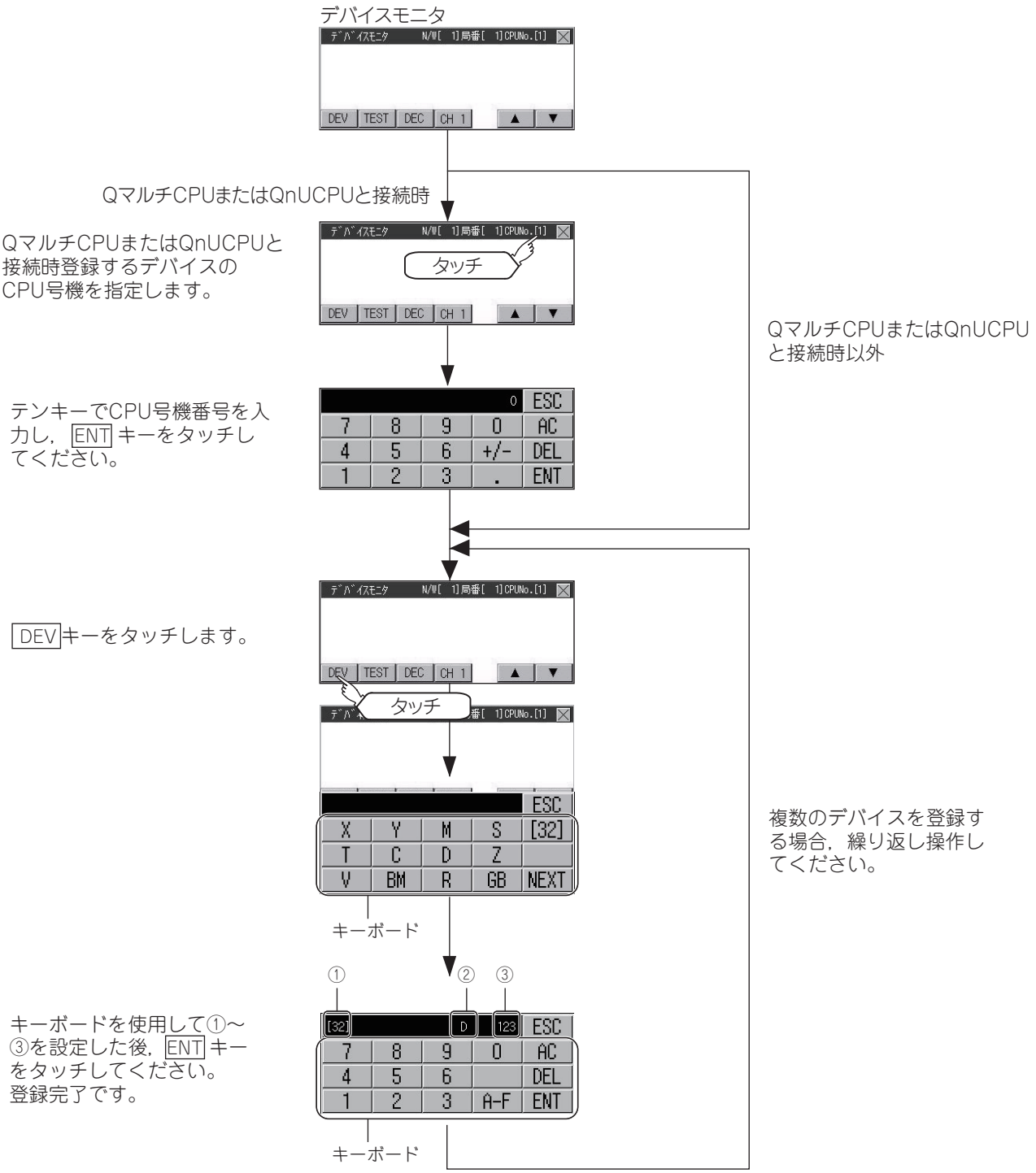
16.1.6　デバイスモニタの基本操作

下記にデバイスモニタの基本操作について説明します。



16.1.7　デバイスの登録

下記にデバイスの登録手順を説明します。



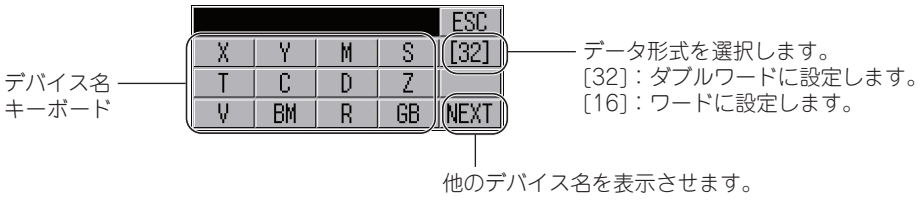
キーボードの操作方法については，次頁を参照してください。

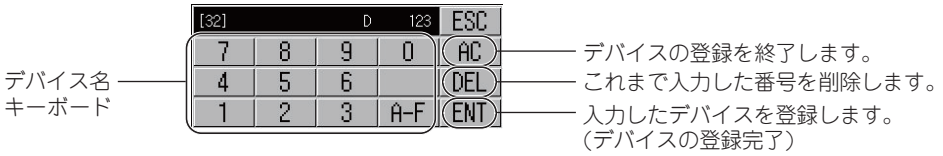
番号	項目	設定内容
①	データ形式	[32]：デバイス値がダブルワード（32ビット）であることを示します。 表示なし：デバイス値がワード（16ビット）であることを示します。
②	デバイス名	モニタするデバイス名とデバイス番号を設定してください。
③	デバイス番号	

POINT

キーボードの操作

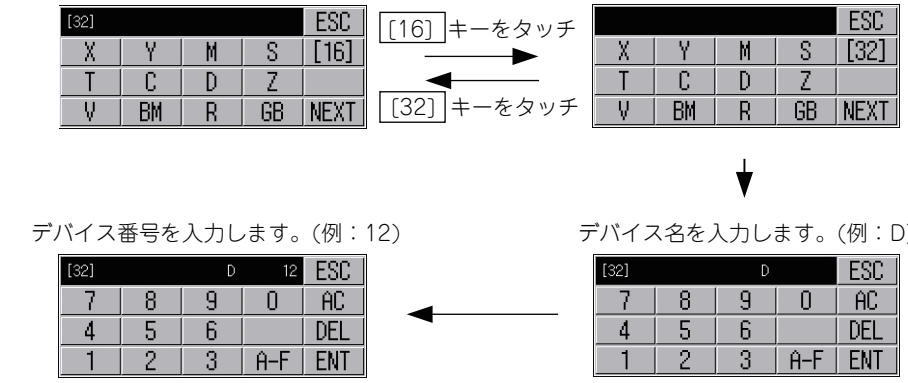
(1)キーボードの機能





(2)入力手順

データ形式を選択します。（例：16ビット）



ENT キーをタッチすると,登録完了です。

POINT

デバイス登録時の注意事項

(1)データ形式の表示

デバイスモニタの表示画面では，データ形式を下記のとおり表示します。

•DW：ダブルワード（32ビット）

•表示なし：ワード（16ビット）

(2)CPU号機指定

デバイスを登録した状態でCPU号機番号を変更すると，登録されたデバイスは削除されます。

デバイスを登録する前に，CPU号機番号を確認してください。

(3)局番指定

デバイスを登録した状態で局番を変更すると，登録されたデバイスは削除されます。

デバイスを登録する前に，局番を確認してください。

(4)N/W(ネットワーク）番号指定

デバイスを登録した状態でN/W番号を変更すると，登録されたデバイスは削除されます。

デバイスを登録する前に，N/W番号を確認してください。

(5)登録内容の保持

登録されたデバイスは，デバイスモニタを終了しても削除されません。

GOTを再起動した場合，登録されたデバイスは削除されます。

(6)表示範囲を超える数のデバイス登録

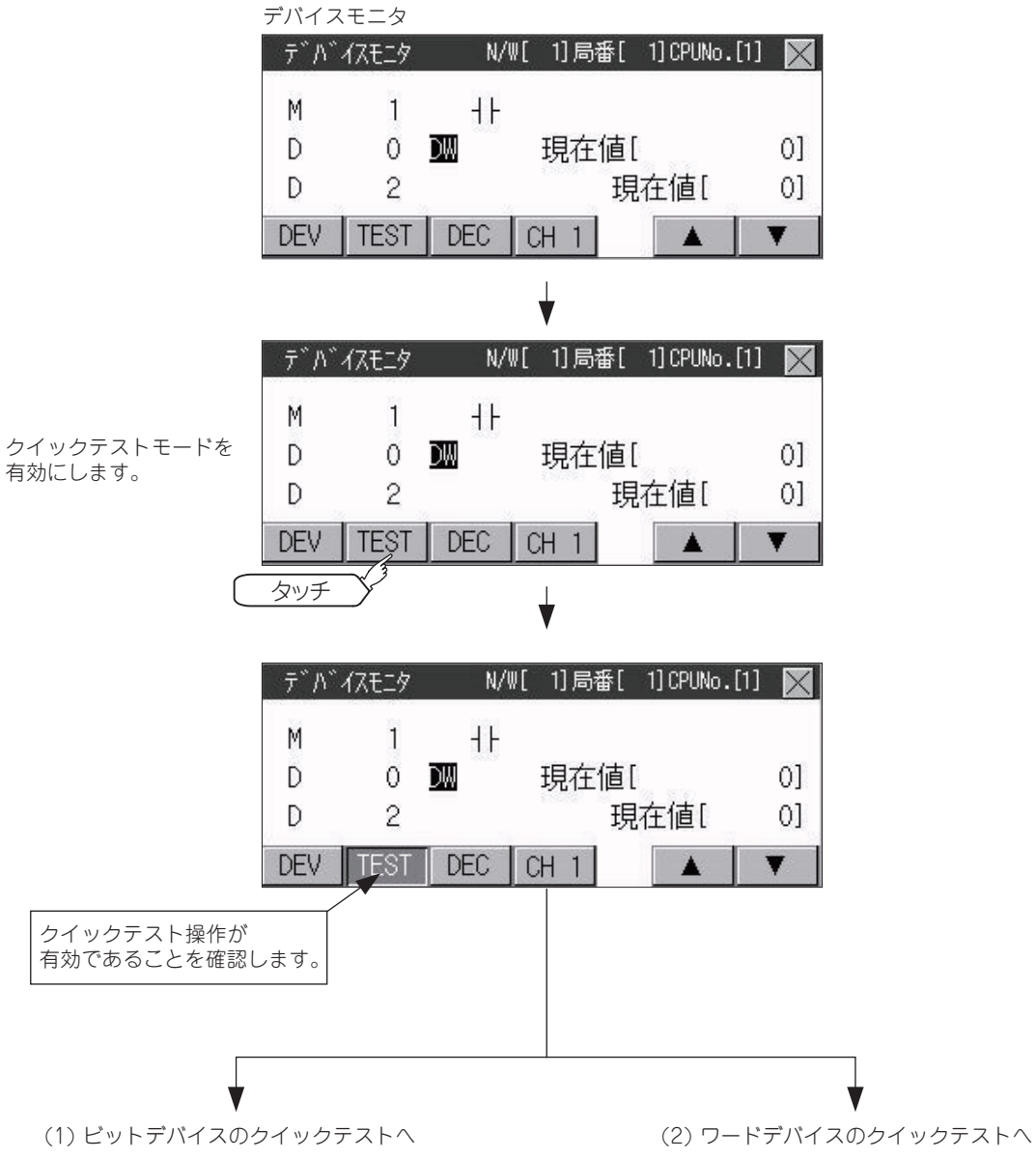
デバイスモニタは，表示範囲を超える数のデバイスを登録できません。

新たにデバイスを登録した場合，最上行に登録されているデバイスは削除され，新たに登録したデバイスが，最下行に追加されます。

16.1.8　クイックテスト

⚠警告
● デバイスモニタのクイックテスト操作（ビットデバイスの ON/OFF，ワードデバイスの現在値変更，タイマ / カウンタの設定値，現在値変更）は，マニュアルを熟読し，操作方法を十分理解した上で操作してください。 また，システムに対する重大な動作を行うデバイスに対しては絶対にクイックテスト操作でデータ変更を行わないで下さい。誤出力，誤動作により事故の原因となります。

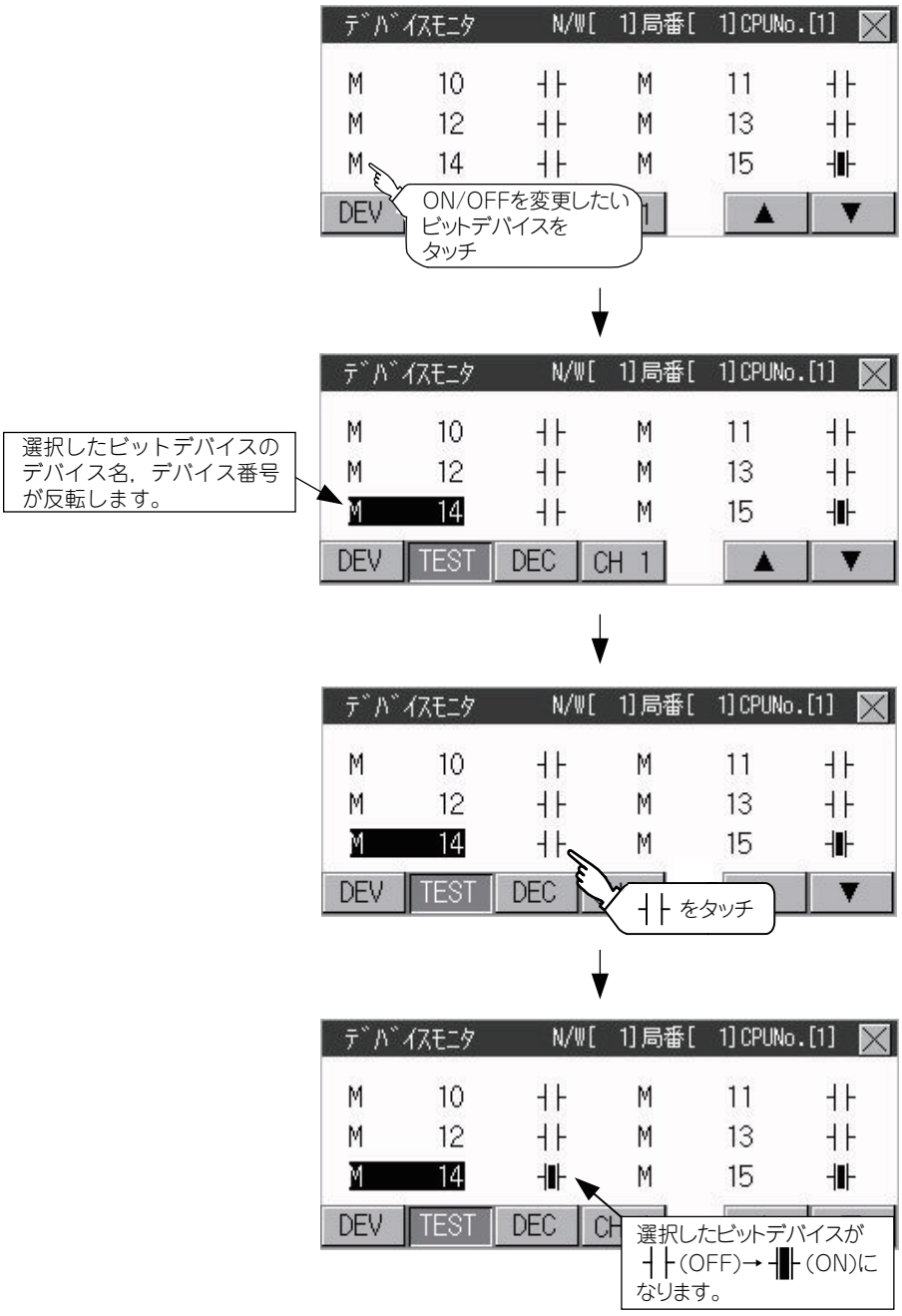
下記にモニタデバイスのクイックテスト操作手順を説明します。



(1) ビットデバイスのクイックテスト

（操作例）

ビットデバイスM14をOFF ┤├ →ON ┤▮├ します。

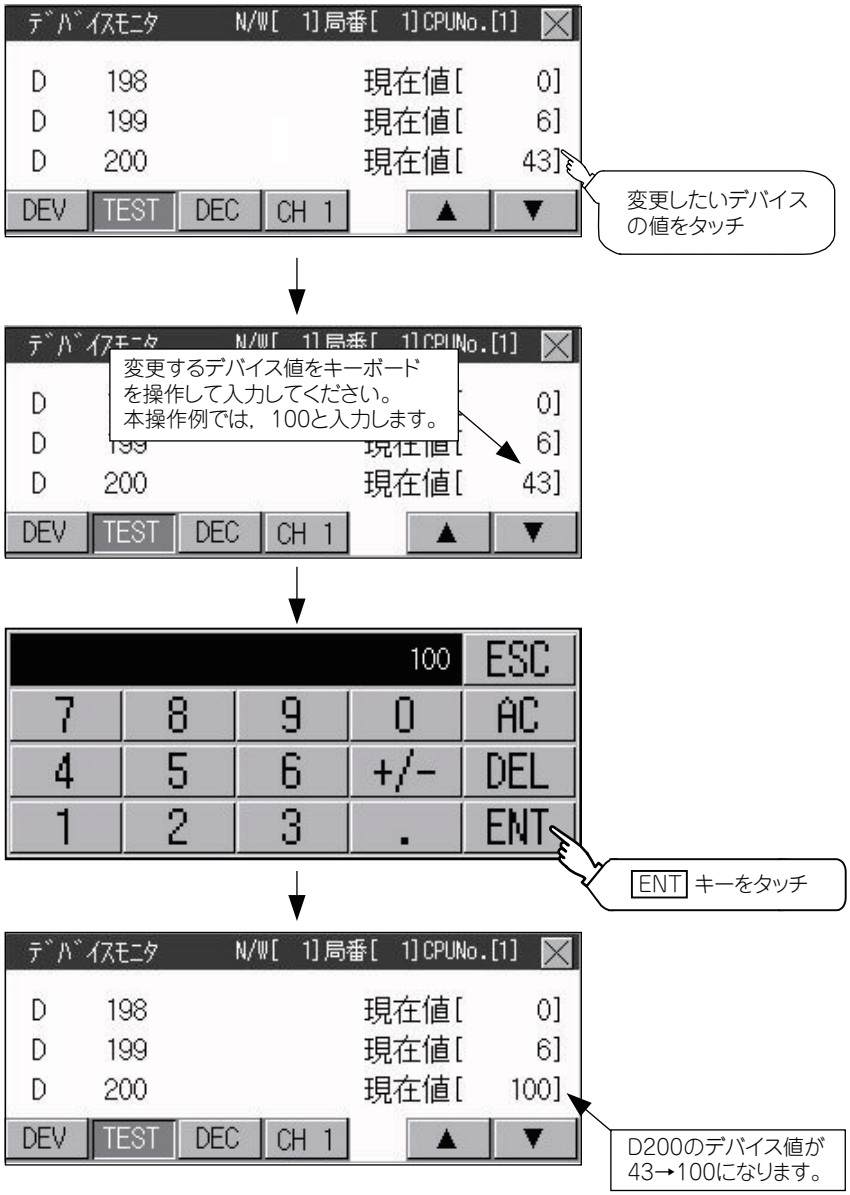


(2) ワードデバイスのクイックテスト

（操作例）

ワードデバイスD200のデバイス値を43→100にします。

条件）データ形式：16ビット，デバイス値表示形式：10進数



16.2 FX3U-ENET-ADP通信設定機能

GX Works2で，CPUに格納しているFX3U-ENET-ADPの通信設定値を変更することができます。
CPUにあらかじめFX3U-ENET-ADPの通信設定値がない場合，本機能を使用することができません。

POINT

(1) CPUの通信設定

GX Works2で，FX3U-ENET-ADPの通信設定値をCPUにあらかじめ設定してください。
通信設定の詳細については，下記を参照してください。

➡ FX3U-ENET-ADPユーザーズマニュアル

(2) FX3U-ENET-ADP通信設定機能が使用できる接続形態

GOTとFXCPUがCPU直接接続時のみ，本機能が使用できます。

➡ GOT2000 シリーズ接続マニュアル(三菱電機機器接続編)

16.2.1 仕様

■1. システム構成

FX3U-ENET-ADP通信設定機能のシステム構成について説明します。各接続形態の設定方法や，使用する通信ユニット／ケーブル，接続形態に関する注意事項については，下記のマニュアルを参照してください。

➡ GOT2000シリーズ 接続マニュアル

■2. 必要な基本システムアプリケーション

OS		バージョン
基本システムアプリケーション		-
通信ドライバ	MELSEC-FX	-

■3. 接続形態

（○：使用可能，△：一部制約あり，×：使用不可）

機　能		GOTと接続機器の接続形態	
名称	内容	CPU直接接続	GOTマルチドロップ接続
FX3U-ENET-ADP通信設定機能	CPUに格納しているFX3U-ENET-ADPの通信設定値を変更できます。	○	×

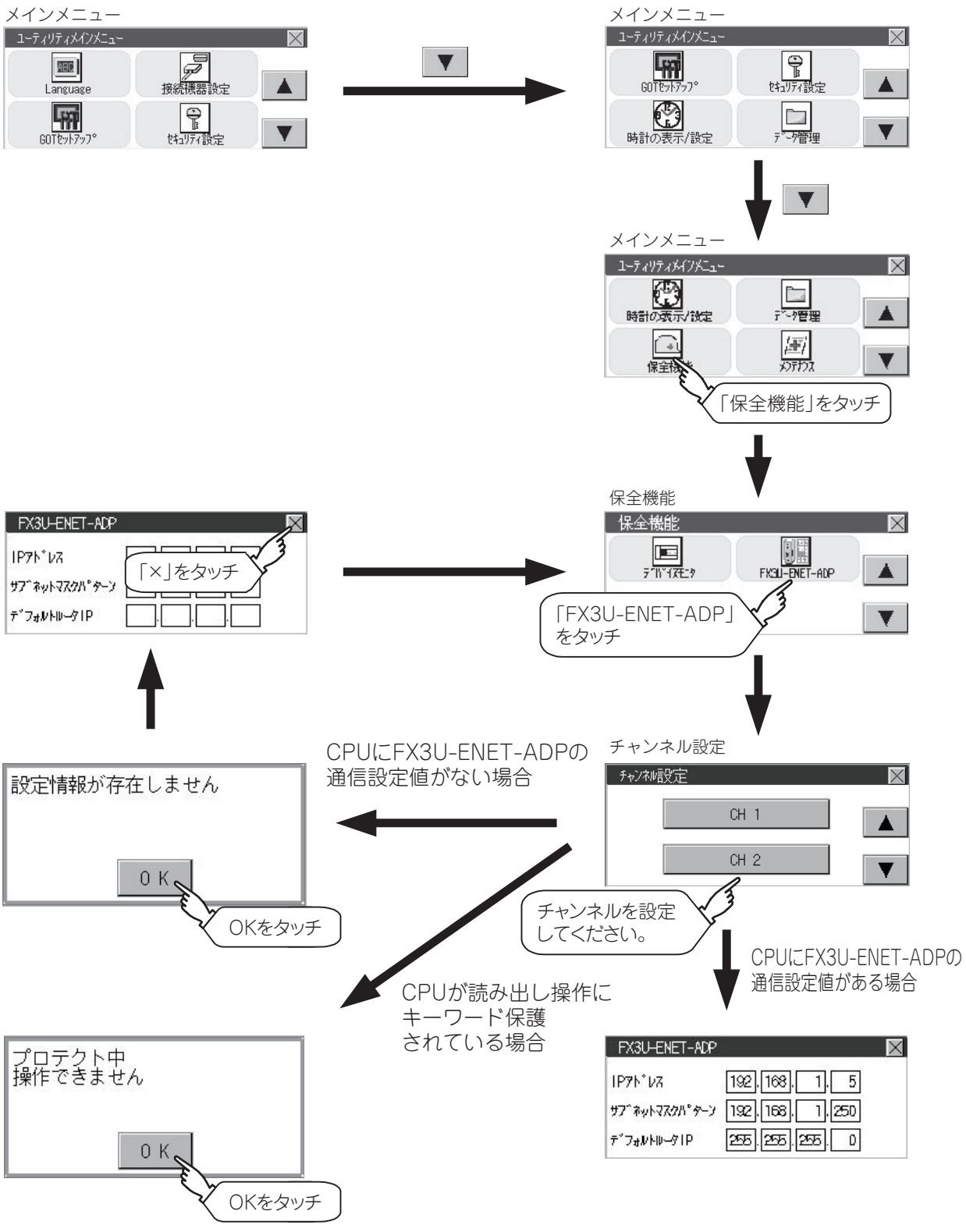
■4. 通信設定項目

設定可能項目，及び設定可能範囲は，以下の通りです。

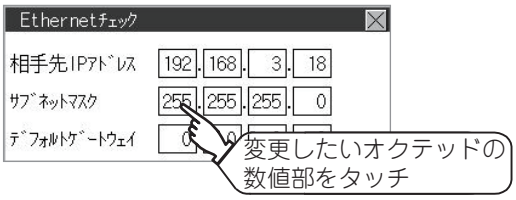
設定可能項目	設定範囲	備考
IPアドレス	0.0.0.1～223.255.255.254	設定範囲外を設定すると，エラーメッセージ「入力した数値が間違ってます」が表示されます。
サブネットマスクパターン*1	192.0.0.0～255.255.255.252	
デフォルトルータIPアドレス*1	0.0.0.1～223.255.255.254	

*1　サブネットマスクパターン，デフォルトルータIPアドレスを使用しない場合は，設定値を[0.0.0.0]に設定してください。

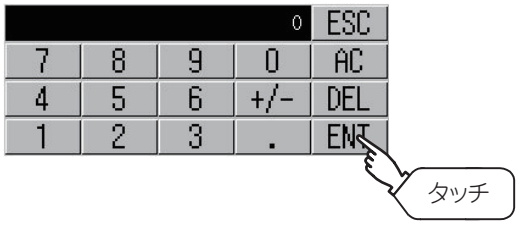
16.2.2 FX3U-ENET-ADP通信設定機能の表示操作



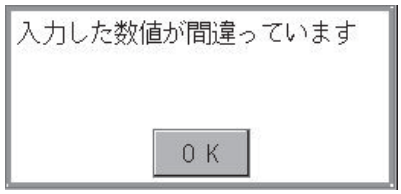
16.2.3 設定操作



Step 1. 第1～4オクテッドの内，変更したいオクテッドの数値部をタッチしてください。

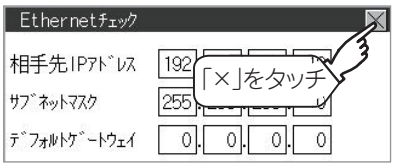


Step 2. テンキーが表示されますので，3桁までの数値を入力して，ENT キーをタッチしてください。
設定可能範囲以外を設定すると，以下のエラー表示となります。再度入力してください。

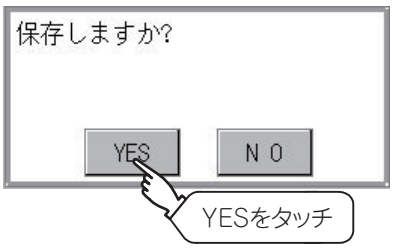


設定可能範囲の詳細は，以下を参照してください。

➡ 16.2.1項 仕様

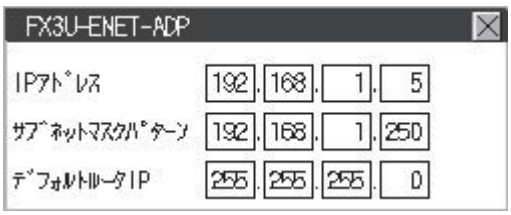


Step 3. 変更後のIPアドレスが表示されました。この時点では，FX3U-ENET-ADPの変更された通信設定値がCPUに書き込みされていません。[×]キーをタッチしてください。



Step 4. 左記の画面が表示されるので，
ESC キーをタッチしてください。

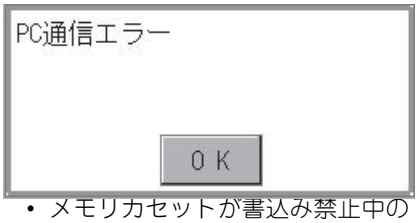
次ページへつづく



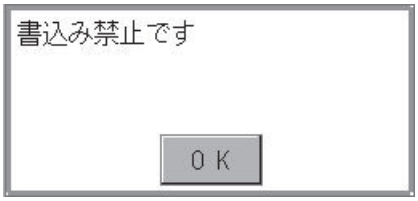
Step 5. 左記の画面が表示されると，正常にFX3U-ENET-ADPの変更された通信設定値がCPUに書き込まれたことになります。設定内容を有効にするには，CPUの電源をOFF → ON にしてください。サブネットマスクパターン，デフォルトルータIPアドレスについても同様の操作で，必要に応じて設定変更をしてください。以下の場合は，エラー表示されますので、OK キーをタッチして，1 に戻り再度設定操作を行ってください。

- CPUがRUN中の場合
  以下のエラー表示されますので，CPUをRUN停止させてください。

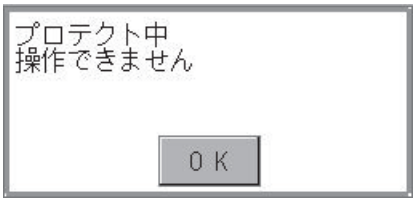
- 通信エラーが発生した場合
  GOTとCPU間の通信を正常状態にしてください。



- メモリカセットが書込み禁止中の場合
  メモリカセットのプロテクトスイッチをOFFにしてください。



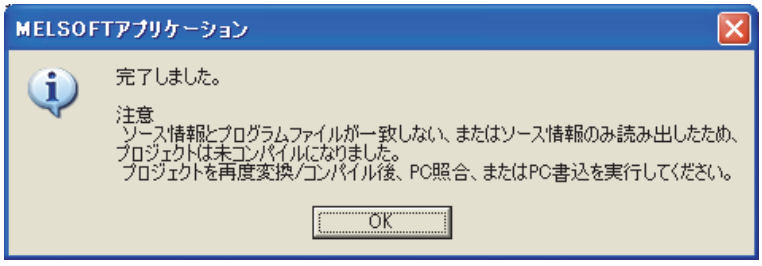
- CPUが書き込み操作にキーワード保護されている場合
  書き込み操作にキーワード保護を解除してください。

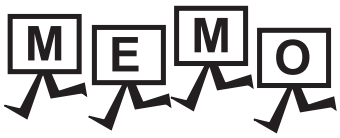


POINT

ソース情報が書込まれたCPU の場合

ソース情報が書込まれたCPUに対し，本機能を用いてIPアドレス等の設定を変更した後，プログラミングツールによりプログラムを読み出した場合，以下の警告が表示されますが，変更した値は正常に読み出されています。プロジェクトを再度変換/コンパイルしてください。

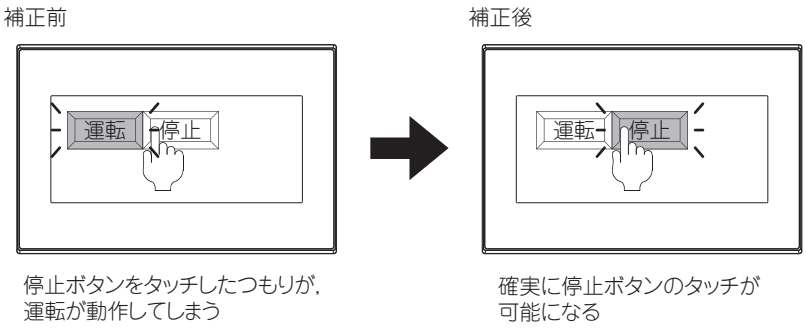



MEMO

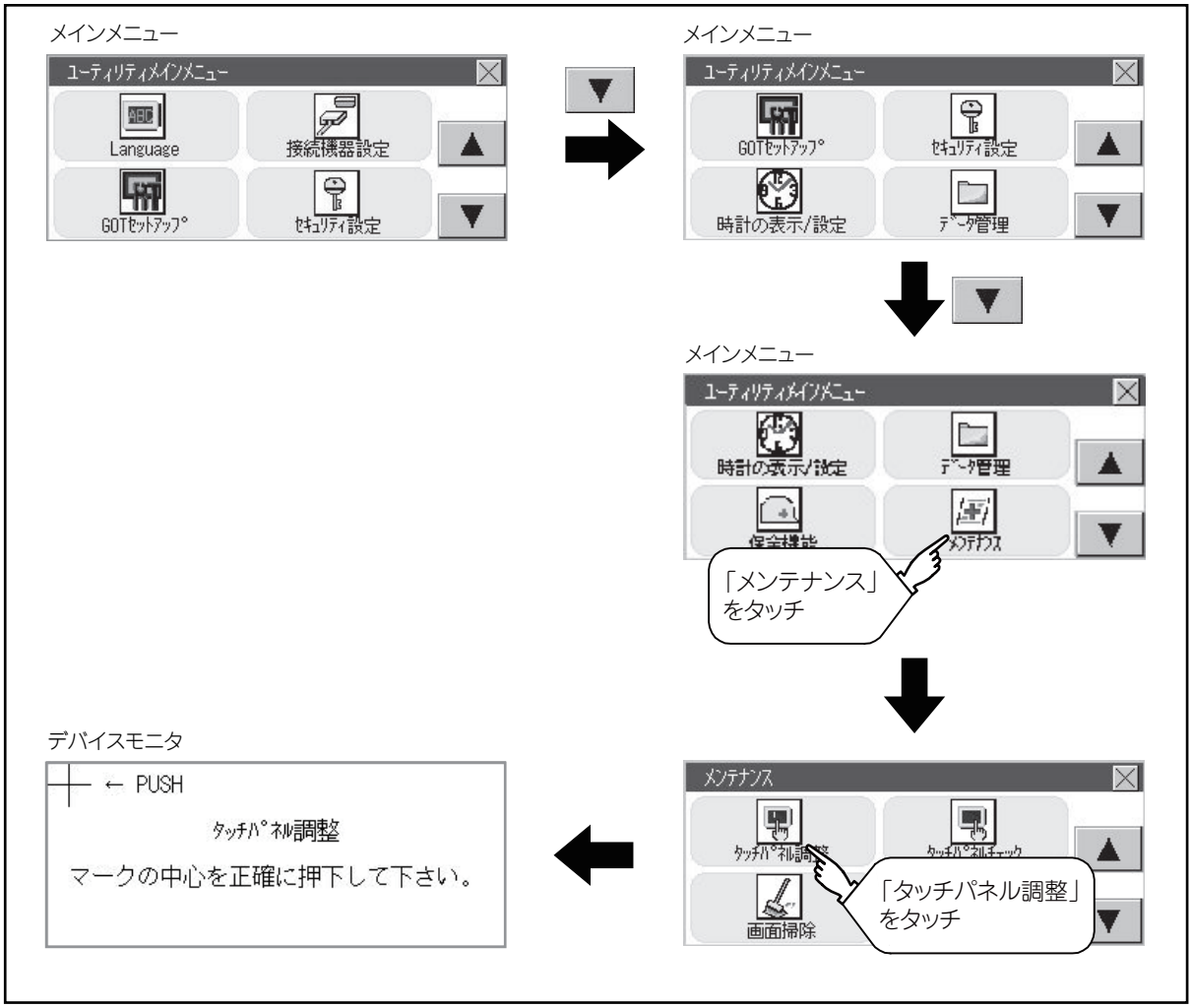
17.1 タッチパネル調整

■1. タッチパネル調整の設定機能

タッチ位置の読取り誤差を修正できます。
通常は調整する必要がありませんが，使用期間の経過とともに，オブジェクト位置とタッチした位置がずれる場合があります。
オブジェクト位置とタッチした位置がずれた場合は，本機能にて位置を補正してください。

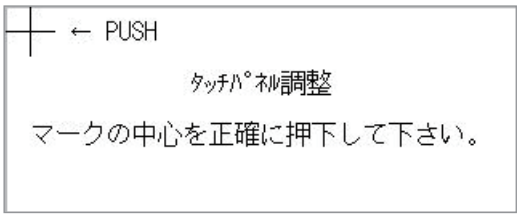


■2. タッチパネル調整の設定の表示操作

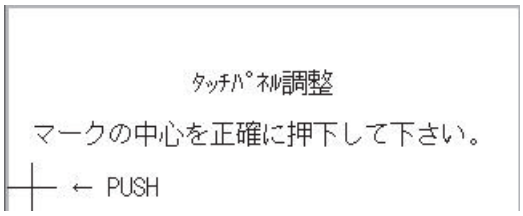


■3. タッチパネル調整操作

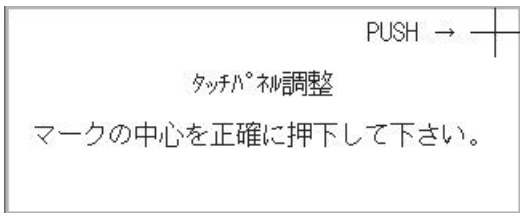
画面上に表示される[+]を，順番に指で押して，設定します。



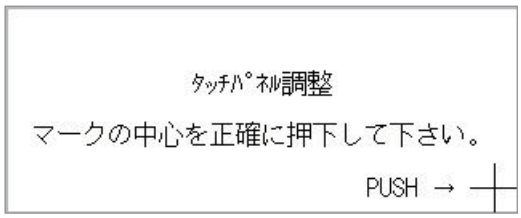
Step 1. 左上に表示されている[+]の中心を正確にタッチしてください。



Step 2. 左上に表示されている[+]をタッチしてください。



Step 3. 右上に表示されている[+]をタッチしてください。



Step 4. 右下に表示されている[+]をタッチしてください。

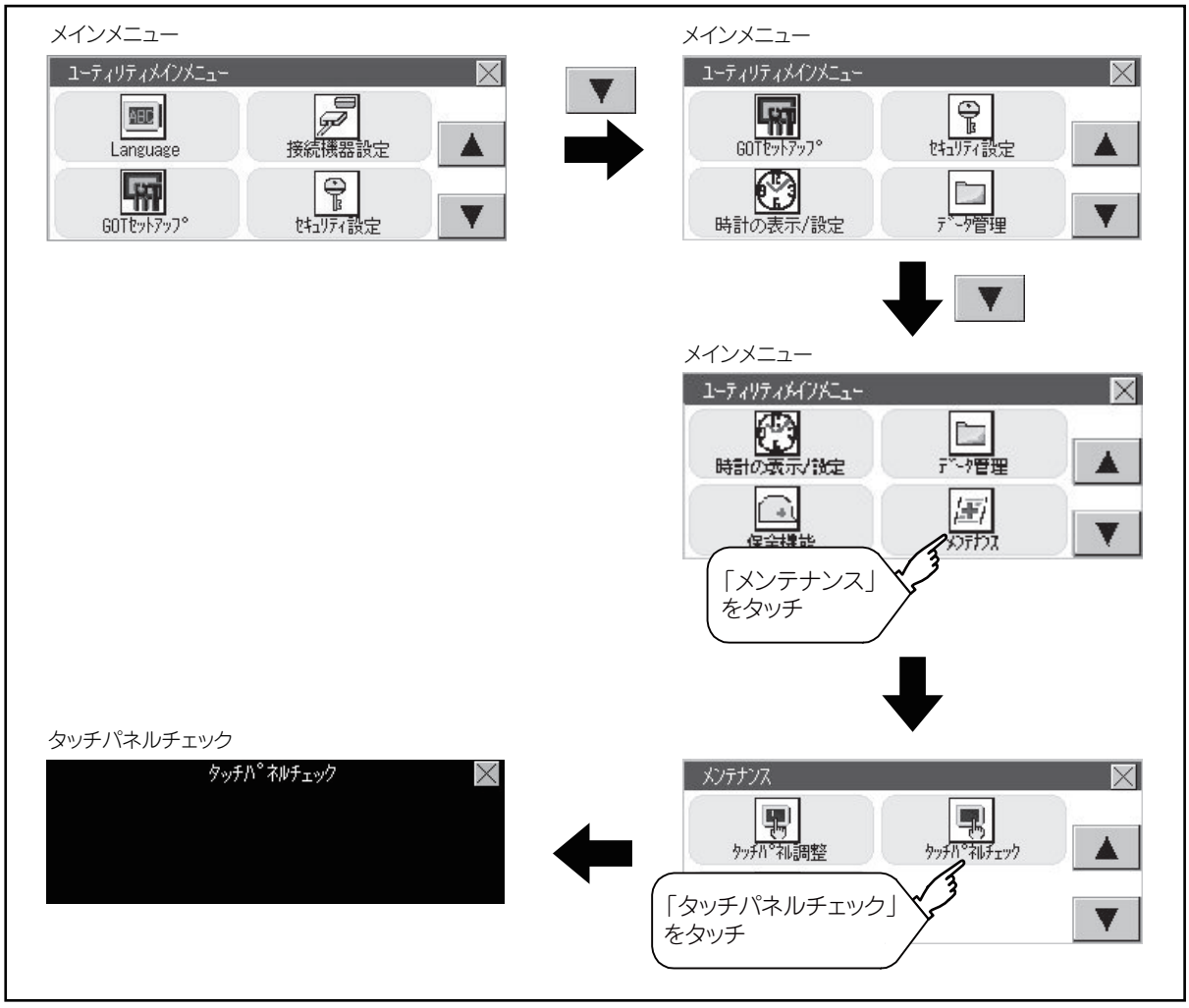
Step 5. 右上に表示されている[+]をタッチすると，前画面に戻ります。

17.2　タッチパネルチェック

■1. タッチパネルチェック機能

タッチパネルチェック機能は，2 ドット ×2 ドットでの不感帯領域がないかのチェックを行う機能です。

■2. タッチパネルチェックの表示操作



POINT

タッチパネルチェックの留意点

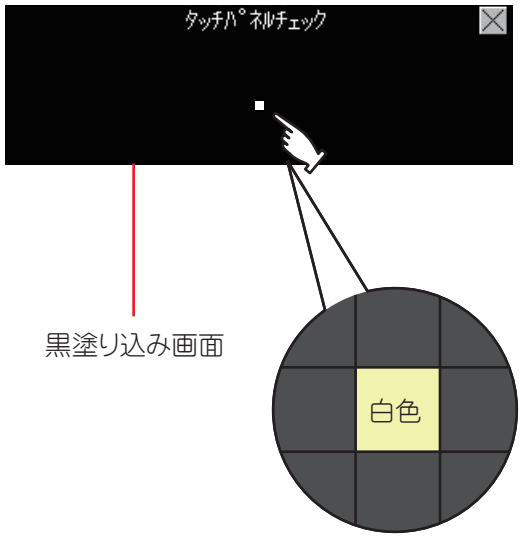
タッチした部分が白色の塗り込み表示にならなかった場合，以下の2つの原因が考えられます。

1.表示部分の故障
2.タッチパネルの故障

この場合，最寄りの三菱電機システムサービス(株)にお問い合わせください。

■3. タッチパネルチェック操作

自己診断で [タッチパネルチェック] をタッチすると，画面全領域に渡って，黒塗り込み画面が表示されます。



1. 画面の任意領域をタッチしてください。
タッチされた部分が白色の塗り込み表示になります。
40 箇所以下の塗り込み表示が可能です。

2. 画面右上の [×] をタッチすると，自己診断に戻ります。

POINT

画面右上領域のチェックについて

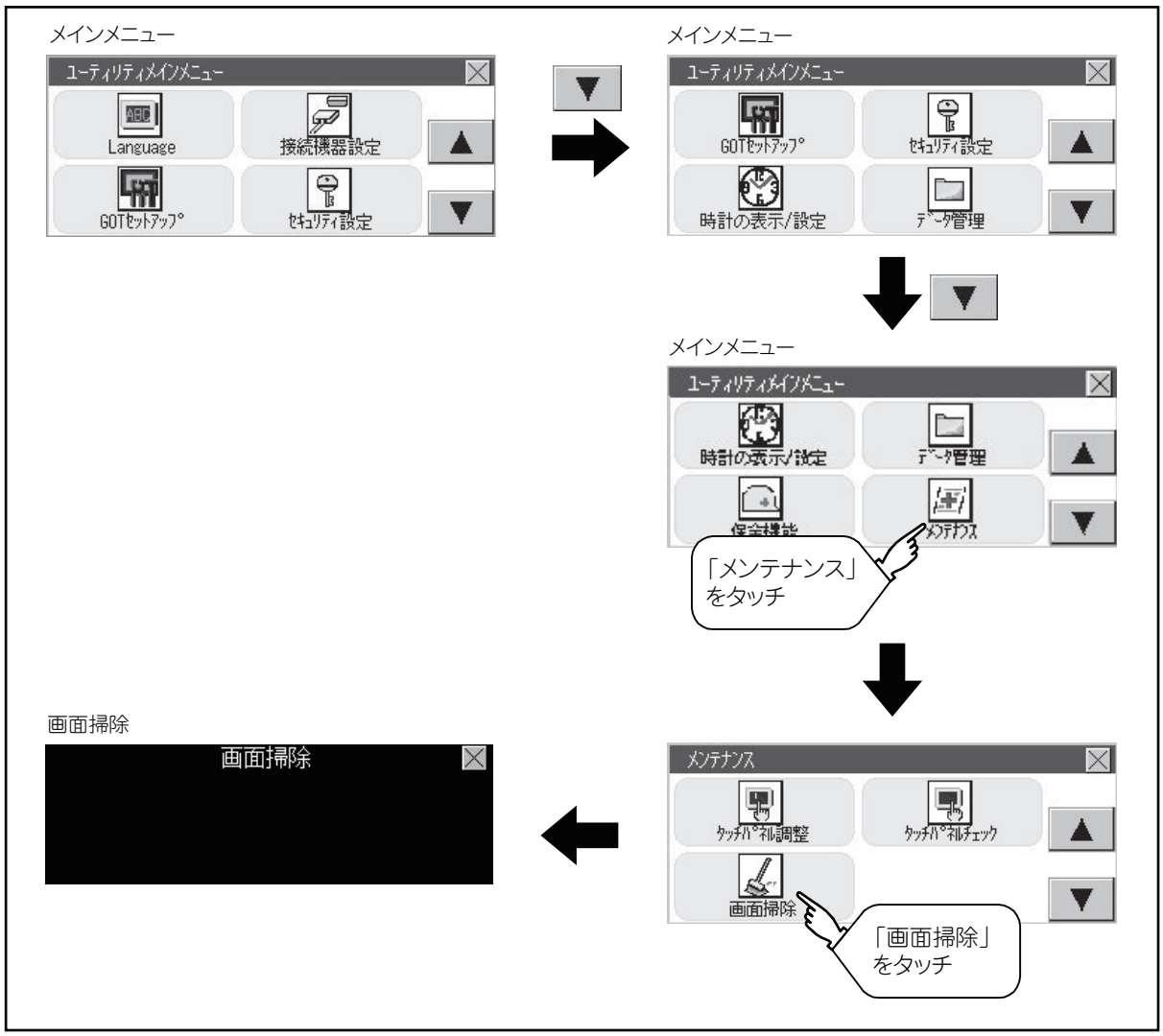
画面右上の領域のみ，白色の塗り込み表示ができません。
メンテナンスへ戻れることで右上領域が正常動作すると判断してください。

17.3 画面掃除

ユーティリティでは，画面を布などでふき掃除をしたいときに画面をタッチしても影響のないようにすることができます。
掃除要領については，以下を参照してください。

➠ GOT2000シリーズ取扱説明書（ハードウェア編）9. 保守・点検

■1. 画面掃除の表示操作

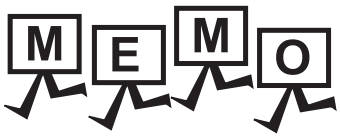


■2. 画面掃除の表示操作

Step 1. [×]キーをタッチすると,画面を閉じます。画面の右上隅以外にタッチしても何も動作しません。

画面掃除の要領に関する詳細は，下記を参照してください。

➠ GOT2000シリーズ取扱説明書（ハードウェア編）9. 保守・点検


MEMO

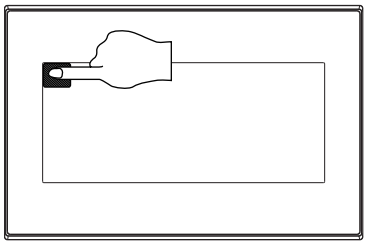
18. SDカードを使用したパッケージデータのインストール

以下の手順で、SDカードに格納したパッケージデータをGOTにインストールすることができます。
SDカードにパッケージデータを格納する方法は、下記を参照してください。

➠ GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ

18.1 GOTの電源投入時にインストールする方法

■1. 操作手順



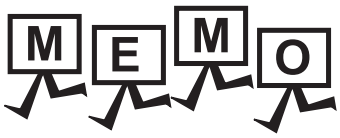
Step 1. GOTの電源をOFFにし，基本システムアプリケーションS，通信ドライバが格納済みのSDカードをGOTに装着してください。

Step 2. GOTの画面左の上をタッチしたまま，GOTの電源をONしてください。

Step 3. 左記画面が表示されますので，「SDカード」を選択します。

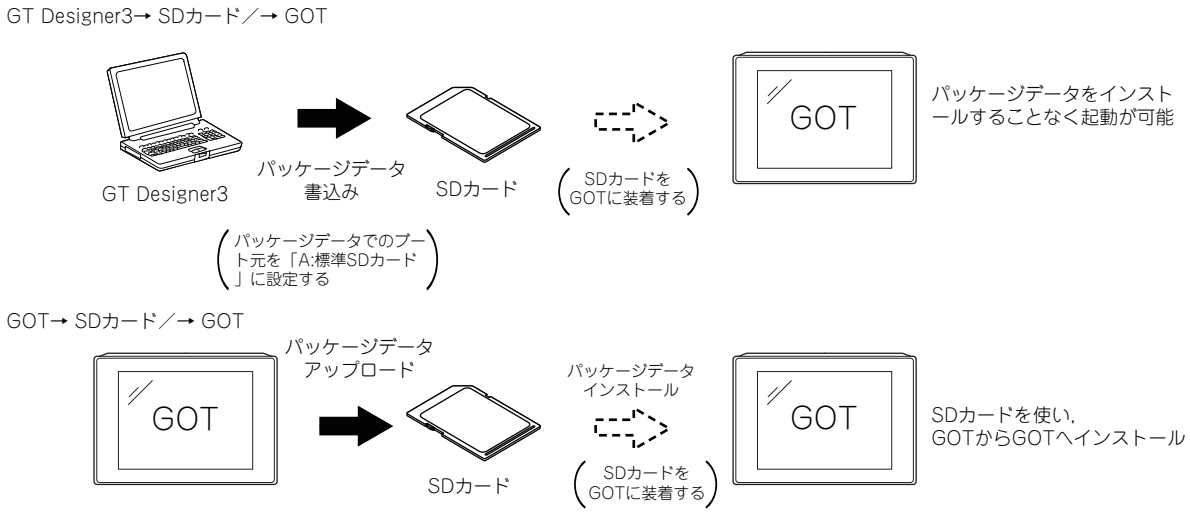
インストールについての詳細は下記を参照してください。

➠ 15.7 データコピー


MEMO

19. BootOS，基本システムアプリケーションのインストール

GOTのユーティリティを実行するためには，GOTのCドライブ(内蔵フラッシュメモリ)にBootOS，システムアプリケーションをインストールする，またはパッケージデータのBoot元を[A: 標準SDカード]に設定し，パッケージデータを書き込んだSDカードを装着する必要があります。
(GOTは,工場出荷時にBootOSをインストールしています。BootOSのバージョンアップを必要としない場合，BootOSのインストール作業は不要です。)
本章では，GOTを使用したインストールについて説明します。



GT Designer3を使用したインストールに関しては，下記を参照してください。

➠ GT Designer3 Version1 ヘルプ

19.1 インストールが必要なBootOS，基本システムアプリケーション

ユーティリティを実行するためには下記のBootOS，基本システムアプリケーションが必要です。

システムアプリケーション名	機能概要
BootOS	GOT の制御やパソコンと GOT 間の通信に必要な OS です。 工場出荷時にインストールされています。 (GT Designer3 からもインストールすることもできます。インストールすると GOT が初期化され，工場出荷時の状態になります。なお Boot OS を再インストールする場合，GOT に基本システムアプリケーションがインストールされている必要があります。)
システムアプリケーション	GOT のモニタ機能，システムアプリケーションやプロジェクトデータのインストールと削除，タッチキー制御，画面やガイダンスの表示機能など GOT を動作させるためのシステムアプリケーションです。 ユーザ作成画面やユーティリティ画面の表示，操作に必要なシステムアプリケーションです。 工場出荷時は GOT にインストールされていません。 GT Designer3 または SD カードからインストールしてください。

19.2 BootOS，システムアプリケーションのインストール前準備

GOTを使用したインストールでは，あらかじめBootOS，システムアプリケーションが格納済みのデータストレージが必要です。
BootOS，システムアプリケーションをデータストレージへ書き込む方法としては，以下の3通りがあります。

(1) GT Designer3から「メモリカードへの転送」による方法

➠ GT Designer3 Version1 ヘルプ

(2) 他のGOT(パッケージデータインストール済み)からアップロードする方法

➠ 18. SDカードを使用したパッケージデータのインストール

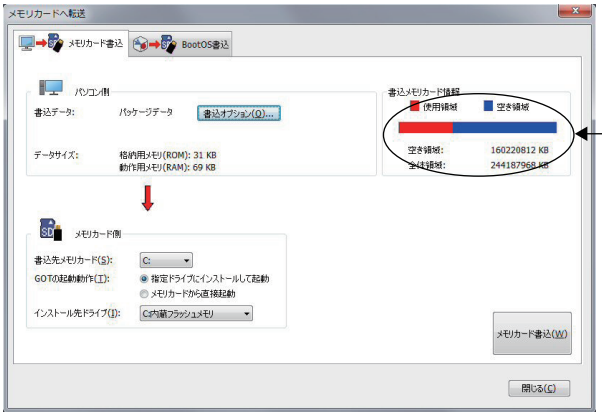
(3) システムアプリケーションのBoot元をAドライブに設定したSDカードを使用する方法

➠ GT Designer3 Version1 ヘルプ

POINT

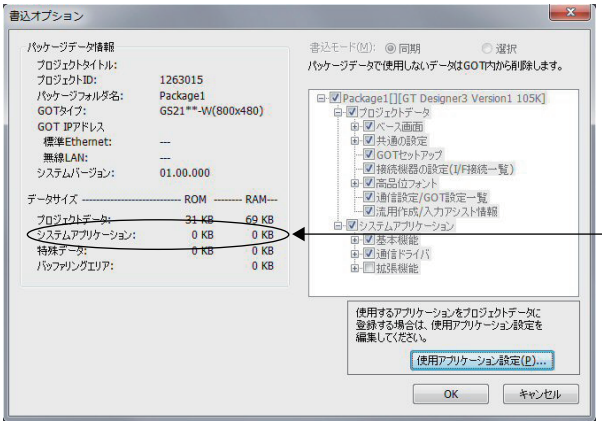
BootOS，パッケージデータなどをSDカードへ書き込む場合のご注意

BootOS，パッケージデータなどをSDカードへ書き込む場合は，必ず他のGOT のユーティリティ，またはGT Designer3により実行してください。
GOTのユーティリティからのアップロード，またはGT Designer3以外からのコピーを実行したSDカードでは，GOTに正しくインストールされません。
また，SDカードの空き容量にご注意ください。
BootOS，システムアプリケーションの空き容量については，GT Designer3の[メモリカードへの書込み]，[書込オプション]で確認できます。



データストレージ空き容量

書込オプション



システムアプリケーション空き容量

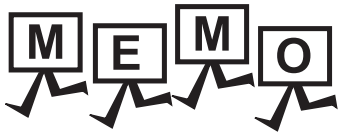
改訂履歴

※ 取扱説明書番号は，本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※ 取扱説明書番号	改訂内容
2013 年 9 月	SH(名)-081187-A	初版印刷 :GT Works3 Version1.100E に対応
2013 年 10 月	SH(名)-081187-B	GT Works3 Version1.103H に対応 ・安全上のご注意を修正 ・本マニュアルで使用する略称 / 総称を修正
2013 年 10 月	SH(名)-081187-C	GT Works3 Version1.105K に対応 ・安全上のご注意を修正 ・本マニュアルで使用する略称 / 総称を修正 ・無線 LAN 通信ユニットに対応 ・Ethernet 設定を修正 ・エラーメッセージとシステムアラームを追加
2014 年 1 月	SH(名)-081187-D	GT Works3 Version1.108N に対応 ・IP アドレスが重複時の取り扱いが変更
2014 年 4 月	SH(名)-081187-E	GT Works3 Version1.112S に対応 ・安全上のご注意を修正 ・略称 / 総称を修正 ・ユーティリティ機能一覧を修正 ・表示の設定に機能を追加 ・操作ログ情報に機能を追加 ・エラーメッセージを追加 ・GT21 ユーティリティを追加
2014 年 6 月	SH(名)-081187-F	GT Works3 Version1.117X に対応 ・安全上のご注意を修正 ・R モーションモニタに対応 ・CNC モニタに対応 ・CNC データ入出力に対応 ・CNC 加工プログラム編集に対応 ・レシピ操作に対応 ・ラベル解決情報に対応 ・エラーメッセージを追加
2014 年 7 月	SH(名)-081187-G	GT Works3 Version1.118Y に対応 ・略称，総称，アイコンの意味を修正 ・システムアラームの表示方法と一覧を修正 ・GT21 がバックアップ / リストアに対応

本書によって，工業所有権その他の権利の実施に対する保証，または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については，当社は一切その責任を負うことができません。

©2013 MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION


MEMO

保証について

ご使用に際しましては，以下の製品保証内容をご確認いただきますよう，よろしくお願いいたします。

1. 無償保証期間と無償保証範囲

無償保証期間中に，製品に当社側の責任による故障や瑕疵（以下併せて「故障」と呼びます）が発生した場合，当社はお買い上げいただきました販売店または当社サービス会社を通じて，無償で製品を修理させていただきます。
ただし，国内および海外における出張修理が必要な場合は，技術者派遣に要する実費を申し受けます。
また，故障ユニットの取替えに伴う現地再調整，試運転は当社責務外とさせていただきます。

【無償保証期間】

製品の無償保証期間は，お客様にてご購入後またはご指定場所に納入後 36ヵ月とさせていただきます。
ただし，当社製造出荷後の流通期間を最長 6ヵ月として，製造から 42ヵ月を無償保証期間の上限とさせていただきます。また修理品の無償保証期間は，修理前の無償保証期間を超えて長くなることはありません。

【無償保証範囲】

（1） 一次故障診断は，原則として貴社にて実施をお願いします。
ただし，貴社要請により当社，または当社サービス網がこの業務を有償にて代行することができます。この場合，故障原因が当社側にある場合は無償とさせていただきます。

（2） 使用状態，使用方法および使用環境などが，取扱説明書，ユーザーズマニュアル，製品本体注意ラベルなどに記載された条件，注意事項などにしたがった正常な状態で使用されている場合に限定させていただきます。

（3） 無償保証期間内であっても，以下の場合には有償修理とさせていただきます。
① お客様における不適切な保管や取扱い，不注意，過失などにより生じた故障およびお客様のハードウェアまたはソフトウェア設計内容に起因した故障。
② お客様にて当社の了解なく製品に改造などの手を加えたことに起因する故障。
③ 当社製品がお客様の機器に組み込まれて使用された場合，お客様の機器が受けている法的規制による安全装置または業界の通念上備えられているべきと判断される機能・構造などを備えていれば回避できたと認められる故障。
④ 取扱説明書などに指定された消耗部品が正常に保守・交換されていれば防げたと認められる故障。
⑤ 消耗部品（バッテリ，バックライト，ヒューズなど）の交換。
⑥ 火災，異常電圧などの不可抗力による外部要因および地震，雷，風水害などの天変地異による故障。
⑦ 当社出荷当時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障。
⑧ その他，当社の責任外の場合またはお客様が当社責任外と認めた故障。

2. 生産中止後の有償修理期間

（1） 当社が有償にて製品修理を受け付けることができる期間は，その製品の生産中止後 7 年間です。
生産中止に関しましては，当社テクニカルニュースなどにて報じさせていただきます。

（2） 生産中止後の製品供給（補用品も含む）はできません。

3. 海外でのサービス

海外においては，当社の各地域 FA センタで修理受付をさせていただきます。ただし，各 FA センタでの修理条件などが異なる場合がありますのでご了承ください。

4. 機会損失，二次損失などへの保証責務の除外

無償保証期間の内外を問わず，当社の責に帰すことができない事由から生じた損害，当社製品の故障に起因するお客様での機会損失，逸失利益，当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害，二次損害，事故補償，当社製品以外への損傷および，お客様による交換作業，現地機械設備の再調整，立上げ試運転その他の業務に対する補償については，当社責務外とさせていただきます。

5. 製品仕様の変更

カタログ，マニュアルもしくは技術資料などに記載の仕様は，お断りなしに変更させていただく場合がありますので，あらかじめご承知おきください。

6. 製品の適用について

（1） 当社グラフィックオペレーションターミナルをご使用いただくにあたりましては，万一グラフィックオペレーションターミナルに故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること，および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることを，ご使用の条件とさせていただきます。

（2） 当社グラフィックオペレーションターミナルは，一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。したがいまして，各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途や，鉄道各社殿および官公庁殿向けの用途などで，特別品質保証体制をご要求になる用途には，グラフィックオペレーションターミナルの適用を除外させていただきます。また，航空，医療，鉄道，燃焼・燃料装置，有人搬送装置，娯楽機械，安全機械など人命や財産に大きな影響が予測される用途へのご使用についても，当社グラフィックオペレーションターミナルの適用を除外させていただきます。
ただし，これらの用途であっても，使途を限定して特別な品質をご要求されないことをお客様にご了承いただく場合には，適用可否について検討致しますので当社窓口へご相談ください。

以　上

サービスネットワーク (三菱電機システムサービス (株))

GOT は，三菱電機株式会社の登録商標です。
Microsoft，Windows，Windows NT，Windows Server，Windows Vista，Windows 7 は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe，Adobe Reader は，Adobe Systems Incorporated の登録商標です。
Pentium，Celeron は，Intel Corporation の米国およびその他の各国における商標および登録商標です。
Ethernet は，米国 Xerox Corporation の登録商標です。
MODBUS は，Schneider Electric SA の登録商標です。
VNC は，RealVNC Ltd. の米国およびその他の国における登録商標です。
PC-9800，PC98-NX は，日本電気株式会社の登録商標です。
その他，本文中における会社名，商品名は，各社の商標または登録商標です。

SH(名)-081187-G

GOT2000シリーズ本体取扱説明書(ユーティリティ編)

三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部	〒100-8310	東京都千代田区丸の内2-7-3（東京ビル） (03) 3218-6760
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区北二条西4-1（北海道ビル） (011) 212-3794
東北支社	〒980-0011	仙台市青葉区上杉1-17-7（仙台上杉ビル） (022) 216-4546
関越支社	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11-2（明治安田生命さいたま新都心ビル ランド・アクシス・タワー） (048) 600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市中央区東大通2-4-10（日本生命ビル） (025) 241-7227
神奈川支社	〒220-8118	横浜市西区みなとみらい2-2-1（横浜ランドマークタワー） (045) 224-2624
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1（金沢パークビル） (076) 233-5502
中部支社	〒451-8522	名古屋市西区牛島町6番1号(名古屋ルーセントタワー) (052) 565-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10（矢作豊田ビル） (0565) 34-4112
関西支社	〒530-8206	大阪市北区堂島2-2-2（近鉄堂島ビル） (06) 6347-2771
中国支社	〒730-8657	広島市中区中町7-32（ニッセイ広島ビル） (082) 248-5348
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8（日本生命高松駅前ビル） (087) 825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1（天神ビル） (092) 721-2247

三菱 FA　検索

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

メンバー登録無料!

インターネットによる情報サービス「三菱電機FAサイト」

三菱電機FAサイトでは、製品や事例などの技術情報に加え、トレーニングスクール情報や各種お問い合わせ窓口をご提供しています。また、メンバー登録いただくとマニュアルやCADデータ等のダウンロード、eラーニングなどの各種サービスをご利用いただけます。

電話技術相談窓口 受付時間※1 月曜～金曜 9:00～19:00、土曜・日曜・祝日 9:00～17:00

対象機種			電話番号
シーケンサ	MELSEC-Q/L/QnA/Aシーケンサー般 (下記以外)		052-711-5111
	MELSEC-F　FX/Fシーケンサ全般		052-725-2271※2
	ネットワークユニット/シリアルコミュニケーションユニット		052-712-2578
	アナログユニット/温調ユニット/温度入力ユニット/高速カウンタユニット		052-712-2579
	MELSOFTシーケンサプログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ	052-711-0037
		SW□IVD-GPPA/GPPQなど	
	MELSOFT統合エンジニアリング環境	MELSOFT iQ Works (Navigator)	052-712-2370
	MELSOFT通信支援ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ	
		SW□D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど	
	MELSECパソコンボード	Q80BDシリーズなど	
	C言語コントローラ/MESインタフェースユニット/高速データロガーユニット		
	iQ Sensor Solution		
	MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU	052-712-2830※2
		二重化CPU	
		MELSOFT PXシリーズ	
	MELSEC Safety	安全シーケンサ(MELSEC-QSシリーズ)	052-712-3079※2
		安全コントローラ(MELSEC-WSシリーズ)	
	電力計測ユニット/絶縁監視ユニット	QE8□シリーズ	052-719-4557※2※3
表示器		GOT-F900/DUシリーズ	052-725-2271※2
		GOT2000/1000/A900シリーズなど	052-712-2417
		MELSOFT GTシリーズ	
MELQIC		IU1/IU2シリーズ	079-298-9440※4

対象機種		電話番号
サーボ/位置決めユニット/モーションコントローラ	MELSERVOシリーズ	052-712-6607
	位置決めユニット/シンプルモーションユニット	
	モーションCPU(Q/Aシリーズ)	
	C言語コントローラインタフェースユニット (Q173SCCF)/ポジショニングボード	
	MELSOFT MTシリーズ/MRシリーズ	
センサレスサーボ	FR-E700EX/MM-GKR	052-722-2182
インバータ	FREQROLシリーズ	052-722-2182
三相モータ	三相モータ225フレーム以下	0536-25-0900※3※5
ロボット	MELFAシリーズ	052-721-0100
低圧開閉器	MS-Tシリーズ/MS-Nシリーズ	052-719-4170
	US-Nシリーズ	
低圧遮断器	ノーヒューズ遮断器/漏電遮断器/MDUブレーカ/気中遮断器 (ACB) など	052-719-4559
電力管理用計器	電力量計/計器用変成器/指示電気計器/管理用計器/タイムスイッチ	052-719-4556
省エネ支援機器	EcoServer/E-Energy/検針システム/エネルギー計測ユニット/B/NETなど	052-719-4557※2※3
小容量UPS (5kVA以下)	FW-Sシリーズ/FW-Vシリーズ/FW-Aシリーズ/FW-Fシリーズ	084-926-8300※3※6

※1:春季・夏季・年末年始の休日を除く　※2:金曜は17:00まで　※3:土曜・日曜・祝日を除く　※4:月曜～金曜の9:00～17:00
※5:月曜～木曜の9:00～17:00と金曜の9:00～16:30　※6:月曜～金曜の9:00～16:30

FAX技術相談窓口 受付時間※7 9:00～19:00 (受信は常時※8)

対象機種	FAX番号
上記電話技術相談対象機種 (下記以外)	052-719-6762
電力計測ユニット/絶縁監視ユニット (QE8□シリーズ)	084-926-8340
三相モータ225フレーム以下	0536-25-1258※9
低圧開閉器	0574-61-1955
低圧遮断器	084-926-8280
電力管理用計器/省エネ支援機器/小容量UPS (5kVA以下)	084-926-8340

三菱電機FAサイトの「仕様・機能に関するお問い合わせ」もご利用ください。
※7:土曜・日曜・祝日、春季・夏季・年末年始の休日を除く　※8:春季・夏季・年末年始の休日を除く
※9:月曜～木曜の9:00～17:00と金曜の9:00～16:30 (受信は常時 (春季・夏季・年末年始の休日を除く))

形名	GOT2000-U-UTILITY-J
形名コード	1D7MI7
SH(名)-081187-G(1407)MEE	

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。

この印刷物は2014年7月の発行です。なお，お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。　2014年7月作成

この標準価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際には消費税が付加されますのでご承知おき願います。　標準価格　3,000円